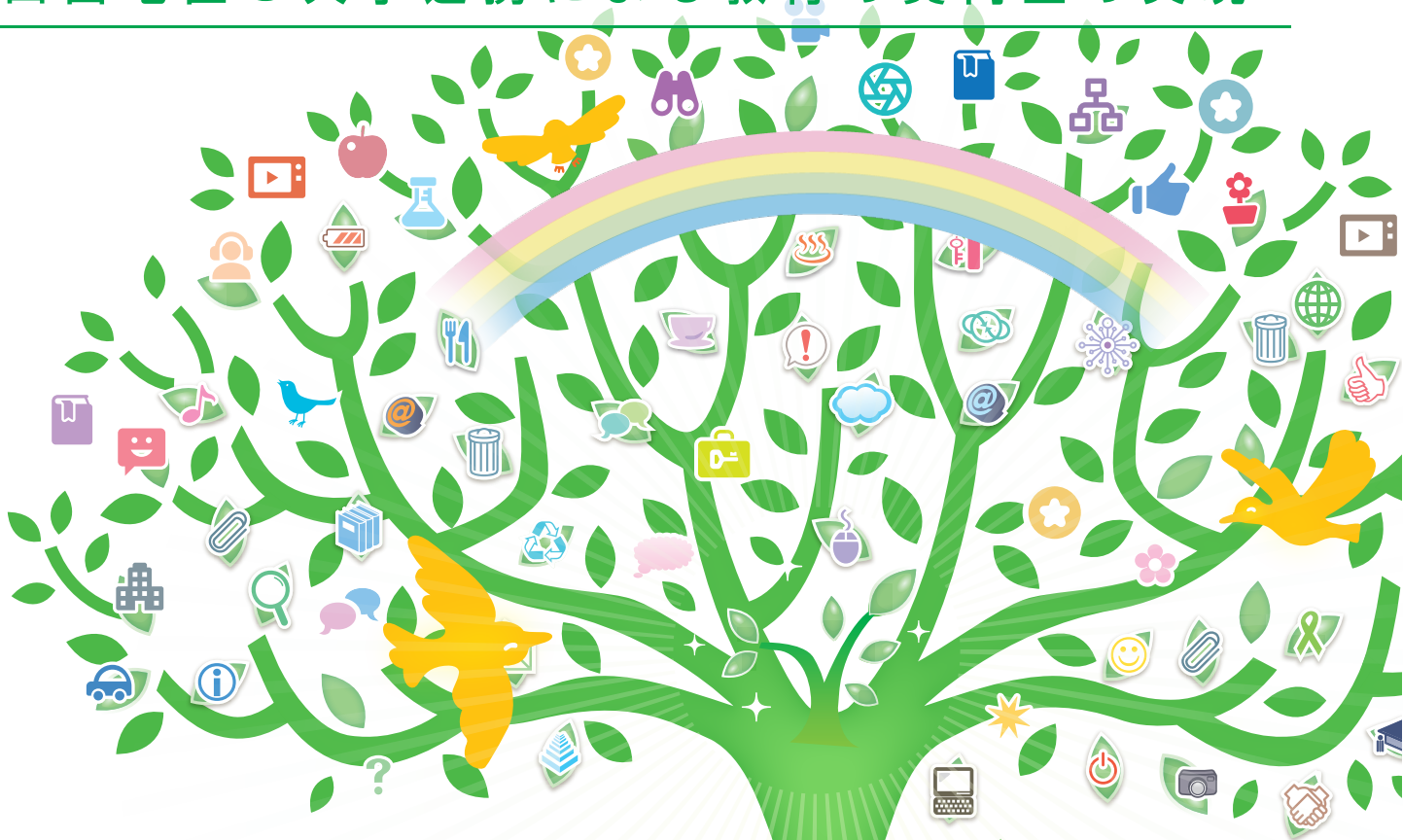


四国における e-Knowledgeを基盤とした 大学間連携による大学教育の共同実施

四国地区5大学連携による教育の質向上の実現



事業成果報告書 総集編

2013～2017年度

目次

巻頭言	1
1. 事業概要	2
1-1 事業理念	2
1-2 事業実施体制と実施概要	2
2. 活動内容	5
2-1 ワーキンググループ報告	5
2-1-1 共同教育実施モデル検討ワーキンググループ	5
2-1-2 コンテンツ開発検討ワーキンググループ	9
2-1-3 教育の質保証等検討ワーキンググループ	19
2-1-4 非常勤講師の手続きの簡素化に関するワーキンググループ	22
2-1-5 システム検討ワーキンググループ	34
2-2 授業科目の実施状況	38
2-2-1 科目概要	38
2-2-2 登録学生数及び単位取得状況	99
2-2-3 授業評価アンケート結果	102
2-3 スキルアップ研修	342
2-4 広報活動	351
2-4-1 事業報告シンポジウム	351
2-4-2 履修案内	434
2-4-3 学会発表等	451
3. 本プロジェクトの成果	454
3-1 四国5大学型 e-Learning 共同教育実施モデルの完成と運用	454
3-2 e-Learning を用いた教育の質保証	462
3-3 e-Learning コンテンツ制作における第三者著作物の利用について	507
4. 総括	524
付録	526
A 平成 25～29 年度委員会活動記録	526
B 関係規則等	576
C 運営委員, 企画委員, 外部評価委員名簿	594
D 連絡先情報	604

巻頭言

「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業（以下、本事業という。）は、平成 24 年度国立大学改革強化推進事業で採択された「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成」事業を構成する一つであります。特に、本事業は、「四国地区における 5 国立大学連携構想」の中の大学教育を四国の e-Learning 基盤を活用して共同実施することにより、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、及び高知大学（以下、連携大学という。）における教育の質向上を図ることを目指しています。その実現のために、基幹校である香川大学に大学連携 e-Learning 教育支援センター四国（以下、センター四国という。）を、他の 4 大学にはセンター四国の分室をそれぞれ設置し、5 年間にわたり大学教育の共同実施を推進してまいりました。

大学教育の共同実施には、各大学の異なる教育理念や教育資源、時間割や履修登録期間等の教育システムの違い、そして地理的に遠く離れた大学間での授業運用、に対して柔軟に対応できることが求められます。本事業では、e-Learning を効果的に活用することがその唯一の解決策であると考え、非同期型 e-Learning をベースにした「四国 5 大学型共同教育実施モデル」を整備しました。なお、そのモデルには、教育工学における最新の知見に基づいて開発した非同期型 e-Learning 向けの教育の質保証の仕組みも取り入れています。

また、「四国 5 大学型共同教育実施モデル」の検証や改良を行うために 5 年間で計 61 科目の e-Learning コンテンツを制作してまいりましたが、それら e-Learning コンテンツを制作する過程において、第三者著作物（文章、イラスト、写真など）を利用するための著作権処理に多くの労力を費やさなければならない問題にも直面しました。e-Learning を用いた授業が増えてきている今日において著作権処理は必要不可欠なタスクとなっているにもかかわらず、多くの教育機関において著作権処理の実務を担当する人的リソースは不足しているのが現状ではないかと推測しております。本事業では、著作権処理実務者不足の解決を図るため、連携大学がこれまでに取り扱ってきた事例と経験を集約し、e-Learning コンテンツ開発のための著作権処理ハンドブックを作成しました。

このように、本事業では、主に

- ・大学間で異なる教育システム等に柔軟に対応できる「大学教育の共同実施モデル」の構築
- ・非同期型 e-Learning 授業向けの教育の質保証の仕組みの構築
- ・非専門家でもある程度の実務が行えるようになるための著作権処理ハンドブックの作成

に取り組んでまいりました。これらは全国のどの大学でもなし得ていないものであり、四国の 5 国立大学が一丸となって課題解決に取り組んできた貴重な成果と自負しております。これらの事業成果及び 5 年間におけるセンター四国の活動内容を本事業成果報告書にとりまとめましたので、ご高覧賜りますと幸甚に存じます。また、本事業の成果を関係各所における非同期型 e-Learning による教育の共同実施に活用していただければ望外の喜びです。

最後になりましたが、本事業の遂行に際し、文部科学省をはじめ国民の皆様には多大なるご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

香川大学 理事・副学長（教育担当）山下 明昭

1. 事業概要

1-1 事業理念

我が国の地方国立大学は、教育研究機関として、地域に根ざし、世界に発信することが求められている。四国地区にある5国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学（以下、これら5大学を連携大学という。））は、四国そしてそれを構成する4県に立地する大学として、四国地方の知的基盤を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる人材を輩出することを重要な使命としている。

本事業では、e-Knowledge コンソーシアム四国（eK4）で蓄積された e-Learning 基盤を強化した教育の共同実施を行うための母体として、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国（以下、センター四国という。）を設置する。センター四国では、大学間連携により、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完するコンテンツを開発することで、教育の質の向上を図る。科目選択の幅が広がることによって、履修者の興味や学習ニーズにあった科目履修が可能となる。また、各大学の状況（時間割など）に依存しない教育プログラムの開発により、学生にとっては、四国のどこに居ても、いつでも何度でも受講できる共同実施の運用モデルを確立する。

1-2 事業実施体制と実施概要

大学教育の共同実施を行う部局として、基幹校の香川大学にセンター四国を設置したとともに、他の4大学にはセンター四国分室を設置した。センター四国及び分室は、主に以下の業務を行ってきた。

- (1) 大学教育・大学院教育の共同実施に向けた組織体制の整備に関すること。
- (2) 四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること。
- (3) 共同実施による教育プログラムの開発に関すること。
- (4) オープンコンテンツ開発に関すること。
- (5) 遠隔会議・遠隔講義システム等のシステム基盤強化に関すること。
- (6) 大学教育の共同実施のための運用モデルの確立に関すること。

各事業年度における事業実施概要は次のとおりである。なお、第2章以降に記載したセンター四国及び分室のスタッフや講師の所属名称は報告年度当時のものである。

平成 25 年度

- (1) 組織体制の整備と教育の共同実施の準備
各連携大学で、策定した大学教育等共同実施の運用方法の実施に必要な規程を整備した。
- (2) センター四国及びセンター四国分室の設置
香川大学にセンター四国を設置したとともに、他の4大学にセンター四国分室を設置した。
- (3) システム基盤の強化
e-Learning による授業の開講に向けてのシステムの最終準備を行った。
- (4) その他
 - ・次年度に使用する e-Learning コンテンツを準備した。
 - ・シンポジウムやスキルアップ研修会を実施した。

平成 26 年度

- (1) 四国 5 大学型共同教育実施モデルの運用に必要な体制の整備
共同実施モデルの運用に向けた基盤整備を行った。また、センター四国ワーキンググループを設置し、モデル運用の諸課題解決に向け検討を行った。
 - ・運用体制を整備した。
 - ・開講科目、履修方法、成績評価方法等を決定した。
 - ・教員の取り扱い方法（非常勤講師の手続き簡素化）を決定した。
 - ・教育の質保証に関するガイドライン及びコンテンツ開発ガイドラインを設計した。
 - ・大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せを作成した。
- (2) システム基盤の運用
導入されたシステムを利用して、コンテンツの開発等について連携大学間で打ち合わせした。
- (3) 教育の実施
単位互換制度を利用して e-Learning 講義を開講した。
- (4) その他
 - ・シンポジウムやスキルアップ研修会を実施した。
 - ・e-Learning の啓蒙や普及、並びに事業成果を公開した。

平成 27 年度

- (1) 四国 5 大学型共同教育実施モデルの試行
四国 5 大学型共同教育実施モデルの試行を行い、明らかになった課題の解決方法を検討した。
 - ・センター四国ウェブページを活用した履修案内の共通化を図った。
 - ・自己点検評価項目及び実施要領を決定した。
 - ・成績評価に係る手続等を決定した。
 - ・コンテンツ視聴確認シート及び実施要領を作成した。
 - ・コンテンツの相互視聴確認を行った。
 - ・教育の質保証に関する授業改善アンケートの実施要領を作成した。
 - ・授業改善アンケートを実施した。
- (2) システム基盤の運用
導入されたシステムを利用して、コンテンツの開発等について連携大学間で打ち合わせした。
- (3) 教育の実施
平成 27 年度後期に計 7 科目の e-Learning 科目を共同開講した。
- (4) その他
 - ・コンテンツ提供計画を検討した。
 - ・学外からの成績入力方法を検討した。
 - ・シンポジウムやスキルアップ研修会を実施した。
 - ・e-Learning の啓蒙や普及、並びに事業成果を公開した。

平成 28 年度

- (1) 四国 5 大学型共同教育実施モデルの運用
四国 5 大学型共同教育実施モデルの運用過程で明らかになった課題の解決を図った。
 - ・センター四国ウェブサイト上の履修案内ページを改訂した。
 - ・自己点検評価項目を改訂した。
 - ・成績評価に係る手続等を改定した。
 - ・コンテンツ視聴確認シートの改訂及び実施要領の改定を行った。

- ・非同期型 e-Learning 授業で教育の質保証を可能にする要件の明確化と質保証制度を設立した。
- ・授業改善アンケートを実施した。

(2) システム基盤の運用

導入されたシステムを利用して、コンテンツの開発、教育の質保証の仕組みについて大学間打ち合わせを行ったとともに、Moodle で構築された学習管理システム (LMS : Learning Management System) におけるユーザ認証方式の一元化についても検討した。

(3) 教育の実施

計 14 科目の e-Learning 科目を 5 大学で共同開講した。

(4) その他

- ・平成 29, 30 年度における e-Learning 科目提供計画を検討した。
- ・コンテンツ制作に係る著作権処理マニュアル案を作成した。
- ・学外からの成績入力方法を検討した。
- ・事業期間終了後における運営体制を検討した。
- ・シンポジウムやスキルアップ研修会を実施した。
- ・e-Learning の啓蒙や普及、並びに事業成果を公開した。

平成 29 年度

(1) 四国 5 大学型共同教育実施モデルの運用

- ・センター四国ウェブサイト上の履修案内ページを改訂した。
- ・オンライン授業設計ガイドラインを改訂した。
- ・授業改善アンケートを実施した。

(2) システム基盤の運用

- ・遠隔会議システムを用いて委員会を実施した。
- ・LMS におけるユーザ認証方式の一元化を検討した。
- ・Moodle のセキュリティ対策を検討した。

(3) 教育の実施

- ・計 38 科目の e-Learning 科目を 5 大学で共同開講した。

(4) その他

- ・計 61 科目の e-Learning コンテンツを制作した。
- ・著作権処理ハンドブックの草案を作成した。
- ・平成 30 年度以降における協定や運営体制を整備した。
- ・シンポジウムやスキルアップ研修会を実施した。
- ・e-Learning の啓蒙や普及、並びに事業成果を公開した。

2. 活動内容

2-1 ワーキンググループ報告

2-1-1 共同教育実施モデル検討ワーキンググループ

共同教育実施モデル検討ワーキンググループ（以下、WGと略す。）では、教育実施体制の異なる大学間で講義を共同実施した場合に起こりうる様々な問題を乗り越えて、講義の共同実施を円滑に行う方策を策定することを目指している。平成28年度には、平成27年度から始まった共同実施に伴う様々な問題点を整理し、各分室からの意見を収集し、問題の解決のための検討と取り組みを行った。本年度の主な活動成果は下記のとおりであった。

（1）運用上のトラブル調査

平成27年度の知プラe科目履修登録から成績判定において、運用上どのようなことが起きたのか、情報収集を行った（履修登録までの内容は、昨年度中に情報収集し、平成27年度事業報告書「履修登録から授業実施までの状況」として報告済み）。

LMSやユーザ認証に関するトラブル等の対応が最も多かった。学生に対する支援等には、課題提出や参考資料のダウンロードなど学修での操作に関する問い合わせや、Moodleにログインされていないことに対して科目提供大学による学生の活動状況を配慮した支援があった。

表 2.1.1.1 履修登録から成績判定期間における各大学の実施における課題まとめ

カテゴリ	香川	徳島	高知	愛媛	鳴門
システム	6	1	7	4	
学生対応	1	11	2	5	
成績	3	1	1	1	
非常勤任用	1	1	1	1	
郵便	0	1	0	2	
コンテンツ制作	2	0	0	0	
科目開講	0	0	1	0	
教員支援	0	1	0	0	
合計	13	16	12	13	

（2）シラバスの改訂とシラバスチェックシートの作成

平成27年度の運用で、記入漏れなどにより事務的な確認手続きが発生したことを踏まえ、シラバス作成の効率化を図るためにシラバスシートを見直し、修正した。各大学共通情報をすでに記入された状態にし、担当教員による必須項目部分が目立つようにフォーマットを改善した。併せて、記入漏れなど防ぐためのシラバスチェックシートを作成した。

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されません)

1. 開講年度		2. 開講学期			
3. 開講学部・学科等 ／区分等		4. 授業形態／授業種別	eラーニング		
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング			
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名)				
	(英文名)				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名)				
	(英文名)				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語)				
	(ローマ字)				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード		11. 昼夜			
12. 単位数		13. 選必修区分／単位区分			
14. 対象学生		15. 対象年次／区分等／標準履修年次			
16. 曜日・時限		17. 講義室			
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け		19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	
	連携大学 学生向け			連携大学 学生向け	
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)					
21. 授業概要					<input type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題					<input type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標／学修課題					<input type="checkbox"/>

図2.1.1.1 改訂版シラバス(1ページ目のみ掲載)

シラバス記入チェックシート

科目名	確認日	科目提供大学		
#	知ブラ5大学シラバス項目	シラバス項目番号	シラバスチェック項目	チェック
1	—	全体	緑色部分以外がすべて記入されている	
2	—	全体	授業科目名に適した授業内容が書かれている	
3	科目名／科目英文名／英文併記	7	日本語科目名と科目英文名が記入されている	
4	授業のキーワード／英文でのキーワード	20	3つ以上5つ以下のキーワードを記入されている	
5			英文でのキーワードも記入されている	
6	授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	26	授業回の構成内容が分かるように記入されている	
7	受講の条件／先行科目／受講人数制限	30	受講人数制限が「あり」・「なし」どちらかに丸をつけたか	
8			「ある」と答えた場合(受講人数制限がある場合)：各大学の人数制限を記入しているか	
9	資格等	36	対応する資格・教職等があるか	ある なし
10			「ある」と答えた場合(対応する資格等がある場合)：その旨記入しているか	
11	オフィスアワー	38	自大学学生向けと連携大学学生向けが記載されている	
12	連絡先／学生相談場所／学生開示用メールアドレス	39	学生が連絡できる、メールアドレスが記入されている	
13	—	21～23、 26～40	教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスにチェックを入れている(各大学のシラバスに必ず記載される)	
シラバスチェック項目 合計			13	

図2.1.1.2 シラバスチェックシート

(3) ガイドラインに準拠したチェックシート

平成25年度に立ち上げたサンプル授業設計プロジェクトが作成したオンライン授業内容確認シートの開発を、共同教育実施モデル検討WGが引き継ぎ、質保証ガイドラインと連携したガイドライン準拠チェックシートを開発し、完成度を高めることができた。実際に複数のe-Learning教材を本チェックシートで分析し、利用可能な状態になった。チェックシートにはエビデンスを記録できるように、質問に回答していくと分析結果が表示されるように簡単なマクロを活用したエクセルシートとした。

本活動は、教育の質保証等検討WGと共同で行うことで、質保証ガイドラインの改善も同時進行で行うことができるようになった。ガイドラインに準拠したチェックシートを用いることによって、ガイドラインの内容が、開発されたe-Learningにどれだけ反映されているのかを確認することができるようになる。

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」オンライン授業設計ガイドライン(案)準拠確認シート

科目名(年度)	
科目担当教員名(連絡先)	
シート作成日	
科目担当教員以外の確認者(名前・日付)	

【記入要領】⇒確認項目は大きく4つに分かれています。「コース全体」「ガイダンスコンテンツ」「授業コンテンツ」「自主的な活動を促すコンテンツ」の4つです。これら大項目毎に、詳細項目をチェックしていきます。各項目の詳細内容をエビデンスとし、これらが確認できたときにガイドラインを満たしているとします。下記の大項目の文字部分をクリックするとエビデンス入力シート(シート名が大項目名となっているシート)へ移動します。そのシート内の指示にしたがって記入した後、本シート(確認項目シート)へ戻り、各項目が✓か未達成かを選んでください。
※「授業コンテンツ」と「自主的な活動を促すコンテンツ」は1枚のシートでチェックします。

「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」のチェック項目	確認	エビデンス
コース全体		→クリックしてエビデンス記入シートへ
(1) 1科目ごとに1コースを用いる。	✓	コースURL
(2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。	✓	モジュール数
(3) 学習者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。 [viii]	✓	各モジュールの学修時間
(4) コンテンツの公開開始及び公開終了は原則としてブロック毎に定める。	✓	ブロック数
(5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、ブロック毎に学修期間(締切日時)を設定する。	✓	ブロック毎の学修期間
(6) コース導入部分にはシラバスを示す。	未達成	シラバス提示の有無
ガイダンスコンテンツ		→クリックしてエビデンス記入シートへ
(7) シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学習者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回示しても良い。		
イ eラーニング操作などについての問い合わせ先	✓	操作などの問い合わせ先
ロ 対面のオフィスアワー相当の、学習者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段(eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど)	✓	授業内容などの問い合わせ先
ハ 科目担当者による授業紹介(短編のイントロビデオ、または、写真と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの)	✓	授業紹介
ニ 授業概要(タイトル、学修の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学修活動の実施方法)	✓	授業概要
ホ スケジュール(コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学修期間)	✓	スケジュール
ヘ 単位取得の条件(モジュール内の学修活動が6単位に相当する旨、成績評価対象、成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などはそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨あるいはそれ以上の基準点、基準点を満たすための最低条件)	未達成	単位取得条件
(8) ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前掲知識の学修支援を目的とした学修活動コンテンツ(小テスト、小レポートなど)を含める。	✓	双方向性学修コンテンツ
授業コンテンツ		→クリックしてエビデンス記入シートへ
(9) 学習者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、学修の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。そのため、1モジュール(授業1回分)には以下の内容を含める。		
イ 授業内容(教科書などの情報コンテンツ):文字、音声、動画、静止画など[ix]	✓	授業内容
ロ 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ:小テスト、小レポート、電子掲示板など	✓	双方向性学修コンテンツ
ハ 学修活動コンテンツの要件:合格条件(小テスト・小レポートの合格点など)、フィードバック方法(自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック・まとめフィードバック、模範解答の提示、解説など)、フィードバック実施期間の設定など	✓	学修コンテンツの要件
自主的な活動を促すコンテンツ		→クリックしてエビデンス記入シートへ
(10) コース内には、授業外の自主的な学修を促すコンテンツを示す。自主的な学修を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。		
イ 参考情報(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)		参考情報
ロ 授業内容についていけない学習者を対象とする復習の支援を目的とした学修活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など)	✓	復習支援
ハ 発展的な学修の支援を目的とした学修活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)		発展学修支援
合計数	✓	15
	未達成	2

図2.1.1.3 ガイドラインに準拠したチェックシートサンプル

2-1-2 コンテンツ開発検討ワーキンググループ

平成 26 年度

ガイドラインの策定とコンテンツの共同制作の仕組みづくりについて、5大学連携によるコンテンツ開発の基本モデルを検討した。

表 2.1.2.1 コンテンツ開発検討 WG における課題

課題項目	課題概要	補足説明
ガイドラインの策定	コンテンツ開発に関するガイドラインを策定する。愛媛大学の「コンテンツ制作ガイドライン」を参考に検討する。	1) ver. 1.0 の完成時期について 8月頃を目処に第一案を策定し、1～3月頃（コンテンツの開発が始まる前）までに ver. 1.0（コンテンツ開発に必要な最低限の情報を記載）として完成を目指す。 決定すべき項目から記載し、順次、見直しと追加・修正を加えていく。
コンテンツの共同制作の仕組み作り	1大学で完結するコンテンツやオムニバス形式のコンテンツなど、5大学で連携してコンテンツを開発する仕組みを検討する。補助金終了後の運用体制も視野に入れて検討する。	1) 5大学のコンテンツ制作スキルをある一定レベルまで上げる。 各大学で一つのコンテンツを制作する（オムニバス形式除く）。ノウハウ等の不安がある場合は、香川大学及び愛媛大学サポートする形で協力する。 2) 補助金終了後、予算がなくてもコンテンツ制作できる仕組み作りを検討する。

1) 下記の日程で各課題の検討を行った。

【4～8月】ガイドライン（第一案）の策定期

- 7月 企画委員会で中間報告
- 各種利用許諾書等の素案作成
- 8月 第一案の策定

【9～11月】コンテンツ制作に関する準備期

- 9月 スキルアップ研修会
- 企画委員会で中間報告
- 10月 制作担当者間の事前打合せ

【12～1月】科目担当者との調整期

- 12月 シラバス作成、講義企画書の作成、担当者と打合せ

【2～7月】コンテンツ制作及びアップロードの実働期（予定）

- 2月 講義資料の作成、著作権処理
- 3月 撮影及び編集、確認及び修正、確認テストや課題等の作成（7月頃までに完了）
- 7月 コース開設、アップロード、最終確認

2) 検討の概要

- ・ コンテンツ開発ガイドラインの策定

図 2.1.2.1 のとおり、コンテンツ開発に関するガイドラインを策定した。

- ・ 著作権処理についての検討

知プラ e 提供科目に関するコンテンツの著作権処理について、下記のとおり検討を行い、図 2.1.2.2 の譲渡証書の雛形を策定した。

- ① 制作コンテンツの著作権は責任大学の帰属（移転を含む）とする。
- ② 譲渡証書の雛形をベースに各大学でカスタマイズして運用する。

- ・ 視聴環境や動画コンテンツの形式

- ・ 各大学の学生がコンテンツ視聴できるように、映像コンテンツのファイル形式や視聴を担保する PC スペックについて図 2.1.2.3 の運用細則に取り決めた。

3) 成果物

- ① 図 2.1.2.1 : コンテンツ開発ガイドライン
- ② 図 2.1.2.2 : 譲渡証書（雛型）
- ③ 図 2.1.2.3 : コンテンツ開発ガイドライン「運用細則」

4) 今後の課題

また、補助金終了後の運用体制も含め、コンテンツの共同制作の仕組みづくりについて、引き続き検討する。

<p>コンテンツ開発ガイドライン（2014年9月5日） 大学連携e-Learning教育支援センター四国</p> <p>目次</p> <p>1. はじめに（趣旨）.....2</p> <p>2. 用語の定義.....2</p> <p>3. 著作権等の処理.....2</p> <p>4. コンテンツ開発.....3</p> <p>5. ガイドラインの更新について.....4</p>	<p>1. はじめに（趣旨）</p> <p>このガイドラインは、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業における「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業（以下、知プラe事業）で開講するe-Learning科目のコンテンツを四国5国立大学（以下、連携大学）で開発することに關し、必要な事項を定めるものとする。</p> <p>2. 用語の定義</p> <p>本ガイドラインで取扱う「eラーニングコンテンツ（以下、コンテンツ）」とは、大学連携e-Learning教育支援センター四国が知プラe事業に関する教材を開発し、運用するものを指す。</p> <p>1) コンテンツ、モジュール、ブロック 本ガイドラインで取り扱う「オブジェクト」「モジュール」「ブロック」の定義は「知プラe事業オンライン授業設計ガイドライン」に準拠する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・オブジェクト 単独で利用可能な最小単位の教材を指す。</p> <p>・モジュール 複数オブジェクトを組み合わせて構成されたコンテンツ群をモジュールという。1モジュールは授業1回分に相当し、次の要素を含む。 イ 授業内容（教科書などの情報コンテンツ）：文字、音声、動画、静止画など ロ 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板など ハ 自主的な学修を促すためのコンテンツ：参考情報（リンク集、コラム、アドバイス）など ニ 上記3点を含むことで、学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、実際に活動したことを確認できるようにする。</p> <p>・ブロック 複数モジュール、つまり授業数回分をまとめた単位をブロックという。ブロックは、授業の構成を分かりやすく伝えるために科目構成に応じて用いる。複数モジュールまたは複数ブロックで1コースを構成する。1コースとは、単位付与の標準に相当する学修活動を満たすモジュール（またはブロック）群のことである。</p> </div> <p>3. 著作権等の処理</p> <p>1) 制作したコンテンツの著作権の帰属 制作したコンテンツの著作権はコンテンツを制作する責任大学の帰属とし、知プラe事業の目的に沿った範囲内で連携大学間での相互利用を認めることとする。</p>
---	---

責任大学内における著作権の帰属（移転を含む）の手続きについては、各大学の裁量に委ねることとする。ただし、知プラe事業が円滑に進められるように配慮する。

2) 第三者著作物の利用
コンテンツを制作する際に第三者の著作物を利用している場合の著作権処理は、コンテンツを制作する責任大学が行う。ただし、知プラe事業が円滑に進められるように配慮する。

3) 肖像権、個人情報等の権利処理
制作したコンテンツに含まれる肖像権および個人情報等の権利処理は、コンテンツを制作する責任大学が行う。ただし、知プラe事業が円滑に進められるように配慮する。

4. コンテンツ開発

1) 想定する視聴環境
本ガイドラインで想定するコンテンツの視聴環境は、最低限、各大学に設置されているPCルーム等で視聴できるよう担保する。

・原則として、PCでの視聴を対象とし、スマートフォンや携帯電話での視聴は対象外とする。
ただし、各大学の裁量により視聴保証する環境を提供するのは拒まない。

2) 動画コンテンツの形式
動画コンテンツの形式（映像の解像度やファイルのフォーマット等）は、各大学のPCルーム等での視聴ができる形式とし、詳細は別に定める。

3) eラーニング講義の構成
eラーニング講義の構成は、「知プラe事業オンライン授業設計ガイドライン」に準拠する。

4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計

(1) 科目ごとに1コースを用意する。

(2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用意する。各モジュールの学習に要する時間をおおむね揃えることで、学習者にとって学びやすい環境を整える。

(3) コンテンツの公開開始及び公開終了は原則としてブロック毎に定める。推奨学習期間は毎週設けるが、公開開始及び公開終了を毎週設けず、数回分のまとめで学習も可能にする。

(4) コースの導入にはシラバスを示したうえで、シラバスの内容を補充するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを用意する。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学習者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回用意しても良い。

- イ 科目担当者によるイントロビデオ（際を見せつけてモチベーションを高める目的に限定した短編）
- ロ 授業概要（タイトル、進め方、コンテンツの利用方法、学習活動の実施方法など）
- ハ スケジュール（コンテンツの公開日及び締切日、推奨学習日）
- ニ 単位取得の条件（モジュール内の学習活動が出席に相当する前、成績評価対象と基準点、基準点を満たすための最低条件）

上記3点を含むことで、学習者が主体的に学習活動を進められる環境を提供し、実際に活動したことを確認できるようにする。

5) Moodleの機能設定
「知プラe事業オンライン授業設計ガイドライン」にしたいが、各モジュールを構成するコンテンツのうちMoodleの機能を使用するものについては、円滑な講義運営（成績評価を含む）を保证するように設定することとし、詳細は別に定める。

5) コンテンツの開発から配信までのスケジュール
知プラe事業で開講する科目について、第1回目のe-Learning講義配信日の1か月前までにコンテンツを完成し、LMSへアップロードすることとする。各大学でチェックリスト（別に定める）に沿って動作確認を行う。

5. ガイドラインの更新について
このコンテンツ開発ガイドラインは年度末ごとに更新を行う。また、必要に応じその都度更新を行う。

1) 四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」オンライン授業設計ガイドライン（質保証等検討WGにて作成）

図 2.1.2.1 コンテンツ開発ガイドライン

譲渡証書

平成 年 月 日

譲渡人
国立大学法人〇〇大学 学長 殿

譲渡人
住所（居所）
所属
氏名 印
※共同制作の場合のみ（寄与率 %）

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業における「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業コンテンツ開発ガイドラインの定めに基つき、下記のeラーニングコンテンツに関する日本国および外国におけるすべての著作権（別表1）を、私自ら利用する場合を除き、国立大学法人〇〇大学に譲渡いたします。また、当該コンテンツに基づく著作権人格権（別表2）を、本大学に対して行使しないことに同意いたします。なお、著作権の譲渡にあたって、下記のeラーニングコンテンツは他人の著作権・著作人格権・著作隣接権・肖像権等他人のいかなる権利をも侵害していないことを誓約いたします。

記

eラーニングコンテンツの名称「
」

制作年度 (年度)
利用大学 (徳島大学 鳴門教育大学 香川大学 愛媛大学 高知大学)
科目名 ()
単位数 (単位)

以上

※共同制作の場合は、譲渡人欄は本学に権利譲渡する者全員について記入し、寄与率はその全員に対する各人の割合を記入すること。

■別表1 「すべての著作権」に含まれる権利は次のものをいう。

著作権の種類	著作権法参照条文
複製権	第21条
上演権および演奏権	第22条
上映権	第22条の2
公衆送信権	第23条
口述権	第24条
頒布権	第26条
譲渡権	第26条の2
貸与権	第26条の3
翻訳権、翻案権等	第27条
二次的著作物の利用に関する原著者の権利	第28条

■別表2 「著作人格権」は次のものをいう。

著作人格権の種類	著作権法参照条文
公表権	第18条
氏名表示権	第19条
同一性保持権	第20条

図 2.1.2.2 譲渡証書（雛型）

コンテンツ開発等検討WG運用細則（2014年11月27日版）

この運用細則は、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業における「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業（以下、知プラe事業）で開講するe-Learning科目のコンテンツを四国5国立大学（以下、連携大学）で開発することに関し、細則を定めるものとする。

1) 視聴担保するPCのスペック
 下表のスペックを満たすPCでの視聴を担保する。
 【視聴担保するPCのスペック一覧】

視聴担保するPCスペック	
OS	Windows 7相当以上
ブラウザの種類	IE(ver.8)以上を推奨
Adobe Flash Playerバージョン	ver.13以上 ¹⁾
システムメモリ	1GB以上

2) ビデオの書き出し設定
 動画コンテンツは各大学のPCルーム等での視聴ができる形式とするが、コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うこととする。
 【ビデオの書き出し設定の案】

ビデオ書き出し設定	
ビデオ設定	
コンテナ	FLV ¹⁾
映像解像度	480p ※4:3なら640×480 16:9なら854×480
フレームレート	25（または29.97）
ビットレート	（オーディオ含めて） 500～800kbps ²⁾
オーディオ設定	
音声コーデック	AAC（またはMP3） ³⁾
チャンネル数	ステレオ
周波数	44.1kHz（または48kHz）
ビットレート	128kbps（または96kbps）

¹⁾旧版では動画を視聴できない場合があるので、なるべく最新版にアップデートするのが望ましい。また、最新版にアップデートしている大学では旧版での視聴確認が困難なので、各大学で視聴確認を行っていただきたい。

²⁾Windowsで視聴する場合に最も普及していると思われる。

³⁾概ね、この程度あればスライドの文字も読める。

⁴⁾オーディオは基本的にどちらも問題ないと思われる。

図 2.1.2.3 コンテンツ開発ガイドライン「運用細則」

平成 27 年度

コンテンツ運用細則の見直し、コンテンツ視聴確認のためのシート作成、コンテンツ視聴確認による問題点の洗い出しと解決を図った。以下、それぞれについて詳述する。

(1) コンテンツ運用細則

平成 26 年度に作成した知プラ e 科目の e-Learning コンテンツの動画スペックを整理した運用細則について、各大学が担保すべき最低スペックの見直しと一部の文言修正を検討した。最低スペックについては、検討の結果、平成 26 年度と同じスペックとすることとなった。一方、動画コンテンツの形式と書き出しに関する箇所については、「動画コンテンツは各大学の PC ルーム等での視聴ができる形式とするが、動画コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うこととする。」を「動画コンテンツは各大学の PC ルーム等での視聴ができる形式とする。動画コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うことを推奨する。」のとおり修正した。これは、香川大学で e-Learning システムの負荷テストを実施した結果、2,000 人を超えるクラスが発生するとサーバ・ネットワークの負荷上限を超える恐れのあることが判明したことから、動画コンテンツの書き出し設定については、受講上の問題がない程度にビットレートを下げても良いようにするためである。

視聴担保する PC スペック	
OS	Windows 7 相当以上
ブラウザの種類	IE (ver.8) 以上 を推奨
Adobe Flash Player バージョン	ver.13 以上
システム メモリ	1GB 以上

2) 動画コンテンツの書き出し設定
 動画コンテンツは各大学のPCルーム等での視聴ができる形式とする。動画コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うことを推奨する。

動画コンテンツの書き出し設定の案【香川大学での設定】

ビデオ書き出し設定	
ビデオ設定	
コンテナ	FLV
映像解像度	480p ※4:3 なら 640×480 16:9 なら 854×480
フレームレート	25 (または 29.97)
ビットレート	(オーディオ含めて) 500~800kbps
オーディオ設定	
音声コーデック	AAC (または MP3)
チャンネル数	ステレオ
周波数	44.1kHz (または 48kHz)
ビットレート	128kbps (または 96kbps)

3) 細則の更新について
 コンテンツ開発ガイドライン運用細則は年度ごとに更新を行う。また、必要に応じてその都度更新を行う。

図 2.1.2.4 コンテンツ開発等検討 WG 運用細則

(2) コンテンツ視聴確認シート

コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づいて、知プラ e 科目の受講学生がコンテンツを視聴できるか事前に各分室で確認するため、以下のとおりコンテンツ視聴確認の手引き及びコンテンツ視聴確認シートを作成した。

コンテンツ視聴確認シート	コンテンツ視聴確認シート 記入例
科目名： 提供大学： URI: コース登録キー： コンテンツ視聴 用パスワード：	科目名： 香川を学ぶ 提供大学： 香川大学 URI: https://lms-sp.ite.kagawa-u.ac.jp/moodle2015/course/view.php?id=6 コース登録キー： Study Kagawa コンテンツ視聴 用パスワード： 設定していない
特に確認が必要な項目等 上記科目のコンテンツ（LMS上で開示されているものすべて）について、コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づき、下記のとおり視聴確認をお願いします。	特に確認が必要な項目等 ・第2回目に flash アニメーションで作成したコンテンツ（〇〇のしくみ）があるので確認願います ・flv等の動画コンテンツは使用していないので確認不要
上記科目のコンテンツ（LMS上で開示されているものすべて）について、コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づき、下記のとおり視聴確認をお願いします。	上記科目のコンテンツ（LMS上で開示されているものすべて）について、コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づき、下記のとおり視聴確認をお願いします。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">コンテンツ視聴確認リスト</p> <p>確認大学： 確認期間：平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日 確認担当者： 視聴場所(*)： (*) 視聴確認は、各大学の PC ルーム等に設置している PC で実施してください。 視聴ブラウザ(*)：IE(), Firefox(), Chrome(), Safari() (**) 括弧内に視聴ブラウザのバージョンを記入してください。</p> <p>提供大学の LMS へのログインとコース登録について <input type="checkbox"/> LMS へのシボレス認証経由のログインができた <input type="checkbox"/> LMS 上の科目を登録（コース登録）できた ログインやコース登録ができない場合は、できる限り詳細な状況を記載してください。</p> <p>コンテンツの視聴について <input type="checkbox"/> 開示されているすべてのコンテンツを視聴できた <input type="checkbox"/> 視聴できないコンテンツがあった 具体的に:</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">コンテンツ視聴確認リスト</p> <p>確認大学：徳島大学 確認期間：平成 27 年 9 月 2 日 ～ 平成 27 年 9 月 4 日 確認担当者：徳島 太郎 視聴場所(*)：徳島大学情報センター内 PC ルーム (*) 視聴確認は、各大学の PC ルーム等に設置している PC で実施してください。 視聴ブラウザ(*)：IE (ver.11), Firefox(), Chrome (44.0.2403.155 m), Safari() (**) 括弧内に視聴ブラウザのバージョンを記入してください。</p> <p>提供大学の LMS へのログインとコース登録について <input checked="" type="checkbox"/> LMS へのシボレス認証経由のログインができた <input checked="" type="checkbox"/> LMS 上の科目を登録（コース登録）できた ログインやコース登録ができない場合は、できる限り詳細な状況を記載してください。</p> <p>コンテンツの視聴について <input type="checkbox"/> 開示されているすべてのコンテンツを視聴できた <input checked="" type="checkbox"/> 視聴できないコンテンツがあった 具体的に： ・第1回 ガイダンスにおける「ガイダンス」（動画）が再生できませんでした。 ・第2回 栗林公園の美と歴史における「資料」（PDF ファイル）が閲覧できませんでした。</p> </div>

図 2.1.2.5 コンテンツ視聴確認シート

コンテンツ視聴確認の手引き

- 科目提供大学の科目担当教員及び分室が、開示しているすべてのコンテンツの視聴確認を入念に行ってください。
- 科目提供大学分室において、コンテンツ視聴確認シートにおける「科目名」、「提供大学」、「URI」の項目を記入してください。科目開講大学（科目提供大学を除く）分室宛にコンテンツ視聴確認シートを送付してください。
- 科目開講大学分室において、当該科目（コース）の URI にアクセスし、開示されているすべてのコンテンツについて視聴確認を行ってください。視聴結果を「コンテンツ視聴確認リスト」に記載し、視聴確認期限までに科目提供大学分室へ返送してください。
 - 動画については、動画の冒頭 5～10 秒間の再生ができることを確認できれば「視聴できた」と判断してください。
 - 音声のみのコンテンツについても同様に、冒頭 5～10 秒間の再生ができることを確認できれば「視聴できた」と判断してください。
 - 資料（PDF ファイル等）については、ウェブブラウザ上又は視聴確認 PC にインストールされているソフトウェアで閲覧（表示）できることを確認してください。
 - その他のコンテンツ（小テストなど）についても、ウェブブラウザ上で閲覧（表示）できることを確認してください。
- 科目提供大学分室は、科目開講大学分室から返送されてきた「コンテンツ視聴確認リスト」を科目担当教員へ転送してください。もし視聴に問題のあるコンテンツがあった場合は、コンテンツ配信開始日までに修正してもらえよう、科目担当教員へ合わせて連絡してください。

図 2.1.2.6 コンテンツ視聴確認の手引き

(3) コンテンツ視聴確認結果

徳島大学，香川大学，高知大学から提供されている平成 27 年度後期開講の知プラ e 科目について，コンテンツの視聴可否を 5 大学で相互に確認した。相互視聴確認の過程で明らかとなった問題点及びその解決法，並びに視聴確認の最終結果についてまとめた。

【徳島大学】

- ・ 香川大学，高知大学において，メディアサイトで作成した動画コンテンツ（徳島大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が視聴できないトラブルが発生した。徳島大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを開放する対策を施した結果，解決した。
- ・ 香川大学教育用 PC の Internet Explorer（IE）で徳島大学のコンテンツ視聴ができないトラブルが発生した。Microsoft Silverlight のバージョンや IE の設定に起因していることが判明したため，香川大学教育用 PC にインストールされている Silverlight のバージョンアップ及び IE の設定を変更してもらうことで解決した。
- ・ 高知大学で，「モラエスの徳島」の第 3 回講義のみ視聴できないトラブルが発生した。コンテンツの容量を小さくし，再アップロードした結果，解決した。
- ・ 愛媛大学演習室 PC の Internet Explorer（IE）で徳島大学のコンテンツ視聴ができないトラブルが発生した。演習用 PC は設定変更が困難なため，Chrome での視聴を推薦することとした。その旨徳島大学の LMS 内に掲示した。
- ・ 愛媛大学演習用 PC（IE 及び Chrome）で「モラエスの徳島」の参考リンクの Flash が組み込まれたサイトが視られないトラブルがあった。PC のセキュリティ設定が原因と考えられるため，Flash 部分（写真等）については，現状のままとした。

【鳴門教育大学】

- ・ 平成 27 年度開講科目について，徳島大学 3 科目（知の探訪，日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 - 四国の収容所を中心に-，モラエスの徳島 - グローバリズムと異邦人-），香川大学 3 科目（情報のいろは，地域コンテンツと知財管理，香川を学ぶ），高知大学 1 科目（サイエンスリテラシーの化学）について視聴確認を行った。本事業コンテンツ開発ガイドラインに則り，PC ルームにて視聴確認を行った結果，上記 7 科目について授業動画の再生に成功した。また，パワーポイントなどの資料のダウンロードも行うことができた。

【香川大学】

- ・ 徳島大学提供の動画コンテンツ（徳島大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が香川大学から視聴できないことが明らかとなった。徳島大学側のファイアウォール設定において，徳島大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを学外向けに開放してもらうことで解決した。
- ・ 徳島大学提供 Mediasite 形式の動画コンテンツが香川大学教育用 PC の Internet Explorer（IE）で視聴できないことが明らかとなった。Microsoft Silverlight のバージョンや IE の設定に起因していることが判明したため，香川大学教育用 PC にインストールされている Silverlight のバージョンアップ及び IE の設定を変更することで解決した。
- ・ 香川大学提供の動画コンテンツ（香川大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が高知大学から視聴できないことが明らかとなった。高知大学側のファイアウォール設定において，香川大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを開放してもらうことで解決した。
- ・ 香川大学提供の動画コンテンツ（香川大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの）が香川大学内の一部の部局（ネットワーク）から視聴できない問題が発覚した。当該部局のファイアウォール設定において，香川大学ストリーミングサーバに接続するためのポートを開放することで解決した。

【愛媛大学】

- 徳島大学提供の動画コンテンツ(徳島大学ストリーミングサーバ上にアップロードされているもの)が愛媛大学 IE で視聴できないことが明らかとなった。インストールされている Microsoft Silverlight が最新のバージョンであれば視聴可能であった。また、Microsoft Silverlight のプラグインが無い場合は、HTML5 での配信があり、どの形式でも視聴可能な状態であった。本学の演習室の PC は、Microsoft Silverlight が最新のバージョンでないため、バージョンアップをしなければ視聴することができないことが判明した。演習室の PC の Microsoft Silverlight のバージョンを変更するには、部会の審議等の手続きが必要なうえ、半年に1回の更新となっているため、現状視聴可能な Chrome で視聴するよう学生に通知することで解決を図った。
- 高知大学提供の一部の動画コンテンツ (TBL 紹介) が愛媛大学 IE から視聴できないことが明らかとなった。ブラウザを Chrome に変更することで解決を図った。

【高知大学】

- 徳島大学提供の「モラエスの徳島」の第3回目講義映像のみ視聴できなかった。徳島大学側に動画コンテンツを再アップロードしてもらうことで解決した。
- 香川大学提供の動画コンテンツが高知大学から視聴できなかった。香川大学から指定された IP アドレスに対するファイアウォールの設定を行ったが解決しなかったため通信内容を確認したところ、指定された IP アドレスが間違っていることがわかった。実際に通信しようとしている IP アドレスに対してポートを解放することで問題が解決した。

コンテンツ視聴確認の最終結果を下表のとおり簡単にまとめた。

表 2.1.2.2 平成 27 年度第 2 学期 (後期) 知プラ e 科目のコンテンツ視聴確認結果

科目提供大学	授業科目名	コンテンツ視聴確認大学				
		徳島大学	鳴門教育大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
徳島大学	知の探訪	/	問題無し	問題無し	Mediasite コンテンツを IE では視聴不可。本学の LMS に「現在のブラウザで視聴不可の場合は、Chrome 等他のブラウザで視聴を試してください」のような一文を掲載する。	問題無し
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 -四国の収容所を中心に-	/	問題無し	問題無し	Mediasite コンテンツを IE では視聴不可。本学の LMS に「現在のブラウザで視聴不可の場合は、Chrome 等他のブラウザで視聴を試してください」のような一文を掲載する。	問題無し
	モラエスの徳島-グローバリズムと異邦人-	/	問題無し	問題無し	Mediasite コンテンツを IE では視聴不可。本学の LMS に「現在のブラウザで視聴不可の場合は、Chrome 等他のブラウザで視聴を試してください」のような一文を掲載する。	問題無し
香川大学	情報のいろは	問題無し	問題無し	/	問題無し	問題無し
	地域コンテンツと知財管理	問題無し	問題無し	/	問題無し	問題無し
	香川を学ぶ	問題無し	問題無し	/	問題無し	問題無し
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	問題無し	問題無し	問題無し	問題無し	/

コンテンツ開発等検討 WG 運用細則の見直し，コンテンツ視聴確認シートの改訂，コンテンツ視聴確認による問題点の洗い出しと解決を図った。以下，それぞれについて詳述する。

(1) 運用細則

「コンテンツ開発等検討 WG 運用細則」を「コンテンツ開発ガイドライン運用細則」へ名称変更した。

コンテンツ開発ガイドライン運用細則 第3版 (2016年8月19日版)	
この運用細則は、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業における「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業（以下、知プラe事業）で開講するe-Learning科目のコンテンツを四国5国立大学（以下、連携大学）で開発する上で定めた「コンテンツ開発ガイドライン」の運用に関し、細則を定めるものとする。	
1) 視聴担保するPCのスペック 下表のスペックを満たすPCでの視聴を担保する。	
視聴担保するPCのスペック一覧	
視聴担保するPCスペック	
OS	Windows 7相当以上
ブラウザの種類	IE (ver. 8) 以上を推奨
Adobe Flash Playerバージョン	ver. 13以上
システムメモリ	1GB以上
2) 動画コンテンツの書き出し設定 動画コンテンツは各大学のPCルーム等での視聴ができる形式とする。動画コンテンツ作成の際には下表の設定での書き出しを行うことを推奨する。	
動画コンテンツの書き出し設定の案【香川大学での設定】	
ビデオ書き出し設定	
ビデオ設定	
コンテナ	FLV
映像解像度	480p ※4:3なら640×480 16:9なら854×480
フレームレート	25 (または29.97)
ビットレート	(オーディオを含めて) 500~800kbps
オーディオ設定	
音声コーデック	AAC (またはMP3)
チャンネル数	ステレオ
周波数	44.1kHz (または48kHz)
ビットレート	128kbps (または96kbps)
3) 細則の更新について 「コンテンツ開発ガイドライン運用」細則は年度ごとに更新を行う。また、必要に応じてその都度更新を行う。	

図 2.1.2.7 コンテンツ開発ガイドライン運用細則

(2) コースコンテンツ確認シート

平成 27 年度のコンテンツ視聴確認に基づいて，シートの改訂版を作成するとともに，シート名称を「コンテンツ視聴確認シート」から「コースコンテンツ確認シート」へと改称した。

(3) コンテンツ視聴確認結果

【徳島大学】

- ・ 「現代科学と研究倫理」，「知の探訪」の四つのコンテンツが作成中のまま各大学による視聴確認が始まったが，9月30日にはアップロードが完了し，徳島大学を除く4大学で視聴確認ができた。
- ・ 愛媛大学で，「現代科学と研究倫理」の一部コンテンツでウェブブラウザの違いによる，映像表示時間の差異が報告（IEが90秒，Chromeが3秒）されたが，注意文を記載することで解決とした。また「学修ガイド（はじめに読んでください）」上部の画像（guide.jpg）が表示されなかったが，徳島大学では不具合確認できなかったため現状のままとしている。

- ・ 香川大学，愛媛大学，鳴門教育大学で「知の探訪」，「モラエスの徳島グローバリズムと異邦人」，「日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920」の一部コンテンツに音声不良（ノイズや低音量）や動画の不具合（読み込みエラーや動画の静止等）による視聴できないとの報告があったが，注意文とお詫び文を記載し解決とした。
- ・ 高知大学で，「学修ガイド」内「どこにしようと，そこがドイツだ」の全文 PDF ファイルは，ダウンロード時に徳島大学内認証ログイン画面となり，他大学生はログイン不可となる事例が報告された。コース内の最終コンテンツ「shiryou」内の URL リンクを付け直すことで解決とした。

【鳴門教育大学】

- ・ 鳴門教育大学の Moodle 学生情報が 5 大学連携の基盤となっている Shibboleth 認証システムに認証されていない。後期開始までに認証されない場合は，連携大学の受講生のアカウントを鳴門教育大学に作成してもらうことで解決を図るよう要請。後期授業の視聴確認のための手段として，本学 Moodle より各分室の視聴確認担当者に対し，ローカル ID と PASS が発行されコンテンツ視聴確認ができた。また，学生の受講生についても，ローカル ID と PASS が発行され，正常に授業を履修することができた。
- ・ 高知大学で「【教員の思い】教員として大切なこと」の内容について動画と資料にリンク漏れがあることが指摘された。また，ディスカッションや課題の説明部分の標記についても記入漏れがあることが指摘された。各々の箇所へのリンク設定ならびに説明の追記修正が行われ解決した。「外部リンク（伊島中学校 伊島ササユリ情報）」と「外部リンク（徳島県立新野高等学校 ササユリ情報）」は同リンク先への飛び方に差異があったがリンク修正により解決した。
- ・ 愛媛大学では学内演習室 PC がセキュリティーのためコンテンツ開発等検討 WG 運用細則にある Flash 形式の動画が表示されないようになっており，そのためすべての動画視聴ができなかった。（総合情報メディアセンター内の職員 PC は視聴可能）。鳴門教育大学に動画出力フォーマットの変更を依頼し，すべての動画コンテンツを WMV 形式に変更してもらうことで動画再生が可能となった。

【香川大学】

- ・ 高知大学で「香川を学ぶ」，「情報のいろは」のすべての動画が視聴確認できない報告があった（動画タイトル画面は確認可能）。他大学からは正常に視聴できている等の状況から，高知大学側のネットワーク設定を変更することで解決した。

【愛媛大学】

- ・ 鳴門教育大学で「タンパク質で生命を斬る」，「ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり」すべてのコンテンツで映像・音声と同時に複数回，連続して途切れ，そのまま止まってしまうため，視聴確認できないとの報告があった。

【高知大学】

- ・ 鳴門教育大学で「サイエンスリテラシーの化学」，「TBL 紹介」において映像・音声と同時に複数回，連続して途切れ，そのまま止まってしまうため，視聴確認できないとの報告があった。

平成 28 年度末をもってコンテンツ開発検討 WG は解散し，平成 29 年度におけるコンテンツ視聴確認は，企画委員会マターとなった。

2-1-3 教育の質保証等検討ワーキンググループ

1. 教育の質保証等検討 WG の検討課題

教育の質保証等検討 WG では、5大学連携事業における e-Learning による授業の共同開講事業において、履修学生に対し対面授業と比して差異の無い教育効果を保証することを目的し、そのための環境整備に関連する事項に取り組んだ。具体的には、教育の質保証等検討 WG では、WG が設置された平成 26 年度から平成 28 年度にかけて、授業の設計や授業の運用のモデルの検討・開発、継続的な改善のプロセスの確立を目指し、各種ガイドラインの作成、アンケートの作成、提案した手法の試行による実証等を行った。

1-1 e-Learning による授業科目の通常授業としての確認

複数の大学が共同しオンライン科目を開講する場合、前提として、当該科目が単位を付するに充分であることが認められなければならない。多様なメディアを高度に活用した授業（オンライン科目）が、各大学の授業として位置づけられることの確認を、科目提供の前に行う必要がある。具体的には、各大学において、オンライン科目が通常科目として設定可能かどうかの確認をおこない、必要に応じて、学内制度の整備を行う。教育の質保証等検討 WG では、オンライン科目の開講が可能となるよう調整を進めることとした。

1-2 オンライン科目開講における質保証のためのガイドライン開発

本事業は5大学間での共同授業実施であるが、形態としては各大学が授業を開発し、相互に提供するものである。オンライン科目を通常授業の中に位置づける場合、提供するオンライン科目の質が担保される必要がある。それぞれオンライン科目の開発に当たる場合、連携大学間で質を担保する必要がある。そのため、授業の設計、実施にあたって大学間で基準を統一するため指針が必要となる。教育の質保証等検討 WG では、指針の作成を行うこととした。ガイドラインという形で、指針を作成することとした。

ガイドラインについて、授業設計のためのガイドラインと授業運用のための2種類のガイドラインを作成することとした。

また、単にガイドラインは作成するだけではなく、実質化のための具体的な方法も併せて検討する必要がある。具体的には、実施に関する補助的な資料の作成を必要に応じて行うこととした。

1-3 オンライン科目の改善方法の開発

5大学連携事業において事業の継続は、科目の開発と、開発した科目の改善をもって進めることで実現される。オンライン科目の継続的な改善体制を整える必要がある。そのため、オンライン科目の評価方法の開発を目指すこととした。具体的には、対面授業にける授業評価アンケートに相当するオンライン科目の実施アンケートの開発と運用体制の検討を進めることとした。

1-4 教育の質向上のための検討

e-Learning を取り巻く環境は、常に変化している。知プラ e 事業も、こうした変化を無視するわけにはいかない。知プラ e 事業が提供する教育サービスにおいても、質を保つためには、変化に対応する必要がある。現在、知プラ e ではオンライン学修の形態を標準として採用しているが、e-Learning の活用形態は多様化しており、必要に応じ新たな形態についても検討する必要がある。ブレンド型の e-Learning の活用方法について検討を行うこととした。

1-5 共同実施科目の大学間の個別適合に関する検討

5大学の連携事業として開発したオンライン科目は、各大学の授業として位置づけられるが、各

大学は独自にディプロマ・ポリシーを定めている。大学教育では、学習指導要領のような全国的な統一基準が定められているわけではない。厳密には、提供される科目が各大学の科目として設定される場合、ディプロマ・ポリシーとの整合性が求められる。近年、このポリシー等の厳密な運用が求められる。そのため、授業を共同開講するためには個々の授業の目標と、各大学のポリシーとの整合を必要があり、オンライン科目においてどのように調整するべきなのか検討を行うこととした。

1-6 その他の事項の検討

本事業を進める上で、個別の事項で、教育の質を保証するという観点から検討する必要がある事項については本WGで検討することとした。

実際に授業を開講し、実施する上で、実務上の検討事項が出てくることが想定される。例えば、授業担当教員の指定した教科書や参考図書 of 各大学での整備といった、個別の対応事例が今後生じるものと想定される。このような案件に対応していくこととした。

2. 教育の質保証等検討WGの活動のまとめ

2-1 e-Learning 授業の位置付け

平成26年度において、教育の質保証等検討WGからの検討事項として、大学設置基準、および各大学の学則等において多様なメディアを高度に活用した授業（e-Learning 授業）を開講することが認められていることを確認した。その上で、5大学連携授業の提供するe-Learning 授業が、学則等で定められている多様なメディアを高度に活用した授業であることを、改めて認めることとした。

2-2 オンライン授業のためのガイドラインの開発

教育の質保証等検討WGでは、オンライン科目の授業設計と運用に関する二種類のガイドラインを作成することとした。「知のプラットフォーム形成事業 オンライン授業設計ガイドライン」と『四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業運用ガイドライン』のガイドラインを作成し、引き続き改訂作業を行った。

平成26年は「知のプラットフォーム形成事業 オンライン授業設計ガイドライン」および『四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業運用ガイドライン』を作成した。平成26年度の後半では授業設計ガイドラインに基づいたオンライン科目の設計、開発を行った。平成27年度は、前年度に行ったガイドラインに基づいたオンライン科目の開発から得られたフィードバックに基づいて「知のプラットフォーム形成事業 オンライン授業設計ガイドライン」の改訂を行った。平成28年度も引き続き「知のプラットフォーム形成事業 オンライン授業設計ガイドライン」の改訂を行った。

また、質保証を実現するために、ガイドラインに基づいたオンライン科目の開発を実質化する必要があることから、自己評価の体制を整備することとした。自己評価体制とは、自己評価シートの開発と、シートに基づく評価の実施、評価結果の公開である。自己評価シートとして「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート」を作成した。また、この自己評価シートに基づく自己評価の指向を行った。

2-3 オンライン科目の改善方法の開発

5大学連携事業のオンライン科目の提供において、継続的な科目提供として、改善のためのサイクルを実現することが必要である。そこで、開発と改善の循環を実現するため、授業評価アンケートを行うこととした。対面授業においても、授業改善の一環としてアンケートがおこなわれている。オンライン科目においても、授業実施にともない受講生からの授業改善のためのフィードバック情報としてアンケートが有効と考えられる。

平成 26 年度は、授業評価アンケートを試作した。試作したアンケートをオンライン授業の終了時に実施した。オンライン科目のフィードバックを得ることができた。

平成 26 年度以降、この授業評価アンケートは、平成 27 年度、平成 28 年度と、継続して実施している。継続的に、オンライン科目の実施から、フィードバック情報を蓄積している。得られたアンケートは、各大学において授業改善のために共有している。

2-4 教育の質向上のための検討

オンライン科目の新しい活用方法についての調査をおこない、教育効果の向上について検証を進めた。具体的には、MOOC の活用実態等についての調査を行った。e-Learning の活用形態は、大きく変化することが予測される。また、ブレンド型授業についても調査を行った。平成 26 年度以降、MOOC やブレンド型授業の効果の検証を行った。

2-5 共同実施科目の実施大学の指針への適合に関する検討

高等教育機関において、授業の編成は、大学の定めるポリシーに沿って配置されることが、質保証の観点から求められる。そこで、知プラ e 事業においても、提供するオンライン科目と各大学とのディプロマ・ポリシー等との関係をどのようにするかを検討することとした。シラバス等の記載方法の検討と合わせて、本課題については、引き続き議論を行うこととなった。

2-6 その他の検討

5 大学連携事業で e-Learning 授業を実施に向けて、運用上 5 大学間で必要となる事項についての検討を行った。例えば、授業で参考資料として挙げられている文献について、各大学でそれぞれ整備することの合意が得られた。

3. 成果物

3-1 オンライン授業設計ガイドライン（改訂版）

3-2 授業運用ガイドライン

3-3 オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート

3-4 授業評価アンケート

3-5 メディア授業の申し合わせ（参考）（愛媛大学、徳島大学）

4. 今後の課題

教育の質保証等検討 WG では、5 大学の共同開講授業として提供されるオンライン科目において、対面授業と比して、揶揄されないためにどのようにしたらよいか様々な検討を行った。検討したことの幾つかは、ガイドブックやアンケートとして結実したものがある。国内の高等教育機関において、e-Learning によるオンライン科目の実施事例は増えているが、知プラ e 事業の質保証実現の取組は、他の事例と比べて先進的であると考えられる。

しかし、教育の質保証の実現は、継続的な活動が必要であり、我々の取組も道半ばであると言える。一定の成果と、今後の課題がともに明らかになった 3 年間だったと言える。本 WG が示した課題は、今後事業全体において継続的に取り組むことになるものと考えられる。

2-1-4 非常勤講師の手続きの簡素化に関するワーキンググループ

平成 26 年度

1-1 平成 26 年度の検討課題

非常勤講師の手続きの簡素化に関する WG では、非常勤講師発令等の事務手続きの仕組みを整備し、提出書類や事務手続きについて簡素化案を検討する。

1-2 検討スケジュール

下記の日程で検討を行った。

- 6 月：検討項目の整理を行い、各項目についての簡素化（案）の検討
- 7 月：遠隔会議により意見交換
- 10 月：提出書類の簡素化、資格審査の省略、委嘱関係書類について検討（メール会議）
- 11 月：企画委員会に報告

1-3 検討の概要

- ◆資格審査に関する提出書類の簡素化
各非常勤講師から個別に提出頂いている履歴書や研究業績一覧等の書類の簡素化を検討
- ◆資格審査の簡素化
受入大学での資格審査の簡素化を検討
- ◆委嘱手続きの簡素化
学部単位で取り交わしている委嘱依頼と承認に関する書類の簡素化を検討

1-4 成果物

- ◆資格審査に関する提出書類の簡素化
各非常勤講師（常勤教員）から個別に提出頂いている履歴書や研究業績一覧等の書類は省略し、任用大学が作成する「知プラ e に係る開講科目及び担当教員一覧」により資格審査を行う。
- ◆資格審査の簡素化
授業担当教員が提供大学の常勤教員の場合は、資格審査を省略
- ◆委嘱手続きの簡素化
委嘱依頼と承認に関する書類は、学部間での取り交わしを止め、大学間の一括記載とした。

図 2.1.4.1：「知プラ e に係る開講科目及び担当教員一覧」

図 2.1.4.2：委嘱依頼状（一括記載）

図 2.1.4.3：委嘱承諾書（一括記載）

1-5 今後の課題

授業担当教員が学外講師（提供大学の常勤教員以外）だった場合の事務手続きの簡素化の検討

提供大学

平成〇〇年度 知プラeに係る開講科目及び担当教員一覧

授業科目名	学期	単位数	担当時間数	開講 開始年度	担当教員氏名	生年月日	理職(所属)	任用期間	新規・継続 の別	備考

図 2.1.4.1 知プラeに係る開講科目及び担当教員一覧

<様式>

〇〇〇〇発 〇〇〇号
平成〇〇年〇〇月〇〇日

国立大学法人〇〇大学長 殿

国立大学法人〇〇大学長
〇 〇 〇 〇【公印省略】

非常勤講師の委嘱について（依頼）

このことについて、貴管下下記教員を下記のとおり、本学非常勤講師に委嘱したいので、ご承諾くださいますようお願いいたします。

記

所属・職名	氏名	担当科目	委嘱期間
〇〇大学 〇〇センター 教授	〇〇 〇〇	(全学共通科目) 〇〇〇〇〇〇	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日
〇〇大学 〇〇学部 准教授	〇〇 〇〇	(〇〇学部開設科目) 〇〇〇〇〇	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日
〇〇大学 〇〇学部 講師	〇〇 〇〇	(全学共通科目) 〇〇〇〇〇〇〇〇	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日

※本件は、四国地区五大学連携事業（四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施）に基づき、貴学より配信される e-Learning 授業を本学で開講するための非常勤講師の委嘱依頼です。（詳細は別紙のとおり）

図 2.1.4.2 委嘱依頼状（一括記載）

<様式>

〇〇〇〇〇 〇〇〇号
平成〇〇年〇〇月〇〇日

国立大学法人〇〇大学長 殿

国立大学法人〇〇大学長
〇 〇 〇 〇【公印省略】

非常勤講師の委嘱について（回答）

平成〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇〇〇発〇〇〇号で依頼のありました標記のことについて、
本学下記教員に貴学非常勤講師を委嘱されることは差し支えありません。

記

所属・職名	氏名	担当科目	委嘱期間
〇〇大学 〇〇センター 教授	〇〇 〇〇	(全学共通科目) 〇〇〇〇〇〇	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日
〇〇大学 〇〇学部 准教授	〇〇 〇〇	(〇〇学部開設科目) 〇〇〇〇〇	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日
〇〇大学 〇〇学部 講師	〇〇 〇〇	(全学共通科目) 〇〇〇〇〇〇〇	自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日

※本件は、四国地区五大学連携事業（四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施）に基づき、e-Learning 授業の開講に係る非常勤講師の委嘱依頼への回答です。

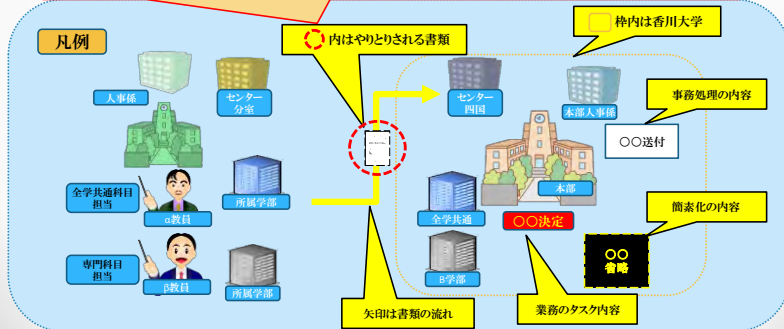
図 2.1.4.3 委嘱承諾書（一括記載）

非常勤講師の手続きの簡素化に関するWG報告

主査校：香川大学

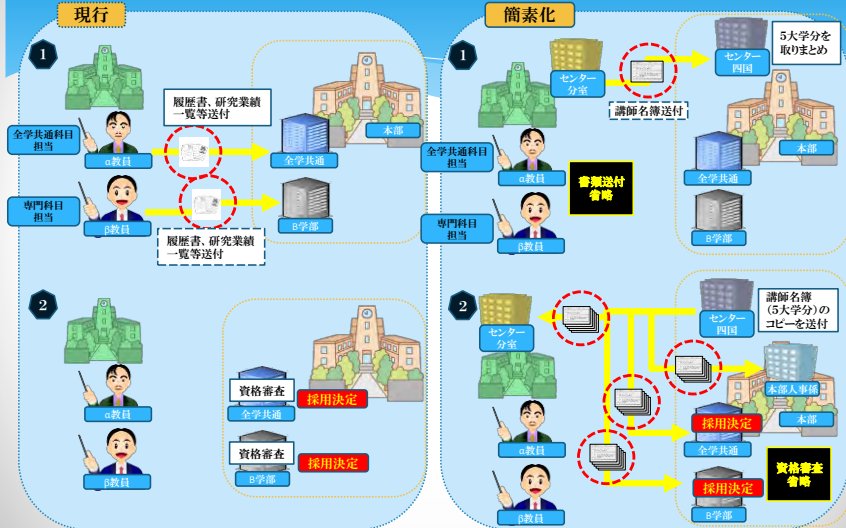
◆成果項目◆

- ◇大学間でやりとりされる書類を「知プラeに係る開講科目及び担当教員一覧」、「委嘱依頼状（一括記載）」、「委嘱承諾書（一括記載）」のみとしました。
- ※「知プラeに係る開講科目及び担当教員一覧」は、センター四国（香川大学）が取りまとめ、分室にExcel形式のファイルで配布します。
- ◇授業担当教員（常勤）に係る「履歴書」、「研究業績一覧」等の送付を省略します。
- ◇授業担当教員（常勤）に係る資格審査を省略します。



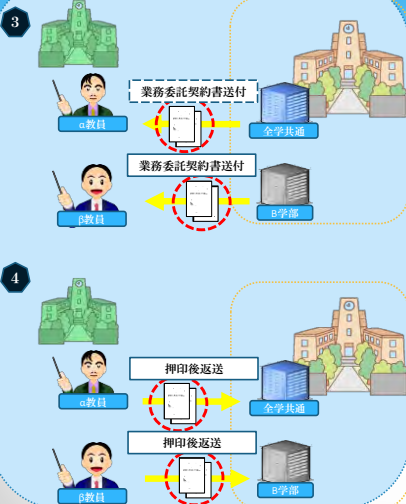
この資料は他大学の教員を非常勤として採用する場合の書類の流れと事務処理について、香川大学を例として作成したものです。
※大学によって学内の事務処理が異なりますので、各大学の実情に合わせて内容を読み替えてください。

授業担当教員（常勤）の採用手続きについて(1)

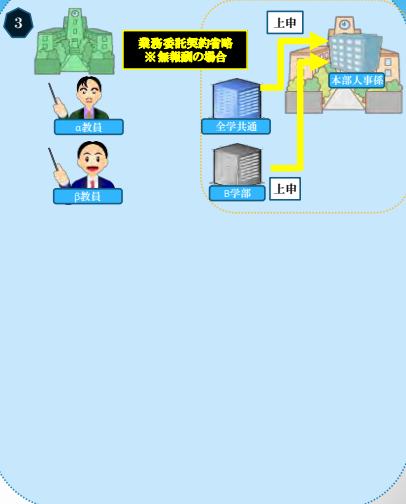


授業担当教員（常勤）の採用手続きについて(2)

現行

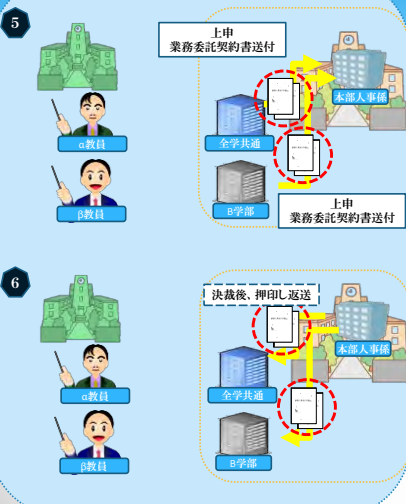


簡素化



授業担当教員（常勤）の採用手続きについて(3)

現行



簡素化

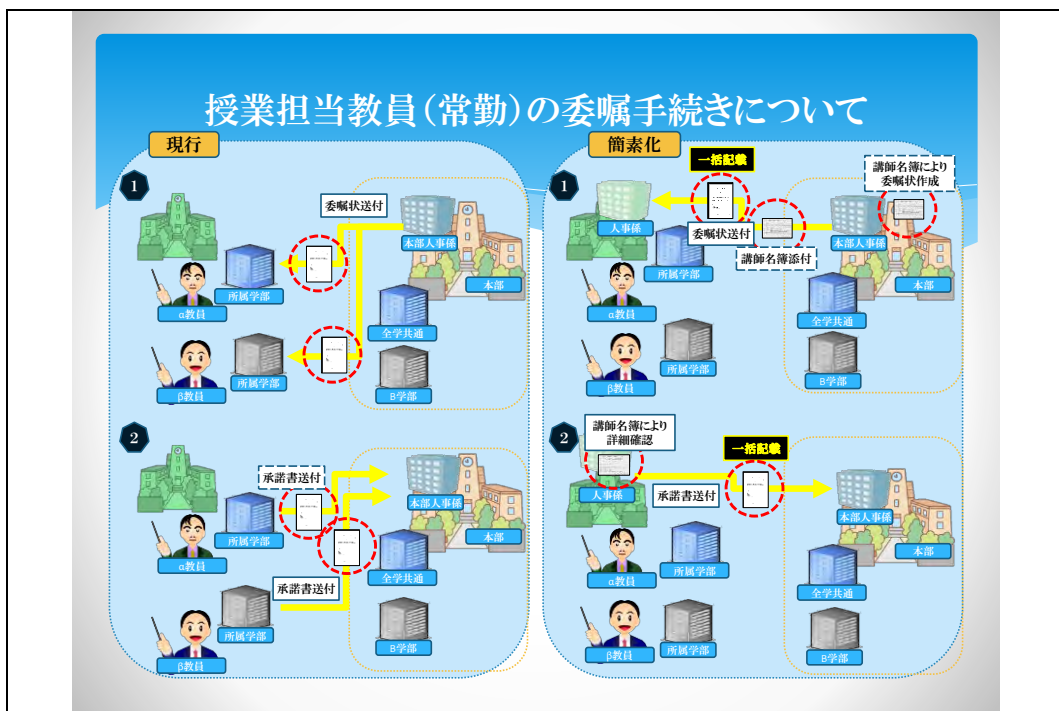
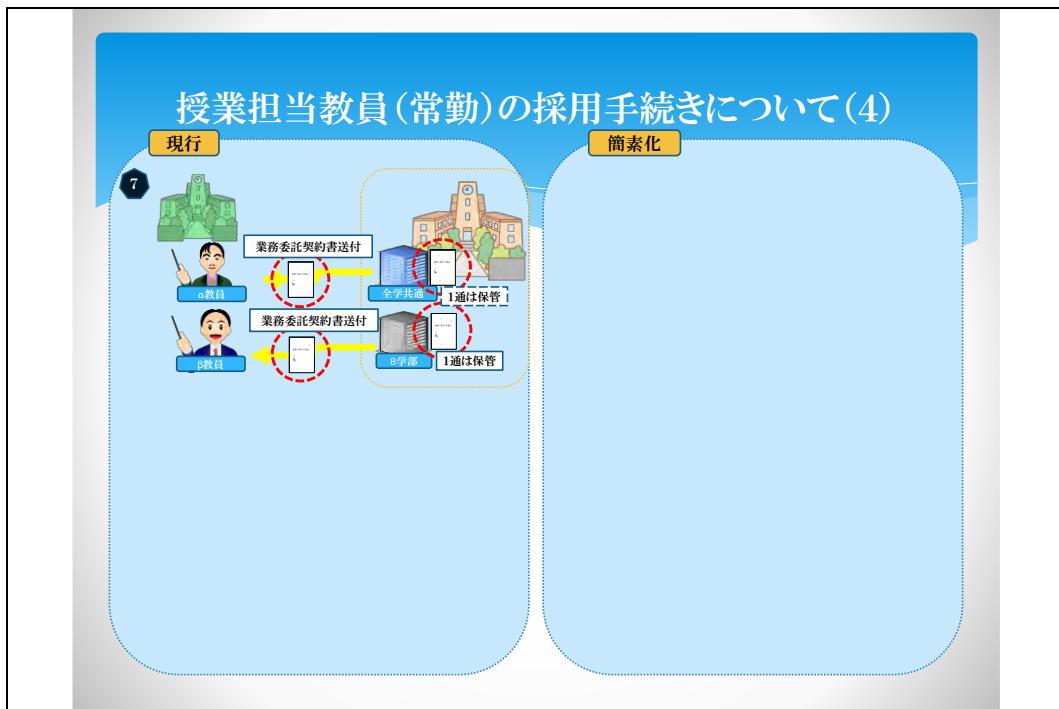


図 2.1.4.4 参考資料

1-1 平成 27 年度の検討課題

成績評価のスケジュールを整理し、成績評価表の取りまとめ方法等について検討する。

1-2 検討スケジュール

下記の日程で検討を行った。

6 月：成績評価のスケジュールを整理し、成績評価表の取りまとめ方法についてメール審議

7 月：メール審議の結果を企画委員会に報告

成績評価の依頼から成績評価表提出までの手順を企画委員会で審議

郵送料の負担方法については継続審議となったため、メール審議

1-3 検討の概要

◆成績評価表の取りまとめ

分室単位で取りまとめるか、担当教員が直接送付するかは各分室の判断に任せることとなった。

◆成績評価に係る手順の整理

各非常勤講師への成績評価依頼から成績評価表の提出までの手順を整理し共通化を行った。

◆郵送に係る経費の負担

評価依頼に係る経費は科目開講大学、成績評価表送付に係る経費は科目提供大学の負担となった。

1-4 成果物

◆成績評価依頼に係る手順について

開講大学から非常勤講師への成績評価依頼の際の封入物及び成績評価表の提出方法（郵送方法）の共通化を図った。

郵送に係る経費の負担についても検討を行い、整理した。

図 2.1.4.5：成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について（審議結果）

図 2.1.4.6（参考資料）：成績評価関係郵便物の発送方法について（切手添付無しの場合）
（香川大学の例）

1-5 今後の課題

非常勤講師が教務システムに直接成績データを入力することが可能かどうかの検討を行う。

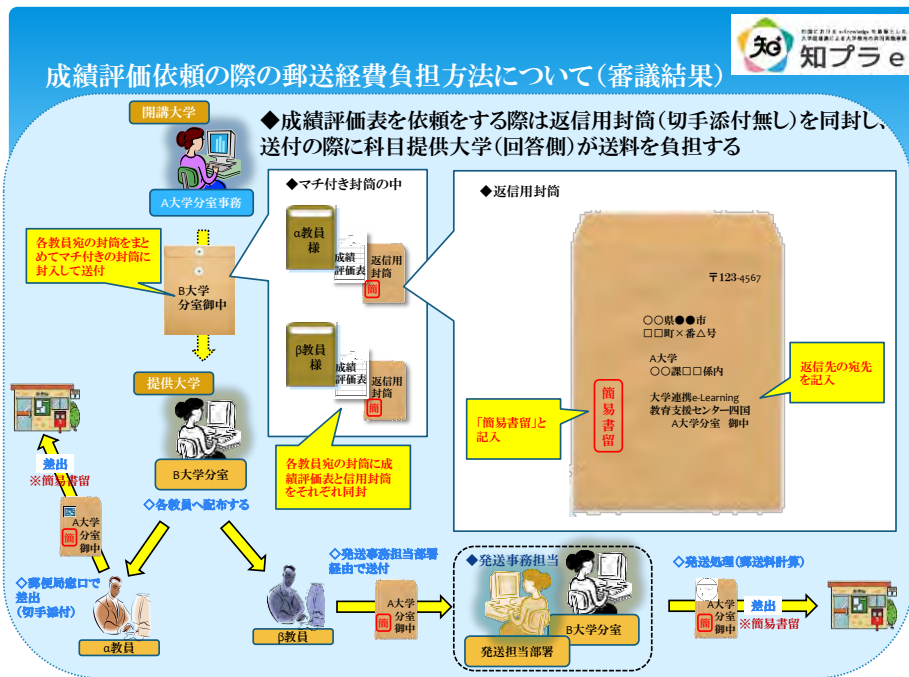


図 2. 1. 4. 5 成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について (審議結果)

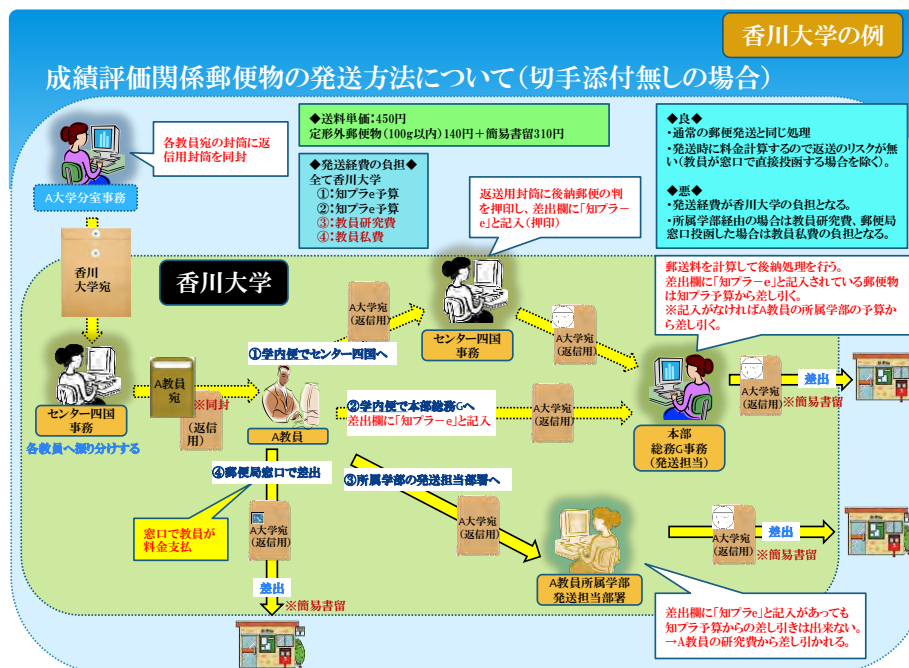


図 2. 1. 4. 6 (参考資料) 成績評価関係郵便物の発送方法について (切手添付無しの場合) (香川大学の例)

1-1 平成 28 年度の検討課題

成績評価に係る評価方法を整理し、非常勤講師の業務負担の軽減及び事務処理の簡素化について検討する。

1-2 検討スケジュール

下記の日程で検討を行った。

9 月：各大学の成績評価方法（評価基準）と成績記入表の様式をとりまとめて情報共有

10 月：各大学の評価基準を整理し、非常勤講師の業務負担の軽減方法を検討

11 月：遠隔会議システムを用いて意見交換

12 月：各大学の意見を整理し、事務処理の簡素化を再検討

1 月：非常勤講師の業務負担の軽減及び事務処理の簡素化案について企画委員会で審議

1-3 検討の概要

◆成績基準の情報共有

今後、非常勤講師が教務システムに直接成績データを入力することを想定し、各大学の成績評価基準や様式等を取りまとめ、各大学に配布することで情報共有を行った。

◆成績評価に係る基準の整理

各大学の評価基準を整理し、一覧表にまとめた。

◆非常勤講師の業務負担の軽減及び事務処理の簡素化について検討

各大学の評価基準を整理した結果、評価（評語）の呼称（優・良・可・不可，S・A・B・C）の差はあるが、各評価の点数区分に差は無かったため、評価ではなく評点（点数）で評価を行う方が非常勤講師の業務負担が軽減できることがわかった。また、入力した点数が各大学でどういう評価に反映されるのかを整理し、成績評価早見表（案）を作成した。なお、評価不可（点数を付けない）の取り扱いについても検討を行い、早見表（案）に反映させた。

1-4 成果物

◆知プラ e 科目の成績に係る評価方法について

各大学の評価基準と評価方法を整理し、評価早見表（案）を作成した。非常勤講師は点数を入力する際に、点数が各大学でどの評価（評語）に区分されるかが早見表によって一目で判別できることにより、非常勤講師の業務負担の軽減を検討した。また、評価不可（点数を付けない）の取り扱いを整理することで担当教員に対する説明等に係る事務処理の簡素化を検討した。

図 2.1.4.7：各大学の評価基準及び成績評価表の教員記入内容について

図 2.1.4.8：知プラ e 科目の成績評価に係る評価早見表（案）

1-5 今後の課題

特になし

	徳島大学	鳴門教育大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
90～100点	秀	得点(点数)	S	秀	秀
80～89点	優		A	優	優
70～79点	良		B	良	良
60～69点	可		C	可	可
50～59点	※下記区分で記入		D	×	不可
40～49点					
30～39点					
20～29点					
10～19点					
0～9点					
59点以下の場合の特例	不:F (不):G 欠:H (欠):I	-	-	-	-
評価できない場合	不:F (不):G 欠:H (欠):I のどれかを記入	0点を入力	評価放棄の場合は「F」を入力	開講時数の3分の2以上出席していない者は「評価しない」を入力	0点(不可)を入力
その他	試験問題(レポートの場合は課題)の提出が必要	-	-	-	-
知プラe成績評価用紙の記入方法	教員は評点のみ記入 60～100を必ず記入	教員は得点のみ記入	教員は評点(点数)のみ記入 0～100を必ず記入		教員は評点のみ記入 0～100を必ず記入
備考	59点以下は下記評価 試験問題(レポートの場合は課題)の提出が必要				
通常の非常勤講師の成績評価用紙の記入方法	通常の記入方法と同じ	得点を手書きで記入	評価(記号)のみ入力 評価放棄の場合は「F」		教員は評点のみ記入 0～100点を必ず記入
教務システムの入力方法	60～100点を入力することで 評価は自動変換 不:F (不):G 欠:H (欠):I	事務担当による代理入力	評価(記号)のみ入力 (評点(点数)入力と選択可能) 評価放棄の場合は「F」	教員は評点を入力すると秀 優良可へ自動変換。 評点あるいは「評価しない」 どちらかを必ず入力。	教員(非常勤職員の場合は職員)が評点を入力すると、 評語に自動変換される。 学生には、評点と評語が公表される。

※ 不…不合格で再試験を受験させる者
 (不)…不合格で再受講(改めて初めから授業を受講)させる者
 欠…試験を欠席した者(追試験対象者以外は再受講)
 (欠)…受験資格(2/3以上の出席)がない者(再受講)

図 2. 1. 4. 7 各大学の評価基準及び成績評価表の教員記入内容について

成績記入内容	徳島大学	鳴門教育大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
90～100点	秀	S	S	秀	秀
80～89点	優	A	A	優	優
70～79点	良	B	B	良	良
60～69点	可	C	C	可	可
50～59点	(不):G	D	×	不可	不可
40～49点					
30～39点					
20～29点					
10～19点					
0～9点					
評価できない場合	(欠):I		評価放棄(F)	評価しない	
その他	試験問題(レポートの場合は課題)の提出が必要	「評価できない」という項目はありません	-	-	「評価できない」という項目はありません

科目担当教員は、素点(0～100点)により評価を行う ※大学によって「評価できない場合」の区分あり(※参考※を参照)	※参考※ (不)…不合格で再受講(改めて初めから授業を受講)させる者 (欠)…受験資格(2/3以上の出席)がない者(再受講)	-	評価放棄…基準は特になし	評価しない…各授業科目につき、その開講時数の3分の2以上出席していない者	-
---	--	---	--------------	--------------------------------------	---

図 2. 1. 4. 8 知プラ e 科目の成績評価に係る評価早見表(案)

1-1 平成 29 年度の検討課題

非常勤講師の委嘱手続きに係る事務処理手順の確認と整理を行う。

1-2 検討スケジュール

下記の日程で検討を行った。

3月：事務手続きの流れを再確認し、齟齬が生じないように手順の資料を作成した。

1-3 検討の概要

◆授業担当教員の現職（所属）に異動があった場合の事務処理について

4月1日付けで授業担当教員の所属や職名に異動があった場合に、非常勤講師の委嘱依頼時、依頼に対する回答作成時の記載内容を整理した。また、4月1日以降に異動があった場合の事務処理の流れについても整理を行った。

1-4 成果物

◆授業担当教員（常勤）の委嘱手続きについて

事務手続きの流れを図に整理した。

図 2.1.4.9：授業担当教員（常勤）の委嘱手続きについて

1-5 今後の課題

特になし

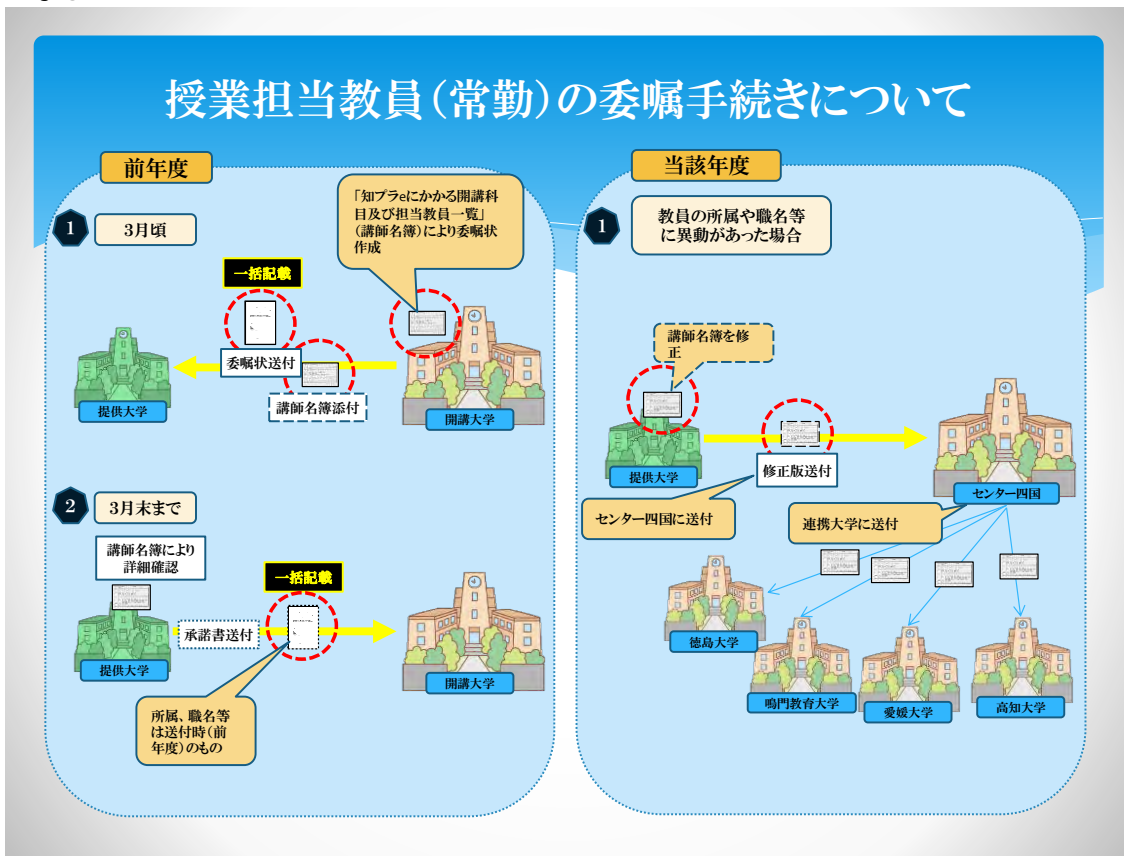


図 2.1.4.9 授業担当教員（常勤）の委嘱手続きについて

2-1-5 システム検討ワーキンググループ

平成 26 年度

1) 平成 26 年度の検討課題

システム検討 WG（以下、システム WG）では大学連携 e-Learning 教育支援センター四国における大学教育の共同実施に必要な遠隔会議・遠隔講義システム等のシステム基盤を整備することとなっている。平成 26 年度はポータルサイト、コンテンツ管理、倫理規程等について意見交換を行った。

2) 検討スケジュール

特に定めていないが、各 WG から上がってきた議題についてリクエストベースで検討を行い、必要があれば打ち合わせを行うこととなった。

3) 検討の概要

- ・ 共通ポータルの検討について

香川大学の村井委員より、共通ポータルに関する共同教育実施モデル検討 WG（以下、モデル WG）の動向について説明が行われた。平成 27 年度の開講科目についてはセンター四国のホームページより各大学の Moodle コースにリンクを貼ることで対応するので検討依頼を取り下げること、及び平成 28 年度以降はまだモデル WG で検討が進められていないので検討依頼を保留することの説明があり、検討の結果了承された。

愛媛大学の佐々木委員からの提案により、各大学でのユースケース図が必要ということ、モデル WG の委員にも伝えて意識統一し、各大学のシステム WG とモデル WG のメンバーで協力して、各大学の現状のユースケース図と、平成 27 年度を想定したユースケース図（こうなって欲しいというもの）を作ってはどうかということを企画委員会で報告した。

- ・ 知プラ e 事業の認証について

香川大学の林委員より、コンテンツの管理についてはまだ議論が早いかと思うので、認証に関して意見交換を行いたい旨の提案があった。現状は eK4（e-Knowledge コンソーシアム四国）から引き継いだ 8 大学の認証を利用しているが、知プラ e は 5 大学だけなので、別の方法（例えば学認など）についても意見交換をしたいと提案があり、各大学の学内事情について報告と意見交換が行われた。香川大学の林委員から、eK4 も知プラも同じフェデレーションを利用しているので、eK4 で各大学の学認の状況を調査し、その情報を知プラの報告で利用してはどうかという提案が了承され、eK4 の方で各大学の学認に関する現状と今後の導入予定について調査を行うこととなった。

- ・ 倫理規程の作成について

高知大学の三好委員より、研究室で作ったシステムを用いて知プラ科目の履修生を対象に調査を行いたいという要望があり、この話し合いの中で実験時の倫理規程に関する話が出て、センター四国の倫理規程も作るべきではないかという提案に発展した。

香川大学の林委員からの提案により、各大学の代表的な倫理規程を集めて、それをサンプルとしながらセンター四国の倫理規程を作ることとなった。また、香川大学と徳島大学の工学部は倫理規程があることわかっているので、まずはこの二つを集めて、これらをベースに作ってみてはどうかということを企画委員会で報告した。

4) 成果物

なし。

5) 今後の課題

学生が LMS を利用するときの認証について検討することとなった。また、各 WG の議論でシステム環境に関する内容については、議論を踏まえ、適宜検討していく。

1) 平成 27 年度の検討課題

知プラ e 科目担当教員が所属大学以外の教務システム（修学支援システム）に直接ログインし、成績を入力することが現状で可能かどうかを調査した結果を表 2.1.5.1 に示す。

表 2.1.5.1 各大学における教務システムの状況調査結果

徳島大学	「誓約書」を提出した者について許可しているが、一度も本学に来学しない非常勤講師に対しては許可していない。
鳴門教育大学	許可していない。
香川大学	許可していない。
愛媛大学	許可している。
高知大学	許可していない。

愛媛大学以外は許可していないと回答があったことから、許可するために必要な事項についても調査した。設問内容と回答を取りまとめは次のとおり。今後、このデータに基づき、成績入力の電子化について更に検討した。

- 設問 1：知プラ e 科目担当教員が貴大学の教務システム（修学支援システム）上で成績を入力できるようにするためには、貴学内でどのような手続きが必要ですか。
- 設問 2：上記 1 の手続きの実現可能性を「かなり高い、高い、低い、かなり低い」でご回答ください。回答者様の主観で構いません。
- 設問 3：設問 2 において、「かなり高い」又は「高い」と回答された場合、その実現（成績入力可能となる）までにどのくらいの期間が必要と思われますか。回答者様の主観で構いません。

表 2.1.5.2 成績入力の電子化に関する調査結果

	徳島大学	鳴門教育大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
設問 1	<p>学外非常勤講師については、授業担当教員が「誓約書」の提出及び本学学内 LAN により学外利用を可能とする設定変更を行う必要がある。(本学に来学しない非常勤講師は想定していない。この処理(「誓約書」の提出及び本学学内 LAN により学外利用を可能とする設定変更)を行うため、最低一度は 本学に来学する必要がある。)</p>	<p>学外の教員が教務支援システムにログインして成績入力することは原則として認めていない。しかし、申請がある場合、嘱託講師に対してアカウントを発行することができる。ただし、セキュリティポリシーの明確な定めがないため今後の検討課題となっている。</p>	<p>学内で定められている情報セキュリティポリシーの一部を改訂し、全学の委員会で審議了承を得る必要がある。</p>	<p>既に学外から修学支援システム上で非常勤講師の成績入力が可能です。いつからでも利用可能な状態となっています。(各先生の ID・PASS も発行済み)</p>	<p>全学の委員会(教育情報委員会)で審議了承を得る必要がある。</p>
設問 2	<p>低い</p>	<p>教務システムに対して嘱託講師が成績入力することの実現可能性は高い。しかし、Moodle と教務支援システムをリンクさせた成績入力については、実現可能性はかなり低い。</p>	<p>不明</p>		<p>高い</p>
設問 3		<p>嘱託講師のために職員 ID と Pass を発行するため、おおそ一週間程度で成績入力が可能になると推測される。</p>			<p>平成 29 年度末に学内ネットワークがリプレイスとなるが、その際に学内 VPN が整備されれば委員会での審議了承を得られる可能性が高くなると思われる。</p>

この調査結果を企画委員会で報告した。

平成 28 年度

- ・ 鳴門教育大学 Moodle の Shibboleth 認証にトラブルが生じたため、その状況を WG メンバーで共有したとともに、鳴門教育大学提供科目の受講生（鳴門教育大学以外の学生）に対してローカルアカウントを発行することで対応してもらうよう企画委員会へ提案した。
- ・ 各大学における LMS の GaKuNin 対応（予定を含む）情報を共有し、企画委員会で報告した。

平成 29 年度

- ・ 学認の移行状況の確認について
徳島大学を除き、平成 30 年度からは、各大学が有する LMS に対し、他大学からの学認での認証連携が実施可能であるという点を確認した。
- ・ 安全で活発に利用できるシステム運用に関する検討
知プラ e の Moodle を安全で活発に利用できるようなシステム運用を行う上で、まず各大学の Moodle システムの設定や保守・運用状況を連携大学間で共有するための情報収集シート（以下、共有シート（※）とよぶ。）を作成した。本シートを用いて共有した情報に基づいて、運用上多数の人員を割くことなく、費用をかけず、各大学において継続的に実施できる項目を抽出し、下記の作業を実施することについてのコンセンサスを得た。

① セキュリティホール対策

各大学における学内外からの脆弱性情報の収集に加え、システム WG で相互に共有した環境情報からの脆弱性情報提供に基づき、個々の大学において、定期的にパッチ対策の実施に努める。ただし、対象システムを学内で直接管轄する立場にない場合は、管轄部局に対して、良好な関係性を構築・維持の観点に基づき、実施の要望や該当する脆弱性情報を提供する等できる限りの対策支援に務める。

② アカウント管理

システムのアカウント、特に OS、LMS、DB 等のローカルアカウントについては、利用単位で厳密に管理をしておく必要が考えられる。アカウントのライフサイクルに基づく適切な管理ができるよう、アカウントの生成・削除に関する手続きから有効性検証、不要アカウントの削除等を定期的実施に努める。①と同様に、直接これらを管轄する立場にない場合は、管理に対する要望、また不要になったと思われるアカウントの情報提供等の対策支援に務める。

③ 脆弱性診断

脆弱性診断について、年 1～2 回程度脆弱性診断を各大学実施に努める。なお、例えば、愛媛大学ではフリーツールを利用し、費用も人員も掛けない手段で診断しており、各大学からこのような診断手段等の有用な情報提供は、大学間で積極的に実施し、他大学にも手段の一つとして検討する。

ただし、上記では対応できない脆弱性、つまり人員または費用、もしくは両者が必要になる場合は、5 大学間で協議し対応を検討する。また、今回の機会の一部の大学が該当するような、大学全体でのシステムリプレイス等によりシステム変更が行われ、設定内容や保守・運用状況等の大幅な変更が出る場合にも、本共有シートによる情報共有を行う。

以上の事項を企画委員会で報告した。


（※）共有シートの様式は、セキュリティ対策の観点から本報告書へは記載しない。


なお、システム検討 WG は解散せず、平成 30 年度以降も上記のシステム運用方針に基づいて活動を継続することとなった。


2-2 授業科目の実施状況

2-2-1 科目概要

平成 29 年度に開講した授業科目及び平成 29 年度末までに制作し、平成 30 年度に開講予定の授業科目について、その概要を以下に紹介する。

科目提供大学  徳島大学

科目名称  知の探訪




徳島大学の未来像
10億人が抱える問題を解決する大学

野地澄晴

2016年7月25日 生物資源産業学部

単位数 2

 担当教員

金西 計英 (徳島大学)

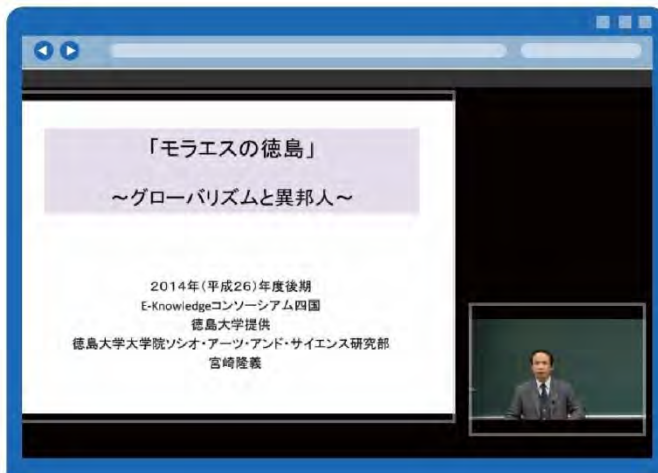
授業計画

- | | |
|-------|---|
| 第1回目 | ガイダンス / 徳島大学の未来像 10億人が抱える問題を解決する大学 |
| 第2回目 | ある学生の歩んだ道～大学院へ進学し研究者になろう |
| 第3回目 | 手術治療の新たな展開：ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘出除術 / ウィリアムオスラー医の心 |
| 第4回目 | 薬と健康食品 / ヒトの遺伝学入門 |
| 第5回目 | 宇宙食開発はおもしろい！？～ライフワークとなりうる研究テーマの決め方～ |
| 第6回目 | 先端数理に基づく画像診断・治療装置 |
| 第7回目 | 内分泌腺の腫瘍化機構 |
| 第8回目 | 創薬のすすめ |
| 第9回目 | 人文社会科学における仮説と検証とはなにか？ |
| 第10回目 | 小胞体ストレス応答と糖尿病 |
| 第11回目 | “知性”を育む“運動”の学習とトレーニング |
| 第12回目 | 知ってるようで知らない酵素の不思議 |
| 第13回目 | 生体コラーゲン顕微鏡 |
| 第14回目 | 我々の生活を変えた青いLEDについて |
| 第15回目 | 比較文化入門～複眼のススメ |
| 第16回目 | 定期期末試験(レポート) |

科目名称



モラエスの徳島 - グローバリズムと異邦人 -



単位数

2

担当教員

宮崎 隆義 (徳島大学)



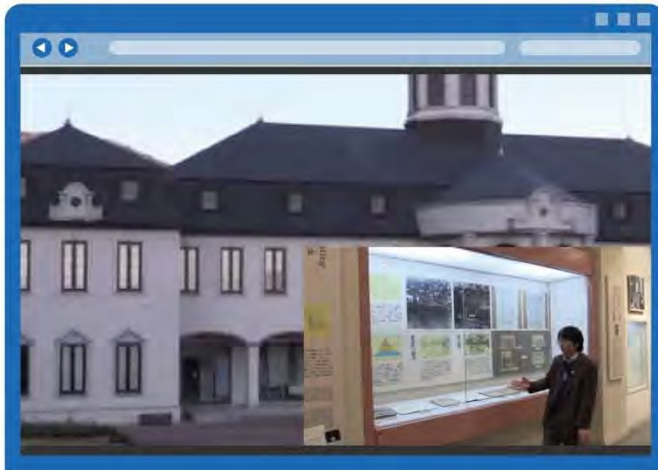
授業計画

- 第1回目 ガイダンス
- 第2回目 異邦人ということ
- 第3回目 モラエスの生涯
- 第4回目 モラエスの時代と同時代人ーラフカディオ・ハーン (小泉八雲)
- 第5回目 モラエスの時代と同時代人ージョーゼフ・コンラッド
- 第6回目 モラエス顕彰の概観ー戦前と戦後
- 第7回目 モラエスの著作
- 第8回目 徳島のモラエス
- 第9回目 モラエスの徳島
- 第10回目 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所1
- 第11回目 『徳島の盆踊り』とゆかりの場所2
- 第12回目 『おヨネとコハレ』1
- 第13回目 『おヨネとコハレ』2
- 第14回目 『日本精神』と異邦人のまなざし1
- 第15回目 『日本精神』と異邦人のまなざし2
- 第16回目 定期試験 (レポート)

科目名称



日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 —四国の収容所を中心に—



単位数

2

担当教員

井戸 慶治 (徳島大学)

授業計画

- 第1回目 導入。板東を訪れる。
- 第2回目 日独交流史概略。幕末から第一次世界大戦まで。
- 第3回目 ドイツによる租借地青島の経営と日本軍の青島攻略。
- 第4回目 九州の収容所（久留米、福岡、熊本、大分）
- 第5回目 中国・近畿の収容所（姫路、青野原、似島、大阪）
- 第6回目 関東・東海の収容所（名古屋、静岡、東京、習志野）
- 第7回目 松山収容所。日清・日露戦争の捕虜も松山に。所長はカナブン？
- 第8回目 丸亀収容所。音楽活動と盛況の展覧会。
- 第9回目 徳島収容所。収容所新聞『トクシマ・アンツァイガー』
- 第10回目 板東収容所（1）。収容所新聞『ディ・バラッケ』。活発な音楽活動。
- 第11回目 板東収容所（2）。美術工芸展覧会。スポーツと遠足。
- 第12回目 日本に関わった元捕虜。ポーネルとマイスナー。
- 第13回目 帰国の経緯と船内新聞『帰国航』。交流の復活。
- 第14回目 捕虜待遇の歴史（世界と日本）
- 第15回目 捕虜待遇の歴史（捕虜と「武士道」）
- 第16回目 定期試験（レポート）

科目名称



現代科学と研究倫理

単位数

2

担当教員

金西 計英 (徳島大学)

授業計画

- 第1回目 研究倫理の進め方(ガイダンス)
- 第2回目 現代社会における科学技術
- 第3回目 研究と不正行為
- 第4回目 生命科学系の研究と倫理
- 第5回目 臨床(医療系)研究と倫理
- 第6回目 心理学系の研究と倫理
- 第7回目 社会科学系の研究と倫理
- 第8回目 工学系の研究と倫理Ⅰ
- 第9回目 工学系の研究と倫理Ⅱ
- 第10回目 動物を扱う研究と倫理
- 第11回目 研究ノートとデータ管理の実践
- 第12回目 出版の倫理と論文
- 第13回目 知的財産権
- 第14回目 企業と研究倫理
- 第15回目 科学技術と倫理
- 第16回目 定期試験(レポート)

科目名称



大学の知の活用



単位数

2

 担当教員

織田 聡 (徳島大学)

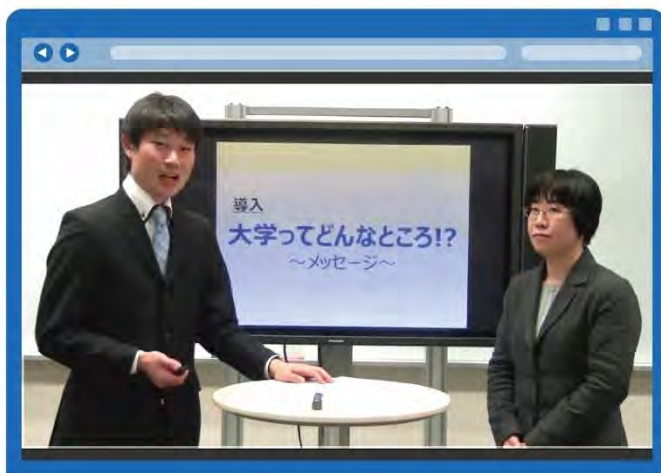
授業計画

- 第1回目 大学の知の活用の全体像
- 第2回目 大学の知の活用に必要な基礎知識①
- 第3回目 大学の知の活用に必要な基礎知識②
- 第4回目 大学の知の活用に必要な基礎知識③
- 第5回目 大学の知の活用に必要な基礎知識④
- 第6回目 大学の地域貢献
- 第7回目 四国地域における大学の知の活用に関する取組①
- 第8回目 四国地域における大学の知の活用に関する取組②
- 第9回目 文系領域の産学連携プロジェクト
- 第10回目 コンソーシアムからの産学連携プロジェクト
- 第11回目 高知大学における産学連携事例 1
- 第12回目 高知大学における産学連携事例 2
- 第13回目 (徳島の事例) 怒りのブレイクスルーより光のブレイクスルーへ
- 第14回目 バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携①
- 第15回目 バイオ・医薬分野の知的財産制度と産学連携②

科目名称



大学教育を考える



単位数

2

担当教員

吉田 博（徳島大学）

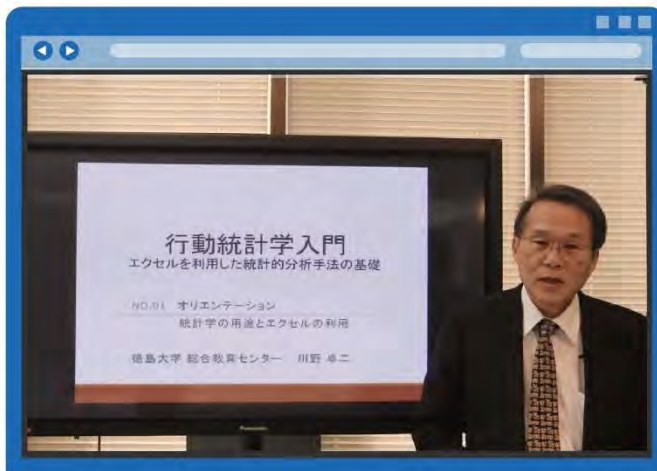
授業計画

- 第1回目 ガイダンス，大学生へのメッセージ
- 第2回目 大学生が4年間で身につける力とはなにか：学士力を考える
- 第3回目 単位制度とはなにか：大学のカリキュラムを考える
- 第4回目 初年次教育はなぜ必要か：その役割を考える
- 第5回目 教養教育はなぜ必要か：その役割を考える
- 第6回目 学生の学びを促進する授業とはなにか：アクティブ・ラーニングを考える
- 第7回目 大学生は学んでいるか：大学生の学習時間を考える
- 第8回目 大学図書館が教育には果たす役割とはなにか：図書館の学習支援を考える
- 第9回目 大学における学生支援とはなにか：正課外の学びを考える
- 第10回目 成績評価とはなにか：公正な評価に向けた課題を考える
- 第11回目 授業評価アンケートの果たす役割とはなにか：大学の教育改善を考える
- 第12回目 大学教員に必要な学びとはなにか：FDを考える
- 第13回目 大学を取り巻く動向を考える：①国内外の高等教育政策の動向
- 第14回目 大学を取り巻く動向を考える：②障がい学生に対する支援
- 第15回目 大学を取り巻く動向を考える：③大学教育におけるジェンダー
- 第16回目 定期試験（レポート）

科目名称



行動統計学入門



単位数

2

担当教員

川野 卓二 (徳島大学)

授業計画

- 第1回目 オリエンテーション、統計学の用途とエクセルの利用
- 第2回目 データの記述：整理法、表示法、図示法
- 第3回目 データの理解、代表値、散布度
- 第4回目 データの分布と変換
- 第5回目 データの集計：単純集計、クロス集計
- 第6回目 データの関連、相関
- 第7回目 記述統計から推測統計へ 確率分布の利用（1）
- 第8回目 推定と検定 確率分布の利用（2）
- 第9回目 統計的検定の手順
- 第10回目 t 検定の利用
- 第11回目 U 検定、T 検定の利用
- 第12回目 カイ2乗検定の利用
- 第13回目 相関係数の利用
- 第14回目 ファイ係数の利用
- 第15回目 統計手法適用の問題点と留意点

科目名称



徳島で暮らす・徳島で働くを考える



単位数

1

担当教員

川崎 克寛 (徳島大学)

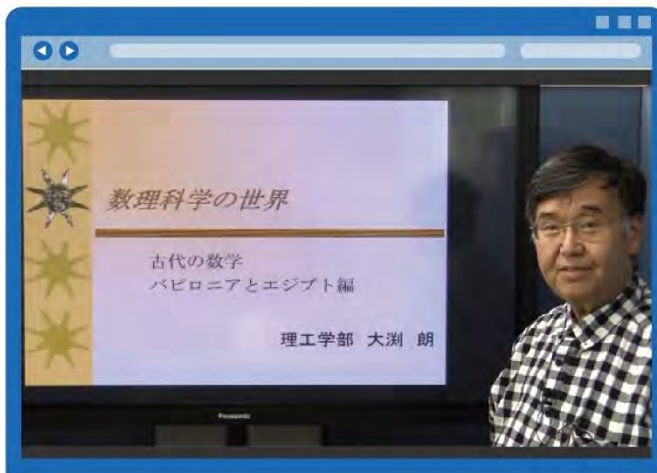
授業計画

- 第1回 徳島県の将来ビジョン (知事講演)
- 第2回 徳島の地域づくりと観光産業
- 第3回 徳島の地域医療と福祉の仕事
- 第4回 徳島の次世代技術関連産業の展望
- 第5回 徳島の6次産業化の取り組みと農林水産業の展望
- 第6回 徳島のICTと地域産業
- 第7回 徳島県の山海エリアで働く (パネルディスカッション)
- 第8回 徳島県の強みと成長産業 + 総括

科目名称



数理科学の世界



単位数

2

担当教員

大淵 朗 (徳島大学)

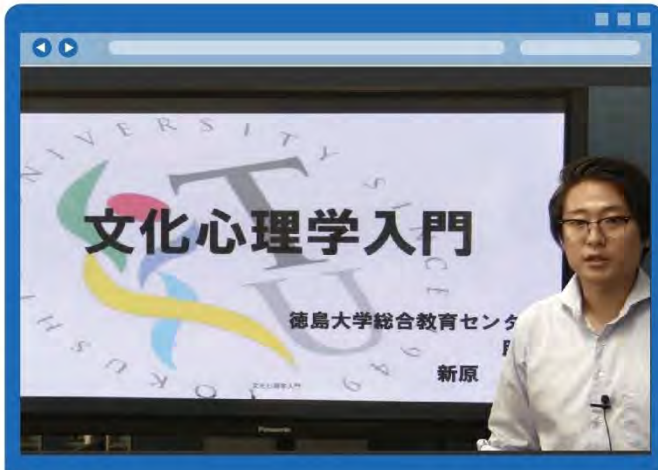
授業計画

- 第1回目 古代バビロニアの数学と古代エジプトの数学
- 第2回目 最初の女性数学者とアラビアの数学
- 第3回目 音楽と数学
- 第4回目 絵画の中の数学
- 第5回目 ケプラーの宇宙観
- 第6回目 ルイス・キャロル
- 第7回目 ピュタゴラス
- 第8回目 悪魔とサイモン・フラッグ
- 第9回目 中国の数学と日本の塵劫記
- 第10回目 和算と算額
- 第11回目 数学史のなかの女性
- 第12回目 対数の発見と計算の道具
- 第13回目 ゲームの数学
- 第14回目 スナーク狩り
- 第15回目 チューリングマシン
- 第16回目 期末試験

科目名称



文化心理学入門



単位数

1

担当教員

川野 卓二 (徳島大学)

授業計画

- 第1回目 「科学的方法」ってなに？ -心の社会・文化・歴史性-
- 第2回目 「個人」と「社会」はどちらが先か？ -ピアジェとヴィゴツキーの考え方-
- 第3回目 「道具」は何を変える？ -「媒介された行為」の概念-
- 第4回目 実験室は「真空」か？ -心理学実験の生態学的妥当性-
- 第5回目 世界がヒトに「語りかけてくる」？ -生態学的心理学とアフォーダンス-
- 第6回目 学習は「獲得」か？ -状況的学習論-
- 第7回目 学校はなにを教えるのか？ -学校教育への社会・文化的アプローチ-
- 第8回目 大人は子どもになにができる？ -ポストモダンの発達支援-

科目名称



外国人と四国遍路の歴史



単位数

1

担当教員

モートン 常慈 (徳島大学)

授業計画

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回目 | ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)、外国人遍路についての研究 |
| 第2回目 | 19世紀後期～20世紀初期 |
| 第3回目 | 20世紀初期～1960年代 |
| 第4回目 | 1960年代～2007年 |
| 第5回目 | 2007年～現在 |
| 第6回目 | 様々な問題 (Part 1) |
| 第7回目 | その他の課題や問題 (Part2) |
| 第8回目 | 巡礼道と世界遺産 |
| 第9回目 | 期末レポート |

科目名称



学校教員の世界



単位数

2

担当教員

竹口 幸志（鳴門教育大学）

宮下 晃一（鳴門教育大学）

授業計画

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 学校教員になるための準備
- 第3回目 学校教員と子どもの取り組みについて
- 第4回目 学校教員の自己研鑽
- 第5回目 学校教員と家庭の両立
- 第6回目 教科教育学 数学教育の今と今後
- 第7回目 養護教諭の世界
- 第8回目 特別支援学校における試み
- 第9回目 教科教育学 保健体育の授業
- 第10回目 教科教育学 外国語（英語）の授業
- 第11回目 教科教育学 音楽の授業
- 第12回目 教科教育学 技術家庭科の授業
- 第13回目 幼稚園教諭の1日
- 第14回目 比較教育 他国の教育と日本の教育
- 第15回目 まとめ

科目名称



阿波学



単位数

1

担当教員

藤原 伸彦 (鳴門教育大学)

宮下 晃一 (鳴門教育大学)

竹口 幸志 (鳴門教育大学)

授業計画

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 四国遍路と俳句の心理学
- 第3回目 四国遍路と地理
- 第4回目 四国遍路に関する歴史 (近世)
- 第5回目 歩き遍路と教育 (1)
- 第6回目 歩き遍路と教育 (2)
- 第7回目 歩き遍路と教育 (3)
- 第8回目 まとめ

科目名称



自動車概論

クラッチは、なぜ必要なのか？

(理由①)
エンジンが動いている状態で、自動車を停車させるため。

停車中においても、エンジンは数百回転以上の回転数でクランクシャフトを回転させている。一方、停車中の自動車の車輪は回転していない。そのために、両者を切り離す仕組みが必要になる。

単位数

1

担当教員

宮下 晃一 (鳴門教育大学)

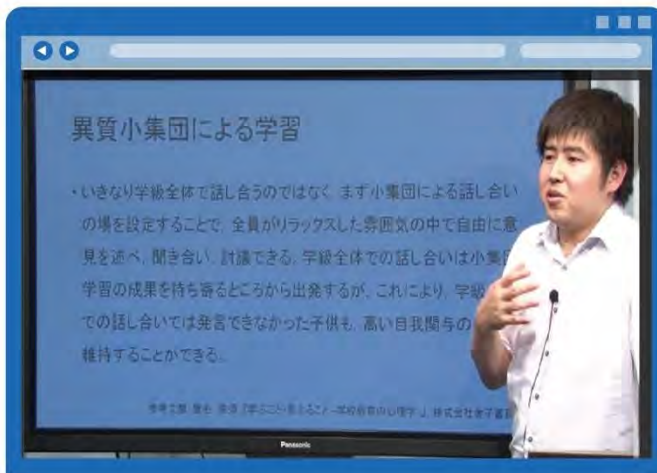
授業計画

- 第1回目 授業の概要 自動車技術の歴史と社会
- 第2回目 自動車の構造 (エンジン) その1
- 第3回目 自動車の構造 (エンジン) その2
- 第4回目 自動車の構造 (クラッチ, 変速機)
- 第5回目 自動車の構造 (差動歯車, サスペンション, タイヤ)
- 第6回目 自動車の構造 (ステアリング, ブレーキ)
- 第7回目 最近の技術動向と自動車社会の行方
- 第8回目 日常の点検・整備, ドライバーの責任と義務

科目名称



子どもと学校



単位数

2

担当教員

竹口 幸志 (鳴門教育大学)

授業計画

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 学校の歴史 - 西洋の学校 -
- 第3回目 学校の歴史 - 日本の学校 -
- 第4回目 学校の機能と特性
- 第5回目 徳島の教育史 1
- 第6回目 徳島の教育史 2
- 第7回目 子どもの発達について
- 第8回目 子どもという存在について
- 第9回目 家族の中の子ども
- 第10回目 子どもの集団
- 第11回目 子どもと学校の出会い
- 第12回目 学校臨床
- 第13回目 社会の中野学校
- 第14回目 問題の再定義と対応策の検討
- 第15回目 まとめ

科目名称



情報社会の暮らし



単位数

2

担当教員

竹口 幸志（鳴門教育大学）

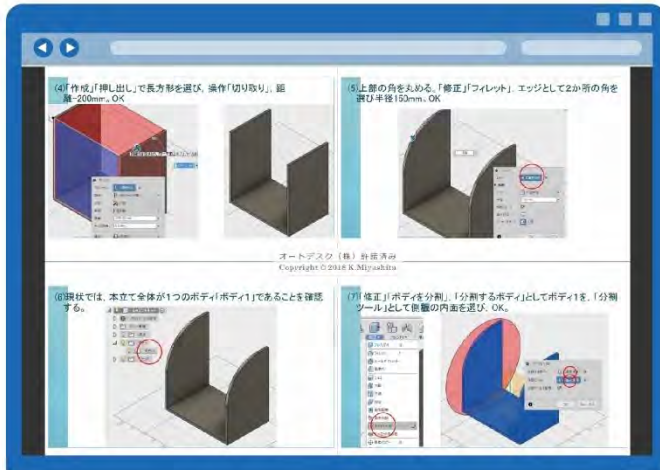
授業計画

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 情報社会とは
- 第3回目 情報技術の発達と動向
- 第4回目 情報産業の発達と動向
- 第5回目 情報社会における組織の変容
- 第6回目 情報化による文化の変容
- 第7回目 情報化が人間に及ぼす影響
- 第8回目 情報と教育
- 第9回目 知的財産権の保護と知的財産政策
- 第10回目 著作権の保護制度
- 第11回目 個人情報の保護とライフログビジネス
- 第12回目 セキュリティとサイバー犯罪
- 第13回目 法的責任、信頼性と安全性の問題
- 第14回目 情報と倫理
- 第15回目 まとめ

科目名称



デジタルものづくり入門



単位数

1

担当教員

宮下 晃一 (鳴門教育大学)

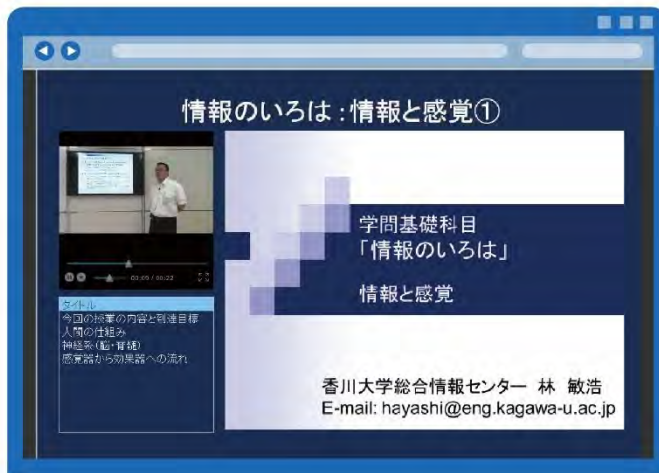
授業計画

- 第1回目 授業の進め方。デジタルものづくりの概要。
- 第2回目 工作機械における自動化の歴史。産業分野における生産活動のグローバル化。
- 第3回目 コンピュータ制御された工作機械 (3D プリンタ, レーザー加工機, NC 工作機械)
- 第4回目 3D-CAD 演習・1
- 第5回目 3D-CAD 演習・2
- 第6回目 3D-CAD 演習・3
- 第7回目 インターネット上にある CAD データの活用
- 第8回目 課題製作

科目名称



情報のいろは



単位数

2

担当教員

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 講義ガイダンス、「情報のいろは」で何を学ぶか？
- 第2回目 情報と感覚
- 第3回目 情報と知覚・認知
- 第4回目 情報と感性
- 第5回目 情報の表現(1) 情報と2進数
- 第6回目 情報の表現(2) 様々なメディアの表現
- 第7回目 情報の圧縮
- 第8回目 情報のエラー処理
- 第9回目 情報理論
- 第10回目 情報の探索
- 第11回目 情報と手続き
- 第12回目 コンピュータと情報(1) 論理演算
- 第13回目 コンピュータと情報(2) 算術演算
- 第14回目 情報と社会(1) インタネットの世界
- 第15回目 情報と社会(2) インタネットの光と影

科目名称



地域コンテンツと知財管理 その1



単位数 1

担当教員

林 敏浩 (香川大学)
藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)
発明の保護その1 (法目的, 特許を受ける権利)
- 第2回目 発明の保護その2 (特許出願)
- 第3回目 発明の保護その3 (特許権の活用)
- 第4回目 発明の保護その4 (係争対策)
- 第5回目 罰則・雑則, これまでの復習
- 第6回目 ブランドの保護
- 第7回目 知財管理と周辺領域 (外国出願, 実用新案)
- 第8回目 期末レポート

科目名称



地域コンテンツと知財管理 その2



単位数 1

担当教員

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)
知財法の体系, 知財管理の基礎
- 第2回目 インターネットとデジタルコンテンツ
- 第3回目 コンテンツの保護その1 (著作物と著作者)
- 第4回目 コンテンツの保護その2 (著作者の権利)
- 第5回目 コンテンツの保護その3 (著作隣接権, 保護期間, 侵害対応)
- 第6回目 デザインの保護
- 第7回目 知財管理と周辺領域 (知財法比較, 練習問題)
- 第8回目 期末レポート

科目名称



香川を学ぶ その1

単位数

1

担当教員

藤本 憲市 (香川大学)

林 敏浩 (香川大学)

香川を学ぶ その1: 香川の手袋産業①

手袋産業界の動き

- ▶ 前回の手袋産業の講義では歴史から現在にいたる様々な取組みを説明。
- ▶ その動きは海外生産だけでなく、原材料や販売、また新たな手袋の価値を創造しようと積極的な事業展開がなされていた。
- ▶ 今回の講義も手袋産業界の積極的な事業展開をみていく。

授業計画

- 第1回目 ガイダンス (授業概要等), 栗林公園の美と歴史
- 第2回目 讃岐の盆栽
- 第3回目 讃岐の伝統食
- 第4回目 瀬戸内海運の歴史
- 第5回目 文化財と観光資源論
- 第6回目 香川の手袋産業
- 第7回目 大学と地場産業との連携
- 第8回目 期末レポート

科目名称



香川を学ぶ その2



単位数

1

担当教員

藤本 憲市 (香川大学)

林 敏浩 (香川大学)

授業計画


- 第1回目 ガイダンス (授業概要等), 香川の国際協力団体によるラオスでの支援活動
- 第2回目 まちづくりの事例
- 第3回目 香川の水を考える
- 第4回目 瀬戸内海と瀬戸内法
- 第5回目 里海を守り育てる人と法
- 第6回目 ゲリラ豪雨等災害と避難のシミュレーション
- 第7回目 風水害と対策
- 第8回目 期末レポート

科目名称




瀬戸内地域活性化政策 その1

瀬戸内地域活性化政策 その1:第3回②




H26年度瀬戸内地域活性化プロジェクト
H25年度 せとひい実証マップ
H24年度 せとひい実証マップ
H23年度 瀬戸内地域活性化プロジェクト
かがわ定住促進事業
H26年度香川県連携事業 実証マップ



Copyright © 2015 Tokai University. All Rights Reserved. 25

単位数

 担当教員
清國 祐二（香川大学）

授業計画

第1回目	ガイダンス	
第2回目	瀬戸内地域活性化プロジェクト 概説 1	背景と課題
第3回目	瀬戸内地域活性化プロジェクト 概説 2	各プロジェクトの取組
第4回目	瀬戸内地域活性化プロジェクト 概説 3	各プロジェクトの取組、様々な地域活性化策
第5回目	地方公共団体の組織と財政 1	
第6回目	地方公共団体の組織と財政 2	
第7回目	地方創生と地域活性化	

科目名称



瀬戸内地域活性化政策 その2

瀬戸内地域活性化政策 その2:第1回①

瀬戸内地域活性化政策 (その2)

第1講 ガイダンス
地域活性化政策1
産業振興政策

地域マネジメント研究科
村山 卓

目次

- 前回の復習
- 自治体が抱える課題
- 市町村の輸入構造の変化
- 市町村の性質別輸出の構造変化
- 高齢化
- 防災・安全・インフラ強化対策

単位数

1

担当教員

清國 祐二 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス、地域活性化政策1 産業振興政策
- 第2回目 地域活性化政策2 観光振興政策
- 第3回目 地域活性化政策3 離島振興政策
- 第4回目 地域活性化政策4 中心市街地活性化政策
- 第5回目 地域活性化政策5 地域福祉政策
- 第6回目 地域活性化政策6 その他の地域活性化政策
- 第7回目 地域活性化と人材力

科目名称



瀬戸内海論 その1



単位数

1

担当教員

原 直行 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 講義の概要・沿岸海域の物質輸送－1
- 第2回目 沿岸海域の物質輸送－2
- 第3回目 赤潮と被害防止－1
- 第4回目 赤潮と被害防止－2
- 第5回目 里海としての瀬戸内海
- 第6回目 瀬戸内海と瀬戸内法
- 第7回目 里海を守り育てる人と法
- 第8回目 期末レポート課題

科目名称



瀬戸内海論 その2

瀬戸内海論その2:瀬戸内海の海域環境①



瀬戸内海

長さ 約500 km
幅 約5~50 km
面積 約17,000km²
平均水深 30m

沿岸河川流域に約3,400万人
全国工業出荷額の約30%

閉鎖性水域

四方を囲まれ、1が最大の内海
外洋とは豊後水道、紀伊水道、関門海峡の三海峡で接する……極めて閉鎖性が強い

タイトル
瀬戸内海
「瀬戸内海」の位置
瀬戸内海
世界一の海産量を誇る海
瀬戸内海と関係する地域の区域(豊後海峡)
瀬戸内海と関係する地域の区域(水産庁)
瀬戸内海の水産回
瀬戸内海の水産回
瀬戸内海の水産回
高松港

単位数

1

 担当教員

原 直行 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 瀬戸内海と海域環境
- 第2回目 瀬戸内海の浅海環境の抱える問題
- 第3回目 干潟の環境－1
- 第4回目 干潟の環境－2
- 第5回目 干潟の藻類
- 第6回目 四国の雨の変化と地球温暖化
- 第7回目 里海と地域活性化
- 第8回目 期末レポート課題

科目名称



香川の文化と歴史 その1

祭礼行事: 1. 瀬戸内の祭り文化の研究

③尾崎明男『太鼓台の『原風景』』『小豆島の秋祭り 太鼓台』2007
 観音寺太鼓台研究グループ『太鼓台文化の歴史』2013
 ・瀬戸内海 = 「太鼓台文化圏」

太鼓台の分類

- ・檜型太鼓台
- ・四本柱型太鼓台
- ・平天井(格天井)型太鼓台
- ・屋根型太鼓台
 (丸屋根型、切妻・破風屋根型、神輿屋根型)
- ・箱型太鼓台
 (本物箱型、鉢巻箱型、幹箱型)
- ・その他
 (屋根型と箱型の折衷、造り屋根型など)

単位数 1

 担当教員

原 直行 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 香川の歴史
- 第2回目 香川における文化振興の現状を理解する
- 第3回目 香川にゆかりのある芸術とアーティスト (1)
- 第4回目 香川にゆかりのある芸術とアーティスト (2)
- 第5回目 里海里山文化について
- 第6回目 祭礼行事 (1)
- 第7回目 祭礼行事 (2)
- 第8回目 魚食文化について

科目名称



香川の文化と歴史 その2



単位数

1

担当教員

原 直行 (香川大学)

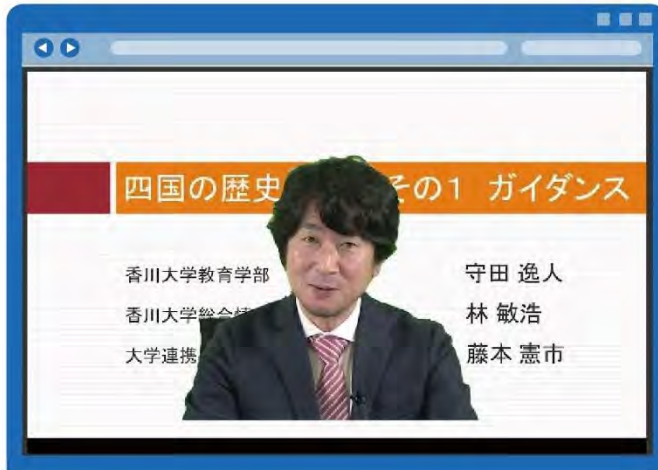
授業計画

- 第1回目 離島と離島振興について理解する
- 第2回目 景観論の観点から瀬戸内地域を概観する
- 第3回目 瀬戸内の漁労文化と島の暮らし
- 第4回目 小豆島の事例
- 第5回目 直島の事例
- 第6回目 瀬戸内国際芸術祭①
- 第7回目 瀬戸内国際芸術祭②
- 第8回目 瀬戸内国際芸術祭③

科目名称



四国の歴史と文化 その1 歴史編



単位数

1

担当教員

守田 逸人 (香川大学)

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス (授業概要、受講方法等について)、平安末阿波武士と仏教文化
- 第2回目 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略 (1)
- 第3回目 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略 (2)
- 第4回目 屋島合戦にいたる源平両軍の軍略 (3)
- 第5回目 中世の瀬戸内海水運 (1)
- 第6回目 中世の瀬戸内海水運 (2)
- 第7回目 阿波商人の活躍と江戸時代の経済
- 第8回目 期末レポート (オンライン)

科目名称



四国の歴史と文化 その2 文化編

四国の歴史と文化その2: 物理学者・寺田寅彦の文学①

香川大学 e-learning システム 四国
「四国史」(香川大学)

物理学者・寺田寅彦の文学

高知県立文学館学芸員 永橋 穂子

■目次

寺田寅彦について
 彼を指した作品
 寅彦の連句
 ・連句とは
 ・寅彦の連句論
 ・さまざまな読み
 ① 連句と時間の進行
 ② 奇妙な連句

物理学と文学
 ・物理学者 寅彦
 ・文学の可能性
 ① 世界の始原
 ② 無類の変化
 ③ 言葉の連句

寺田寅彦
(学月報的、高知県立文学館)

添付資料

- 寺田寅彦について
- 寺田寅彦の年表①
- 寺田寅彦の年表②
- 寺田寅彦の年表③
- 彼を指した作品
- 「化物の進化」
- 寅彦の連句

単位数

1

担当教員

渡邊 史郎 (香川大学)

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス、四国の文化に向けて
- 第2回目 四国の万葉集と古代史
- 第3回目 石碑の持つ意味——屋島の石碑を題材に——
- 第4回目 物理学者・寺田寅彦の文学
- 第5回目 黒島傳治と壺井栄におけるプロレタリア文学の側面
- 第6回目 菊地寛について
- 第7回目 愛媛を歩く——方言の旅——
- 第8回目 期末レポート (オンライン)

科目名称



四国の自然環境と防災 その1



単位数

1

担当教員

寺尾 徹 (香川大学)

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

第1部：四国の自然環境

- (1) ガイダンス・ため池の歴史
- (2) 四国の河川環境と暮らし・防災
- (3) 四国の気候と水資源
- (4) 讃岐の地形と地質の面白さ

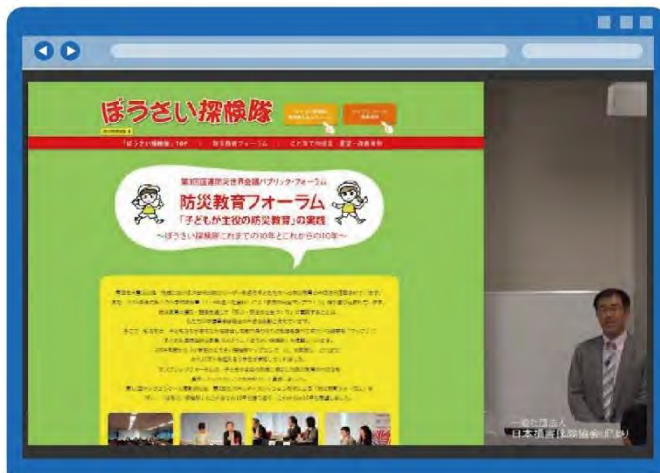
第2部：瀬戸内と土佐の海洋と環境

- (5) 瀬戸内海の自然と景観 (仮題)
- (6) 瀬戸内海の浅海環境の抱える問題
- (7) 黒潮と土佐の海の環境学
- (8) 期末レポート

科目名称



四国の自然環境と防災 その2



単位数

1

担当教員

寺尾 徹 (香川大学)

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

第3部：災害に備える

- (1) ガイダンス・子どもぼうさい探検隊を通じた防災教育活動
- (2) 四国の大地の成り立ちから学ぶ自然災害
- (3) 先人の教えに学ぶ ―四国防災 88 話―
- (4) 災害と交通インフラ ―四国の防災対策―

第4部：持続可能な自然と社会

- (5) ジオパークは人を幸せにできるのか
- (6) 持続可能な社会づくりのための環境教育 ①
- (7) 持続可能な社会づくりのための環境教育 ②
- (8) 期末レポート

科目名称



四国の地域振興 その1

四万十川の今と昔①

四万十川の今と昔

原 直行
(香川大学経済学部)

目次

- 0. 導入(1)四万十川の位置・流域
- (2)今日の讃岐のクマツ
- 1 昭和40年代以前の四万十川(1)林業生産
- (2)輸送手段としての四万十川
- 谷林軌道

単位数

1

担当教員

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス：「四国の地域振興 その1」で何を学ぶか？
- 第2回目 讃岐のハマチ養殖と野網和三郎
- 第3回目 讃岐うどん
- 第4回目 香川の手袋産業
- 第5回目 香川の石材産業
- 第6回目 高知の林業と製造業
- 第7回目 動画による地域のPR
- 第8回目 四万十の今と昔

科目名称



四国の地域振興 その2



単位数

1


担当教員

林 敏浩 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス：「四国の地域振興 その2」で何を学ぶか？
- 第2回目 文化力とまちづくり
- 第3回目 地域振興とメディア
- 第4回目 アートとエコツーリズム
- 第5回目 共同体の崩壊
- 第6回目 四国四県の政治経済の歴史
- 第7回目 四国の展望 ―四県知事インタビュー―
- 第8回目 四国の展望 ―四県知事インタビュー―

科目名称
 コンピュータと教育 その1



単位数 1

担当教員
 林 敏浩 (香川大学)

 授業計画

- 第1回目 講義ガイダンス：「コンピュータと教育 その1」の講義で何を学ぶか？
- 第2回目 e-Learning でいかに学ぶか？
- 第3回目 遠隔講義でいかに学ぶか？
- 第4回目 ICTを活用した教育・学習支援（1）：CAI(Computer Assisted Instruction) 概説
- 第5回目 ICTを活用した教育・学習支援（2）：CAIシステムの歴史と新しい教育システム
- 第6回目 ICTを活用した教育・学習支援（3）：知的CAI 概説
- 第7回目 トピックス：四国におけるe-Learningによる教育連携
- 第8回目 トピックス：MOOCs

科目名称



コンピュータと教育 その2



単位数

1

担当教員

林 敏浩 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 講義ガイダンス：「コンピュータと教育 その2」の講義で何を学ぶか？
- 第2回目 教育・学習支援システム（1）：フレーム型システム
- 第3回目 教育・学習支援システム（2）：ドリル&プラクティス型 CAI システム
- 第4回目 教育・学習支援システム（3）：ゲーム&シミュレーション型システム
- 第5回目 教育・学習支援システム（4）：アドリブ型・情報検索型・質問応答型システム
- 第6回目 高度教育・学習支援システム（1）：知的 CAI システム
- 第7回目 高度教育・学習支援システム（2）：いろいろな高度教育システム
- 第8回目 高度教育・学習支援システム（3）：協調学習支援システム

科目名称



人工魚礁の開発と環境保全



単位数

1

担当教員

末永 慶寛 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 ガイダンス (授業内容の概要説明を含む)、人工魚礁開発の歴史
- 第2回目 人工魚礁の安定性
- 第3回目 人工魚礁の流動制御機能
- 第4回目 人工魚礁の生物集集機能
- 第5回目 人工魚礁の藻場造成機能
- 第6回目 人工魚礁の環境改善機能
- 第7回目 大学と地場産業との連携による実用化の事例
- 第8回目 期末レポート

科目名称



高度情報化社会の歩き方



単位数

1

担当教員

後藤田 中 (香川大学)

藤本 憲市 (香川大学)

授業計画

- 第1回目 人工知能による創作
- 第2回目 著作物の円滑な利用について
- 第3回目 AIにより置き換わる仕事・進化する体
- 第4回目 広がるIoT・迫るセキュリティ脅威
- 第5回目 スポーツにICTを適用する
- 第6回目 暗号とセキュリティ
- 第7回目 学習するコンピュータ
- 第8回目 期末レポート


科目名称



タンパク質で生命を斬る



単位数 2

 担当教員
坪井 敬文 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 オリエンテーション：タンパク質はマラリアを無くす切り札
- 第2回目 タンパク質の発現システムを操る
- 第3回目 バイオの世界を変える技術イノベーション：コムギ胚芽無細胞タンパク質合成法
- 第4回目 無細胞系を使って膜輸送体タンパク質をつくる 1
- 第5回目 無細胞系を使って膜輸送体タンパク質をつくる 2
- 第6回目 治療薬の半数は細胞膜受容体を標的とする 1
- 第7回目 治療薬の半数は細胞膜受容体を標的とする 2
- 第8回目 光合成のしくみと新エネルギーへの応用 1
- 第9回目 光合成のしくみと新エネルギーへの応用 2
- 第10回目 光合成のしくみと新エネルギーへの応用 3
- 第11回目 タンパク質の機能を制御し植物の性能をアップ 1
- 第12回目 タンパク質の機能を制御し植物の性能をアップ 2
- 第13回目 ウイルスは宿主のタンパク質をハイジャックする 1
- 第14回目 ウイルスは宿主のタンパク質をハイジャックする 2
- 第15回目 マラリアは巧みにタンパク質を操って感染する

科目名称



ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり



単位数

1

担当教員

村上 恭通 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 人間と金属の出会い
- 第2回目 鉱石製錬のはじまり
- 第3回目 鉄の起源
- 第4回目 鉄製品の普及
- 第5回目 東アジアにおける金属文化の幕開け—中国を中心に—
- 第6回目 中国の青銅器文化と鉄器文化
- 第7回目 青銅と鉄—朝鮮半島から日本へ—
- 第8回目 技術復元から金属生産を考える

科目名称



大学生のための『安全・安心』の基礎講座



単位数

2

担当教員

田中 寿郎 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 安心に暮らすためにできること
- 第2回目 身近にある危険・有害物 (I)
- 第3回目 身近にある危険 (感染症) (II)
- 第4回目 人体への影響
- 第5回目 安全とリスクについて
- 第6回目 ヒューマンエラーを防ごう
- 第7回目 個人にできること (I) 倫理・不正防止
- 第8回目 個人にできること (II) 危険感受性
- 第9回目 組織としての対応 (I) CSR
- 第10回目 組織としての対応 (II) 安全管理
- 第11回目 組織としての対応 (III) リスクアセスメント
- 第12回目 組織としての対応 (IV) 健康管理
- 第13回目 コンプライアンス
- 第14回目 危機に際してどう行動するか
- 第15回目 リスク管理と危機管理


科目名称



太陽光利用型植物工場における知的農作物生産



単位数

 担当教員
高山 弘太郎 (愛媛大学)

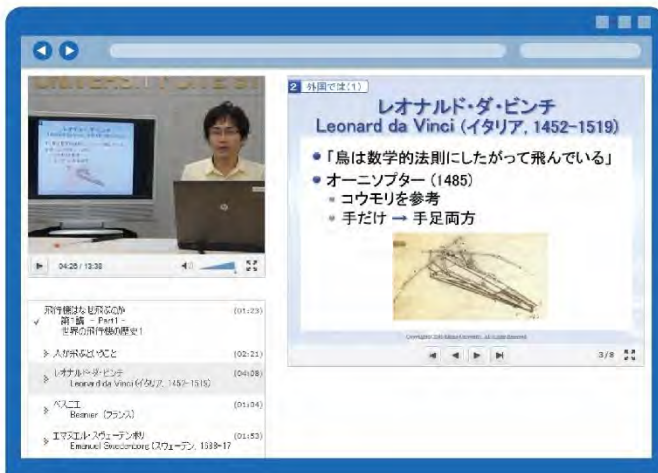
授業計画

- 第1回目 オリエンテーション：植物工場の概略
- 第2回目 光合成と蒸散の基本
- 第3回目 生体情報に基づいた環境制御
- 第4回目 温室環境制御 1
- 第5回目 温室環境制御 2
- 第6回目 温室環境制御 3
- 第7回目 温室環境制御 4
- 第8回目 温室環境制御 5

科目名称



飛行機はなぜ飛ぶのか



単位数

1

担当教員

岩本 幸治 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 世界の飛行機の歴史 1
- 第2回目 世界の飛行機の歴史 2
- 第3回目 日本の飛行機の歴史 1
- 第4回目 日本の飛行機の歴史 2
- 第5回目 飛行機にかかる力
- 第6回目 翼理論
- 第7回目 エンジン、二宮翔会の紹介
- 第8回目 安定性、紙飛行機

科目名称



昆虫と環境

ドメイン	界	門	亜門	綱
真核生物	動物	節足動物	六脚	昆虫
真正細菌	菌	脊索動物	膝角	内類
古細菌	植物	棘皮動物	甲殻	
	原生生物	環形動物	多足	

単位数 1

担当教員

小西 和彦 (愛媛大学)

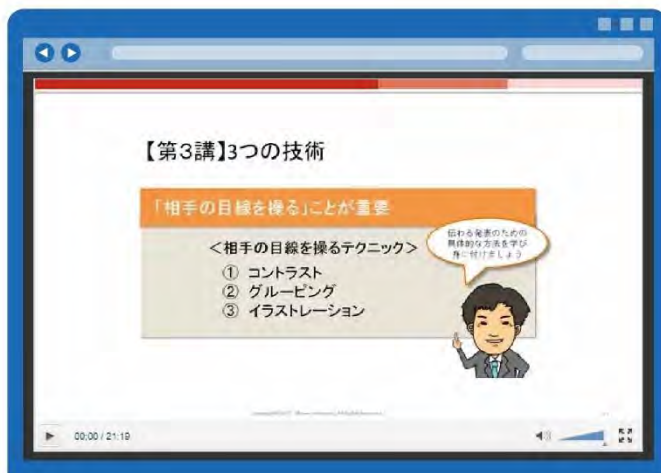
授業計画

- 第1回目 昆虫ってどのようなもの？
- 第2回目 昆虫を分類する。分類とは？
- 第3回目 昆虫にはどんなものがある？昆虫の目（もく）1
- 第4回目 昆虫にはどんなものがある？昆虫の目（もく）2
- 第5回目 昆虫コレクションの紹介—愛媛大学ミュージアム・ツアー
- 第6回目 絶滅危惧種—多様性の損失
- 第7回目 外来種—多様性を脅かす存在
- 第8回目 昆虫の保護と保全—多様性を守ること

科目名称



アカデミック・プレゼンテーション (PowerPoint 編)



単位数

1

 担当教員

仲道 雅輝 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 よいプレゼンテーションの効果
- 第2回目 伝わるプレゼンテーションとは
- 第3回目 3つの技術 (コントラスト・グルーピング・イラストレーション)
- 第4回目 スライドデザインの基本
- 第5回目 伝わるスライドデザイン7つのコツ
- 第6回目 実践演習「スライドデザインの修正」
- 第7回目 パワーポイントの便利技
- 第8回目 まとめ

科目名称



インドネシアの文化と会話



単位数

1

担当教員

島上 宗子 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 インドネシア語を発音してみよう
- 第2回目 自己紹介
- 第3回目 家族の紹介
- 第4回目 こんにちは
- 第5回目 これ、何ですか？
- 第6回目 me 動詞
- 第7回目 数字 (今何時？これいくら？)
- 第8回目 受動態

科目名称



私たちの生活と材料



単位数

1

担当教員

小林 千悟 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 様々な機能を持った材料をどのように作るか？
- 第2回目 無機機能材料の応用
- 第3回目 半導体と有機材料
- 第4回目 磁石の世界
- 第5回目 非晶質材料
- 第6回目 身の回りの金属材料とその塑性変形挙動
- 第7回目 鉱物資源の利用とエネルギー
- 第8回目 熱電変換材料

科目名称



身の回りの放射線

宇宙線による被ばく

アメリカ西海岸のシアトルから成田まで飛行するとどのくらい被ばくするのでしょうか？
シアトルから成田までの飛行ルートを試してみました。

Copyright © 2017 Eliseo Limardo. All Rights Reserved.

単位数

1

担当教員

田中 寿郎（愛媛大学）

授業計画

- 第1回目 放射線はどこから来るのか。
- 第2回目 自然放射線
- 第3回目 放射線計測の原理と測定の実際
- 第4回目 放射線を遮蔽する。
- 第5回目 放射線を使った病気の診断と治療
- 第6回目 放射線による作物の品種改良。
- 第7回目 放射線の高エネルギーをエネルギー源として利用する
- 第8回目 まとめ

科目名称



和算の世界



単位数

1

担当教員

平田 浩一（愛媛大学）

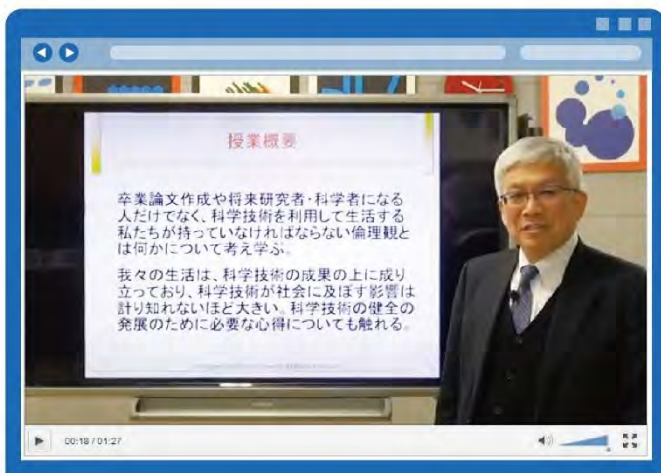
授業計画

- 第1回目 和算とは
- 第2回目 和算の歴史
- 第3回目 油わけ算／ひろいもの
- 第4回目 算木を使ってみよう1
- 第5回目 算木を使ってみよう2
- 第6回目 関孝和
- 第7回目 和算の図形公式
- 第8回目 算額の問題

科目名称



研究倫理



単位数

1

担当教員

田中 寿郎 (愛媛大学)

授業計画

- 第1回目 責任ある研究活動とは
- 第2回目 研究計画を立てる
- 第3回目 研究を進める
- 第4回目 研究成果を発表する
- 第5回目 共同研究をどう進めるか
- 第6回目 研究費を適切に使用する
- 第7回目 科学研究の質の向上に寄与するために
- 第8回目 社会の発展のために

科目名称



サイエンスリテラシーの化学



単位数 2

担当教員
立川 明 (高知大学)

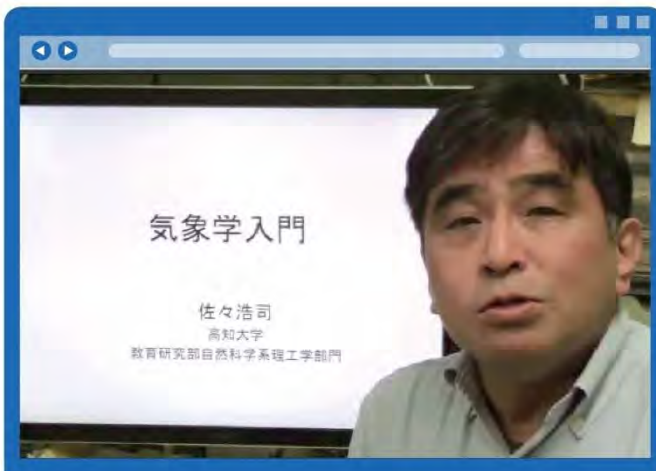
授業計画

- 第1回目 受講の仕方, 化学って何だ?
- 第2回目 真水・お酢・石けん水の違いって?
- 第3回目 衣服は第二の皮膚
- 第4回目 環境にやさしい洗濯
- 第5回目 もっとも身近でもっとも不思議な物質
- 第6回目 生活材料今昔物語
- 第7回目 お料理は化学実験
- 第8回目 生活を彩る驚異の粒子
- 第9回目 化学の力で命を守る
- 第10回目 身の回りには石油製品がいっぱい!
- 第11回目 現代生活を支えるすぐれモノたち
- 第12回目 電気パワーが社会を明るくする
- 第13回目 身の回りの電気製品をカガクする
- 第14回目 物質は自在に変わる
- 第15回目 化学は未来をひらく
- 第16回目 期末試験

科目名称



気象学入門



単位数

2

担当教員

佐々 浩司 (高知大学)

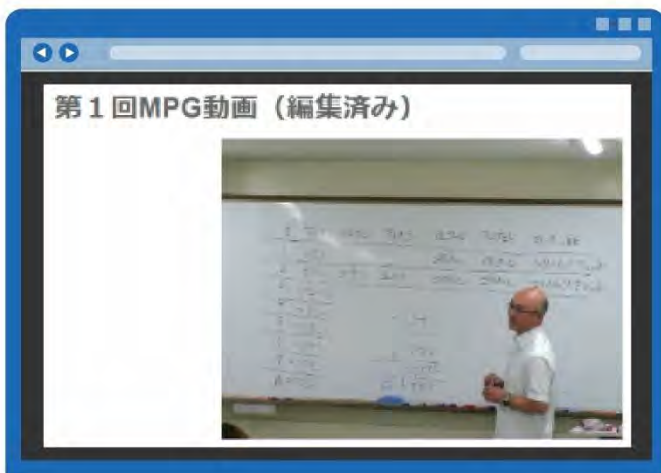
授業計画

- 第1回目 気象の様々なすがた
- 第2回目 天気と気候のとらえかた
- 第3回目 気象の時間的空間的な大きさ
- 第4回目 大気の気温分布と熱のやりとり
- 第5回目 地球規模の流れ
- 第6回目 低気圧と高気圧
- 第7回目 熱帯低気圧：台風
- 第8回目 風の吹き方、局地的な風
- 第9回目 天気図をみてみよう
- 第10回目 雲のできかたと雨
- 第11回目 豪雨
- 第12回目 強風と突風
- 第13回目 竜巻とダウンバースト
- 第14回目 地球温暖化とは
- 第15回目 気候変動と気象災害

科目名称



有機化学概論 初級



単位数 2

担当教員

立川 明（高知大学）

授業計画

- | | |
|-------|----------------------|
| 第1回目 | 受講の仕方（ガイダンス・確認テスト含む） |
| 第2回目 | 有機化学をなぜ学ぶのか |
| 第3回目 | いろいろな有機化合物とその名前 |
| 第4回目 | 有機化合物（分子）のなりたち |
| 第5回目 | 有機化合物のなりたちと基本骨格 |
| 第6回目 | 有機化合物の立体構造 |
| 第7回目 | 化学反応 |
| 第8回目 | 酸と塩基 |
| 第9回目 | アルコールおよびエーテル |
| 第10回目 | アルデヒドおよびケトンの反応 |
| 第11回目 | カルボン酸とその誘導體 |
| 第12回目 | アミン |
| 第13回目 | タンパク質と糖質 |
| 第14回目 | 脂質と核酸 |
| 第15回目 | 医薬品の化学構造 |
| 第16回目 | 期末試験 |

科目名称



海洋基礎生態学



単位数

担当教員
深見 公雄 (高知大学)

授業計画

- 第1回目 受講のガイダンス / I. 「海洋基礎生態学」で何を学ぶのか? / II. 物質循環の概要 (1) 有機物の生産と分解
- 第2回目 II. 物質循環の概要 (2) 有機物の存在形態
- 第3回目 III. 有機物の生産 (1) 植物プランクトン (2) 無機栄養塩
- 第4回目 III. 有機物の生産 (3) クロロフィルaと現存量 (4) 一次生産量と生産力
- 第5回目 III. 有機物の生産 (4) 一次生産量と生産力
- 第6回目 III. 有機物の生産 (5) 新生産と再生産 (6) 測定法 (7) 支配要因
- 第7回目 III. 有機物の生産 (8) 熱水鉱床 / IV. 捕食 (1) 動物プランクトン
- 第8回目 IV. 捕食 (2) 捕食食物連鎖 (3) 従属栄養性微鞭毛虫 (4) 微生物食物連鎖
- 第9回目 V. 有機物の分解 (1) 従属栄養細菌 (2) 現存量 (3) 活性と分解速度 (4) 生体成分の分解
- 第10回目 VI. 海水中に存在する有機物 (1) 溶存態有機物 (DOM)
- 第11回目 VI. 海水中に存在する有機物 (2) 粒状有機物 (POM)
- 第12回目 VII. 沈降粒子による物質の鉛直輸送 (1) 糞粒 (2) 深海への有機物供給 / VIII. 海底堆積物
- 第13回目 IX. 窒素(N)の循環 (1) アンモニア生成 (2) 硝化作用 (3) 硝酸還元・脱窒 (4) 窒素固定 (5) 窒素無機栄養塩の取り込み
- 第14回目 X. リン(P)の循環
- 第15回目 XI. 硫黄(S)の循環 (1) 硫黄化合物の分解 (2) 硫酸塩還元 (3) 硫黄化合物の酸化とイオウ細菌
- 第16回目 期末試験

科目名称



インタフェースデザイン概論



単位数

1

担当教員

三好 康夫 (高知大学)

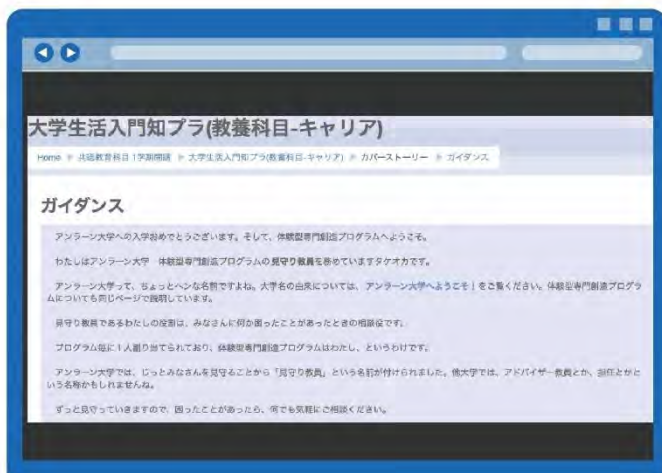
授業計画

- 第1回目 ガイダンス, ヒューマンインタフェースとは
- 第2回目 Web やモバイル端末におけるヒューマンインタフェース
- 第3回目 コミュニケーション支援, インタラクションのデザイン
- 第4回目 情報のデザイン, サイト設計, ユーザビリティ評価
- 第5回目 人間の情報処理モデル, ヒューマンエラー, 人間サイドからの設計
- 第6回目 情報入力系, 情報出力系, インタラクションの拡張
- 第7回目 ユーザのアシスト, ユニバーサルデザイン, 今後のヒューマンインタフェース
- 第8回目 ペーパープロトタイピング, 期末レポート

科目名称



大学生活入門



単位数

2

 担当教員

立川 明 (高知大学)

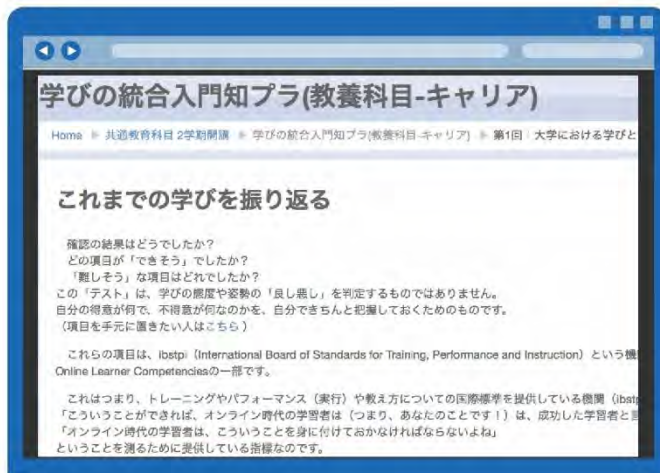
授業計画

- 第1回目 【ブロック1：大学生活の始まり】 入学おめでとう！
- 第2回目 【ブロック1：大学生活の始まり】 新しい環境の探索
- 第3回目 【ブロック1：大学生活の始まり】 先輩の話
- 第4回目 【ブロック2：1年生のスタート】 正課外活動に取り組みたい
- 第5回目 【ブロック2：1年生のスタート】 ディスカッションのできる場所はどこ？
- 第6回目 【ブロック2：1年生のスタート】 友人の訪問（1）
- 第7回目 【ブロック2：1年生のスタート】 ノートをコピーさせて欲しいという依頼
- 第8回目 【ブロック3：2年生から4年生まで】 インターン活動へのアクセス
- 第9回目 【ブロック3：2年生から4年生まで】 図書館からのメール
- 第10回目 【ブロック3：2年生から4年生まで】 友人の訪問（2）
- 第11回目 【ブロック3：2年生から4年生まで】 研究室を決めないと
- 第12回目 【ブロック3：2年生から4年生まで】 就職支援室で情報収集
- 第13回目 【ブロック4：大学生活の終わりに向けて】 卒論の準備（1）
- 第14回目 【ブロック4：大学生活の終わりに向けて】 卒論の準備（2）
- 第15回目 【ブロック4：大学生活の終わりに向けて】 後輩へのアドバイス
- 第16回目 【ブロック5：まとめ】 ストーリーから離れ、自分自身の目標・計画を立てる

科目名称



学びの統合入門



単位数

2

 担当教員

立川 明 (高知大学)

授業計画

- 第1回目 【ブロック1：これまでの学びの方法の振り返り】 大学における学びとは？
- 第2回目 【ブロック2：講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？（1）
- 第3回目 【ブロック2：講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？（2）
- 第4回目 【ブロック2：講義からのインプット】 自分に適したノートの取り方はどういうもの？（3）
- 第5回目 【ブロック2：講義からのインプット】 自分なりのノートの取り方を探る
- 第6回目 【ブロック3：講義以外からのインプット】 一元管理？二元管理？—デジタルツールの使い方
- 第7回目 【ブロック3：講義以外からのインプット】 インターネットを通じて学術情報を得るためには
- 第8回目 【ブロック3：講義以外からのインプット】 収集した学術情報を次に役立てるために
- 第9回目 【ブロック3：講義以外からのインプット】 さまざまな情報をインターネットを通じて得るためには
- 第10回目 【ブロック3：講義以外からのインプット】 収集したさまざまな情報を次に役立てるために
- 第11回目 【ブロック3：講義以外からのインプット】 自分なりの収集情報管理方法を探る
- 第12回目 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】 アイデアを広げるツール
- 第13回目 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】 アイデアを絞り込むツール
- 第14回目 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】 アウトライン作成ツール
- 第15回目 【ブロック4：アウトプットの準備とアウトプット】 作成したレポートについてのレポート
- 第16回目 【ブロック5：まとめ】 ストーリーから離れ、自分自身の学びの行動について振り返る

科目名称



アクティブラーニング入門

アクティブラーニング入門テキスト

このテキストは、将来アカデミックなポジションに着く人、教員になる人だけを対象にしたものではありません。就職して数年後に部下を持つ人、親になる人も対象にしています。私たちは周囲との関わりの中で、世代の交代のために必ず伝えたり教えたりする必要が生じることがあります。そのようなときに使える方法や考え方を学びましょう。

1. 初回の授業にすべきこと

多くの学生は授業を聴くつもりで教室に集まっているわけではありません。まして授業に参加するつもりで来てはいません。そのようなアウェイな状況を一瞬で変えられたら先生も気持ちよく授業ができると思いませんか？

多くの受講生は、授業内容にまったく関心がないわけではありません。でも難しい話を一方的に続けられればいくらがんばっても疲れてしまいます。そんなどんよりムードを一瞬で打ち払って明るくできたら良いと思いませんか？

そんなテクニック：授業の最初にすべきこと、大事なことが伝わっているか確認する方法、全員の意見を知る方法について具体的に紹介します。また、それらの方法をどのように使うのか、基本的

単位数

1

担当教員

立川 明（高知大学）

授業計画

第1回目	オリエンテーション
第2回目	初回の授業ですべきこと
第3回目	授業の最初にすべきこと
第4回目	学生からのフィードバックを得る方法
第5回目	失敗しないグループワークのために
第6回目	勉強の仕方を教える
第7回目	反転授業をやってみよう
第8回目	プレゼンテーションのコツ
第9回目	ICTを使う
補助教材	Tips9 支援の必要な学生に対応した授業の工夫

科目名称



海洋地球科学概論



単位数

2

担当教員

村山 雅史 (高知大学)

授業計画

- 第1回目 地球における海洋の役割
- 第2回目 海はどのように形成されたか？
- 第3回目 海水の性質
- 第4回目 海の循環
- 第5回目 海の循環にともなう物質循環
- 第6回目 海底地形
- 第7回目 海底堆積物の種類Ⅰ
- 第8回目 海底堆積物の種類Ⅱ
- 第9回目 海洋観測（手法，歴史，船の生活）について
- 第10回目 海洋底に記録される環境の記憶
- 第11回目 新生代気候変動「地球寒冷化」
- 第12回目 地球温暖化と海洋酸性化
- 第13回目 プレートテクトニクス
- 第14回目 海底下生命圏の研究
- 第15回目 海底資源（メタンハイドレート）

科目名称



キャリアで活かす IT リテラシー



単位数

1

 担当教員

立川 明 (高知大学)

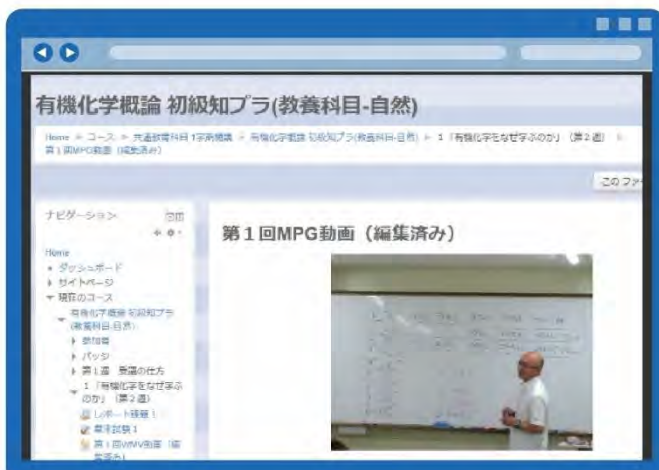
授業計画

- 第1回目 授業概要および準備学修
- 第2回目 ストラテジ系 (前半)
- 第3回目 ストラテジ系 (後半)
- 第4回目 マネジメント系
- 第5回目 前半のまとめテスト
- 第6回目 テクノロジ系 (基礎理論)
- 第7回目 テクノロジ系 (コンピュータシステム)
- 第8回目 テクノロジ系 (技術要素)
- 第9回目 期末試験

科目名称



有機化学概論 中級



単位数

2

 担当教員

立川 明 (高知大学)

授業計画

- | | |
|-------|-------------------|
| 第1回目 | 授業概要および準備 |
| 第2回目 | 有機化学とは何か, 有機化学の基礎 |
| 第3回目 | 化学結合と電子構造 |
| 第4回目 | 電子の動きと共鳴 |
| 第5回目 | 構造式と化合物の分類および命名 |
| 第6回目 | シーストランス異性と立体配置 |
| 第7回目 | キラル炭素と鏡像異性体 |
| 第8回目 | 有機化学反応の分類と進み方 |
| 第9回目 | アルカンのラジカル反応 |
| 第10回目 | ハロアルカンの求核置換反応 |
| 第11回目 | アルケンの求電子付加反応 |
| 第12回目 | ベンゼンの構造 |
| 第13回目 | ベンゼンの求電子置換反応 |
| 第14回目 | カルボニル化合物と求核付加反応 |
| 第15回目 | カルボン酸と誘導体 |
| 第16回目 | 期末試験 |

2-2-2 登録学生数及び単位取得状況

平成 26 年度 知プラ e 科目成績評価結果一覧（単位互換により実施）

科目提供大学	科目名	開講時期	履修者数			単位 修得者数	単位修得率
			提供大学	提供大学以外	合計		
徳島大学	地震・火山災害を防ぐ	後期	0	3	3	2	66.67%
	気象災害を防ぐ	後期	0	1	1	1	100.00%
	知の探訪	後期	6	0	6	3	50.00%
	モラエスの徳島 ーグローバルイズムと異邦人ー	後期	6	1	7	5	71.43%
香川大学	情報のいろは	後期	23	4	27	17	62.96%
	地域コンテンツと知財管理	後期	162	1	163	109	66.87%
	香川を学ぶ	後期	357	7	364	258	70.88%
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	後期	23	0	23	22	95.65%
合計			577	17	594	417	70.20%

平成 27 年度 知プラ e 科目成績評価結果一覧

科目提供大学	科目名	開講時期	履修者数			単位 修得者数	単位修得率
			提供大学	提供大学以外	合計		
徳島大学	知の探訪	後期	4	30	34	15	44.12%
	モラエスの徳島 ーグローバルイズムと異邦人ー	後期	2	45	47	22	46.81%
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 ー四国の収容所を中心にー	後期	2	39	41	17	41.46%
香川大学	情報のいろは	後期	35	88	123	61	49.59%
	地域コンテンツと知財管理	後期	215	45	260	188	72.31%
	香川を学ぶ	後期	165	77	242	185	76.45%
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	後期	10	20	30	14	46.67%
合計			433	344	777	502	64.61%

平成 28 年度 知プラ e 科目成績評価結果一覧

科目提供大学	科目名	開講時期	履修者数			単位 修得者数	単位修得率
			提供大学	提供大学以外	合計		
徳島大学	知の探訪	後期	5	39	44	18	40.91%
	モラエスの徳島 —グローバルイズムと異邦人—	後期	2	57	59	29	49.15%
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 —四国の収容所を中心に—	後期	2	42	44	15	34.09%
	現代科学と研究倫理	後期	32	42	74	40	54.05%
鳴門教育大学	学校教員の世界	後期	3	68	71	38	53.52%
香川大学	情報のいろは	後期	108	79	187	116	62.03%
	地域コンテンツと知財管理	後期	128	69	197	147	74.62%
	香川を学ぶ	後期	177	77	254	198	77.95%
	瀬戸内地域活性化政策	前期	11	18	29	19	65.52%
	瀬戸内海論	前期	48	23	71	51	71.83%
	香川の文化と歴史	前期	71	21	92	78	84.78%
愛媛大学	タンパク質で生命を斬る	後期	30	8	38	15	39.47%
	ユーラシア大陸における人と 金属生産の関わり	後期	10	6	16	9	56.25%
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	後期	13	16	29	15	51.72%
合計			640	565	1,205	788	65.39%

平成 29 年度 知プラ e 科目成績評価結果一覧

科目提供大学	科目名	開講時期	履修者数			単位 修得者数	単位修得率
			提供大学	提供大学以外	合計		
徳島大学	知の探訪	後期	3	49	52	19	36.54%
	モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	後期	4	72	76	40	52.63%
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920	後期	4	51	55	26	47.27%
	現代科学と研究倫理	後期	44	34	78	55	70.51%
	大学の知の活用	後期	1	54	55	33	60.00%
	大学教育を考える	後期	1	33	34	21	61.76%
	行動統計学入門	後期	0	31	31	5	16.13%
鳴門教育大学	学校教員の世界	後期	3	235	238	144	60.50%
	阿波学	前期後半	86	88	174	108	62.07%
	自動車概論	後期後半	0	92	92	31	33.70%
香川大学	情報のいろは	後期	149	114	263	162	61.60%
	地域コンテンツと知財管理 その1	後期前半	47	25	72	47	65.28%
	地域コンテンツと知財管理 その2	後期後半	36	13	49	30	61.22%
	香川を学ぶ その1	後期前半	96	98	194	120	61.86%
	香川を学ぶ その2	後期後半	77	78	155	86	55.48%
	瀬戸内地域活性化政策 その1	後期前半	90	23	113	85	75.22%
	瀬戸内地域活性化政策 その2	後期後半	73	21	94	63	67.02%
	瀬戸内海論 その1	前期前半	71	21	92	54	58.70%
	瀬戸内海論 その2	前期後半	58	23	81	64	79.01%
	香川の文化と歴史 その1	前期前半	89	41	130	95	73.08%
	香川の文化と歴史 その2	前期後半	82	35	117	77	65.81%
	四国の歴史と文化 その1 歴史編	前期前半	74	29	103	59	57.28%
	四国の歴史と文化 その2 文化編	前期後半	59	27	86	50	58.14%
	四国の自然環境と防災 その1	後期前半	114	79	193	119	61.66%
	四国の自然環境と防災 その2	後期後半	80	52	132	77	58.33%
	四国の地域振興 その1	後期前半	195	129	324	185	57.10%
	四国の地域振興 その2	後期後半	75	61	136	82	60.29%
	コンピュータと教育 その1	前期前半	303	55	358	222	62.01%
	コンピュータと教育 その2	前期後半	117	12	129	98	75.97%
愛媛大学	タンパク質で生命を斬る	後期	25	12	37	23	62.16%
	ユーラシア大陸における人と 金属生産の関わり	後期	29	9	38	26	68.42%
	大学生のための『安全・安心』の基礎講座	後期	80	113	193	140	72.54%
	太陽光利用型植物工場における知能的 農作物生産	後期	21	9	30	24	80.00%
	飛行機はなぜ飛ぶのか	後期	29	8	37	11	29.73%
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	後期	5	16	21	7	33.33%
	気象学入門	前期	34	288	322	126	39.13%
	有機化学概論	前期	8	24	32	14	43.75%
	海洋基礎生態学	前期	71	82	153	98	64.05%
合計			2,333	2,236	4,569	2,726	59.66%

2-2-3 授業評価アンケート結果

平成 26 年度 知プラ科目アンケート報告

1) 実施概要

平成 26 年度に開講した以下の科目について、履修者を対象に Moodle 上で科目の改善を目的としたアンケートを実施した。実施期間は各科目終了後、1 か月程度である。またアンケートは匿名で実施した。

開講大学	科目名	回答者数	承諾者数
香川大学	香川を学ぶ	125 名	115 名
	地域コンテンツと知財管理	32 名	29 名
	情報のいろは	11 名	9 名
徳島大学	知の探訪	3 名	3 名
	モラエスの徳島	1 名	1 名
	気象災害を防ぐ	1 名	1 名
	地震・火山災害を防ぐ	2 名	2 名

2) アンケート結果（主なコメント）

<よかった点（自由記述）>

- ・ 香川を学ぶ：講義内容（香川について学べた）、いつでもどこでも自己ペースで学べる、など。
- ・ 地域コンテンツと知財管理：説明が分かりやすいという意見が多い。
- ・ 情報のいろは：「講師の授業進行が非常に人を引き付け、又、不明な個所のメールを送った際、質問に対するレスポンスが早く、よい授業だと感じた。」
- ・ 知の探訪：講義内容（自分の知りたい内容の講義を、初学者の段階で概要だけでも知ることができた）
- ・ 地震・火山災害を防ぐ：テスト日程がほかの授業とずれている、講義動画の隣に資料がある
- ・ 気象災害を防ぐ：回答なし
- ・ モラエス：回答なし

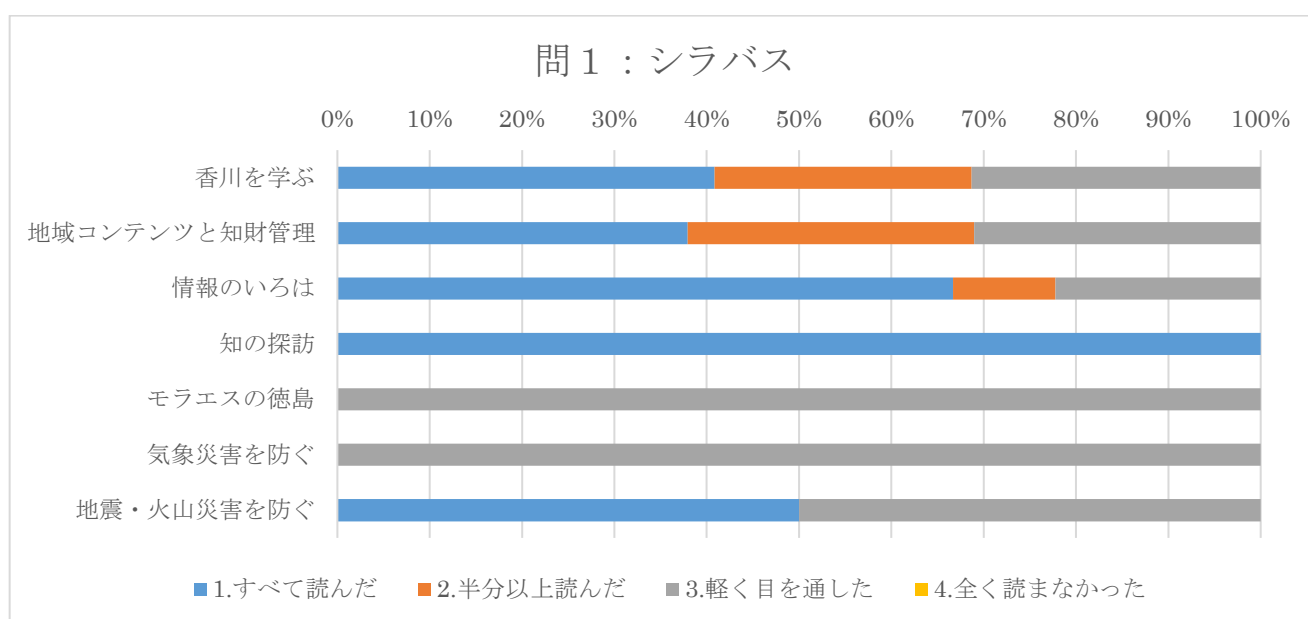
<改善要望（自由記述）>

- ・ 香川を学ぶ：音質の改善要望が多数。
- ・ 地域コンテンツと知財管理：特になしが多い。しいていえば、授業時間を一定に、小テストの解説を丁寧に、など。
- ・ 情報のいろは：「工学的な要素が強く、理系ではないと理解に苦しむところも多々あった。浮動小数点やビットシフトの回など。」など、基礎的内容の解説の要望が 2 件。応用的内容の追加要望が 1 件。
- ・ 知の探訪：ビデオが長すぎる
- ・ 地震・火山災害を防ぐ：試験に関する説明の追加、ビデオ内容の訂正
- ・ 気象災害を防ぐ：ビデオの文字が読み取りにくい
- ・ モラエス：回答なし

3) アンケート結果詳細

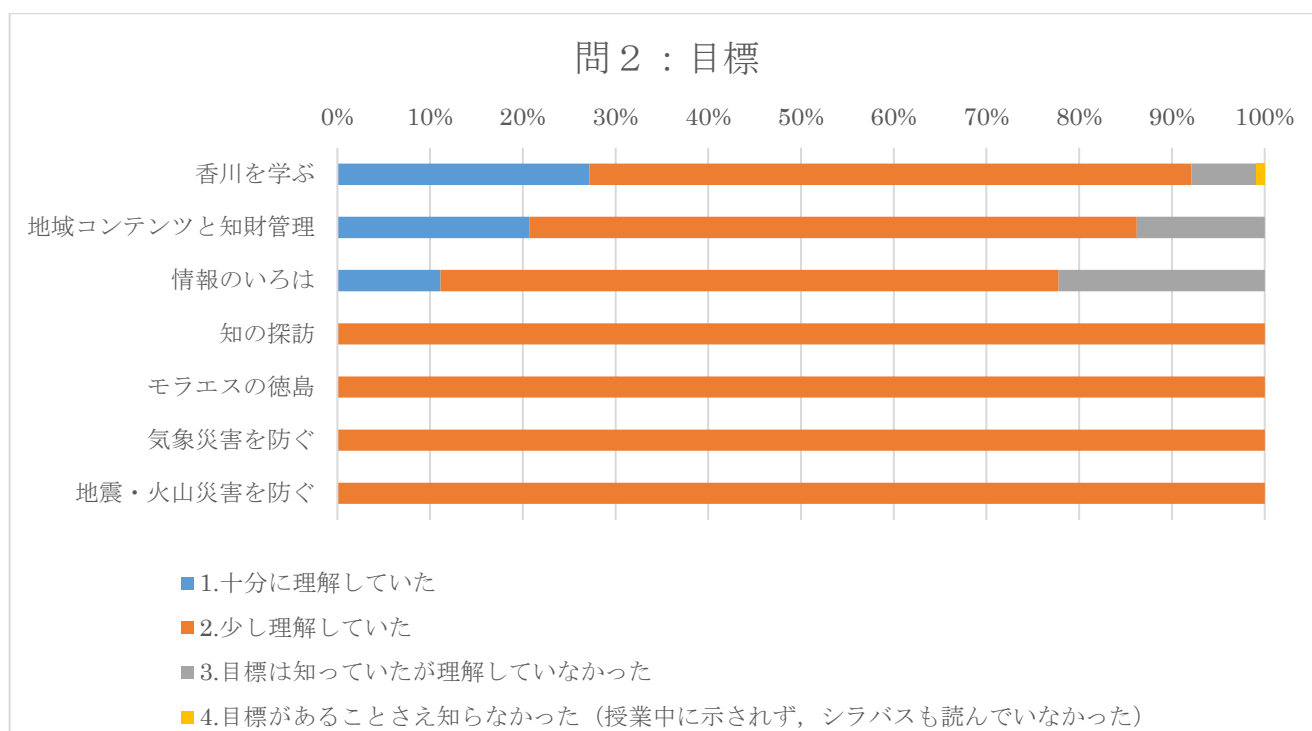
問1. 授業を受ける前にシラバスを読みましたか？

	1. すべて読んだ	2. 半分以上読んだ	3. 軽く目を通した	4. 全く読まなかった
香川を学ぶ	47	32	36	0
地域コンテンツと知財管理	11	9	9	0
情報のいろは	6	1	2	0
知の探訪	3	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	1	0	1	0



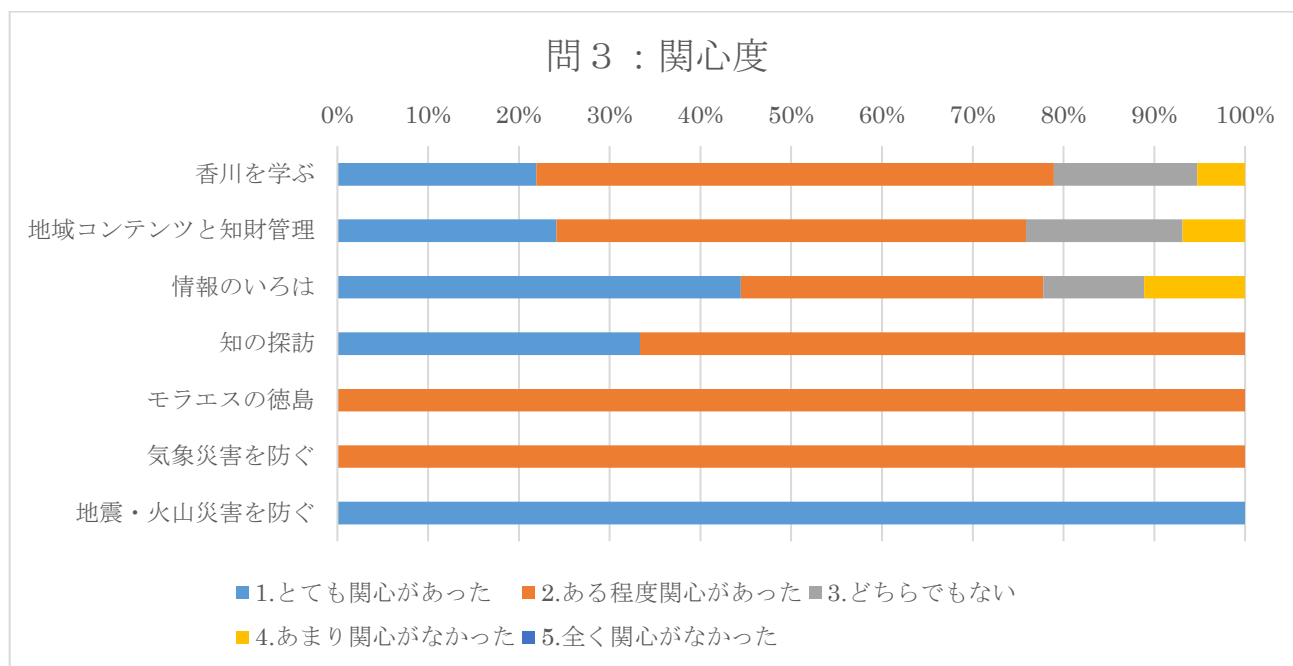
問 2. シラバスや授業中に示された授業の目標を、どの程度理解していましたか？

	1. 十分に理解していた	2. 少し理解していた	3. 目標は知っていたが理解していなかった	4. 目標があることさえ知らなかった（授業中に示されず、シラバスも読んでいなかった）
香川を学ぶ	31	74	8	1
地域コンテンツと知財管理	6	19	4	0
情報のいろは	1	6	2	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0



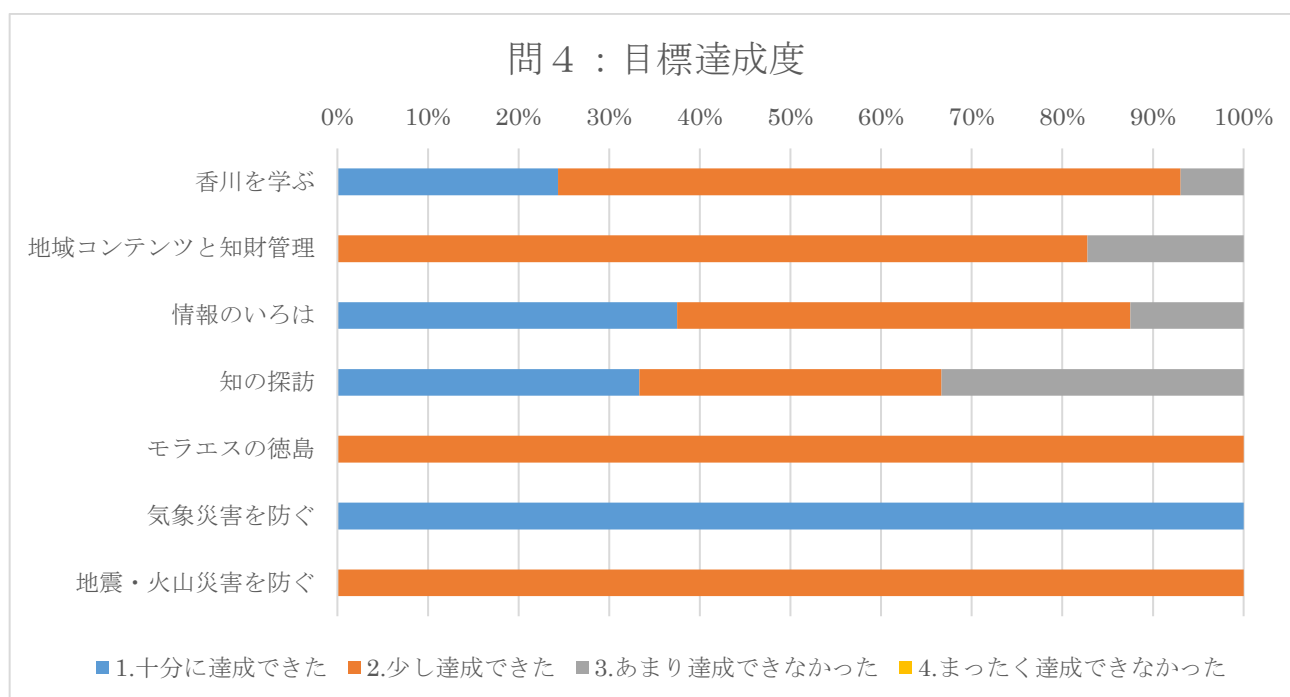
問3. 授業を受ける前の関心度はどうでしたか？

	1. とても関心があった	2. ある程度関心があった	3. どちらでもない	4. あまり関心がなかった	5. 全く関心がなかった
香川を学ぶ	25	65	18	6	0
地域コンテンツと知財管理	7	15	5	2	0
情報のいろは	4	3	1	1	0
知の探訪	1	2	0	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	2	0	0	0	0



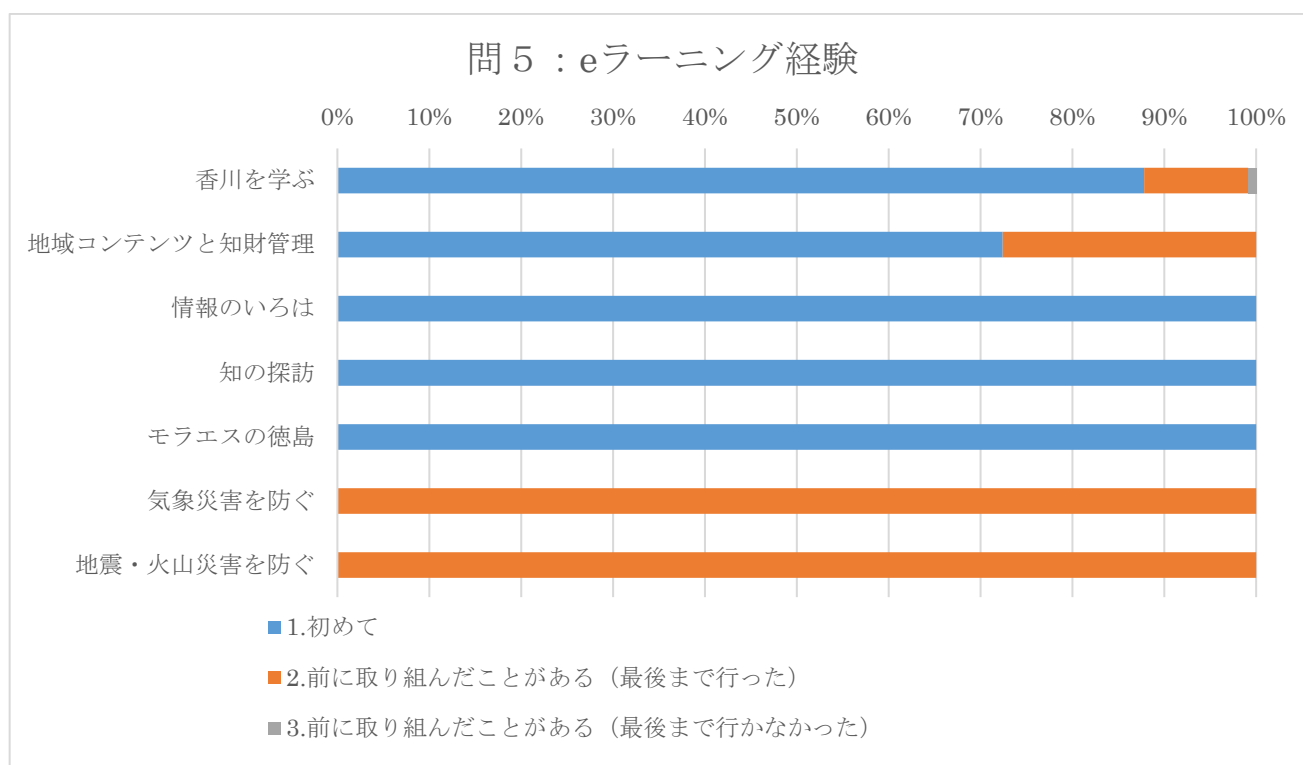
問 4. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか？

	1. 十分に達成できた	2. 少し達成できた	3. あまり達成できなかった	4. まったく達成できなかった
香川を学ぶ	28	79	8	0
地域コンテンツと知財管理	0	24	5	0
情報のいろは	3	4	1	0
知の探訪	1	1	1	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0



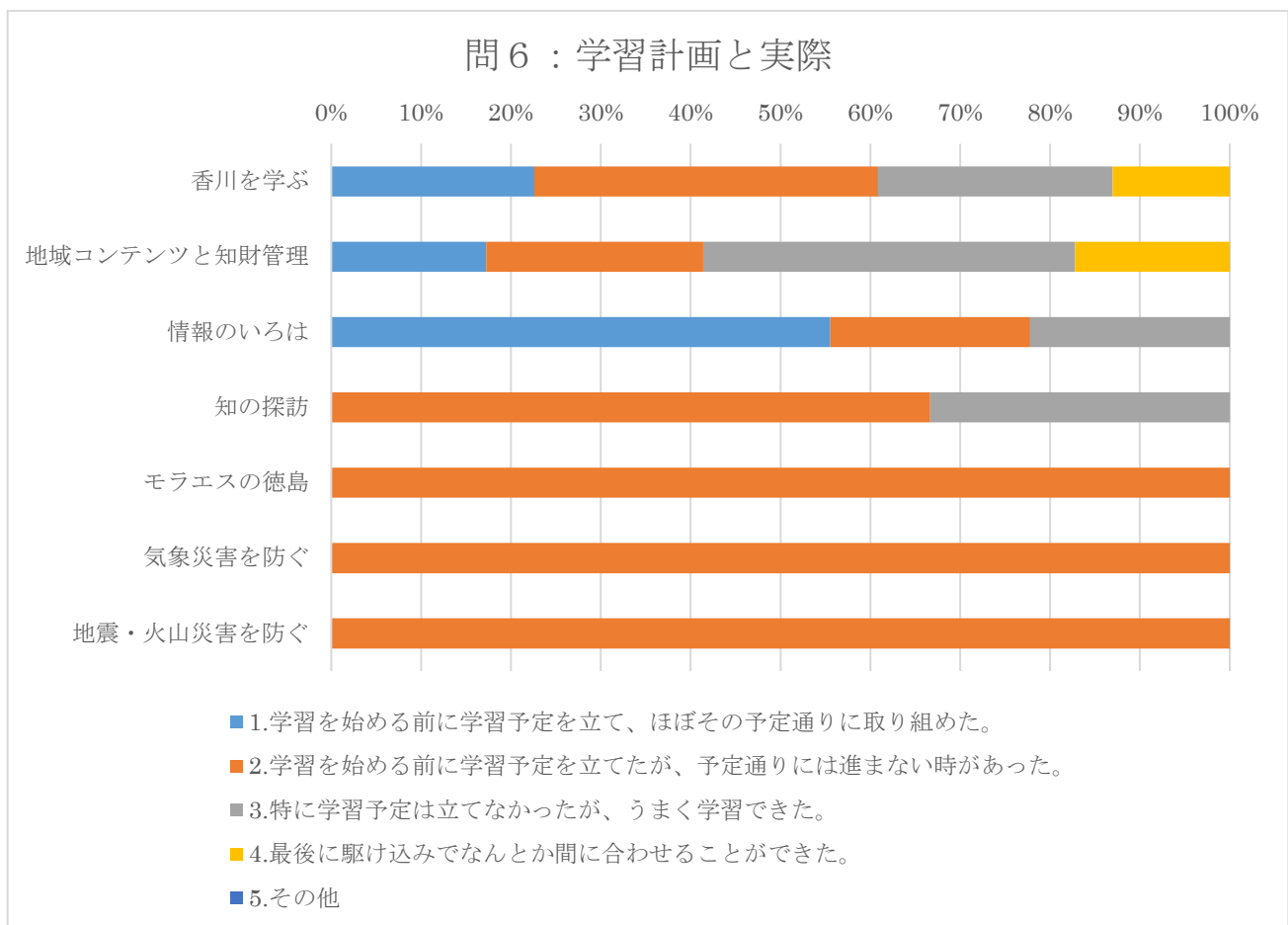
問 5. eラーニングの授業は初めてですか？

	1. 初めて	2. 前に取り組んだことがある（最後まで行った）	3. 前に取り組んだことがある（最後まで行かなかった）
香川を学ぶ	101	13	1
地域コンテンツと知財管理	21	8	0
情報のいろは	9	0	0
知の探訪	3	0	0
モラエスの徳島	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0



問 6. 学習予定の立案と実際の進め方について教えてください。

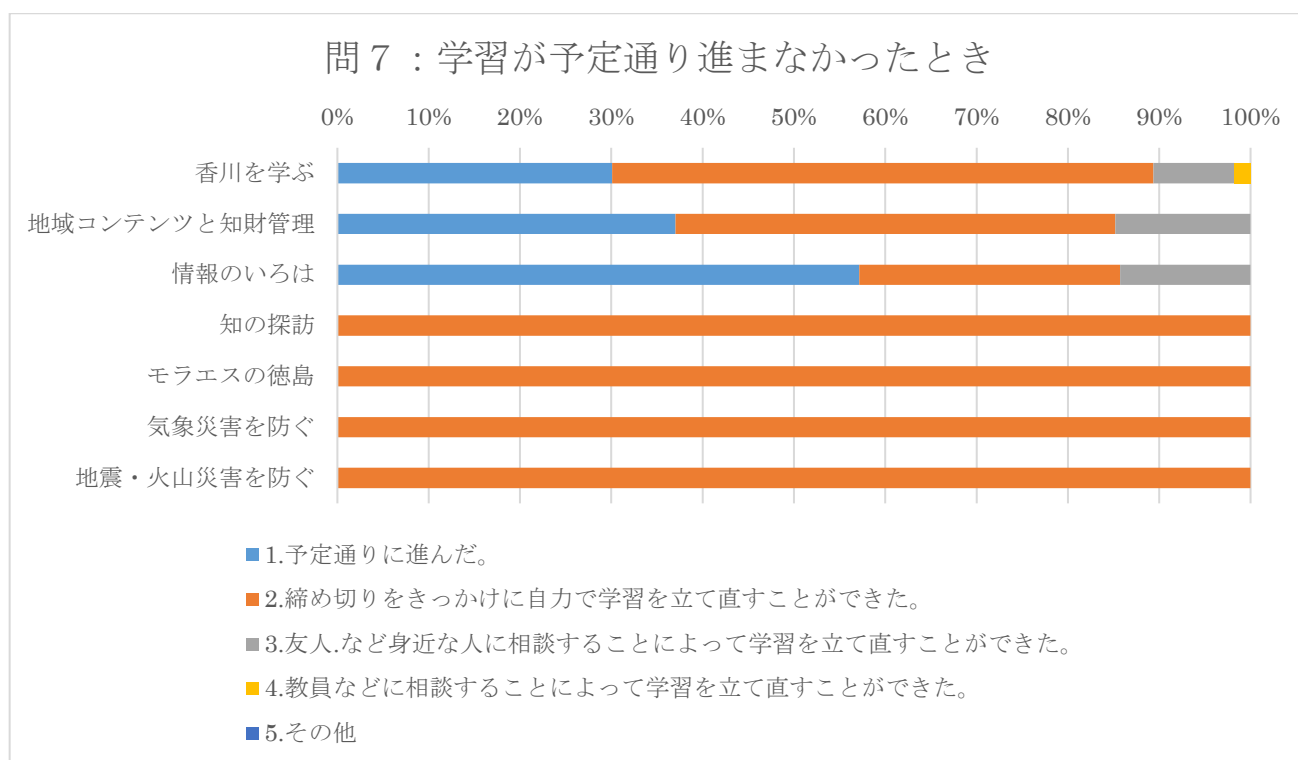
	1. 学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。	2. 学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。	3. 特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。	4. 最後に駆け込みでなんとか間に合わせることができた。	5. その他
香川を学ぶ	26	44	30	15	0
地域コンテンツと知財管理	5	7	12	5	0
情報のいろは	5	2	2	0	0
知の探訪	0	2	1	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0



上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。
 回答なし

問 7. 学習が予定通りに進まなかったときのことを教えてください。(予定通りに進んだ方は 1. にチェックしてください。)

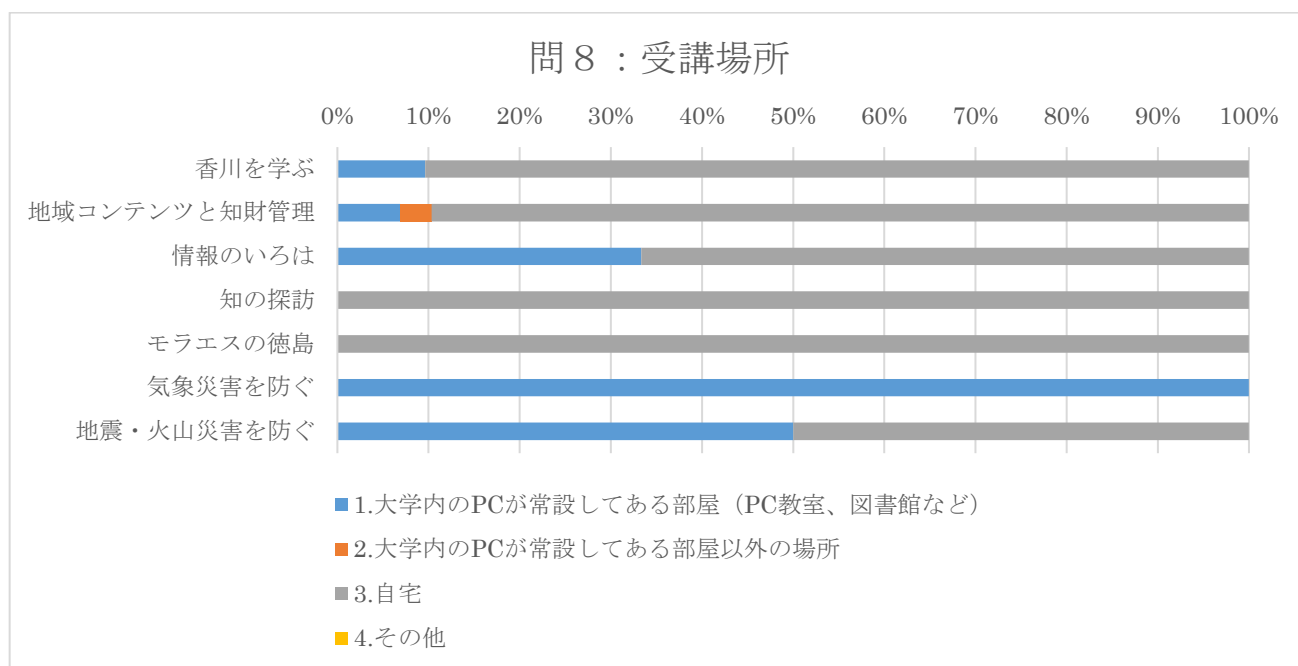
	1. 予定通りに進んだ。	2. 締め切りをきっかけに自力で学習を立て直すことができた。	3. 友人. など身近な人に相談することによって学習を立て直すことができた。	4. 教員などに相談することによって学習を立て直すことができた。	5. その他
香川を学ぶ	34	67	10	2	0
地域コンテンツと知財管理	10	13	4	0	0
情報のいろは	4	2	1	0	0
知の探訪	0	3	0	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0



上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。
回答なし

問 8. 本授業 (E-ラーニング) を受講した場所について、主にどこで受講しましたか？

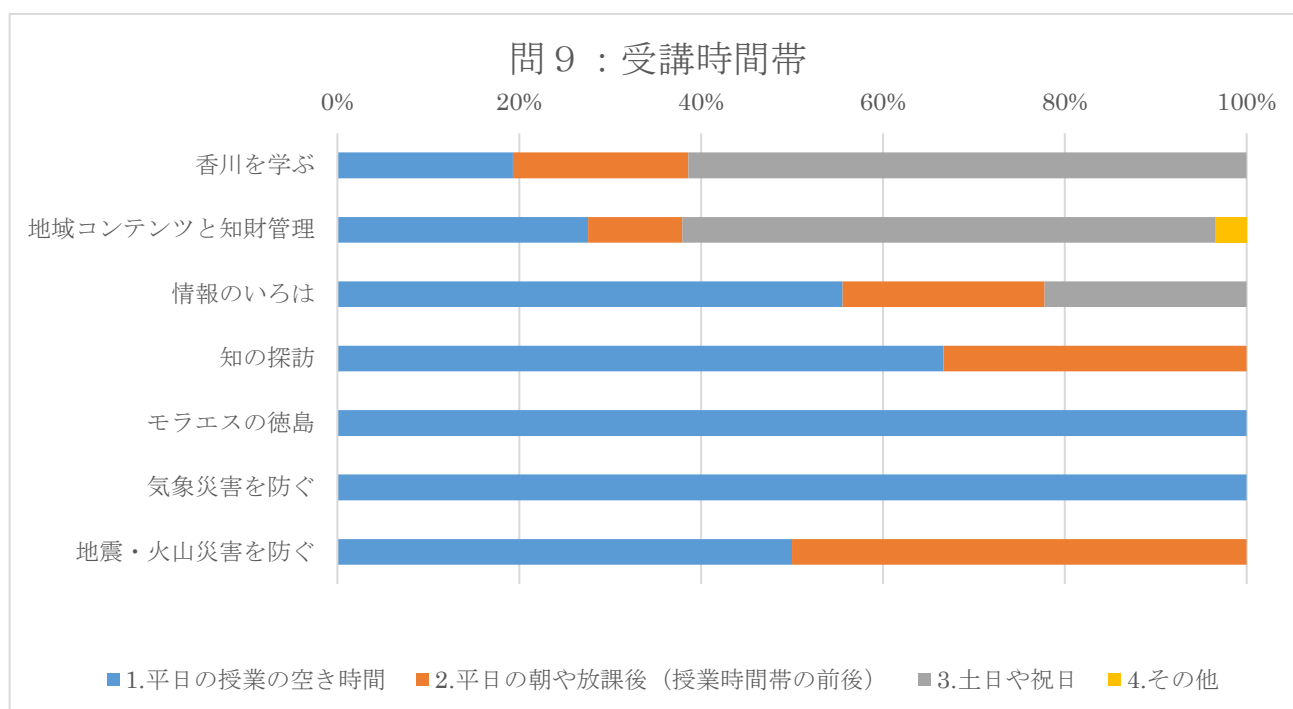
	1. 大学内の PC が常設してある部屋 (PC 教室、図書館など)	2. 大学内の PC が常設してある部屋以外の場所	3. 自宅	4. その他
香川を学ぶ	11	0	103	0
地域コンテンツと知財管理	2	1	26	0
情報のいろは	3	0	6	0
知の探訪	0	0	3	0
モラエスの徳島	0	0	1	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	0	1	0



上記で、4. その他を選んだ方は具体的にお書きください。
回答なし

問9. 本授業（eラーニング）を受講した時間帯について教えてください。

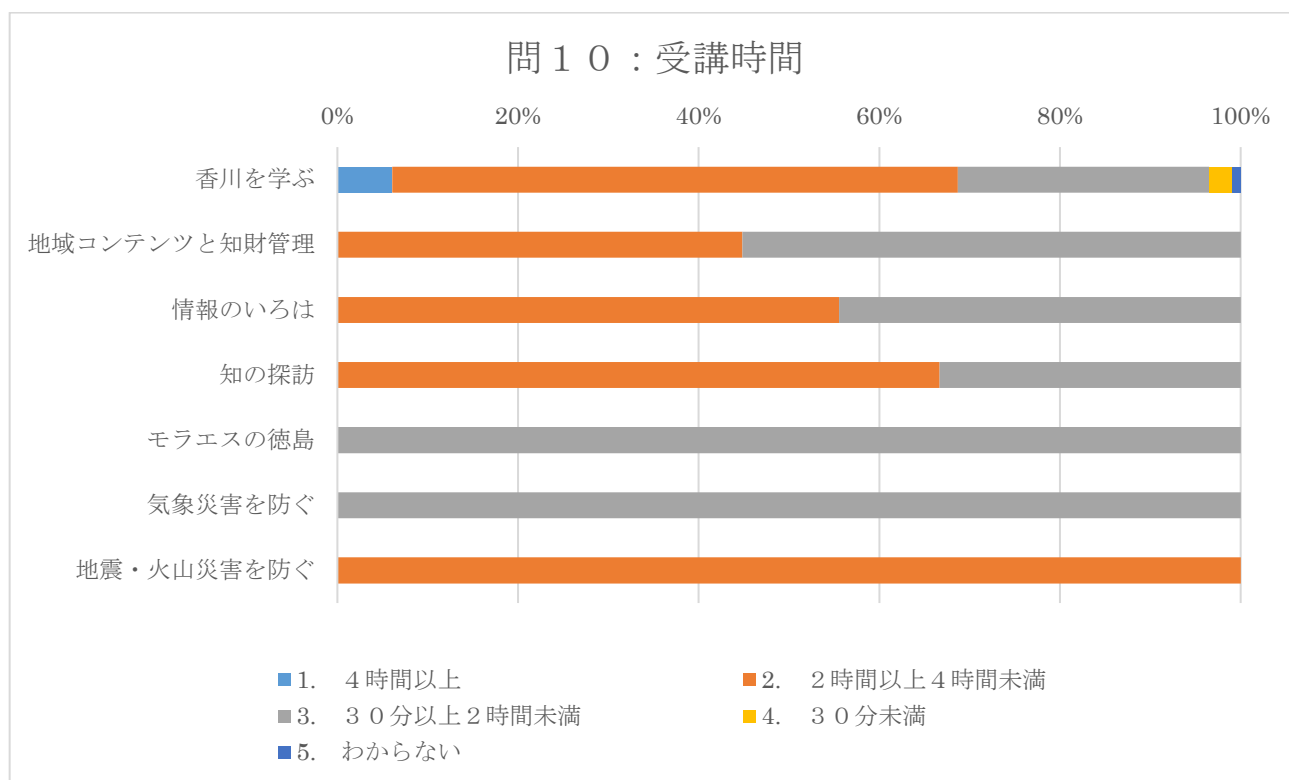
	1. 平日の授業の空き時間	2. 平日の朝や放課後（授業時間帯の前後）	3. 土日や祝日	4. その他
香川を学ぶ	22	22	70	0
地域コンテンツと知財管理	8	3	17	1
情報のいろは	5	2	2	0
知の探訪	2	1	0	0
モラエスの徳島	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0



上記で、4. その他を選んだ方は具体的にお書きください。
 地域コンテンツと知財管理 回によってばらばら

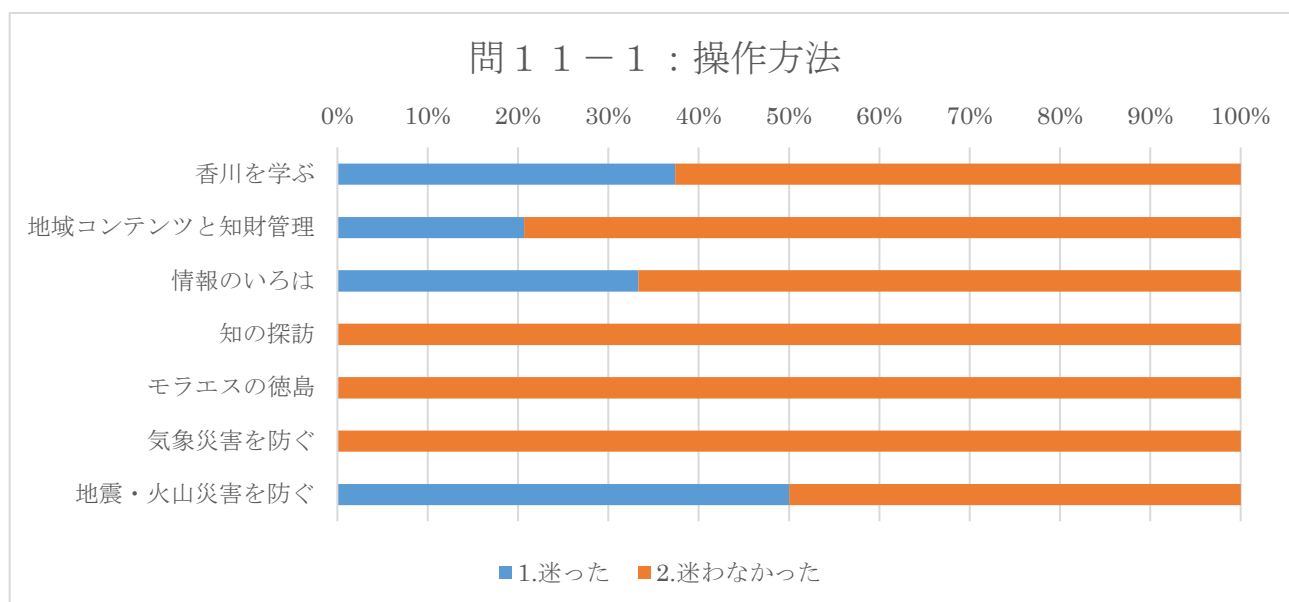
問 10. この授業について 1 週あたり平均して、どの程度、学習（ビデオ視聴、資料収集、文献講読、課題作成等のあらゆる活動を含む）をしましたか？数回分まとめて取り組むことが多かった場合も、できるだけ 1 週あたりに平均して教えてください。

	1. 4 時間以上	2. 2 時間以上 4 時間未満	3. 30 分以上 2 時間未満	4. 30 分未満	5. わからない
香川を学ぶ	7	72	32	3	1
地域コンテンツと知財管理	0	13	16	0	0
情報のいろは	0	5	4	0	0
知の探訪	0	2	1	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0



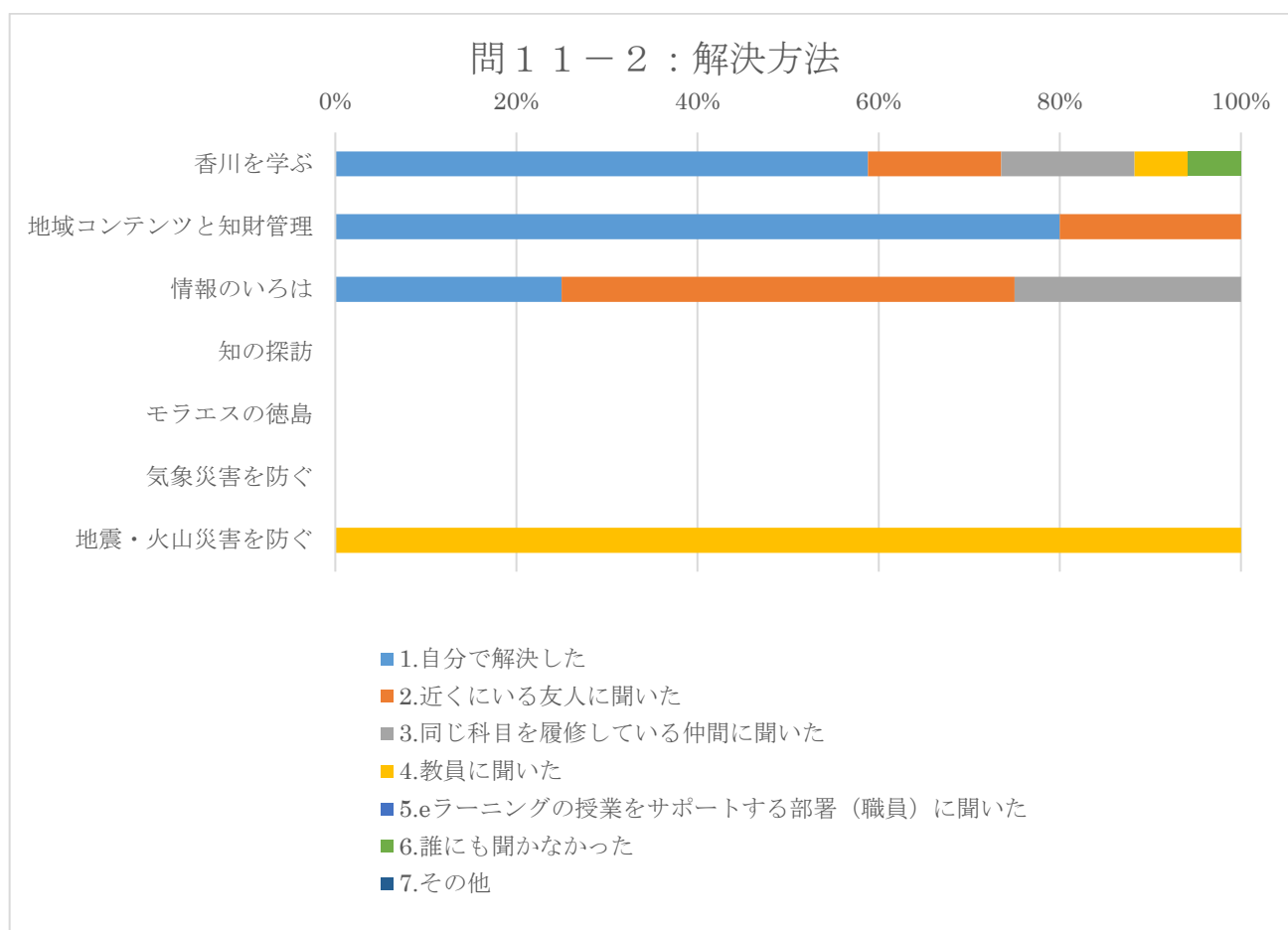
問 11-1. 操作方法で迷ったりしましたか？

	1. 迷った	2. 迷わなかった
香川を学ぶ	43	72
地域コンテンツと知財管理	6	23
情報のいろは	3	6
知の探訪	0	3
モラエスの徳島	0	1
気象災害を防ぐ	0	1
地震・火山災害を防ぐ	1	1



問 11-2. 上記で、迷ったとお答えした方にうかがいます。迷った際、どのように解決しましたか？（複数回答可）

	1. 自分で解決した	2. 近くにいる友人に聞いた	3. 同じ科目を履修している仲間に聞いた	4. 教員に聞いた	5. eラーニングの授業をサポートする部署（職員）に聞いた	6. 誰にも聞かなかった	7. その他
香川を学ぶ	20	5	5	2	0	2	0
地域コンテンツと知財管理	4	1	0	0	0	0	0
情報のいろは	1	2	1	0	0	0	0
知の探訪	0	0	0	0	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	0	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	0	0	1	0	0	0



上記で、7. その他を選んだ方は具体的にお書きください。
回答なし

問 12. e ラーニングで提供される授業の良いと思う点をお書きください。

香川を学ぶ	空き時間にネットがつながる所であればどこでも出来る点
香川を学ぶ	自分の都合に合わせて何回かに分けて、授業が受けられる。
香川を学ぶ	いつでも受けることができる。
香川を学ぶ	自分の都合の良い時に授業を受けることができる
香川を学ぶ	自分のペースで学習を進められる点。
香川を学ぶ	私は実家生で、家から学校まで通うのに少し時間がかかるので、自宅でも授業が受けられるというのはとても助かりました。
香川を学ぶ	普段の授業とは違い自分の好きな時間に開始できること、また、聞き逃した部分も何度も聞き返すことができる点。
香川を学ぶ	自分のペースで勉強することができること。
香川を学ぶ	授業を受ける前は、この授業は簡単に終わらせれると思っていたが、授業後の課題設定の難易度がちょうどよく、実際はどの授業よりも真剣に取り組まなくてはならなかった。結果として、よかったと思う。
香川を学ぶ	自分の都合に合わせて講義が受けられる点。
香川を学ぶ	自分の好きな時に受けることができる。
香川を学ぶ	都合のいい時に受けることができる
香川を学ぶ	自宅で受けれるため、時間に束縛されることなく計画的に授業が受けられること。
香川を学ぶ	理解できない時に、もう一度見ることができます。
香川を学ぶ	いつでも繰り返し学習できる。
香川を学ぶ	自宅で観れる。マリン通にはありがたかった。 好きな時間に利用できる。
香川を学ぶ	いつでもどこでも学習できる
香川を学ぶ	あいている時間にできるところ
香川を学ぶ	聞き逃したところを聞き返すことができるところが良い点だと思いました。
香川を学ぶ	自宅で行える点。
香川を学ぶ	自分のペースで授業が進められる。
香川を学ぶ	自分のペースで学習ができ、自主的に取り組まなければついていけないので、自ずと自主性が出てくる点。
香川を学ぶ	自宅で学習することができる。
香川を学ぶ	何度も気になったところを再生できる点
香川を学ぶ	いつでもできた
香川を学ぶ	家でできる点。
香川を学ぶ	いつでも受講できる。
香川を学ぶ	他県から来た大学生にその県について様々な視点で知ることができる。
香川を学ぶ	いつでも、自分の都合のつく時間に受講できること
香川を学ぶ	いつでも授業を受けることができること。
香川を学ぶ	自分のやりたい時間にできること。
香川を学ぶ	自分の都合のよい時間に講義を受けることができ、わからない部分は一度停止して調べながら講義を受けられる点。
香川を学ぶ	いつでもどこでも好きな時にできる。 何回でも聞き直すことできる。
香川を学ぶ	自分の空いた時間に出来るし、寝坊して授業に遅刻という事態には必ずならないこと。
香川を学ぶ	自分のペースで学習を進められる点。
香川を学ぶ	時間に囚われずに学習できる点
香川を学ぶ	一回で聞き取ることができなかった部分を巻き戻して、何度でも視聴できる点。
香川を学ぶ	自分が学びたいときに学ぶことができる。
香川を学ぶ	家でできるので勉強する時間をゆっくりとれるし、聞き逃したところはもう

	一度巻き戻して聞くことができるところはいいと思う
香川を学ぶ	自分の空いている時間でできる。
香川を学ぶ	何度でも聞き直せる点。
香川を学ぶ	自宅で授業を受けられる。
香川を学ぶ	私は工学部2年なので本学に行く手間が省ける 自分のペースで受講できる。
香川を学ぶ	いつでもどこでも時間があればすることができる
香川を学ぶ	いつでも都合のよい時間帯に視聴が可能である点。
香川を学ぶ	好きな時に受講できる。
香川を学ぶ	どんな場所でも受けられる。
香川を学ぶ	自宅で学習できる点
香川を学ぶ	自宅で自分の時間に合わせて学習できる
香川を学ぶ	授業の時間帯を自分で設定できるところ
香川を学ぶ	いつでも受講可能な点
香川を学ぶ	自宅で勉強できる 学習する時間を自由に決められるので、時間を有効に使うことができる 何度でも講義が受けられる 香川大学であれば、本学以外のキャンパスからだと本学にいかなくていいので日々の負担が減る。
香川を学ぶ	時間を見つけて自分の好きな時に受講できるところ
香川を学ぶ	都合のよい時間に学習することができる
香川を学ぶ	各々の都合のいい時間に学習できる。
香川を学ぶ	何度でも見ることができるので、普段の授業よりも内容を理解しやすいと思う。
香川を学ぶ	自分のスケジュールに合わせて講義を受けることができる点
香川を学ぶ	自宅で空いた時間に受講することが出来る。
香川を学ぶ	視覚的効果が強く、何度でも視聴を繰り返すことができる点。
香川を学ぶ	自分のペースですることができる。
香川を学ぶ	自分のペースですることができる。
香川を学ぶ	いつでも受講できる点。
香川を学ぶ	何度でも再生ができるので聞き逃してしまうことが少ない。
香川を学ぶ	いつでも授業を受けられること。
香川を学ぶ	好きな時に受けられる
香川を学ぶ	自分がやりたいと思った時間に授業を受けられたり、分割して見れたりする点。
香川を学ぶ	好きな時間での受講が可能 集中して取り組むことができる
地域コンテンツと知財管理	映像を繰り返し視聴することが出来る点。
地域コンテンツと知財管理	いつでも何度でも学習できる。
地域コンテンツと知財管理	時間、場所に縛られず、自宅で出来る点。
地域コンテンツと知財管理	自分の好きな時間に視聴できる
地域コンテンツと知財管理	自分の都合のいい時間に学習できる点。 分からないことがあっても、その場でスマホやパソコンで調べられる点。
地域コンテンツと知財管理	何回も動画を再生できるところ。
地域コンテンツと知財管理	自宅で自分の好きな時に受講できる。
地域コンテンツと知財管理	自分の都合のいい時に授業が受けれるところ
地域コンテンツと知財管理	何回でも巻き戻ったり、過去の回を見直せる点
地域コンテンツと知財管理	自分の好きな時間に取り組める点、聞き取れなかった部分を繰り返し聞くことができる点。
地域コンテンツと知財管理	どこでも学習できる点 視聴覚効果が生かされている点 時間に制約がない点
地域コンテンツと知財管理	空いている時間を見つけて自由度の高い学習ができる。

地域コンテンツと知財管理	自宅で好きなときにできる
地域コンテンツと知財管理	一つ目は自分の好きなタイミングで受けることができるところ。 二つ目は動画を途中で止めることができるところ。
情報のいろは	空き時間で受講ができるので、仕事をしながらでもやりやすい
情報のいろは	自分の都合の良い時間に授業を受けられる点がとてもよかった。また、うまく聞き取れなかった場合や、理解できなくて、もう一度聞きたい時など、何回でも繰り返し聞くことができる点もよかったと思う。
情報のいろは	空いている時間を有効活用できるし、分からないところを何度でも見返せるので、便利だと感じた。社会人の場合、土日祝日が基本的に休みなので、じっくりと取り組むことができる。
情報のいろは	わざわざ大学に行かなくて済みますし、提出期限までに課題を提出すればいいので課題を行う予定が組みやす所がいいと思います。
情報のいろは	繰り返し聞くことができ、また、周りに生徒がいないので、気を遣わずに自分のペースでできる点。
情報のいろは	自分の都合が良い時に、学習できるのが便利だと思います。 そして、何回も授業を聞き直すことができるので、復習がしやすいです。
モラエスの徳島	実際に講義を受ける場所を自分で決めたり、自分のペースで学習を進めることができること。
知の探訪	あらゆる専門分野のスペシャリストの講師の先生方のお話がきけるめったにない機会であるところはこの授業での良い点だと思う。
知の探訪	自分のペースで学習できる点 分からないところや興味のあるところを繰り返し聞くことができる点
地震・火山災害を防ぐ	いつでもできる

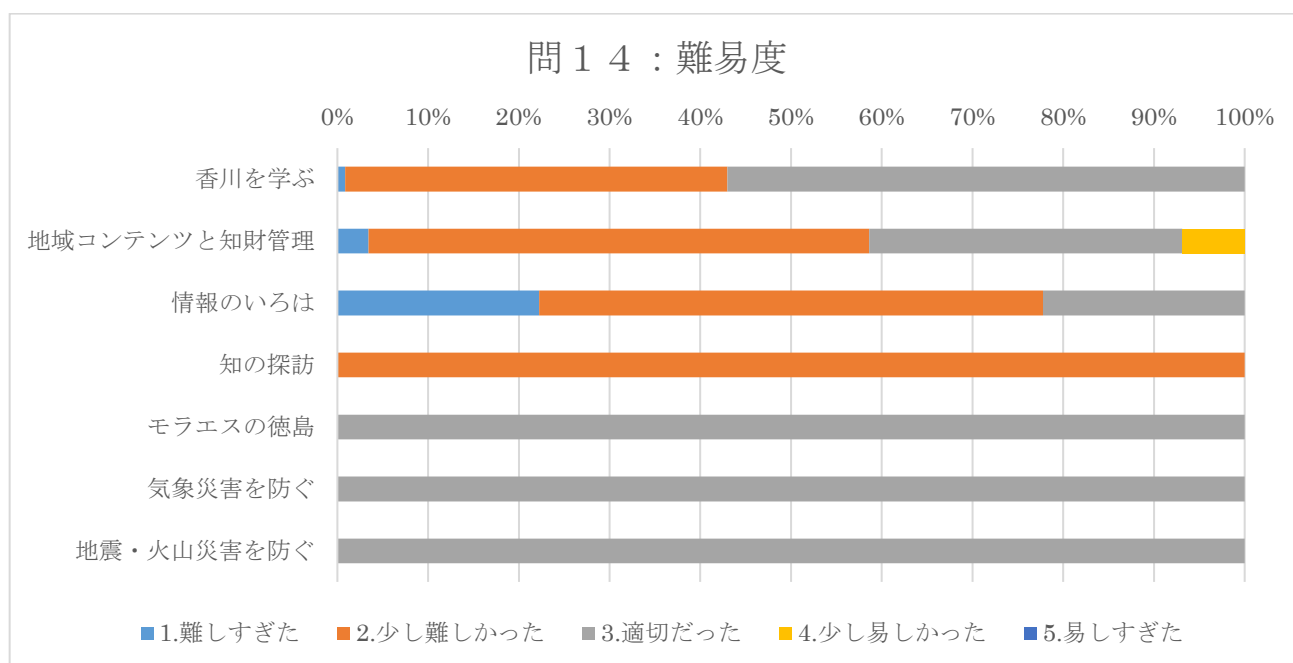
問 13. e ラーニングで提供される授業で難しいと思う点をお書きください。

香川を学ぶ	聞き取りづらいところがある点
香川を学ぶ	音が聞こえにくいことがある。
香川を学ぶ	声の聞き取りと画質の悪さ
香川を学ぶ	時々、講師の方の声が聞き取りづらい点。
香川を学ぶ	個人的な意見で申し訳ないですが、自宅で視聴することが多かったので、集中力があまり続かずに、だらだらと時間を過ごしてしまいがちでした。家で90分ずっと集中してVTRを見続けるのは少し厳しかったです。
香川を学ぶ	自分のペースで勉強することができるので、計画をしっかりと立てないと後で困ってしまう。
香川を学ぶ	声が聞き取りにくい授業が時々あった。(第五回)
香川を学ぶ	特に難しいと思うことはなかったが、双方向の授業でないために生じる問題はあと思う。
香川を学ぶ	音声が悪く聞くとりにくい。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	臨場感が伝わらない。
香川を学ぶ	ちゃんと時間取らないとできません。 例えば、平日見る時間がないので、いつ見ればいいなど
香川を学ぶ	サボると後々大変。
香川を学ぶ	自宅にいたので集中力がなかなか続かない。 音声が聞き取りにくいとやりづらい。
香川を学ぶ	対応できる電子機器がないとみれない。
香川を学ぶ	自主的にやる必要があること
香川を学ぶ	最初パソコンに慣れていない人には時間を要するという点。
香川を学ぶ	聞き取りづらい場面が多々あった点。
香川を学ぶ	たまに聞き取りが難しい。
香川を学ぶ	忙しい時期は、思うように学習時間が確保できず、締め切りを誤って覚えていたり、忘れてしまうと、提出に間に合わない点。困ったことがあっても、直接先生方に相談できない点。スクリーンに映し出される文字が見えにくいときや、声が聞き取りにくいときがある。疑問があっても、直接その授業の担当教員に質問できない点。
香川を学ぶ	授業の質問事項への対応
香川を学ぶ	聞き取りづらいこと、言っていることを漢字であらわせないことがある
香川を学ぶ	音声が不明瞭なことがある点。PCがないと勉強できない点。
香川を学ぶ	映像において、話している人の声が聞き取りづらいこと。
香川を学ぶ	いつかやればいいという意欲の低下につながることもあること
香川を学ぶ	動画再生画面の拡大ができないため、黒板が見づらいこと。
香川を学ぶ	パソコンがうまく動いてくれないとき、思うように学習が進まないこと。
香川を学ぶ	なかなか計画通りに進まず、締切ギリギリになってしまうことが数度あった。
香川を学ぶ	教授に質問すること。
香川を学ぶ	たまに聞き取りづらいことがある。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	直接教員との意思疎通が図れない点
香川を学ぶ	音声が乱れていたり、雑音が入ったりすると、声が聞こえにくくなる点。
香川を学ぶ	聞き取りにくいことが多少ある。
香川を学ぶ	まわりの雑音などが映像に入っていると、声がとても聞き取りにくい。そして、話してる人も声が小さいと尚更である。編集でボリュームを変えてほしい。
香川を学ぶ	パソコンが苦手な人はパソコン操作。
香川を学ぶ	学校で受ける授業時間以上の時間がかかってしまうこと。
香川を学ぶ	決められた時間ではないので気をつけていても予定通りできない時がある。
香川を学ぶ	自主性が無いといけないのでモチベーションの維持が難しい

香川を学ぶ	することを忘れてしまうことがある。
香川を学ぶ	eラーニングにおいて難しいと思う点は、特にないと思います。
香川を学ぶ	やり遂げようという意志がないと続かない。
香川を学ぶ	言っていることが理解できない点。
香川を学ぶ	講義の映像に集中できない点
香川を学ぶ	毎回の課題が大きい。ビデオ、レポート作成まで含めると一つの講義の時間一時間半を大幅に超える。
香川を学ぶ	聞き取りにくい所が多い。あと、レジュメが手書きだと読み取れなかったり授業を理解したくても出来ない回が多々あった。
香川を学ぶ	過去の講義が多いため情報が古いことがある点 聞き取りにくいことがある点
香川を学ぶ	音が聞きずらすぎることがある
香川を学ぶ	講義を受講した後に自分でその内容をまとめるところ
香川を学ぶ	打ち込んでいたものがすべて消えてしまったときに修復ができないところ。
香川を学ぶ	たまに音声が悪いことがあり、聞き取りにくい点
香川を学ぶ	音声聞き取りづらいことがある。
香川を学ぶ	雑音が入るととても聞き取りづらい。 専門用語を口頭で言われると漢字等が分かりづらい。
香川を学ぶ	ときどき聞き取れないときがあった。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	集中力の持続
香川を学ぶ	雑音が入ってしまっただけで聞こえにくいこともある。
香川を学ぶ	いつでも受けられるので授業を忘れてしまうことがある。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	途中自分のパソコンが壊れ、学校のパソコンでしようと思ったが、休日のためパソコンルームが使用できなかった。
香川を学ぶ	聞き取りにくい箇所がある
地域コンテンツと知財管理	特にありません。
地域コンテンツと知財管理	後回しにするとつらくなる。
地域コンテンツと知財管理	わからないところをリアルタイムで聞けない点。
地域コンテンツと知財管理	決まった時間の縛りが無いためルーズになる
地域コンテンツと知財管理	質問をするのに抵抗があった。
地域コンテンツと知財管理	慣れてきたら学習意識を維持することが難しい。
地域コンテンツと知財管理	学習計画を自分で守なければならないこと
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	即座な質疑応答
地域コンテンツと知財管理	進捗状況が個人のやる気に大きく依存する。
地域コンテンツと知財管理	たまに受講を忘れた
地域コンテンツと知財管理	祝日などで授業がない週にも動画が配信されていて、それに気付けなかったところ。
情報のいろは	ハンドアウトとの兼ね合いが少し難しい
情報のいろは	対面ではないため、疑問に思った時に直接質問できない点に不便さを感じる時があった。
情報のいろは	夜間主なので、1日に2コマ進むため、1日に2回分のレポートを提出しなければならないので、大変だった。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	パソコンがないと受講できない。(当たり前ですが)
知の探訪	専門知識がない段階での講義内容の理解は難しいと思う。
知の探訪	自分でスケジュール管理をしなければいけないので、継続がむずかしい点
地震・火山災害を防ぐ	締切ギリギリになってしまう

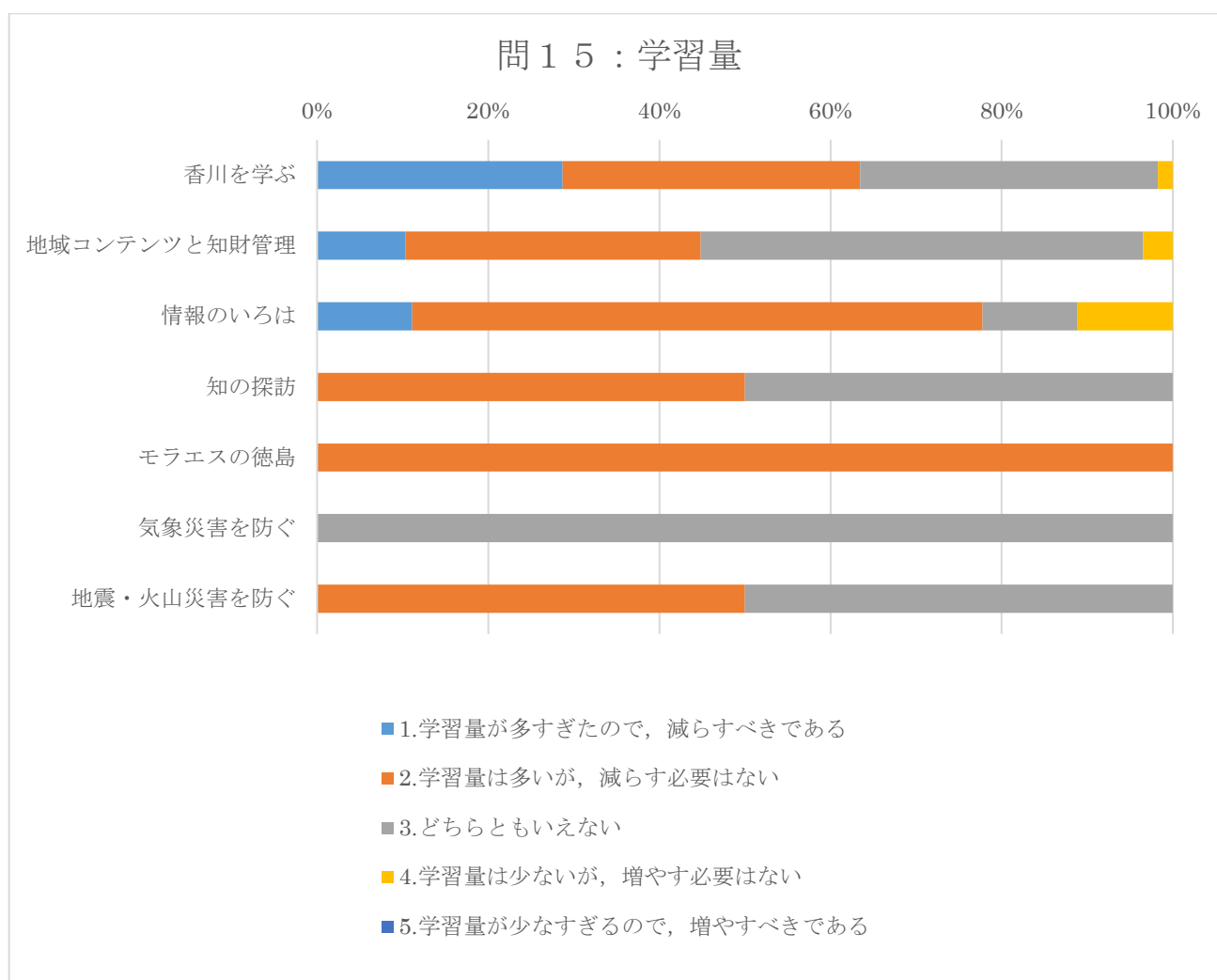
問 14. この授業の難易度は、適切でしたか？

	1. 難しすぎた	2. 少し難しかった	3. 適切だった	4. 少し易しかった	5. 易しすぎた
香川を学ぶ	1	48	65	0	0
地域コンテンツと知財管理	1	16	10	2	0
情報のいろは	2	5	2	0	0
知の探訪	0	3	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	0	2	0	0



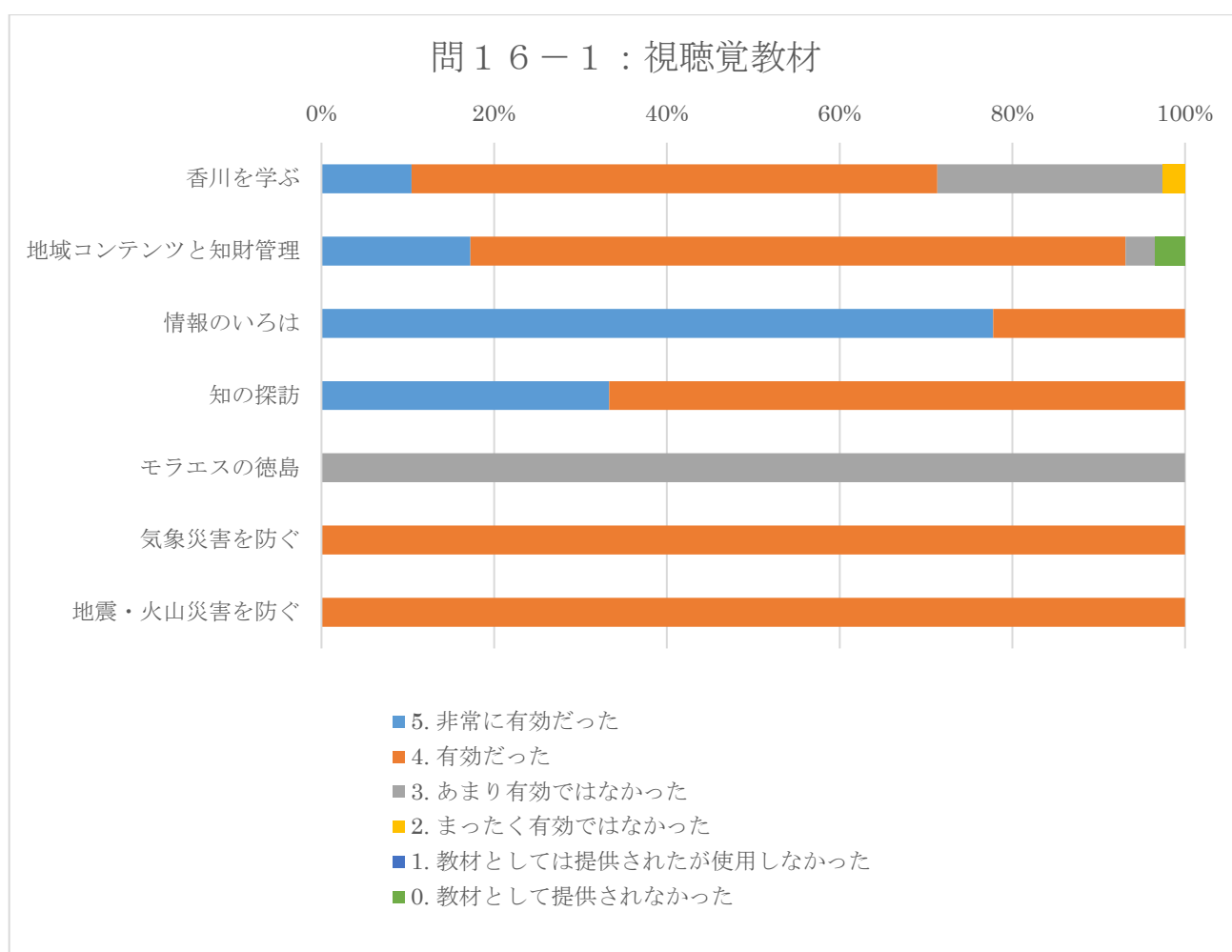
問 15. この授業の学習量は、適切でしたか？

	1. 学習量が多すぎたので、減らすべきである	2. 学習量が多いが、減らす必要はない	3. どちらともいえない	4. 学習量は少ないが、増やす必要はない	5. 学習量が少なすぎるので、増やすべきである
香川を学ぶ	33	40	40	2	0
地域コンテンツと知財管理	3	10	15	1	0
情報のいろは	1	6	1	1	0
知の探訪	0	1	1	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	1	1	0	0



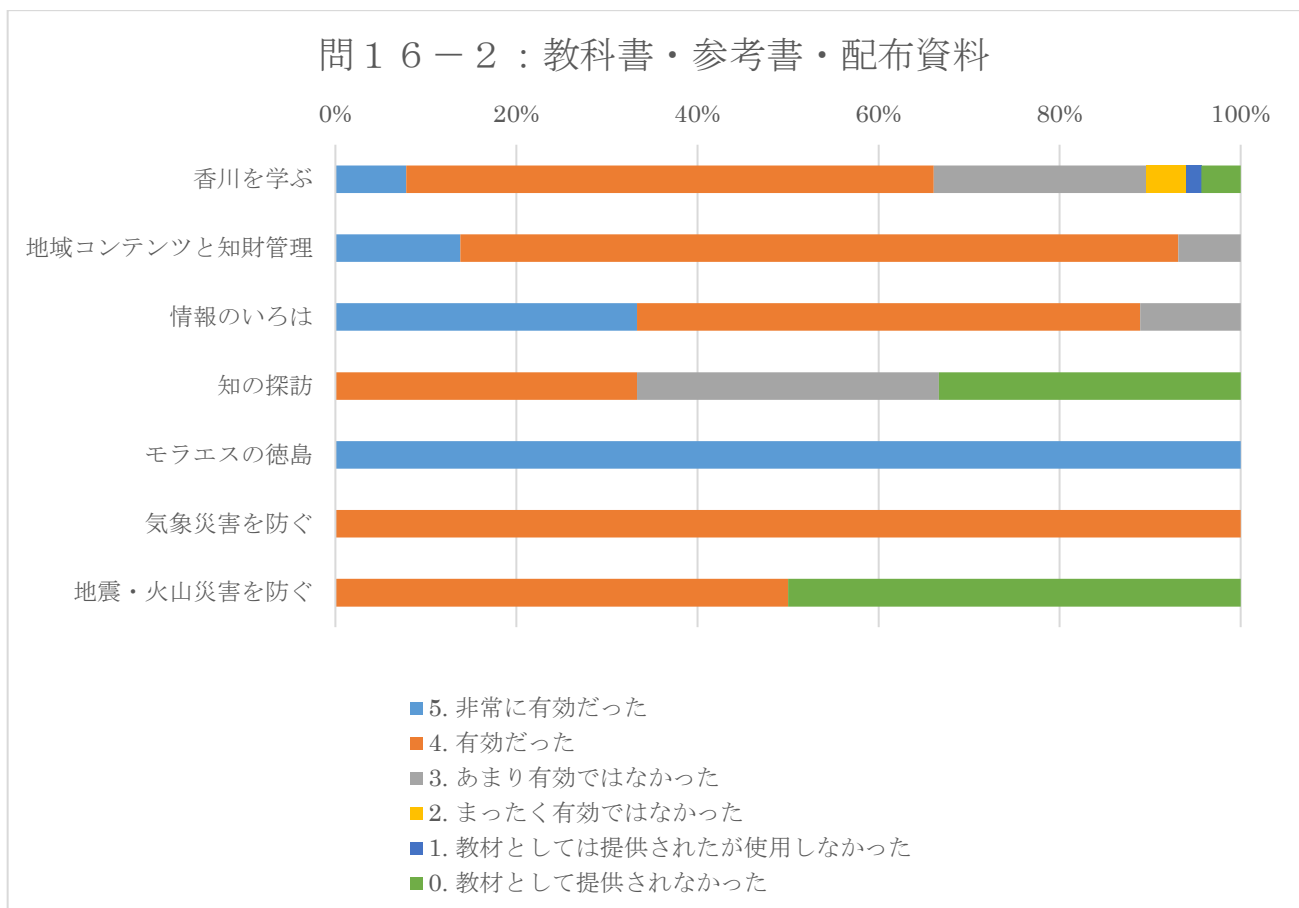
問 16-1. 視聴覚教材(ビデオ等)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	12	70	30	3	0	0
地域コンテンツと知財管理	5	22	1	0	0	1
情報のいろは	7	2	0	0	0	0
知の探訪	1	2	0	0	0	0
モラエスの徳島	0	0	1	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0	0	0



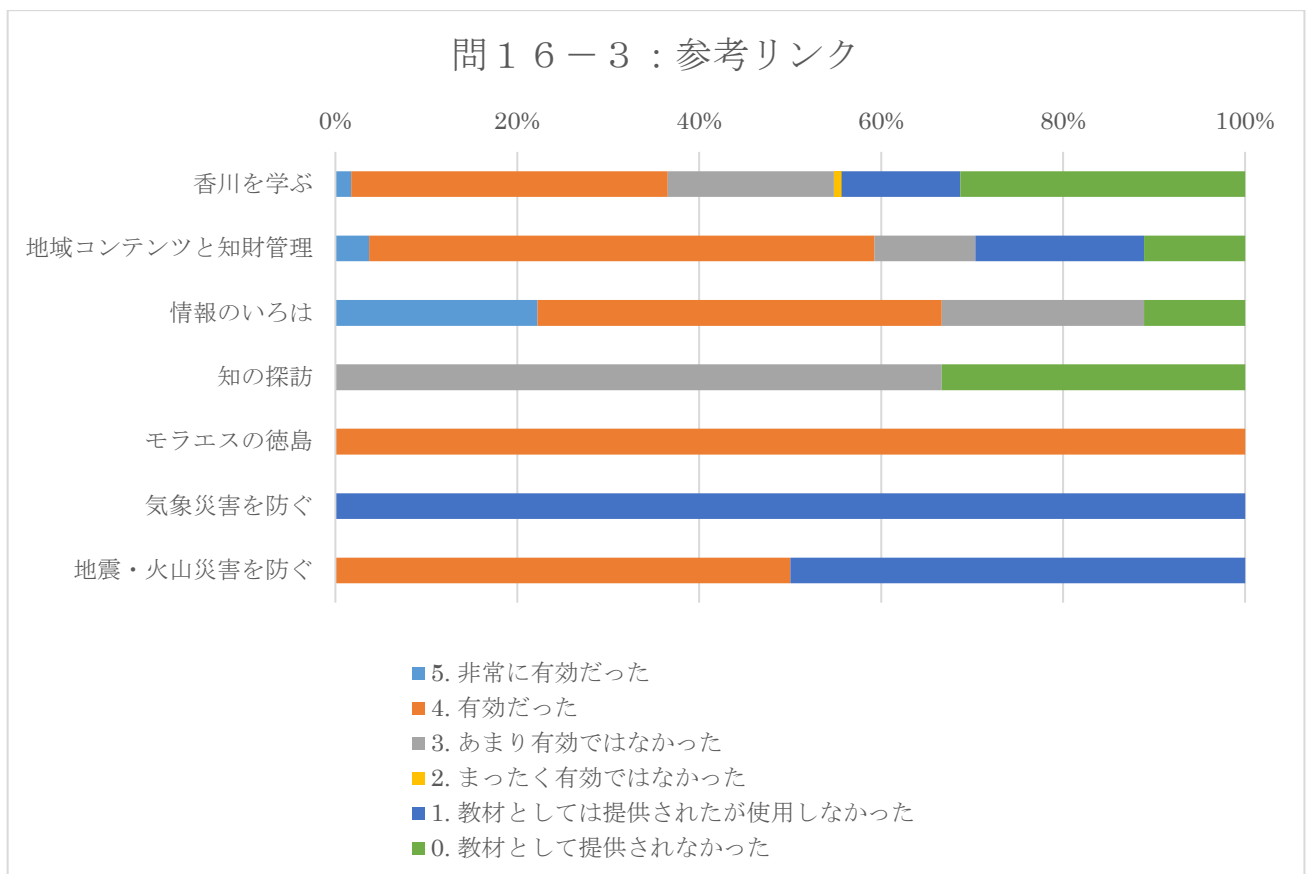
問 16-2. 教科書・参考書や配布資料

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	9	67	27	5	2	5
地域コンテンツと知財管理	4	23	2	0	0	0
情報のいろは	3	5	1	0	0	0
知の探訪	0	1	1	0	0	1
モラエスの徳島	1	0	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	1	0	0	0	1



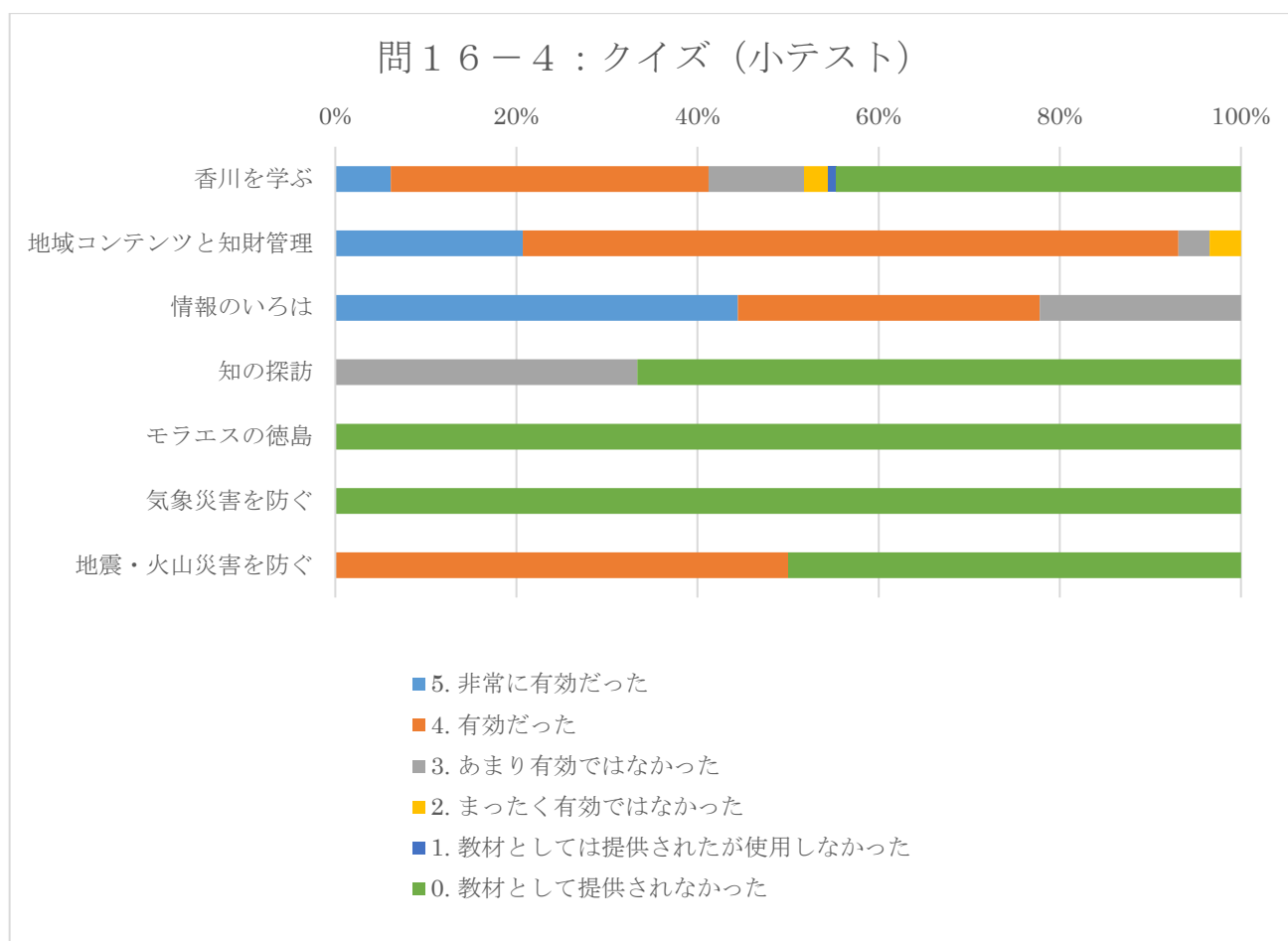
問 16-3. 紹介された参考リンク (インターネット上の情報源)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	2	40	21	1	15	36
地域コンテンツと知財管理	1	15	3	0	5	3
情報のいろは	2	4	2	0	0	1
知の探訪	0	0	2	0	0	1
モラエスの徳島	0	1	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	0	1	0	0	1	0



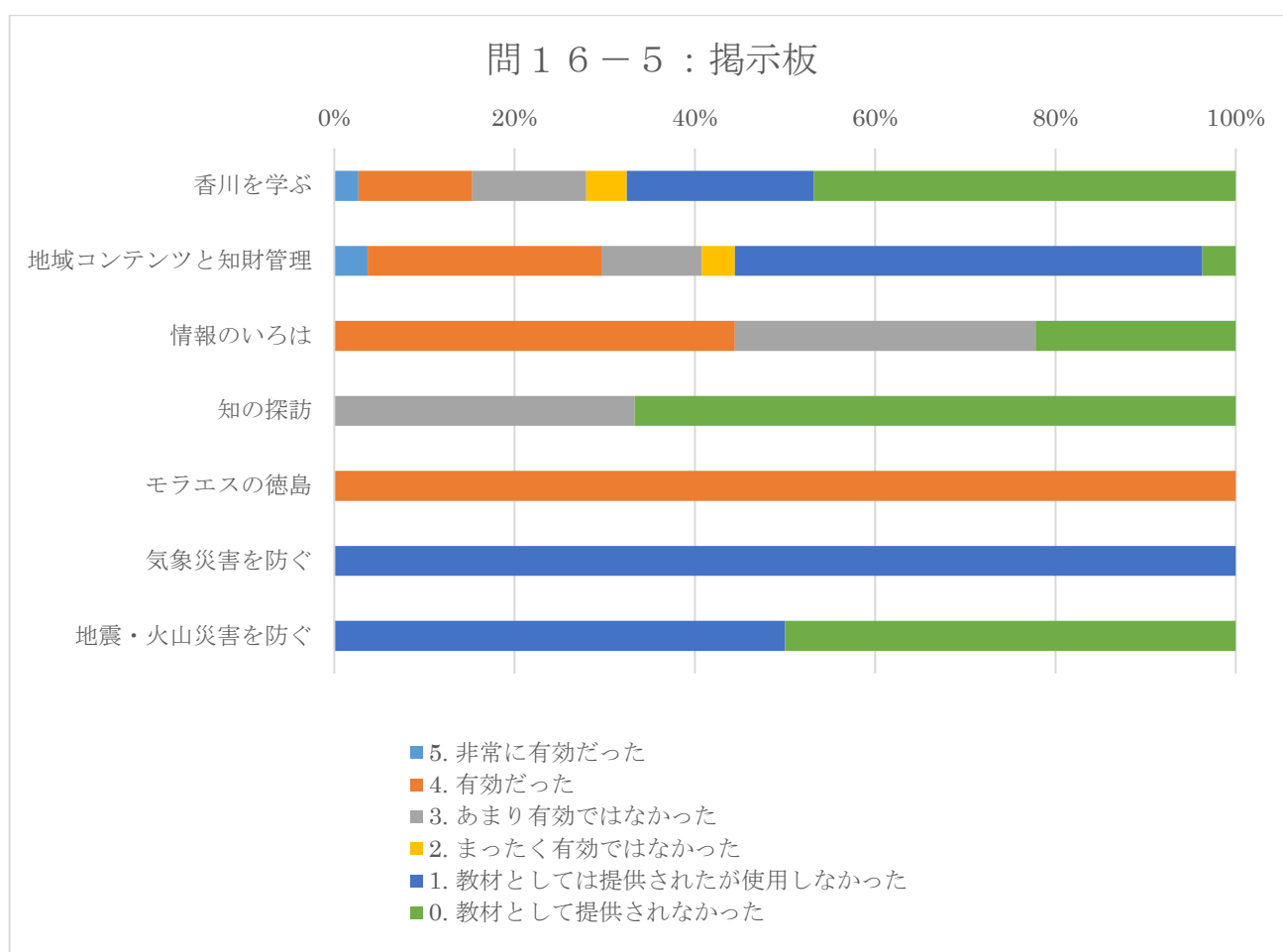
問16-4. クイズ（小テスト）

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	7	40	12	3	1	51
地域コンテンツと知財管理	6	21	1	1	0	0
情報のいろは	4	3	2	0	0	0
知の探訪	0	0	1	0	0	2
モラエスの徳島	0	0	0	0	0	1
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	0	1
地震・火山災害を防ぐ	0	1	0	0	0	1



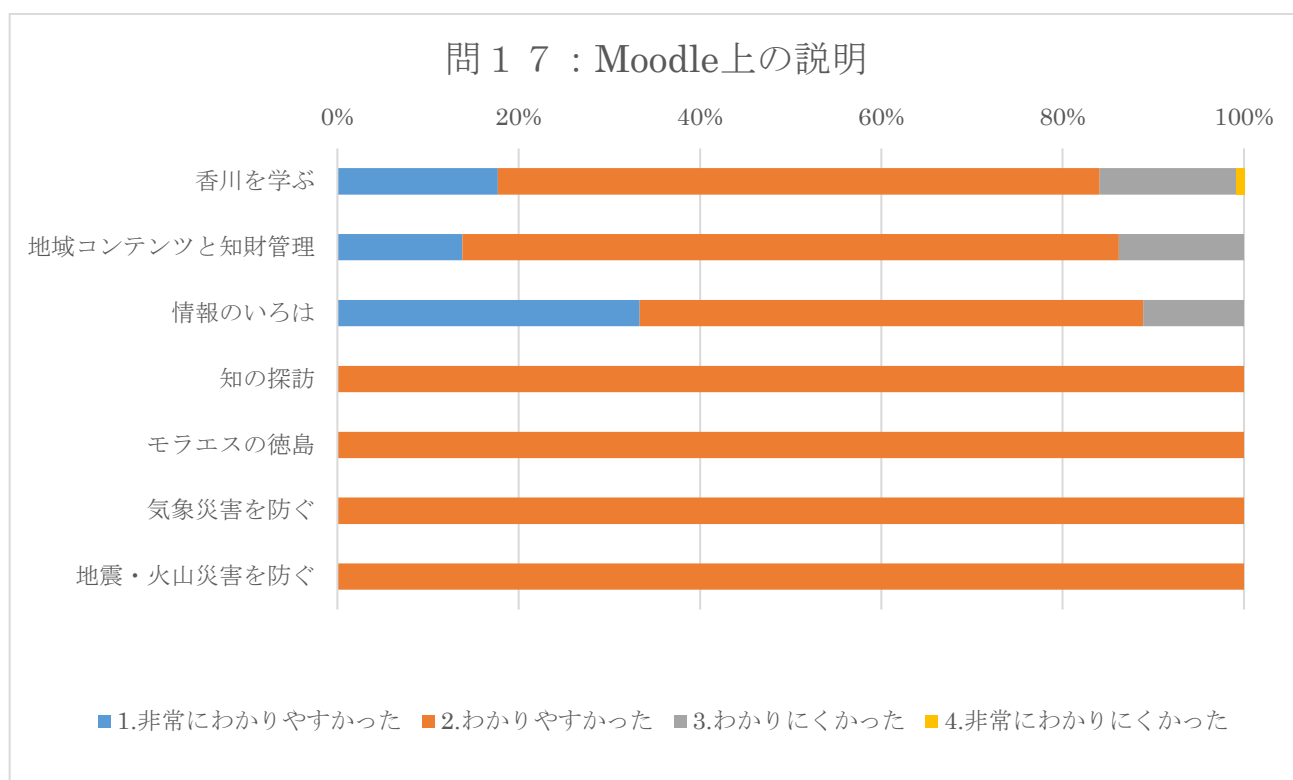
問 16-5. 掲示板（フォーラム）における受講者同士のディスカッション

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	3	14	14	5	23	52
地域コンテンツと知財管理	1	7	3	1	14	1
情報のいろは	0	4	3	0	0	2
知の探訪	0	0	1	0	0	2
モラエスの徳島	0	1	0	0	0	0
気象災害を防ぐ	0	0	0	0	1	0
地震・火山災害を防ぐ	0	0	0	0	1	1



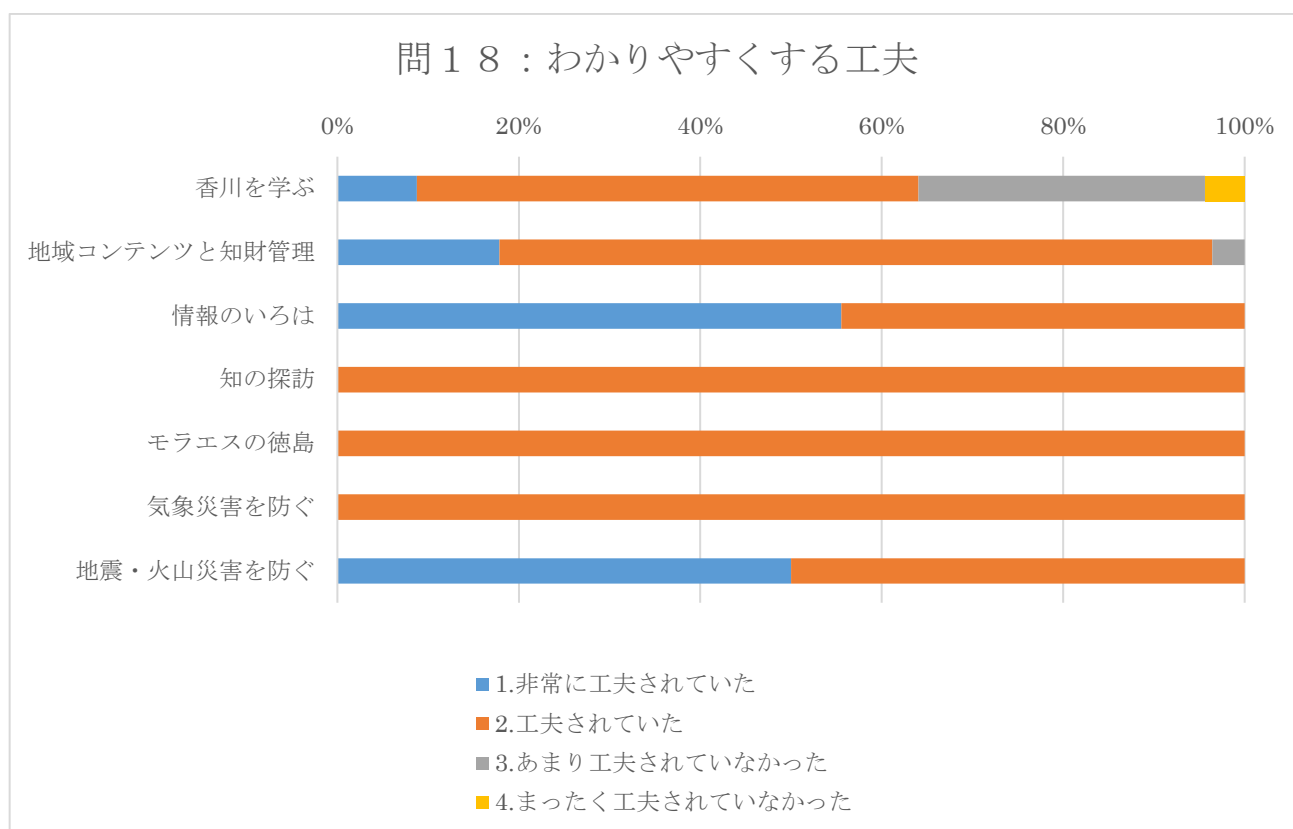
問 17. この授業の Moodle 上の説明（例えば毎週の学修の進め方や課題等の指示）は、わかりやすかったですか？

	1. 非常にわかりやすかった	2. わかりやすかった	3. わかりにくかった	4. 非常にわかりにくかった
香川を学ぶ	20	75	17	1
地域コンテンツと知財管理	4	21	4	0
情報のいろは	3	5	1	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	0	2	0	0



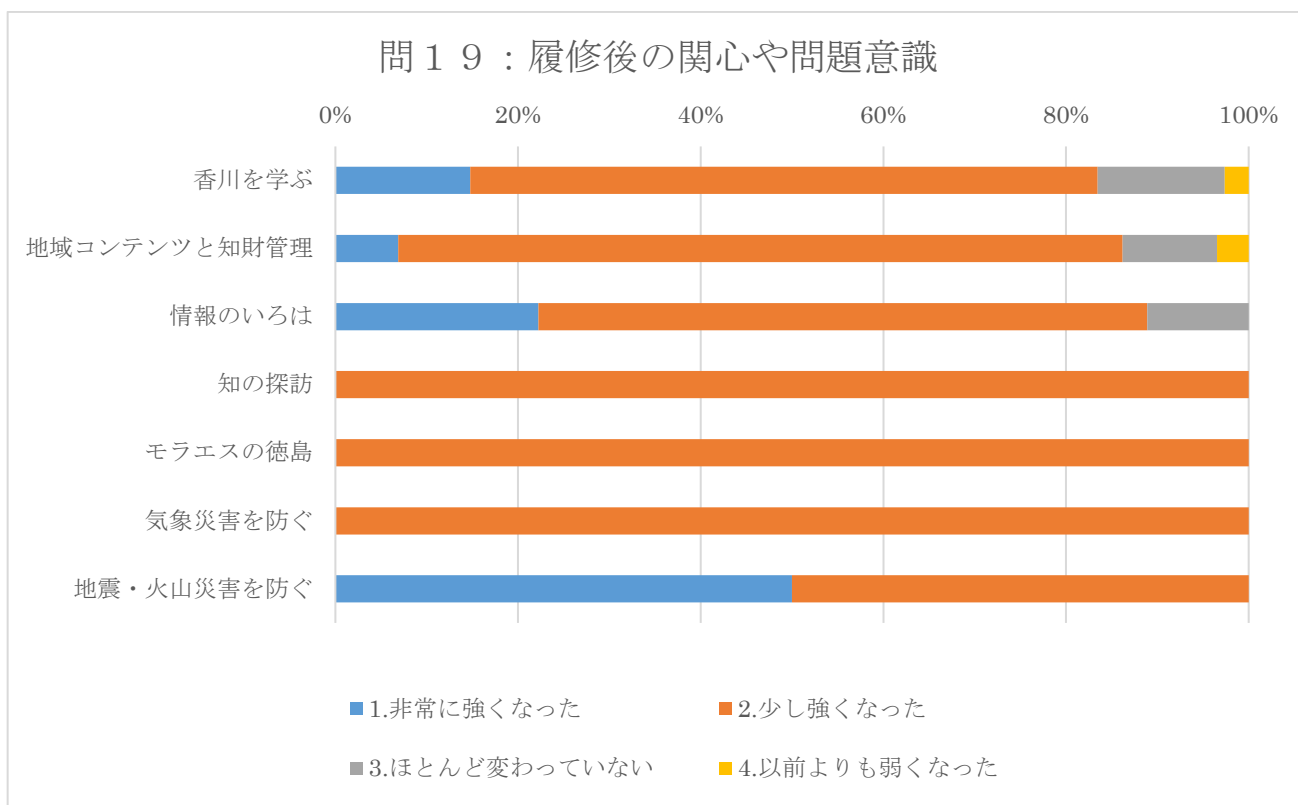
問 18. 授業をわかりやすくする工夫がなされていましたか？

	1. 非常に工夫されていた	2. 工夫されていた	3. あまり工夫されていなかった	4. まったく工夫されていなかった
香川を学ぶ	10	63	36	5
地域コンテンツと知財管理	5	22	1	0
情報のいろは	5	4	0	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0



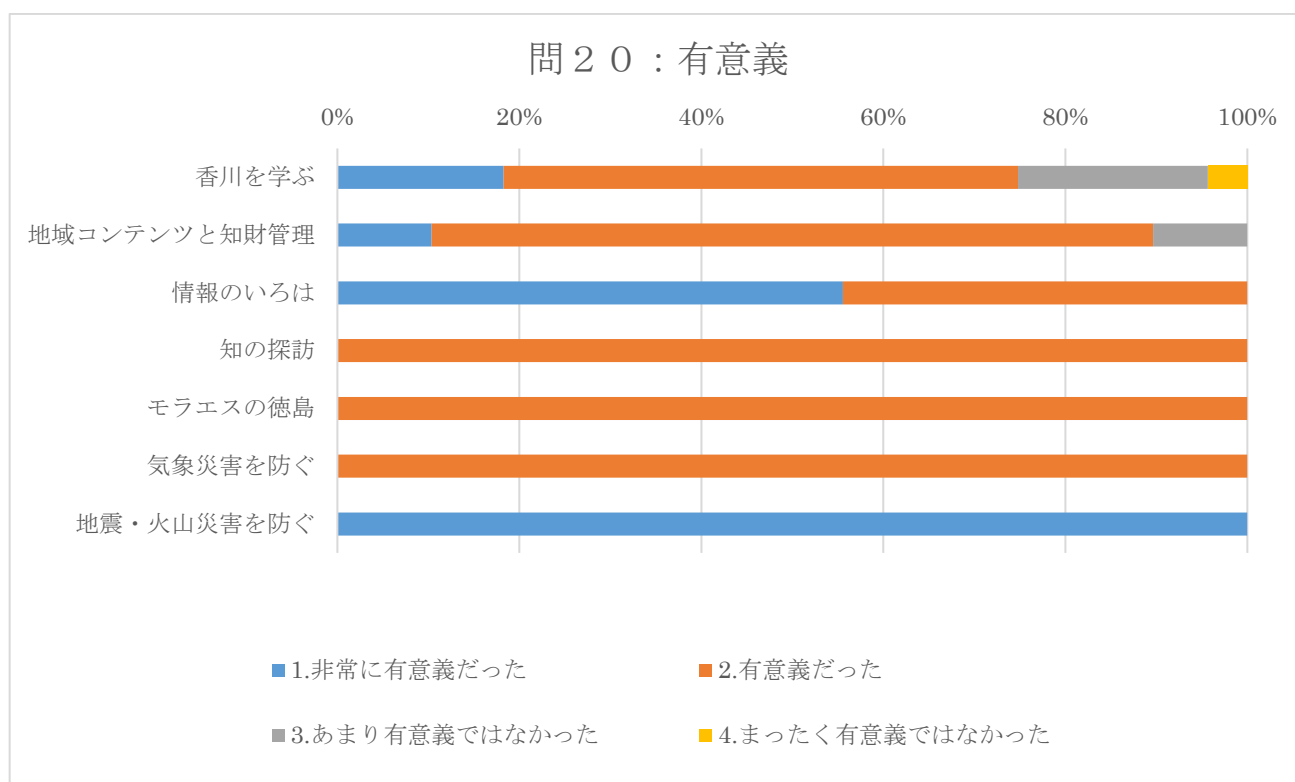
問 19. この授業の内容や関連分野に対する関心や問題意識は、この授業の履修によってどのように変わりましたか？

	1. 非常に強くなった	2. 少し強くなった	3. ほとんど変わっていない	4. 以前よりも弱くなった
香川を学ぶ	17	79	16	3
地域コンテンツと知財管理	2	23	3	1
情報のいろは	2	6	1	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0



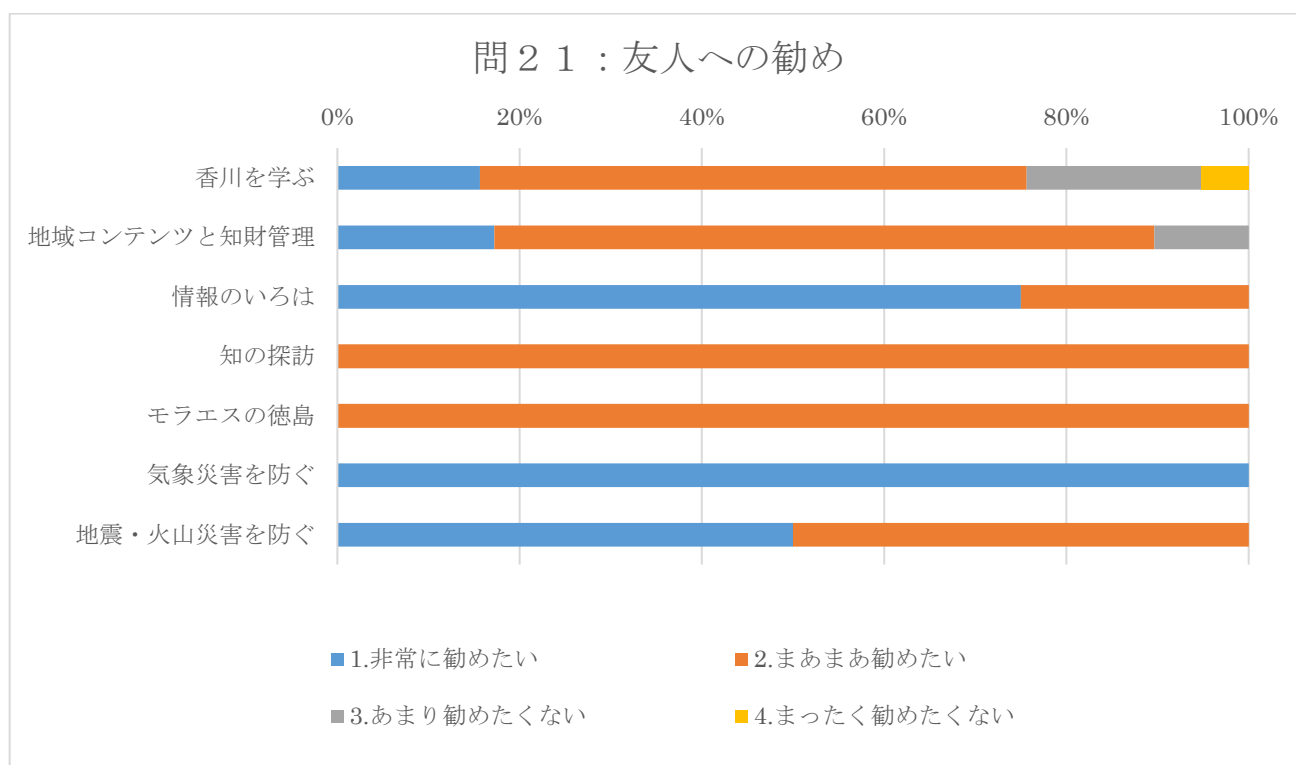
問 20. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？

	1. 非常に有意義だった	2. 有意義だった	3. あまり有意義ではなかった	4. まったく有意義ではなかった
香川を学ぶ	21	65	24	5
地域コンテンツと知財管理	3	23	3	0
情報のいろは	5	4	0	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	0	1	0	0
地震・火山災害を防ぐ	2	0	0	0



問 21. この授業を，友人や後輩にお勧めしたいですか？

	1. 非常に勧めたい	2. まあまあ勧めたい	3. あまり勧めたくない	4. まったく勧めたくない
香川を学ぶ	18	69	22	6
地域コンテンツと知財管理	5	21	3	0
情報のいろは	6	2	0	0
知の探訪	0	3	0	0
モラエスの徳島	0	1	0	0
気象災害を防ぐ	1	0	0	0
地震・火山災害を防ぐ	1	1	0	0



問 22. この授業について、良かった点を、具体的にお書きください。

香川を学ぶ	香川県の歴史など様々なことについて知ることが出来、香川県についてもっと知りたいと思うようになった。
香川を学ぶ	一週間でいつでも受けることができること
香川を学ぶ	自分のペース学習を進められた点。 香川に関する問題が、様々な角度から考察できる点。
香川を学ぶ	好きな時間に授業を受けられたので、自分の時間を有効に使うことができました。
香川を学ぶ	自分のペースで勉強できること。
香川を学ぶ	香川について新しく得る知識が多かった点。 自分の都合に合わせて講義が受けられた点。
香川を学ぶ	好きな時間に受けることができる
香川を学ぶ	様々な知識を身につけることができ、いろいろな分野への興味が広がった
香川を学ぶ	香川についていろいろ知れたこと。
香川を学ぶ	知らないことを勉強ができました。特に香川のことです。
香川を学ぶ	香川のことをより知ることができた。
香川を学ぶ	色んなジャンルについて学べたので、幅広く大まかな知識が身につきました。 四国の大学に通っているのだから、せっかくなので四国についてもっと知りたいと思い、受講しました。その点は良かったと思います。
香川を学ぶ	興味がある内容は何回でも学習し考えることができた。
香川を学ぶ	面白い授業が何回かあったこと。
香川を学ぶ	香川について知れたこと
香川を学ぶ	香川の文化について興味深いことを題とした講義が多く、タメになる講義だということを実感できた点。
香川を学ぶ	香川について様々な視点から学べた点。
香川を学ぶ	テーマ別で数回ごとに分かれた授業は流れとしてとても分かりやすかった。
香川を学ぶ	自分の住んでいる地域について、見落としている点に気づき、深く考えることができた。 主に香川県を学ぶことで、日本にある問題について真剣に考えるよい機会になった。
香川を学ぶ	香川についていろいろと知ることができた。
香川を学ぶ	いろいろな知識が得れた
香川を学ぶ	いろんな方向の講義を受けることができる。
香川を学ぶ	要旨をまとめる力が身につく。
香川を学ぶ	香川県について、より深い教養を得られたこと
香川を学ぶ	講義資料が添付されていたこと。
香川を学ぶ	聞き逃したら、何度も再生できること。
香川を学ぶ	自分が滞在している香川について総合的に知ることができた。
香川を学ぶ	自分の都合のよい時間に講義を受けることができ、フィールドワークなどを通して香川について自ら学ぶこともできた。
香川を学ぶ	香川県について知るきっかけができた
香川を学ぶ	私は香川県にほぼ無知の状態だったので、これから香川大学に通うものとして香川の知らない情報をたくさん知ることが出来て楽しかったです。
香川を学ぶ	香川について深く学べたこと。
香川を学ぶ	香川県で生活する上で、さまざまな産業や、特色など、知っておくべきことが知れたこと。
香川を学ぶ	地域活性化やその地域の抱えている問題点について学び考えることでよりふかいしきを得ることができた。 また中間レポートや期末レポートを作ることでレポート作成の力もつけることができた。

	さらにフィールドワークなどを経験する機会もできて非常に有意義だった。
香川を学ぶ	先程述べたので、その通りである
香川を学ぶ	香川県のいろいろなことを知ることができる。
香川を学ぶ	今まで関心がなかったことに関心をもてたり、危機感をもっていなかったものに危機感をもてたりと非常に自分のためになった点。
香川を学ぶ	自宅でできるので自分のペースで課題に取り組むことができた。
香川を学ぶ	香川の知らなかったことを知ることができた。
香川を学ぶ	今までは、香川県について表面的なことしか理解できていなかったが、本講義を通して、香川県に対する知見を深めることができました。そのため、香川県における地場産業や中小企業について考えるきっかけとなったという点が、私が良かったと思う点です。
香川を学ぶ	好きな時にできる。
香川を学ぶ	香川について理解を深めることができた。
香川を学ぶ	分からないところがあれば、もう一度聞くことができる
香川を学ぶ	自宅学習ができること。
香川を学ぶ	講師が様々で、幅広い話が聞けたこと
香川を学ぶ	自分が今まで知らなかった香川について知ることができた所
香川を学ぶ	自分の知らない香川県についての知識を得ることができたので良かった。
香川を学ぶ	香川県の現状を知れる。
香川を学ぶ	香川について興味を持って学ぶことができた。
香川を学ぶ	実際の企業の話が聞いて良かった。
香川を学ぶ	いつでも受講できる点
香川を学ぶ	いつでも授業ができたので自由度が増した。 小レポートで文章を書くので苦手意識が小さくなった。
香川を学ぶ	香川についてあらゆることを学ぶことができて今後役に立ちそうだと感じた。
香川を学ぶ	香川の魅力を再認識できた
香川を学ぶ	授業が公開されてから1週間という期間があり、自分の好きな時間帯に学習できた点。
香川を学ぶ	課題が授業内容の要約であったため、講義後に要約を行うことでさらに理解を深めることができた。また、重要な部分を聞き逃してはならないという意識があったため、90分間集中して聞くことができた。 好きな時間に受けることが可能であったため、週末の空いた時間を活用することができ、さらに、体調が万全な姿勢でのぞむことができた。 さまざまな分野の専門家の話を聞くことができ、知識の幅を広げることができた。 毎回の課題に関してフィードバックがあることで、モチベーションが上がった。
地域コンテンツと知財管理	著作権法や意匠法等、これまで自分にとって、関わりが少なかった法律のことを知り、理解することが出来た点。
地域コンテンツと知財管理	説明が分かりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	先生が面白く見やすかった。
地域コンテンツと知財管理	知的財産法の基本を学ぶことができたこと。
地域コンテンツと知財管理	講師の説明が分かりやすくよかった
地域コンテンツと知財管理	e-learningの良さをいかせていてよかったです。
地域コンテンツと知財管理	法律に関する事柄を重要な点に絞って説明されていたので、初めて学ぶ際に要点が分かり易く、効率の良い勉強ができた点。
地域コンテンツと知財管理	法律系というとつきにくい内容だったが、説明がわかりやすかった
地域コンテンツと知財管理	知的財産法について初歩的な知識を身に付けることができた。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
情報のいろは	私たちの身近にある情報の知識について理解を深めることができてよかったと思います。

情報のいろは	初めて知ることばかりで、面白く感じられた。
情報のいろは	講義の中で少し難しいところがあり理解に苦しんでいた時でももう一度再生して見直すことのできるのので大学で行われる講義と違ってかなり助かりました。
情報のいろは	講師の授業進行が非常に人を引き付け、又、不明な個所のメールを送った際、質問に対するレスポンスが早く、よい授業だと感じた。
情報のいろは	講義を受けるタイミングを自分で決めることができる点。
知の探訪	自分の知りたい内容の講義を、初学者の段階で概要だけでも知ることができたのはおおいに良かったと思う。
地震・火山災害を防ぐ	テストの日程がほかの授業とずれていること
地震・火山災害を防ぐ	講義動画の隣に資料があり、学習しやすかったです。 ただ、動画と資料の配置は統一してくれていたほうが、より親切だったかと思えます。

問 23. この授業について、改善してほしい点を、具体的にお書きください。

香川を学ぶ	時々、音声ほとんど聞き取れないことがあったので困った。
香川を学ぶ	ところどころではなく、すべてにおいて何を言っているか聞き取れない回があつて、レポートに困った。
香川を学ぶ	テスト週間前になってから一気に2, 3つレポートを出されるのが困るほかの授業があることを考えて時期を決めてほしい
香川を学ぶ	情報が早めに確実に回るといいと思います。
香川を学ぶ	たまに音質が悪くて聞き取れない講義があつたので、何らかの対応をとってほしい。
香川を学ぶ	ものすごく時間をかけて作成したレポートと、ものの数十分で仕上げたレポートが同じ評価点であつたのには驚きました。 たった3点満点で評価するのは少し低すぎると思います。
香川を学ぶ	音質を良くしてほしいです。
香川を学ぶ	音質が悪い点。授業が進んでない部分や内容に関係のない部分が多い点。
香川を学ぶ	講義によって音声聞こえづらいものがあつた点。
香川を学ぶ	音声わるい。 聴き取りにくい講義がある。
香川を学ぶ	映像の音声をもう少し聞こえやすくしてほしい
香川を学ぶ	課題の工夫。
香川を学ぶ	特にないです
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	話が難しい人の話が早口や詰まり詰まりだと全く内容が入ってこない
香川を学ぶ	照明がつけっぱなしでスクリーンが見えないことや、雑音が入っているところ。また、よくわからない授業が何回もあつた。
香川を学ぶ	聞き取りやすい映像にしてほしい
香川を学ぶ	録音環境をもう少し改善してほしい。
香川を学ぶ	ビデオの見やすさをもう少し重視して欲しい。
香川を学ぶ	IIの問い9に同じ。
香川を学ぶ	雑音を消してほしい。もっと詳しく香川県のことについて学べる授業にしてほしい。
香川を学ぶ	すべての授業できちんと音声聞き取れるようにして欲しい。
香川を学ぶ	いらぬ部分のカット
香川を学ぶ	音声が不明瞭なことがある。 (先生の滑舌や話す速さ(ビデオを介すことでより聞き取りにくくなっている。ビデオを撮る周囲がうるさいため雑音が入っている等) 授業の内容が4~5年前のことがあるので既に内容が変わっていることもある。(四国の地域振興の方だが、2014年に(2013年ではなく)2010年の瀬戸芸の話をする←2009年撮影のため) 続き物の講義の途中1回を受けることになるので、前回説明した通りなどと言われても何のことかわからない。 (こちらに書くのもなんですが、四国の地域振興の方で、四国であるにも関わらず、知事へのインタビューを除いて徳島県と愛媛県の話がなかったのは残念です。)
香川を学ぶ	音質の改善
香川を学ぶ	映像が長い時があるので、なるべく講義と同じ90分に収めてほしい。
香川を学ぶ	少し授業の動画の画質が悪いことや、時々途中で停止してしまうこともあつたので、そのあたりのシステムの改善を希望します。
香川を学ぶ	黒板が見づらいこと。
香川を学ぶ	うまくファイルを開けないこともある。
香川を学ぶ	16回目の課題レポートは不要である。
香川を学ぶ	話が聞き取りにくい授業は取り上げないでほしい。
香川を学ぶ	時間帯によってつながりにくくなる点がある点。

香川を学ぶ	音質が悪い。 「音質が悪いところがありますが了承して下さい」と注意書きをすればいいわけではない。聞こえないとレポートが書けない。 特に第5回が全く聞こえなかった。「一部」ではなく全体的に聞こえない。 工場に実際に行っているという講義の時、アニメーションはこだわっているようだったが、やはり音が悪い。 無駄な音を消すためのソフトはたくさんあるのに音については何もせず、題名を書いてみるなどのこだわりをする意味が分からなかった。 初めの授業で「最低限の情報リテラシーがない生徒は受講しないでください。」という台詞を言うならば言うだけのことをしてほしい。
香川を学ぶ	毎回の授業で資料が貼ってあるとさらに学習しやすくなると思います。 教授によっては資料のない授業もあると思いますが、少し検討宜しく願います。
香川を学ぶ	期末の課題をもう少し減らすべき。 もしくは、大きなレポートとレポートの課題を出す間の期間を延ばすべき。
香川を学ぶ	ほとんどが他講義の録画をそのまま用いた物で、聞きやすい工夫が全く無かった。独自調査をもっと増やしてほしい。
香川を学ぶ	音声の乱れをできるだけ少なくしてほしい。
香川を学ぶ	ビデオ教材がどうしても聞きづらいときがあるのでそこだけ改善してほしいです。
香川を学ぶ	先程述べたので、その通りである
香川を学ぶ	1つのスライドが長すぎる。 雑音がひどい。
香川を学ぶ	座学で受ける時間以上の時間がかかってしまう点。
香川を学ぶ	課題の問い、評価があいまい。 前期の林先生の講義のように、明確にすべき。
香川を学ぶ	聞きなれない固有名詞が多く出てきて漢字への変換や聞き取れない時の対応が難しかった。
香川を学ぶ	雑音が激しかったり、声が小さく聞こえにくい場面があったので、改善してほしい。
香川を学ぶ	漆器に関する講義があったと思いますが、その回だけ音声聞き取りにくかったです。 一部聞き取りにくい部分があるという点については承知していますが、漆器に関する講義の回については、かなり聞き取りにくかったです。 そのため、その点を改善すれば、「香川を学ぶ」はより良い講義になるのではないかと思います。
香川を学ぶ	難しめな内容のときは毎回資料があるとありがたい。
香川を学ぶ	講義内容をきちんと理解してレポートを提出したが、映像を最後まで視聴してないとされ0点だった点。
香川を学ぶ	期末年末のレポートや、それに対する考察のレポートなど課題が多い
香川を学ぶ	聞き取りづらいところ
香川を学ぶ	聞き取りにくい回は改善すべきだと思う。 聞き取りにくいだけでやる気がぐっと低下してしまう。
香川を学ぶ	黒板に書いてあることが見えにくいので見えやすくしてほしい。 授業によっては先生の声が小さかったり周りがうるさかったり謎の雑音が入ったりして聞き取りにくいことがあったので改善してほしい。
香川を学ぶ	手軽にスマートフォンで見れば嬉しい。 いっそ、全国の大学間で共通アプリを作ってみてはどうか。
香川を学ぶ	締め切りが近づいてきたらメールなどを通して知らせてほしい
香川を学ぶ	音質を上げてほしい
香川を学ぶ	動画の音質などが非常に悪く、生で授業を聞くほうが有意義だと感じた。
香川を学ぶ	授業の内容が数年前のものであったり、大きい講義室で講師の方が話してく

	ださっていても聞き取りにくい時が多々あった。 内容が数年前のものであると、現在の状況とは違うため、正確な情報ではない場合もあると思う。
香川を学ぶ	音声聞き取れない授業ビデオがあるので聞き取りやすいビデオだけにしてほしい。
香川を学ぶ	ただの企業説明の回があったり、料理教室のような回があったり、面白いこともあるがよくわからないこともある。 音声非常に聞き取りにくい回もあり、字幕を付けるかきちんとした録音環境で収録してほしい。
香川を学ぶ	音質改善
香川を学ぶ	もっと聞き取りやすくしてほしい。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	映像の中で、聞き取りづらいものがあった。授業の要約を作成するのがとても難しかったので、改善してほしい。 また、レポートの回数が多いと思う。もう少し少なくしたほうがよいのではないか。
香川を学ぶ	音声に入る雑音をもう少し減らしてほしい講義もあったのでできる限り改善してほしい。 板書や資料が少なく字が分からない講義もあったのでその場合には適宜メモなどが用意されたかった。
香川を学ぶ	聞きづらい動画があった。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	学校内でも、いつでも(休日でも)パソコンを使用できる環境にして欲しい。
香川を学ぶ	公開された資料を使っていない授業があったので、適切な資料を公開してほしい。
香川を学ぶ	音声聞き取りにくいことがあったので改善して欲しい。 また、聞き取りにくいという意見があり、実際にそれが確認できた回では、課題の改善(たとえば、別課題にする、その週の点数比率を減らす)など臨機応変な対応をしてほしい。
地域コンテンツと知財管理	特にありません。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	授業時間の配分を一定にしてほしい
地域コンテンツと知財管理	特にはないですが、あえて挙げるならば「できれば追加コンテンツを製作してほしい」というぐらいです。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	小テストをやるのはいいんですけど、答えの解説をもう少し丁寧に書いていただけたら、もっと理解が深まると思います。 また、年末の週の授業についてなのですが、他の普通の授業は行われていなかったのに、その週に授業が配信されていたのに気付かなかったです。だから、普通の授業がない週に配信しないでほしいです。
情報のいろは	わかりやすい所は非常にわかりやすかったけれど、難しい所は理解するのが大変でした。
情報のいろは	工学的な要素が強く、理系ではないと理解に苦しむところも多々あった。浮動小数点やビットシフトの回など。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	情報系と工業系が中心の内容から派生した現代経済学に応用できる数学的内容を追加してほしい。
情報のいろは	音が途切れてしまうところが、まれにあったので、改善するとすれば、その所くらいです。
気象災害を防ぐ	深層崩壊のビデオ(NHKの特集)の著作権に関するテロップが、たまに番組のテロップとかぶっていて読み取りにくかったです。 堤防を越える洪水の種類のリジュメ表示部分の文章が写真とかぶって全て

	読めないので、文章を読めるようにしたほうが親切かと思います。
知の探訪	ビデオの時間が90分という、徳島大学の一時限の授業よりも長いことが多々見受けられた。そこは講義資料を配布するなどして、もう少し時間を縮めるように工夫してもらいたい。
地震・火山災害を防ぐ	テストに関しての説明がよくわからなかった。(映像授業の生徒も資料持ち込み可能なのかなど)
地震・火山災害を防ぐ	第8回と第9回の講義内容が入れ替わっていたので、訂正をお願いします。第12回のビデオ1・2の内容の違いが試験の告知だけだったので、どちらか一方だけでよいと感じました。

1) 実施概要

平成 27 年度に開講した以下の科目について、履修者を対象に Moodle 上で科目の改善を目的としたアンケートを実施した。実施期間は各科目終了後、1 か月程度である。またアンケートは匿名で実施した。

開講大学	科目名	回答者数	承諾者数
香川大学	香川を学ぶ	72 名	59 名
	地域コンテンツと知財管理	124 名	123 名
	情報のいろは	27 名	27 名
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	5 名	4 名
徳島大学	知の探訪	9 名	9 名
	モラエスの徳島	5 名	4 名
	日本におけるドイツ兵捕虜	13 名	11 名

2) アンケート結果（主なコメント）

<よかった点（自由記述）>

- ・ 香川を学ぶ：香川についてより深い知識を得ることができた。
- ・ 地域コンテンツと知財管理：説明が分かりやすい。
- ・ 情報のいろは：資料や説明が分かりやすい。
- ・ サイエンスリテラシーの化学：先生からコメントをもらえ、コミュニケーションがとれた。
- ・ 知の探訪：様々な分野の講義を受けられた。
- ・ モラエスの徳島：モラエスについて詳細に知れた。
- ・ 日本におけるドイツ兵捕虜：関連施設の紹介や対談等があってわかりやすかった。

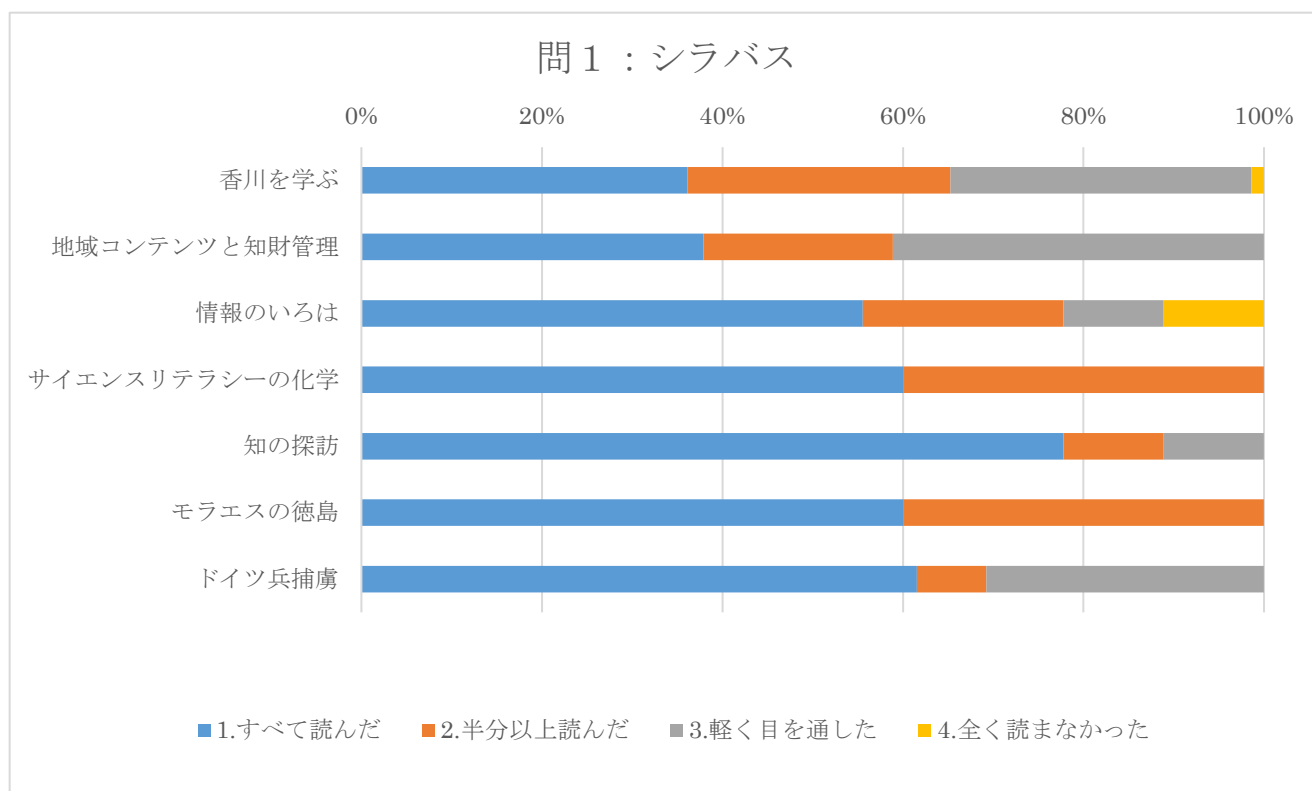
<改善要望（自由記述）>

- ・ 香川を学ぶ：音質の改善。
- ・ 地域コンテンツと知財管理：小テストの解答と解説がほしい。
- ・ 情報のいろは：特になしという意見が多い。その他、音質や画質の改善
- ・ サイエンスリテラシーの化学：コメント欄がわかりにくい。
- ・ 知の探訪：授業の進行速度を遅くしてほしい。
- ・ モラエスの徳島：課題の内容が毎回似ていたので、変えてほしい。
- ・ 日本におけるドイツ兵捕虜：ビデオやパワポの文字が多い。

3) アンケート結果詳細

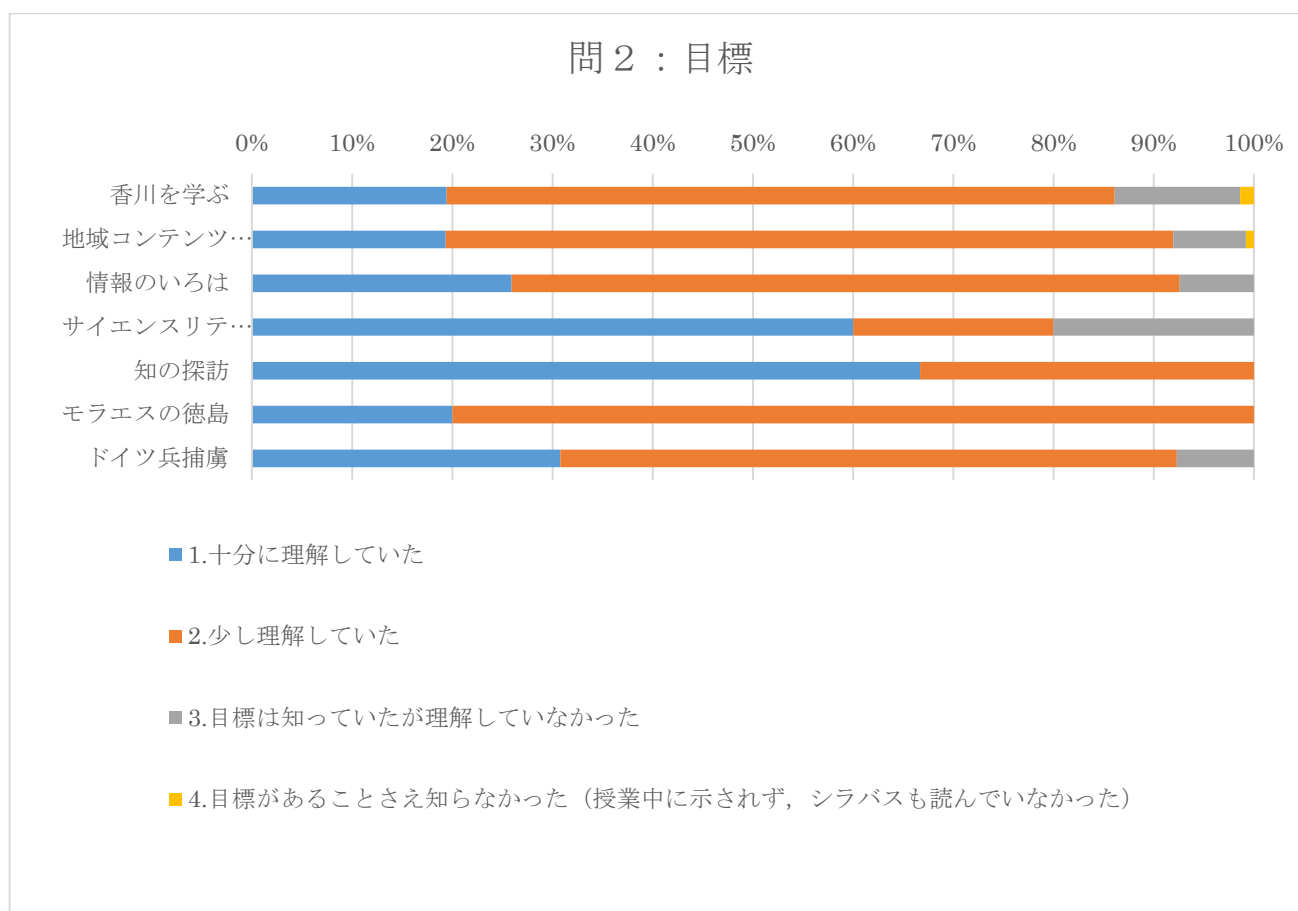
問1. 授業を受ける前にシラバスを読みましたか？

	1. すべて読んだ	2. 半分以上読んだ	3. 軽く目を通した	4. 全く読まなかった
香川を学ぶ	26	21	24	1
地域コンテンツと知財管理	47	26	51	0
情報のいろは	15	6	3	3
サイエンスリテラシーの化学	3	2	0	0
知の探訪	7	1	1	0
モラエスの徳島	3	2	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	8	1	4	0



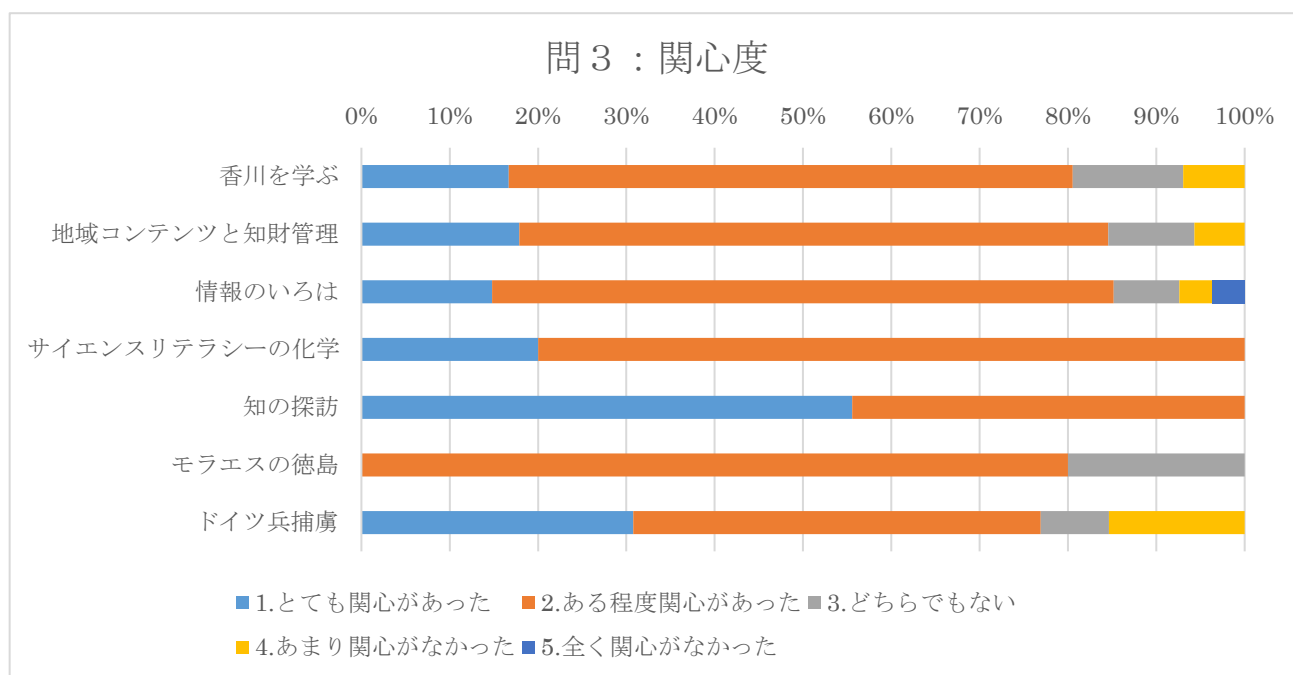
問 2. シラバスや授業中に示された授業の目標を, どの程度理解していましたか?

	1. 十分に理解していた	2. 少し理解していた	3. 目標は知っていたが理解していなかった	4. 目標があることさえ知らなかった (授業中に示されず, シラバスも読んでいなかった)
香川を学ぶ	14	48	9	1
地域コンテンツと知財管理	24	90	9	1
情報のいろは	7	18	2	0
サイエンスリテラシーの化学	3	1	1	0
知の探訪	6	3	0	0
モラエスの徳島	1	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	8	1	0



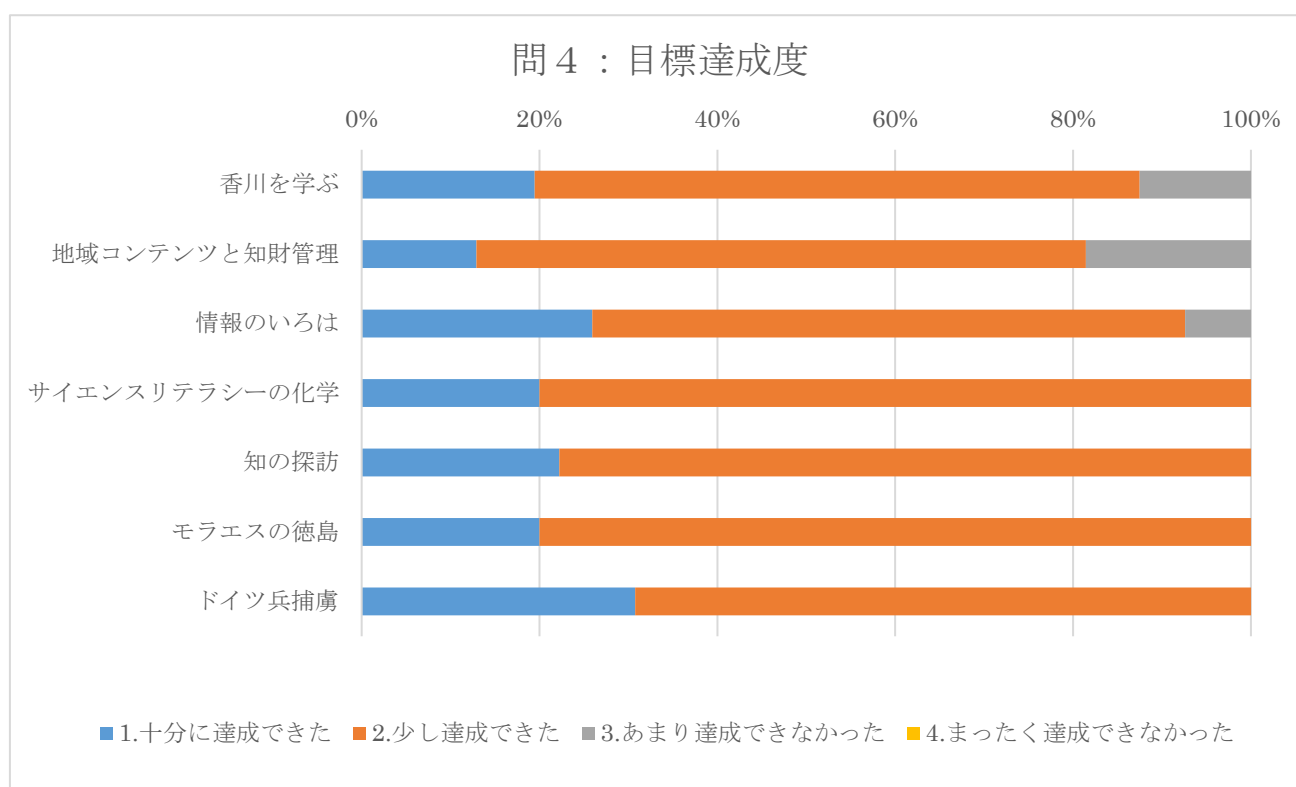
問3. 授業を受ける前の関心度はどうでしたか？

	1. とても関心があった	2. ある程度関心があった	3. どちらでもない	4. あまり関心なかった	5. 全く関心なかった
香川を学ぶ	12	46	9	5	0
地域コンテンツと知財管理	22	82	12	7	0
情報のいろは	4	19	2	1	1
サイエンスリテラシーの化学	1	4	0	0	0
知の探訪	5	4	0	0	0
モラエスの徳島	0	4	1	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	6	1	2	0



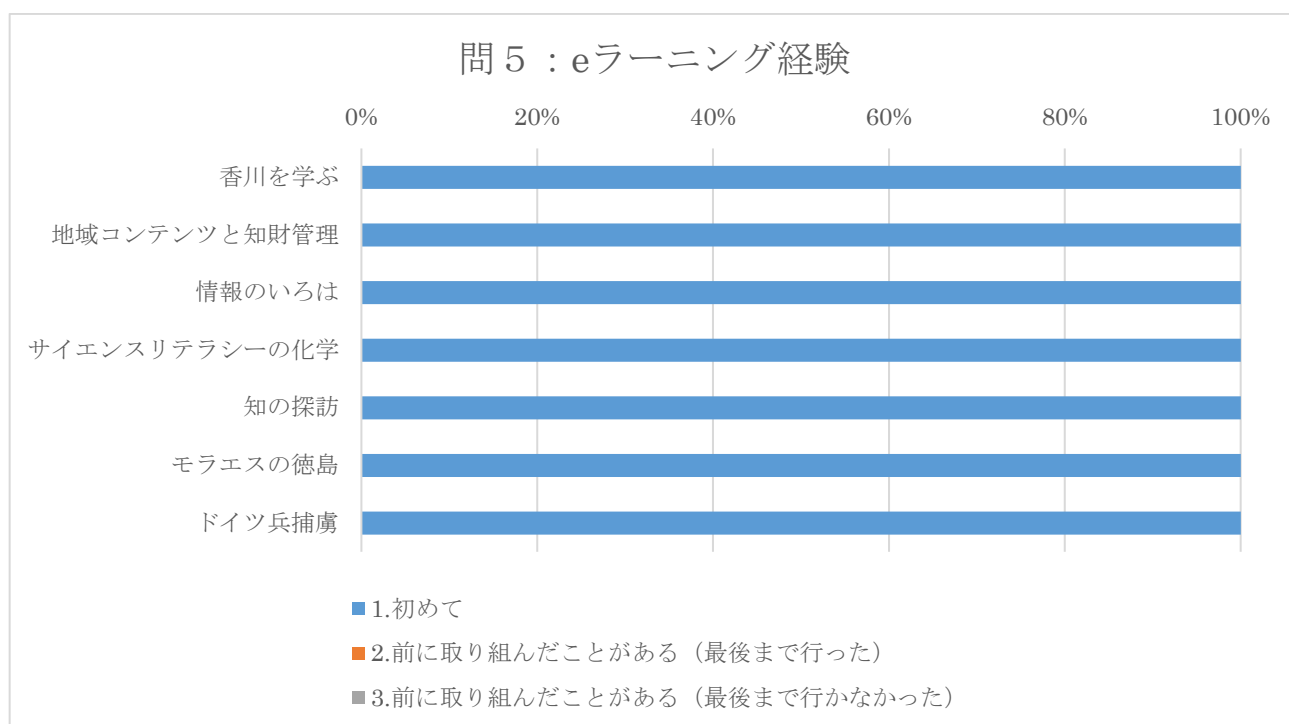
問 4. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか？

	1.十分に達成できた	2.少し達成できた	3.あまり達成できなかった	4.まったく達成できなかった
香川を学ぶ	14	49	9	0
地域コンテンツと知財管理	16	85	23	0
情報のいろは	7	18	2	0
サイエンスリテラシーの化学	1	4	0	0
知の探訪	2	7	0	0
モラエスの徳島	1	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	9	0	0



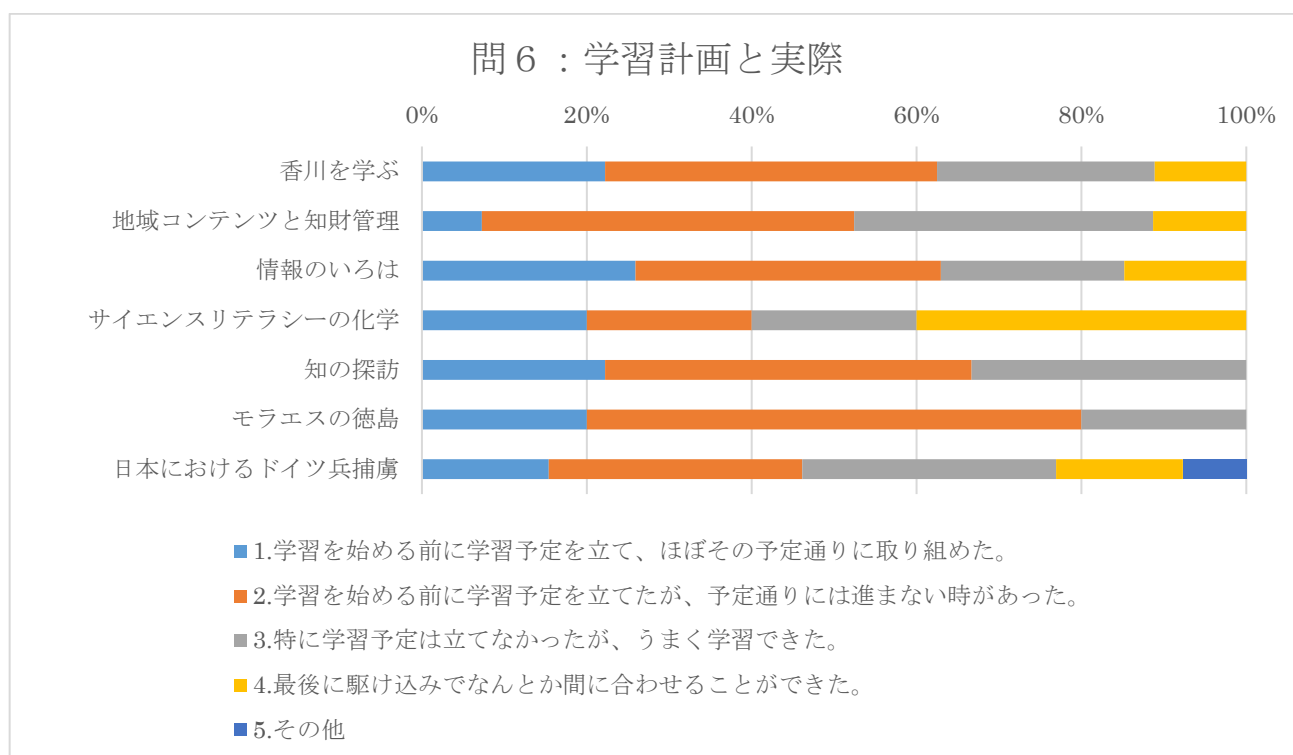
問5. eラーニングの授業は初めてですか？

	1. 初めて	2. 前に取り組んだことがある（最後まで行った）	3. 前に取り組んだことがある（最後まで行かなかった）
香川を学ぶ	56	0	0
地域コンテンツと知財管理	80	0	0
情報のいろは	17	0	0
サイエンスリテラシーの化学	4	0	0
知の探訪	9	0	0
モラエスの徳島	3	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	11	0	0



問 6. 学習予定の立案と実際の進め方について教えてください。

	1. 学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。	2. 学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。	3. 特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。	4. 最後に駆け込みでなんとか間に合わせることができた。	5. その他
香川を学ぶ	16	29	19	8	0
地域コンテンツと知財管理	9	56	45	14	0
情報のいろは	7	10	6	4	0
サイエンスリテラシーの化学	1	1	1	2	0
知の探訪	2	4	3	0	0
モラエスの徳島	1	3	1	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	2	4	4	2	1

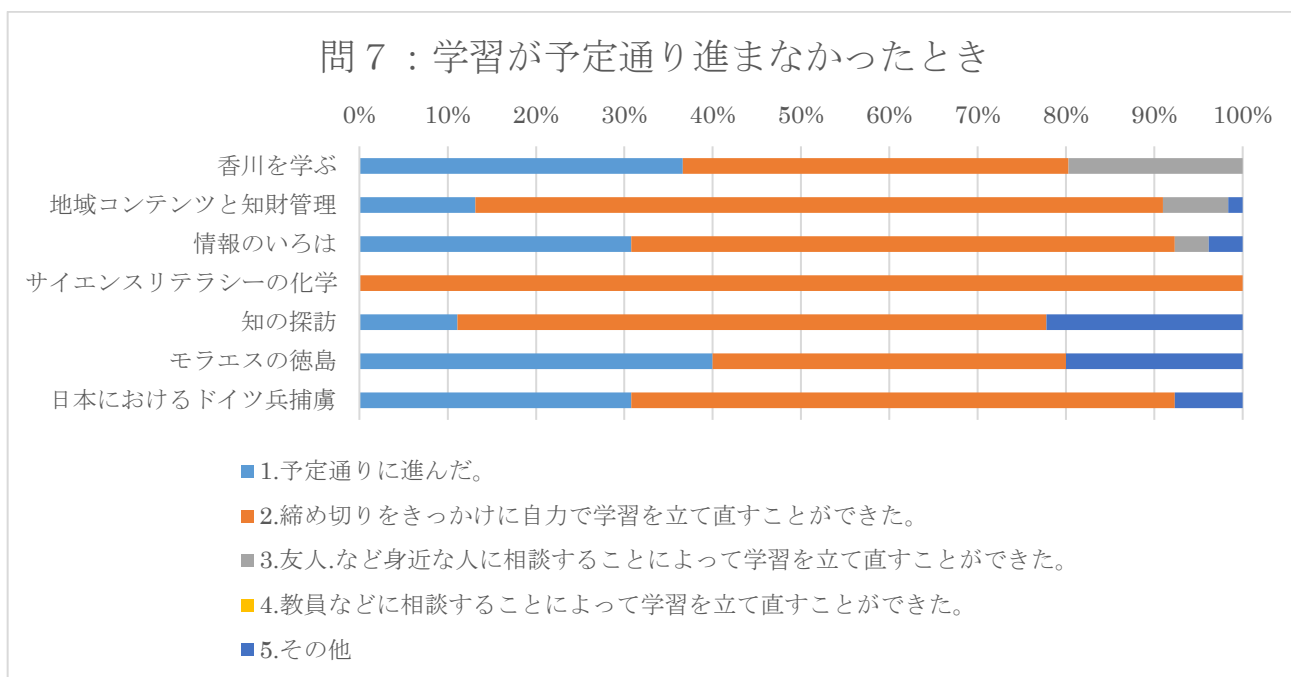


上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

(1) 日本におけるドイツ兵捕虜 / 最後の駆け込みが間に合わなかった。

問 7. 学習が予定通りに進まなかったときのことを教えてください。(予定通りに進んだ方は 1. にチェックしてください。)

	1. 予定通りに進んだ。	2. 締め切りをきっかけに自力で学習を立て直すことができた。	3. 友人. など身近な人に相談することによって学習を立て直すことができた。	4. 教員などに相談することによって学習を立て直すことができた。	5. その他
香川を学ぶ	26	31	14	0	0
地域コンテンツと知財管理	16	95	9	0	2
情報のいろは	8	16	1	0	1
サイエンスリテラシーの化学	0	5	0	0	0
知の探訪	1	6	0	0	2
モラエスの徳島	2	2	0	0	1
日本におけるドイツ兵捕虜	4	8	0	0	1

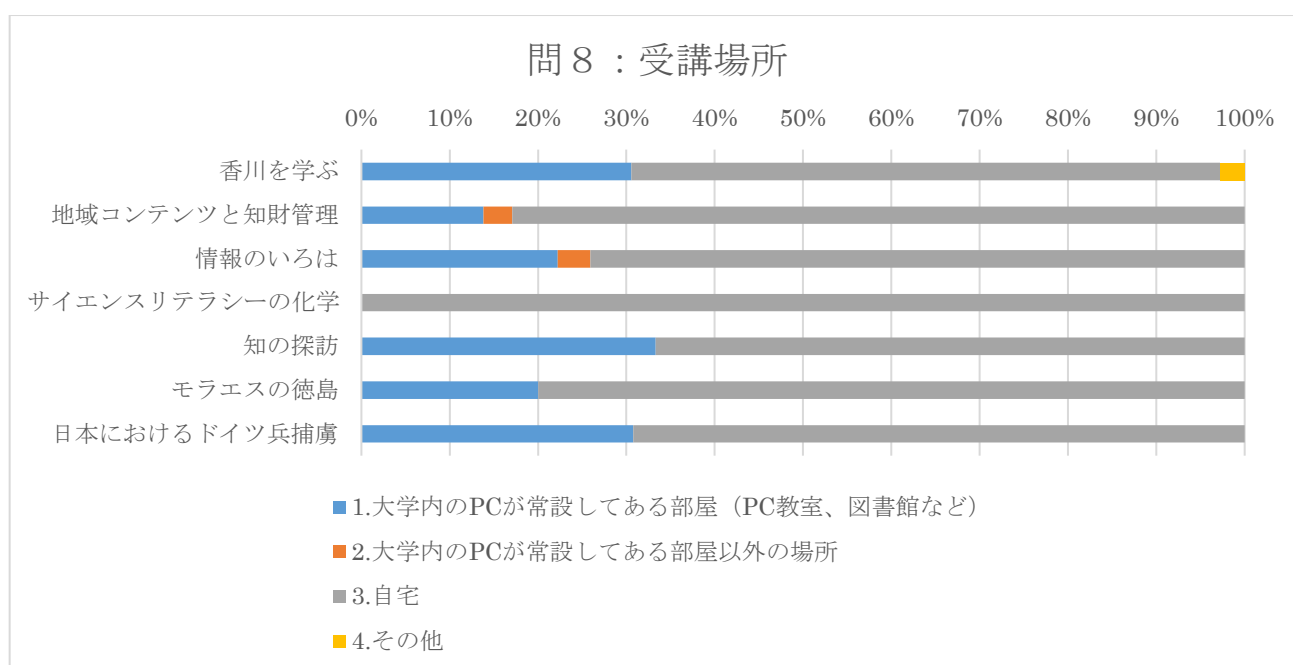


上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

- (1) 地域コンテンツと知財管理 / 当初はやっていたが締め切りぎりぎりにするのが多くなった。
- (2) 地域コンテンツと知財管理 / 期限を忘れることがよくあった
- (3) 情報のいろは / 特に後半で、締め切りなどをスケジュール帳にきちんと控えていなかったため、他事で忙しくなるうちに忘れてしまっていた。締め切りを過ぎてしまったものに関しては、それまでの受講の取り組みや、最終課題への取り組みで補おうことにした。
- (4) 知の探訪 / 締め切りがバラバラで予定がたてられなかった
- (5) 知の探訪 / ガイダンスで説明を受けたときと、実際に定められていた締切の差が大きすぎて、取り組むペースが定まらなかった。
- (6) モラエスの徳島 / 締め切りを守れないことが多々あった。
- (7) 日本におけるドイツ兵捕虜 / 予定を立てなかった。

問 8. 本授業 (e-ラーニング) を受講した場所について、主にどこで受講しましたか？

	1. 大学内の PC が常設してある部屋 (PC 教室、図書館など)	2. 大学内の PC が常設してある部屋以外の場所	3. 自宅	4. その他
香川を学ぶ	22	0	48	2
地域コンテンツと知財管理	17	4	102	0
情報のいろは	6	1	20	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	5	0
知の探訪	3	0	6	0
モラエスの徳島	1	0	4	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	0	9	0

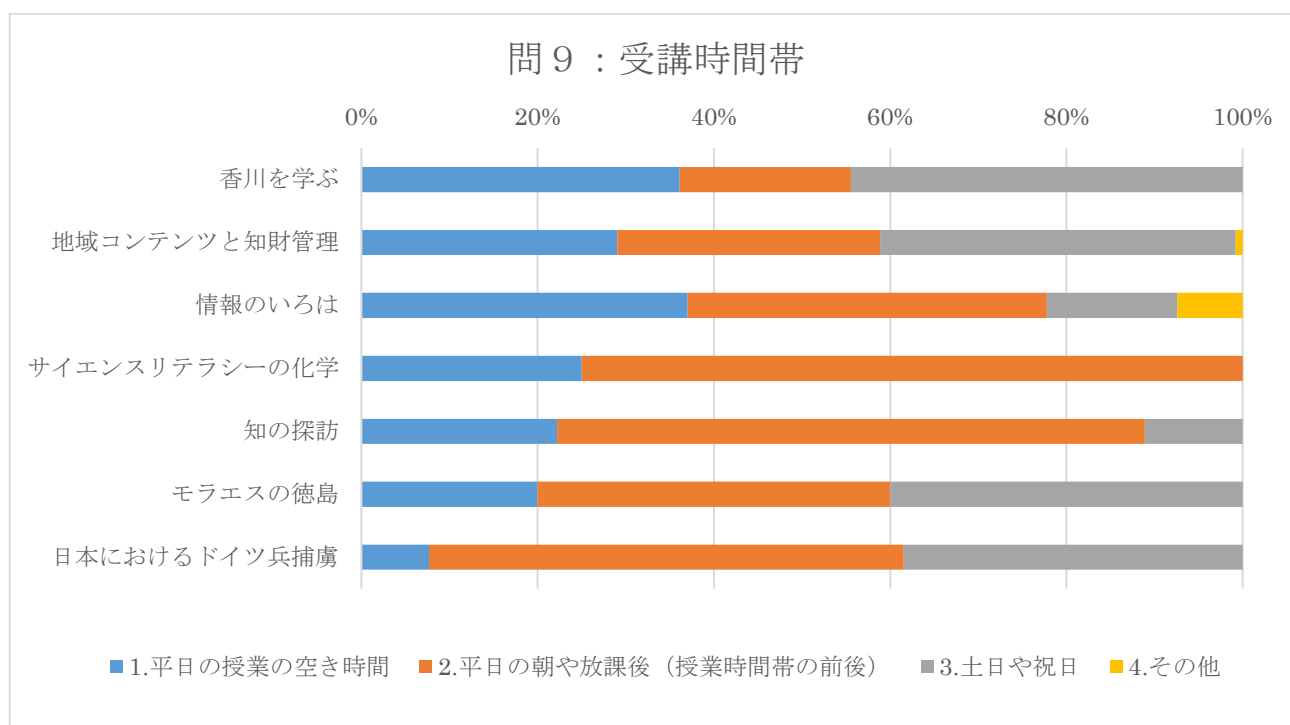


上記で、4. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

- (1) 香川を学ぶ / 大学で、自分の PC を使った。
- (2) 香川を学ぶ / 友達と一緒に

問9. 本授業（eラーニング）を受講した時間帯について教えてください。

	1. 平日の授業の空き時間	2. 平日の朝や放課後（授業時間帯の前後）	3. 土日や祝日	4. その他
香川を学ぶ	26	14	32	0
地域コンテンツと知財管理	36	37	50	1
情報のいろは	10	11	4	2
サイエンスリテラシーの化学	1	3	0	0
知の探訪	2	6	1	0
モラエスの徳島	1	2	2	0
日本におけるドイツ兵捕虜	1	7	5	0

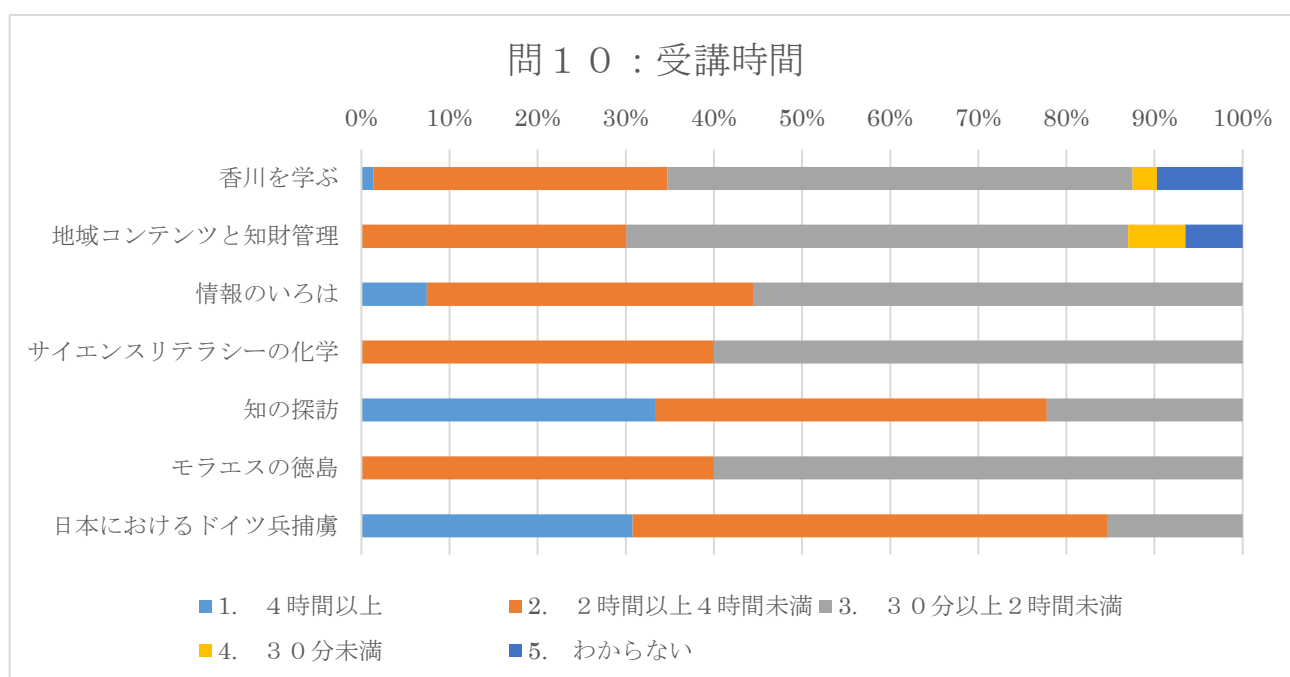


上記で、4. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

- (1) 地域コンテンツと知財管理 / 平日、休日の深夜から朝方にかけて
- (2) 情報のいろは / 平日、土日関係なく主に夜間に取り組んだ。
- (3) 情報のいろは / 締め切りの二日前くらいから夜に行く

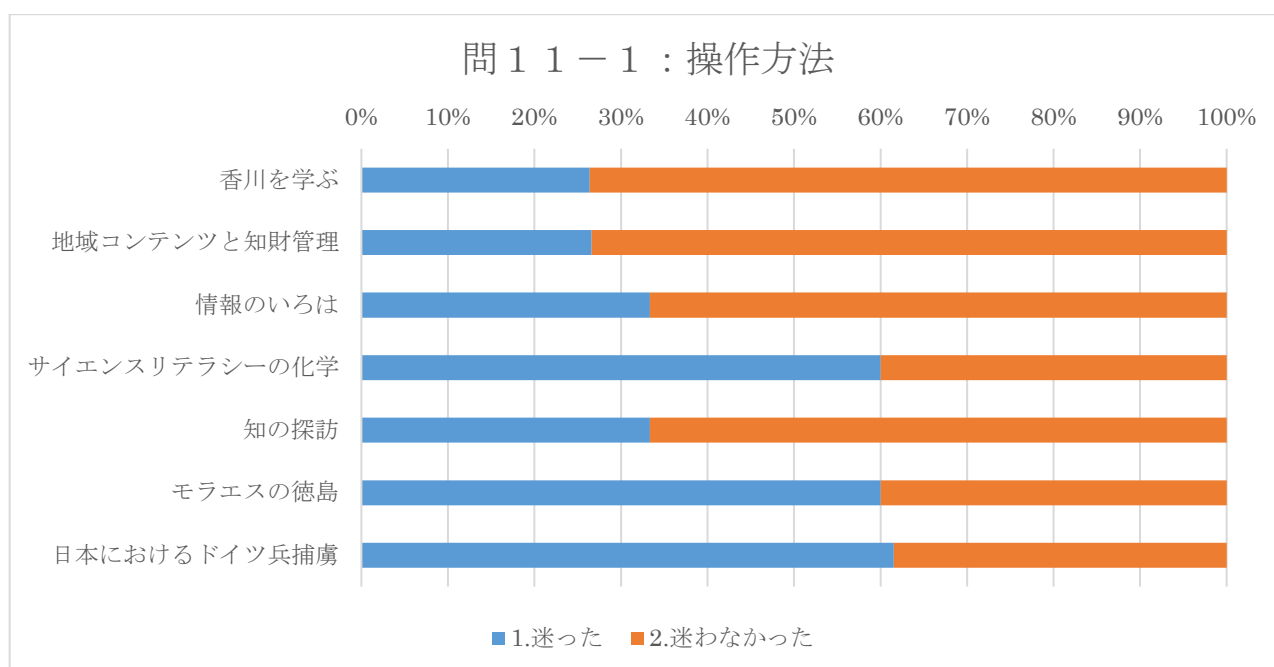
問 10. この授業について 1 週あたり平均して、どの程度、学習（ビデオ視聴、資料収集、文献講読、課題作成等のあらゆる活動を含む）をしましたか？数回分まとめて取り組むことが多かった場合も、できるだけ 1 週あたりに平均して教えてください。

	1. 4 時間以上	2. 2 時間以上 4 時間未満	3. 30 分以上 2 時間未満	4. 30 分未満	5. わからない
香川を学ぶ	1	24	38	2	7
地域コンテンツと知財管理	0	37	70	8	8
情報のいろは	2	10	15	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	2	3	0	0
知の探訪	3	4	2	0	0
モラエスの徳島	0	2	3	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	7	2	0	0



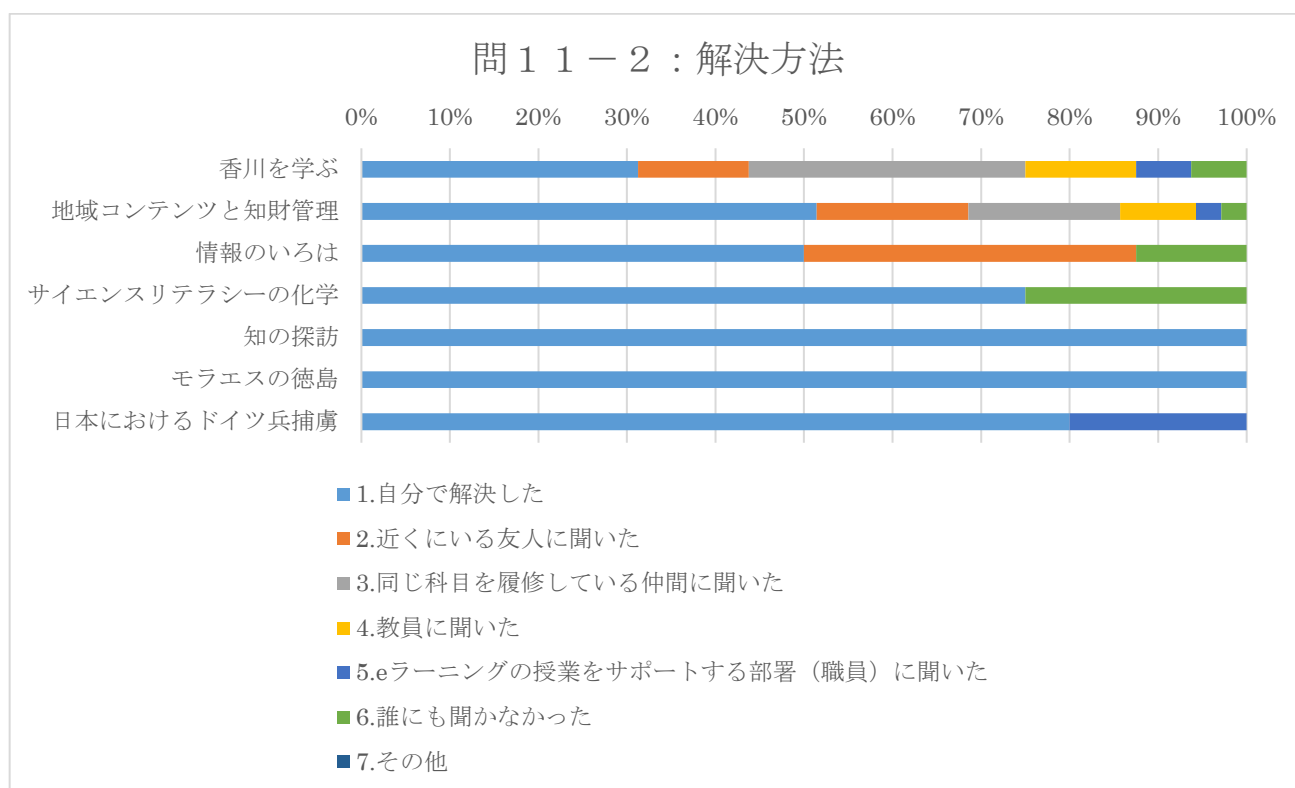
問 11-1. 操作方法で迷ったりしましたか？

	1. 迷った	2. 迷わなかった
香川を学ぶ	19	53
地域コンテンツと知財管理	33	91
情報のいろは	9	18
サイエンスリテラシーの化学	3	2
知の探訪	3	6
モラエスの徳島	3	2
日本におけるドイツ兵捕虜	8	5



問 11-2. 上記で、迷ったとお答えした方にうかがいます。迷った際、どのように解決しましたか？
 (複数回答可)

	1. 自分で解決した	2. 近くにいる友人に聞いた	3. 同じ科目を履修している仲間に聞いた	4. 教員に聞いた	5. eラーニングの授業をサポートする部署(職員)に聞いた	6. 誰にも聞かなかった	7. その他
香川を学ぶ	5	2	5	2	1	1	0
地域コンテンツと知財管理	18	6	6	3	1	1	0
情報のいろは	4	3	0	0	0	1	0
サイエンスリテラシーの化学	3	0	0	0	0	1	0
知の探訪	2	0	0	0	0	0	0
モラエスの徳島	2	0	0	0	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	0	0	0	1	0	0



上記で、7. その他を選んだ方は具体的にお書きください。
 回答なし

問 12. e ラーニングで提供される授業の良いと思う点をお書きください。

香川を学ぶ	自分のペースで学習を進められるところ
香川を学ぶ	授業時間が決まっていないので、自分の空いた時間を活用することができ、便利だった。
香川を学ぶ	自分のペースで授業を進められる。
香川を学ぶ	いつでも授業が受けられる
香川を学ぶ	隙間時間で知識を身に着けることができる点。
香川を学ぶ	自分の好きな時間に自分のペースで学習を進めることができる点。
香川を学ぶ	自分で計画して受講できる。 集中して受講できる。
香川を学ぶ	自宅で自分の好きな時間に受講でき、他の授業との両立が非常に楽になる点。
香川を学ぶ	家で勉強できること
香川を学ぶ	自分の時間で学習できる。
香川を学ぶ	自分のペースで勉強ができる点。
香川を学ぶ	理解できない点を何回でも聞いて、納得できる
香川を学ぶ	自分のペースで学習に取り組むことができる点。
香川を学ぶ	身近な話題について自分の空き時間に学ぶことができた。
香川を学ぶ	自分の好きなタイミングで学習できること。
香川を学ぶ	自分のペースで授業を進めることができるし 困ったときは巻き戻して何度も見る点
香川を学ぶ	自分の勝手に授業を受けれる
香川を学ぶ	複数の先生から講義を受けれること。
香川を学ぶ	いつでも講義を受講できるので良いと思う。また繰り返し見直すことが出来るのも良い。
香川を学ぶ	眠くなったり集中がきれたりしてききのがしてしまった部分をもう一度聞き直すことができるという点
香川を学ぶ	都合のいい時間で受講できる。
香川を学ぶ	都合のいい時間に授業を受けることができる。
香川を学ぶ	いつでも学習できる点
香川を学ぶ	自分で学習の予定を立てられる点
香川を学ぶ	時間の都合がつく点
香川を学ぶ	何度も巻き戻すことができる点
香川を学ぶ	時間に縛られることなく、いつでも映像が見られて、授業を受けられ、見返すこともできる点。
香川を学ぶ	家で授業を受けることができる
香川を学ぶ	空いた時間など好きな時に受講でき、何度も見直して理解を深めることができる点。
香川を学ぶ	聞き逃したところも何度でも聞くことができる
香川を学ぶ	空いている時間に自分のペースで受けられる点
香川を学ぶ	自分のタイミングで出来ること 空きコマを埋められる
香川を学ぶ	何度でも講義を見直すことができること。
香川を学ぶ	自分の好きな時に学習することができる。
香川を学ぶ	学習時間を自分で選べる点
香川を学ぶ	いつでもどこでも受講できる点。
香川を学ぶ	いつでもできる
香川を学ぶ	映像を見るので理解しやすい
香川を学ぶ	いつでもやりたいときにできる。
香川を学ぶ	好きな時に学習できる。
香川を学ぶ	特にないです
香川を学ぶ	自分の好きな時間に受けられる。

香川を学ぶ	自分の都合に合わせて授業を受講出来る点。
香川を学ぶ	時間にとらわれない
香川を学ぶ	時間のある時に自宅で学習できる点
香川を学ぶ	自分のペースで、空いている時間にできる点。
香川を学ぶ	自分のしたいときにできる
地域コンテンツと知財管理	いつでも自由に受けられる所。
地域コンテンツと知財管理	好きな時間帯に学べる・好きな場所で学べる・授業の振り返りが何度もできる
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで勉強することができる。
地域コンテンツと知財管理	自宅や好きな場所、好きな時間で受講できるため勉強の予定などが非常に組みやすい。
地域コンテンツと知財管理	自分の都合で授業を受けられる点。
地域コンテンツと知財管理	自分が暇なときを選んで学習ができる点
地域コンテンツと知財管理	どこでも好きなときに学習できる。
地域コンテンツと知財管理	自宅で学習することができる点と、自分の好きなペースで先生の講義を聞くことができる点。
地域コンテンツと知財管理	学校に行かなくてよい。空いた時間でできる。
地域コンテンツと知財管理	自分のやりたいと思った時間に授業を受けられること。
地域コンテンツと知財管理	途中で止めながら見れること。
地域コンテンツと知財管理	資料が見やすい。何度も授業内容を聞けるので理解しやすい。
地域コンテンツと知財管理	どこでも、好きな時に授業を受けられる。
地域コンテンツと知財管理	自分の好きな時に受けることができる点
地域コンテンツと知財管理	いつでもどこでもできる
地域コンテンツと知財管理	いつでもできる
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで勉強を進められる点。
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで学習できる
地域コンテンツと知財管理	空いた時間に学習できる点
地域コンテンツと知財管理	自由な時間に受けることができる。体調が万全の時に視聴することにより、十分に授業内容が身に付く。
地域コンテンツと知財管理	自分の空いてる時間に授業を受けられること。
地域コンテンツと知財管理	環境さえ整えれば、いつでも授業を受けられる、という点は、やはりeラーニングの最も特徴的な部分でもあり、非常に良い点だと改めて思った。
地域コンテンツと知財管理	自分の好きなタイミングで授業を受けられるところ
地域コンテンツと知財管理	わからないところを繰り返し見れる。
地域コンテンツと知財管理	自分の好きなタイミングで学習を進めることができる。
地域コンテンツと知財管理	学習時間を自分で決めることができる点
地域コンテンツと知財管理	いつでも学習できる
地域コンテンツと知財管理	学校に行かなくても授業を受けられるところ。
地域コンテンツと知財管理	自分に都合のよい時間で講義を受けることができる点。
地域コンテンツと知財管理	ときと場所を選ばず学習することができる
地域コンテンツと知財管理	いつでも自分の好きな時間に勉強できる。
地域コンテンツと知財管理	大人数で受講出来、この授業をとりたい!と思えばとれるところ。
地域コンテンツと知財管理	空いた時間に自分のペースで学習することができる。
地域コンテンツと知財管理	パソコンで話を聞けるので自分の予定に合わせて余裕をもって勉強できる点
地域コンテンツと知財管理	時間を選ばず、好きなタイミングで受講できる点。
地域コンテンツと知財管理	好きな時間帯で学習できる点
地域コンテンツと知財管理	いつでも、どこに居ても受けられる。 15回きちんと受けられる。(普通の講義であれば、1回目:ガイダンスのみ、15回目:テストといった風にコマ数は削られ、15回の講義を受けられることは珍しく思った。) 補講がない。

地域コンテンツと知財管理	好きな時にできる点
地域コンテンツと知財管理	いつでもできる。楽な姿勢でできる
地域コンテンツと知財管理	好きな時にできて、分からないところは繰り返すことができる点。
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで進められる点
地域コンテンツと知財管理	自由に受けれるので、他の授業のレポート提出などの時間のないときは、受けない。逆に時間が空いている時に受けるなど時間をうまく活用できる点。
地域コンテンツと知財管理	いつでもどこでも授業が受けられるところ
地域コンテンツと知財管理	自分の都合のいい時間に学習できる点。
地域コンテンツと知財管理	時間がある時ならいつでも受講できる点 寝坊等の心配がない
地域コンテンツと知財管理	自分のペースでできる点。
地域コンテンツと知財管理	自分の好きな時間に学習できること。
地域コンテンツと知財管理	自宅でも授業が受けれる点
地域コンテンツと知財管理	自分の都合のよい時間に勉強できるのはとても魅力的だと思った。 またビデオを何回も見れるので、復習もやりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	自分の都合に合わせて受講できること
地域コンテンツと知財管理	自分で受講の計画を立てられる点
地域コンテンツと知財管理	好きな時間に好きなところでできること
地域コンテンツと知財管理	自宅できるところ。
地域コンテンツと知財管理	好きな時間に受けられる
地域コンテンツと知財管理	自分の時間でできる。
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで学習できる。
地域コンテンツと知財管理	時間に拘束されない点。
地域コンテンツと知財管理	自分が学びたい分野の内容を、学外に出なくても知ることができ、ありがたい。自分の生活に合わせて無理なく受講できる。実際に講義に出席して受講するのは違った学習方法であり新鮮である。映像であれば、スライドの資料も学外の映像も使えるので、見ていて面白い。
地域コンテンツと知財管理	いつでもできる
地域コンテンツと知財管理	学習計画を自分で立てることができる。
地域コンテンツと知財管理	自分のやりたいときに何度もできる
情報のいろは	わからないところを何度も見れる。
情報のいろは	農学部生徒としては、わざわざ本学まで通わなくてもよい・好きな時間に授業を受けることができるというのは、勉学・時間・金銭面で助かった。
情報のいろは	自分の好きな時に聞くことができる。 授業で大事なところは何度も聞ける点。
情報のいろは	いつでも授業を受けれる点や、授業を見直せる点
情報のいろは	分からない点があった場合繰り返し再生したりが簡単にできること。
情報のいろは	家で学習できる。
情報のいろは	いつでも何度でも学習できる点。
情報のいろは	空いている時間ででき、自分のペースでできる点。パソコンがあり、ネット環境があれば、どこでもできる点。
情報のいろは	自分のペースで学習することが出来る点。
情報のいろは	自分のやりたいときに学習を進められること。
情報のいろは	いつでも受けれることができる
情報のいろは	自分のペースで進められる点。他大学の教授の話をも毎週出掛けなくても聞ける点。気を楽にして取り組める点。 オムニバス形式にしたり、講義室以外の映像資料を使ったりすることが出来る点。聞き逃したところや理解しづらかったところを何回も見直せる点。もう一度振り返って視聴できる点。
情報のいろは	何度でも理解するまで見ることができる。
情報のいろは	自分の空き時間に学習ができる。

サイエンスリテラシーの化学	締め切りが明記されているので自分で勉強計画が立てられ、時間が空いたときに受講できる。
サイエンスリテラシーの化学	自分のペースで学習できる点。
知の探訪	聞き逃した部分をその時に巻き戻して聞き直すことができること。また、理解するまで何度も視聴することが可能である為、個々の理解能力に応じて授業を受けることができる点が良いと思う。
知の探訪	今回、愛媛大学に在籍している私が徳島大学の先生方の講義を受けることが出来たように、大学の垣根をこえて、様々な先生方の講義を受けられる点。
知の探訪	なし
知の探訪	自分の興味関心のある授業が選択できる。 時間を流動的に利用できる。
知の探訪	夜でもできる
知の探訪	比較的、自分のタイミングで授業を受講することができる 自分で計画するという点を身に着けることができる 普段触れることのできない分野の知識を身に着けることができる
知の探訪	自分が取り組みたい時間に講義を視聴することができる。 聞き逃した箇所を再度繰り返し視聴することができる。
知の探訪	時間を気にせずいつでも受講できる点
モラエスの徳島	自由な時間にできる点。
モラエスの徳島	時間に縛られない点。
モラエスの徳島	フレキシブル
モラエスの徳島	いつでも実施できる点と繰り返し視聴できる点
日本におけるドイツ兵捕虜	講義の聴き直しができて、気軽に質問しやすい。
日本におけるドイツ兵捕虜	自分の空いた時間にできる。
日本におけるドイツ兵捕虜	好きな時間にできること
日本におけるドイツ兵捕虜	通常の授業と異なり、教室だけでの授業に留まらず、各地での取材映像や対談などが交えられており、興味を常に持ち続けられた点。また、課題の提出期限は設けられていたものの、自分が好きな時間帯に学習が可能だった点。
日本におけるドイツ兵捕虜	得意なし
日本におけるドイツ兵捕虜	いつでも見られて楽な点。
日本におけるドイツ兵捕虜	自分の好きな時に勉強できる。
日本におけるドイツ兵捕虜	いつでも空き時間に受けられるから予定を立てやすい

問 13. e ラーニングで提供される授業で難しいと思う点をお書きください。

香川を学ぶ	最後にギリギリでしてしまうところ
香川を学ぶ	自分のやる気がそのまま反映される授業のため、気合が入れにくい。
香川を学ぶ	今日はいいかとサボってしまう可能性がある。
香川を学ぶ	モチベーションの維持
香川を学ぶ	当たり前のことだが、ネット環境がないと何もできない点。復習はノートでできるがそれ以外のときはまったく何もできない。
香川を学ぶ	特にありませんでした。
香川を学ぶ	小テストで、どっちにもとれる問題があるときに戸惑い、その場で解決できない。
香川を学ぶ	聞きづらさなど。
香川を学ぶ	わからないところを聞けないこと
香川を学ぶ	忘れそうになることがある。
香川を学ぶ	レジュメの印刷が面倒
香川を学ぶ	授業の内容で理解できなかった点について、その場で質問することが出来ない点。
香川を学ぶ	1人でパソコンの前に座って講義をうけるので、集中力を持続させにくい。
香川を学ぶ	忙しい人はついあとまわしにしてしまうと思う。
香川を学ぶ	自分でしっかり計画を立ててコンスタントに学習していく必要がある点
香川を学ぶ	期限
香川を学ぶ	講義内では消化できない疑問が生じてしまう。
香川を学ぶ	時間が決まっていないため、ついついためてしまうところ
香川を学ぶ	特にない
香川を学ぶ	自分の計画をきちんと達成すること。
香川を学ぶ	提出レポートやテストの期限を忘れることが多々ある
香川を学ぶ	質問をすること
香川を学ぶ	画像が乱れやすい点
香川を学ぶ	実際の授業を映像として使用している回は、黒板やボードに書いてあることが全く見えなかったり、聞き取りづらい部分もある点。
香川を学ぶ	提出期限をたまに忘れてしまう
香川を学ぶ	こまめにチェックしておかないと忘れてしまいそうになる点
香川を学ぶ	期間が短い
香川を学ぶ	質問ができないため、深い理解につながりにくい。
香川を学ぶ	やる気や集中力を保つこと
香川を学ぶ	私は計画通りに進んだが、周囲の友人は計画通りにいかず、ギリギリになってから課題提出を行っていたのでそういった点が難しいのかなと感じた。
香川を学ぶ	自分に甘くなる
香川を学ぶ	質問が簡単にできない
香川を学ぶ	時々アクセスできないときがあった。レポートの課題がアップされるのが遅かった。
香川を学ぶ	特にない。
香川を学ぶ	パソコンを使わなければいけない点
香川を学ぶ	自分の授業の計画を立ててなかったら、計画的にできない。
香川を学ぶ	教授に質問したい場合に手間がかかる点。
香川を学ぶ	音が聞こえにくい部分がある
香川を学ぶ	雑音がある点
香川を学ぶ	誰も見ていないので、計画通りにできない点。
香川を学ぶ	毎週やらなくていいので、ためてしまう
地域コンテンツと知財管理	計画的に実施すること 試験の締め切りを忘れがち

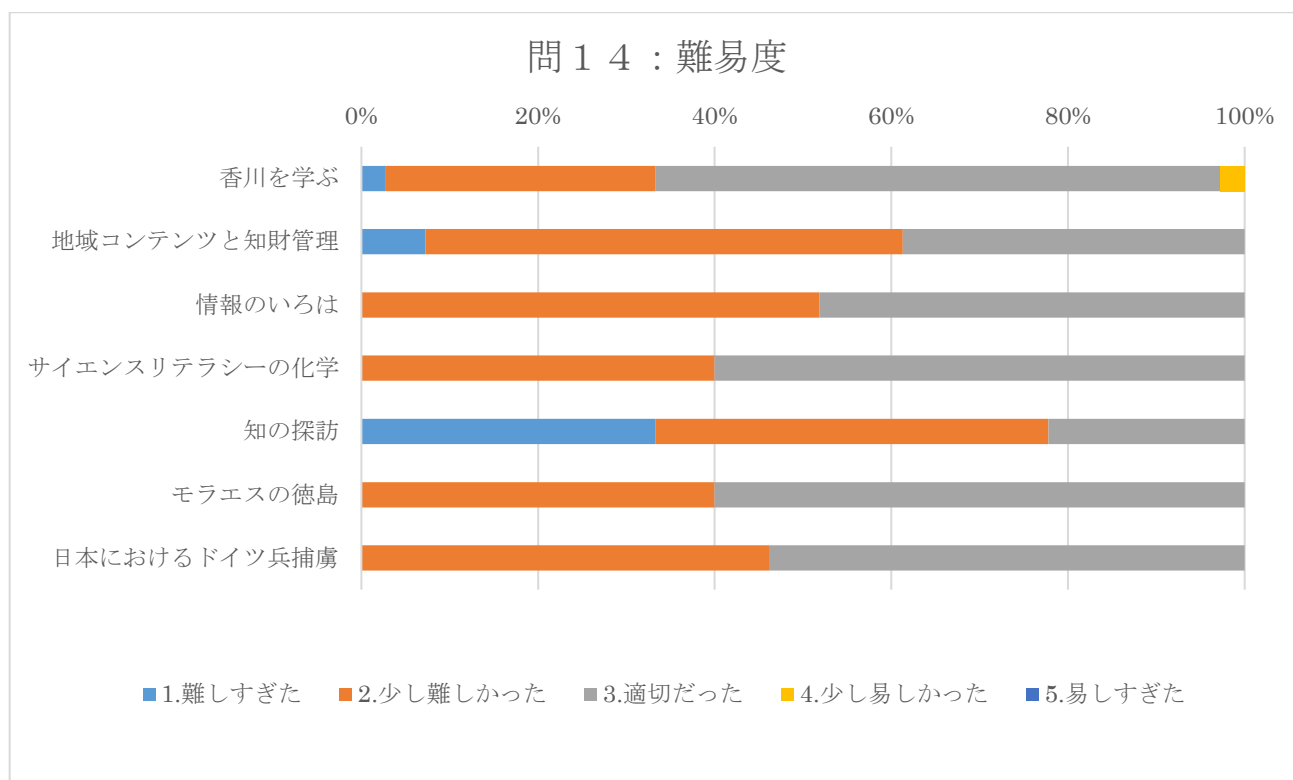
	モチベーションの持続
地域コンテンツと知財管理	質問がしにくい。
地域コンテンツと知財管理	気軽に質問できないこと。
地域コンテンツと知財管理	計画通りに進めるのが難しい。
地域コンテンツと知財管理	小テストや小レポート等がきちんと送信されているか、確認することができず不安に思います。
地域コンテンツと知財管理	映像の中でのスライドがはっきりしていない授業もある。
地域コンテンツと知財管理	口頭ではないので質問がしにくい。
地域コンテンツと知財管理	特にないです。
地域コンテンツと知財管理	授業を受ける姿勢になりにくい。
地域コンテンツと知財管理	質問したいときに質問がすぐにできない
地域コンテンツと知財管理	質問が面倒、また教室での講義がないため自分で計画を立てないと気づいたら締切間近になっている
地域コンテンツと知財管理	聞き取りにくい時もある
地域コンテンツと知財管理	1度大きく学習計画が崩れると、立て直すのが難しい点。
地域コンテンツと知財管理	どうしてもまとめてやろうとしてしまう。計画性がなくては履修をお勧めできない
地域コンテンツと知財管理	すぐに質問して、すぐその質問の答えを返してもらおうということができない点。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	eラーニングで教科書が必要だというのは、こちらとしてはあまりいいものとは感じなかった。(あれば学習・見直しもしやすいが、仕方がないとはいえ「通販サイトで買ってくださいね」は不安に感じる生徒も多いと思う。)
地域コンテンツと知財管理	特に無し
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	対面ではないので、受けたいと思う授業でない気が緩んでしまう。
地域コンテンツと知財管理	やる気や集中力を維持すること
地域コンテンツと知財管理	興味が持てない内容だと、他のことにすぐ目が行ってしまう。周りの誘惑が対面式の授業より多い。
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	本当に回答が送れたか不安になる。
地域コンテンツと知財管理	最初の設定が難しい。
地域コンテンツと知財管理	提出の期限やテストの期間が決められていないと継続することが難しい。
地域コンテンツと知財管理	教員の先生に連絡を取るのが大変な点
地域コンテンツと知財管理	自由に受講できるのでうっかりしてしまう。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	一方通行になりがち。
地域コンテンツと知財管理	長い
地域コンテンツと知財管理	自主的に学習を進める点。
地域コンテンツと知財管理	いつでもできるのでついつい後回しにしてしまう点
地域コンテンツと知財管理	授業内で先生が言っていることとホームページの内容が違うときに困った。
地域コンテンツと知財管理	パソコンで一人で受けるものなので、知り合いが同じ科目を選んでなかった場合、分からなくてもひとりで考えて理解しなければならないところ
地域コンテンツと知財管理	自分で計画的に進めないといけない点。
地域コンテンツと知財管理	計画通りに進めること
地域コンテンツと知財管理	一度溜まるとつらい。
地域コンテンツと知財管理	特にありませんでした。
地域コンテンツと知財管理	期末レポート
地域コンテンツと知財管理	締め切りを忘れそうになること
地域コンテンツと知財管理	質問に手間がかかる 計画通りに受講すること

地域コンテンツと知財管理	直接の会話ができないこと。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	質問するのが難しい
地域コンテンツと知財管理	計画性。
地域コンテンツと知財管理	締め切りがこまめ(一週間ごとにある授業もある)じゃないと、自分で余裕をもって学習するのが難しい。
地域コンテンツと知財管理	質問がしにくい点。
地域コンテンツと知財管理	自己管理ができなければ受講態度がひどくなる。テストといっても、試験時間が長ければ教科書を見ながら対応できる。 自宅に印刷機がない学生にとって、大量の資料を大学で印刷するのは費用が掛かる。
地域コンテンツと知財管理	自分に甘くなる
地域コンテンツと知財管理	インターネットやパソコンなど設備が必要なので、家で見ることができない人も出てくる。
地域コンテンツと知財管理	提出期限を見とかないといけない
情報のいろは	特になし
情報のいろは	リアルタイムではないので質問がしたいときにできない点。
情報のいろは	質問がしづらいなど一般的にあると思うが、この講義に関してはそういった面も素早く対応してくれて、特に不満点はなかった。
情報のいろは	自分できちんと計画を立ててしなくてはならない。
情報のいろは	学習態度が確認できない分、課題が多くなる点。
情報のいろは	誰も見ていないので、きちんと進まない場合があるという点。
情報のいろは	疑問に感じたところをすぐに聞けない点。
情報のいろは	特にありません。
情報のいろは	強制力がないため友人はみんな途中でやめていったので継続するのが難しいと思う。
情報のいろは	自己管理ができない人はするべきではない。 印刷を学校で行う人にとって、資料が多いと出費も多い。 アクセスできない状態が起こることを見越して計画的に受講する態度が学生に求められる。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	自分で時間を設けて行う必要がある。
サイエンスリテラシーの化学	全て自力で管理する分怠けやすい。
知の探訪	他学生とディスカッションしたりすることが出来ないため(一方向的な授業形態)、自分の能力以上の理解を深めることが困難だと感じる。他者と意見交換をすることで理解が深まったり、新たな考えを膨らますことが可能であると考えため。
知の探訪	対面授業のように、授業でわからない点を先生に直接うかがうこと。 さらに、授業によってはスライドが見づらく、ノートをとる時間も十分になかったため、普段の対面授業より授業内容を理解するのが難しいと思った。 もし可能であるなら、すべての講義でスライドのデータを Moodle にアップしてほしいです。
知の探訪	なし
知の探訪	課題の締め切りと進め方。 専門性の高い内容の講義に対する理解。
知の探訪	自分で受講管理せねばならない
知の探訪	教員との意思疎通ができない。 一回分の講義内容に差がありすぎる。(その場合、学習予定に充てていた時間内で終わらず、別の時間を工面しなくてはならない。) 視聴時間が長い(2~3時間)と目への負担が大きい。 動画のスライドの表示が小さすぎるときがあり、内容の理解が難しかった。

モラエスの徳島	締め切りの日時を管理し忘れやすい点。
モラエスの徳島	時間に縛られない分、意欲がわかかなければ捗らないこと。
モラエスの徳島	リアルタイムでの質問
日本におけるドイツ兵捕虜	受講期限の存在を忘れてしまうこと。
日本におけるドイツ兵捕虜	わからないことがあったときに、気軽に質問することができない。
日本におけるドイツ兵捕虜	1 講義あたりのビデオ視聴時間が長い
日本におけるドイツ兵捕虜	特になし。
日本におけるドイツ兵捕虜	特になし
日本におけるドイツ兵捕虜	締め切りを間違えかけたこと。
日本におけるドイツ兵捕虜	メールなどでも送れるのだろうが、それでも質問はしにくいと思った。
日本におけるドイツ兵捕虜	締切を間違わないこと 間接的で理解が不十分になること うまくビデオが再生されないパソコンがあったこと

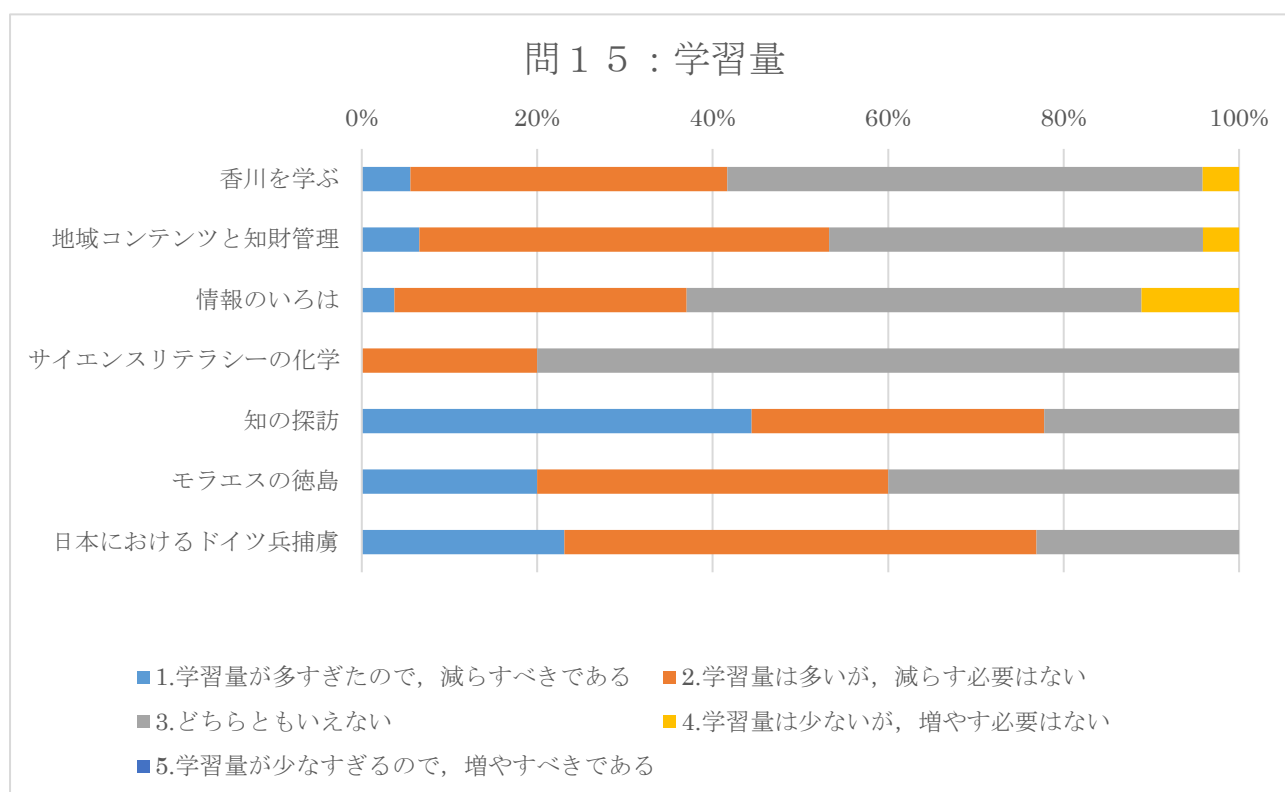
問 14. この授業の難易度は、適切でしたか？

	1. 難しすぎた	2. 少し難しかった	3. 適切だった	4. 少し易しかった	5. 易しすぎた
香川を学ぶ	2	22	46	2	0
地域コンテンツと知財管理	9	67	48	0	0
情報のいろは	0	14	13	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	2	3	0	0
知の探訪	3	4	2	0	0
モラエスの徳島	0	2	3	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	0	6	7	0	0



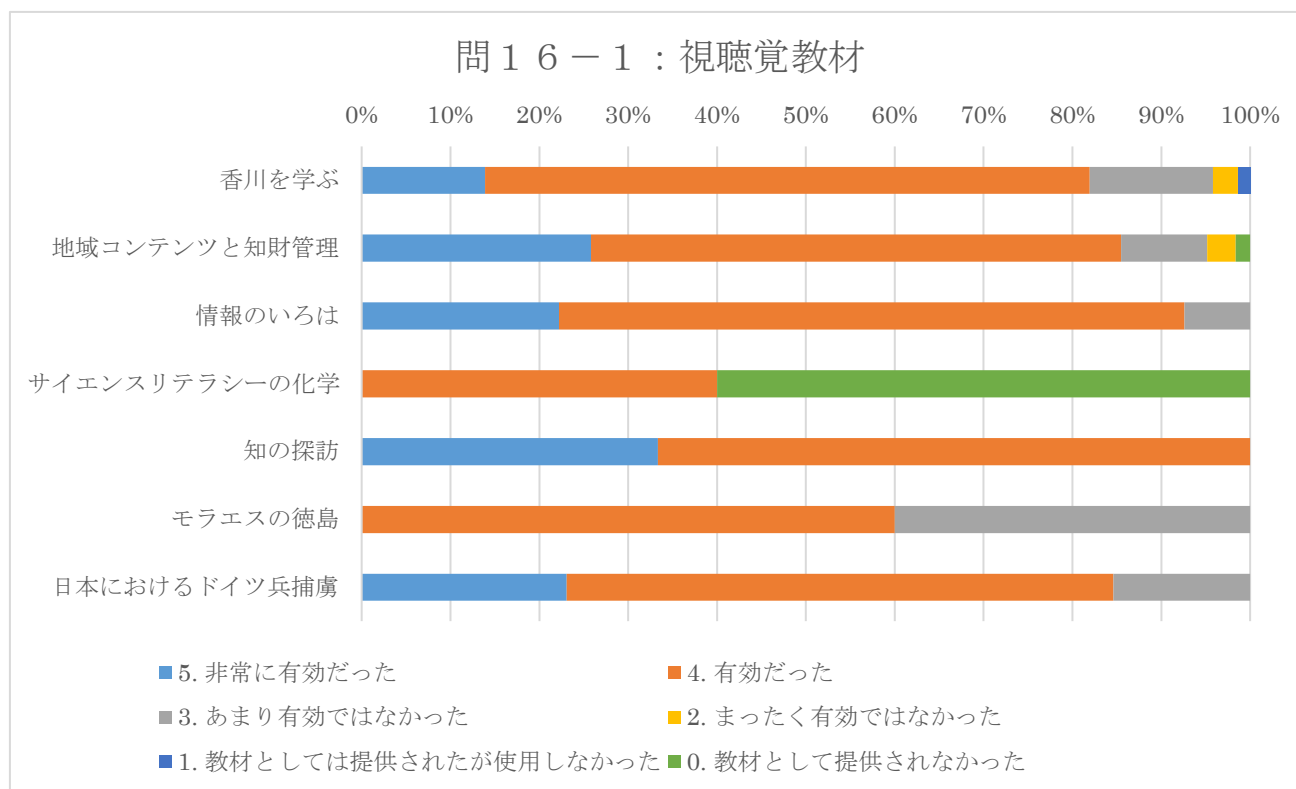
問 15. この授業の学習量は、適切でしたか？

	1. 学習量が多すぎたので、減らすべきである	2. 学習量が多いが、減らす必要はない	3. どちらともいえない	4. 学習量は少ないが、増やす必要はない	5. 学習量が少なすぎるので、増やすべきである
香川を学ぶ	4	26	39	3	0
地域コンテンツと知財管理	8	57	52	5	0
情報のいろは	1	9	14	3	0
サイエンスリテラシーの化学	0	1	4	0	0
知の探訪	4	3	2	0	0
モラエスの徳島	1	2	2	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	3	7	3	0	0



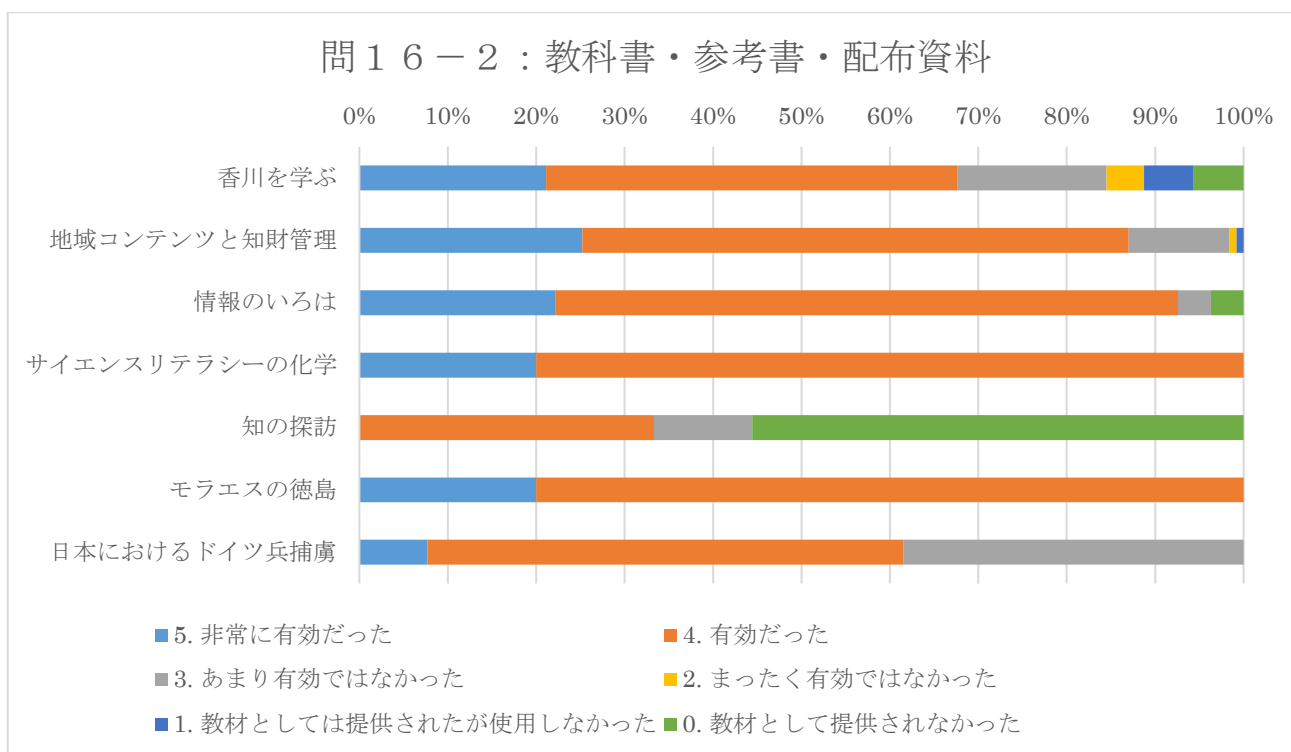
問 16-1. 視聴覚教材(ビデオ等)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	10	49	10	2	1	0
地域コンテンツと知財管理	32	74	12	4	0	2
情報のいろは	6	19	2	0	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	2	0	0	0	3
知の探訪	3	6	0	0	0	0
モラエスの徳島	0	3	2	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	3	8	2	0	0	0



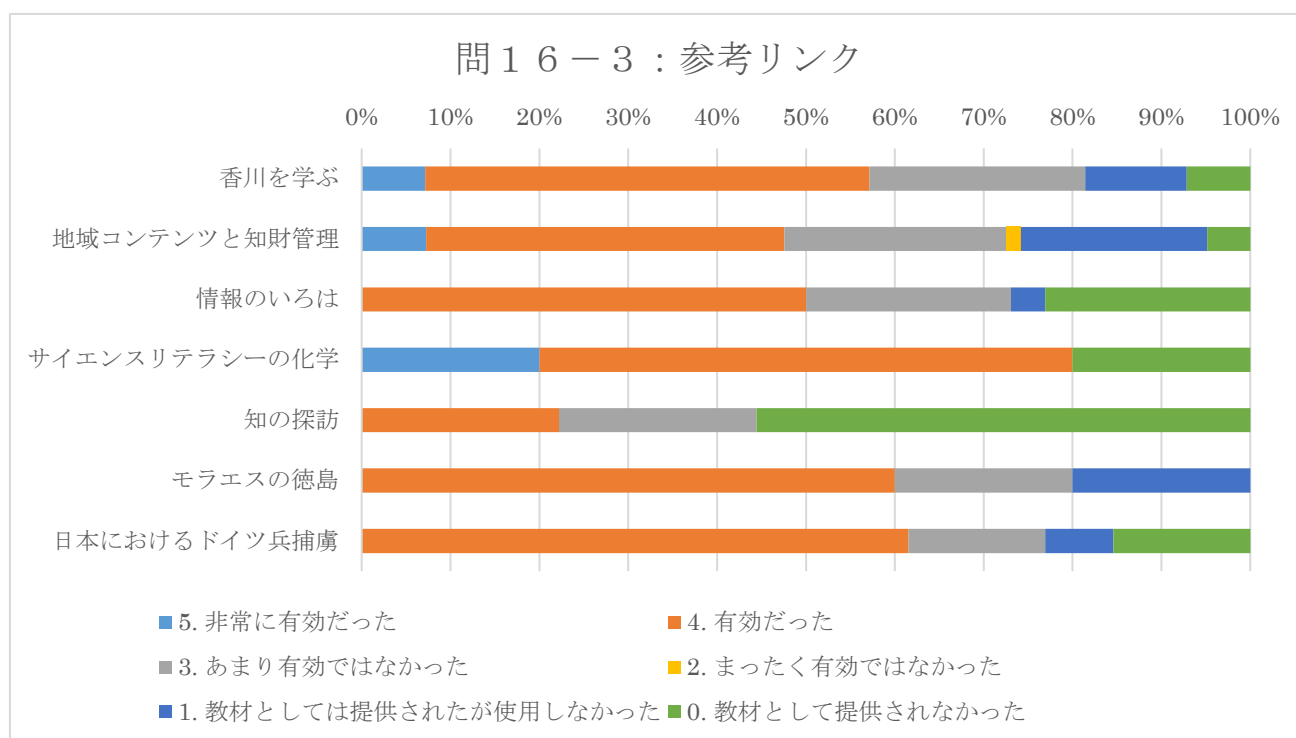
問 16-2. 教科書・参考書や配布資料

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	15	33	12	3	4	4
地域コンテンツと知財管理	31	76	14	1	1	0
情報のいろは	6	19	1	0	0	1
サイエンスリテラシーの化学	1	4	0	0	0	0
知の探訪	0	3	1	0	0	5
モラエスの徳島	1	4	0	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	1	7	5	0	0	0



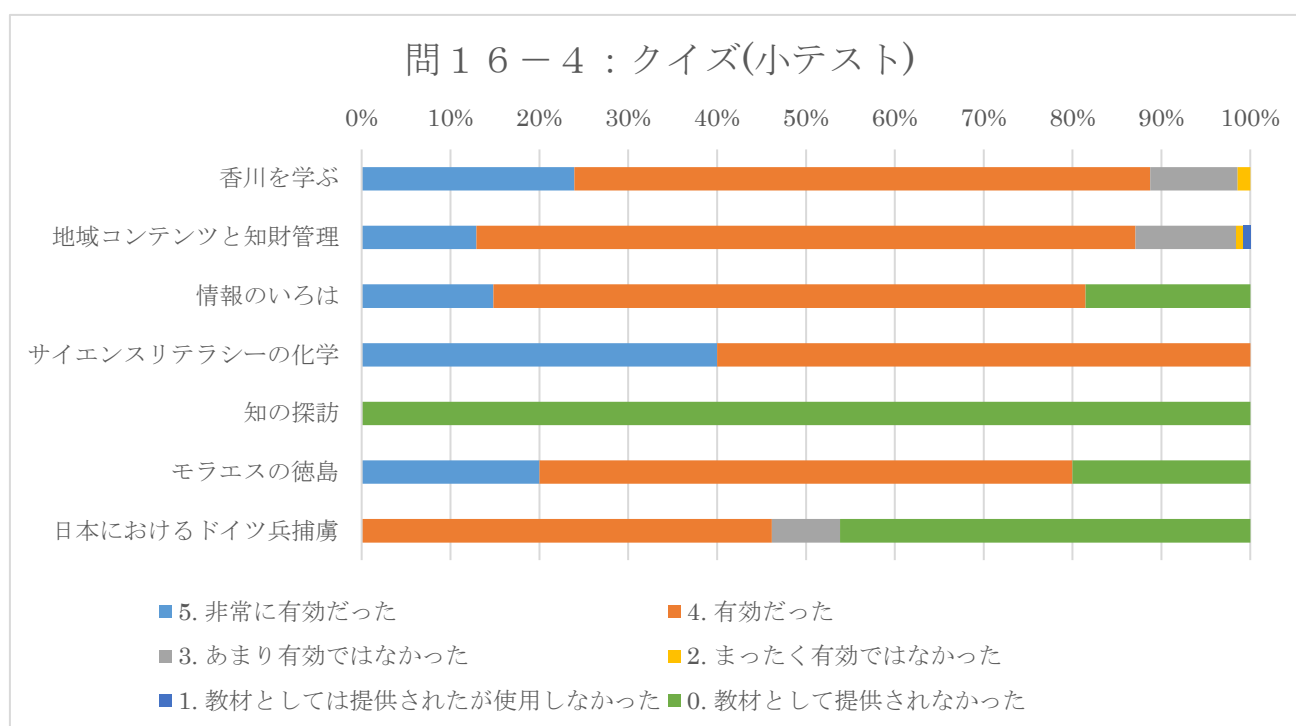
問 16-3. 紹介された参考リンク (インターネット上の情報源)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	5	35	17	0	8	5
地域コンテンツと知財管理	9	50	31	2	26	6
情報のいろは	0	13	6	0	1	6
サイエンスリテラシーの化学	1	3	0	0	0	1
知の探訪	0	2	2	0	0	5
モラエスの徳島	0	3	1	0	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜	0	8	2	0	1	2



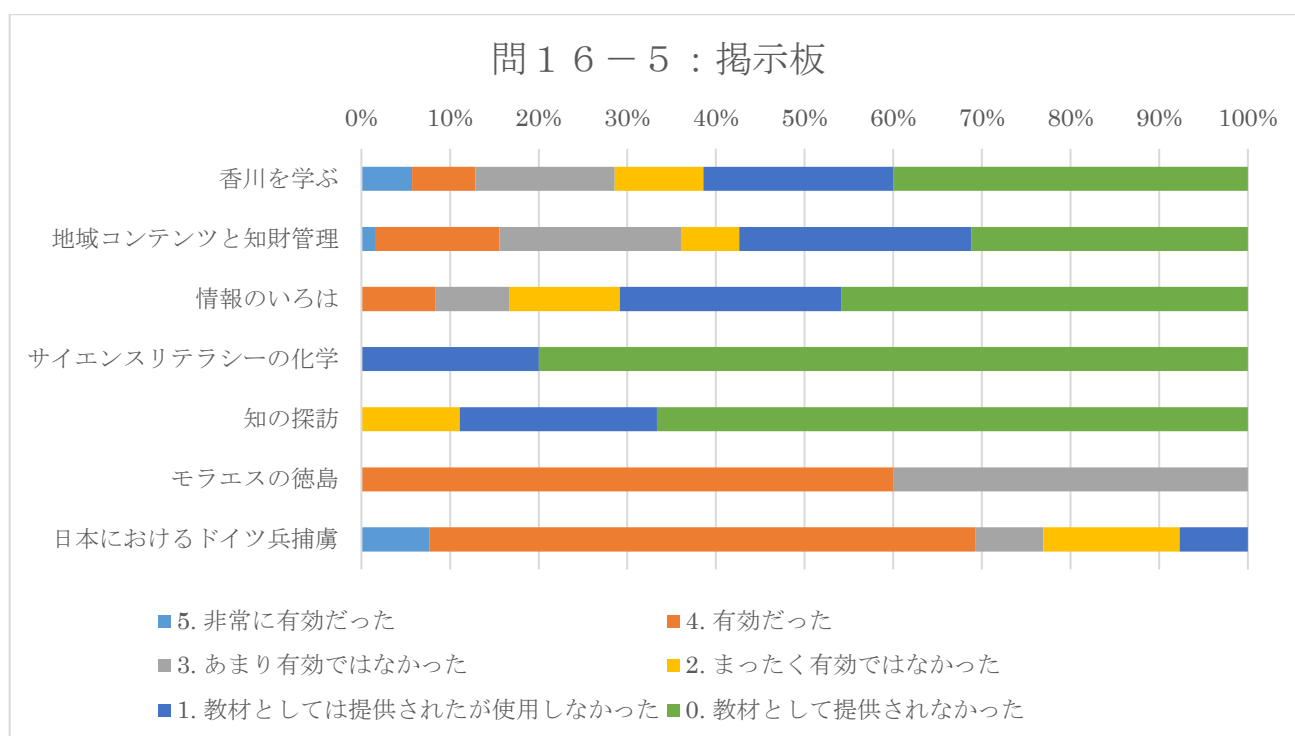
問 16-4. クイズ (小テスト)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	17	46	7	1	0	0
地域コンテンツと知財管理	16	92	14	1	1	0
情報のいろは	4	18	0	0	0	5
サイエンスリテラシーの化学	2	3	0	0	0	0
知の探訪	0	0	0	0	0	9
モラエスの徳島	1	3	0	0	0	1
日本におけるドイツ兵捕虜	0	6	1	0	0	6



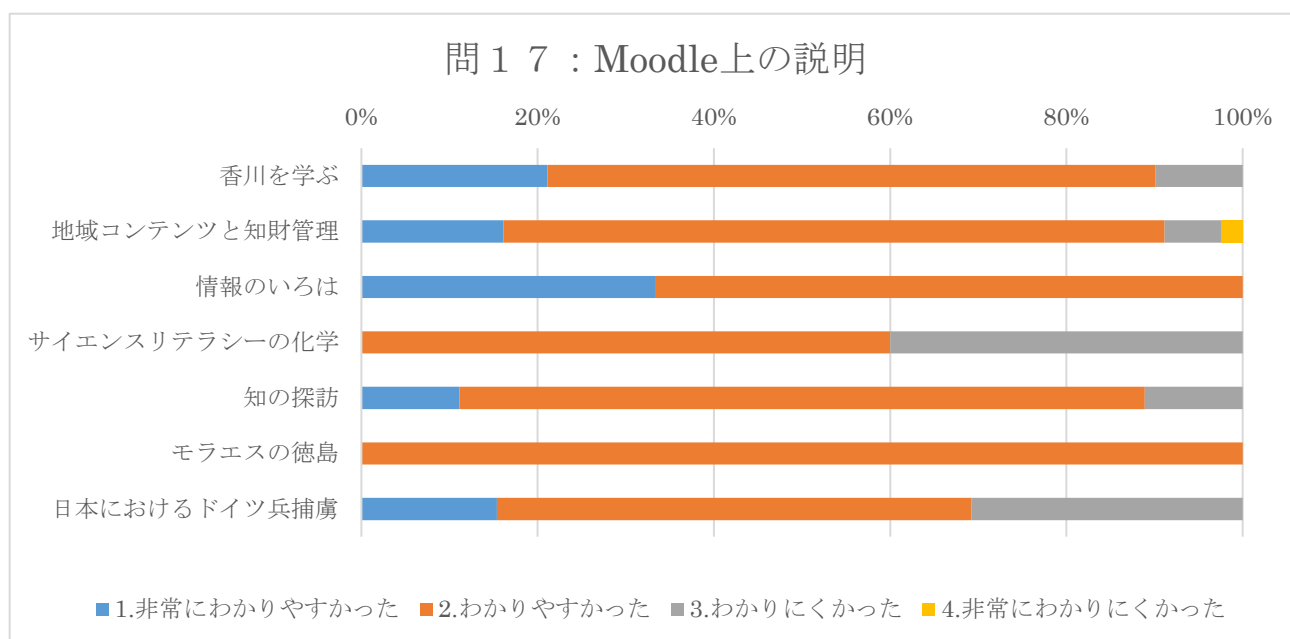
問 16-5. 掲示板（フォーラム）における受講者同士のディスカッション

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川を学ぶ	4	5	11	7	15	28
地域コンテンツと知財管理	2	17	25	8	32	38
情報のいろは	0	2	2	3	6	11
サイエンスリテラシーの化学	0	0	0	0	1	4
知の探訪	0	0	0	1	2	6
モラエスの徳島	0	3	2	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	1	8	1	2	1	0



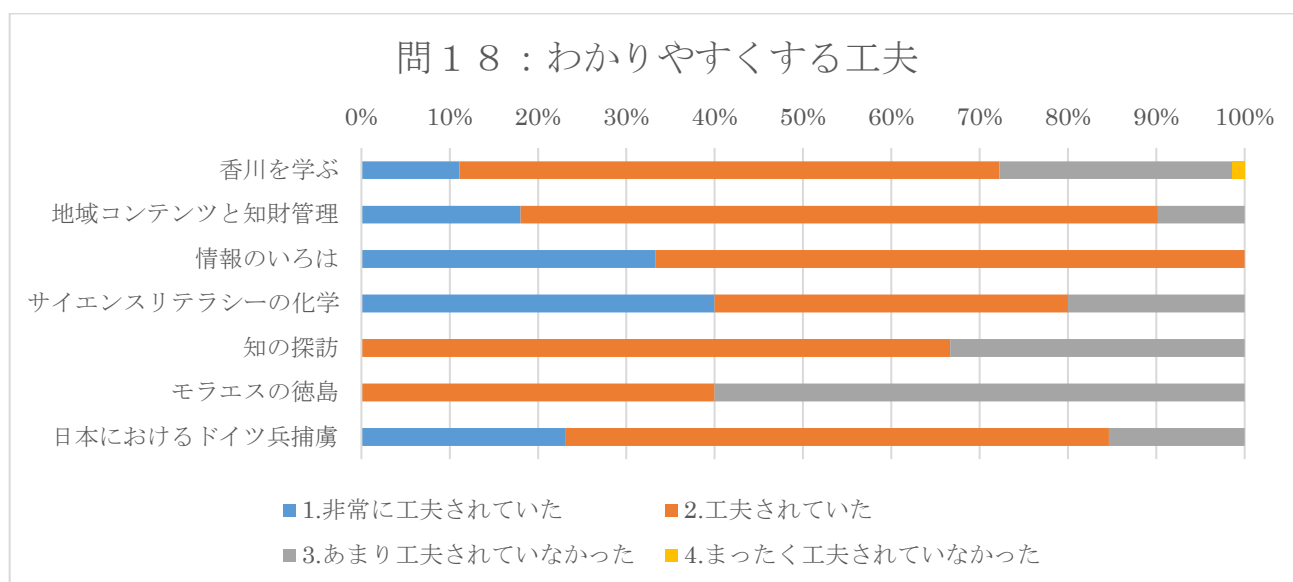
問 17. この授業の Moodle 上の説明（例えば毎週の学修の進め方や課題等の指示）は、わかりやすかったですか？

	1. 非常にわかりやすかった	2. わかりやすかった	3. わかりにくかった	4. 非常にわかりにくかった
香川を学ぶ	15	49	7	0
地域コンテンツと知財管理	20	93	8	3
情報のいろは	9	18	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	3	2	0
知の探訪	1	7	1	0
モラエスの徳島	0	5	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	2	7	4	0



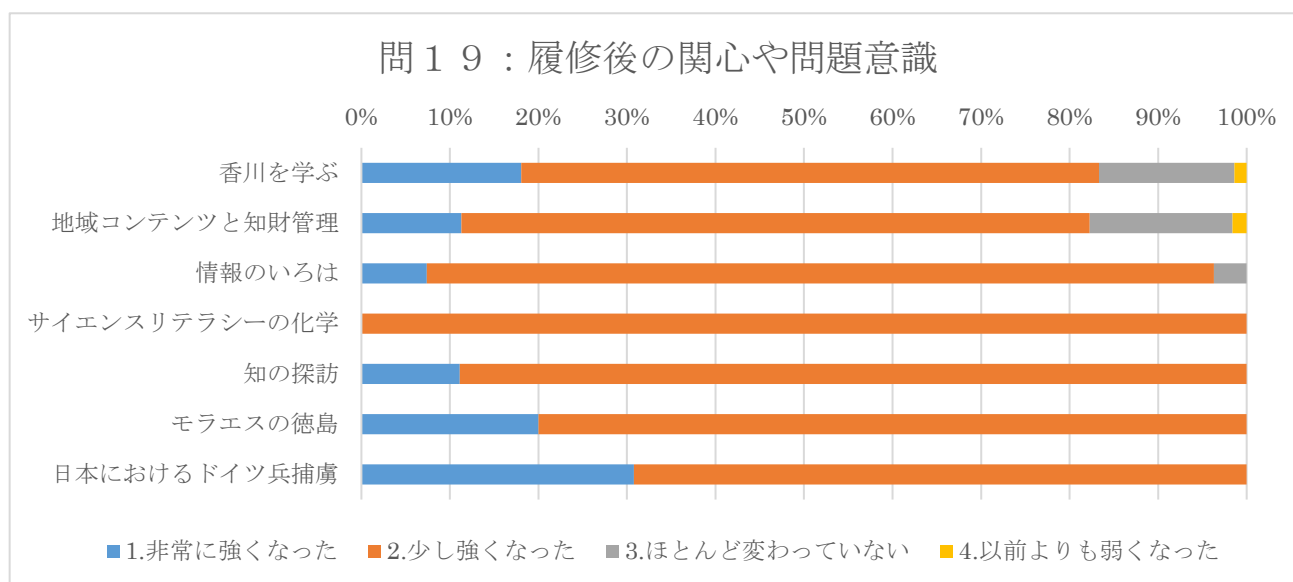
問 18. 授業をわかりやすくする工夫がなされていましたか？

	1. 非常に工夫されていた	2. 工夫されていた	3. あまり工夫されていなかった	4. まったく工夫されていなかった
香川を学ぶ	8	44	19	1
地域コンテンツと知財管理	22	88	12	0
情報のいろは	9	18	0	0
サイエンスリテラシーの化学	2	2	1	0
知の探訪	0	6	3	0
モラエスの徳島	0	2	3	0
日本におけるドイツ兵捕虜	3	8	2	0



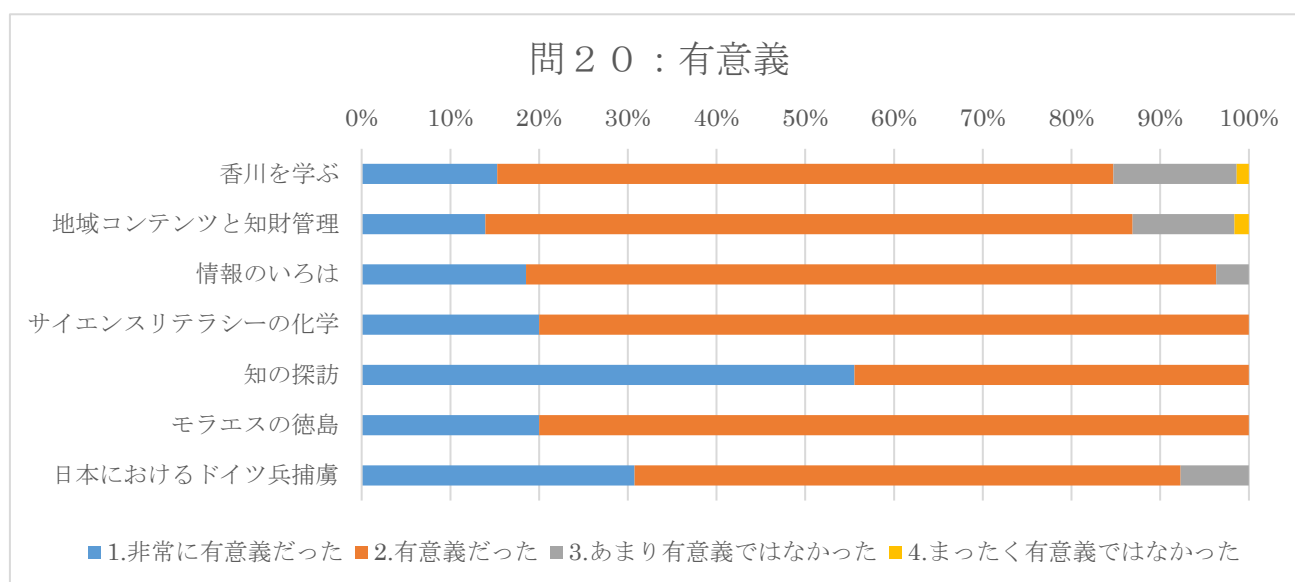
問 19. この授業の内容や関連分野に対する関心や問題意識は、この授業の履修によってどのように変わりましたか？

	1. 非常に強くなった	2. 少し強くなった	3. ほとんど変わっていない	4. 以前よりも弱くなった
香川を学ぶ	13	47	11	1
地域コンテンツと知財管理	14	88	20	2
情報のいろは	2	24	1	0
サイエンスリテラシーの化学	0	5	0	0
知の探訪	1	8	0	0
モラエスの徳島	1	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	9	0	0



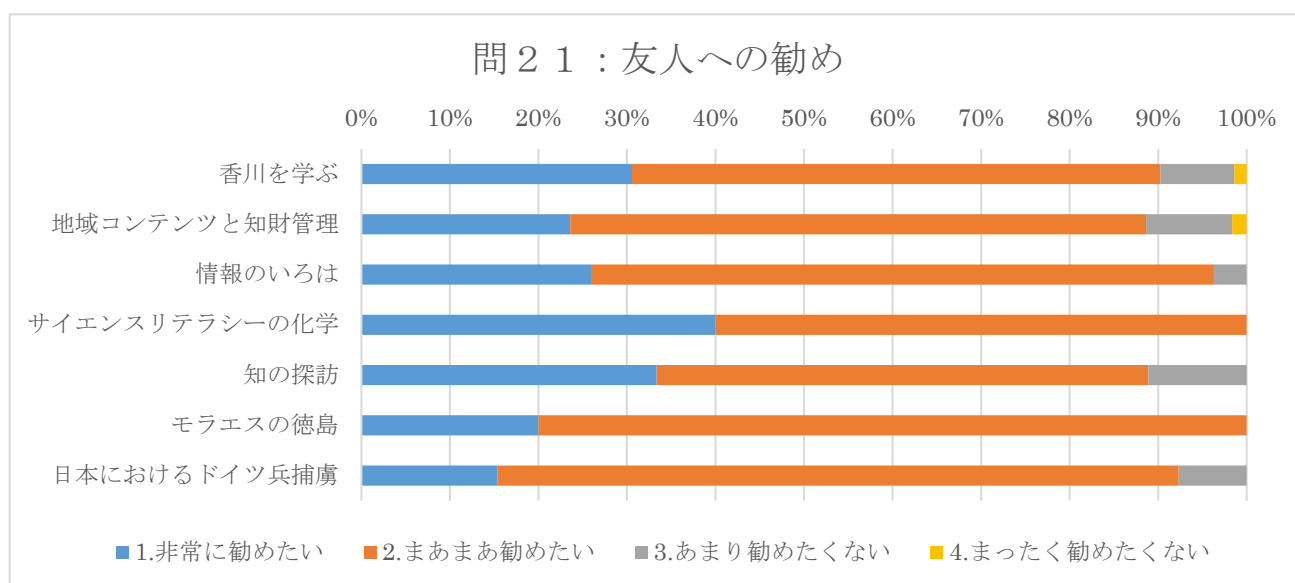
問 20. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？

	1. 非常に有意義だった	2. 有意義だった	3. あまり有意義ではなかった	4. まったく有意義ではなかった
香川を学ぶ	11	50	10	1
地域コンテンツと知財管理	17	89	14	2
情報のいろは	5	21	1	0
サイエンスリテラシーの化学	1	4	0	0
知の探訪	5	4	0	0
モラエスの徳島	1	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	8	1	0



問 21. この授業を，友人や後輩にお勧めしたいですか？

	1. 非常に勧めたい	2. まあまあ勧めたい	3. あまり勧めたくない	4. まったく勧めたくない
香川を学ぶ	22	43	6	1
地域コンテンツと知財管理	29	80	12	2
情報のいろは	7	19	1	0
サイエンスリテラシーの化学	2	3	0	0
知の探訪	3	5	1	0
モラエスの徳島	1	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	2	10	1	0



問 22. この授業について、良かった点を、具体的にお書きください。

香川を学ぶ	自分の好きな時間に受講することができる
香川を学ぶ	香川について知らなかったことを学ぶことが出来た。それから調べてみようという気持ちが湧いた。
香川を学ぶ	住んでいる香川県のことを深く学べることができた。
香川を学ぶ	スクリーンにズームするところが良かった
香川を学ぶ	香川県の文化や歴史をより深く知るとともに、環境について危機感を持ち、対策の必要性を感じる事ができた点。
香川を学ぶ	締め切りが分かるので計画が立てやすい。 分野に分かれて公開されるのでつながりがある。
香川を学ぶ	自分の好きな時間に受講できること。
香川を学ぶ	香川県の特産物をはじめ、多くの知らなかったことを知れた
香川を学ぶ	香川について新しいことが多く知れた。
香川を学ぶ	香川について学べたのでよかった。
香川を学ぶ	自分が知らなかった地元の文化や社会、自然問題について詳しく学ぶことができた。
香川を学ぶ	香川県の持つ魅力や課題について多角的に知ることができた。以前よりも香川に興味を持った。
香川を学ぶ	わかりやすかったし、参考資料があってよかった
香川を学ぶ	複数の先生から多様な分野を学習できること。
香川を学ぶ	香川県のことについて少しでも知識を取り入れることが出来たので良かった。
香川を学ぶ	小テストが部門ごとにまとめられていたので、ほかの知プラの授業よりやりやすかった
香川を学ぶ	香川の事がよく解り役にたったと思う。
香川を学ぶ	セクションごとに分けられている点。
香川を学ぶ	県外から香川大学に進み大学生活をこの香川県で送るため、香川についての知識が得られたのは非常に為になったと思う。
香川を学ぶ	一つ一つの授業が多岐にわたっている点
香川を学ぶ	いつでも授業が受けられて、見返すこともできたり、映像授業なので、いったん映像を止めてメモをする時間が作れるところが良かった。
香川を学ぶ	香川のことを知ることができた
香川を学ぶ	香川県について、さまざまな点から知ることができ、実際にとられている対策などを知りることができた点。
香川を学ぶ	香川について知れたこと
香川を学ぶ	香川のことを深く知れた。
香川を学ぶ	香川のことを詳しく学べた点。
香川を学ぶ	香川について詳しく学ぶことができた
香川を学ぶ	自由に学習できる。
香川を学ぶ	パソコンを使って勉強すること
香川を学ぶ	好きな時間に授業がうけられる
香川を学ぶ	資料が充実していた。
香川を学ぶ	他県の生まれであるが、香川についての知識が増えたことで愛着がわいた。
香川を学ぶ	自分のペースでできたので良かった。
地域コンテンツと知財管理	講義内容が専門的な入門であったが、知財3級試験合格レベルということで、ピンポイントな内容が私には理解しやすかった。 ビデオ内容もうまく編集されており説明と話しが頭に入りやすかった。 先生の声も聞き取りやすく、柔らかい印象でよかった。 教科書とリンクして理解しやすかった。
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで勉強することができる。
地域コンテンツと知財管理	自宅や好きな場所、好きな時間に受講できること。他の勉強や予定との兼

	ね合いも非常に楽になった。
地域コンテンツと知財管理	知財検定に挑戦してみようと思えた点。
地域コンテンツと知財管理	自分が理解できなかったところの講義を何度も見られる点
地域コンテンツと知財管理	教科書との対応がしっかりしている。
地域コンテンツと知財管理	e-ラーニングの授業を利用するのは初めてだったが、説明が丁寧だったので無事に受講することができてよかった。
地域コンテンツと知財管理	授業が分かりやすい。スライドが見やすい。
地域コンテンツと知財管理	自分のやりたいなと思ったときに授業を受けることが出来たので、とても意欲がわいた。編集した動画で授業を進めて行くので、聞き逃したところがあっても、もう一度聞きなおすことが出来るのでいつもの講義より効率的であると感じた。
地域コンテンツと知財管理	面白くわかりやすく話されていて楽しかった。内容はやはり少し難しい。覚えることが多いが仕方ない。
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで進めることができるので、より理解しやすかった。
地域コンテンツと知財管理	先生がわかりやすく説明してくださった点
地域コンテンツと知財管理	いつでもできる。
地域コンテンツと知財管理	わかりやすかった
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで勉強を進められる点。
地域コンテンツと知財管理	やはり elearning ということでやる時間が自由であるというところが大きいです。
地域コンテンツと知財管理	知的財産権という難しい内容をわかりやすく学べた。テキストが漫画調なものもよい。
地域コンテンツと知財管理	実際の資格取得につながる授業内容のため、自分自身のキャリアアップも兼ねられるのはすごい魅力的で、授業に対する姿勢も良い物になったと思う。
地域コンテンツと知財管理	日常でも役に立つ知識を勉強できたところ
地域コンテンツと知財管理	わかりやすく、とても楽しかったです。工学部にはこういった内容を専門とすることもあるのだなと初めて知りました。教科書として指定された書籍も、イラスト付きでかわいく、特に先生のキャラクターと猫のイラストに笑ってしまいました。
地域コンテンツと知財管理	この授業ももちろんだが、それ以外の科目でも定期的に勉強するクセがついた
地域コンテンツと知財管理	説明が分かりやすく資料も見やすかった。
地域コンテンツと知財管理	先生が面白かった。 高校まででは学べなかった分野が学べた。
地域コンテンツと知財管理	学生に近い目線で授業がなされていた点。
地域コンテンツと知財管理	ときと場所を選ばず学習することができる
地域コンテンツと知財管理	場所と時間を選ばずに講義を受けられた点。
地域コンテンツと知財管理	先生の声が非常に聞きやすく、語り掛けてくれている感じがしたので臨場感があった点。
地域コンテンツと知財管理	レジュメがわかりやすい点。
地域コンテンツと知財管理	定期的に小テストがあり、やる気が続いた。
地域コンテンツと知財管理	これまでにない知識がたくさん増えた
地域コンテンツと知財管理	知的財産について特に問題にされたしたのは最近であるため、若い人材として新しい分野の知識を付けることができた。
地域コンテンツと知財管理	先生の話し方や小話が面白くて飽きなかった。
地域コンテンツと知財管理	確認問題があったのでそこで改めて確認することができた。
地域コンテンツと知財管理	映像が見やすかった。ひとつひとつえいぞうが短かったのがよかった。
地域コンテンツと知財管理	家で講義を受けられる点。 何度でも映像を見ることが出来る点。
地域コンテンツと知財管理	普段学習する機会のないことを学習できた。
地域コンテンツと知財管理	通常の講義だと一度聞き逃してしまうと後々学習するときに支障が生じて

	しまうが、この授業であれば何度でも講義を受けれるのでしっかりと学習することができる。
地域コンテンツと知財管理	学習する内容が多い時は事前に把握することができたので予定を立てやすかったです。
地域コンテンツと知財管理	ビデオを何度も繰り返し見れるというのは非常に良いと思った。
地域コンテンツと知財管理	毎回講義の後にクイズを設けてくださっていたので、理解度がより深まった。自由課題によって、この授業への関心がより深まった。
地域コンテンツと知財管理	丁寧でわかりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	話が面白かったので、入ってきやすかった。
地域コンテンツと知財管理	知的財産は工学部の分野でも非常に大切なものなので、特許の取り方や詳しい説明など、ためになることが非常に多い授業だった。
地域コンテンツと知財管理	先生の講義が分かりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	説明がとても平易で分かりやすかった点。
地域コンテンツと知財管理	教科書が漫画を交えて分かりやすかった。構成が分かりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	とくになし
地域コンテンツと知財管理	判例の紹介があったのが良かった。動画が何本かに別れていたもので、時間の合間に見ることが出来た。
情報のいろは	資料が見やすく重要なところがよく分かった。
情報のいろは	授業はわかりやすく、(苦手意識がありながらも)楽しく視聴することができました。
情報のいろは	私は情報工学科なのですが、論理回路で分からない問題があったのですがこの講義で似たようなことをやっていたので理解することができました。また、いつでも好きな時にできることがとてもよかったですと思います。
情報のいろは	インターネット上での講義ではあるが、受講者を置き去りにするのではなく親切に対応してくれていた点や、講義内追加課題が少し手間取るものが多く、講義で得た知識をうまく活用するように導いていた点など。
情報のいろは	情報を様々な観点から考察している点。
情報のいろは	理系の科目が苦手な自分でも理解して授業を受けることができた。
情報のいろは	一人では学ぶ気の起きないような難しいことをわかりやすく伝えている点。
情報のいろは	自分のペースでできたことが良かった。知らないことだったので、知ることができてよかった。
情報のいろは	課題ファイル内の問題について、動画内で説明されていたのでわかりやすかった。
情報のいろは	パワーポイントだけでもわかりやすかった部分
情報のいろは	毎回提出課題として出されるワークシートや配布資料を見直すことで復習もやりやすかったです。
情報のいろは	説明が分かりやすくとても良かった。
情報のいろは	内容が非常に濃かった点。 情報を広い観点から、また深く知ることが出来る点。 非常に専門的で難しかったが、根気強く丁寧に話を聞けば理解できた点。 資料が、スライドとメモ書きができる形式であった点。
情報のいろは	授業の課題が内容としっかりリンクしていて、大事なところがまとめられていたと思う。
情報のいろは	身近な情報について詳しく知ることができた。
サイエンスリテラシーの化学	先生からのコメントがあること。
サイエンスリテラシーの化学	インターネットなのでコミュニケーションがとりにくいと思っていましたが、先生が毎回コメントをくださったので、コミュニケーションがとりやすかった点。
知の探訪	様々な研究分野について知ることができ、視野を広げることが出来た。
知の探訪	学習の自主性が育める点、
知の探訪	自分の知らないことが多くて、知るきっかけとなった。

知の探訪	いろいろな専門分野から、大学で学ぶ（学び方）などを学ぶことができた。本校以外での講義を履修することで、より自分の興味関心のある講義を学ぶことができた。
知の探訪	しっかりとした知識を提供してくれる点
知の探訪	毎週異なる分野に触れることができた 幅広い知識を身に着けることができた
知の探訪	毎回の感想の提出は、その度学んだことを自分の中で整理・理解する機会としてよかったと思う。 様々な先生の話聞く機会はあまりないので、この講義を通して色んな分野のことを知れて知識が深まった。
モラエスの徳島	モラエスという今まで知らなかった人物のことを知れて見識が広がった。
モラエスの徳島	はじめは徳島についてばかり学ぶものと思っていたが、徐々にスケールが増し、グローバルズムにまで考えがおよんだのは非常によかったと思う。
モラエスの徳島	自由に履修可能
モラエスの徳島	モラエスという偉人を詳細に知ることができた点
日本におけるドイツ兵捕虜	スライドがわかりやすかった。
日本におけるドイツ兵捕虜	施設見学をビデオ越しにできたこと。
日本におけるドイツ兵捕虜	説明が分かりやすく、興味を持ち続けられるよう、教室のみの授業でなく現地の取材映像やインタビューが取り入れられていた点。 授業時のスライドに、写真や本などの資料が豊富だった点。 三ヶ月という短期間のため、集中することができた点。
日本におけるドイツ兵捕虜	歴史が苦手で自分から勉強しようとは思わなかったけど少しは興味が出るようになった。
日本におけるドイツ兵捕虜	実際に現地に行って説明するのが分かりやすくてよかった。
日本におけるドイツ兵捕虜	もともとそれなりに興味があった分野をもっと深く知ることができて楽しかった。
日本におけるドイツ兵捕虜	先生が熱心で優しい ほかの人の意見が見られる
日本におけるドイツ兵捕虜	自分の知らない歴史を知ることができた点。

問 23. この授業について、改善してほしい点を、具体的にお書きください。

香川を学ぶ	特にありません。
香川を学ぶ	動画が途中で止まった際に、またログインしてその場面から、また視聴を再開することがあったが、その時に、きちんと動画が視聴できているのか、それとも出来ていないのかが明確ではなく、すこし不便に感じたため、動画の視聴が完全に完了されたかどうかのチェックボックスがあれば、安心して動画視聴に取り組むことが出来、また進捗具合も視覚で確認できると感じた。
香川を学ぶ	先生が話しているだけの授業は字幕がついていると嬉しいと思った。雑音がとてもある授業もあったので聞き取りづらかった。
香川を学ぶ	自己責任の問題ですがもう少し期限の日にちを分かりやすく表記、または通知などが欲しかった。
香川を学ぶ	聞き取り肉部分が多かった
香川を学ぶ	ビデオをあまり使用しなかった理由として、ノイズがひどいもの、マイクによる音質の悪化がある。なので講義ビデオで概要を知り、自分で調べるという作業をとってしまった。
香川を学ぶ	特にありません。
香川を学ぶ	一気に公開してほしい。 どんどん進めていき、早く終わらせると次の公開のものと時間が空き、忘れやすくなった。 一回、訂正があり、点数に影響があったので小テストは正誤がはっきりしたものだと言ったです。
香川を学ぶ	たまに聞き辛い時があるので、テロップやセリフを出してもいいかもです。
香川を学ぶ	ないです
香川を学ぶ	一つの授業を数パートに分けるのは良いと思うが、分けるポイントを切りの良いところにしていただきたい。
香川を学ぶ	1つの講義ごとに小テストを実施してほしい。
香川を学ぶ	映像が退屈である。 講義の言葉が聞き取りづらい。
香川を学ぶ	文字が小さいとスライドの文字が読めないし、発音が悪いと何言ってるのかわからない。
香川を学ぶ	携帯で講義が視聴したい。
香川を学ぶ	参考資料と動画での内容が異なっていることがありましたのでその点を改善していただきたい。
香川を学ぶ	特にない。
香川を学ぶ	小テストが数週間分のがまとまっているので、(あまり時間を割きたくないのに)復習に時間がかかる点。
香川を学ぶ	ばらばらな授業風景を流すのではなく、ちゃんとこの授業を作ってほしいと感じた。
香川を学ぶ	画面が少しでも乱れないようにしてほしい
香川を学ぶ	映像が荒いときが何回かあって、文字が見えないことがあったので、そこを改善してほしい。
香川を学ぶ	添付されている資料の文字が見えにくいものがあったのでキレイな資料を提供してほしい。
香川を学ぶ	すべての授業に配布資料をつけてほしい。
香川を学ぶ	音声聞き取りにくい点。
香川を学ぶ	時々、何を書いているか見えないことがある
香川を学ぶ	映像の乱れ
香川を学ぶ	特にないです
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	映像の画面が途中でおかしくなる点

香川を学ぶ	なし
地域コンテンツと知財管理	簡単に復習したいのに、小テストの答えが公開されないのが面倒。小テストの解答と簡単な解説の公開を希望します。
地域コンテンツと知財管理	講義を視聴して、小テストなどが実施できたら、チェック項目などができたり、わかるようなシステムが欲しかった。
地域コンテンツと知財管理	授業で習っていないことが小テストに出てくること。
地域コンテンツと知財管理	たまに聞き辛い時があるので、音声聞き取りにくい場合は脚注などでわかりやすくしてほしい。
地域コンテンツと知財管理	小テストの解答と解説が欲しかったです。
地域コンテンツと知財管理	小テストを受けるとすぐに結果がわかるようにしてほしい。小テストの締め切り日まで答えがわからないと間違っただま覚えてしまいそうだから
地域コンテンツと知財管理	小テストの結果をその都度出してほしい。
地域コンテンツと知財管理	小テストの問題が授業の赤字で説明された部分から出題されていないので何が本当に大事なのかよくわからなかった。
地域コンテンツと知財管理	教材（マンガで学ぶ知的財産管理技能検定）に内容や小テストをまとめたページがあったらより理解が深まると思ったので改善してほしい。
地域コンテンツと知財管理	スライドを変えるのがまれに早いときがあるので、もう少し待ってほしい
地域コンテンツと知財管理	資料の枚数が多すぎて、混乱してしまうことがあった。
地域コンテンツと知財管理	ありません
地域コンテンツと知財管理	まとめて収録しているため、たまに先生がつかれているときがあり、見てよくわからなかったりすることがあったからそこは改善してほしい
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	しかしやる時間があるぶんぎりぎりになってしまうところが個人的にはきつかったです。自分自身の改善ですが…
地域コンテンツと知財管理	とくになし
地域コンテンツと知財管理	特にない。
地域コンテンツと知財管理	去年に撮影されたなのかビデオでいってることと課題の内容が違うことがあった。
地域コンテンツと知財管理	学問基礎としては、内容が少し濃いように思いました。また、小テストの期限をまとめている点はいいと思いますが、3～4つずつの方がいいのではなかったのかということと、最終のレポート提出の期限が早いように思います。
地域コンテンツと知財管理	特に無し
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	配布資料が多いこと。
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	解答がほしい。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	もう少し簡単に連絡をとれるようにしたいと思います
地域コンテンツと知財管理	特になし。 映像が少し重かったくらい。
地域コンテンツと知財管理	毎回の小テストの解答を提示してほしい。
地域コンテンツと知財管理	地域コンテンツと知財管理という名称の地域コンテンツという言葉に惹かれて受講したが、全くの無駄だった。知的財産法については他の講義でとることができるので、地域コンテンツに主体を置き、四国の知財管理について事例に即しながら知的財産についてさわりの紹介をするようなのを期待していた。講義の中で地域のことに触れないなら紛らわしい名前を付けないでほしい。 この先生が自分の本ばかり押してくるので嫌気がさした。
地域コンテンツと知財管理	小テストを見直す時に、どこが間違っただかが分かりにくい。
地域コンテンツと知財管理	先生とのコミュニケーションを少しとれるように改善してほしい。
地域コンテンツと知財管理	特にありません。

地域コンテンツと知財管理	少し専門性が強い気がした。
地域コンテンツと知財管理	授業時間をなるべく統一してほしい。
地域コンテンツと知財管理	特にありませんでした。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	小テストが教科書を読まないといけない問題が多く、講義の意味がないと感じた。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	採点后でよいので、テストの正しい答えが知りたかった。
地域コンテンツと知財管理	締め切りがもう少し細かくても良いかもしれません。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	講義の映像を、実際に受講している人がいる状態で録画してほしい。
地域コンテンツと知財管理	とくになし
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	この授業だけ動画が重く、止まってしまったり、続きが視聴できない・HPの閲覧ができない（更新が遅い、動作が止まる）ということが度々起こりました（学外ネットワーク、学内ネットワークともに自分のPCで）。もしかしたら、PCの不調があったのかもしれませんが、ほかの授業ではそのようなことは起こりませんでした。 また、こういった内容、考え方に慣れていないというのがあるとは思いますが、時々追加レポートの内容が少々難しいか…と感じたことがありました。
情報のいろは	課題の提出開始日の制限をなくしても良いのではないかと思います。
情報のいろは	可能な限り、音質や画質の改善をしてほしい
情報のいろは	特にありません。
情報のいろは	セミがうるさいときがあったので、第15回のように静粛な場所で収録してもよかったのではないかと思います。
情報のいろは	なし
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	最後の方につれて、香川大学のmoodleにログインができなくて困りました。「他大学の方はこちらから」のところをクリックすると、真っ白になるのでサイトに飛べませんでした。そこを改善してもらえるとありがたいです。宜しく願いいたします。
情報のいろは	特にありません。
情報のいろは	何故か香川大学の moodl にログインできない時があった。
情報のいろは	特になし
情報のいろは	特になし。
サイエンスリテラシーの化学	コメントの欄が分かりにくく、気づくのが遅れたため、せっかく役に立つ機能なのにもったいないと感じた。
知の探訪	回によってはビデオが見にくく、スライドの文字等が見えず困った。
知の探訪	授業内容をもう少し簡単にしてほしい。また、授業進行の速度ももう少しゆっくりにしてほしい。 授業内容が専門的であり、授業進行速度もはやいため、程度に差はあるものの、授業内容を理解できないと感じる講義が多くありました。
知の探訪	なし
知の探訪	課題の提出の締め切りが前後して焦った。→第14回は12月25日で、第15回は12月24日といったことがありました。
知の探訪	1週間で3つの授業の締め切りが与えられたり、締め切りが木曜日だったり金曜日だったりする点
知の探訪	授業内で扱ったスライドを提示していない回があったので、内容理解が難しかったので、各回必ずスライドはスライドで提示してほしい
知の探訪	提出期限の設定が酷すぎる。ガイダンスで毎週一回ログインして視聴&感想提出と説明していたのに、実際はそのペースでは全く終わらないスケジ

	<p>ユールだった。また、設定されている提出期限がガイダンスで話していた進行スケジュールと全く噛み合っていないことの把握自体が、サイトの表示上わかりにくく、途中で気づき、大変ショックだった。</p> <p>視聴開始から最終レポートまでの期間が短かった。</p> <p>ガイダンス時に、各レポート提出日を明示する。</p> <p>ガイダンス時ではテストを行うとあったが、最終レポートになっていた。</p> <p>しかも、最終レポートまでもが提出期限が早かった。(何故?)</p> <p>視聴動画の時間を1回何分までにまとめる等、工夫してほしい。</p> <p>動画が小さく表示されてしまう場合があったので、動画とスライドの両方を提供すべき場合もあると思う。</p>
知の探訪	課題の締め切りの時間が講義順番道理ではなく前後している所を順番道理にしてほしい
モラエスの徳島	締め切りの時間はできれば夜の時間帯であるほうがいい。
モラエスの徳島	毎週毎週同じような課題ばかりだったので飽きがきた。もう少し興味を引くような課題を出してほしい。
モラエスの徳島	週に2つの課題は多い
モラエスの徳島	授業の途中で資料を各大学で配布すること
日本におけるドイツ兵捕虜	ビデオの読み込みが非常に遅い時があった。
日本におけるドイツ兵捕虜	ビデオの時間が長すぎる。 1週1つにして、講義の開始・終了時間を延ばしてほしい
日本におけるドイツ兵捕虜	スライドの文字が若干見にくかったため、もう少し文字を減らして欲しい点。 現地映像を増やして欲しい点。
日本におけるドイツ兵捕虜	特になし
日本におけるドイツ兵捕虜	特にない。
日本におけるドイツ兵捕虜	少しビデオが多すぎるように思った。
日本におけるドイツ兵捕虜	授業のパワポの文が長すぎる 重要な点はどこだったのかが結局分からない もっと捕虜が受けた辛いこととか良かったことを知りたかった
日本におけるドイツ兵捕虜	パワーポイントのデータがあれば良かった。

1) 実施概要

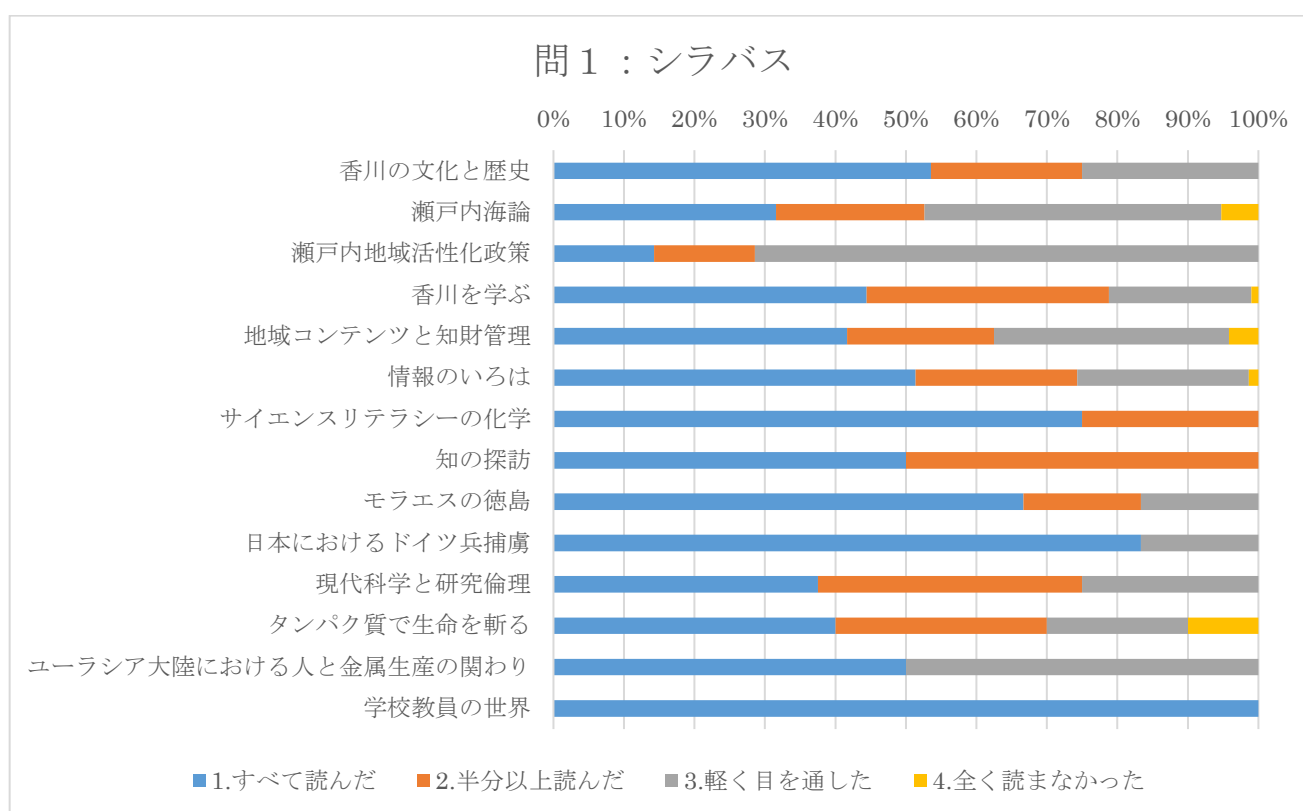
平成 28 年度に開講した以下の科目について、履修者を対象に Moodle 上で科目の改善を目的としたアンケートを実施した。実施期間は各科目終了後、1 か月程度である。またアンケートは匿名で実施した。

開講大学	科目名	開講期	履修者数	回答者数	承諾者数	回答率 (承諾者数 / 履修者 数)
香川大学	香川の文化と歴史	前期	92	33	28	30.4%
	瀬戸内海論	前期	71	25	19	26.8%
	瀬戸内地域活性化政策	前期	29	9	7	24.1%
	香川を学ぶ	後期	254	117	99	39.0%
	地域コンテンツと知財管理	後期	197	75	72	36.5%
	情報のいろは	後期	187	77	74	39.6%
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	後期	29	4	4	13.8%
徳島大学	知の探訪	後期	44	3	2	4.5%
	モラエスの徳島	後期	59	6	6	10.2%
	日本におけるドイツ兵捕虜	後期	44	6	6	13.6%
	現代科学と研究倫理	後期	74	8	8	10.8%
愛媛大学	タンパク質で生命を斬る	後期	38	10	10	26.3%
	ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	後期	16	6	6	37.5%
鳴門教育 大学	学校教員の世界	後期	71	1	1	1.4%

2) アンケート結果詳細

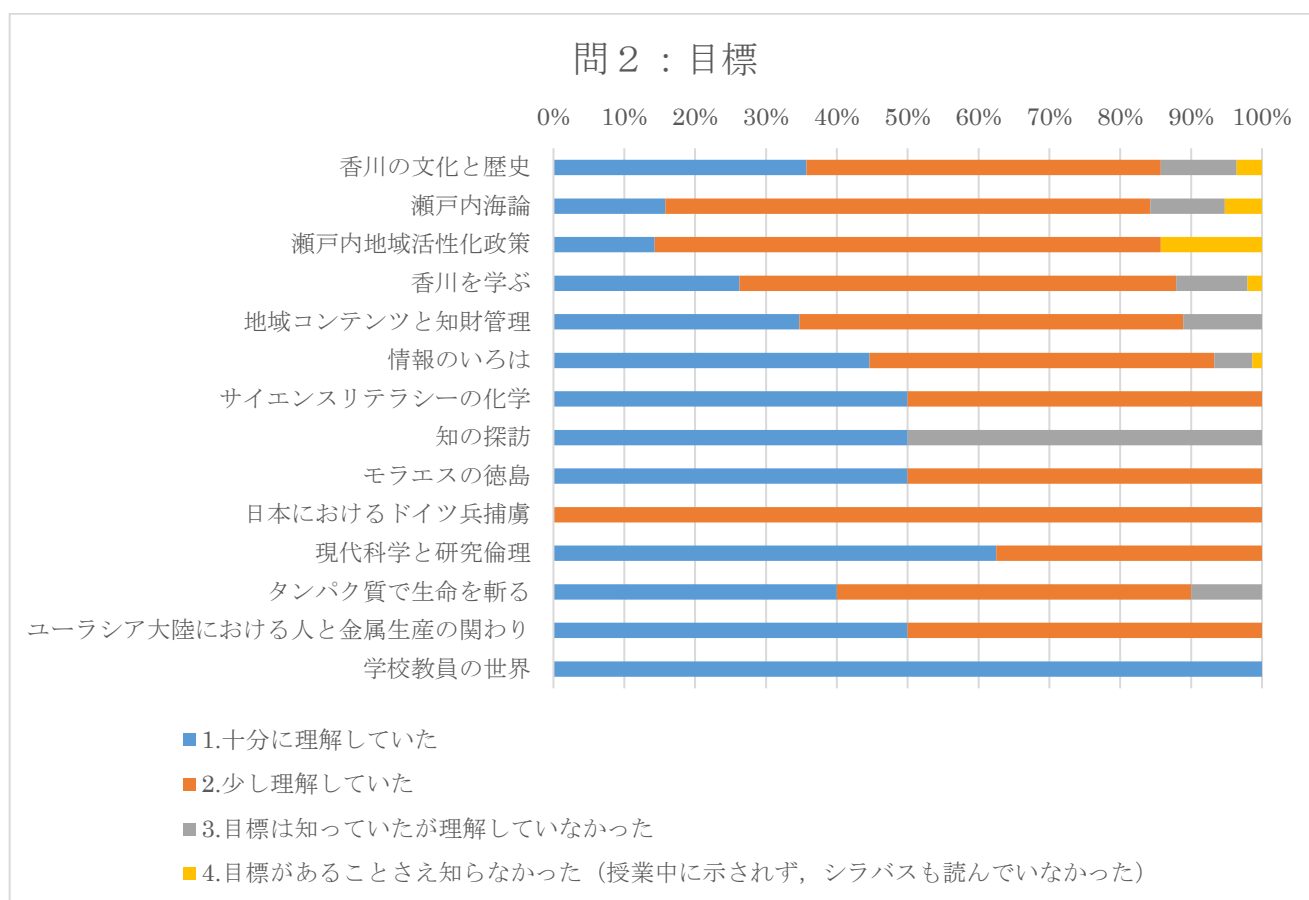
問1. 授業を受ける前にシラバスを読みましたか？

	1. すべて読んだ	2. 半分以上読んだ	3. 軽く目を通した	4. 全く読まなかった
香川の文化と歴史	15	6	7	0
瀬戸内海論	6	4	8	1
瀬戸内地域活性化政策	1	1	5	0
香川を学ぶ	44	34	20	1
地域コンテンツと知財管理	30	15	24	3
情報のいろは	38	17	18	1
サイエンスリテラシーの化学	3	1	0	0
知の探訪	1	1	0	0
モラエスの徳島	4	1	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜	5	0	1	0
現代科学と研究倫理	3	3	2	0
タンパク質で生命を斬る	4	3	2	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	3	0	3	0
学校教員の世界	1	0	0	0



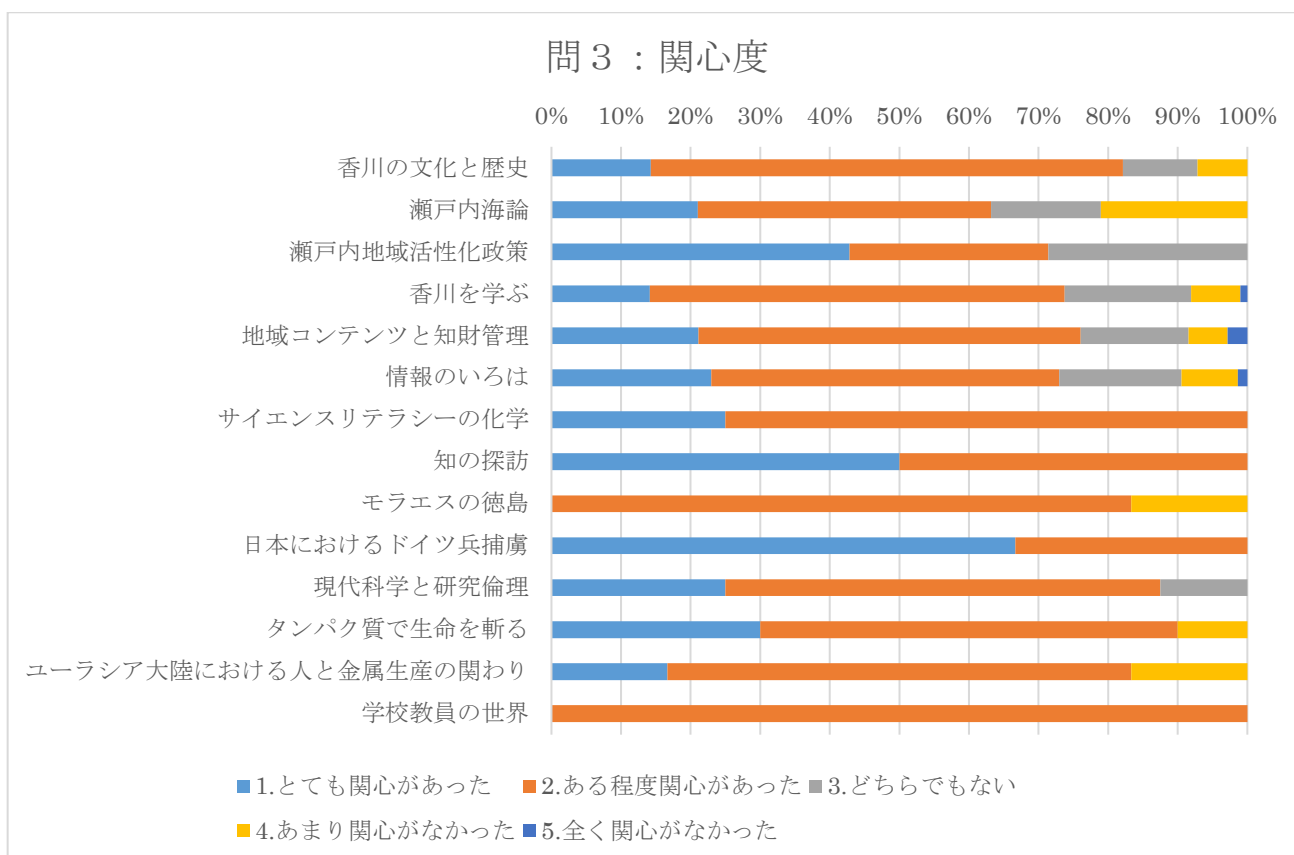
問 2. シラバスや授業中に示された授業の目標を、どの程度理解していましたか？

	1. 十分に理解していた	2. 少し理解していた	3. 目標は知っていたが理解していなかった	4. 目標があることさえ知らなかった（授業中に示されず、シラバスも読んでいなかった）
香川の文化と歴史	10	14	3	1
瀬戸内海論	3	13	2	1
瀬戸内地域活性化政策	1	5	0	1
香川を学ぶ	26	61	10	2
地域コンテンツと知財管理	25	39	8	0
情報のいろは	33	36	4	1
サイエンスリテラシーの化学	2	2	0	0
知の探訪	1	0	1	0
モラエスの徳島	3	3	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	0	6	0	0
現代科学と研究倫理	5	3	0	0
タンパク質で生命を斬る	4	5	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	3	3	0	0
学校教員の世界	1	0	0	0



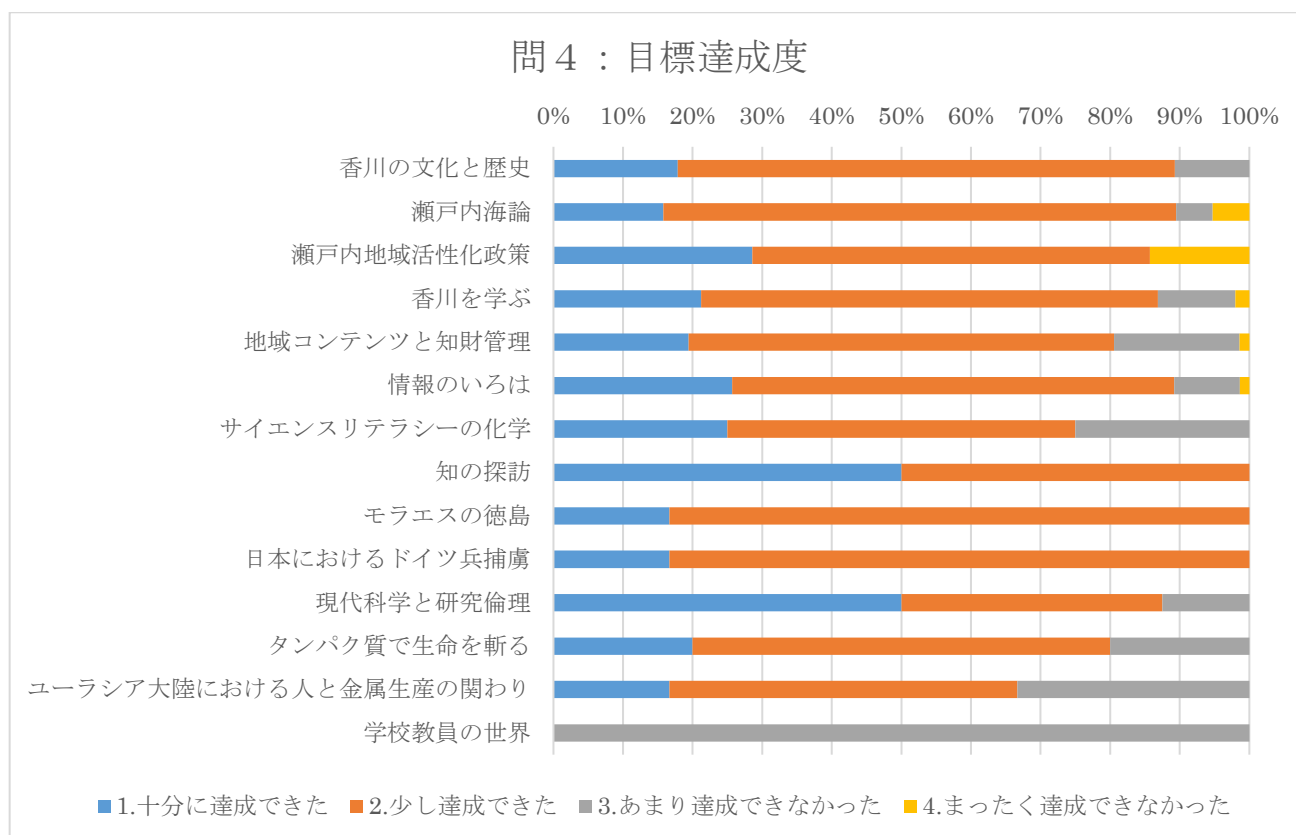
問3. 授業を受ける前の関心度はどうでしたか？

	1. とても関心があった	2. ある程度関心があった	3. どちらでもない	4. あまり関心がなかった	5. 全く関心なかった
香川の文化と歴史	4	19	3	2	0
瀬戸内海論	4	8	3	4	0
瀬戸内地域活性化政策	3	2	2	0	0
香川を学ぶ	14	59	18	7	1
地域コンテンツと知財管理	15	39	11	4	2
情報のいろは	17	37	13	6	1
サイエンスリテラシーの化学	1	3	0	0	0
知の探訪	1	1	0	0	0
モラエスの徳島	0	5	0	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	2	0	0	0
現代科学と研究倫理	2	5	1	0	0
タンパク質で生命を斬る	3	6	0	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	4	0	1	0
学校教員の世界	0	1	0	0	0



問 4. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか？

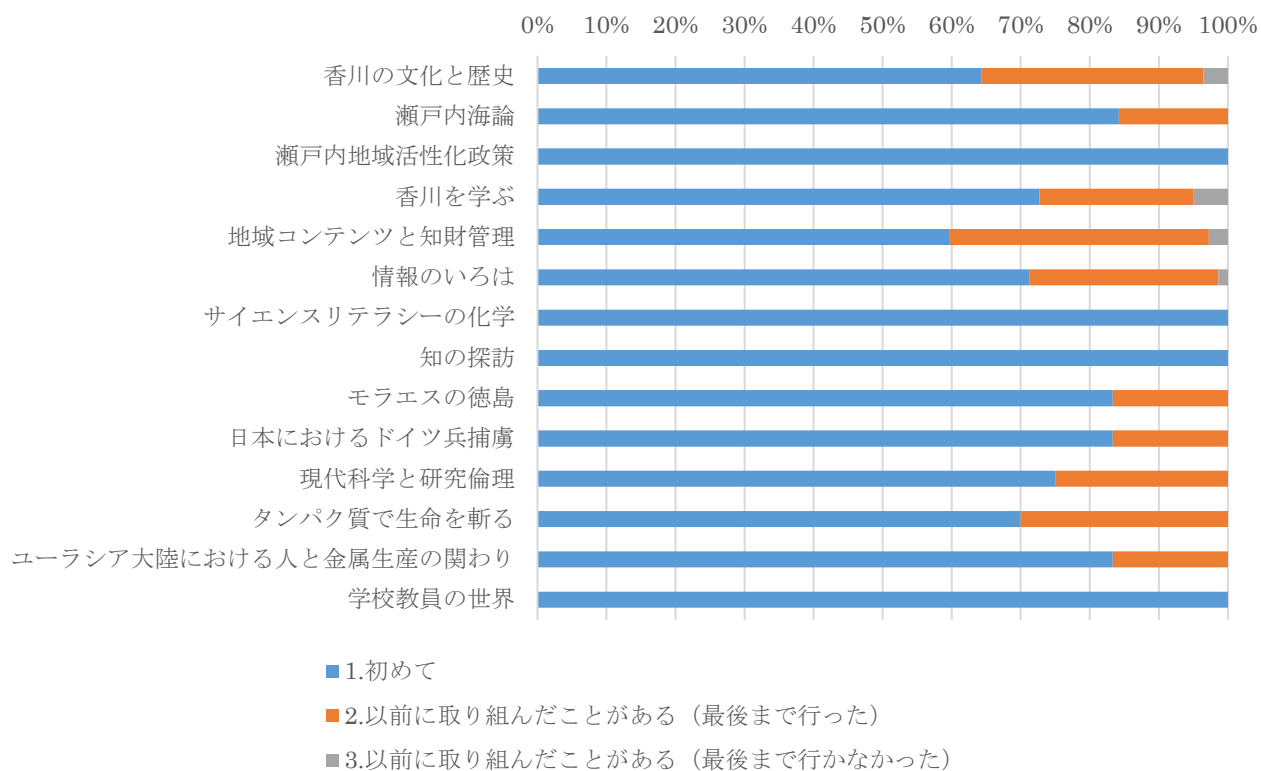
	1.十分に達成できた	2.少し達成できた	3.あまり達成できなかった	4.まったく達成できなかった
香川の文化と歴史	5	20	3	0
瀬戸内海論	3	14	1	1
瀬戸内地域活性化政策	2	4	0	1
香川を学ぶ	21	65	11	2
地域コンテンツと知財管理	14	44	13	1
情報のいろは	19	47	7	1
サイエンスリテラシーの化学	1	2	1	0
知の探訪	1	1	0	0
モラエスの徳島	1	5	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	1	5	0	0
現代科学と研究倫理	4	3	1	0
タンパク質で生命を斬る	2	6	2	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	3	2	0
学校教員の世界	0	0	1	0



問5. eラーニングの授業は初めてですか？

	1. 初めて	2. 以前に取り組んだことがある（最後まで行った）	3. 以前に取り組んだことがある（最後まで行かなかった）
香川の文化と歴史	18	9	1
瀬戸内海論	16	3	0
瀬戸内地域活性化政策	7	0	0
香川を学ぶ	72	22	5
地域コンテンツと知財管理	43	27	2
情報のいろは	52	20	1
サイエンスリテラシーの化学	4	0	0
知の探訪	2	0	0
モラエスの徳島	5	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜	5	1	0
現代科学と研究倫理	6	2	0
タンパク質で生命を斬る	7	3	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	5	1	0
学校教員の世界	1	0	0

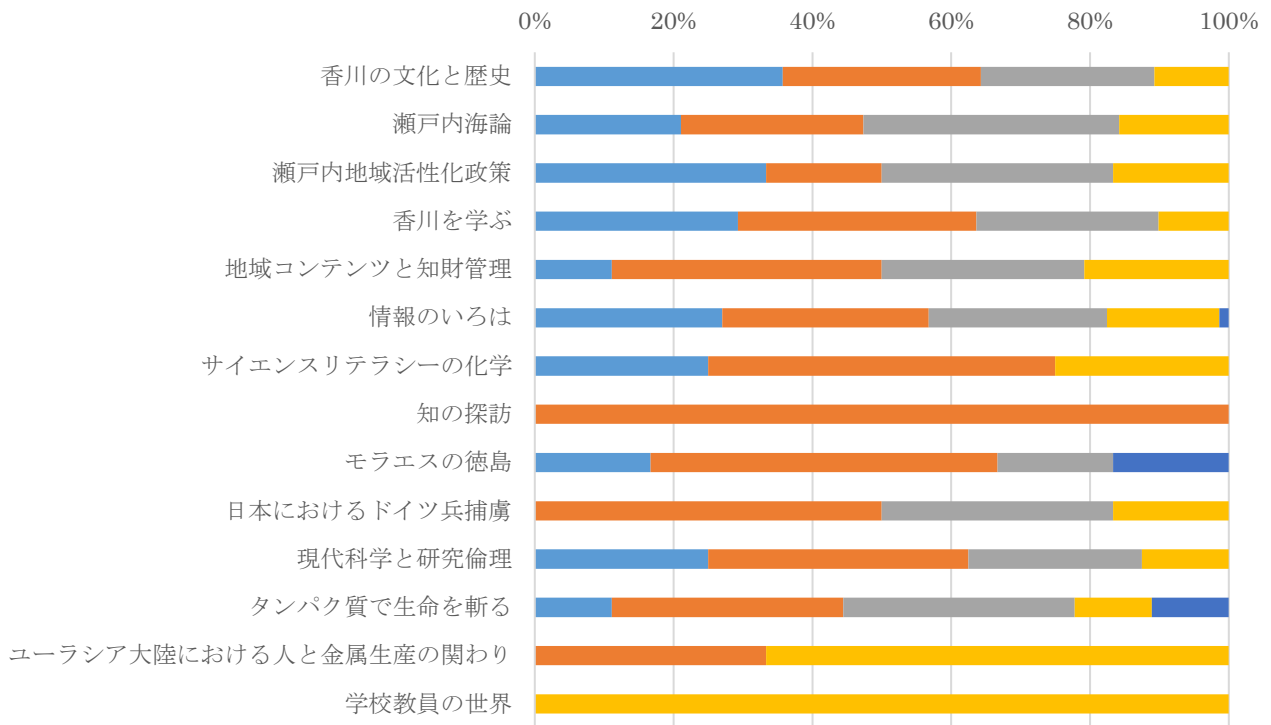
問5：eラーニング経験



問 6. 学習予定の立案と実際の進め方について教えてください。

	1. 学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。	2. 学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。	3. 特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。	4. 最後に駆け込みでなんとか間に合わせることができた。	5. その他
香川の文化と歴史	10	8	7	3	0
瀬戸内海論	4	5	7	3	0
瀬戸内地域活性化政策	2	1	2	1	0
香川を学ぶ	29	34	26	10	0
地域コンテンツと知財管理	8	28	21	15	0
情報のいろは	20	22	19	12	1
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	1	0
知の探訪	0	2	0	0	0
モラエスの徳島	1	3	1	0	1
日本におけるドイツ兵捕虜	0	3	2	1	0
現代科学と研究倫理	2	3	2	1	0
タンパク質で生命を斬る	1	3	3	1	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	2	0	4	0
学校教員の世界	0	0	0	1	0

問6：学習計画と実際



- 1. 学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。
- 2. 学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。
- 3. 特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。
- 4. 最後に駆け込みでなんとか間に合わせる事ができた。
- 5. その他

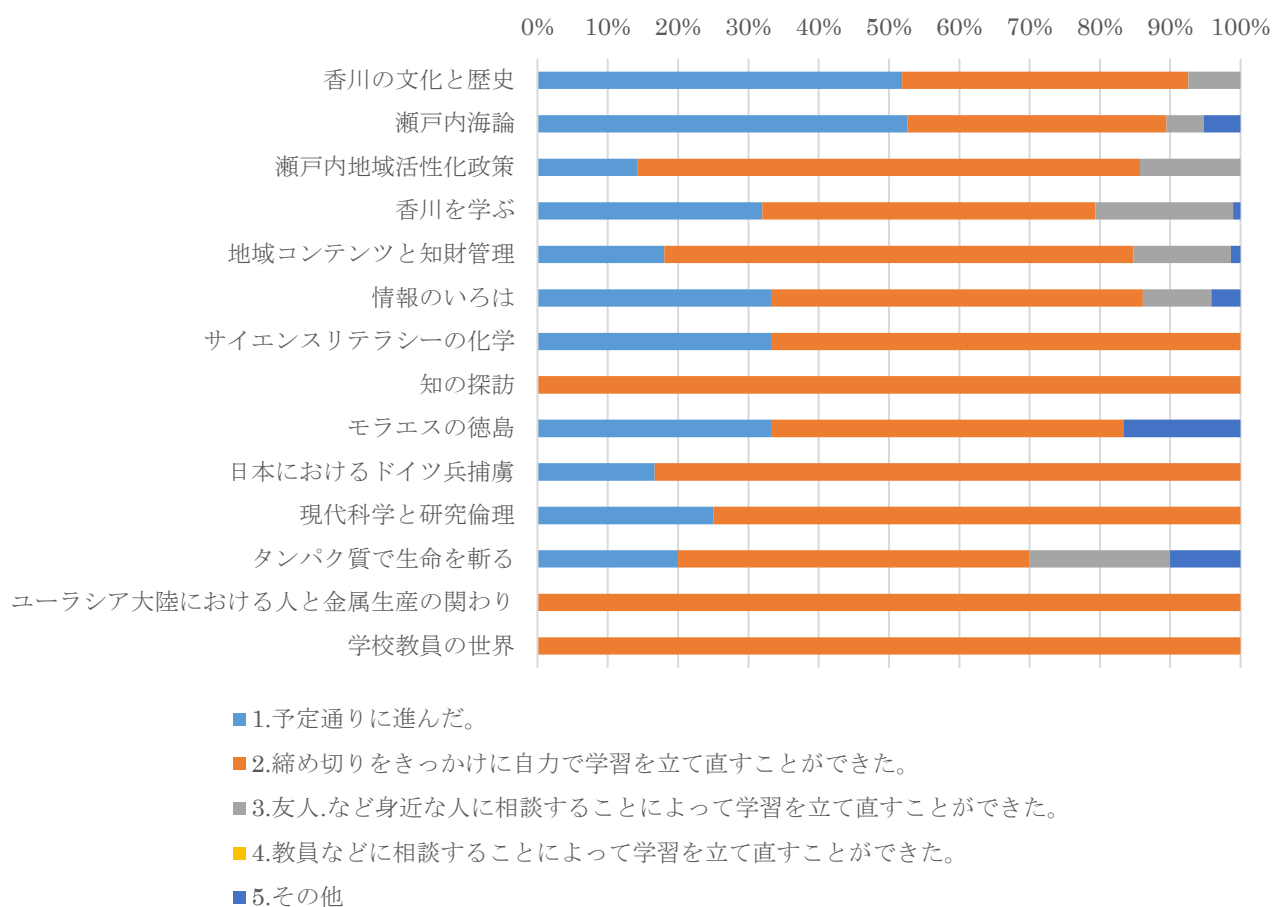
上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

タンパク質で生命を斬る	最後に駆け込んだが間に合わなかった
情報のいろは	学習予定を立てておらず、他の授業の課題ばかりに目がいき、出せないことが多くあった。
モラエスの徳島	特に学習予定は立てなかったが、前半はうまく学習できた。後半はなかなか学習の時間が取れず、遅れてしまうことが何度かあった。

問 7. 学習が予定通りに進まなかったときのことを教えてください。(予定通りに進んだ方は 1. にチェックしてください。)

	1. 予定通りに進んだ。	2. 締め切りをきっかけに自力で学習を立て直すことができた。	3. 友人. など身近な人に相談することによって学習を立て直すことができた。	4. 教員などに相談することによって学習を立て直すことができた。	5. その他
香川の文化と歴史	14	11	2	0	0
瀬戸内海論	10	7	1	0	1
瀬戸内地域活性化政策	1	5	1	0	0
香川を学ぶ	31	46	19	0	1
地域コンテンツと知財管理	13	48	10	0	1
情報のいろは	24	38	7	0	3
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	0	0
知の探訪	0	2	0	0	0
モラエスの徳島	2	3	0	0	1
日本におけるドイツ兵捕虜	1	5	0	0	0
現代科学と研究倫理	2	6	0	0	0
タンパク質で生命を斬る	2	5	2	0	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	6	0	0	0
学校教員の世界	0	1	0	0	0

問7：学習が予定通り進まなかったとき



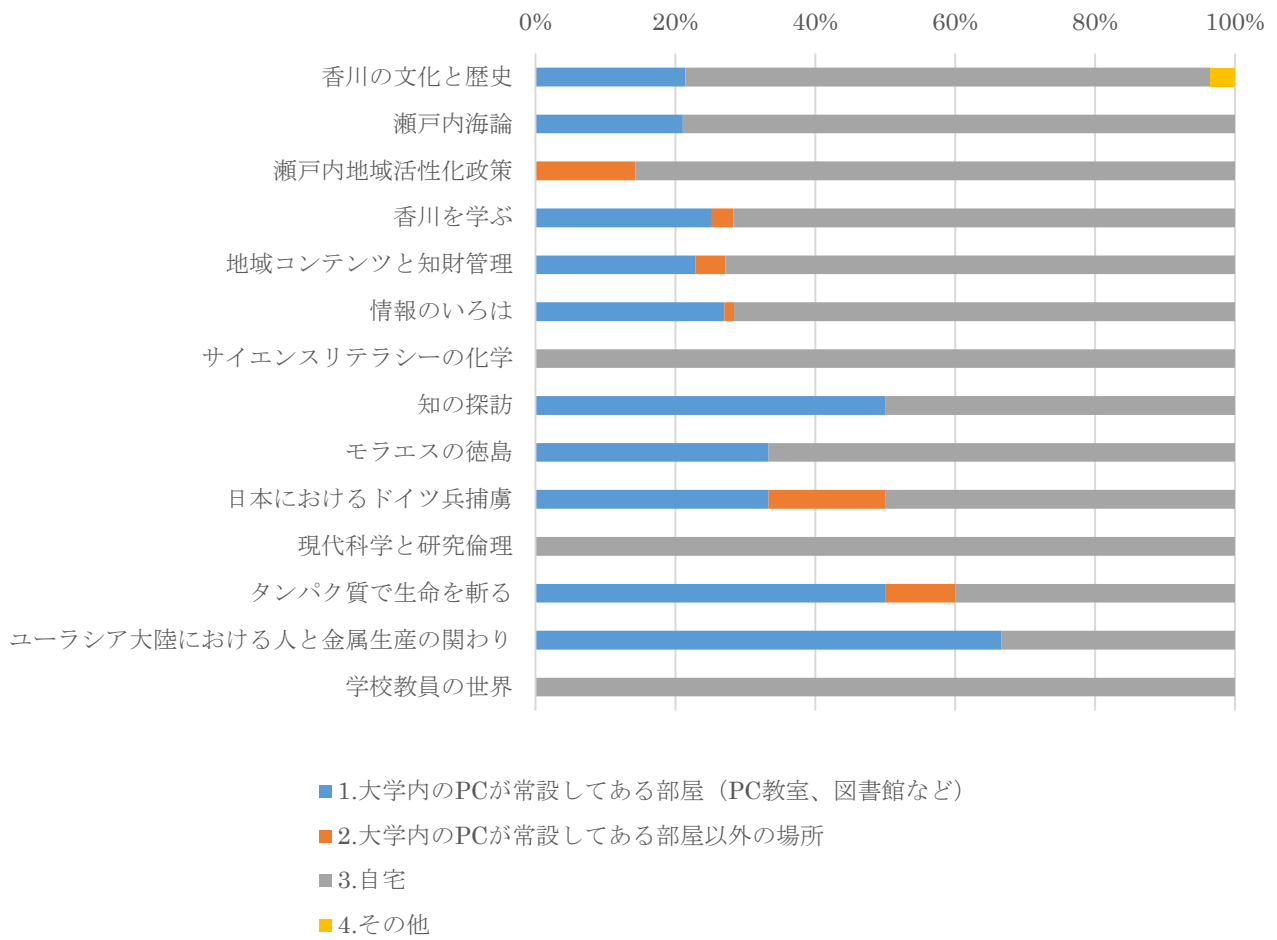
上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

タンパク質で生命を斬る	立て直せなかった
瀬戸内海論	立て直すことができなかった。
香川を学ぶ	年末に締切が一日前倒しになっていたのに気が付かず、予定通りに進められなかった。
情報のいろは	特に予定は決めていなかったが空いた時間にどんどんやっていくよう心掛けた。
情報のいろは	学習予定を立てておらず、他の授業の課題ばかりに目がいき、出せないことが多くあった。
情報のいろは	別の用事が出来てどうしても出来ないことがあったが、別の日に代替して行った。
地域コンテンツと知財管理	そもそも予定を立てずに学習していた。
モラエスの徳島	時間がとれた時に一気に行った。

問 8. 本授業 (e-ラーニング) を受講した場所について、主にどこで受講しましたか？

	1. 大学内の PC が常設してあ る部屋 (PC 教 室、図書館な ど)	2. 大学内の PC が常設してあ る部屋以外の 場所	3. 自宅	4. その他
香川の文化と歴史	6	0	21	1
瀬戸内海論	4	0	15	0
瀬戸内地域活性化政策	0	1	6	0
香川を学ぶ	25	3	71	0
地域コンテンツと知財管理	16	3	51	0
情報のいろは	20	1	53	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	4	0
知の探訪	1	0	1	0
モラエスの徳島	2	0	4	0
日本におけるドイツ兵捕虜	2	1	3	0
現代科学と研究倫理	0	0	8	0
タンパク質で生命を斬る	5	1	4	0
ユーラシア大陸における人と金 属生産の関わり	4	0	2	0
学校教員の世界	0	0	1	0

問 8 : 受講場所



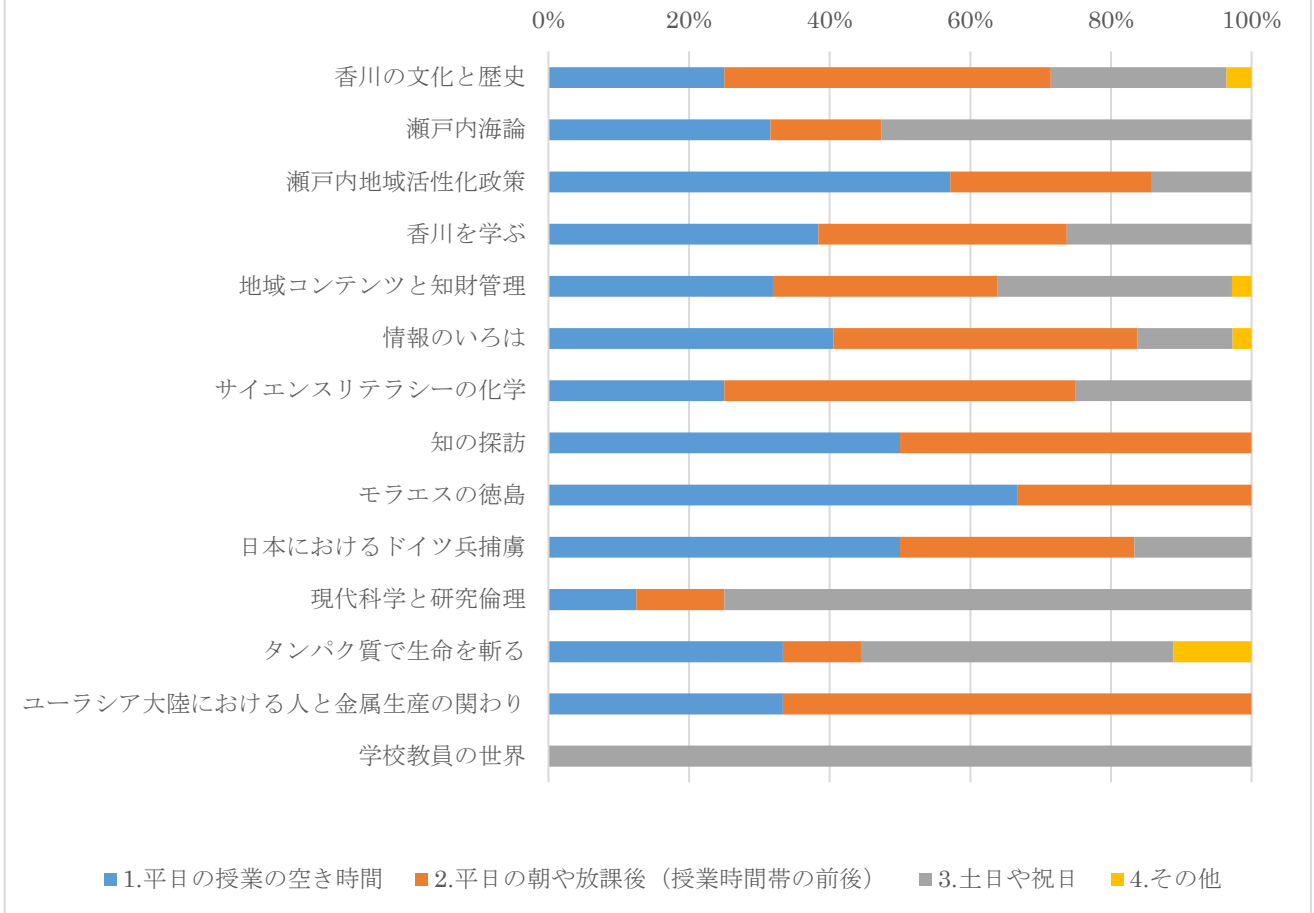
上記で、4. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

香川の文化と歴史	大学内の PC が常設してある部屋、および自宅
----------	-------------------------

問9. 本授業（eラーニング）を受講した時間帯について教えてください。

	1. 平日の授業の空き時間	2. 平日の朝や放課後（授業時間帯の前後）	3. 土日や祝日	4. その他
香川の文化と歴史	7	13	7	1
瀬戸内海論	6	3	10	0
瀬戸内地域活性化政策	4	2	1	0
香川を学ぶ	38	35	26	0
地域コンテンツと知財管理	23	23	24	2
情報のいろは	30	32	10	2
サイエンスリテラシーの化学	1	2	1	0
知の探訪	1	1	0	0
モラエスの徳島	4	2	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	3	2	1	0
現代科学と研究倫理	1	1	6	0
タンパク質で生命を斬る	3	1	4	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	2	4	0	0
学校教員の世界	0	0	1	0

問 9 : 受講時間帯



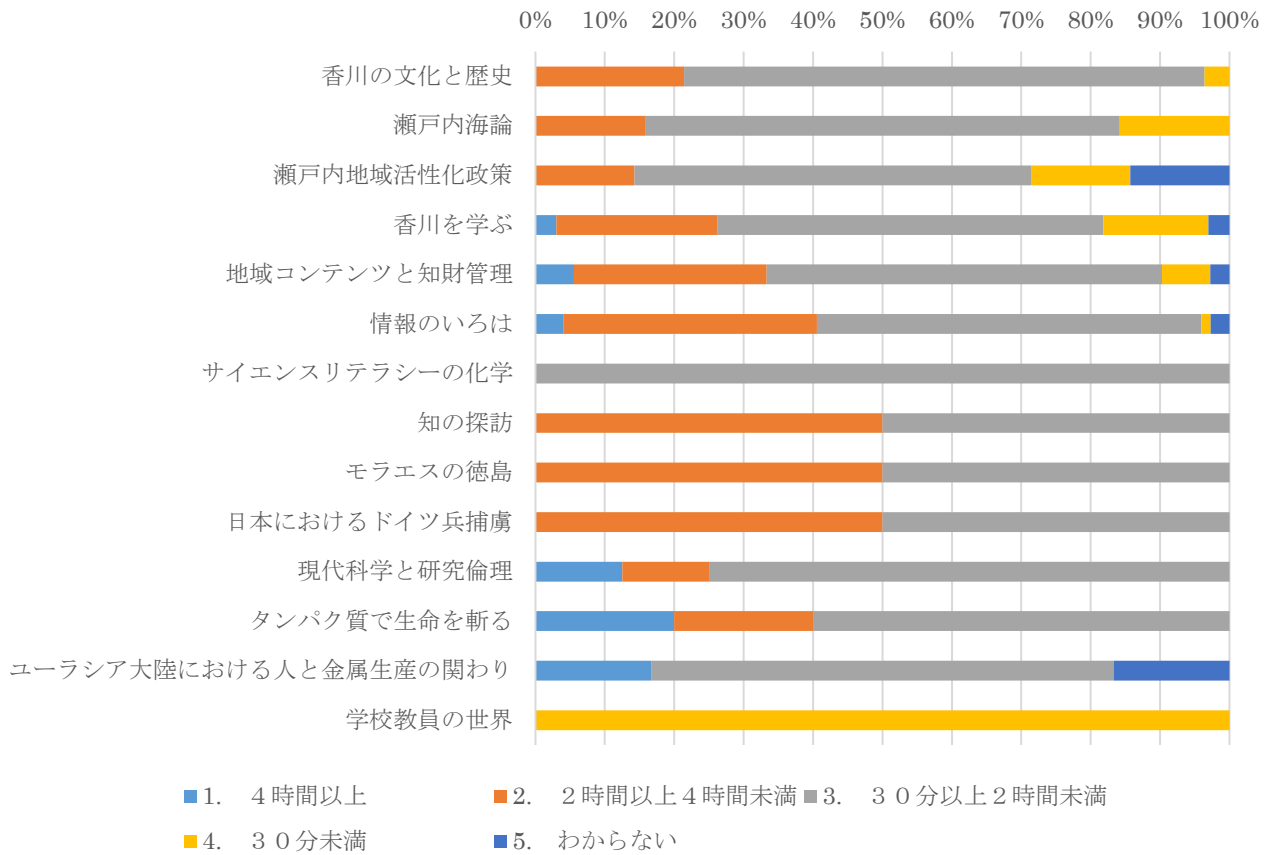
上記で、4. 他を選んだ方は具体的にお書きください。

タンパク質で生命を斬る	平日、土日の夜
香川の文化と歴史	平日の授業の空き時間、および放課後
情報のいろは	平日の夜
情報のいろは	時に決めておらず、空いている時間
地域コンテンツと知財管理	平日、休日問わず、余裕のある時間で受講した。
地域コンテンツと知財管理	特に決まりはなく行っていた。ただ夜の時間帯が多かった。

問 10. この授業について 1 週あたり平均して、どの程度、学習（ビデオ視聴、資料収集、文献講読、課題作成等のあらゆる活動を含む）をしましたか？数回分まとめて取り組むことが多かった場合も、できるだけ 1 週あたりに平均して教えてください。

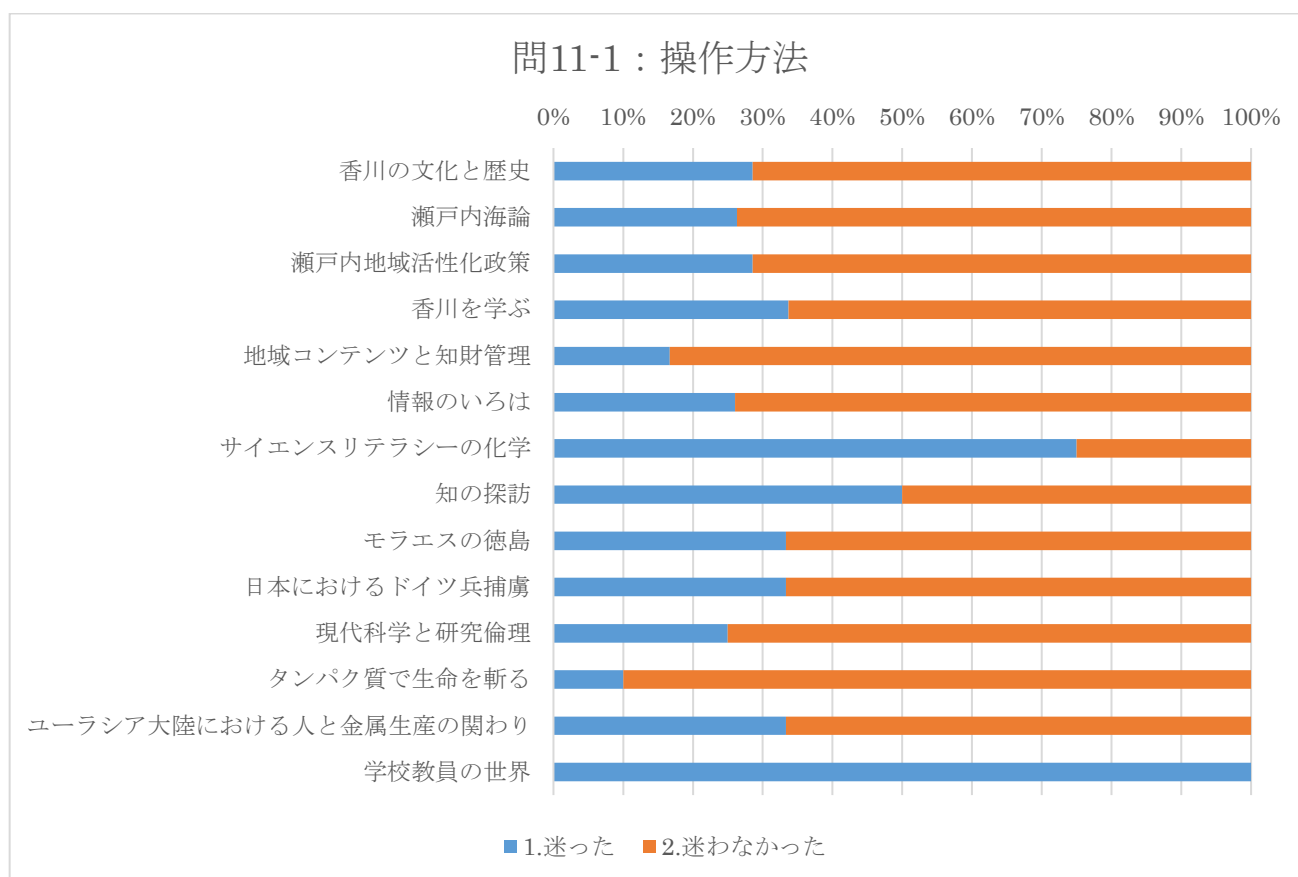
	1. 4 時間以上	2. 2 時間以上 4 時間未満	3. 30 分以上 2 時間未満	4. 30 分未満	5. わからない
香川の文化と歴史	0	6	21	1	0
瀬戸内海論	0	3	13	3	0
瀬戸内地域活性化政策	0	1	4	1	1
香川を学ぶ	3	23	55	15	3
地域コンテンツと知財管理	4	20	41	5	2
情報のいろは	3	27	41	1	2
サイエンスリテラシーの化学	0	0	4	0	0
知の探訪	0	1	1	0	0
モラエスの徳島	0	3	3	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	0	3	3	0	0
現代科学と研究倫理	1	1	6	0	0
タンパク質で生命を斬る	2	2	6	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	0	4	0	1
学校教員の世界	0	0	0	1	0

問10：受講時間



問 11-1. 操作方法で迷ったりしましたか？

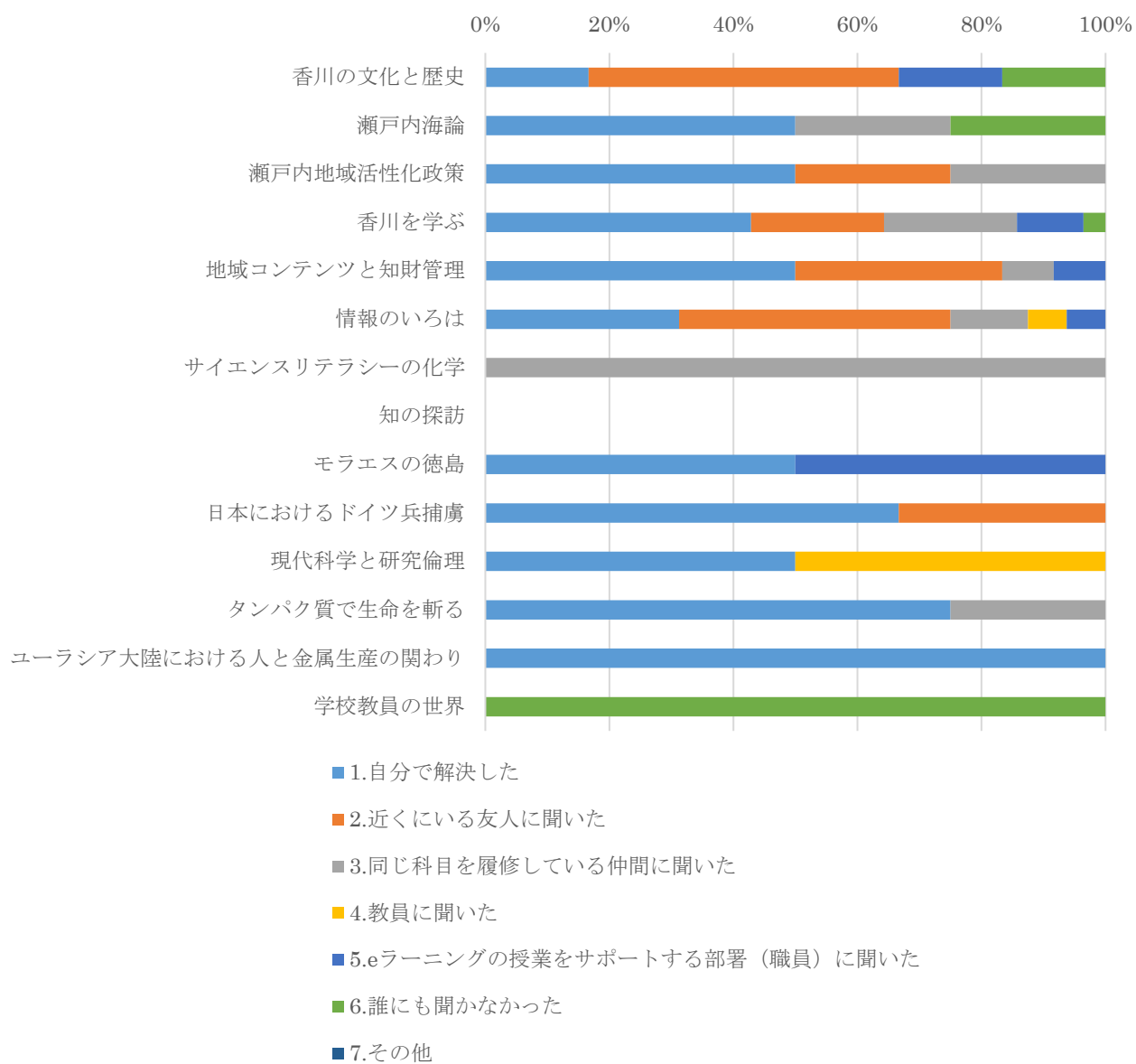
	1. 迷った	2. 迷わなかった
香川の文化と歴史	8	20
瀬戸内海論	5	14
瀬戸内地域活性化政策	2	5
香川を学ぶ	33	65
地域コンテンツと知財管理	12	60
情報のいろは	19	54
サイエンスリテラシーの化学	3	1
知の探訪	1	1
モラエスの徳島	2	4
日本におけるドイツ兵捕虜	2	4
現代科学と研究倫理	2	6
タンパク質で生命を斬る	1	9
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	2	4
学校教員の世界	1	0



問 11-2. 上記で、迷ったとお答えした方にうかがいます。迷った際、どのように解決しましたか？（複数回答可）

	1. 自分で解決した	2. 近くにいる友人に聞いた	3. 同じ科目を履修している仲間に聞いた	4. 教員に聞いた	5. eラーニングの授業をサポートする部署（職員）に聞いた	6. 誰にも聞かなかった	7. その他
香川の文化と歴史	1	3	0	0	1	1	0
瀬戸内海論	2	0	1	0	0	1	0
瀬戸内地域活性化政策	2	1	1	0	0	0	0
香川を学ぶ	12	6	6	0	3	1	0
地域コンテンツと知財管理	6	4	1	0	1	0	0
情報のいろは	5	7	2	1	1	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	1	0	0	0	0
知の探訪	0	0	0	0	0	0	0
モラエスの徳島	1	0	0	0	1	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	2	1	0	0	0	0	0
現代科学と研究倫理	1	0	0	1	0	0	0
タンパク質で生命を斬る	3	0	1	0	0	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	2	0	0	0	0	0	0
学校教員の世界	0	0	0	0	0	1	0

問11-2：解決方法



上記で、7.その他を選んだ方は具体的にお書きください。

回答なし

問 12. e ラーニングで提供される授業の良いと思う点をお書きください。

香川の文化と歴史	自分のペースで進めることができ、気になるところは止めて繰り返してみることができること。
香川の文化と歴史	自分の空いている時間に学習ができる点
香川の文化と歴史	自分の好きな時間に受講できる点。
香川の文化と歴史	自分のペースで学習を進められる点。
香川の文化と歴史	やはり、いつでもどこでも受けられるというのは非常に良い点だと思う。私は香川大学の工学部生なのだが、2年次以上になると、工学部キャンパスにばかり通うようになるため、一般教養科目を受けるためには幸町のキャンパスに通わなければならない。キャンパスが複数に分かれている大学では非常に有用なコンテンツだと考える。
香川の文化と歴史	好きな時にできる
香川の文化と歴史	空きコマなどを使って家でもできるので自分のペースで学習ができる点が良いと思った。
香川の文化と歴史	授業時間がある程度個人の自由で決められるので、忙しいときなど別に日に授業を受けられる点
香川の文化と歴史	講師に質問する際に、学生が送って、講師の都合の良い時間に返してもらえるので、講師に迷惑をかけていると思わないで気兼ねなく質問できる。
香川の文化と歴史	自分のできるときに学習できる点。本場で研究している教授や専門の方の話の聞くことができる点。
香川の文化と歴史	時間を問わず学習できる点。
香川の文化と歴史	自分の好きな時間にできるところ
香川の文化と歴史	普通の授業では学べない地域の特性などが学べる点。
香川の文化と歴史	空いてる時間に自分のペースで進められる点。
香川の文化と歴史	自分のペースで学習が進められること。
香川の文化と歴史	場所、時間に縛られることがない点
香川の文化と歴史	自分のペースで進められるところ
香川の文化と歴史	学習できる環境が多く、また、学習できる時間を自分で決められていて普通の教科学習の負担にならないことや、毎回さまざまなテーマで深く学べるので、意識を高く持てる。
香川の文化と歴史	気楽に話が聞ける。
香川の文化と歴史	聞き直しができること
香川の文化と歴史	時間帯や場所を問わず学習できる点。
瀬戸内海論	何回でも再生することができる。空き時間に進められるので、時間の有効活用が期待できる。
瀬戸内海論	自分の好きな時間にできること。
瀬戸内海論	時間にゆとりがある
瀬戸内海論	何回でも聞き直せる。 興味のあるところをもう一度じっくり聞くことができる。
瀬戸内海論	自宅で自分のペースでできる。
瀬戸内海論	インターネット環境が整っていれば、場所と時間を選ばずに学習することができる点。
瀬戸内海論	時間を自分の好きなように使える
瀬戸内海論	聞き直しができること
瀬戸内海論	自分の都合のよい時間に講義を受けられる点。
瀬戸内海論	いつでも何回でも視聴できる点
瀬戸内海論	自宅からでも受講できる点や空き時間に学習を進められる点。
瀬戸内海論	自分の好きな時間に受講できる
瀬戸内地域活性化政策	時間があるときにいつでも受けられる（たとえば深夜など）また何度でも

	映像を観ることができる
瀬戸内地域活性化政策	空きコマにすこしずつ区切って受けられる点
瀬戸内地域活性化政策	どこでもできる
瀬戸内地域活性化政策	場所を選ばないとこ
香川を学ぶ	いつでもどこでもネット環境が整っていればできるから遠方から学校に通っている人や部活・サークル活動などが忙しい人とかにとっては嬉しい点
香川を学ぶ	好きなときにできる
香川を学ぶ	身近に学習できるところ
香川を学ぶ	好きな時間に受けられること。
香川を学ぶ	空き時間にできること
香川を学ぶ	なし
香川を学ぶ	わからないところを繰り返して聞くことができるところ
香川を学ぶ	時間に縛られず、自分の好きな時間に講義が受けられる点
香川を学ぶ	自分のペースで学習できる点。
香川を学ぶ	自分に合った時間に学習できる点。
香川を学ぶ	自分の好きな時間に、どの場所においても、パソコンがあれば受けられる点。
香川を学ぶ	空きコマを活用できる
香川を学ぶ	自分が空いている時間に受講することができる点。
香川を学ぶ	大学では開講されていない講座が受けられること。
香川を学ぶ	自分のペースで学習を進めることができる点。 また、講義内容で聞き漏らしたところを再度復習できる点。
香川を学ぶ	自分の都合のよい時間に受講できる点。
香川を学ぶ	空き時間にできるので、自分のペースで進めやすかった。
香川を学ぶ	興味があまりなかった分野も提供されており、幅広い分野で学習を進められた点。
香川を学ぶ	任意の時間に講義を受けられる点
香川を学ぶ	自分のあいている時間にすることができるので負担にならない
香川を学ぶ	自宅で受けられる点
香川を学ぶ	動画で繰り返し学習できる。
香川を学ぶ	自分の好きな時間にできる
香川を学ぶ	自分の都合のよい時間に学習を進められること。
香川を学ぶ	自分の都合に合わせて予定を組み、受講できる点。
香川を学ぶ	いつでも、どこでも学習が可能である。 隙間時間を活用して学習できる。
香川を学ぶ	何度も繰り返して授業が見られる。
香川を学ぶ	隙間時間に学習できる点。
香川を学ぶ	他大学の授業をPCを通して受けられるので、自分の興味・関心に沿った勉強ができる点。 地元から離れた大学に通っている学生でも、eラーニングを通して地元について学べる点。 コマの指定がないため、都合のいい時間帯に授業を受けられる点。
香川を学ぶ	自分の空いた時間に取り組めること
香川を学ぶ	いつでも学習できる点。
香川を学ぶ	自分のペースで進められる
香川を学ぶ	自分の都合にあった時間に授業を受けられること
香川を学ぶ	動画を止めながら、自分のペースで学習ができる。
香川を学ぶ	自分の生活に合わせて講義を受けられる点。
香川を学ぶ	自分の好きな時間に学習できる点。

香川を学ぶ	通学に片道1時間以上かかるので自宅で講義を受けられる点
香川を学ぶ	自分の空いた時間で授業が受けられる点。
香川を学ぶ	自分の好きなタイミングで受けられること。
香川を学ぶ	自分の好きな時間に受講することができる。
香川を学ぶ	本学キャンパスに行く手間やお金がかからず便利である点。
香川を学ぶ	自宅でリラックスして学習できる点
香川を学ぶ	自分のやりたいときにできる。
香川を学ぶ	自宅で空いている時間に取り組むことができる。
香川を学ぶ	時間を自分で決められる点
香川を学ぶ	自分の時間で出来る
香川を学ぶ	自分の都合のいい時間に受講できること
香川を学ぶ	いつでも受講できる
香川を学ぶ	いつでもどこでも学習できること
香川を学ぶ	自宅でできるので交通費がかからない。徳島大学のように教養の授業が行われているキャンパスが自分の学部のキャンパスと結構離れている場合は通学が不便。 また、動画を何度も戻して見ることができるのは良かった。
地域コンテンツと知財管理	自分の好きな時間にできる点。
地域コンテンツと知財管理	空いた時間や好きな時間に学習できる
地域コンテンツと知財管理	自分のペースでできる。見直せる
地域コンテンツと知財管理	隙間時間で授業を受講できる点
地域コンテンツと知財管理	繰り返して学習できるため。都合のいい時間で学習できるため。
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで自由にできる点。他の授業の課題の日程を考えて自分で調整ができる。学校に行く必要がない。
地域コンテンツと知財管理	自分の都合の良い時間にできる点。
地域コンテンツと知財管理	いつでも学習ができる点。
地域コンテンツと知財管理	キャンパスまでが遠いため、通学時間が削減できる。
地域コンテンツと知財管理	自由な時間に授業を受けられる点
地域コンテンツと知財管理	遊行を繰り返し聞くことができ、自分のペースでノートをとることができること。
地域コンテンツと知財管理	好きな時間に取り組める
地域コンテンツと知財管理	いつでも何回でも授業が受けられるところ。
地域コンテンツと知財管理	受講時間を自由に設定することができる
地域コンテンツと知財管理	何回もわからないところを再生することができる。
地域コンテンツと知財管理	いつでも自分の好きな時間に授業が受けられる点。
地域コンテンツと知財管理	繰り返しビデオ視聴をできたり、自由に取り組めること。 元々興味のない分野でもこれを通して興味を持てるようになること。 学校にいない先生の授業を受けられること。
地域コンテンツと知財管理	説明を何回も視聴し直せる点 自分の時間に合わせられる
地域コンテンツと知財管理	自分の空いている時間を有効活用できる。動画のため復習がしやすい。
地域コンテンツと知財管理	いつでも受講できる点
地域コンテンツと知財管理	自宅で好きな時間にできる。
地域コンテンツと知財管理	自分のやりたい時に受講できること
地域コンテンツと知財管理	いつでも受けられる
地域コンテンツと知財管理	通学に片道1時間以上かかるので自宅で講義を受けることができる点。また映像を視聴してすぐに小テストがあるので自分がどれだけ理解できているかが分かる。
地域コンテンツと知財管理	自分のタイミングで勉強できる。

地域コンテンツと知財管理	自分の都合のいい時間に学習できる。
地域コンテンツと知財管理	時間のある時にできる点。
地域コンテンツと知財管理	時間をあまり選ばずに、空いた時間などに気軽に受講できる点
地域コンテンツと知財管理	同じ講義を繰り返し見ることができる。
地域コンテンツと知財管理	いつでもどこでもネット環境が整っていればできる点。
地域コンテンツと知財管理	自分の思ったタイミングで授業が受けられるという点
地域コンテンツと知財管理	いつでも受講できる
地域コンテンツと知財管理	自分で時間を見つけられる。
地域コンテンツと知財管理	空いた時間にできること。空きコマを有効に使える。
地域コンテンツと知財管理	自分のペースで授業を受けられる。
地域コンテンツと知財管理	好きな時間に出来るので自分のやりたいと思える時間に集中して出来る ところ。
地域コンテンツと知財管理	自分の時間があるときに授業を受けることができる点
情報のいろは	分からなかったところやもう一度聞きたい所を巻き戻してもう一度聞き直 すかができる。自分の中で解釈する時間が自由なので分からないの放置が 少なくなる。
情報のいろは	1人で自分のペースで受講できる点
情報のいろは	自分の好きな時間で学習を進められる。
情報のいろは	自分の好きな時間帯に受講できる 何回もみなおしが出来る
情報のいろは	分かりにくいところを見直せるところ
情報のいろは	学校に行かなくてよい
情報のいろは	いつでもどこでもできる点
情報のいろは	自分のスピードで授業を受けることができた。
情報のいろは	時間が自由。何回でも繰り返して学習できる。
情報のいろは	自分の好きなタイミングに受講できる。
情報のいろは	時間に縛られないこと
情報のいろは	いつでも学習できる
情報のいろは	家で授業が受けられる点
情報のいろは	自分の好きな時にできる。
情報のいろは	自分のペースで進められる
情報のいろは	好きな時に授業を受けることができる。
情報のいろは	自分の好きな時間に受講できる点。 自分の所属する大学では学べない授業を受講できる点。
情報のいろは	自分のペースでできる。 聞き直しができる。
情報のいろは	自分の好きな時間でできること。
情報のいろは	自分の好きなタイミングで受講できること
情報のいろは	×切までなら自分のペースで課題ができる。
情報のいろは	自分の空き時間で学習することができる。
情報のいろは	空いた時間に学習できること
情報のいろは	好きな時間に受講できる、他大学の講義も受講できる、自宅で受講できる
情報のいろは	何度も見返せるところ。
情報のいろは	他大学の授業が受けられること。
情報のいろは	家でもできるところ。
情報のいろは	自分の好きな時に受講できる。
情報のいろは	自分の空いた時間でできる
情報のいろは	授業外の自分の空いてる時間に学習できる点。

情報のいろは	自分のペースで授業を進めることができるし、わからないところは理解するまで何度でも聞くことができる。
情報のいろは	通学時間が往復2時間程度かかるので、自宅で講義を受けることができる点。
情報のいろは	繰り返し視聴できる点
情報のいろは	何処でもできるのが良い
情報のいろは	好きな時間にできること
情報のいろは	時間指定がないため、体調不良の際にも柔軟に授業を受けることができる。
情報のいろは	特になし
情報のいろは	好きな時間に取り組める
情報のいろは	自分の好きなタイミングで学習することができる点。
情報のいろは	いつでもどこでもネット環境があれば講義を聞くことができる。
情報のいろは	いつでも見れること。
情報のいろは	自分のペースで取り組め、授業を何度も受けることができる。
情報のいろは	ビデオで講義を受けることができるので、自分が理解できてない箇所を何回も見直して、自分のペースで学習できるところが良いと思います。
情報のいろは	生活に合わせた学習が行えること。
情報のいろは	自分のペースで進めることができるので、空きコマやや放課後の時間などを有効に使える。また授業で聞き逃したところや、もう一度深く理解したいと思った時など、繰り返して聞くことができるので良いと思う。
サイエンスリテラシーの化学	知識や概念を考え直すことができること
サイエンスリテラシーの化学	自分のタイミングで授業を受講することができること。
サイエンスリテラシーの化学	自分の空いた時間で行える。
知の探訪	好きな時間に学習できる点
知の探訪	自由に時間を決めて学習することが出来る点。
モラエスの徳島	自分の都合に合わせて講義を受けることができる点。
モラエスの徳島	様々な大学の生徒の考えや意見を見ることができるところ
モラエスの徳島	自宅でも行うことができ、また時間も決められていない点
モラエスの徳島	ある程度自分のペースで進められる点
モラエスの徳島	気軽に自分の好きなときに受けられる点
日本におけるドイツ兵捕虜	自分の都合に合わせて講義を受けることができる点。
日本におけるドイツ兵捕虜	場所と時間を選ばない。
日本におけるドイツ兵捕虜	自分の好きな時の学習できる
日本におけるドイツ兵捕虜	いつでも、何度でも受講できる点。
現代科学と研究倫理	自分のペースでできる
タンパク質で生命を斬る	自分の好きなタイミングで勉強ができる点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	好きなタイミングで授業を受けることができる点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	授業時間に縛られず空き時間を利用して進めることができる。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	どこでもいつでも出来る点。

問 13. e ラーニングで提供される授業で難しいと思う点をお書きください。

香川の文化と歴史	音声が悪いとなんと言っているのか分からない。また、実際の授業のように説明されていてもどこを説明しているのか分からないときはとても困る。
香川の文化と歴史	期限が朝である点 登録の仕方がわかりにくい点
香川の文化と歴史	教授や先生の滑舌が悪く、言葉が非常に聞き取りづらいことがあった。難しいかもしれないが、字幕の表示・非表示を選択できるようにしてはどうか？（滑舌の悪い方の動画だけでも）
香川の文化と歴史	自分で学習する時間を確保しなければならない点。
香川の文化と歴史	質問の問いかけ、返答がすぐにできない点。
香川の文化と歴史	電波が悪い
香川の文化と歴史	問題に対する答えの内容が大体あっても、インターネットで解答をする以上、スペースを開けただけで間違えと見なされたりする点が難しいと思った。
香川の文化と歴史	その場で直接質問等をしたりができない点や小テストについての質問等にも返答に時間がかかってしまう点。
香川の文化と歴史	その場での質疑応答が不可能
香川の文化と歴史	自分で計画的に学習すること。
香川の文化と歴史	パソコンが無い環境では学ぶことができない点。
香川の文化と歴史	分からないところを先生に直接質問できないところ
香川の文化と歴史	ありません。
香川の文化と歴史	聞き取りづらい所がたまにある。
香川の文化と歴史	疑問ができた際、リアルタイムに質問をして確認できないこと。
香川の文化と歴史	質問が容易ではない点
香川の文化と歴史	操作
香川の文化と歴史	専門的な知識がたまに出るところ。
香川の文化と歴史	空調などの雑音が大きく音声が聞き取りにくいことがあった
香川の文化と歴史	わからないことがあったときすぐに質問して答えが得られない点。
瀬戸内海論	特になし
瀬戸内海論	板書がよく見えない授業があること。
瀬戸内海論	自己管理
瀬戸内海論	小テストでほとんどの問題は授業を聞いていたらわかるが、先生によっては、何回見返してもわからない問題がある。
瀬戸内海論	自分でしっかりと学習ペースを維持することが難しい。
瀬戸内海論	レポートがおおい
瀬戸内海論	空調などによる雑音が大きく音声が聞き取りにくいことがある
瀬戸内海論	動画のシークバーが使いにくいときがあった点。
瀬戸内海論	授業をする教授が、学生の理解度を把握できないところ
瀬戸内海論	理系の生徒はパソコンを扱うのがいつものこととなっており、特に難しい点はないと思うが、文系のその中でもパソコンをあまり使わない生徒にとっては、e ラーニングはそこそこハードルの高い授業となっているかもしれない。
瀬戸内海論	集中力を持続させること
瀬戸内地域活性化政策	特になし
瀬戸内地域活性化政策	計画性がないと難しい点 パソコントラブル等授業外での問題の影響が多い点
瀬戸内地域活性化政策	わからないところをすぐに質問できない
瀬戸内地域活性化政策	パソコンを開かなければならないとこ

香川を学ぶ	質問があってもしにくい点 言葉のキャッチボールのような双方向的な授業展開がしにくい点
香川を学ぶ	忘れてしまうことがある。
香川を学ぶ	直接質問しづらいところ
香川を学ぶ	質問などがしにくい点。他者の質問、それに対する返答なども閲覧できるようにして欲しい。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	なし
香川を学ぶ	直接質問ができないところ
香川を学ぶ	忘れることがあったり、パソコンがないとできなかつたりする点
香川を学ぶ	音声に聞き取りにくいところがあった。
香川を学ぶ	公開日や締め切りなどが授業ごとに若干異なるので混乱する点。
香川を学ぶ	疑問に思ったことをすぐ聞くことが出来ない点。
香川を学ぶ	締め切りを忘れてしまう。
香川を学ぶ	質問のしづらさ。
香川を学ぶ	ネットでの受講のため、授業を受け忘れてしまうことがある点。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	疑問を解決すること。
香川を学ぶ	締め切りがあるので、把握して進めなければならない。
香川を学ぶ	計画を立ててから授業を見るようにしないと、授業を見るのがぎりぎりになってしまう点。
香川を学ぶ	質問を行うのが面倒な点
香川を学ぶ	集中できないときがある
香川を学ぶ	課題提出の期限が変則的な場合見逃しやすくなる点
香川を学ぶ	疑問が湧いてもすぐに教員に尋ねることができない。
香川を学ぶ	質疑がしにくい
香川を学ぶ	分からないところがあった場合に、すぐに質問などをできないこと。
香川を学ぶ	聞き取りにくい箇所が時々あること。
香川を学ぶ	実際に質問があった時に質問がすぐにできない。 授業内容を理解する問題であればいいが、質問が多くなるようなものは不向きだともう。
香川を学ぶ	質問がしづらい。
香川を学ぶ	分からない内容を容易に聞けない点。
香川を学ぶ	PCを通した授業形態なので、聞き流しがちになってしまう点。
香川を学ぶ	特にないです
香川を学ぶ	生の講座ではない点。
香川を学ぶ	質問しづらい
香川を学ぶ	しっかり、自分の中の計画通り授業をうけること
香川を学ぶ	自分で予定を立ててしないと忘れてしまう点。
香川を学ぶ	集中力を持続させる点。
香川を学ぶ	システムトラブル
香川を学ぶ	対面の授業ではないので分からないところがそのままになってしまう点。
香川を学ぶ	理解できなくてもその場で質問等ができないこと。
香川を学ぶ	特にありません。
香川を学ぶ	先生とのコミュニケーションがとれない点。
香川を学ぶ	学習計画をしっかりと立てなければ締め切りを忘れてしまうことがある点
香川を学ぶ	最初の設定。
香川を学ぶ	特になし

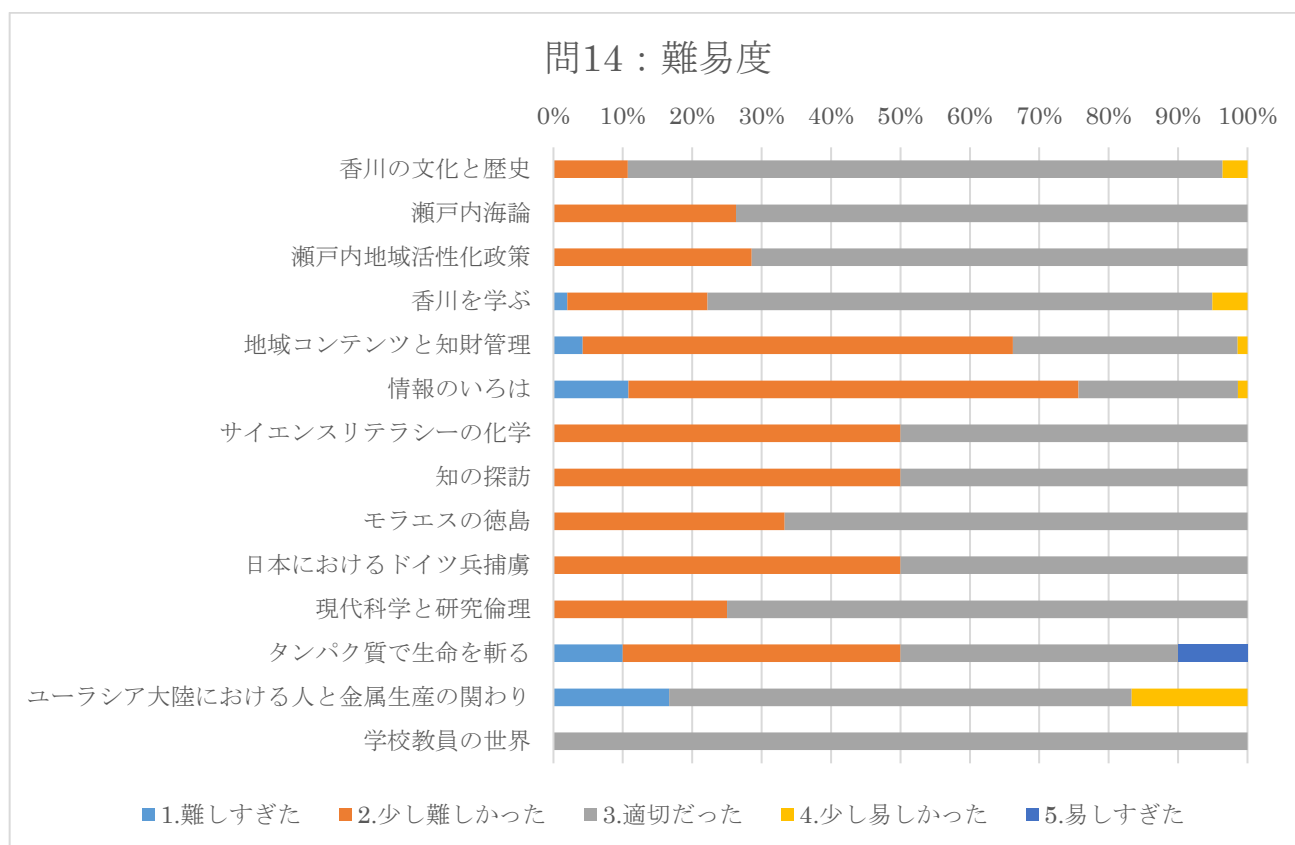
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	締め切りを忘れそうになる
香川を学ぶ	すぐに質問がいけないとこ
地域コンテンツと知財管理	直接ですとにでるところなどを聞けない点。
地域コンテンツと知財管理	質問してから回答までにラグがあるのでその日のうちに疑問を解決できない点
地域コンテンツと知財管理	すぐに質問できない、すぐに改善してもらえない点。
地域コンテンツと知財管理	計画通りに進まず課題をためてしまった場合に、一気にしてしまうため、内容が定着しにくい。
地域コンテンツと知財管理	理解できなかったところを質問する点。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	自分で時間を作って取り組まなければならない。
地域コンテンツと知財管理	課題の締め切りに追われてしまう点
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	忘れやすい
地域コンテンツと知財管理	教授が生徒の反応を見れないところ。
地域コンテンツと知財管理	貯めたら大変
地域コンテンツと知財管理	学習を思った通りに進めるのが難しかった。
地域コンテンツと知財管理	PC等のトラブルがあった時に授業が受けられない点。
地域コンテンツと知財管理	一人で自主的に進めないといけない分、自己管理ができないとどんどん溜まっていき、結果的に出来ずじまいにもなってしまうこと。 時間がぎりぎりになると作業的にこなすだけで、十分に内容をとらえることなく終わってしまうこと。
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	何か疑問があってもすぐに解決できるとは限らない。
地域コンテンツと知財管理	先生に気軽に質問できない点
地域コンテンツと知財管理	時間が決まっていないので自己管理になる。
地域コンテンツと知財管理	自分の決めた予定を継続して受講すること
地域コンテンツと知財管理	集中力を持続させること
地域コンテンツと知財管理	理解できなかった個所について直接先生に質問できない点。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	直接先生に質問できない。
地域コンテンツと知財管理	分からないところが出たときの質問の仕方がやりにくい点
地域コンテンツと知財管理	先生と生徒が直接対面して講義をするわけではないので、質問などができにくい。
地域コンテンツと知財管理	特にありません。
地域コンテンツと知財管理	掲示板のような形で質問を記述する場所を作っているが、少々使いづらい。個別にメールで質問するだけで問題ない。
地域コンテンツと知財管理	締め切りを忘れそうになる
地域コンテンツと知財管理	受講をため込んでしまうと苦しくなる。
地域コンテンツと知財管理	計画を立てておかないとためてしまう。
地域コンテンツと知財管理	締め切りなどの予定の管理
地域コンテンツと知財管理	自分で計画を立ててそれを実行しなければのちに膨大な量が溜まっていたこと。
地域コンテンツと知財管理	締切などを自分で把握しておかないとまとめて受講したりする形になってあまり身につかない点
情報のいろは	提出課題の分からなかった所（主に追加課題）の答えが締め切り後でいいので知りたい。分からなかった所は結局分からないままになってしまっ

	いる。
情報のいろは	意味がわからないときはなかなか聞きづらい点
情報のいろは	特にない。
情報のいろは	課題についての質問が出来ない
情報のいろは	特にないです
情報のいろは	意識がなきやできない
情報のいろは	予定通りに進めることができない時もあった。
情報のいろは	質問がすぐにできない。先生から一方的である。
情報のいろは	困ったことがあった時にすぐに質問しづらい。
情報のいろは	目の前に先生がいないので、だらけること。
情報のいろは	なし
情報のいろは	習慣化していないと締め切りを忘れてしまう。
情報のいろは	習慣ができるまで忘れやすい。
情報のいろは	集中力が続かない
情報のいろは	受けてみるまで難易度などは分からないこと。 普通の授業なら一回は体験することができるから。
情報のいろは	雑音が入っていたりして聞き取りにくい場合がある。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	対面授業じゃないので、ついつい忘れてしまうことがある
情報のいろは	つい後回しにしてしまう
情報のいろは	直接先生に質問できない。
情報のいろは	質問の意図・意味がわからないときに些細なことで気軽に質問ができない。 どうしても時間がとれない週はきつかった。(特に二週間以上忙しい時など)
情報のいろは	臨場感がないこと。
情報のいろは	自分自身で授業計画を立てなければならないところ。
情報のいろは	質問ができないこと。
情報のいろは	質問がしにくい。
情報のいろは	わからないことがあってもその場で質問ができない点。
情報のいろは	急用が入った時にペースが崩れて、締め切りに間に合わないかもしれないと焦る。 動画がたまに飛んで、再生ボタンを押してもう一度再生を始めても、音がとびとびになって視聴しづらいことがよくあった。その際は、一度 HP ごと消してもう一度アクセスすることで改善された。
情報のいろは	課題について理解できなかった点について解説をしてもらえない点。
情報のいろは	質問が直接できない点
情報のいろは	特にない
情報のいろは	気軽に質問できない点
情報のいろは	自分の意志の強さが求められるため、怠惰な生活を送ってしまう可能性もある。
情報のいろは	特になし
情報のいろは	スケジュール管理 毎週提出しなければならない課題があること
情報のいろは	質問のやり取りに時間がかかる。
情報のいろは	すぐに質問できる先生が近くにいないこと
情報のいろは	先生に直接質問できないこと。
情報のいろは	自主性に任される。
情報のいろは	自分で受講するタイミングを管理しないといけないこと。

情報のいろは	対面授業ではないので、質問をしても時間がかかること。
情報のいろは	数式などを回答する問題で、ワードを使いこなせないと自分が表したい数式を打ち込むことがなかなかできずに時間がかかる点。
サイエンスリテラシーの化学	教員との連携が取れる実感がないこと
サイエンスリテラシーの化学	他の講義で与えられるレポートや課題の方を優先してしまうことが多くなり取り組むのが遅くなる
知の探訪	自主的に学習を進めなければならない点
知の探訪	映像が見にくいところが多々ある点。
モラエスの徳島	パソコン操作に慣れていないと、課題がきちんと提出できているかわからず不安になる点。
モラエスの徳島	質問ができないところ
モラエスの徳島	特になし
モラエスの徳島	貯めがちになる点
モラエスの徳島	授業の時間が決まっていないために、自分で予定を立てて計画的に実行しないと忘れてしまい、期限が過ぎてしまうときがある点
日本におけるドイツ兵捕虜	パソコン操作に慣れていないと課題がきちんと提出できているかわからず不安になる点。
日本におけるドイツ兵捕虜	計画通りに受講を進めること。
日本におけるドイツ兵捕虜	強制性が小さくなるため、忘れてしまうことがある
日本におけるドイツ兵捕虜	毎回の課題が、対面の授業よりも重い。
現代科学と研究倫理	特になし
タンパク質で生命を斬る	自己管理能力がない人には、締切りを見逃してしまう可能性がある点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	わからないところがあっても気軽に質問できない点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	知名度が低い気がした。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	今回はeラーニングの授業を二つとったこともあり、一方は計画通りに進んだが、こちらの方がうまく進めていくことができなかった。eラーニングは計画性とその実行力が試されるものだと思うので、普段の授業をこなしながら二つのeラーニングを行うのは難しいと思った。

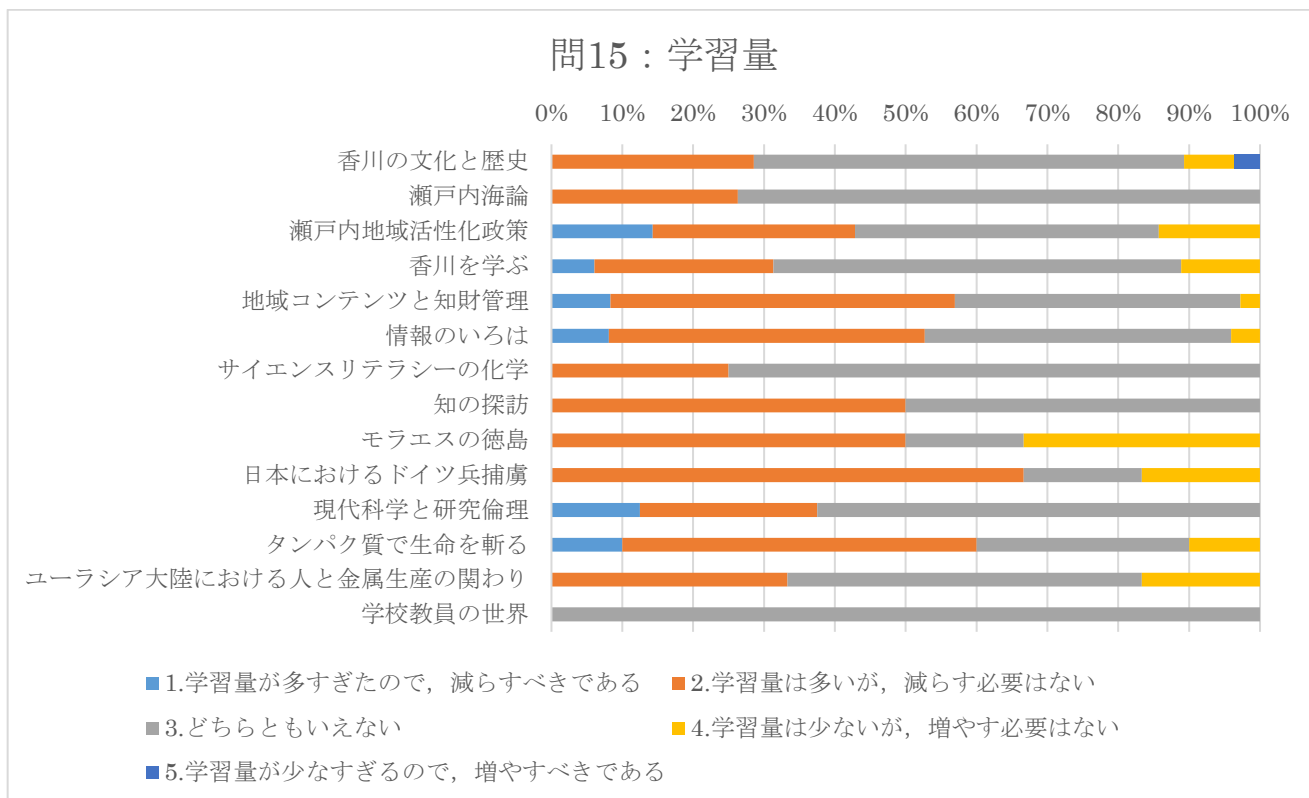
問 14. この授業の難易度は、適切でしたか？

	1. 難しすぎた	2. 少し難しかった	3. 適切だった	4. 少し易しかった	5. 易しすぎた
香川の文化と歴史	0	3	24	1	0
瀬戸内海論	0	5	14	0	0
瀬戸内地域活性化政策	0	2	5	0	0
香川を学ぶ	2	20	72	5	0
地域コンテンツと知財管理	3	44	23	1	0
情報のいろは	8	48	17	1	0
サイエンスリテラシーの化学	0	2	2	0	0
知の探訪	0	1	1	0	0
モラエスの徳島	0	2	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	0	3	3	0	0
現代科学と研究倫理	0	2	6	0	0
タンパク質で生命を斬る	1	4	4	0	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	0	4	1	0
学校教員の世界	0	0	1	0	0



問 15. この授業の学習量は、適切でしたか？

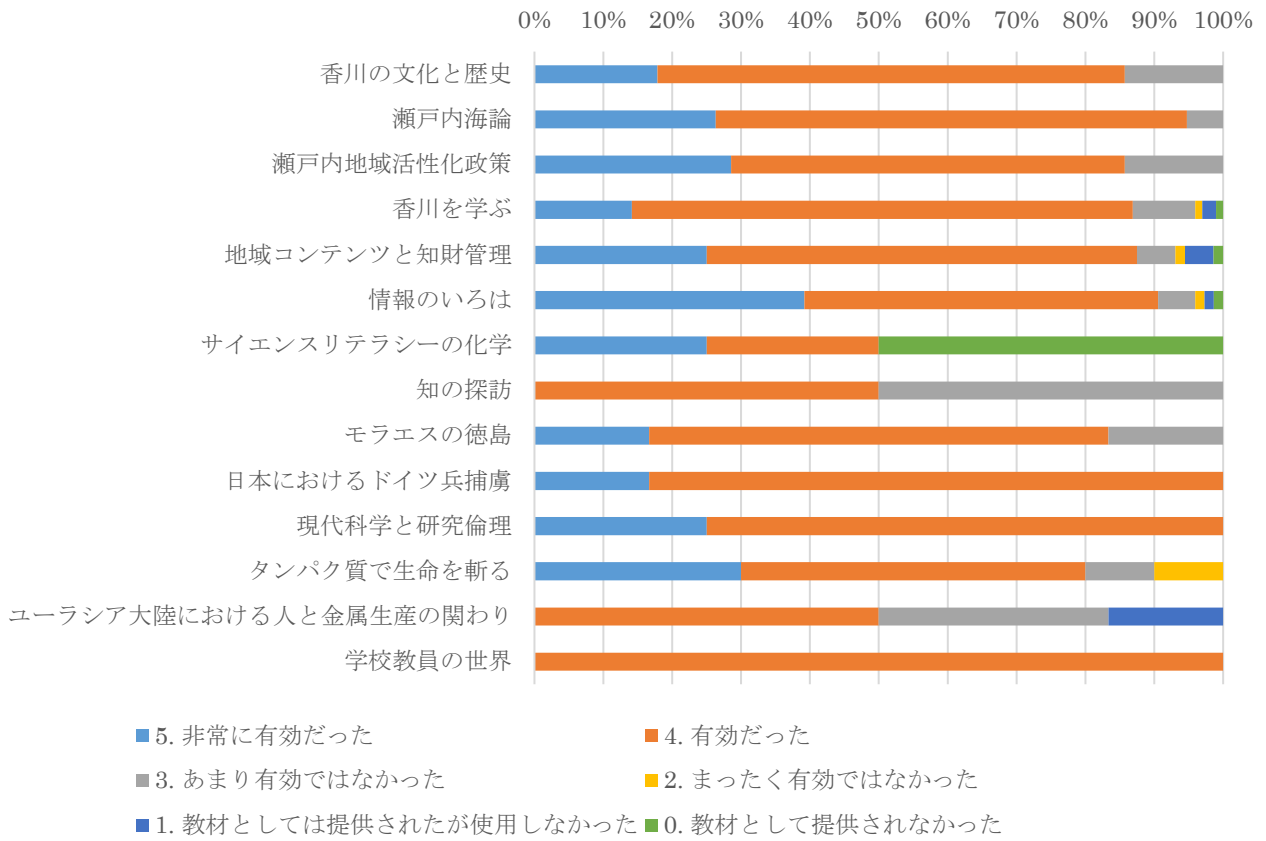
	1. 学習量が多すぎたので、減らすべきである	2. 学習量が多いが、減らす必要はない	3. どちらともいえない	4. 学習量は少ないが、増やす必要はない	5. 学習量が少なすぎるので、増やすべきである
香川の文化と歴史	0	8	17	2	1
瀬戸内海論	0	5	14	0	0
瀬戸内地域活性化政策	1	2	3	1	0
香川を学ぶ	6	25	57	11	0
地域コンテンツと知財管理	6	35	29	2	0
情報のいろは	6	33	32	3	0
サイエンスリテラシーの化学	0	1	3	0	0
知の探訪	0	1	1	0	0
モラエスの徳島	0	3	1	2	0
日本におけるドイツ兵捕虜	0	4	1	1	0
現代科学と研究倫理	1	2	5	0	0
タンパク質で生命を斬る	1	5	3	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	2	3	1	0
学校教員の世界	0	0	1	0	0



問 16-1. 視聴覚教材(ビデオ等)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川の文化と歴史	5	19	4	0	0	0
瀬戸内海論	5	13	1	0	0	0
瀬戸内地域活性化政策	2	4	1	0	0	0
香川を学ぶ	14	72	9	1	2	1
地域コンテンツと知財管理	18	45	4	1	3	1
情報のいろは	29	38	4	1	1	1
サイエンスリテラシーの化学	1	1	0	0	0	2
知の探訪	0	1	1	0	0	0
モラエスの徳島	1	4	1	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	1	5	0	0	0	0
現代科学と研究倫理	2	6	0	0	0	0
タンパク質で生命を斬る	3	5	1	1	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	3	2	0	1	0
学校教員の世界	0	1	0	0	0	0

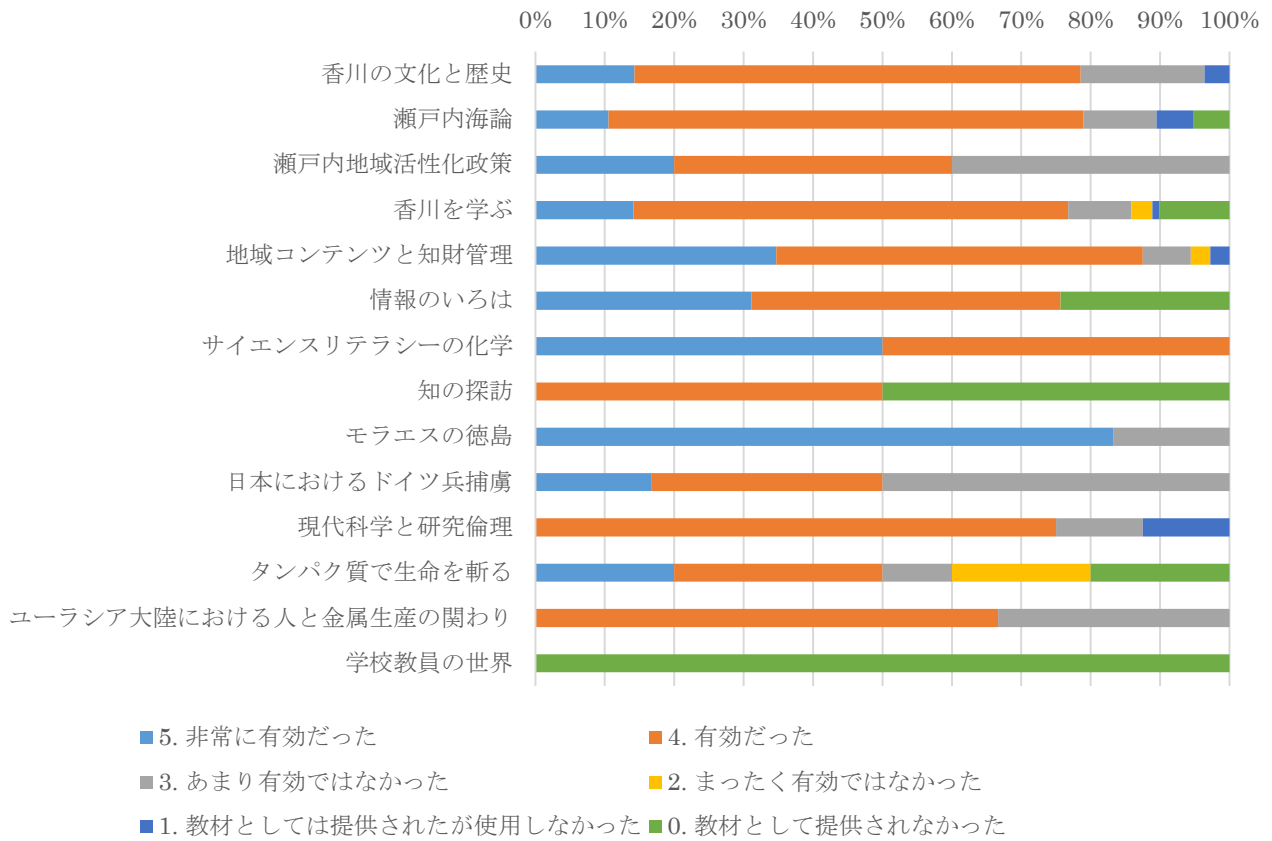
問16-1：視聴覚教材（ビデオ等）



問 16-2. 教科書・参考書や配布資料

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川の文化と歴史	4	18	5	0	1	0
瀬戸内海論	2	13	2	0	1	1
瀬戸内地域活性化政策	1	2	2	0	0	0
香川を学ぶ	14	62	9	3	1	10
地域コンテンツと知財管理	25	38	5	2	2	0
情報のいろは	23	33	0	0	0	18
サイエンスリテラシーの化学	2	2	0	0	0	0
知の探訪	0	1	0	0	0	1
モラエスの徳島	5	0	1	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	1	2	3	0	0	0
現代科学と研究倫理	0	6	1	0	1	0
タンパク質で生命を斬る	2	3	1	2	0	2
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	4	2	0	0	0
学校教員の世界	0	0	0	0	0	1

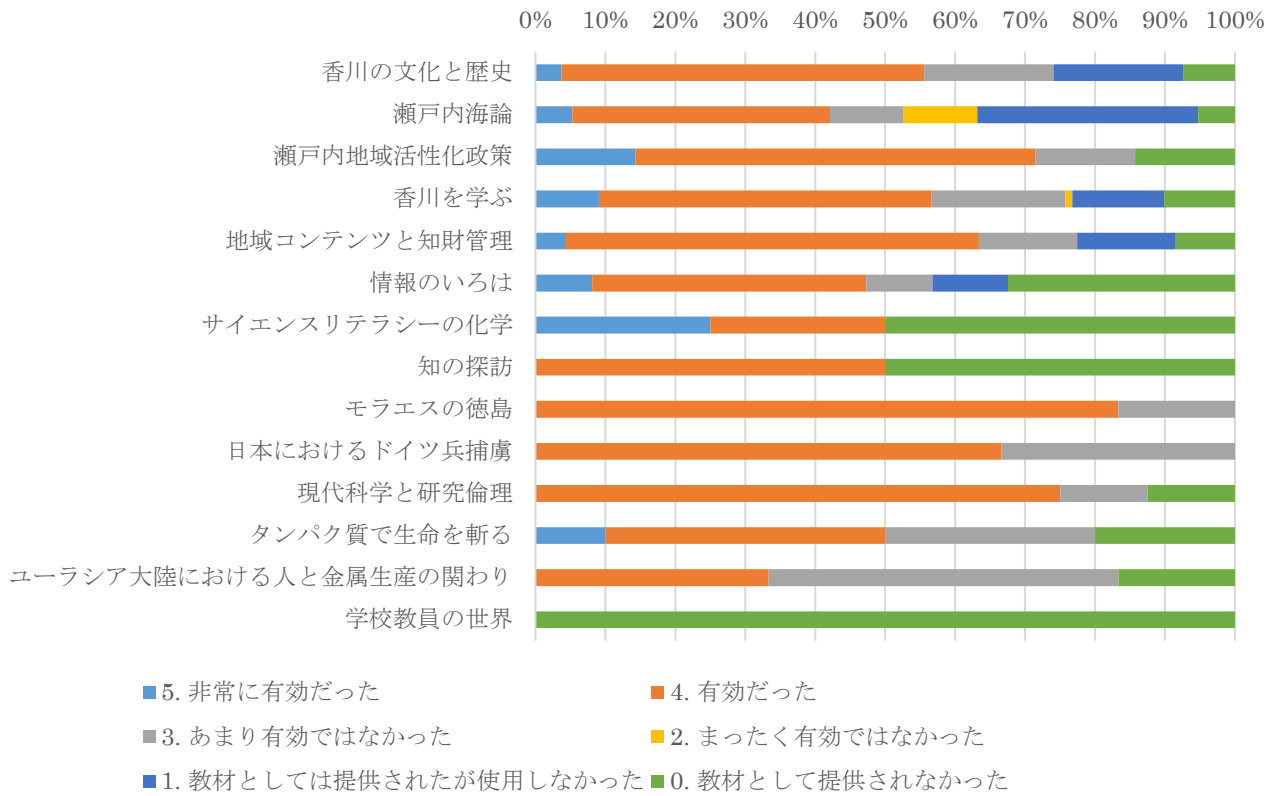
問16-2：教科書・参考書・配布資料



問 16-3. 紹介された参考リンク（インターネット上の情報源）

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川の文化と歴史	1	14	5	0	5	2
瀬戸内海論	1	7	2	2	6	1
瀬戸内地域活性化政策	1	4	1	0	0	1
香川を学ぶ	9	47	19	1	13	10
地域コンテンツと知財管理	3	42	10	0	10	6
情報のいろは	6	29	7	0	8	24
サイエンスリテラシーの化学	1	1	0	0	0	2
知の探訪	0	1	0	0	0	1
モラエスの徳島	0	5	1	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	0	4	2	0	0	0
現代科学と研究倫理	0	6	1	0	0	1
タンパク質で生命を斬る	1	4	3	0	0	2
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	2	3	0	0	1
学校教員の世界	0	0	0	0	0	1

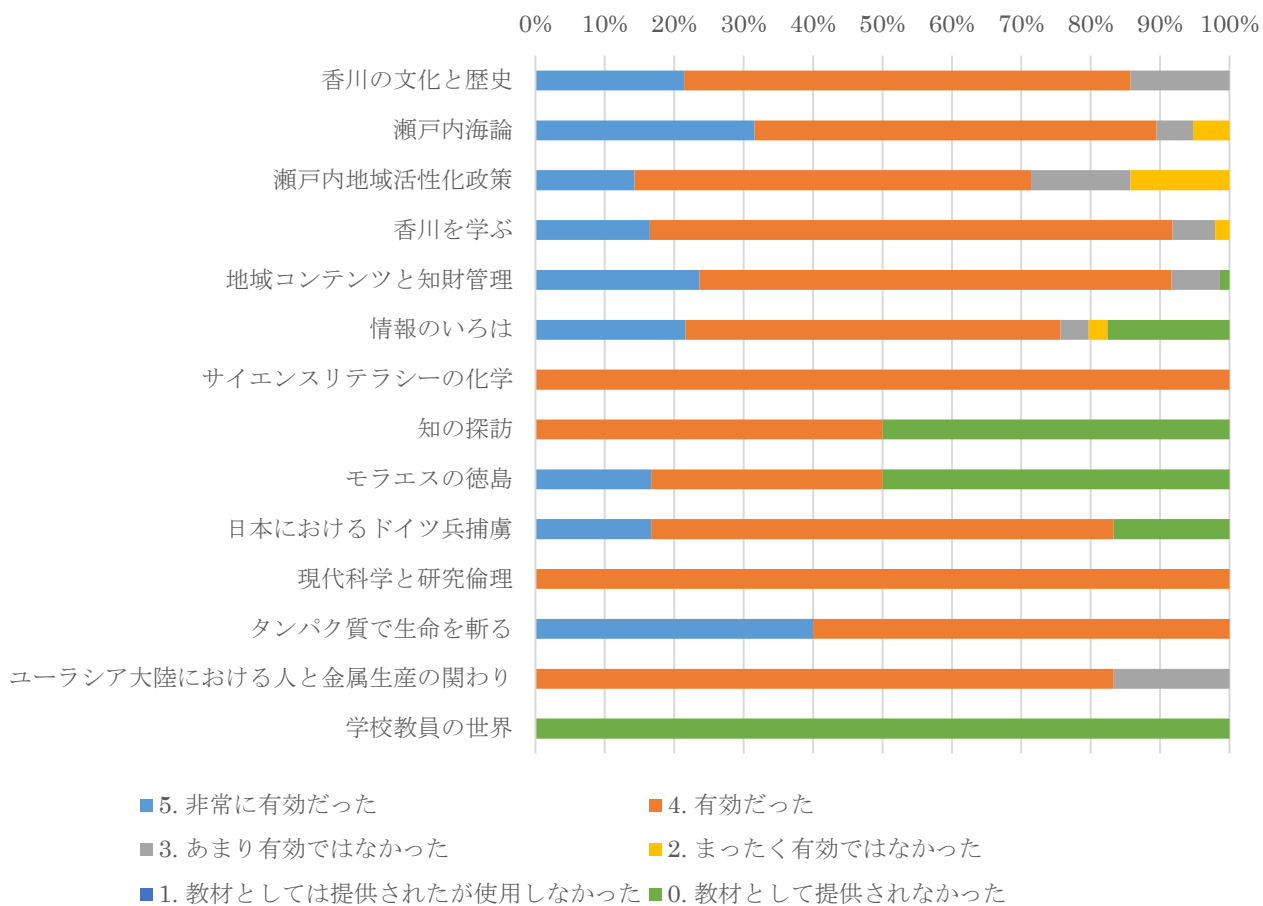
問16-3：参考リンク(インターネット上の情報源)



問 16-4. クイズ (小テスト)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川の文化と歴史	6	18	4	0	0	0
瀬戸内海論	6	11	1	1	0	0
瀬戸内地域活性化政策	1	4	1	1	0	0
香川を学ぶ	16	73	6	2	0	0
地域コンテンツと知財管理	17	49	5	0	0	1
情報のいろは	16	40	3	2	0	13
サイエンスリテラシーの化学	0	4	0	0	0	0
知の探訪	0	1	0	0	0	1
モラエスの徳島	1	2	0	0	0	3
日本におけるドイツ兵捕虜	1	4	0	0	0	1
現代科学と研究倫理	0	8	0	0	0	0
タンパク質で生命を斬る	4	6	0	0	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	5	1	0	0	0
学校教員の世界	0	0	0	0	0	1

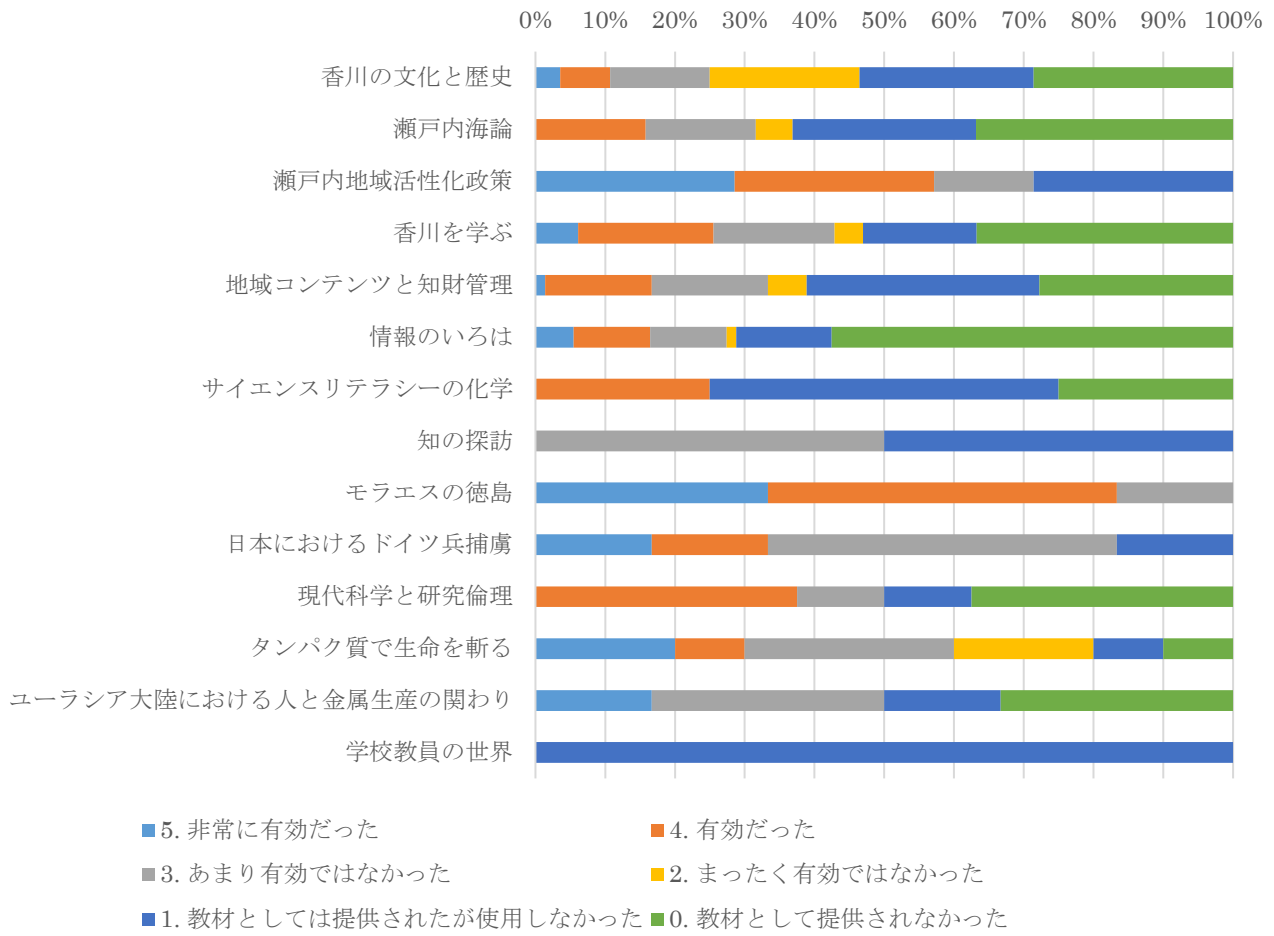
問16-4 : クイズ (小テスト)



問 16-5. 掲示板（フォーラム）における受講者同士のディスカッション

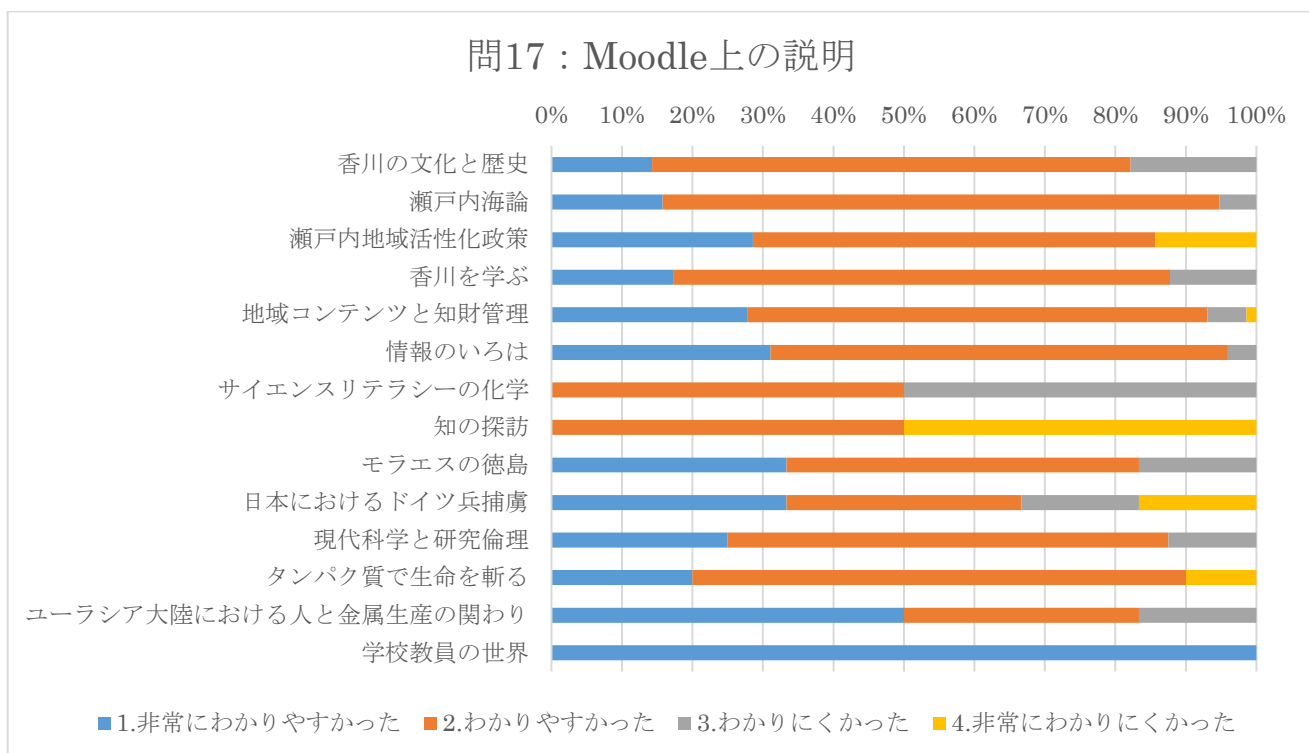
	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
香川の文化と歴史	1	2	4	6	7	8
瀬戸内海論	0	3	3	1	5	7
瀬戸内地域活性化政策	2	2	1	0	2	0
香川を学ぶ	6	19	17	4	16	36
地域コンテンツと知財管理	1	11	12	4	24	20
情報のいろは	4	8	8	1	10	42
サイエンスリテラシーの化学	0	1	0	0	2	1
知の探訪	0	0	1	0	1	0
モラエスの徳島	2	3	1	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	1	1	3	0	1	0
現代科学と研究倫理	0	3	1	0	1	3
タンパク質で生命を斬る	2	1	3	2	1	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	0	2	0	1	2
学校教員の世界	0	0	0	0	1	0

問16-5：掲示板（フォーラム）



問 17. この授業の Moodle 上の説明（例えば毎週の学修の進め方や課題等の指示）は、わかりやすかったですか？

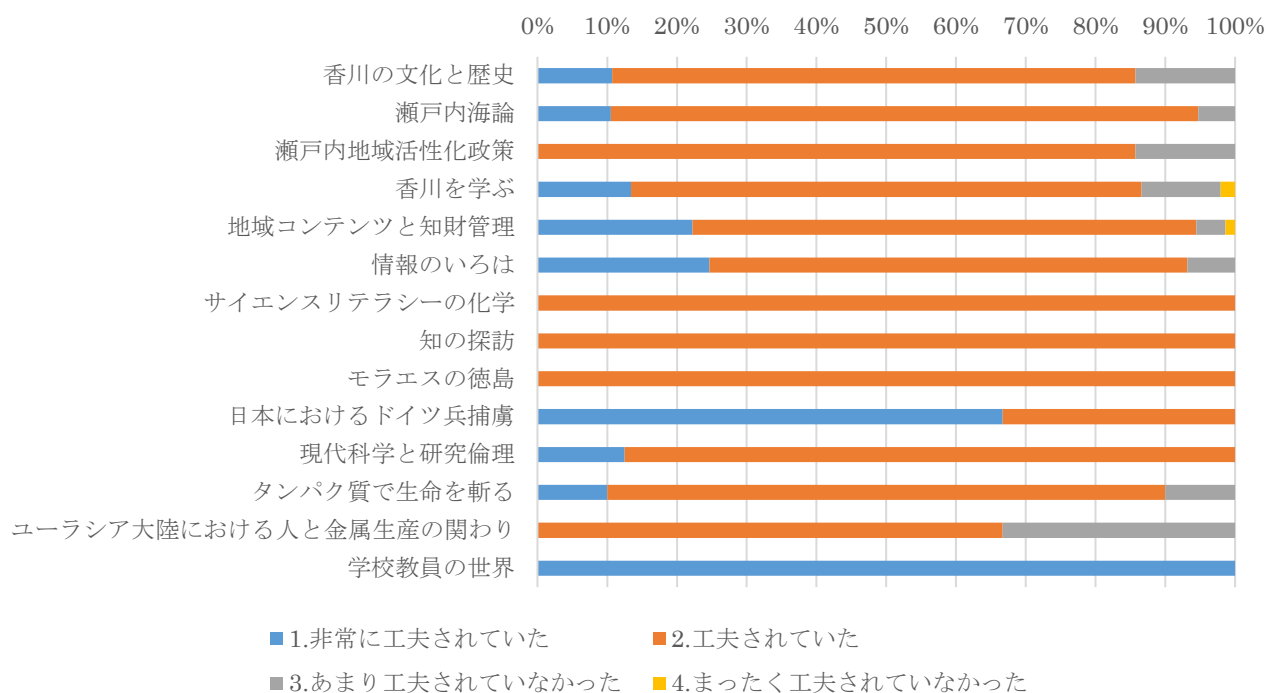
	1. 非常にわかりやすかった	2. わかりやすかった	3. わかりにくかった	4. 非常にわかりにくかった
香川の文化と歴史	4	19	5	0
瀬戸内海論	3	15	1	0
瀬戸内地域活性化政策	2	4	0	1
香川を学ぶ	17	69	12	0
地域コンテンツと知財管理	20	47	4	1
情報のいろは	23	48	3	0
サイエンスリテラシーの化学	0	2	2	0
知の探訪	0	1	0	1
モラエスの徳島	2	3	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜	2	2	1	1
現代科学と研究倫理	2	5	1	0
タンパク質で生命を斬る	2	7	0	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	3	2	1	0
学校教員の世界	1	0	0	0



問 18. 授業をわかりやすくする工夫がなされていましたか？

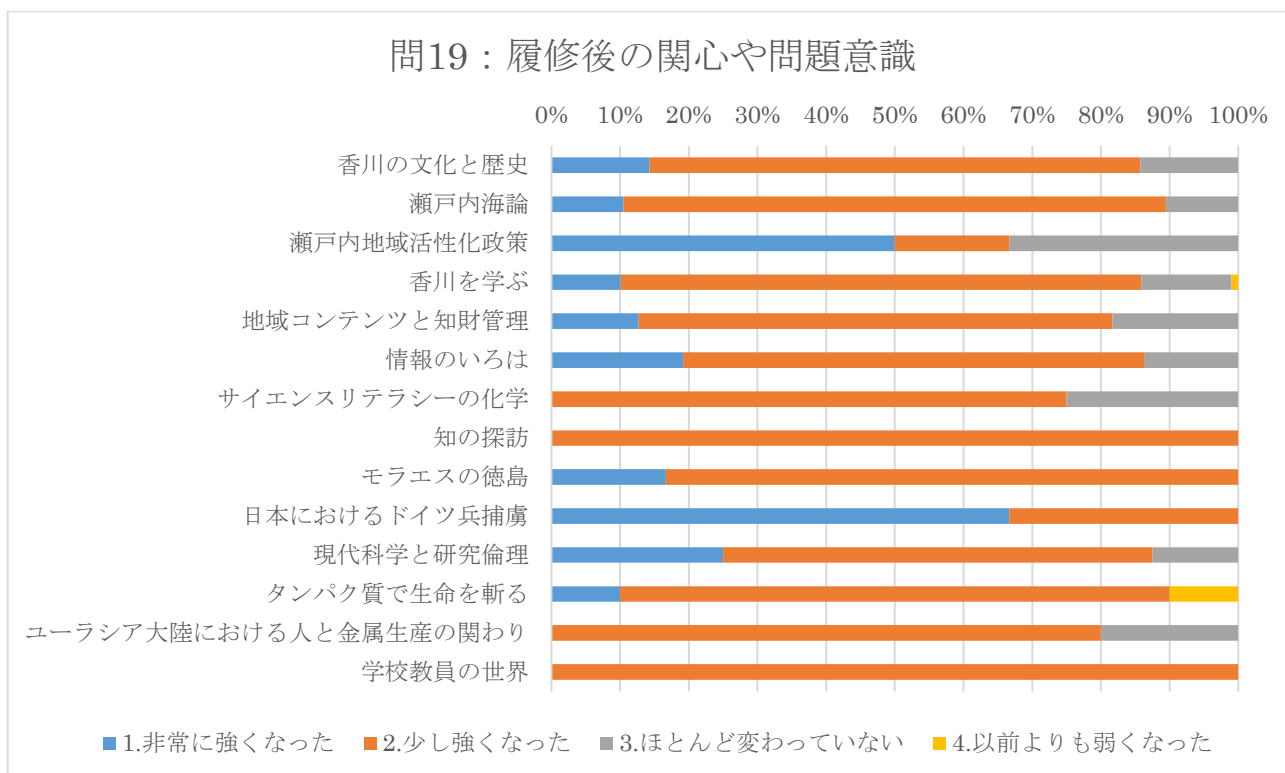
	1. 非常に工夫されていた	2. 工夫されていた	3. あまり工夫されていなかった	4. まったく工夫されていなかった
香川の文化と歴史	3	21	4	0
瀬戸内海論	2	16	1	0
瀬戸内地域活性化政策	0	6	1	0
香川を学ぶ	13	71	11	2
地域コンテンツと知財管理	16	52	3	1
情報のいろは	18	50	5	0
サイエンスリテラシーの化学	0	4	0	0
知の探訪	0	2	0	0
モラエスの徳島	0	6	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	2	0	0
現代科学と研究倫理	1	7	0	0
タンパク質で生命を斬る	1	8	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	4	2	0
学校教員の世界	1	0	0	0

問18：わかりやすくする工夫



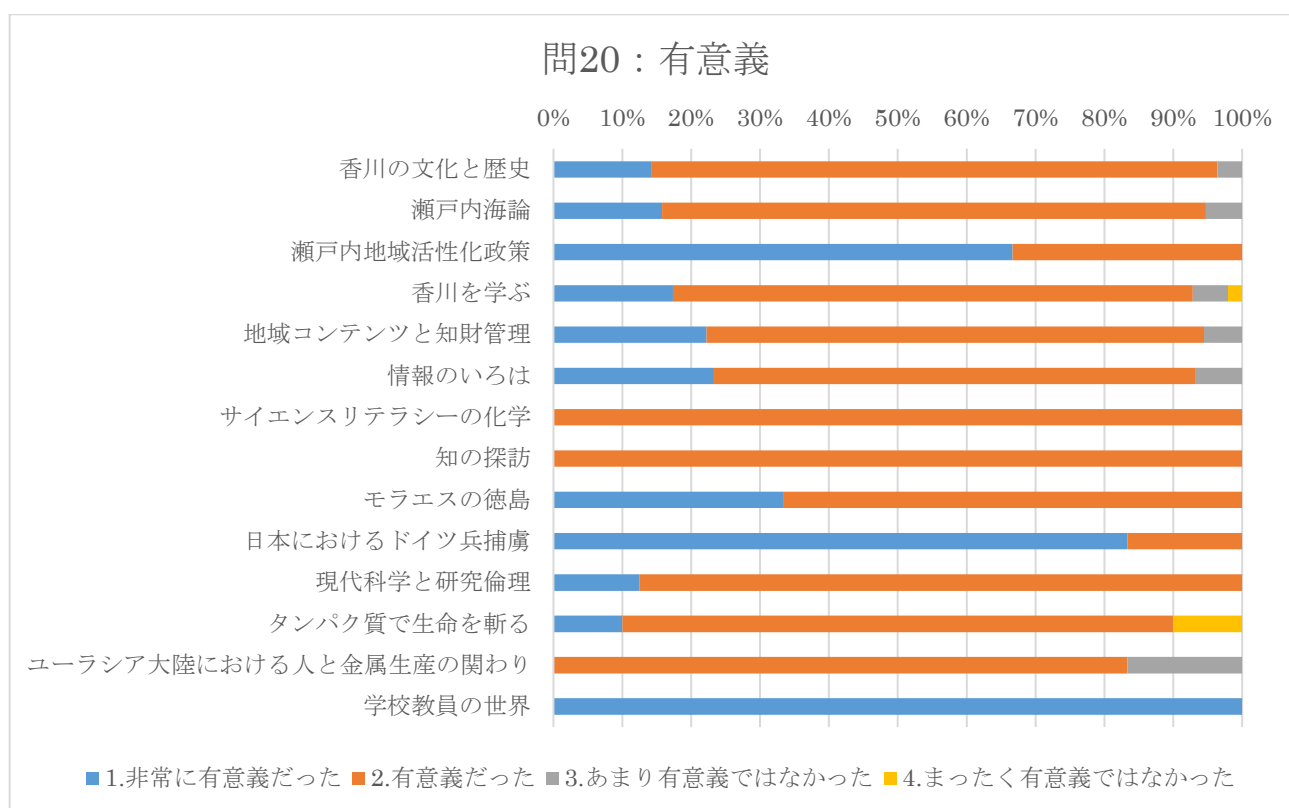
問 19. この授業の内容や関連分野に対する関心や問題意識は、この授業の履修によってどのように変わりましたか？

	1. 非常に強くなった	2. 少し強くなった	3. ほとんど変わっていない	4. 以前よりも弱くなった
香川の文化と歴史	4	20	4	0
瀬戸内海論	2	15	2	0
瀬戸内地域活性化政策	3	1	2	0
香川を学ぶ	10	75	13	1
地域コンテンツと知財管理	9	49	13	0
情報のいろは	14	49	10	0
サイエンスリテラシーの化学	0	3	1	0
知の探訪	0	2	0	0
モラエスの徳島	1	5	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	4	2	0	0
現代科学と研究倫理	2	5	1	0
タンパク質で生命を斬る	1	8	0	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	4	1	0
学校教員の世界	0	1	0	0



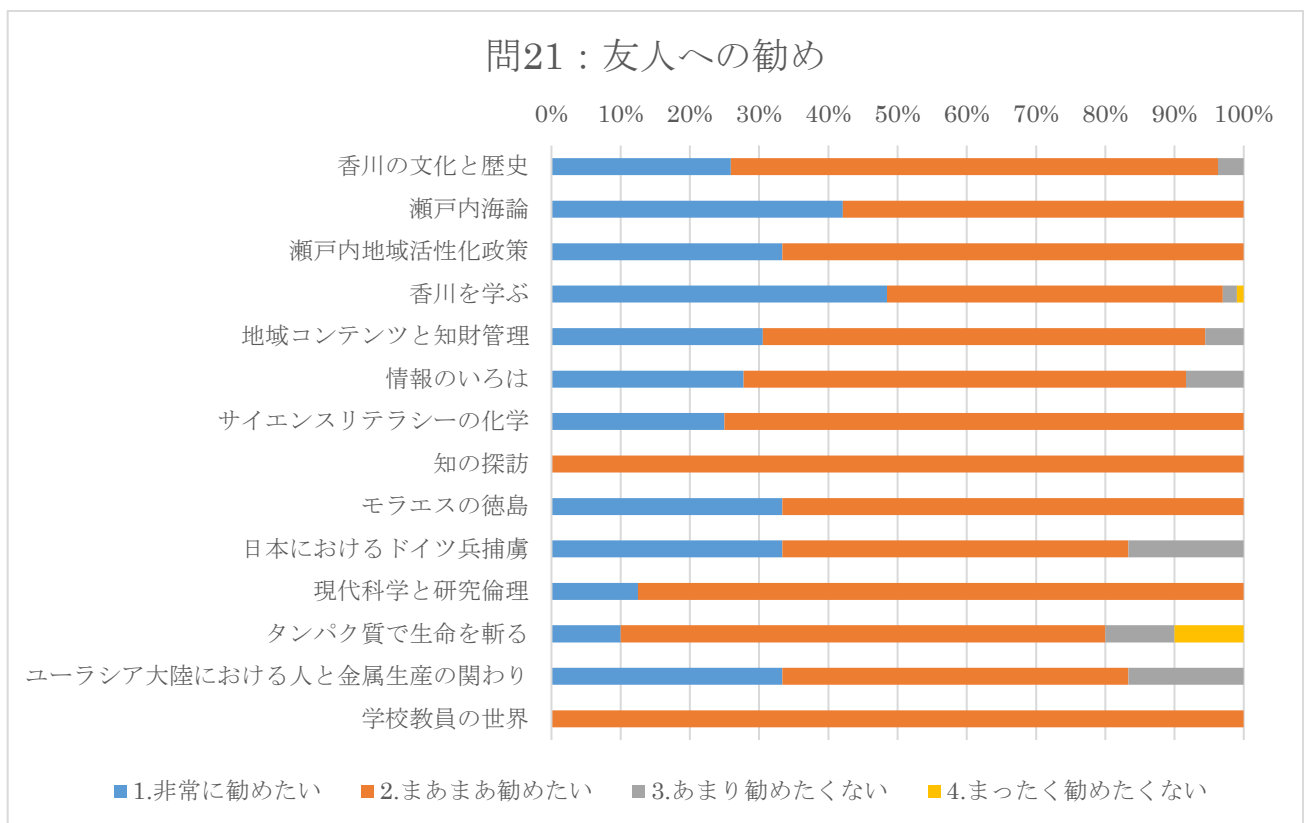
問 20. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？

	1. 非常に有意義だった	2. 有意義だった	3. あまり有意義ではなかった	4. まったく有意義ではなかった
香川の文化と歴史	4	23	1	0
瀬戸内海論	3	15	1	0
瀬戸内地域活性化政策	4	2	0	0
香川を学ぶ	17	74	5	2
地域コンテンツと知財管理	16	52	4	0
情報のいろは	17	51	5	0
サイエンスリテラシーの化学	0	4	0	0
知の探訪	0	2	0	0
モラエスの徳島	2	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	5	1	0	0
現代科学と研究倫理	1	7	0	0
タンパク質で生命を斬る	1	8	0	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	5	1	0
学校教員の世界	1	0	0	0



問 21. この授業を，友人や後輩にお勧めしたいですか？

	1. 非常に勧めたい	2. まあまあ勧めたい	3. あまり勧めたくない	4. まったく勧めたくない
香川の文化と歴史	7	19	1	0
瀬戸内海論	8	11	0	0
瀬戸内地域活性化政策	2	4	0	0
香川を学ぶ	48	48	2	1
地域コンテンツと知財管理	22	46	4	0
情報のいろは	20	46	6	0
サイエンスリテラシーの化学	1	3	0	0
知の探訪	0	2	0	0
モラエスの徳島	2	4	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜	2	3	1	0
現代科学と研究倫理	1	7	0	0
タンパク質で生命を斬る	1	7	1	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	2	3	1	0
学校教員の世界	0	1	0	0



問 22. この授業について、良かった点を、具体的にお書きください。

香川の文化と歴史	通う大学のある地域のことをよく知ることができた。
香川の文化と歴史	特になし
香川の文化と歴史	専門家の意見をじっくり聞けるというのはとても良かった。 私は瀬戸内国際芸術祭を観に行ったことはなかったが、あたかも観に行ったかのように沢山の芸術作品を知ることができたり、住んだことのない地方の文化や歴史を知るのはとても有意義だった。
香川の文化と歴史	香川について多角的に学ぶことができた点。
香川の文化と歴史	内容が面白かった。
香川の文化と歴史	香川のことについて知れた
香川の文化と歴史	香川についてあらゆる分野から知れて、これからの大学生活を送る香川についての理解や知識が深まったので良かったと思いました。
香川の文化と歴史	殆ど各回ごとに講師の方が違うので、毎回授業に新鮮味を感じられた。
香川の文化と歴史	小テスト形式だったおかげで、頭に入りやすかった
香川の文化と歴史	時間を問わず、自分のペースで学習が行えた点。
香川の文化と歴史	香川に住んでまだ全然日にちが経っていない中で香川県のことについて深く学ぶことができた。
香川の文化と歴史	自分の好きな時間に出来るからよかった。
香川の文化と歴史	新しく生活を始める香川を深く知りたいと思い受講しましたが、この講義を受けて、県内の様々な場所や島の文化や歴史を詳しく知ることができて、とても興味がわき、さらに調べてみたいと思いました。
香川の文化と歴史	この授業を通して香川県に関心を持ち、実際に友人とドライブに行くことになった。実際に行ってみようと思えたのは、この授業がきっかけだったと感じるし、とてもわかりやすく概論として学ぶことができた。
香川の文化と歴史	いろいろな専門の方をお招きすることで、その学習内容をより深めることができる点
香川の文化と歴史	地元のことに以前より興味を持てた
香川の文化と歴史	香川の地域性や独自性を広く学べて、今後の生活の中でも使える知識は多いと思う。
香川の文化と歴史	気楽に取り組めた。
瀬戸内海論	尊敬できる教授が多かった。
瀬戸内海論	時間があればいつでも学習することができる点。
瀬戸内海論	特になし。
瀬戸内海論	映像がわかりやすかった 課題の量も適切
瀬戸内海論	瀬戸内海というすごく身近なテーマを学べた点。
瀬戸内海論	瀬戸内海について詳しく学べた
瀬戸内地域活性化政策	色々なテーマについてくわしく説明されてて、グラフや映像などを交えられていて分かりやすかった。
瀬戸内地域活性化政策	県外生にもわかりやすかった点
瀬戸内地域活性化政策	インターネットでどこでもできる点
瀬戸内地域活性化政策	ディスカッションで、皆の意見が文字として残ることで、次へと繋げやすかった。
香川を学ぶ	10分ほどの小テストという復習方法で短時間でけれど頭に残りやすい形で復習できた点
香川を学ぶ	動画が何個か分かれていますので、時間を分けて見ることができる
香川を学ぶ	いろいろな角度から香川を学ぶことができた。映像が美しかった。
香川を学ぶ	講義の内容が深すぎず、香川のことを広く知ることができる点。

香川を学ぶ	香川についてのありとあらゆる種類の知識を学ぶことができたので、今まで自分が知らなかった香川県の魅力が知れたところ。
香川を学ぶ	香川の魅力や課題をより知ることができた。
香川を学ぶ	内容は難しいが、できるだけ詳しく説明していたので、理解することができた。
香川を学ぶ	ビデオが一回の授業で数回に分かれてて、とても見やすかった。
香川を学ぶ	前述の通り。
香川を学ぶ	香川県について知らなかったことを多く知ることが出来た。
香川を学ぶ	好きな時間に受講できて、かつ教科書代などのお金がかからない点。
香川を学ぶ	県外から来たため香川のことをあまり知らなかったが、この授業を受けたことで香川県についての様々なことを知ることができた。
香川を学ぶ	県外出身だったが、香川の歴史や文化について知ることができた。
香川を学ぶ	瀬戸内海の赤潮問題は初めて知ったので良かった。 香川県の課題が提起されていて、今後取り組むべきことを考える機会になったと思う。
香川を学ぶ	自分のペースでできた。
香川を学ぶ	香川県について気候や、手袋産業など幅広い分野から学べた点。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	講師の方と外部の人の対話形式でインタビューなど e ラーニングの利点を生かせていたと思う。
香川を学ぶ	動画だから繰り返し見て学習することができる。
香川を学ぶ	スライドの PDF がある時が分かりやすくてよかったです
香川を学ぶ	香川のことについて学ぶ良い機会になった。
香川を学ぶ	自分の都合に合わせて予定を組み、受講できた点。 香川県の歴史に関する様々な人の声を聴くことができた点。
香川を学ぶ	香川のことを詳しく知る機会になってよかった。 とても楽しかった。
香川を学ぶ	繰り返し授業が見られるので、復習が十分にでき、良かった。
香川を学ぶ	様々な人の講義を聞くことができた点。
香川を学ぶ	1 回生の時、「えひめ学」という授業で愛媛について学んだのが楽しかったため、同様に香川について学べる授業があればと考えていた。後にこの「香川を学ぶ」という科目が e ラーニングにあることを発見し、地元の香川県について学べる良い機会となった点が良かった。
香川を学ぶ	香川をより身近に感じられた点。
香川を学ぶ	自分の都合にあった時間に授業を受けれること
香川を学ぶ	自分は香川出身ではないけれど、香川について興味を持つきっかけになった授業であった。
香川を学ぶ	小テストがとても簡単で楽だった。
香川を学ぶ	小テストで自分のミスがすぐにわかるので復習しやすい
香川を学ぶ	時間がある時 PC さえあれば学校や家で授業を受けられる点。
香川を学ぶ	香川県や瀬戸内地方について様々な面から学ぶことができた。
香川を学ぶ	香川についていろいろ学べた点。クイズが最後にあり、より頭に入りやすい。
香川を学ぶ	香川県のことをもっと知りたいと思えるきっかけになった。
香川を学ぶ	授業内容がとても分かりやすかった。
香川を学ぶ	香川のことをよく知れた点
香川を学ぶ	分かりやすかった
香川を学ぶ	パソコンで好きな時間にでること
香川を学ぶ	パソコンさえあればどこでも視聴できる

香川を学ぶ	香川についてより深く知れた
香川を学ぶ	小テストで自分の授業に対する理解度が分かった
香川を学ぶ	徳島大学にいながら香川のことについて知ることができたのはよかった。四国のことは何も知らなかったのでよい機会だったと思う。栗林公園は本当に美しかった。風光明媚とはこのこと。また、公園以外でもサヌカイト、手袋産業、香川の伝統食など、初めて知ることばかりで、近く(私は和歌山出身)の地域でも知らないことがたくさんあることが改めて分かった。大学の授業はどうしてもその地域のことを中心に扱う授業になりがちなので(前の大学は北海道のことを取り扱う授業ばかりだった)、選択肢が増えるのは良いことだと思う。あとは全ての授業を同じ講師が持つわけではないので、飽きないところが良かった。同じ講師がずっと授業を行うと、どうしても講師の専門へ偏りが出てしまうからである。
地域コンテンツと知財管理	話し方がとてもわかりやすかった点。
地域コンテンツと知財管理	重要な部分が強調されていて分かりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	知的財産についての理解を深めることができた 知的財産管理技能検定の3級に合格できた
地域コンテンツと知財管理	内容を大きく捉える点は良かったです。
地域コンテンツと知財管理	法律についてあまり勉強したことがなく、苦戦することも多かったが、もともと少し興味があった知的財産について知ることができよかった。また、はじめの授業で法律について話があったおかげで、その後の授業がイメージしやすかった。
地域コンテンツと知財管理	知財管理に関して、一切触れたことがなかったため、新鮮な気持ちで学習に向かい合うことができたこと。
地域コンテンツと知財管理	説明が分かりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	教授の説明がわかりやすかった
地域コンテンツと知財管理	私が興味のある分野について学習できたので良かった。
地域コンテンツと知財管理	教科書があったのでだいぶ授業を受けやすかった点。
地域コンテンツと知財管理	ただ教室で行われているものを録画して提供しているのではなく、きちんとe-learning用に撮影されており、先生が受講生に話しかけながら進めてくれたため、親近感がわき、楽しんで取り組めた。 ビデオの再生スピードも調整でき、よかった。 カメラの切り替えや、ビデオ1本の長さが短く設定されていることで飽きがこなかった。(常に集中して見れた) 各週の提出ではなかったもので、なんとか最後まで時間がぎりぎりになったものの、取り組めきれた。
地域コンテンツと知財管理	説明の具体性により、理解しやすかった テキストとリンクしている点
地域コンテンツと知財管理	教科書より深い話が聞けた。
地域コンテンツと知財管理	好きなタイミングで受講できた点
地域コンテンツと知財管理	資格対策として受講してみたが、最近なにかと話題の著作権などについても詳しく知ることが出来たので非常に良かった。
地域コンテンツと知財管理	説明がわかりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	毎回講義形式で雑談も織り交ぜてあったので飽きることなく受けれた
地域コンテンツと知財管理	スライドと教科書を見ることで自分でいつでも復習できる。
地域コンテンツと知財管理	特にない。
地域コンテンツと知財管理	法律についても学ぶことができよかった。
地域コンテンツと知財管理	教科書にはないところも例などを出して説明してくれていたもので、わかりやすかった点と、実際の試験でどのようなところが重要か示していた点。
地域コンテンツと知財管理	講義量が多かった回の次の回の最初に軽く復習をする点。

地域コンテンツと知財管理	小テストの締め切りが隔週ではなかったので自分のペースでやることができた点。
地域コンテンツと知財管理	ビデオ教材だったことで、繰り返し見ることができた。
地域コンテンツと知財管理	教授が明るく雰囲気良かった 受けている自分も楽しく受けることができたと思う。
地域コンテンツと知財管理	知財管理について知れた
地域コンテンツと知財管理	講師の先生が明るく分かりやすく授業をしてくださったこと。
地域コンテンツと知財管理	学校だけでなく家でも空いた時間に自由に取り組めるところがよかった。 ほかの大学の先生の授業を受けるのも面白いと思った。
地域コンテンツと知財管理	資料や授業が分かりやすかった。
地域コンテンツと知財管理	難しそうに思える知的財産という授業内容も、みんなが分かりやすいように先生がかみ砕いて教えてくださったので、毎回楽しく学習することができました。教科書の4コマ漫画やさくら豪さんとみる君の対話形式の解説もとても分かりやすかったです。
地域コンテンツと知財管理	全く触れたことのない権利の授業でしたが初めのほうから分かりやすく丁寧だったので躓くことがなかった点です。
地域コンテンツと知財管理	シラバスを読んだときは難しそうだなと思ったけれど実際に受講してみると身近な話題も多く受け入れやすかった。
情報のいろは	映像授業ということ踏まえて授業してくださるので、ハキハキとした声に簡潔で分かりやすい話し方で聞き取りやすかった。
情報のいろは	とても情報について理解が深まった。
情報のいろは	授業についてビデオがあったので試料のみより分かりやすかった。
情報のいろは	分かりにくいところもあったが、理解できるところは多かった。
情報のいろは	非常に一つ一つに対して丁寧に説明を加えていただきました。分かりやすかったです。
情報のいろは	授業が分かりやすかった
情報のいろは	15回分の課題が10月の頭から提出して良いので、進めやすい
情報のいろは	自分の専門分野ではなかったので、この授業を受ける前は不安だったが、非常に分かりやすい説明で、理解することができた。
情報のいろは	自分の興味分野の認知科学への第一歩となれ、良かったです。
情報のいろは	情報の授業にもかかわらず、専門的な内容だけでなく一般知識でも理解しやすい内容だった。
情報のいろは	パソコンが苦手だったが慣れることもできたし、苦手な自分でもわかりやすい授業だった。
情報のいろは	自宅でできること 先々できること
情報のいろは	たとえ話を使用しながら頭に入りやすい授業だった。
情報のいろは	情報について幅広く学ぶことができ、この分野の専門ではない学生にも分かりやすかった点。
情報のいろは	情報と言われて、データのことなど、情報リテラシーの延長線上だと思っていたが、感覚や記憶なども情報処理であることを知り、情報についての考え方が変わった。
情報のいろは	情報について学べたこと。
情報のいろは	自分の時間を友好的に使いたいのので毎週空いている時間をこの授業にあてられるのでとてもよいものでした。
情報のいろは	講義内容のハンドアウトが簡単に説明をしてくれていて理解しやすかった
情報のいろは	これから役立ちそうなことをたくさん学べた。
情報のいろは	自分は文系の学生だが、情報系の講義だったが文系の自分でもわかりやすいような説明であった。
情報のいろは	自分ではあまり調べようと思わない分野だったが、この授業によって知っ

	たことが多くあり、大変良かったです。先生も時々冗談を言っていて、楽しい授業でした。ありがとうございました。
情報のいろは	テストが程よく難しいこと。
情報のいろは	家でできる。
情報のいろは	スライドで話した内容を再確認しながら話を聞けること
情報のいろは	気楽に授業を受けることができる。
情報のいろは	具体例が多くて理解するのに助かった。
情報のいろは	情報化社会で必要な知識を補うことができる点。視聴覚教材で、講義ない課題の解法のヒントをくれるので、積極的に回答しやすい。
情報のいろは	丁寧な説明で、文型の私でも理解できた。
情報のいろは	一つの事柄に対し、初歩的なことから少し専門的なことも含まれていたため、なにも知らないところからでも取り組みやすかった。
情報のいろは	説明がわかりやすかったです
情報のいろは	ネットについて知れた
情報のいろは	特になし
情報のいろは	説明が丁寧だった点。
情報のいろは	小テストの内容が選択問題などではなく、論述や自分の考えを書くものが多く大変だったが結果として情報のことについて様々なことをより理解することができた点。
情報のいろは	情報の扱い方や、本質などを分野ごとに細かく分けて講義をしていただいたので、とてもわかりやすく、有意義な講義でした。
情報のいろは	他の知プラとは違い、最初からすべての課題ができるようになっていたので、自分のペースでできた。また授業内容も具体例や詳しい説明が多くあったので、難しい問題もある程度理解できた。
サイエンスリテラシーの化学	化学の知識を正確に見つめなおすきっかけとなった
知の探訪	様々な研究分野を知る良いきっかけになった。
知の探訪	科学について、少し学ぶことが出来た。
モラエスの徳島	資料を紙媒体で準備してくださっていた点。課題をするのに便利だった。
モラエスの徳島	ビデオ視聴の時間がほかのイーラーニングに比べ少なかったため、集中力が持ち効率的に学習できたと思う
モラエスの徳島	教材がインターネット上にあったり、配布された点
モラエスの徳島	同じ履修生との意見交換によって、別の観点から考えることができ、理解が深まった。自分の投稿にコメントが多く寄せられると、嬉しい気持ちになった
日本におけるドイツ兵捕虜	自分のレポートに関して他の受講者や教授がコメントをしてくれる点。
日本におけるドイツ兵捕虜	実際に鳴門市ドイツ館に行き、解説がなされていた点。授業を進めるにあたりイメージがしやすくなった。
日本におけるドイツ兵捕虜	特になし
現代科学と研究倫理	特になし
タンパク質で生命を斬る	一つの動画の再生時間は長すぎなかったため、途中で寝てしまうことがなかった点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	自分の知らなかった分野の世界を知れ、新たな分野に興味を持つことができたこと。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	24時間365日利用可能
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	考古学の授業はままで二回ほど受講したことがあったが、鉄についてはまだ学んだことがなかったので、非常に興味深かった。鉄が人間の営みの中で重要な役割を担っておりその鉄の歴史を知ることによって文化や国の交流など様々なことが発見できるのだと知れてよかった。

問 23. この授業について、改善してほしい点を、具体的にお書きください。

香川の文化と歴史	わかりにくい授業はとことんわからない。字幕などをつけて説明を分かりやすくして欲しい。
香川の文化と歴史	期限が朝であるのを変えてほしい
香川の文化と歴史	前回（2015年後期）は3、4回の授業をまとめて受講することも可能だったので、集中して取り組めたが、今回は一週間ごとに必ず時間を作らねばならず、実習などで受講できないことや他の提出物が立て込んだ週は集中して受講できないことがあった。 これは私個人の感想でいうと非常に残念だった。 eラーニングの良さが無くなっていると感じた。 また、瀬戸内海論のように、動画に見出しをつけて分ける（どう表現したらよいか・・・）などあればより分かりやすいのではないかと感じた。
香川の文化と歴史	とても失礼なことを言っていることは自覚しているのですが、教授方の「声」に気を付けていただきたいと思う。 学校のPC、自宅のPCで受ける人それぞれいるが、イヤホンをつけてコンテンツの視聴をする学生は多く存在すると思う。耳で唾の音や、吐息など聞いて気分を害することがある。同じくこの授業をとっている他の学生でも気分が悪くなったと言うものは複数いた。 大変不躰な申し出なのですが、今後この授業を受ける学生たちのために改善を検討してはいただけないでしょうか。
香川の文化と歴史	レジュメがほしい
香川の文化と歴史	スペースなどを入れただけで不正解と見なされる点。
香川の文化と歴史	ビデオ教材で一部声が聞こえにくいところなどがあった。
香川の文化と歴史	音量が大きすぎることがあってびっくりしました
香川の文化と歴史	携帯電話などのスマートフォンでも動画視聴を可能にしてほしい。
香川の文化と歴史	もう少し一本の動画を短くしてほしい
香川の文化と歴史	すべての回で資料を配布してほしい。
香川の文化と歴史	第4回 香川の生活と習俗（1）祭礼行事の内容について、淡々と瀬戸内地域の祭りが数十以上紹介されていたが、とても退屈だった。祭りを次々と紹介されるうちに内容が混同してしまうし、元々私自身が東北出身で瀬戸内地域に土地勘がなかったこともあって、異なる場所で行われている祭りなのに、どこでいつ行われている祭りなのか実感が湧かず、紹介の仕方が不親切だと感じるがあった。開催される時期やマップと合わせて画像や映像があるとありがたかったし、瀬戸内地域ではなく香川県に絞り、数件のお祭りをじっくりと紹介して欲しかった。
香川の文化と歴史	聞き取りづらい方の授業は改善してほしい
香川の文化と歴史	操作の仕方
香川の文化と歴史	レジュメをより丁寧にしてほしい分野もあった。
香川の文化と歴史	特になし。
瀬戸内海論	瀬戸内海論であったので愛媛の話ももう少ししてほしい。
瀬戸内海論	そこまで重要でないところが問題としてでる点。
瀬戸内海論	期限を日曜の夜にしてほしい。
瀬戸内海論	とくになし
瀬戸内海論	ときどき内容が難しい点。
瀬戸内海論	画質をもう少しあげてほしい
瀬戸内地域活性化政策	テキストを配布して欲しかった。（画面のスクリーンショットで対応した）
瀬戸内地域活性化政策	授業動画をもう少し要約されたものにしてほしい
瀬戸内地域活性化政策	特になし
香川を学ぶ	授業の締切が変わっている時にはその前の回の時に告知したり、メールかな

	にかしてほしい点
香川を学ぶ	毎回締め切り前に通知が来ると助かる
香川を学ぶ	特にありません。
香川を学ぶ	締め切りを何回かに分けて、まとめて欲しい。
香川を学ぶ	特にありません。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	追加課題が少し難しいので、難易度を下げて欲しかったです。
香川を学ぶ	テストが受けられる時間が限られていて、ビデオを見た後すぐにテストが受けられないから、テストを受け始められる時間を早めてほしい。
香川を学ぶ	もう少し一気に小テストの解放をしてほしかった。1週1回分の解放でなく3週間後の締め切りをもうけ、3週一気に解放するなどして欲しかった。
香川を学ぶ	第一回目の授業だけでもいいので、出来れば公開日と締め切りをメールなどで知らせてほしいと思いました。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	期間が短くて、受講できない項目があった。
香川を学ぶ	映像における先生の声が聞き取りづらいことがあった。期限がイレギュラーのときはもっとわかるようにしてほしい。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	資料が読みにくいことがあったので改善してほしいと思った。
香川を学ぶ	特にないです。
香川を学ぶ	もう少し授業映像を鮮明にして見やすくしてほしい。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	課題提出の締め切り日を法的にしてほしい。
香川を学ぶ	ありません。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	なし。
香川を学ぶ	動画中のスクリーンに書かれている文字が読みづらかった。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	なし
香川を学ぶ	国際協力の授業があったが、そのような香川の自然以外の授業ももっと取り入れてほしい。
香川を学ぶ	映像の画質をもう少しよくしてほしい。
香川を学ぶ	講義資料がない回の講義の復習に困る
香川を学ぶ	ないです。
香川を学ぶ	特にありません。
香川を学ぶ	資料をダウンロードしてみようとしても見ることができず困った。
香川を学ぶ	特になし。
香川を学ぶ	期末レポートの文字数はもう少し増やしてもいいと思う
香川を学ぶ	なし。
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	特にない
香川を学ぶ	受講できる早くしてほしい
香川を学ぶ	特になし
香川を学ぶ	もう少し受講できる期間を延ばしてほしい
香川を学ぶ	資料がない回もあったので授業欲しい
香川を学ぶ	講師の音が聞き取りにくいこと。音量を(PC と動画両方)最大にし、イヤホンをしてやっとちょうどよい大きさになることがあった。

	音量さえどうにかなれば他は特になかった。
地域コンテンツと知財管理	小テストの解答の点数がすぐには見られない点。
地域コンテンツと知財管理	教科書が古く、法改正に対応できていない点が多い。
地域コンテンツと知財管理	説明が大ざっぱすぎて小テストに、あまり効果的でなかったです。テストは高度の問題、まぎらわしいものも出るのも、もっと注意点をこまめにしておしかったです。時間的にきついのであれば、テキストをもっと、詳しくして、予習を前提にして、まぎらわしい事例を中心に解説してほしいです。基本的にテキストを熟読して、講義での注意点をマスターしていれば、満点をとれるような講義設計にすべきだとも思います。
地域コンテンツと知財管理	回答期限が過ぎた後に、解答を出して欲しかった。また、その中で少し難しい問題に関しては解説などがあればよかったと思う。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	特にありません。
地域コンテンツと知財管理	一回の講義での動画がとても長かった点。
地域コンテンツと知財管理	一番初めの授業についての説明は簡易化してもよいのでは？と思った。それ以外は特にありません。
地域コンテンツと知財管理	質問や課題（任意）について、質問しにくい →ディスカッションはあるは、自分と他の人のペースが違うからタイミング的な部分で質問しづらい 大学が違くと、配布物が貰えない →公平性を保つなら、ダウンロードなどで行ってもらえると嬉しい 任意課題について →レポートの書き方等が不明瞭なため、資料や文献までは自発的に行えるが提出についてどのように書いて、どこに出せばいいのかわからなかった。聞けばいいが、期限もないためタイミングを失った
地域コンテンツと知財管理	期末テストの要項がきちんと決まってからビデオを作ってほしいです。
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	フィードバックで自分の小テストの点数を知りたかった。
地域コンテンツと知財管理	特にない。
地域コンテンツと知財管理	特にないです。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	特にない
地域コンテンツと知財管理	授業中のカメラワークがうまくいっていないことがあった。不必要なカメラワークがあったように感じる。
地域コンテンツと知財管理	とくにありません
地域コンテンツと知財管理	受講期間をのばしてほしい
地域コンテンツと知財管理	特になし
地域コンテンツと知財管理	ないです。
地域コンテンツと知財管理	特になし。
地域コンテンツと知財管理	特にないです。
地域コンテンツと知財管理	毎回ごとにある小テストの問題数を少し増やしてもらいたい点です。
地域コンテンツと知財管理	とくになし
情報のいろは	小テストの答えをアップして欲しい。点数の配点など。正確な答えが分からないため、自分の回答のどの部分で減点だったのか気になる時が多々あった。
情報のいろは	もっと多くの受講生が増えるようにアピールしてはどうか。
情報のいろは	pdfを開く際のパスワードを15回目の欄まで表示してほしい。

情報のいろは	追加課題が難しい
情報のいろは	概念の難易度が後半になるにつれて急激に上がりすぎたと私は感じました。少し分散させたりするようなことがあると嬉しかったです。
情報のいろは	最終課題も10月から提出okにしてほしい
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	追加課題は共通教育の入門レベルとしては、難しいものが多かったと思います。 情報の定義について、十分な説明がほしかったです。
情報のいろは	早送り機能があればよかった
情報のいろは	特になし
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	たまに難しすぎる内容があったのでいろんな学部の人を受けるので難易度の統一は難しいかもしれませんがわかりやすい例などもう少しほしかった。
情報のいろは	課題の提出をしたあと、点数を開示していただけるのはありがたいが、課題の答えを教えてもらえるとより理解を深められると思う。終盤の方の追加課題など、難易度が高くなってきて答えがわからない問題が多くあった。そのような課題に対して正答例を出してほしい。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	回線には特に問題がなかったと思うが、講義ビデオにノイズが入って内容が分かりにくい回があった
情報のいろは	特にないです。
情報のいろは	特になし
情報のいろは	簡単な回は授業を一回見ただけでわかったが、少し難しいと感じる回は2,3時間以上かけた。e-learningの授業にあまりにも時間を取られてしまったと感じる時もあった。
情報のいろは	もう少し深く説明してほしい。
情報のいろは	難易度を下げてほしい
情報のいろは	動画を区切らずに一度で見えるようにしてほしい。
情報のいろは	なし
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	追加の課題が、とても難しいと感じた時があったので、難易度の調整をして欲しい。
情報のいろは	動画視聴中に間違えて違うパートを選択してしまったときに、ムービーが同時に流れてくるということが多々あった
情報のいろは	課題量が多い
情報のいろは	特になし
情報のいろは	追加課題の難易度が高すぎました。
情報のいろは	特になし。
情報のいろは	特にありません。
情報のいろは	特にありません。
サイエンスリテラシーの化学	評定をつけていただく間隔が一定でないので、自分の中の改善点を見直すのに時間的間隔が空いてしまい、少しもったいなさを感じました
知の探訪	より詳しく知りたいと思った研究の話が途中で終わっていた点
知の探訪	映像の乱れ。
モラエスの徳島	特になし。
モラエスの徳島	特になし
モラエスの徳島	試験の点数を公開してほしい
モラエスの徳島	特になし

日本におけるドイツ兵捕虜	1 週間の提出ノルマがやや多い点。
日本におけるドイツ兵捕虜	フォーラムでのコメントが他大学の学生に限定されている点。早めに自分の課題提出が終了していても、締め切り前日の夜や当日まで他大学の学生の課題が提出されないのが、二度手間であるし、ギリギリまで課題が残っているというストレスがある。
日本におけるドイツ兵捕虜	特になし
現代科学と研究倫理	一回の講義をもう少し短くしてほしい。
現代科学と研究倫理	特になし
タンパク質で生命を斬る	一言で答えることができる内容に対して、400 字という厳しい設定がされていたこと。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	もう少しビデオの画質を上げる等して映像が見やすいようにしてほしい。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	細かく分けなくて一本のビデオとして見たかった。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	小課題の文字数がどれほどで書くべきなのかわからなかったため、何字程度という目安があると有り難かった。もし、制限は特になしということであったらその旨があると安心して小課題に取り組めたのではないかと思う。

1) 実施概要

平成 29 年度に開講した全 38 科目について、履修者を対象に Moodle 上で科目の改善を目的としたアンケートを実施した。実施期間は各科目終了後、1 か月程度である。またアンケートは匿名で実施した。

開講大学	科目名	開講期	履修者数	回答者数	承諾者数	回答率 (承諾者数/履修者数)
徳島大学	知の探訪	後期	52	9	9	17.3%
	モラエスの徳島 — グローバリズムと異邦人 —	後期	76	23	20	26.3%
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 — 四国の収容所を中心に —	後期	55	16	15	27.3%
	現代科学と研究倫理	後期	78	37	30	38.5%
	大学の知の活用	後期	55	28	27	49.1%
	大学教育を考える	後期	34	12	11	32.4%
	行動統計学入門	後期	31	6	4	12.9%
鳴門教育大学	学校教員の世界 *	後期	238	0	0	0.0%
	阿波学	前期	174	14	11	6.3%
	自動車概論	後期	92	20	18	19.6%
香川大学	情報のいろは	後期	263	54	46	17.5%
	地域コンテンツと知財管理 その1	後期	72	14	12	16.7%
	地域コンテンツと知財管理 その2	後期	49	5	5	10.2%
	香川を学ぶ その1	後期	194	43	32	16.5%
	香川を学ぶ その2	後期	155	27	20	12.9%
	瀬戸内地域活性化政策 その1	後期	113	27	19	16.8%
	瀬戸内地域活性化政策 その2	後期	94	20	16	17.0%
	瀬戸内海論 その1	前期	92	27	24	26.1%
	瀬戸内海論 その2	前期	81	24	19	23.5%
	香川の文化と歴史 その1	前期	130	38	34	26.2%
	香川の文化と歴史 その2	前期	117	31	27	23.1%
	四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	前期	103	25	19	18.4%
	四国の歴史と文化 その2 (文化編)	前期	86	13	12	14.0%
	四国の自然環境と防災 その1	後期	193	47	44	22.8%
	四国の自然環境と防災 その2	後期	132	25	23	17.4%

開講大学	科目名	開講期	履修者数	回答者数	承諾者数	回答率 (承諾者数/履修者数)
	四国の地域振興 その1	後期	324	68	60	18.5%
	四国の地域振興 その2	後期	136	6	5	3.7%
	コンピュータと教育 その1	前期	358	73	59	16.5%
	コンピュータと教育 その2	前期	129	32	27	20.9%
愛媛大学	タンパク質で生命を斬る	後期	37	16	13	35.1%
	ユーラシア大陸における人と 金属生産の関わり	後期	38	19	15	39.5%
	大学生のための『安全・安心』の 基礎講座	後期	193	107	100	51.8%
	太陽光利用型植物工場における知 能的農作物生産	後期	30	13	11	36.7%
	飛行機はなぜ飛ぶのか	後期	37	6	6	16.2%
高知大学	サイエンスリテラシーの化学	後期	21	3	3	14.3%
	気象学入門	前期	322	56	50	15.5%
	有機化学概論	前期	32	3	3	9.4%
	海洋基礎生態学	前期	153	39	36	23.5%
			4569	0	0	0.0%

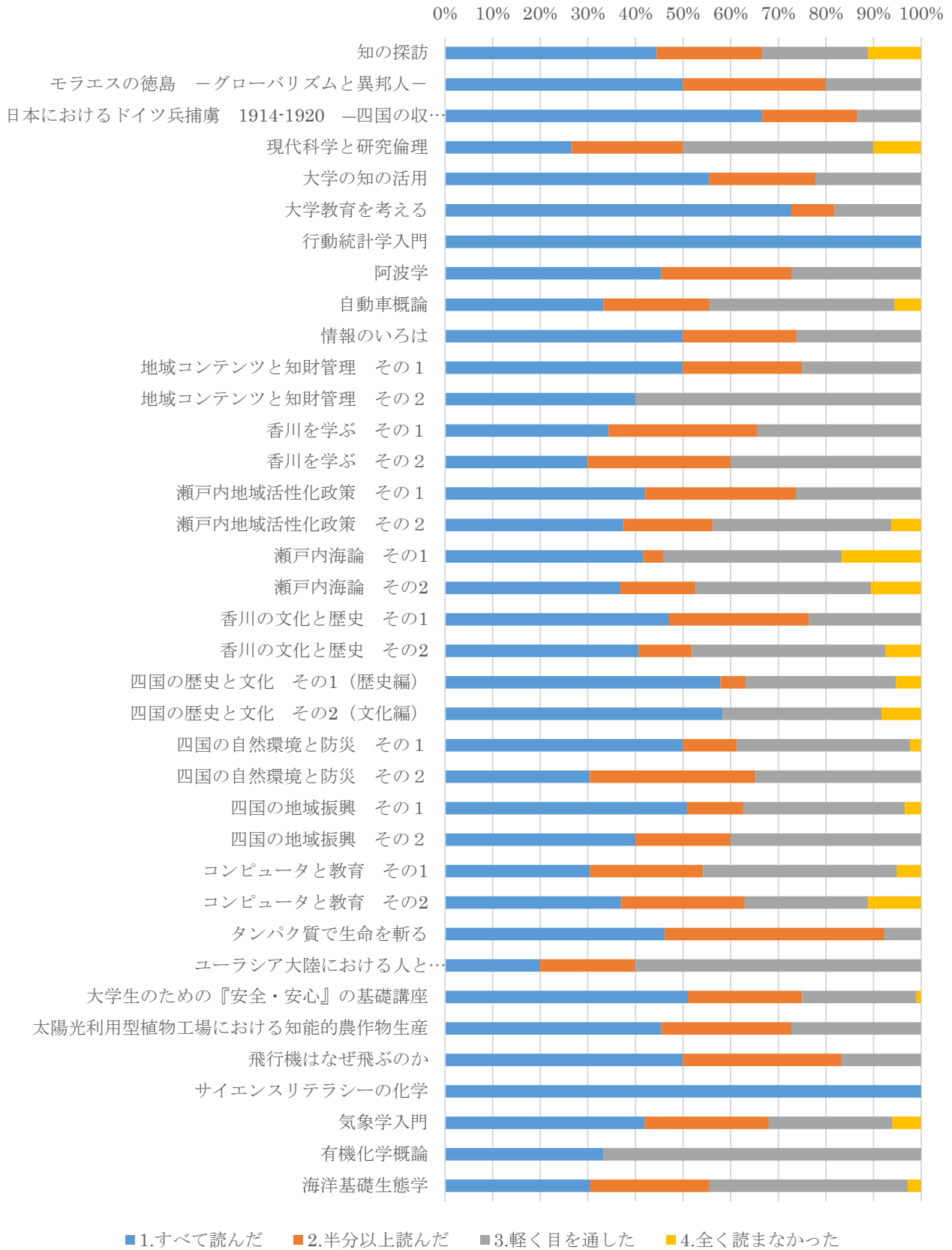
* 「学校教員の世界」の授業改善アンケートについてはトラブルが生じたため収集できなかった。よって次ページからの結果詳細では省略する。

2) アンケート結果詳細

問1. 授業を受ける前にシラバスを読みましたか？

	1. すべて読んだ	2. 半分以上読んだ	3. 軽く目を通した	4. 全く読まなかった
知の探訪	4	2	2	1
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	10	6	4	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 —四国の収容所を中心に—	10	3	2	0
現代科学と研究倫理	8	7	12	3
大学の知の活用	15	6	6	0
大学教育を考える	8	1	2	0
行動統計学入門	4	0	0	0
阿波学	5	3	3	0
自動車概論	6	4	7	1
情報のいろは	23	11	12	0
地域コンテンツと知財管理 その1	6	3	3	0
地域コンテンツと知財管理 その2	2	0	3	0
香川を学ぶ その1	11	10	11	0
香川を学ぶ その2	6	6	8	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	8	6	5	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	6	3	6	1
瀬戸内海論 その1	10	1	9	4
瀬戸内海論 その2	7	3	7	2
香川の文化と歴史 その1	16	10	8	0
香川の文化と歴史 その2	11	3	11	2
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	11	1	6	1
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	7	0	4	1
四国の自然環境と防災 その1	22	5	16	1
四国の自然環境と防災 その2	7	8	8	0
四国の地域振興 その1	30	7	20	2
四国の地域振興 その2	2	1	2	0
コンピュータと教育 その1	18	14	24	3
コンピュータと教育 その2	10	7	7	3
タンパク質で生命を斬る	6	6	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	3	3	9	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	51	24	24	1
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	5	3	3	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	3	2	1	0
サイエンスリテラシーの化学	3	0	0	0
気象学入門	21	13	13	3
有機化学概論	1	0	2	0
海洋基礎生態学	11	9	15	1

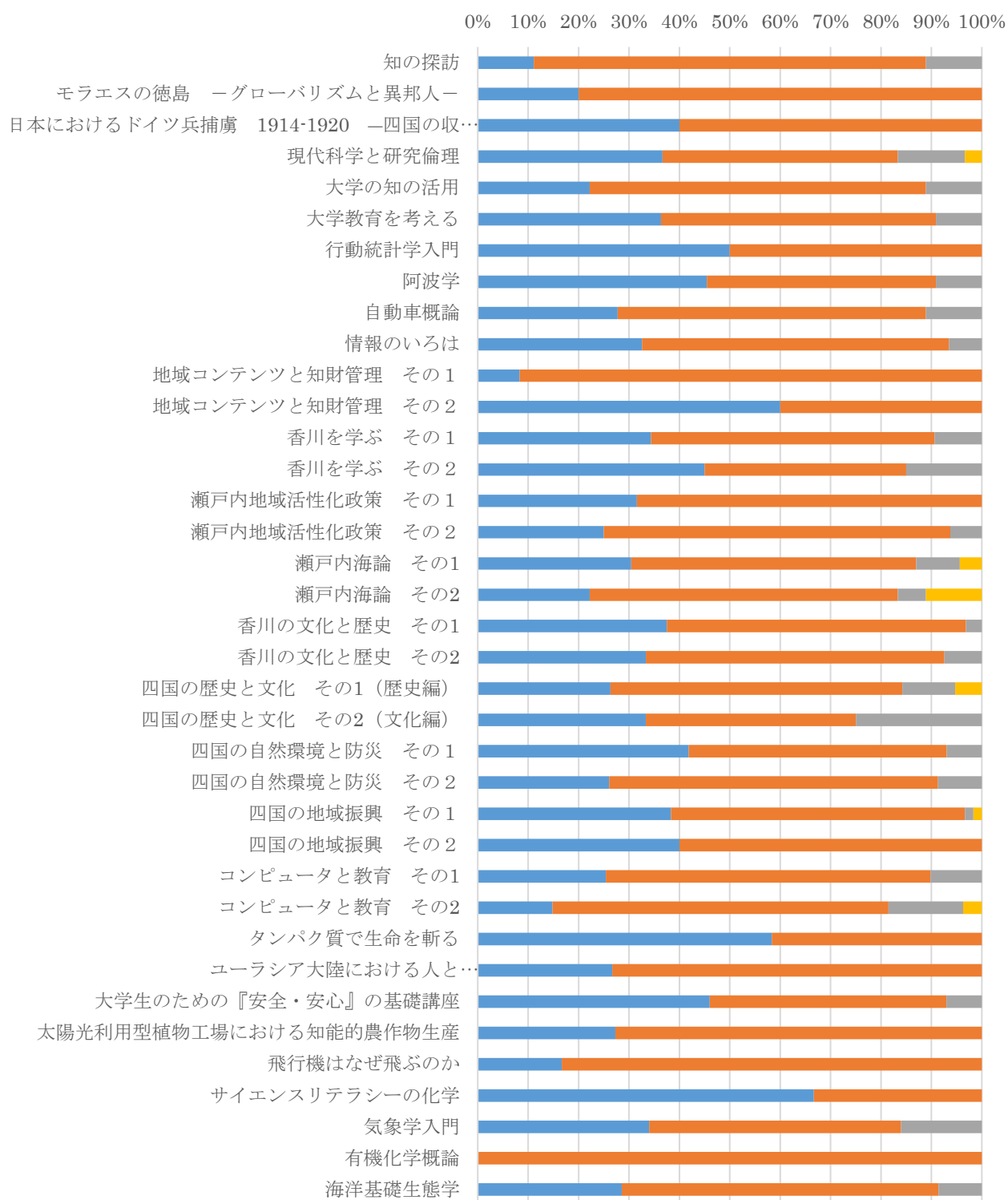
問1：シラバス



問 2. シラバスや授業中に示された授業の目標を、どの程度理解していましたか？

	1. 十分に理解していた	2. 少し理解していた	3. 目標は知っていたが理解していなかった	4. 目標があることさえ知らなかった（授業中に示されず、シラバスも読んでいなかった）
知の探訪	1	7	1	0
モラエスの徳島ーグローバルイズムと異邦人ー	4	16	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	6	9	0	0
現代科学と研究倫理	11	14	4	1
大学の知の活用	6	18	3	0
大学教育を考える	4	6	1	0
行動統計学入門	2	2	0	0
阿波学	5	5	1	0
自動車概論	5	11	2	0
情報のいろは	15	28	3	0
地域コンテンツと知財管理 その1	1	11	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	3	2	0	0
香川を学ぶ その1	11	18	3	0
香川を学ぶ その2	9	8	3	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	6	13	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	4	11	1	0
瀬戸内海論 その1	7	13	2	1
瀬戸内海論 その2	4	11	1	2
香川の文化と歴史 その1	12	19	1	0
香川の文化と歴史 その2	9	16	2	0
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	5	11	2	1
四国の歴史と文化 その2（文化編）	4	5	3	0
四国の自然環境と防災 その1	18	22	3	0
四国の自然環境と防災 その2	6	15	2	0
四国の地域振興 その1	23	35	1	1
四国の地域振興 その2	2	3	0	0
コンピュータと教育 その1	15	38	6	0
コンピュータと教育 その2	4	18	4	1
タンパク質で生命を斬る	7	5	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	4	11	0	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	46	47	7	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	3	8	0	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	1	5	0	0
サイエンスリテラシーの化学	2	1	0	0
気象学入門	17	25	8	0
有機化学概論	0	3	0	0
海洋基礎生態学	10	22	3	0

問2：目標

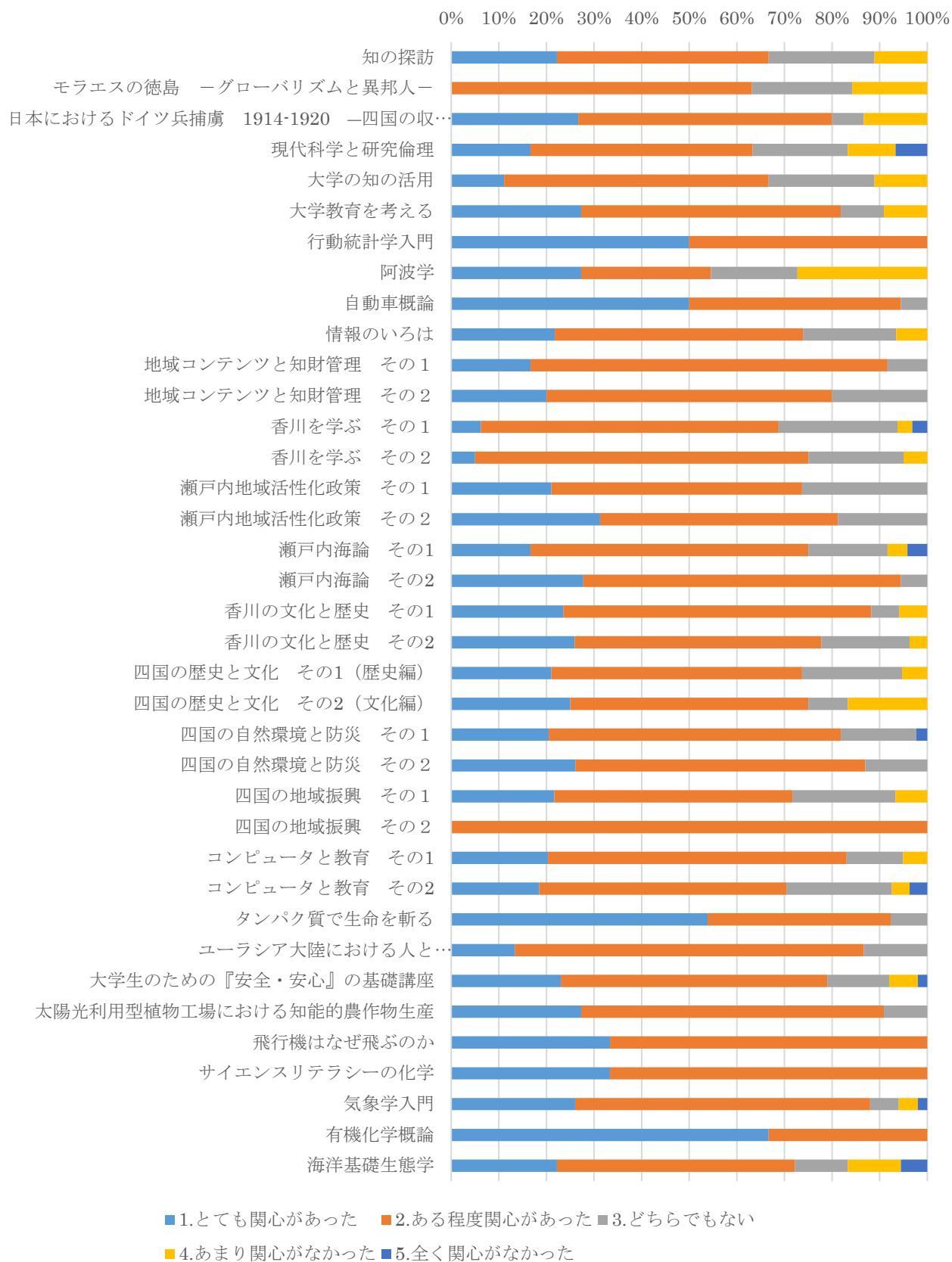


- 1.十分に理解していた
- 2.少し理解していた
- 3.目標は知っていたが理解していなかった
- 4.目標があることさえ知らなかった (授業中に示されず, シラバスも読んでいなかった)

問3. 授業を受ける前の関心度はどうでしたか？

	1. とても 関心があ った	2. ある程 度関心が あった	3. どちら でもない	4. あまり 関心がな かった	5. 全く関 心がなか った
知の探訪	2	4	2	1	0
モラエスの徳島ーグローバルズムと 異邦人ー	0	12	4	3	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心に ー	4	8	1	2	0
現代科学と研究倫理	5	14	6	3	2
大学の知の活用	3	15	6	3	0
大学教育を考える	3	6	1	1	0
行動統計学入門	2	2	0	0	0
阿波学	3	3	2	3	0
自動車概論	9	8	1	0	0
情報のいろは	10	24	9	3	0
地域コンテンツと知財管理 その1	2	9	1	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	1	3	1	0	0
香川を学ぶ その1	2	20	8	1	1
香川を学ぶ その2	1	14	4	1	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	4	10	5	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	5	8	3	0	0
瀬戸内海論 その1	4	14	4	1	1
瀬戸内海論 その2	5	12	1	0	0
香川の文化と歴史 その1	8	22	2	2	0
香川の文化と歴史 その2	7	14	5	1	0
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	4	10	4	1	0
四国の歴史と文化 その2（文化編）	3	6	1	2	0
四国の自然環境と防災 その1	9	27	7	0	1
四国の自然環境と防災 その2	6	14	3	0	0
四国の地域振興 その1	13	30	13	4	0
四国の地域振興 その2	0	5	0	0	0
コンピュータと教育 その1	12	37	7	3	0
コンピュータと教育 その2	5	14	6	1	1
タンパク質で生命を斬る	7	5	1	0	0
ユーラシア大陸における人と 金属生産の関わり	2	11	2	0	0
大学生のための『安全・安心』の基礎 講座	23	56	13	6	2
太陽光利用型植物工場における知的 農作物生産	3	7	1	0	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	4	0	0	0
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	0	0
気象学入門	13	31	3	2	1
有機化学概論	2	1	0	0	0
海洋基礎生態学	8	18	4	4	2

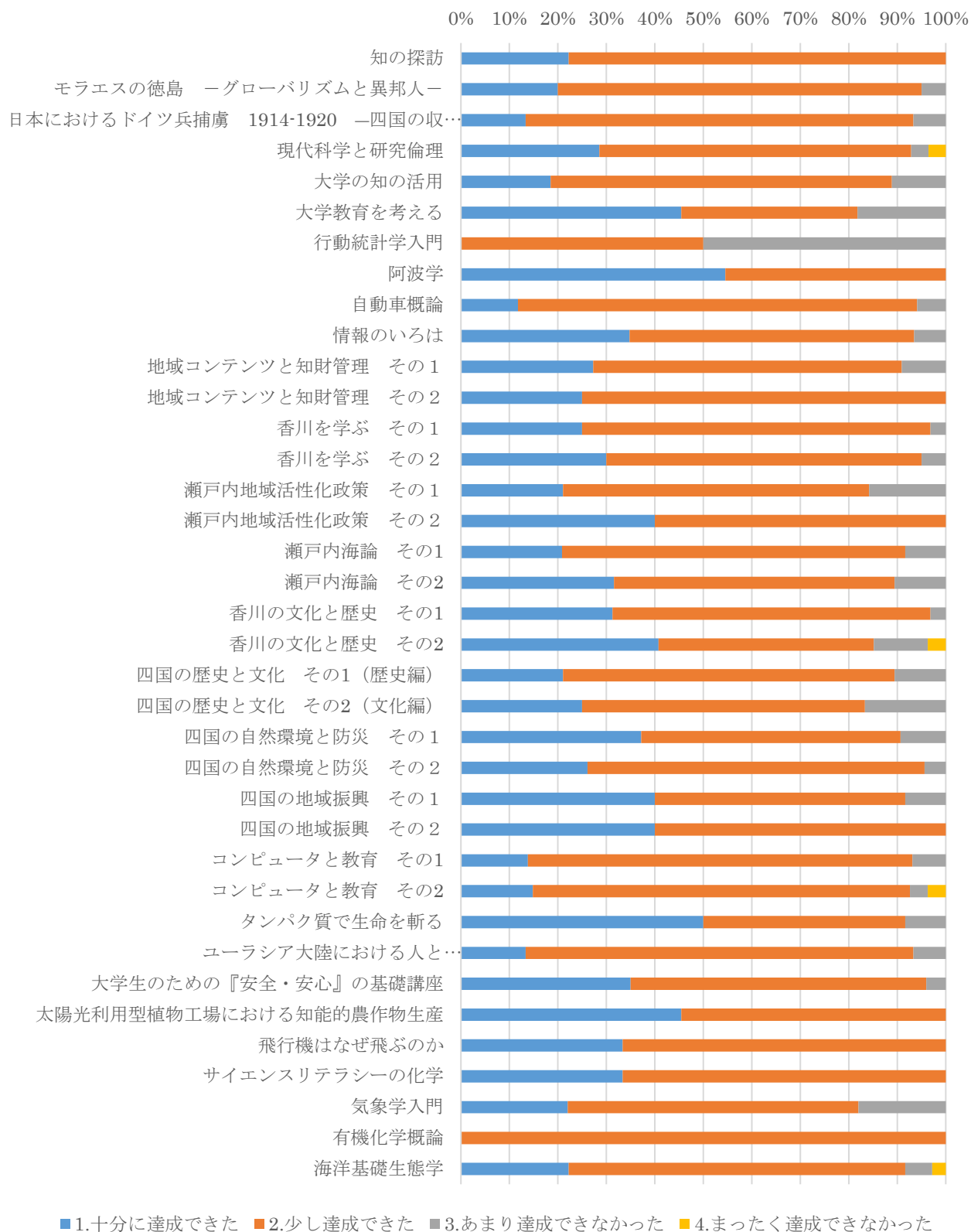
問3：関心度



問 4. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか？

	1. 十分に達成できた	2. 少し達成できた	3. あまり達成できなかった	4. まったく達成できなかった
知の探訪	2	7	0	0
モラエスの徳島 ―グローバルズムと異邦人―	4	15	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 ―四国の収容所を中心に―	2	12	1	0
現代科学と研究倫理	8	18	1	1
大学の知の活用	5	19	3	0
大学教育を考える	5	4	2	0
行動統計学入門	0	2	2	0
阿波学	6	5	0	0
自動車概論	2	14	1	0
情報のいろは	16	27	3	0
地域コンテンツと知財管理 その1	3	7	1	0
地域コンテンツと知財管理 その2	1	3	0	0
香川を学ぶ その1	8	23	1	0
香川を学ぶ その2	6	13	1	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	4	12	3	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	6	9	0	0
瀬戸内海論 その1	5	17	2	0
瀬戸内海論 その2	6	11	2	0
香川の文化と歴史 その1	10	21	1	0
香川の文化と歴史 その2	11	12	3	1
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	4	13	2	0
四国の歴史と文化 その2（文化編）	3	7	2	0
四国の自然環境と防災 その1	16	23	4	0
四国の自然環境と防災 その2	6	16	1	0
四国の地域振興 その1	24	31	5	0
四国の地域振興 その2	2	3	0	0
コンピュータと教育 その1	8	46	4	0
コンピュータと教育 その2	4	21	1	1
タンパク質で生命を斬る	6	5	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	2	12	1	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	35	61	4	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	5	6	0	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	4	0	0
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	0
気象学入門	11	30	9	0
有機化学概論	0	3	0	0
海洋基礎生態学	8	25	2	1

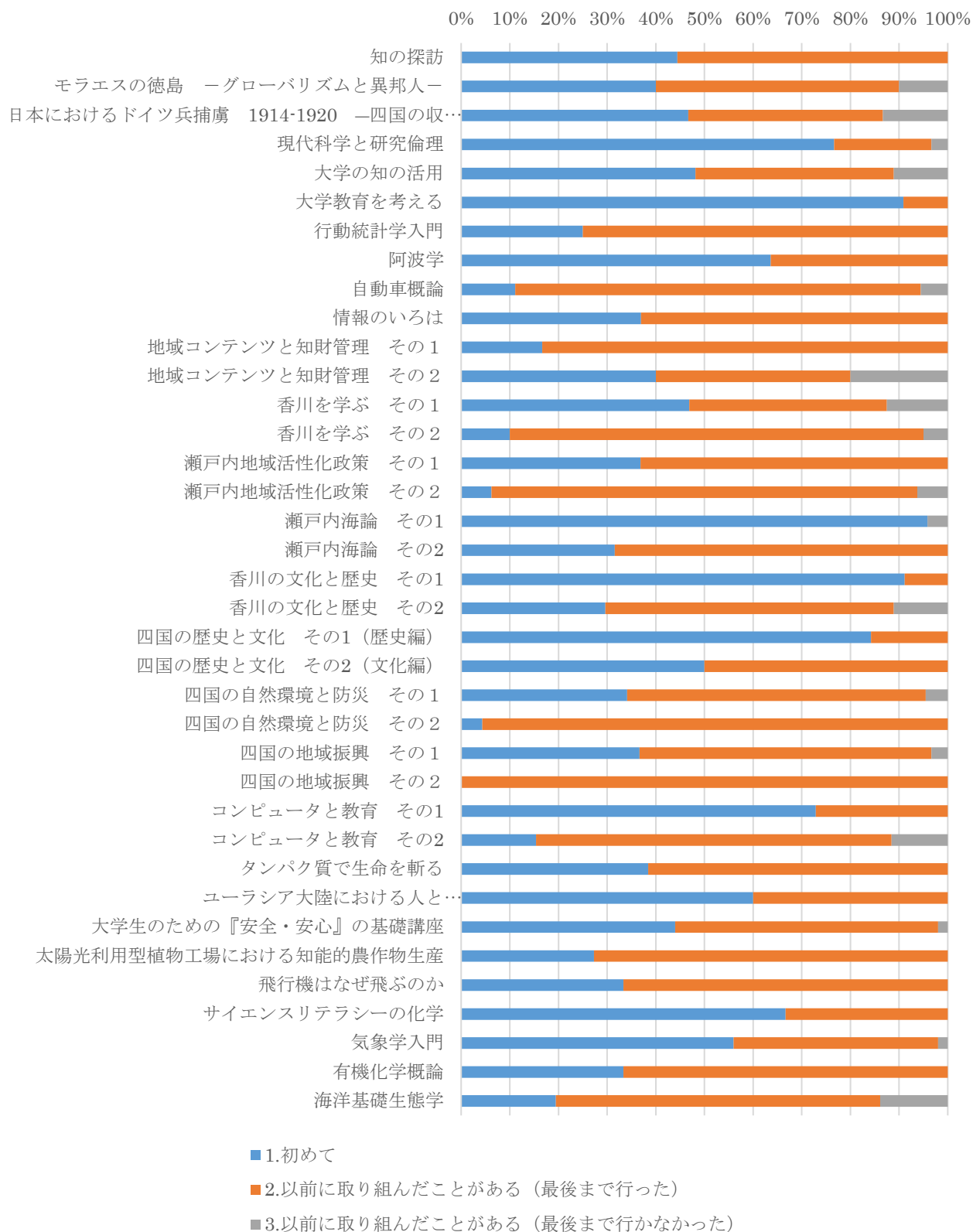
問4：目標達成度



問 5. e ラーニングの授業は初めてですか？

	1. 初めて	2. 以前に取り組んだことがある（最後まで行った）	3. 以前に取り組んだことがある（最後まで行かなかった）
知の探訪	4	5	0
モラエスの徳島 ―グローバルズムと異邦人―	8	10	2
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 ―四国の収容所を中心に―	7	6	2
現代科学と研究倫理	23	6	1
大学の知の活用	13	11	3
大学教育を考える	10	1	0
行動統計学入門	1	3	0
阿波学	7	4	0
自動車概論	2	15	1
情報のいろは	17	29	0
地域コンテンツと知財管理 その1	2	10	0
地域コンテンツと知財管理 その2	2	2	1
香川を学ぶ その1	15	13	4
香川を学ぶ その2	2	17	1
瀬戸内地域活性化政策 その1	7	12	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	1	14	1
瀬戸内海論 その1	23	0	1
瀬戸内海論 その2	6	13	0
香川の文化と歴史 その1	31	3	0
香川の文化と歴史 その2	8	16	3
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	16	3	0
四国の歴史と文化 その2（文化編）	6	6	0
四国の自然環境と防災 その1	15	27	2
四国の自然環境と防災 その2	1	22	0
四国の地域振興 その1	22	36	2
四国の地域振興 その2	0	5	0
コンピュータと教育 その1	43	16	0
コンピュータと教育 その2	4	19	3
タンパク質で生命を斬る	5	8	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	9	6	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	44	54	2
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	3	8	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	4	0
サイエンスリテラシーの化学	2	1	0
気象学入門	28	21	1
有機化学概論	1	2	0
海洋基礎生態学	7	24	5

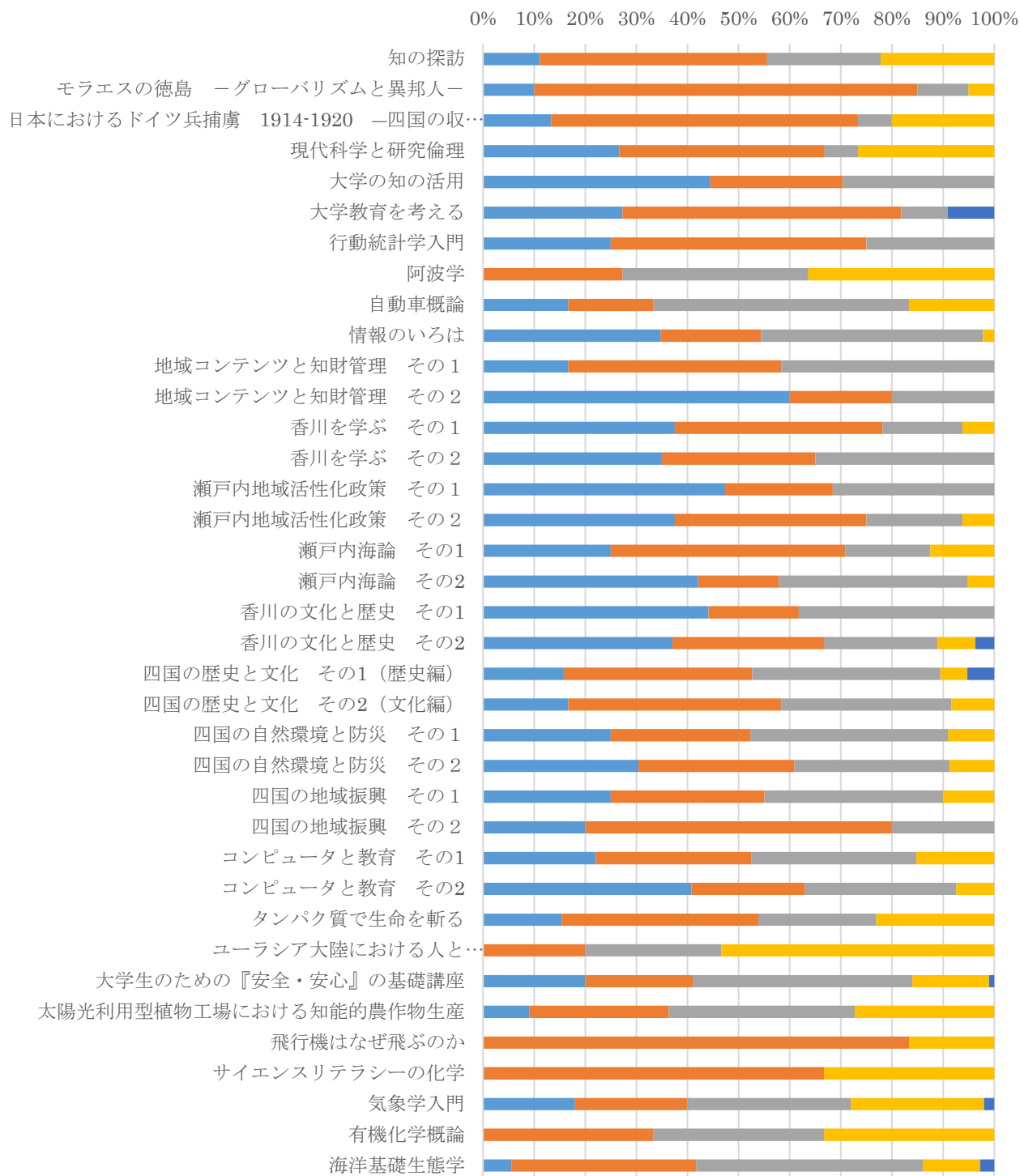
問5：eラーニング経験



問 6. 学修予定の立案と実際の進め方について教えてください。

	1. 学修を始める前に学修予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。	2. 学修を始める前に学修予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。	3. 特に学修予定は立てなかったが、うまく学修できた。	4. 最後に駆け込みでなんとか間に合わせることができた。	5. その他
知の探訪	1	4	2	2	0
モラエスの徳島ーグローバルizmと異邦人ー	2	15	2	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920ー四国の収容所を中心にー	2	9	1	3	0
現代科学と研究倫理	8	12	2	8	0
大学の知の活用	12	7	8	0	0
大学教育を考える	3	6	1	0	1
行動統計学入門	1	2	1	0	0
阿波学	0	3	4	4	0
自動車概論	3	3	9	3	0
情報のいろは	16	9	20	1	0
地域コンテンツと知財管理 その1	2	5	5	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	3	1	1	0	0
香川を学ぶ その1	12	13	5	2	0
香川を学ぶ その2	7	6	7	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	9	4	6	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	6	6	3	1	0
瀬戸内海論 その1	6	11	4	3	0
瀬戸内海論 その2	8	3	7	1	0
香川の文化と歴史 その1	15	6	13	0	0
香川の文化と歴史 その2	10	8	6	2	1
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	3	7	7	1	1
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	2	5	4	1	0
四国の自然環境と防災 その1	11	12	17	4	0
四国の自然環境と防災 その2	7	7	7	2	0
四国の地域振興 その1	15	18	21	6	0
四国の地域振興 その2	1	3	1	0	0
コンピュータと教育 その1	13	18	19	9	0
コンピュータと教育 その2	11	6	8	2	0
タンパク質で生命を斬る	2	5	3	3	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	3	4	8	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	20	21	43	15	1
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	1	3	4	3	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	0	5	0	1	0
サイエンスリテラシーの化学	0	2	0	1	0
気象学入門	9	11	16	13	1
有機化学概論	0	1	1	1	0
海洋基礎生態学	2	13	16	4	1

問6：学習計画と実際



- 1.学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。
- 2.学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。
- 3.特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。
- 4.最後に駆け込みでなんとか間に合わせることができた。
- 5.その他

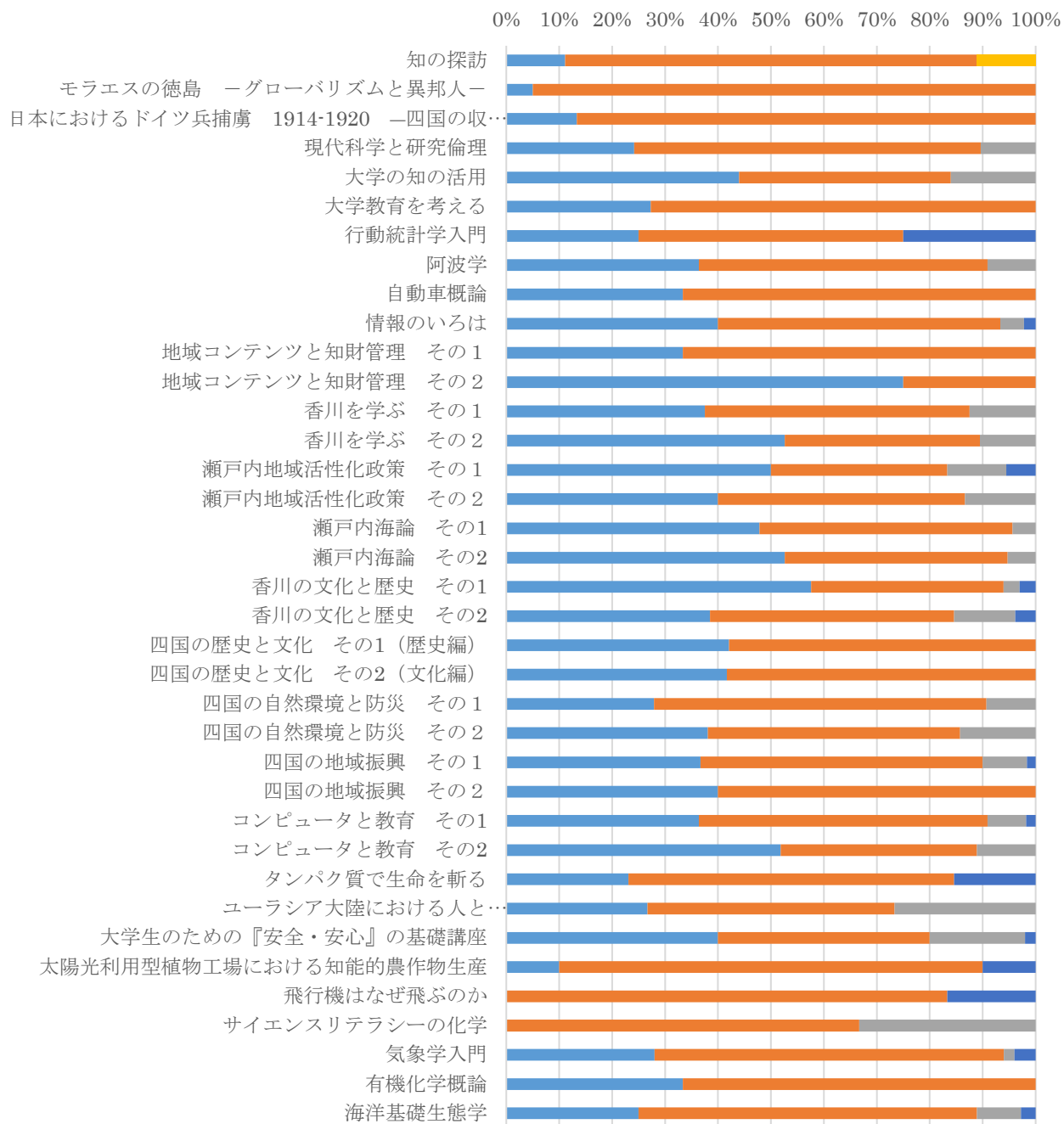
上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

大学教育を考える	学校側からのメールが届いていたのを遅れて知ったため最初の提出期限に間に合わなかった。
地域コンテンツと知財管理 その1	座学授業の課題などに追われて、後回しになってしまっていた。
香川の文化と歴史 その2	1つ受け忘れた。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	eラーニングに初めてログインし、第3回までの授業をまとめて取り組んだ。これは、ログイン時に小テストが開放されていたからだ。第3回以降の授業については、小テストの開放に合わせて授業に取り組んだ。
コンピュータと教育 その1	時間の関係で日曜日の夜にやるが多かったため。
コンピュータと教育 その1	最初の授業の参加へ大変遅れてしまい、予定が大幅にくるってしまった
タンパク質で生命を斬る	テストなどに重なったときに、うまくいかなかった。
ユーラシア大陸における人と 金属生産の関わり	冬休み期間を利用して終わらせることができた。
大学生のための『安全・安心』 の基礎講座	暇な時間にやっていたらなんか気づいたら終わったみたいな感じです。
気象学入門	常にぎりぎりまで追い込まれながら行った。
海洋基礎生態学	基本的に駆け込みだったため、パソコンが壊れた時に対応ができなかった。そのためそれ以降自分でいつまでにやるか大まかに計画をたてた。達成はあまりできなかった。

問 7. 学修が予定通りに進まなかったときのことを教えてください。(予定通りに進んだ方は 1. にチェックしてください。)

	1. 予定通りに進んだ。	2. 締め切りをきっかけに自力で学修を立て直すことができた。	3. 友人、など身近な人に相談することによって学修を立て直すことができた。	4. 教員などに相談することによって学修を立て直すことができた。	5. その他
知の探訪	1	7	0	1	0
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	1	19	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	2	13	0	0	0
現代科学と研究倫理	7	19	3	0	0
大学の知の活用	11	10	4	0	0
大学教育を考える	3	8	0	0	0
行動統計学入門	1	2	0	0	1
阿波学	4	6	1	0	0
自動車概論	6	12	0	0	0
情報のいろは	18	24	2	0	1
地域コンテンツと知財管理 その1	4	8	0	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	3	1	0	0	0
香川を学ぶ その1	12	16	4	0	0
香川を学ぶ その2	10	7	2	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	9	6	2	0	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	6	7	2	0	0
瀬戸内海論 その1	11	11	1	0	0
瀬戸内海論 その2	10	8	1	0	0
香川の文化と歴史 その1	19	12	1	0	1
香川の文化と歴史 その2	10	12	3	0	1
四国の歴史と文化 その1(歴史編)	8	11	0	0	0
四国の歴史と文化 その2(文化編)	5	7	0	0	0
四国の自然環境と防災 その1	12	27	4	0	0
四国の自然環境と防災 その2	8	10	3	0	0
四国の地域振興 その1	22	32	5	0	1
四国の地域振興 その2	2	3	0	0	0
コンピュータと教育 その1	20	30	4	0	1
コンピュータと教育 その2	14	10	3	0	0
タンパク質で生命を斬る	3	8	0	0	2
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	4	7	4	0	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	40	40	18	0	2
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	1	8	0	0	1
飛行機はなぜ飛ぶのか	0	5	0	0	1
サイエンスリテラシーの化学	0	2	1	0	0
気象学入門	14	33	1	0	2
有機化学概論	1	2	0	0	0
海洋基礎生態学	9	23	3	0	1

問7：学習が予定通り進まなかったとき



- 1. 予定通りに進んだ。
- 2. 締め切りをきっかけに自力で学習を立て直すことができた。
- 3. 友人. など身近な人に相談することによって学習を立て直すことができた。
- 4. 教員などに相談することによって学習を立て直すことができた。
- 5. その他

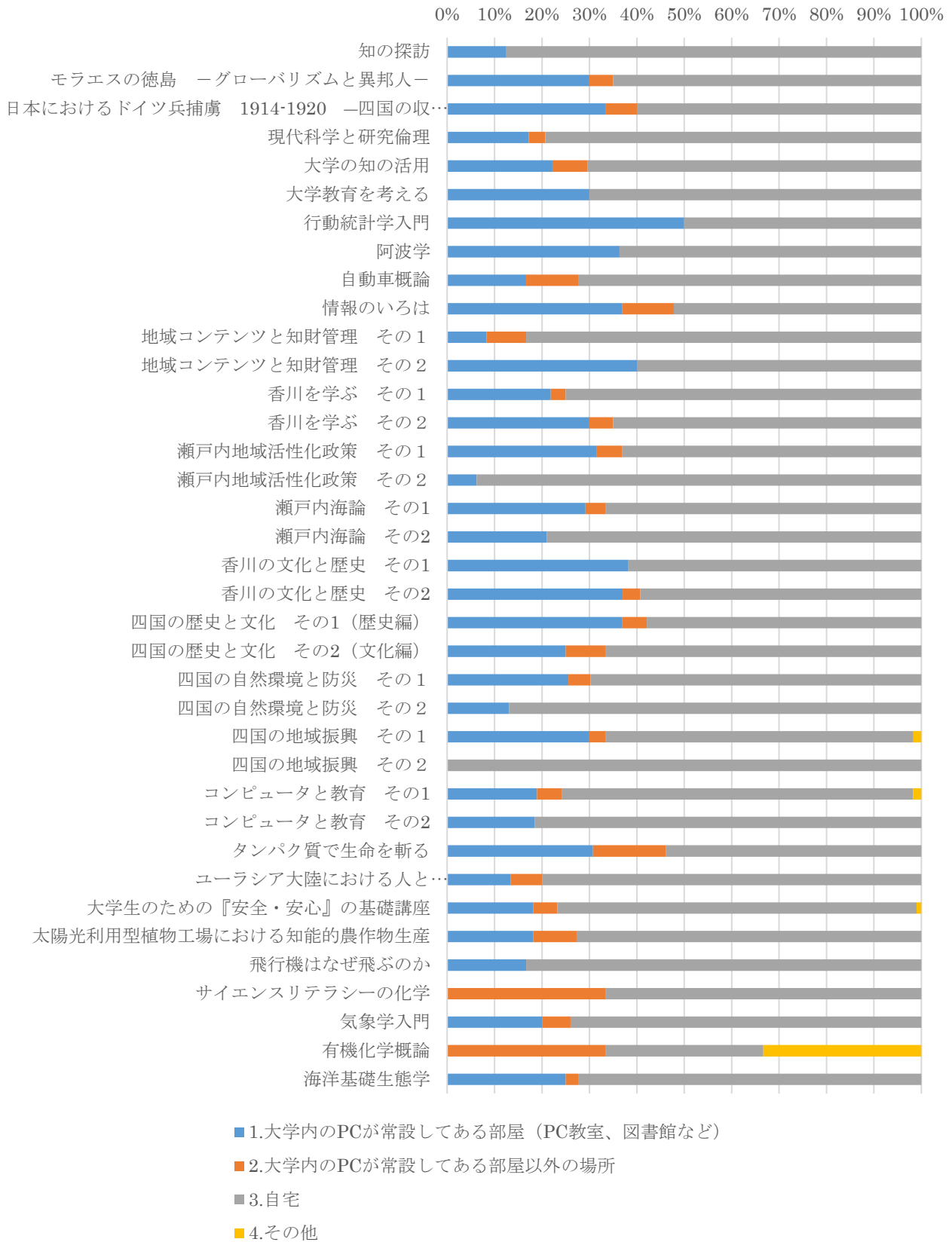
上記で、5. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

行動統計学入門	サーバーの問題で動画が視聴できなかつたため、満身に課題ができなかつた。
情報のいろは	全体的にどの講座をいつ受けるかは決めていなかったが、忙しくなる時期を予測して、時間があるときに早め早めに受けていた。
瀬戸内地域活性化政策 その1	授業の公開が遅く、余裕を持って取り組みたいと思っていたがやむを得ず公開を待った
香川の文化と歴史 その1	休み、空き時間を利用して進めた。
香川の文化と歴史 その2	締め切りを手帳に書き込んだまではよかったが、締め切りの一週間後のところに書いており、受験することができなかつた。しかも三つの講義が同じ締め切りの時に…。
四国の地域振興 その1	教育実習が終わった後に気が抜けて、この授業の締め切りを忘れていたため一度だけ期限に間に合わなかつた。
コンピュータと教育 その1	×切厳守をモットーに何とか終わらせた。
コンピュータと教育 その1	手遅れだった
タンパク質で生命を斬る	冬季休校中に1日1講ずつ行い、帳尻を合わせた。
タンパク質で生命を斬る	特に学習予定は立てなかつた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	忙しくなる時期を予測して、時間があるときに進めた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	単位を取ろうと強く意識することで立て直した。
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	空き時間を削って立て直した。
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	他の授業のレポートで時間がかかり予定日にできなかつた。比較的時間のある日に代わりにやって終わらせた。
飛行機はなぜ飛ぶのか	長期の休みを利用して帳尻を合わせた
気象学入門	3年生で課題がかなり多いと噂の配属コースに所属していたので、時間を割くことが困難な時があった。
気象学入門	うっかり締め切りを忘れていた
海洋基礎生態学	一時期夜遅くに、パソコンが壊れて作業が全くできなかつた。

問 8. 本授業 (e-ラーニング) を受講した場所について、主にどこで受講しましたか？

	1. 大学内の PC が常設し てある部屋 (PC 教室、 図書館 等 など)	2. 大学内の PC が常設し てある部屋 以外の場所	3. 自宅	4. その他
知の探訪	1	0	7	0
モラエスの徳島 — グローバリズムと異邦人 —	6	1	13	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 — 四国の収容所を中心に —	5	1	9	0
現代科学と研究倫理	5	1	23	0
大学の知の活用	6	2	19	0
大学教育を考える	3	0	7	0
行動統計学入門	2	0	2	0
阿波学	4	0	7	0
自動車概論	3	2	13	0
情報のいろは	17	5	24	0
地域コンテンツと知財管理 その1	1	1	10	0
地域コンテンツと知財管理 その2	2	0	3	0
香川を学ぶ その1	7	1	24	0
香川を学ぶ その2	6	1	13	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	6	1	12	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	1	0	15	0
瀬戸内海論 その1	7	1	16	0
瀬戸内海論 その2	4	0	15	0
香川の文化と歴史 その1	13	0	21	0
香川の文化と歴史 その2	10	1	16	0
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	7	1	11	0
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	3	1	8	0
四国の自然環境と防災 その1	11	2	30	0
四国の自然環境と防災 その2	3	0	20	0
四国の地域振興 その1	18	2	39	1
四国の地域振興 その2	0	0	5	0
コンピュータと教育 その1	11	3	43	1
コンピュータと教育 その2	5	0	22	0
タンパク質で生命を斬る	4	2	7	0
ユーラシア大陸における人と 金属生産の関わり	2	1	12	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	18	5	75	1
太陽光利用型植物工場における知能的農作物 生産	2	1	8	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	1	0	5	0
サイエンスリテラシーの化学	0	1	2	0
気象学入門	10	3	37	0
有機化学概論	0	1	1	1
海洋基礎生態学	9	1	26	0

問8：受講場所



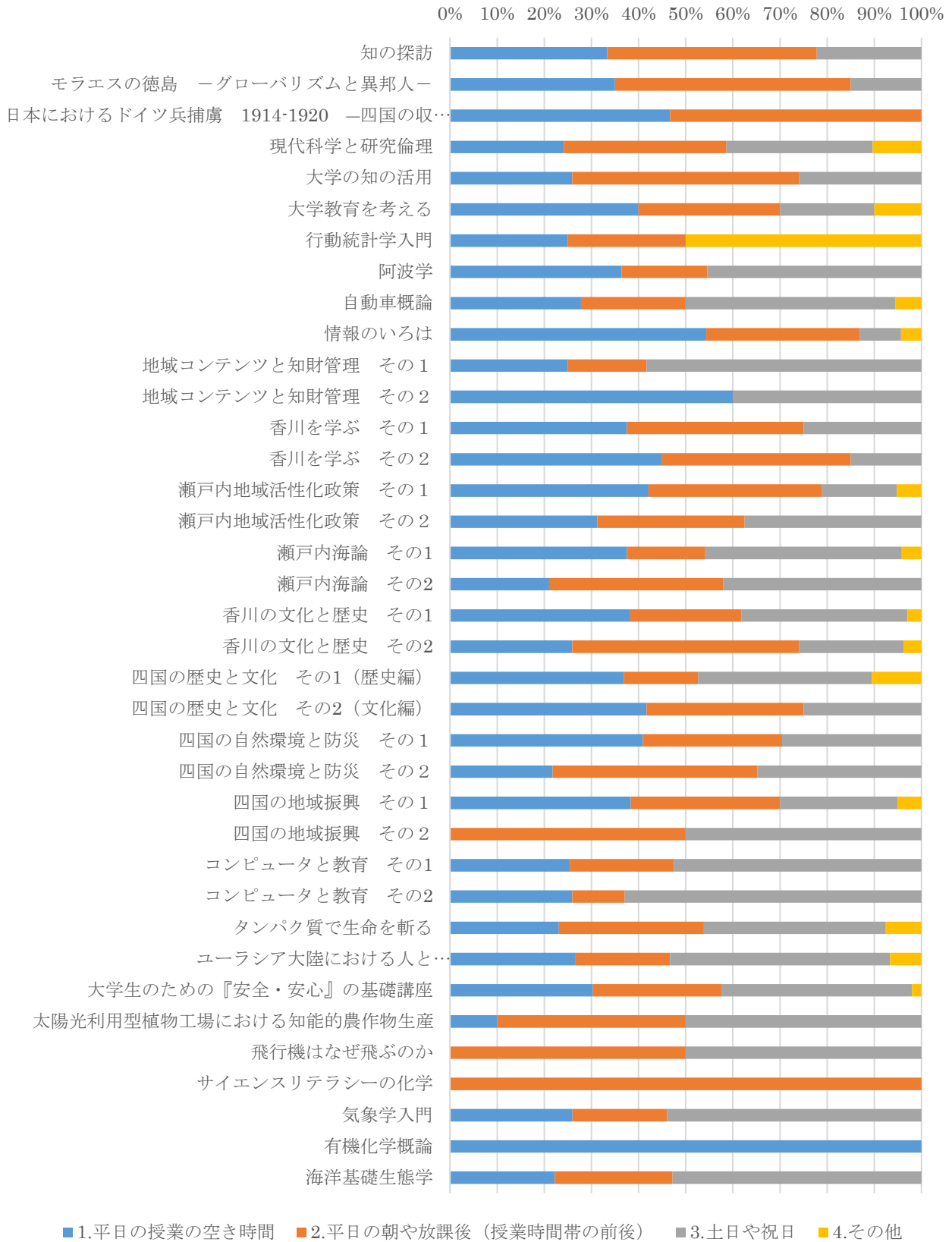
上記で、4. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

四国の地域振興 その1	with cafe という学生限定のカフェのフリーワイファイをつかって勉強した。
コンピュータと教育 その1	大学内の PC が常設してある部屋、自宅半々で行いました。
コンピュータと教育 その1	時間や周りを気にせず出来るため。
有機化学概論	香川大学付属図書館

問9. 本授業（eラーニング）を受講した時間帯について教えてください。

	1. 平日の授業の空き時間	2. 平日の朝や放課後（授業時間帯の前後）	3. 土日や祝日	4. その他
知の探訪	3	4	2	0
モラエスの徳島ーグローバルイズムと異邦人ー	7	10	3	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	7	8	0	0
現代科学と研究倫理	7	10	9	3
大学の知の活用	7	13	7	0
大学教育を考える	4	3	2	1
行動統計学入門	1	1	0	2
阿波学	4	2	5	0
自動車概論	5	4	8	1
情報のいろは	25	15	4	2
地域コンテンツと知財管理 その1	3	2	7	0
地域コンテンツと知財管理 その2	3	0	2	0
香川を学ぶ その1	12	12	8	0
香川を学ぶ その2	9	8	3	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	8	7	3	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	5	5	6	0
瀬戸内海論 その1	9	4	10	1
瀬戸内海論 その2	4	7	8	0
香川の文化と歴史 その1	13	8	12	1
香川の文化と歴史 その2	7	13	6	1
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	7	3	7	2
四国の歴史と文化 その2（文化編）	5	4	3	0
四国の自然環境と防災 その1	18	13	13	0
四国の自然環境と防災 その2	5	10	8	0
四国の地域振興 その1	23	19	15	3
四国の地域振興 その2	0	2	2	0
コンピュータと教育 その1	15	13	31	0
コンピュータと教育 その2	7	3	17	0
タンパク質で生命を斬る	3	4	5	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	4	3	7	1
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	30	27	40	2
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	1	4	5	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	0	3	3	0
サイエンスリテラシーの化学	0	3	0	0
気象学入門	13	10	27	0
有機化学概論	3	0	0	0
海洋基礎生態学	8	9	19	0

問9：受講時間帯



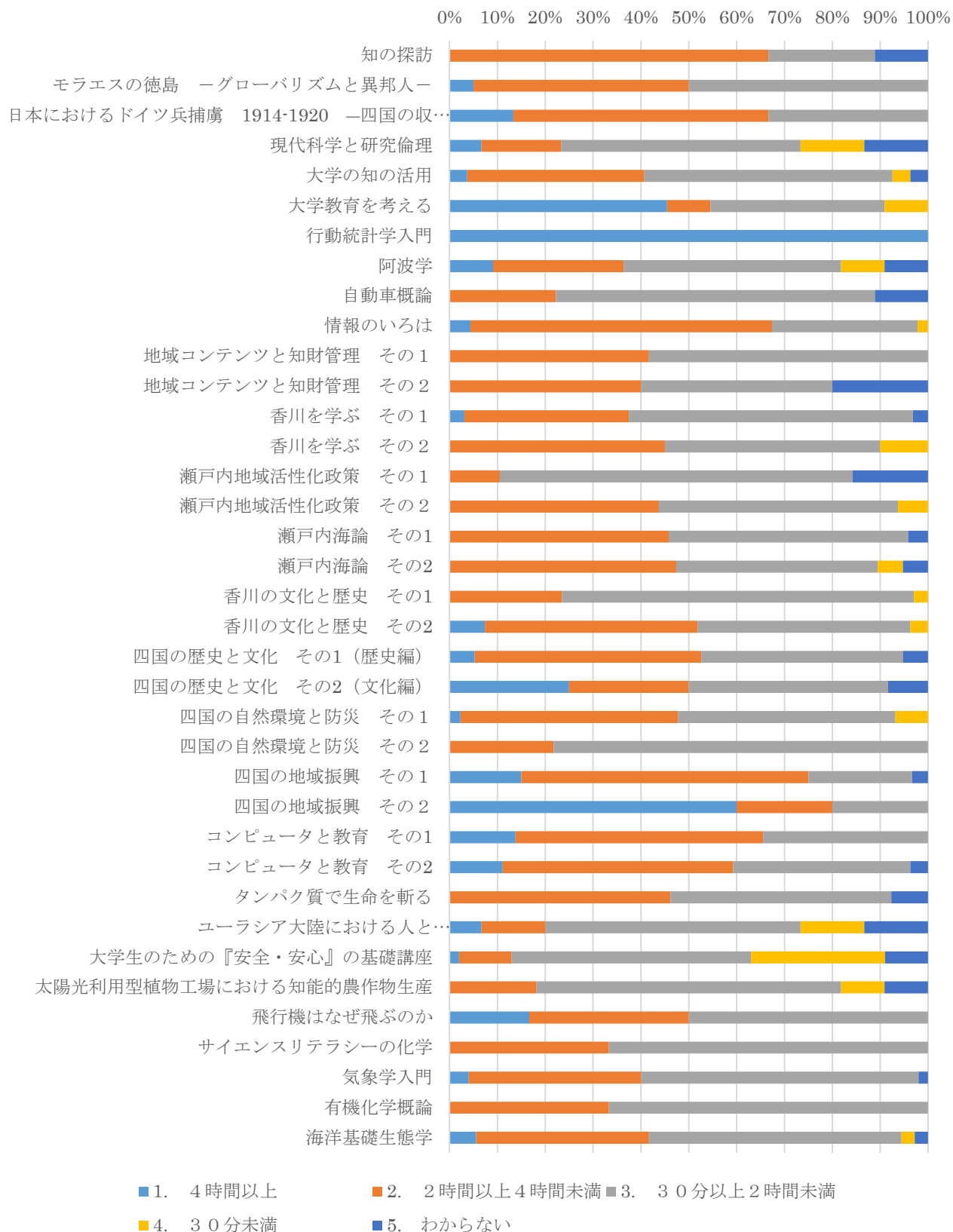
上記で、4. その他を選んだ方は具体的にお書きください。

現代科学と研究倫理	平日の授業の空き時間だけでなく、土日にも取り組みました。
現代科学と研究倫理	平日の放課後や土日・祝日
現代科学と研究倫理	平日の夜
大学教育を考える	夜間
行動統計学入門	1, 2, 3 のいずれの時間も利用した。
行動統計学入門	深夜、授業の空き時間、放課後、土日
自動車概論	冬休み中にまとめてやりました
情報のいろは	平日の授業の空き時間だけでなく、土日にも受講した。
瀬戸内地域活性化政策 その1	平日の夜自宅に帰ってから
瀬戸内海論 その1	夜
香川の文化と歴史 その1	授業が公開された日
香川の文化と歴史 その2	時間帯はさまざまである。
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	土日や祝日と平日の授業の空き時間に進めた。
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	夜
四国の地域振興 その1	平日の時間があるときや、土日祝日などに少しずつ行った。
四国の地域振興 その1	放課後および、バイトから帰宅後の深夜
四国の地域振興 その1	平日の夜。
コンピュータと教育 その1	時間の関係で。
タンパク質で生命を斬る	土日と平日
ユーラシア大陸における人と 金属生産の関わり	冬休み中の空いている時間
大学生のための『安全・安心』の基礎 講座	冬休み期間中
大学生のための『安全・安心』の基礎 講座	冬休みを利用した。

問 10. この授業について 1 週あたり平均して、どの程度、学習（ビデオ視聴、資料収集、文献講読、課題作成等のあらゆる活動を含む）をしましたか？数回分まとめて取り組むことが多かった場合も、できるだけ 1 週あたりに平均して答えてください。

	1. 4 時間以上	2. 2 時間以上 4 時間未満	3. 30 分以上 2 時間未満	4. 30 分未満	5. わからない
知の探訪	0	6	2	0	1
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	1	9	10	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 —四国の収容所を中心に—	2	8	5	0	0
現代科学と研究倫理	2	5	15	4	4
大学の知の活用	1	10	14	1	1
大学教育を考える	5	1	4	1	0
行動統計学入門	4	0	0	0	0
阿波学	1	3	5	1	1
自動車概論	0	4	12	0	2
情報のいろは	2	29	14	1	0
地域コンテンツと知財管理 その 1	0	5	7	0	0
地域コンテンツと知財管理 その 2	0	2	2	0	1
香川を学ぶ その 1	1	11	19	0	1
香川を学ぶ その 2	0	9	9	2	0
瀬戸内地域活性化政策 その 1	0	2	14	0	3
瀬戸内地域活性化政策 その 2	0	7	8	1	0
瀬戸内海論 その 1	0	11	12	0	1
瀬戸内海論 その 2	0	9	8	1	1
香川の文化と歴史 その 1	0	8	25	1	0
香川の文化と歴史 その 2	2	12	12	1	0
四国の歴史と文化 その 1（歴史編）	1	9	8	0	1
四国の歴史と文化 その 2（文化編）	3	3	5	0	1
四国の自然環境と防災 その 1	1	20	20	3	0
四国の自然環境と防災 その 2	0	5	18	0	0
四国の地域振興 その 1	9	36	13	0	2
四国の地域振興 その 2	3	1	1	0	0
コンピュータと教育 その 1	8	30	20	0	0
コンピュータと教育 その 2	3	13	10	0	1
タンパク質で生命を斬る	0	6	6	0	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	2	8	2	2
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	2	11	50	28	9
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	0	2	7	1	1
飛行機はなぜ飛ぶのか	1	2	3	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	1	2	0	0
気象学入門	2	18	29	0	1
有機化学概論	0	1	2	0	0
海洋基礎生態学	2	13	19	1	1

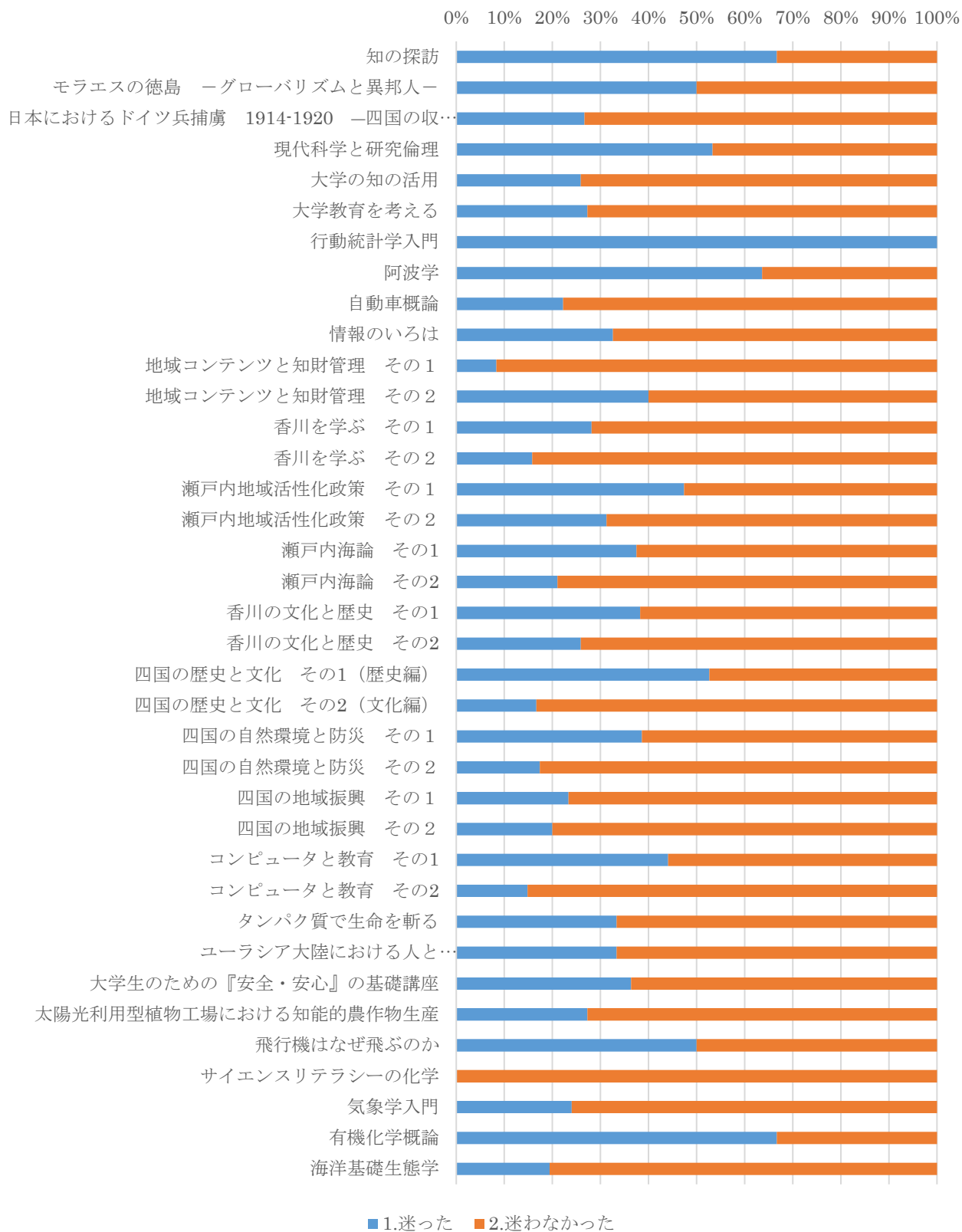
問10：受講時間



問 11-1. 操作方法で迷ったりしましたか？

	1. 迷った	2. 迷わなかった
知の探訪	6	3
モラエスの徳島 ―グローバルズムと異邦人―	10	10
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 ―四国の収容所を中心に―	4	11
現代科学と研究倫理	16	14
大学の知の活用	7	20
大学教育を考える	3	8
行動統計学入門	4	0
阿波学	7	4
自動車概論	4	14
情報のいろは	15	31
地域コンテンツと知財管理 その1	1	11
地域コンテンツと知財管理 その2	2	3
香川を学ぶ その1	9	23
香川を学ぶ その2	3	16
瀬戸内地域活性化政策 その1	9	10
瀬戸内地域活性化政策 その2	5	11
瀬戸内海論 その1	9	15
瀬戸内海論 その2	4	15
香川の文化と歴史 その1	13	21
香川の文化と歴史 その2	7	20
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	10	9
四国の歴史と文化 その2（文化編）	2	10
四国の自然環境と防災 その1	17	27
四国の自然環境と防災 その2	4	19
四国の地域振興 その1	14	46
四国の地域振興 その2	1	4
コンピュータと教育 その1	26	33
コンピュータと教育 その2	4	23
タンパク質で生命を斬る	4	8
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	5	10
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	36	63
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	3	8
飛行機はなぜ飛ぶのか	3	3
サイエンスリテラシーの化学	0	3
気象学入門	12	38
有機化学概論	2	1
海洋基礎生態学	7	29

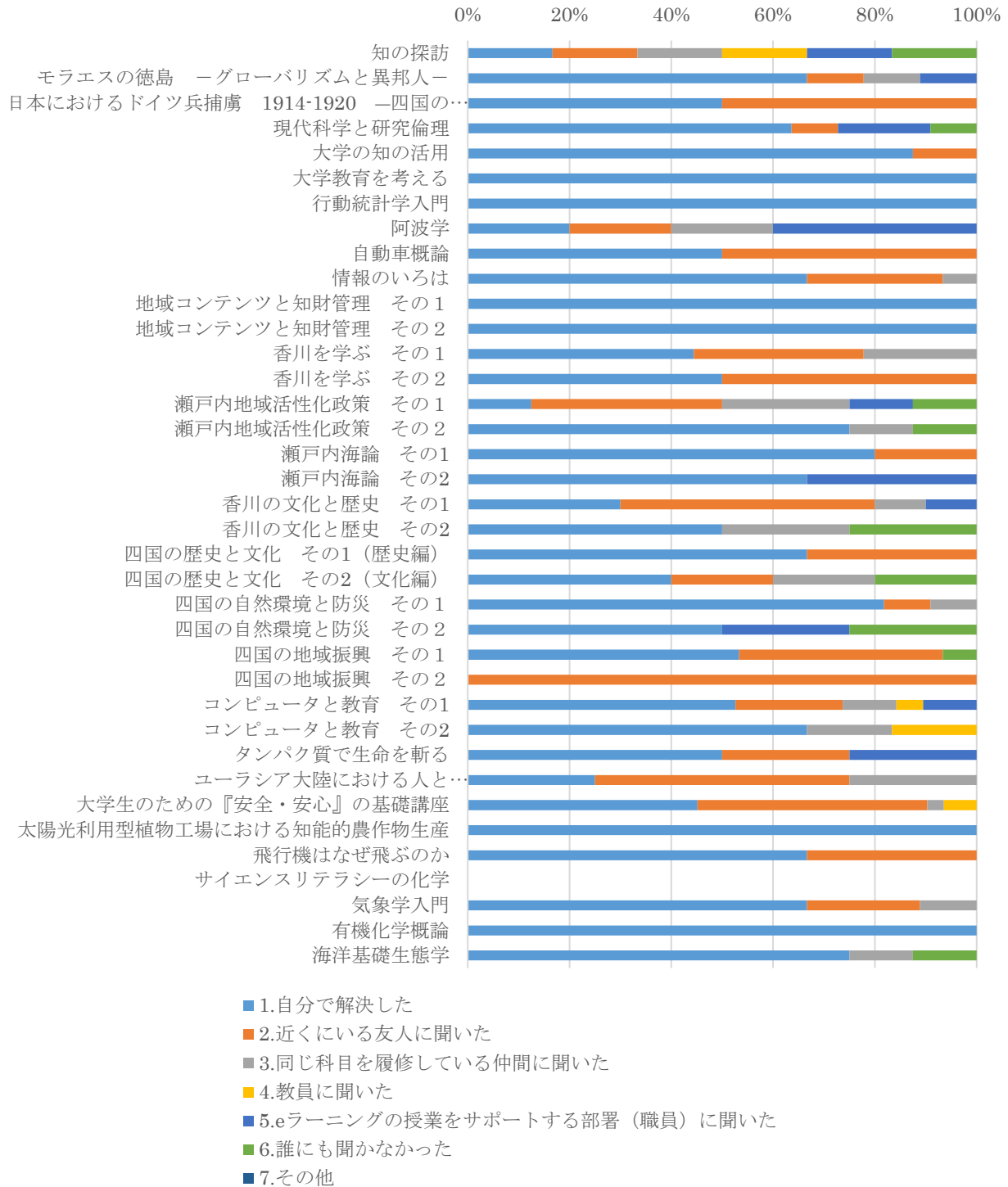
問11-1：操作方法



問 11-2. 上記で、迷ったとお答えした方にうかがいます。迷った際、どのように解決しましたか？（複数回答可）

	1. 自分で解決した	2. 近くにいる友人に聞いた	3. 同じ科目を履修している仲間に聞いた	4. 教員に聞いた	5. e ラーニングの授業をサポートする部署（職員）に聞いた	6. 誰にも聞かなかった	7. その他
知の探訪	1	1	1	1	1	1	0
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	6	1	1	0	1	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	1	1	0	0	0	0	0
現代科学と研究倫理	7	1	0	0	2	1	0
大学の知の活用	7	1	0	0	0	0	0
大学教育を考える	2	0	0	0	0	0	0
行動統計学入門	3	0	0	0	0	0	0
阿波学	1	1	1	0	2	0	0
自動車概論	2	2	0	0	0	0	0
情報のいろは	10	4	1	0	0	0	0
地域コンテンツと知財管理 その1	1	0	0	0	0	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	1	0	0	0	0	0	0
香川を学ぶ その1	4	3	2	0	0	0	0
香川を学ぶ その2	2	2	0	0	0	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	1	3	2	0	1	1	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	6	0	1	0	0	1	0
瀬戸内海論 その1	4	1	0	0	0	0	0
瀬戸内海論 その2	2	0	0	0	1	0	0
香川の文化と歴史 その1	3	5	1	0	1	0	0
香川の文化と歴史 その2	2	0	1	0	0	1	0
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	4	2	0	0	0	0	0
四国の歴史と文化 その2（文化編）	2	1	1	0	0	1	0
四国の自然環境と防災 その1	9	1	1	0	0	0	0
四国の自然環境と防災 その2	2	0	0	0	1	1	0
四国の地域振興 その1	8	6	0	0	0	1	0
四国の地域振興 その2	0	1	0	0	0	0	0
コンピュータと教育 その1	10	4	2	1	2	0	0
コンピュータと教育 その2	4	0	1	1	0	0	0
タンパク質で生命を斬る	2	1	0	0	1	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	2	1	0	0	0	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	14	14	1	2	0	0	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	2	0	0	0	0	0	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	1	0	0	0	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	0	0	0	0	0
気象学入門	6	2	1	0	0	0	0
有機化学概論	2	0	0	0	0	0	0
海洋基礎生態学	6	0	1	0	0	1	0

問11-2：解決方法



上記で、7.その他を選んだ方は具体的にお書きください。

タンパク質で生命を斬る	動画がPC室でないとうまく再生されなかった。再生されても映像がとぎれとぎれで受講できなかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	教員に確認したが連絡も返ってこず、電話しても出なかった。

問 12. e ラーニングで提供される授業の良いと思う点をお書きください。(「なし」等の回答は削除)

知の探訪	ほかの大学の授業を受けることができる。
知の探訪	自分のペースで学習を進められる点。
知の探訪	早送りできることで緊張感を持って学習できること
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	自分のタイミングでできる。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	空きコマや休日を有効活用できること
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	自分のペースで授業を受けることかてき点。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	自分のペースで進められる。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	自分のペースで学習できること 自宅で行えること
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	自分の都合のいい時間でできる
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	空いた時間に学習できる。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	他大学との交流がある点
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	自分の好きな時間に受講できる。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	自分の好きな時間に受講できる点。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	他大学の授業を、自分の好きな時間に取り組めること。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	何度も繰り返し授業が受けられる
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	自分の空き時間を利用して受講できる点。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	家で受講できる点。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	どの時間、場所でも学習が可能な点、繰り返し講義動画を確認できる点。
現代科学と研究倫理	やはり、時間に縛られずに学習できるのは大きな利点である と思います。
現代科学と研究倫理	好きな時間に様々な先生の授業を受けられる点
現代科学と研究倫理	自分のペースで、わからなかったところ・早かったところは 何度も再生できる。
現代科学と研究倫理	時間に縛られないため自由に学習できること
現代科学と研究倫理	ノートをとって聞いて聞き逃したときに巻き戻しができたり、 停止できたりできる点。
現代科学と研究倫理	好きな時に受けられる。
現代科学と研究倫理	自分のペースで学習を進めることができる点。
現代科学と研究倫理	ほぼ自分のペースで進められる。
現代科学と研究倫理	自宅でも授業を受けることができる点。
現代科学と研究倫理	いつでもできる。
現代科学と研究倫理	いつでも授業を受けられる
現代科学と研究倫理	自分のペースで授業を受講し、進めることができる。
現代科学と研究倫理	授業を受けたいときに受けられること。何度も授業を見返 すことができ、見たい部分だけ閲覧することもできること。

大学の知の活用	何度も、授業を見ることができる。 先生の話すスピードを調節できる。 空き時間に進められるので、自分の予定に合わせて取り組むことができる。 他大学の授業を受けることができた。 香川大学では、チプラが単位取得制限に含まれないため、他の授業を多く選んでいてもそれらにプラスしてチプラで授業を受けることができた。
大学の知の活用	自分の都合の良い時に行うことができる点。
大学の知の活用	自分のペースで授業を受けられる点。 自分の大学以外の先生の授業が受けられる点。
大学の知の活用	自分のタイミングで自由に受けられる点
大学の知の活用	自分の好きな時間にできる。空き時間を有効活用できる。
大学の知の活用	自分の好きな時に授業を受けられる点。
大学の知の活用	時間や場所を選ばずに受講できる点は非常に便利
大学教育を考える	違う大学の人とコミュニケーションが取れるところ
大学教育を考える	自分のペースで空いた時間に進めることができる点。
大学教育を考える	分からない部分や気になる部分について、ビデオを繰り返し見るなどして時間をかけて勉強することができる点。
大学教育を考える	自分の好きな時間帯に学べる。
大学教育を考える	巻き戻せる点。
大学教育を考える	何度でも聞ける・見れる点。
大学教育を考える	いつ受講するか決められる点
行動統計学入門	何回も講義を見れる。
行動統計学入門	いつでも、どこでも空き時間に自分のペースで学習できる
行動統計学入門	空き時間にできる。
行動統計学入門	繰り返し動画を見ることができる。
阿波学	もしも聞き逃した言葉があったりしても、シークバーを動かすだけでもう一度聞き取ることが出来る点。 自分の好きな時間に授業を受けることが出来る点。
阿波学	他大学の興味ある分野を学習できる点
阿波学	各大学の特化した分野に触れることができる点 休日に規則的な学習を行える点 何度も視聴できる点
自動車概論	自宅で学習できるところ。 とくに後期は冬休みと被るので、実家でも学習を行うことができる。
自動車概論	一度で理解できなかった箇所について何度も見返すことができる点。 関連する動画や、資料をすぐに検索できるのでより深い知識の習得に繋がること。
自動車概論	時間があるときに自由にできることだと思います。
自動車概論	空きコマに受講できる
自動車概論	他大学で開講されている講義を出向かわずとも聴講できる点。 聞き逃しても、時間を巻き戻して再度閲覧できる点。
自動車概論	自分のタイミングで授業が進められる点 繰り返し授業を受けられる点
自動車概論	自分のペースで進められる点
自動車概論	幅広い分野を学べるところ。
情報のいろは	時間を拘束されず、空いた時間にできるのがとてもありがたいです。

情報のいろは	自分のペースで進められる。
情報のいろは	自分の都合に合わせられる
情報のいろは	自分の予定に合わせて学習することができる点。
情報のいろは	自分の空き時間に自由に組み込むことができるので、通常の講義よりも受講しやすいほか、通常の講義より融通が利くためモチベーションの低下した際や突然の体調不良などにも対応しやすい。
情報のいろは	いつでもできる
情報のいろは	学校の単位取得制限に含まれない点。自分の空いた時間に授業を受けることができる点。
情報のいろは	自分の予定に合わせて、進めれる点。
情報のいろは	自分の好きな時間、場所で学習できる点はよかった。
情報のいろは	じぶんのペースで進められるところ
情報のいろは	自分のスピードでできる
情報のいろは	空いている時間にいつでもできるところ
情報のいろは	自宅で他大学の優れた授業を受けられる点
情報のいろは	好きな時間に受講できる点
情報のいろは	自分の好きなタイミングで勉強できる
情報のいろは	分からなかったところを巻き戻して何度も聞ける
情報のいろは	好きな時間に受講できる。
情報のいろは	時間を問わずに授業を受けることができる。
情報のいろは	期限内であれば自分の空いている時間に講義を受けられる点、また、他の大学で開講されている講義を受講できる点がとてもよいと感じた。
情報のいろは	空き時間にできる
情報のいろは	場所を選ばない。自分のペースで進められる。
地域コンテンツと知財管理 その1	自宅でできる
地域コンテンツと知財管理 その1	まとめて受けることができる
地域コンテンツと知財管理 その1	空き時間など好きな時間に授業を受けることができる。
地域コンテンツと知財管理 その1	授業内容を聞き逃したとしても、何回でも聞き直すことが可能である点
地域コンテンツと知財管理 その1	他大学の先生が開講していて、関心がある講義を受けられるところ。 自身の履修時間割と関係無く、好きな時間に受講できるところ。
地域コンテンツと知財管理 その2	自分で時間配分をして講義を受けられる点と、何度も講義を受けなおせる点がよいと思います。
地域コンテンツと知財管理 その2	いつでもどこでもできること。
地域コンテンツと知財管理 その2	履修上限に関係なく受けることができる点。 自分の生活スタイルに合わせて、好きな時間に授業を受けることができる点。
香川を学ぶ その1	何度も視聴できるところ。
香川を学ぶ その1	どこでもできる点
香川を学ぶ その1	いつでも好きな時に授業を受け、また繰り返し視聴できる。
香川を学ぶ その1	教室で行われる授業と異なって1週間いつでも取り組める。
香川を学ぶ その1	好きな時に受けることができる。
香川を学ぶ その1	自分の空いている時間帯に授業を受けられる。 聞き逃したところをもう一度聞ける。
香川を学ぶ その1	時間が空いた時に見ることができる。
香川を学ぶ その1	自分で授業時間を決めることができる
香川を学ぶ その1	様々な分野の内容を知ることができる
香川を学ぶ その1	自分のタイミングで学習ができる

香川を学ぶ	その1	わかりにくかった所は巻き戻してみることができる点
香川を学ぶ	その1	自分の都合に合わせて授業を受けられる点。
香川を学ぶ	その1	どこでも受けたい時間に授業を受けることができる。
香川を学ぶ	その1	自分の好きな時間帯に授業を受けることができる点
香川を学ぶ	その1	いつでもどこでも受けることができる点
香川を学ぶ	その1	空き時間を有意義に活用することができる点
香川を学ぶ	その1	空き時間にできるため、自分の都合にあわせて受講できる点。
香川を学ぶ	その1	空き時間で授業を受けれること。
香川を学ぶ	その2	自分のペースで学習に取り組める点。
香川を学ぶ	その2	自分の都合が良いときに取り組める。
香川を学ぶ	その2	空き時間を使うなど、柔軟に学習できる。
香川を学ぶ	その2	巻き戻しができる点。
香川を学ぶ	その2	聞き逃したところまで戻って再度再生することができるため、ゆっくり時間をかけて話の内容を理解することができる。
香川を学ぶ	その2	自分のタイミングで受講できる点。
香川を学ぶ	その2	どこでも授業を受けられる。
香川を学ぶ	その2	時間に縛られることなく学習することができる。
香川を学ぶ	その2	自分のペースで学習できる。
香川を学ぶ	その2	学校に実際に行かなくても授業が受けられる点と、自分の好きな分野を勉強できる点
香川を学ぶ	その2	自分のペースで進められる。
香川を学ぶ	その2	ネット
瀬戸内地域活性化政策	その1	地方の事がよくわかった。
瀬戸内地域活性化政策	その1	自分の都合の良い時間に授業を受けることができる。いまいち理解できなかった部分を何度でも繰り返し見ることができる。
瀬戸内地域活性化政策	その1	自分の好きな時間に受講できる。
瀬戸内地域活性化政策	その1	他大学の授業を受ける貴重な機会を得られること
瀬戸内地域活性化政策	その1	授業の時間にあまり縛られない
瀬戸内地域活性化政策	その1	自分で計画を立てることができる。
瀬戸内地域活性化政策	その1	期限内でいつでも自分が受けたいときに受講できること。
瀬戸内地域活性化政策	その1	休日にも授業を受講できる点。
瀬戸内地域活性化政策	その1	自分の自由な時間に学習に取り組める。
瀬戸内地域活性化政策	その1	オンライン上で授業を行ってくれるので気軽に臨め、分からなかったところがあれば何度も見直すことができる。
瀬戸内地域活性化政策	その1	時間のあるときに集中してできる点。
瀬戸内地域活性化政策	その1	自分の好きな時間に学習できる点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	いつでも受講できるという点
瀬戸内地域活性化政策	その2	いつでも自分が受けたいときに受講できる点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	自分のペースで進めることができる点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	好きな時間で自由にできること。 ノートがとりやすい。
瀬戸内地域活性化政策	その2	時間があるときにいつでもできる点
瀬戸内地域活性化政策	その2	自分の好きな時間に学習できる点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	自分の都合のいい時間に学習できること
瀬戸内地域活性化政策	その2	どの時間帯でも受講が可能である
瀬戸内地域活性化政策	その2	履修上限に関係なく登録することができる点。 自分の好きな時間に授業を受けることができる点。
瀬戸内海論	その1	自分のペースで受講できる点
瀬戸内海論	その1	好きな時間に視聴できる
瀬戸内海論	その1	自分のペースで進めることができる点
瀬戸内海論	その1	自分の好きなタイミング、体調など都合の良い時間に講義を受講することができる点。

瀬戸内海論	その1	自宅で受けられること。
瀬戸内海論	その1	自分の都合に合わせて受けることができる
瀬戸内海論	その1	自分の空いている時間に進められる点
瀬戸内海論	その1	自分の学習ペースで進められる点。
瀬戸内海論	その1	自分の好きな時に学習できる。
瀬戸内海論	その1	自分のペースで進められる点
瀬戸内海論	その1	自分の好きな時間に来れる
瀬戸内海論	その1	自分の好きなときに講義を受けられる点。
瀬戸内海論	その2	自分の空いた時間にできるところ
瀬戸内海論	その2	他大学の授業を自分の都合の付く時に受けることができる点。
瀬戸内海論	その2	自分のすきなときにできる
瀬戸内海論	その2	自分のペースで学習を進められる点。
瀬戸内海論	その2	聞いていなかったところを、もう一度聞き直すことができる点。
瀬戸内海論	その2	自分のペースで空いた時間に進めることができる点。
瀬戸内海論	その2	平日だけでなく、土日の空き時間にも学習ができる。学校だけでなく自宅でもできる。
瀬戸内海論	その2	空き時間を有効に活用できる。
瀬戸内海論	その2	自分の空き時間に講座を受けられる点。
瀬戸内海論	その2	空いている時間にできる点
瀬戸内海論	その2	自分のペースで学習を進められる点。
香川の文化と歴史	その1	好きな時間にできる点
香川の文化と歴史	その1	自分の好きな時に学習できるところ。
香川の文化と歴史	その1	巻き戻して確認できる
香川の文化と歴史	その1	何度も見直すことができる。
香川の文化と歴史	その1	都合のいい時間に学習できる
香川の文化と歴史	その1	自分の予定に合わせて学習できる点
香川の文化と歴史	その1	都合の良い時間に授業を受けられる点。
香川の文化と歴史	その1	自分の好きな時にできる
香川の文化と歴史	その1	聞きそびれたところを聞き直せること 面白いと思った講義を後からもう一度見ることができること 講義によっては、自分が普段行けないようなところ(博物館など)の様子が見れるところ。
香川の文化と歴史	その1	自分のやりたいペースで出来る点 時間や場所を制限されない点 その授業を何度も繰り返して視聴することができる点
香川の文化と歴史	その1	決められた期間内ならいつでもどこでも授業を受けられるところ。
香川の文化と歴史	その1	個人の空き時間で進められる点
香川の文化と歴史	その1	自分の好きなタイミングで、他に合わせることなく自分の歩幅で進められること。
香川の文化と歴史	その1	好きな時間に受講できる。
香川の文化と歴史	その1	自分の好きな時間に授業を受けられる点
香川の文化と歴史	その1	自宅で視聴することができる。 すでに録画された映像なので、何度も見直すことができる。 自分のペースで計画的に進められる。
香川の文化と歴史	その1	いつでも好きな時間に授業を受けられることと、映像やミュージアムの方の話など、教室でやる授業とは一風変わっていること。
香川の文化と歴史	その1	自宅でも何時でも取り組めるところ
香川の文化と歴史	その1	香川大学での学びだけでなく、連携している大学の授業を、

		香川にしながら学ぶことができる点
香川の文化と歴史	その1	博物館など実際にいけなかったところや映像の紹介をしてくれるのが楽しかった。
香川の文化と歴史	その1	自分のペースで進められる点
香川の文化と歴史	その1	いつでもどこでもできる。
香川の文化と歴史	その1	他の大学の講義を受講することができる。
香川の文化と歴史	その1	自宅でできる点
香川の文化と歴史	その1	自分のペースで学習ができる点
香川の文化と歴史	その2	休日や空きコマなどすきま時間に学習することができる
香川の文化と歴史	その2	自宅で取り組める。
香川の文化と歴史	その2	学習時間を自分で決められる
香川の文化と歴史	その2	自分の好きなときにできる。
香川の文化と歴史	その2	自分の好きな時間帯に自分の興味がある分野について学ぶことができる点
香川の文化と歴史	その2	好きな時間に視聴できる。
香川の文化と歴史	その2	自分のペースで学べる。
香川の文化と歴史	その2	自分の好きな時間に受講できる。
香川の文化と歴史	その2	いつでも受講できる点
香川の文化と歴史	その2	行く機会の得られない場所の情報が得られる。
香川の文化と歴史	その2	自分のペースで進められる点
香川の文化と歴史	その2	自分の都合に合わせたスケジュールを立てることができる点
香川の文化と歴史	その2	自分のペースで授業を進めることができる点。
香川の文化と歴史	その2	自分のやりたい時にできる点
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	土日や授業の空き時間を利用して学習が進められること。また、計画を立てて学習を進めることができ、これが効率のよい学習につながった。
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	授業の空きコマを利用して手軽に学習できるという点
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	自分の好きなペースで学習できる点 通常なら自大学では学べないことを学習できる点 もし先生の言葉が聞き取れなかった場合、少しシークバーを動かすだけでももう一度聞き取ることが可能である点
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	休日や空き時間に受けられる点。
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	好きな時間に取り組める
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	自分の好きな時に学習できる。
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	いつでも出来る点
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	一度の授業では先生の話をしっかり理解できていないところがあるが、何度も受講できることと小テストを行うことで、先生の話をつまみ食いして学習するところができる点
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	何度でも視聴できる。
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	各自空いている時間に取り組める
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	家で学習することができる点
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	自分のペースで学習を進められる点。
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	ほかの大学の先生の授業を受けることができる点。
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	聞きたいところを何度も繰り返して見ることができる
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	自分の時間の都合に合わせて受講できること。
四国の歴史と文化	その1 (歴史編)	学校外でも授業が受けられる点。
四国の歴史と文化	その2 (文化編)	何回も講義の音声が見られる点
四国の歴史と文化	その2 (文化編)	自分のペースで学習できる点
四国の歴史と文化	その2 (文化編)	パソコンがあれば自宅でも受講できる点
四国の歴史と文化	その2 (文化編)	自分のペースで学習できる
四国の歴史と文化	その2 (文化編)	自分のペースで学習を進められる点。

四国の歴史と文化 その2 (文化編)	パソコンがあれば気軽にどこにいてもできる点
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	普段受けられない授業を受けることができる点
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	家でリラックスして受講できること。
四国の自然環境と防災 その1	私は持病があり、通常の授業に支障があるのですが、eラーニングの場合自分のペースで学習できる点が良いと思う。
四国の自然環境と防災 その1	気軽に授業を受けられる点。
四国の自然環境と防災 その1	四国についてより深く知れる点
四国の自然環境と防災 その1	自分の都合が良いタイミングにビデオを視聴することができる。
四国の自然環境と防災 その1	講義を何度も復讐できる点。 対面式の講義では原則一度きりなので、聞き逃しや理解不能な点をそのまま放置してしまうことも多い。 それに対し eラーニングでは何度も視聴可能なのでそういった点を自身で克服することがより容易である。
四国の自然環境と防災 その1	どこでも学習できる点
四国の自然環境と防災 その1	自分のペースで何度も復習を行うことができる点
四国の自然環境と防災 その1	好きなタイミングで講義を受けることができるので、空いた時間の活用に役立った。
四国の自然環境と防災 その1	自分の好きな時間帯に好きなだけ時間を使って学習することができ、マイペースな私にはぴったりだと思いました。
四国の自然環境と防災 その1	岡山県に住む私が、住んでいない四国のことについて新たに深く知ることができる点です。
四国の自然環境と防災 その1	自由な時間に受講できる。(各単元での締め切りはありましたが)
四国の自然環境と防災 その1	いつでも受講できる
四国の自然環境と防災 その1	自分の時間でゆったり学習できる。
四国の自然環境と防災 その1	自分の好きな時にできること。
四国の自然環境と防災 その1	自宅でも受講できる点。
四国の自然環境と防災 その1	家で手軽にできる
四国の自然環境と防災 その1	自分のペースで受講できる。
四国の自然環境と防災 その1	自分のペースで進められる。空き時間を有効に利用することができる。
四国の自然環境と防災 その1	好きな時間にできる。
四国の自然環境と防災 その1	自分の好きな時間に学習できる。
四国の自然環境と防災 その1	他大学の教授の授業をどこでも受けられるところ。
四国の自然環境と防災 その1	好きな時間に受けられるところ。
四国の自然環境と防災 その1	自分の学習したいときに何時でも学習ができる点。繰り返し何度も学習することができる点。
四国の自然環境と防災 その1	よく理解できなかった点を見直せたり、資料と見比べて詳しく学べる点。
四国の自然環境と防災 その1	自分の好きな時間帯に学習できる点
四国の自然環境と防災 その1	授業を始めるタイミングを他人に左右されないことや、理解できるまで聞き直しが可能であることから、自分のペースで学習できる点。
四国の自然環境と防災 その1	自分の好きな時間帯に受講することができる
四国の自然環境と防災 その1	自分の都合のいいタイミングでできる。
四国の自然環境と防災 その1	隙間時間に勉強できる
四国の自然環境と防災 その1	自分の予定に合わせて講義を受けれる
四国の自然環境と防災 その1	PCと電波があればどこでもできる。
四国の自然環境と防災 その1	他大学の講義が聞けること 他の地域の話が聞ける

四国の自然環境と防災	その2	時間に余裕があるときにできるため、のびのび学習できる。
四国の自然環境と防災	その2	時間に縛られず、自分の好きな時に講義を受けられるところ
四国の自然環境と防災	その2	自分の好きな時間帯に自分のペースで学習できるところ。 また、何度も繰り返し映像を見ることができるところ。
四国の自然環境と防災	その2	ビデオ視聴だから何度も見返すことができる点
四国の自然環境と防災	その2	小テストで間違えた部分の授業映像を、繰り返し視聴することができる点。
四国の自然環境と防災	その2	自分の空き時間を有効に活用して受講できる点。
四国の自然環境と防災	その2	自分の好きな時間に学習できるところ。
四国の自然環境と防災	その2	空いた時間に授業を受けることができるところ
四国の自然環境と防災	その2	自分の空き時間を使って勉強を進められる点
四国の自然環境と防災	その2	何時でも何処でも自分の時間が確保できるときに学習を行うことができる点。
四国の自然環境と防災	その2	自分の決めた時間に取り組める点。 課題が正しく提出できたかをメール通知で確認できる点。
四国の自然環境と防災	その2	都合のいい時間に見れる
四国の自然環境と防災	その2	自分の好きなタイミングで受講できる
四国の地域振興	その1	自分のタイミングでできる
四国の地域振興	その1	自分の好きな時間にできる。
四国の地域振興	その1	自分の好きな時間に学習できる点。
四国の地域振興	その1	自分の取り組みたい時間に無理なく取り組むことのできる点、気になった言葉や知らない言葉に関してその場ですぐに調べられる点。
四国の地域振興	その1	私は持病があり、通常の授業に出席するのが大変なのですがeラーニングでは自分のペースで授業を進められるので安心して受けられる点が良いと思います。
四国の地域振興	その1	自分のタイミングで授業を受けられるところ。
四国の地域振興	その1	空いている時間にできるところ。
四国の地域振興	その1	自分の好きな時間に受講する事が出来る点。 土日に行くことで無為に時間を過ごすことを避けることが出来た。
四国の地域振興	その1	楽
四国の地域振興	その1	自分の好きな時間に受講できる。
四国の地域振興	その1	聞き逃したところは、もう一度ビデオを聞けばわかるため、ノートが取りやすい。 自分が理解するまで、時間をかけて学習することができる。 対人で質問するわけではないため、些細なことでも質問しやすい
四国の地域振興	その1	自分の時間でできる点。
四国の地域振興	その1	自分が、1番集中しているときにできる点。
四国の地域振興	その1	自宅でも受講できる点
四国の地域振興	その1	自分のペースで学習を進められる。
四国の地域振興	その1	自分のペースで進められる点。
四国の地域振興	その1	自由な時間伊受講できる。不明な点は何度でも視聴できる。
四国の地域振興	その1	自分のペースで学習できる。
四国の地域振興	その1	好きな時間に利用できる。
四国の地域振興	その1	自宅で行うことができる。
四国の地域振興	その1	いつでも空いた時間に受講できる点。
四国の地域振興	その1	時間に縛られず、自由に受講できる点。
四国の地域振興	その1	自宅ですべて興味のある授業を選ぶことができ、学べる点
四国の地域振興	その1	都合の良い時間に授業が受けられること。
四国の地域振興	その1	一週間のうちの決められた時間で行う必要がなく、自分の空

	いている時間で学習できるところ。
四国の地域振興 その1	自宅で自分の時間に合わせて勉強できる点
四国の地域振興 その1	自分で時間を作って空いている時間にできるところ。また、他の大学の講義をとれるところ。
四国の地域振興 その1	いつでもどこでも学習できる点。
四国の地域振興 その1	自分の好きな時にできること
四国の地域振興 その1	一回の授業で複数の知識が身につく
四国の地域振興 その1	どこでもできる。
四国の地域振興 その1	自宅でできる点
四国の地域振興 その1	時間を自分で調節できる。また、自宅でも学習を進められる。
四国の地域振興 その1	自分のペースで授業を理解していけること
四国の地域振興 その1	受講者の好きな時間で学習することができる。
四国の地域振興 その1	自分の予定に合わせて講義を受けれる
四国の地域振興 その1	自宅で受けられる点。
四国の地域振興 その1	自分の好きなタイミングで、学習を行える点がよかった。
四国の地域振興 その2	自分にとって都合の良い時間に受講できる点 聞き逃したり、理解ができなかったときでもシークバーによって何度でも聞き直せる点
四国の地域振興 その2	自分で計画して行えること。パソコンがあればどこでもできること。
四国の地域振興 その2	自分の都合に合わせて受講できる点
コンピュータと教育 その1	いつでもどこでも自分のペースで簡単に受講することができる点。
コンピュータと教育 その1	自分にあうスピードで学習を進められること。
コンピュータと教育 その1	自宅で視聴できる
コンピュータと教育 その1	自分の都合のいい時間に学習できる
コンピュータと教育 その1	自分のすきなときにできる
コンピュータと教育 その1	いつでも自分がしたいと思ったときにできた点。
コンピュータと教育 その1	自分の好きなペースで学習できる点。 先生の言葉を聞き逃してしまったり聞き取れなかったりした時に、シークバーを動かすだけでもう一度その言葉を聞き取ることができる点。
コンピュータと教育 その1	時間・場所を問わないところ、見直しが可能などころだと思いました。
コンピュータと教育 その1	自分のしたい時にできる
コンピュータと教育 その1	まずは、時間の自由さがあると思う。わたしの場合は夜のほうがやる気が出るため、お風呂上りなどにやるが多かった。一人一人によって、集中できる時間は違うと思う。そこに合わせることは大きな利点である。
コンピュータと教育 その1	時間がうまく使える。
コンピュータと教育 その1	学習者の都合のつく時間に学習できる点。
コンピュータと教育 その1	自宅で受講できる。
コンピュータと教育 その1	忙しくても休日などを使って自宅で学習できるところ。
コンピュータと教育 その1	時間に縛られず、自分の学習したいときに学習を行うことができる点。また、何度も繰り返し授業内容を視聴することができる点。
コンピュータと教育 その1	時間や場所に囚われない
コンピュータと教育 その1	好きなタイミング
コンピュータと教育 その1	自分の都合のいい時間に学習できる点
コンピュータと教育 その1	周りを気にしなくていいところ
コンピュータと教育 その1	いつでもどこでもできる点
コンピュータと教育 その1	自分のペースで学習を進めることができる。

コンピュータと教育 その1	何度も視聴が出来るため、一度聞きそびれた部分などを再び聴くことが出来る場所。
コンピュータと教育 その1	繰り返し視聴できる。教員の声や文字がはっきりとわかる。時間や場所に制約されない。
コンピュータと教育 その1	自宅で受けられること
コンピュータと教育 その1	自分で受講時間を基本的には調整できるため、あまりこれ以外の学習に対する時間の圧迫は感じなかったこと。また教師に対して質問ができるとはいえ、自学の占めるウエイトが大きいため、自分で調べるなどして学習を深めやすいこと。
コンピュータと教育 その1	自分でできる
コンピュータと教育 その1	自分のペースで好きな時間に学習できる点
コンピュータと教育 その1	自由に受けられる。
コンピュータと教育 その1	家でできる 用ができた時に中断できる
コンピュータと教育 その1	好きな時にできる
コンピュータと教育 その2	自分のペースで進められる
コンピュータと教育 その2	自分の評点がすぐにわかる点。 先先に進めて単位をとれる点。
コンピュータと教育 その2	自分のペースで進められるところ。
コンピュータと教育 その2	土日にできる
コンピュータと教育 その2	自分の都合のいい時にできる点
コンピュータと教育 その2	時間を気にしないこと。
コンピュータと教育 その2	家でできる場所。自分の集中できる時間帯にできるので、寝ることもない。また、途中で中断ができる。
コンピュータと教育 その2	家でも取り組むことができるので、休みの日でも気軽に取り組める。
コンピュータと教育 その2	家でリラックスして受講できること
コンピュータと教育 その2	自分の好きな時間帯に授業を受けられる
タンパク質で生命を斬る	自分のペースで空いているときに学習できる点。
タンパク質で生命を斬る	自分のペースで、自分のやる気次第で授業の質を高められること。
タンパク質で生命を斬る	授業をたくさんとっていても、空き時間があればいつでも学習できる点。
タンパク質で生命を斬る	いつでも好きなときに学習できる。
タンパク質で生命を斬る	自分のタイミングで勉強を進めることができるので、モチベーションが上がっているときに行くと、自分の気分的にも楽しく、集中できて効率的に学べる。 朝が苦手なので、夜の、頭がすっきりしている時間帯に行えるとはかどる。
タンパク質で生命を斬る	好きな時に授業を受けられる。
タンパク質で生命を斬る	空いた時間にできること。内容が面白い。
タンパク質で生命を斬る	受講時間に融通が利く点。
タンパク質で生命を斬る	e ラーニングの種類が豊富なので自分の学びたい項目を選べること。
タンパク質で生命を斬る	自分のペースでできる。
タンパク質で生命を斬る	家でできること
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	自分の好きな時間帯に好きな場所で学習に取り組むことができる点。自分の専門分野ではないが、興味のある科目について、気兼ねなく受講することができる点。重要だと感じたところは繰り返し視聴できたり、止めたりすることができる点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の	自分の好きなタイミングで授業を受けられる点

関わり	
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	何度も見返しができる点 関連する情報をすぐに検索できる点
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	時間がある時にいつでも学修ができる点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	自宅で時間を問わず行うことができる点
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	授業で聞き逃したところや、もう一度聞きたいところを再生することができる点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	休日等自分に合わせた受講ができる点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	教室で座学を受ける煩わしさから解放される点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	授業を何度も見返すことができる点
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	自分のタイミングで授業を受けれる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	普段では授業を受けることのできない先生の話聞くことが出来る。 学業以外で忙しい学生がスムーズに単位を取得することが出来る。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の空いた時間を利用して取り組むことができる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	都合のいい時間にまとめて学習できる点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自身で時間を見つけて講義に取り組める点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	講義を受講するのに時間と場所に制限されにくい点。他大学の教授の講義を受けれる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画内で様々な先生の授業を視聴することができる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自宅で授業を受けれる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースでできる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	様々な科目を好きな時間で学べ得る。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	繰り返し学習できること
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	どこでも自分の空き時間に授業を受けることが出来る
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のスケジュールに合わせて学習を進めることができること。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の空いた時間で学習できる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	学校に行かなくても授業ができるという点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	時間が決まっていないこと
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	好きな時間に（特に空きコマに）講義を受講できる点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースで受講が進められる点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のやりたいときにやりたい場所で、学ぶことができる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	時間のあるときに進められる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の好きな時間に受けることができ、融通が利く点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースに合わせて学習できる点。 よく分からなかった時も再度見直すことができる点。 興味がある分野に関してチャレンジしやすい点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	巻き戻しや停止ができる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	いつでもどこでも受けられる。 cap 制に縛られない。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の都合に合わせて学習できる点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースで学べる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	いつ受講するかを自分で決められる点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の好きな時間に学習できるので効率よく進められる点。

大学生のための『安全・安心』の基礎講座	効率よく単位が取れる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	好きな時間に学習できる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	いろいろな大学の教授の講義を画面越しだけど受けることができる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	簡単にいつでも受けることができるたとてもよかったです。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースで進行できる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	気になるところや考えたいところは動画を止めながらじっくり学習ができる点が良いと思った。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分で見つけた空き時間を利用して学習を進めることができた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の好きな時間帯に好きなだけ学習できることが良いと思います。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	いつでもどこでも受講することができる点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	興味のある分野を時間をかけてじっくりと学べる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースで進められる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の好きなタイミングで受講することができる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の予定に合わせて受講できる点。 他大学の教授の話が聞ける点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の都合のよい時間に学習できる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の好きな時間で、自分のペースで学習を進められること
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	やはり自分のペースで受けられるのは良いです。内容も良い者が揃っていると思うので、積極的に活用したいです。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分で時間のよいときに行える。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	受講者の都合の良いタイミングで受講することができ、自分から調べ学ぼうとする意欲が湧く点。また何度も講義を視聴することができる点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	好きな時間に好きな場所で学べる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	他の大学の講義が受講できること
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分の好きな時間に好きなだけ進めることができること。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	何回でもビデオを観て、授業の確認をできる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	低血圧で朝起きてても体調を崩しやすい人にとって時間を選んで講義を受けれるところです
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分で好きなタイミングで出来るところ
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	聞き逃した部分をもう一度確認できる。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	所属している大学が専門としていないものまで受けることができる。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	自分のペースで進められる。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	学校に行かなくていい
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	都合の良い時に時間を融通できる
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	自分の都合に合わせて学習ができる点
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	漫然と過ごしてしまいがちなスキマ時間を有効に活用できる点
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	何度も繰り返し見ることが出来、聞き逃しても安心であること。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	家から移動しなくてよい。 繰り返し見直しができる。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	空いている時間に授業を受けることができる。

作物生産	
飛行機はなぜ飛ぶのか	自分の好きな時間に受けれるところ
飛行機はなぜ飛ぶのか	自分の都合の良い時間に課題を進めることができる点。
飛行機はなぜ飛ぶのか	聞き逃した部分をさかのぼって聞くことができる
サイエンスリテラシーの化学	他大学の面白そうな授業を自宅で受けることができる
サイエンスリテラシーの化学	確認テストがある点。
気象学入門	いつでもどこでも授業を受けることができる
気象学入門	自分の好きな時間に学習することができる。自分の大学で学べない分野が学べる。映像を見返すことができる。
気象学入門	空いた時間に授業が受けれる。 何回も見直すことができる。
気象学入門	自分のペースで進める事ができる。また、自宅で授業を受けることができる。
気象学入門	自宅で学習できる
気象学入門	空いた時間で進めることができる。
気象学入門	空き時間に勉強ができるところ
気象学入門	空きコマを利用できる点。
気象学入門	他の大学で開催されている講義であっても興味がある講義であれば受けることができる点
気象学入門	自分の好きな時間に行える。
気象学入門	時間や場所が制限されることなく自分の好きな時に受けることができる
気象学入門	好きな時間に受講できる
気象学入門	聞き逃しがなく、何度も視聴できる。
気象学入門	自身のペースに合わせて受講できる点 理解しにくくても何度も繰り返して聴講できる点
気象学入門	他大学の授業を受講できる。
気象学入門	決まった時間に強制されることがなく、自由な時間で課題をすることが出来た。
気象学入門	自分のペースで進められるため、わからないところを何度も聞き直したり、一時停止して検索できる。
気象学入門	自身で受けた日時、時間帯に受けられるところ。また、遠方から大学へ通う者にとって、自宅から出ることなく講義を受けられるのは時間、交通費ともに大変好適であった。
気象学入門	ネット環境さえあればどこでも受講できる点。
気象学入門	空いた時間を有効に使える。一回では聞き取れなかったり理解できなかったところも繰り返し見ることができるため解決しやすい。
気象学入門	自分の好きな時間にできる
気象学入門	何度でも聞き直せる
気象学入門	いつでも授業が受けられることやわからないことがあれば巻き戻しできるところ。
気象学入門	ネットがあればどこでもできる点。
気象学入門	学校の授業と重なることがないため、学校での課題が多いときや、授業が密な時などに合わせて学習形態を変えることができる。
気象学入門	時間を気にせずできること。
気象学入門	自分で好きな時に好きな量講義を受けることができる。大学に通学しづらい人にも優しい。
気象学入門	授業1コマ90分を何度かに分割できるので、スキマ時間にも学習が進められる。わかりにくい箇所は何度も授業を受けなおせる。

	<p>一方で授業を受けなおすことは時間の大きなロスにもなるので「受けなおせるから適当に授業を受けよう」という気持ちにはなりにくい。集中力が損なわれるようなことはない。授業時限・曜日が定まっていないので時間のある時に受けられる。</p> <p>大学までの移動時間が必要ない。私は自宅から大学が遠いので非常に助かっている。</p>
気象学入門	自分の好きな時に受講できる 何回でも講義を聞くことができる
気象学入門	いつでもできる
有機化学概論	自宅で作れる
海洋基礎生態学	自由な時間に学習できるため、自分の予定に合わせて学習しやすい
海洋基礎生態学	時間に融通が聞く
海洋基礎生態学	自分の体調や時間などを選択して、授業を受けることができること。
海洋基礎生態学	自分の都合に合わせられる
海洋基礎生態学	重要な部分を繰り返し見られるところ。
海洋基礎生態学	空いた時間にできる点。家でできる点。
海洋基礎生態学	分からなくなった時に何度も見返すことができる点。
海洋基礎生態学	自宅で作れる
海洋基礎生態学	自分の予定に合わせて好きな時に授業を受けられるという点。
海洋基礎生態学	自分の好きな時間にできる、何度でも見れる
海洋基礎生態学	何度でも、講義を聞くことができるという点。
海洋基礎生態学	ネット環境があれば自分の好きなタイミングで受講でき、何回でも同じ講義を聴き直せるところ
海洋基礎生態学	分からないところは何度でも視聴することができる。ノートをとりたいときに動画を止めることができる。自分のペースで受講ができる。
海洋基礎生態学	自分のペースで受講できる
海洋基礎生態学	他大学の授業を受講することができる点。また、締め切りはあるが好きな時間に受講できる点。
海洋基礎生態学	学校に行かなくても勉強できる環境がある
海洋基礎生態学	どこでもできる。
海洋基礎生態学	解説を何度も聞き直せる点。
海洋基礎生態学	自分の空き時間に授業を受けられる点
海洋基礎生態学	何度も見直せる
海洋基礎生態学	自分の好きな時間でできる
海洋基礎生態学	本来受けることのできない遠方の授業を受けることができる。自由に受けられるので、プライベートの予定を入れやすくなる。
海洋基礎生態学	気兼ねなく受講できる点
海洋基礎生態学	何回でも見直せる点
海洋基礎生態学	何度でも聞き直したり、一時停止して検索したりと、自分のペースで学べる。

問 13. e ラーニングで提供される授業で難しいと思う点をお書きください。(「なし」等の回答は削除)

知の探訪	提出の期間が短いため大変。
知の探訪	内容に対しての質問ができてにくい点。
知の探訪	レポートの文字数が多い
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	登録方法がよくわかりませんでした
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	スケジュールを管理すること。
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	いつでもできると思って怠けてしまうところ
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	質問しづらい
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	いつでもできると思い後回しになってしまう。
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	計画通りに自ら進める点
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	授業が臨機応変に生徒に対応できない。
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	受けるのを忘れてたり、忙しくなると受ける時間が無くなる
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	レポートが毎回あるのが難点でした。
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	全ての授業を、完璧に最初に立てた学習計画通りに受けることができるというわけではなく、その都度、スケジュールを合わせなければならない点。
現代科学と研究倫理	時に、PDF が配布されず、かつ授業映像がぼやけており、文字が読めない時があったので、PDF を配布するようにするか、カメラのピントををモニタに合わせてほしい事がありました。
現代科学と研究倫理	先生に質問することができない点
現代科学と研究倫理	先生に質問ができないこと
現代科学と研究倫理	テスト期間など、他の授業の提出物が多かったり、テスト勉強をしなければならないときは大変だった。
現代科学と研究倫理	自宅にネット環境がない場合、行う場所が限られる。
現代科学と研究倫理	モチベーションが保ちにくい点。
現代科学と研究倫理	自分から進んで行わなければならない。
現代科学と研究倫理	自分自身を律すること
現代科学と研究倫理	授業によっては、表示される動画のサイズが小さいために、授業のスライドが見にくいときがあった。
大学の知の活用	自分で進めるという意識がないと続かない。 動画のみの資料の場合、スライドの文字が小さくて見にくいことがあった。
大学の知の活用	画質が悪く、小さい文字だと読めない場合がある。
大学の知の活用	質問したいときにしづらかなと思った。
大学の知の活用	パソコンの調子が悪いと予定通りに進まなくなる点
大学の知の活用	たまに動画で出てきていない内容があるとき。時々専門的な内容の講義があり、戸惑うこともあった。
大学の知の活用	理系のお話
大学の知の活用	授業の締め切りなどを常に気にしていなければならない点。
大学の知の活用	操作で解らないことがあってもすぐに誰かに聞くことができないこと
大学教育を考える	自分で空いた時間を見つけて取り組まないと、だらけてしまう点。

大学教育を考える	自身で受講のスケジュール管理をする点。
大学教育を考える	締め切りギリギリだと返信してくれない。
大学教育を考える	画像荒い時がある点。
大学教育を考える	即座に質問できない点。
大学教育を考える	少しずつ受けること
行動統計学入門	パソコンの操作が必要。
行動統計学入門	分からないことがあっても質問がしにくい 教員からのフィードバックが得られにくい
行動統計学入門	分からなくても質問ができない。
行動統計学入門	サーバーに問題が発生すると課題ができない。まして土日だとサポート室も休みなので対応してもらえない。 いつサーバーがダウンするかわからないし、自分のパソコンに問題があるのか、サーバーに問題があるかわからないので、毎週毎週精神的に苦痛であった。 受験回数があるとWi-Fi環境下での拘束時間を気にしないといけなくて、まとまった時間が必要になり、深夜などにしないといけなくなる。 問題にミスなどが多すぎて信用度が低い。そのためモチベーションが下がる。 受講生の理解度に対するフォローができていない。 自分だけがわかっていないのかわからない。他に受講者がどれくらいいるのかわからない。 徳島大学のLmsの入り口が2016年度のものばかり出てきて困った。 動画がみれないときはのページなどのリンクも2016年度のところに飛ばされて役にたたなかった。 パソコン周辺環境を整えたにもかかわらず、動画がカクカクして集中できなかった。
阿波学	実技的な内容の授業。 先生への質問。
阿波学	質問をリアルタイムですることができない点
阿波学	eラーニングで受講している生徒への課題に関する説明が不十分である点
自動車概論	ログインできなかった時などにどう対応するかなど
自動車概論	自分で学習計画を立てないためやすい
自動車概論	先生に直接質問をすることができない点。 学生間で気軽に話し合うことができない点。
自動車概論	教員、友人などに質問が少ししにくい点
自動車概論	質疑応答がしづらい点
自動車概論	授業を聴講して質問があった場合に、すぐに聞くことができない点。
情報のいろは	この授業ではありませんでした。
情報のいろは	毎週の課題提出が困難であった。
情報のいろは	生徒間の意見交換。(20の扉での実際体験)
情報のいろは	非同期の授業なので細かな質問がしづらく、授業内容が難しい場合にはそれが致命的。
情報のいろは	ときどき動画が止まったり急にとんだりする
情報のいろは	質問がしにくい点。
情報のいろは	生授業より質問などはしにくかった。
情報のいろは	質問がある時に尋ねにくいところ
情報のいろは	期限を忘れてしまう
情報のいろは	パソコンで打たないといけなくて

情報のいろは	試しに授業を見に行くなどができないので、当初想定していた内容と差があっても選考後のためやめると申し訳ないと感じる
情報のいろは	分かりにくいと思ったところは何回見直しても分からない。
情報のいろは	質問がしにくい。
情報のいろは	インターネットのアクセスが悪い時があった。
情報のいろは	専門的な内容
情報のいろは	提出期限をわすれて気がついたら過ぎてしまう。
地域コンテンツと知財管理 その1	締め切りが厳しい
地域コンテンツと知財管理 その1	授業の進度が速くなりがちである点
地域コンテンツと知財管理 その1	少し気になる箇所や先生に聞いてみたいこと等、容易に質問しにくいところ。
地域コンテンツと知財管理 その2	動画について、自分は耳が聞こえるので問題はありませんでした。聴覚障害の方は聞き取るのが難しいと思います。e-ラーニングを受けやすくするために、動画に字幕入りのものがあればよいのではないかと思います。
地域コンテンツと知財管理 その2	パソコンが落ちてしまうとかなり危険。小テストの時など。
地域コンテンツと知財管理 その2	締め切りを把握していないとうっかり忘れてしまいそうになる点。大学のGmailなどで通知してもらえればありがたい。
香川を学ぶ その1	要点が分からない
香川を学ぶ その1	実際の講義を撮影しeラーニングとして利用している講義などもあり、音質や画質の問題で満足に講義を受けられなかったことがある。
香川を学ぶ その1	継続。
香川を学ぶ その1	分からない点を質問することができない。
香川を学ぶ その1	質問ができない
香川を学ぶ その1	自分のタイミングでできる分、後回しになる傾向もある
香川を学ぶ その1	電波が悪いとビデオ視聴できない点
香川を学ぶ その1	自分が興味を持ったことについての質問を直接聞くことが出来ない点。
香川を学ぶ その1	分からないことがあっても直接質問することができない。
香川を学ぶ その1	完璧に予定通りに進めることは難しかった
香川を学ぶ その1	動画の画像が荒れたり、声が聞こえにくくてもどうすることも出来ない点。
香川を学ぶ その2	先生によって、内容のわかりやすさが違う点。
香川を学ぶ その2	映像では理解しづらいことがある
香川を学ぶ その2	映像が乱れることがある点。
香川を学ぶ その2	強制力は弱くなってしまふと感じる。 これにより、対面の授業より受講者間の取り組み方の差が大きくなると感じる。
香川を学ぶ その2	地域産業が細かい分野だった点。
香川を学ぶ その2	締め切りを忘れる。
香川を学ぶ その2	うっかり締め切りを忘れてしまうことがある。
香川を学ぶ その2	予定通りにいかなかった時にリズムが崩れてやるのを忘れる。
香川を学ぶ その2	操作
瀬戸内地域活性化政策 その1	パソコンに打つことだ。打つことに時間がかかってしまう。
瀬戸内地域活性化政策 その1	質問ができない。
瀬戸内地域活性化政策 その1	その授業が行われている大学生を対象としているがゆえの予備知識・経験量のギャップ
瀬戸内地域活性化政策 その1	授業内の動画が見れなかった
瀬戸内地域活性化政策 その1	忙しい週で時間が取れなかったときに困る。

瀬戸内地域活性化政策	その1	期限を超えてしまうことがある
瀬戸内地域活性化政策	その1	1人ですのため、自分で少し疑問に思った点があってもすぐに相談する相手が周りにいないところ
瀬戸内地域活性化政策	その1	スマートフォンでは受講できない点。 自分のペースで進めていくスタイルであるため締め切りなどをついつい忘れてしまいがちになってしまう点。
瀬戸内地域活性化政策	その1	聞き取りにくいところがある。
瀬戸内地域活性化政策	その1	聞いたことは大体は理解できているが実際にそのことについて質問をされるとすぐには答えられない
瀬戸内地域活性化政策	その1	個人意欲性に左右される点。
瀬戸内地域活性化政策	その1	集中力を持続する点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	レポート課題の内容が細かい点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	きちんとスケジュール管理ができていないと、後々大変である点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	生徒自身の意識に大きく左右される点
瀬戸内地域活性化政策	その2	学習を計画通りに進める点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	グループワークなどが無いため、客観的な視点で物事を考えることが難しいと思う。
瀬戸内地域活性化政策	その2	動画が時々最初に戻る点 同じ授業を受けている生徒と意見交換がしづらい どのような機能があるのかが分からないので、自分がどこまで情報を知れているのかが分からない。
瀬戸内海論	その1	画質が悪いとき授業が分からなくなる点
瀬戸内海論	その1	内容が専門的すぎるときがあった
瀬戸内海論	その1	予定が詰まってくるとついつい後回しにしてしまい締切に追われる点
瀬戸内海論	その1	興味の湧く授業が少ないこと。
瀬戸内海論	その1	専門的知識が難しい点
瀬戸内海論	その1	スクリーンを映した際、映りが悪くて先生の指しているものが見えない時がある点。
瀬戸内海論	その1	学習を後回しにしてしまうこともある。
瀬戸内海論	その1	自分が受け損ねたら補習がない点
瀬戸内海論	その1	他の生徒との関わりが薄くなる場所。
瀬戸内海論	その2	スライドのどこを説明しているか詳しくわからなかったこと。
瀬戸内海論	その2	計画通りに進めるのが難しい
瀬戸内海論	その2	質問等、講師とのコミュニケーションが取りにくい点。
瀬戸内海論	その2	質問をすぐにできない点。
瀬戸内海論	その2	その場で質問できないため講義理解が遅れる場合がある。
瀬戸内海論	その2	先生への質問が難しい。
瀬戸内海論	その2	講座を受けるのを忘れてしまう時がある。
瀬戸内海論	その2	意見の共有をすること。
香川の文化と歴史	その1	環境が整っていないとできない点
香川の文化と歴史	その1	資料が講義と同時に見ることができない。
香川の文化と歴史	その1	リアルタイムで質問できない
香川の文化と歴史	その1	締め切りの管理を誰も言ってくれないため、自分で進めていかななくてはならない。
香川の文化と歴史	その1	ハンドアウトを自分で印刷する
香川の文化と歴史	その1	分からないことを先生に聞くことができない点
香川の文化と歴史	その1	計画にそって授業を進めること。
香川の文化と歴史	その1	質疑応答が難しい
香川の文化と歴史	その1	授業を後回しにしがち点

香川の文化と歴史	その1	専門的な内容のとき理解するのが難しい点
香川の文化と歴史	その1	質問がしにくい。
香川の文化と歴史	その1	講師の方とのコミュニケーションがとりにくい
香川の文化と歴史	その1	質問をしにくい。
香川の文化と歴史	その1	進めたいときに授業が公開になっていないとき
香川の文化と歴史	その1	画面を通しての授業なので、先生の意図がなかなかみ取れない授業もあり、理解するまでに少し時間が掛かってしまうこともある点
香川の文化と歴史	その1	講義資料が読みづらいものがあった。
香川の文化と歴史	その1	回線が悪いと視聴できなくなる点
香川の文化と歴史	その1	電波が悪く、説明がきちんとすべてははっきりと聞き取れない。パスワードを忘れていたので、家のPCのみしかできなかった。
香川の文化と歴史	その1	すぐに質問できない点
香川の文化と歴史	その1	自分のペースで学習ができるからこそ、計画をたてて学習しないといけないところ。
香川の文化と歴史	その2	計画的にやらないと後からしんどくなる
香川の文化と歴史	その2	小テストの細かい表現の違いを認識されない。「」をつけていりなど。
香川の文化と歴史	その2	時間が決められていないため、忘れてしまうことがある
香川の文化と歴史	その2	締め切りを忘れてしまう。
香川の文化と歴史	その2	締め切りをどこかに書いておかないと忘れてしまうことがある点
香川の文化と歴史	その2	授業時間が不規則なため取り組むタイミングが難しい。家でビデオが止まることがあったり、学校のPCルームがあいてない時が多々あるので受講しづらかった。
香川の文化と歴史	その2	質問がしにくい。
香川の文化と歴史	その2	長い授業の時、テストの点を取る事が難しくなる。
香川の文化と歴史	その2	課題はきちんとやっても、機械の不具合があった場合にどうしたらいいかわからなくなる。
香川の文化と歴史	その2	複雑な説明があると理解しにくいこと
香川の文化と歴史	その2	自分で計画的にやらなければならない点
香川の文化と歴史	その2	締め切りをしっかりと守る点
香川の文化と歴史	その2	疑問点が出てきたときに質問しづらい点。
香川の文化と歴史	その2	コンテンツが多い時がある点
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	先生の脱線話が聞けないこと。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	映像授業だと臨場感がないため、話が飛躍した時や、口頭での説明のみの時に理解に苦労するためレジュメがわかりやすくまとめられていないと途中でついていけなくなると思った。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	時間や場所が制限されていないので「まだ大丈夫だろう」と講義の視聴や課題提出が後回しになってしまう点
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	休む時間が減ってしまう。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	集中力が続かない
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	小テストの締め切り期間が途中から変わっていて混乱した。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	締め切りがないといつまでも学習しないままなところ
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	平日の放課後や夜などに行う場合、ほとんど動きが遅くなっていたのでもう少し改善していただけたらと思う。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	途中でビデオが止まったりする。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	分からないところをすぐに質問できない
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	提出方法が授業ごとに違う点
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	質問等がしづらい点。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	質問ができない点。

四国の歴史と文化	その1(歴史編)	聞き取りにくいところは何度聞いてもわかりにくかった
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	生協で買ったパソコンだと音声クリアに聞こえないこと。
四国の歴史と文化	その1(歴史編)	スマートフォンで受講出来ない点。
四国の歴史と文化	その2(文化編)	締め切りを意識しておかないと受けられなくなる。記述式の回答でややこしいところが多い
四国の歴史と文化	その2(文化編)	集中力が長く続かない点
四国の歴史と文化	その2(文化編)	予定が変更になると立て直しにくい
四国の歴史と文化	その2(文化編)	質問等、先生とのコミュニケーションが難しい点。
四国の歴史と文化	その2(文化編)	わからない部分そのままになってしまう点
四国の歴史と文化	その2(文化編)	すぐには質問できない点
四国の歴史と文化	その2(文化編)	動画の音割れがひどかったら聞き取るのにすごく苦勞すること。
四国の自然環境と防災	その1	勉強のモチベーション維持が大変である点。
四国の自然環境と防災	その1	見れる環境が必要という点
四国の自然環境と防災	その1	直接教授との対話ができない。
四国の自然環境と防災	その1	教員によっては声が小さく、しかしその点を指摘することができない点。
四国の自然環境と防災	その1	最終レポートの提出方法がわかりにくかった
四国の自然環境と防災	その1	映像授業で動画のスピード調整が行えない点。
四国の自然環境と防災	その1	対面式ではないため、疑問の解消が難しく感じた。
四国の自然環境と防災	その1	質問がその場でできない。
四国の自然環境と防災	その1	時間帯が強制されないため怠けてしまう
四国の自然環境と防災	その1	忘れてしまうことがある。
四国の自然環境と防災	その1	自宅で再生したとき、動画がある点。
四国の自然環境と防災	その1	気軽な質問ができない。
四国の自然環境と防災	その1	プレゼンや発表等の自己表現すること。
四国の自然環境と防災	その1	計画的にしないと締め切りに追われてしまう。
四国の自然環境と防災	その1	モチベーションを保つのが難しい。
四国の自然環境と防災	その1	すぐに質問して回答が来ないところ。
四国の自然環境と防災	その1	質問等があったときに、即座に解決することが難しい点。
四国の自然環境と防災	その1	教員と学生のコミュニケーション
四国の自然環境と防災	その1	わからないことを解決すること
四国の自然環境と防災	その1	聞き取りにくかった発言や聞き逃したところに正確に戻ることはできず、最初から再生し直さなければならなかった点。
四国の自然環境と防災	その1	対面式講義とは違い、出欠確認等がないため、継続して受講することができなくなってしまう可能性がある
四国の自然環境と防災	その1	授業をとっていることを忘れる
四国の自然環境と防災	その1	操作が難しい
四国の自然環境と防災	その1	講義内容について質問できる人がいない
四国の自然環境と防災	その1	提出期限を見落としがちな点
四国の自然環境と防災	その1	意識していないと授業を受けることを忘れそうになること 自分次第で受ける受けないになるため、進行の段取りがとり にくかった
四国の自然環境と防災	その2	課題の提出などを忘れてしまう。
四国の自然環境と防災	その2	授業で説明されていることをもう少し深く聞きたいときに、 気軽に質問しづらいところ
四国の自然環境と防災	その2	自宅などで、最初から最後まで集中して動画を見ること
四国の自然環境と防災	その2	パソコン操作
四国の自然環境と防災	その2	映像授業だと一つの回の映像の合計が90分を超えるものも少なくなく、1授業の空きコマの時間では終わらせることができないのが少し不便に感じた。
四国の自然環境と防災	その2	締め切り前になると、動画を視聴しにくい点。

四国の自然環境と防災 その2	理解できなかった場合、直接教員に尋ねるのが困難であるところ
四国の自然環境と防災 その2	直接面会しながら行う講義ではないため、質問事項があるときにすぐ回答を頂くことが難しい点。
四国の自然環境と防災 その2	小テストや課題の提出期限を定期的にログインして確かめる必要がある点。
四国の自然環境と防災 その2	授業の存在を忘れる
四国の自然環境と防災 その2	忘れてしまったりと、計画が途切れると戻すことが難しい
四国の地域振興 その1	すぐにわからないことをきけない
四国の地域振興 その1	講義を撮影した動画で聞きとりにくい箇所がいくつかあった。
四国の地域振興 その1	簡単に質問ができない点。
四国の地域振興 その1	疑問点について直接講師に質問することができない点、不具合などがあった場合平等な学習が出来ない点、タイムラグがある点。
四国の地域振興 その1	すべて自分のタイミングなので、逆に出し忘れなどの可能性があるところ。
四国の地域振興 その1	キーボードを使って記入するところ。
四国の地域振興 その1	ビデオ視聴が必要なため Wi-Fi 環境下出ないと受けにくい点
四国の地域振興 その1	質問するのが手間
四国の地域振興 その1	自分で考えてやらないと出席の授業に比べて強制力がないため、難しい。
四国の地域振興 その1	シラバスだけでは、どのような課題・授業の形式なのかがよくわからなかった。
四国の地域振興 その1	生徒の反応がない授業なので次々と進んでいく点。
四国の地域振興 その1	普通の授業より長くなってしまいう点。
四国の地域振興 その1	受講の計画を自分自身で立てなければならない点
四国の地域振興 その1	わからない点があっても、すぐには聞けない。授業の動画を視聴する形式の場合、何を言っているか聞き取れないときが何度かある。
四国の地域振興 その1	対面の講義ではないので分かりづらかったところを聞けない点。
四国の地域振興 その1	講義内容が数年前のものである為、データ等が古い。
四国の地域振興 その1	資料が手元にないため、きちんと聞き取らなければならない。実際の授業の映像などでは、雑音が多く、聞き取りづらい。
四国の地域振興 その1	質問しにくい。
四国の地域振興 その1	動画の画質や音声が悪いことがある。
四国の地域振興 その1	パソコンを使う点。
四国の地域振興 その1	インターネットがつながるところやパソコンがある場所でしか受講できない点。
四国の地域振興 その1	難しいと思うことは一切無かった。
四国の地域振興 その1	ご年配の方の話は音声が悪いと聞き取るのが難しいこと。
四国の地域振興 その1	視聴する時間帯によって動画の乱れが激しくなったりする点
四国の地域振興 その1	新しい形式で出されたものは文面だけでは理解しにくいところがあった。
四国の地域振興 その1	学習時間などが定まっていないので、計画を立てて取り組んでも、その他の予定でゆとりを持って取り組むことができないことがある。また、長時間の動画学習は集中力に欠ける場合があった。
四国の地域振興 その1	操作上のわからないことをすぐにきけないこと
四国の地域振興 その1	質問がその場でできない。分からずじまい。
四国の地域振興 その1	質問が容易にできない。

四国の地域振興 その1	音声聞き取りにくいことがある点
四国の地域振興 その1	自力で取り掛からなくてはならない所。強制力が授業形式に比べ、小さい。
四国の地域振興 その1	聞き取り難い時があること
四国の地域振興 その1	動画内で、聞き慣れない単語が出てきたときや不明瞭な話し方の教員の方がいらっしゃるときに質問できない。
四国の地域振興 その1	講義内容の質問ができない
四国の地域振興 その1	講義の音が聞きにくいところがあり、その部分が十分に理解できなかった点。
四国の地域振興 その2	インターネットを介しての授業、課題提出となるため、コンテンツの記載ミスや、課題データの紛失が発生しないように管理しなくてはならない点
四国の地域振興 その2	質問があったときに、すぐに回答を得ることができない。教員との連絡がしにくい。
コンピュータと教育 その1	質問の内容が理解できないことがあった。
コンピュータと教育 その1	わからないことをすぐには質問できないところ。
コンピュータと教育 その1	忙しい時にも受講する
コンピュータと教育 その1	ハンドアウトを印刷する
コンピュータと教育 その1	分からないことがすぐに聞けないこと。
コンピュータと教育 その1	わすれることがある
コンピュータと教育 その1	質問できない点。
コンピュータと教育 その1	時間や場所が制限されていないので、講義の視聴が後回しになってしまう点
コンピュータと教育 その1	やはり教員と学生間に距離を感じました(対面授業と比較して)。友達に相談しようと思っても、その場ですぐ聞けるわけではないので回答に時間がかかってしまったりもしました。
コンピュータと教育 その1	質疑応答がしにくい
コンピュータと教育 その1	利点で挙げた自由さである。いつやっても良いためさきのばしになってしまう事も少なくない。締め切りに追われて、内容を理解にまで至っていない人も出てくるかもしれない。
コンピュータと教育 その1	資料を検索してでてこないとき。
コンピュータと教育 その1	学習者自身で予定を組んで受講しなければならない点。
コンピュータと教育 その1	締め切り間際に、焦ってやることがあった。
コンピュータと教育 その1	疑問点が発生したときに直接教員に質問する機会を設けることが難しい点。
コンピュータと教育 その1	やる気の維持やモチベーションを忘れやすい
コンピュータと教育 その1	意欲の維持
コンピュータと教育 その1	継続的に課題に取り組むこと
コンピュータと教育 その1	課題の文章の意味合いの把握
コンピュータと教育 その1	ちゃんと提出できているのか、知らないうちに期間や期限にへんこうがあったのか、など不安要素が多い点
コンピュータと教育 その1	一度課題提出の締め切りに間に合わなかった場合に、そのまま先延ばしにしてしまう可能性がある。
コンピュータと教育 その1	授業内容について、わからない時に質問がしづらいという点
コンピュータと教育 その1	話の内容が難しかった
コンピュータと教育 その1	再提出の仕方などが最初よくわからなかったこと。
コンピュータと教育 その1	想像していたよりはこちらからのインタラクティブが容易でないと感じた。
コンピュータと教育 その1	学習日程の管理
コンピュータと教育 その1	わからないところがあっても、気軽に質問ができない点
コンピュータと教育 その1	モチベーションが保ちにくい。
コンピュータと教育 その1	課題と映像を同時に移し出せないで、時間が結構かかる。

コンピュータと教育 その2	内容が専門的すぎる場合ついていけない
コンピュータと教育 その2	計画通りにやるのが難しい
コンピュータと教育 その2	質問すること
コンピュータと教育 その2	期限を忘れること
コンピュータと教育 その2	学習者が、能動的に学習しなければならないこと。何度も徹夜した。そして、先生に質問しにくいこと。
コンピュータと教育 その2	疑問点をすぐに解消できないこと。
タンパク質で生命を斬る	自分の思っていた講義と異なったときに、モチベーションの維持が難しいのではなかろうか。また、集合住宅では時間帯によって回線が混雑し、ビデオがろくに再生されない点。
タンパク質で生命を斬る	定期的に進めること。
タンパク質で生命を斬る	安定した通信環境が確保できないと、動画が正常に再生できない場合がある点。
タンパク質で生命を斬る	講師に質問しにくい。
タンパク質で生命を斬る	自分でやろうという気持ちになれない場合は、強制されている感じが少ないので、やらないまま終わってしまうかもしれない。
タンパク質で生命を斬る	テーマによって理解のしやすさが違う点
タンパク質で生命を斬る	先生によって評価基準が違う点。
タンパク質で生命を斬る	提出方法や視聴手段の説明が少ない点。
タンパク質で生命を斬る	自分の言葉で文字数制限のある中で記述すること。
タンパク質で生命を斬る	計画的に行うことが難しい。
タンパク質で生命を斬る	自立してないと進まない。 また締切が個別でなく最終締め切りしかない場合最後までやっらない人は多いと思う。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	ネット環境下にないところでは受講が困難である点。 時々、通信環境が悪く、動画をきちんと視聴できない時がある点。 操作方法が分からない時、相談しにくい点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	課題締め切りの管理をするのが難しいと思った。この授業では全部の課題が1月28日までであったが、他のeラーニングの授業を受講した際に課題ごとに締切日が違っていたので、自分の中で把握しきれず何度か課題提出が間に合わなかったことがあった。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	動画などの視聴が正常にできないことがある点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	計画的な学習
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	ところどころ映像が飛んでいて、再生しても分からないときに直接話を伺うことが難しいところ
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	操作が難しかった。また、いくつか見ることができない資料がありその点を改善してほしいと感じる。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	自己を律してスケジュール管理をする点
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	やる気がわきにくい
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	問題が発生した時、友人でも受けている人が少なく、質問もしづらい環境であること。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	ビデオの画質が悪くて、先生のスライドを見ながら音声を聞けないことがあった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	教員に質問することが手間である点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	期限の管理をしっかりする必要があること。

大学生のための『安全・安心』の基礎講座	計画的に授業を進めること。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	やる気が続かない人がある。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自己管理ができていないと 取り組めない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	他に授業を受けている友人などがおらず、自分で管理しなければいけない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画が普通の講義よりも時間の関係で省略せざるを得ないこと。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	予定を組むのが難しい。自己管理をしないといけないところ。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	直接先生に質問等ができない点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	分からないことをすぐ教員に聞くことができない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	質問があまりできない点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	ネット上での受講であるため、記録としてきちんと自分が受講やテストを受けたことになっているのか少し不安になる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分からやろうとしないと、怠けてしまう点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	質問が通常の授業と比べてやりづらい点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自己学習なので、他の学習している人と情報共有ができない (こういった風に学習しているのか、等) 簡単に学習を放棄できる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	なかなか計画通りに進めない点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	質疑応答ができない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	少しずつ受講すること
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	双方向ではないので疑問点を質問するのができない点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分で学習を進めていくところ
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	視聴しなければならぬことをしばしば忘れてしまう
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	授業内容の完全な理解。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	今回はじめてeラーニングを受けましたが、難しいと思う点は特にありませんでした。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	質問等がしにくい。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	専門的な言葉が多く出てきたとき理解するのが難しかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	難しいと思ったことがあった場合理解するのが難しかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	計画的に学習を進めることが難しいと思います。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	インターネットがうまく接続できないとき動画の視聴ができなくなりストレスだった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	スケジュール管理
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	だらけてしまう時がある
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	他大学の Moodle へのログインが難しい
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	質問などがしにくいこと
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	操作が分からなかったときに一人だと解決できない。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	最初の授業を受けるまでが分かりづらい
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分から調べ学ぼうとしないと課題が溜まってしまう点。良くも悪くも受講者の好きなタイミングでできてしまう点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	集中力が続かない。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	すぐに質問返答ができない点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	締め切りが近づかないと、やる気が出ないこと。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画が再生されなくなるのは解決方法がわからない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	問題が難しいと聞ける人がいない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	一部の科目が動画の時間がとても長かった。 ノートを書きながら見ると、90分を超えるため、大変だった。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	自分の知らない知識を知っていること前提となることがある。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	ログインが複雑。

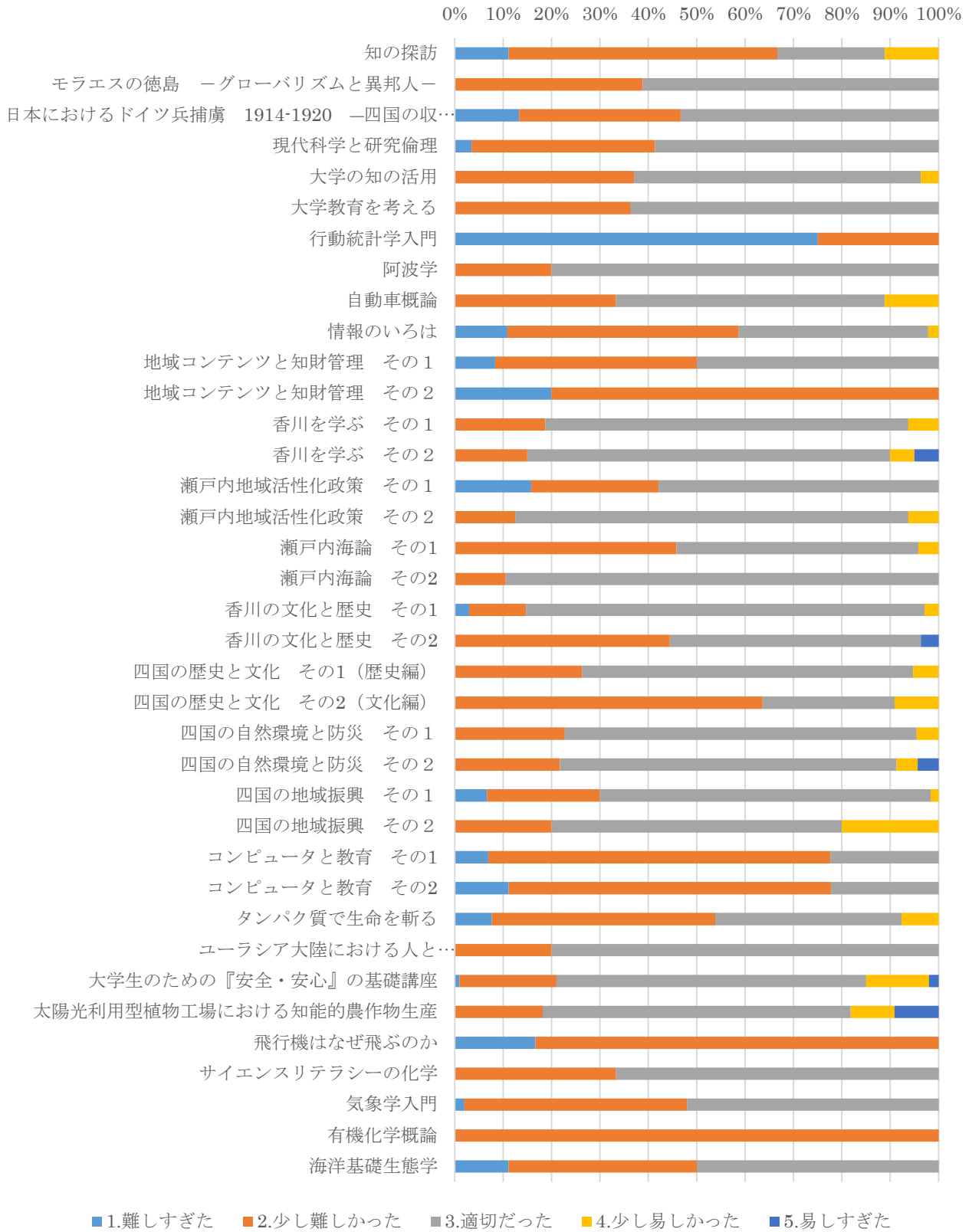
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	疑問点があるときの対応
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	授業の存在を忘れる
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	自律的な学習ができない人は後回しにしてしまいがちな点
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	自分で授業を受ける日を計画だてること。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	回線が込み合っているときに気持ちよく視聴できない。 動画がカクカクしていると聞き取れない。 パソコンがいつ急に動作が止まるかわからないのでいつも不安感を持たなければならない。 一回分の講義で動画を見て、小テストやレポートまでを一度に終わらせたくても、Wi-Fi環境下で2時間近くのとまった時間が必要であり、空きコマでは時間が足りない。 受講者側の問題もあるが、サークル活動やアルバイトなどもあるため、結局とまった時間のとれるのは深夜ということもある。
太陽光利用型植物工場における知的農作物生産	毎週決まった時間に授業を受けることが難しい。
飛行機はなぜ飛ぶのか	時間が決まっていな分後回しになりがちだった。
飛行機はなぜ飛ぶのか	操作が分からなかったとき解決するのに時間がかかる。
飛行機はなぜ飛ぶのか	それぞれの環境によるものなのかもしれないが、動画の再生がうまくいかず、映像が砂嵐状態になったり、音が飛んだりして大きなストレスを感じる場合がある。 対面の授業のように、すぐ目の前に教師陣の方がおられるわけではないので、何が疑問が生じたときに、その解決までラグが起きてしまう。
サイエンスリテラシーの化学	授業の進め方が分からなくても担当教員や他の受講者に尋ねにくい。
サイエンスリテラシーの化学	自己管理が必要な点。
気象学入門	自分でページを開いて学習しようという意欲が簡単に湧かない。締め切り間近でやってしまう。
気象学入門	教員とのコミュニケーションがメールとかになってくるのでやりづらい。
気象学入門	通常の90分授業より時間がかかることが多い
気象学入門	忙しい週も時間が余っている週も同じ量の課題をこなさないといけない。
気象学入門	質問をしにくい点。
気象学入門	直接話を聞き、その場での質問等ができない点
気象学入門	集中力を長く保つこと
気象学入門	時間や場所が制限されていない分、後回しにしてしまう部分が多い点
気象学入門	質問などリアルタイムで聞きたいことがある時に
気象学入門	質問がしにくい点 本当に理解できているのか確認できる手立てが少ない点
気象学入門	質問が聞きにくい。
気象学入門	教師との意思疎通が難しい。
気象学入門	提出期限の確認を自分でしっかりしなくてはならない。
気象学入門	他の単位を取り終わっているため自由な時間が多く、計画的に受講を進められたが、他に多くの講義を取っている者にとっては計画通り進めるのは困難なのではないかと感じる。

気象学入門	レポートの締め切りが moodle でしか確認できないため、他の授業が忙しいと moodle の確認が疎かになってしまい、締め切りを忘れやすい。
気象学入門	対面式でないため集中力が全く続かない
気象学入門	締め切りがある
気象学入門	気軽に質問できない
気象学入門	提出期限が不定期なことも多かったので勘違いが大きなダメージになるところ。
気象学入門	操作説明が不足している。
気象学入門	提出様式の画一化を行おうとしても、その情報が十分に行きわたらない可能性がある。 また、課題の含意が広すぎる場合があり、提出に困ることが多かった。
気象学入門	自分なりに理解しないといけない場合もあるので、難しい。 その場で質問できない。
気象学入門	リマインドが無いため、忘れやすい
気象学入門	些細な点（と思われるようなこと）はメールなどで質問することをためらってしまう ダウンロードした講義関連ファイルのファイル名がときどき文字化けしていた。パソコンの OS の違いの問題なのかもしれない。
気象学入門	教授への質問の際に返事までに時間がかかる
気象学入門	資料だけしか見ない人がいる
有機化学概論	通常の授業（90分）より時間がかかるときがある。
海洋基礎生態学	他学生の場合、トラブルや課題の締め切りを急に変更されるとき、直接メール等が届くこともなくこの moodle でしか通知されていなかった（通知されていたらすみません）すべての学生に連絡が回らない可能性がある点
海洋基礎生態学	映像を通すと、言葉の伝わり方が変わってしまい、間違った理解のまま進んでしまったことがあった。
海洋基礎生態学	生徒自身の自主性が問われる点。
海洋基礎生態学	日程を考えて計画的に勉強しないといけない点
海洋基礎生態学	やり方があるか時々不安で、詳しく質問したりできないこと。
海洋基礎生態学	先生に直接質問をすることが難しいという点。
海洋基礎生態学	対面ではないので集中力が切れやすい
海洋基礎生態学	リプライが遅れるため、気軽に質問ができないという点。
海洋基礎生態学	質問をしてからの返信までに時間がかかること
海洋基礎生態学	先生と生徒の意思疎通ができない。
海洋基礎生態学	説明の難易度を変えてもらうことができない
海洋基礎生態学	一回見ってしまうと満足してしまい二回目以上 e ラーニングを見ようと思わなくなってしまう
海洋基礎生態学	あきる。
海洋基礎生態学	思ったことをすぐその場で言えない
海洋基礎生態学	モチベーションの維持
海洋基礎生態学	回線の遅い場所で授業を受けようとする動画をダウンロードするのに時間がかかる。
海洋基礎生態学	小テストの時数が 200 字も書かなければいけない点
海洋基礎生態学	質問などのセッションがすぐにできない点
海洋基礎生態学	締切日を自分でしっかり確認しておかなくてはならない。

問 14. この授業の難易度は、適切でしたか？

	1. 難しすぎた	2. 少し難しかった	3. 適切だった	4. 少し易しかった	5. 易しすぎた
知の探訪	1	5	2	1	0
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	0	7	11	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 —四国の収容所を中心に—	2	5	8	0	0
現代科学と研究倫理	1	11	17	0	0
大学の知の活用	0	10	16	1	0
大学教育を考える	0	4	7	0	0
行動統計学入門	3	1	0	0	0
阿波学	0	2	8	0	0
自動車概論	0	6	10	2	0
情報のいろは	5	22	18	1	0
地域コンテンツと知財管理 その1	1	5	6	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	1	4	0	0	0
香川を学ぶ その1	0	6	24	2	0
香川を学ぶ その2	0	3	15	1	1
瀬戸内地域活性化政策 その1	3	5	11	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	0	2	13	1	0
瀬戸内海論 その1	0	11	12	1	0
瀬戸内海論 その2	0	2	17	0	0
香川の文化と歴史 その1	1	4	28	1	0
香川の文化と歴史 その2	0	12	14	0	1
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	0	5	13	1	0
四国の歴史と文化 その2（文化編）	0	7	3	1	0
四国の自然環境と防災 その1	0	10	32	2	0
四国の自然環境と防災 その2	0	5	16	1	1
四国の地域振興 その1	4	14	41	1	0
四国の地域振興 その2	0	1	3	1	0
コンピュータと教育 その1	4	41	13	0	0
コンピュータと教育 その2	3	18	6	0	0
タンパク質で生命を斬る	1	6	5	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	3	12	0	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	1	20	64	13	2
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	0	2	7	1	1
飛行機はなぜ飛ぶのか	1	5	0	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	1	2	0	0
気象学入門	1	23	26	0	0
有機化学概論	0	3	0	0	0
海洋基礎生態学	4	14	18	0	0

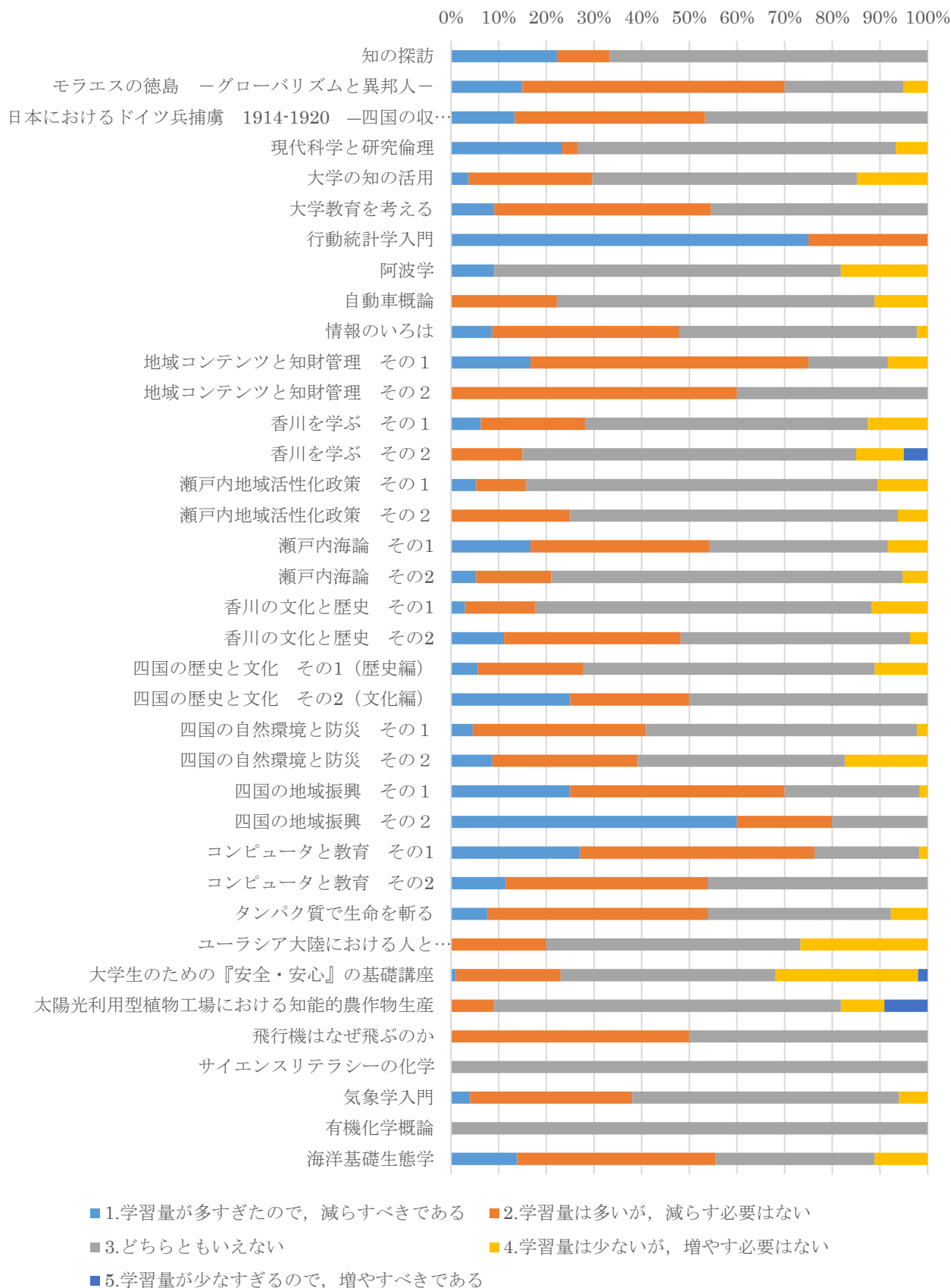
問14：難易度



問 15. この授業の学習量は、適切でしたか？

	1. 学修量が多すぎたので、減らすべきである	2. 学修量が多いが、減らす必要はない	3. どちらともいえない	4. 学修量は少ないが、増やす必要はない	5. 学修量が少なすぎるので、増やすべきである
知の探訪	2	1	6	0	0
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	3	11	5	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 —四国の収容所を中心に—	2	6	7	0	0
現代科学と研究倫理	7	1	20	2	0
大学の知の活用	1	7	15	4	0
大学教育を考える	1	5	5	0	0
行動統計学入門	3	1	0	0	0
阿波学	1	0	8	2	0
自動車概論	0	4	12	2	0
情報のいろは	4	18	23	1	0
地域コンテンツと知財管理 その1	2	7	2	1	0
地域コンテンツと知財管理 その2	0	3	2	0	0
香川を学ぶ その1	2	7	19	4	0
香川を学ぶ その2	0	3	14	2	1
瀬戸内地域活性化政策 その1	1	2	14	2	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	0	4	11	1	0
瀬戸内海論 その1	4	9	9	2	0
瀬戸内海論 その2	1	3	14	1	0
香川の文化と歴史 その1	1	5	24	4	0
香川の文化と歴史 その2	3	10	13	1	0
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	1	4	11	2	0
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	3	3	6	0	0
四国の自然環境と防災 その1	2	16	25	1	0
四国の自然環境と防災 その2	2	7	10	4	0
四国の地域振興 その1	15	27	17	1	0
四国の地域振興 その2	3	1	1	0	0
コンピュータと教育 その1	16	29	13	1	0
コンピュータと教育 その2	3	11	12	0	0
タンパク質で生命を斬る	1	6	5	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	3	8	4	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	1	22	45	30	2
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	0	1	8	1	1
飛行機はなぜ飛ぶのか	0	3	3	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	3	0	0
気象学入門	2	17	28	3	0
有機化学概論	0	0	3	0	0
海洋基礎生態学	5	15	12	4	0

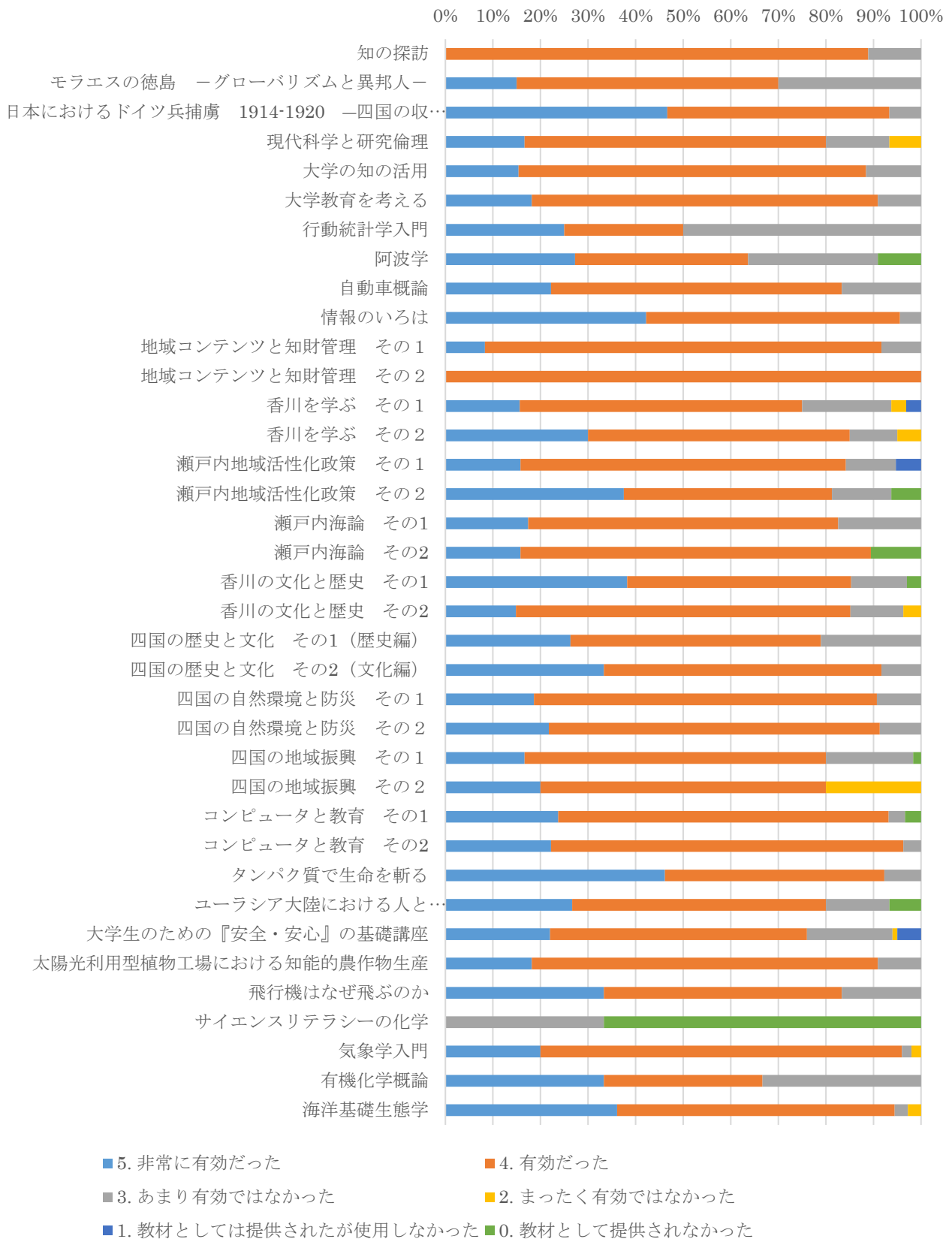
問15：学習量



問 16-1. 視聴覚教材(ビデオ等)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効でなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
知の探訪	0	8	1	0	0	0
モラエスの徳島ーグローバルイズムと異邦人ー	3	11	6	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	7	7	1	0	0	0
現代科学と研究倫理	5	19	4	2	0	0
大学の知の活用	4	19	3	0	0	0
大学教育を考える	2	8	1	0	0	0
行動統計学入門	1	1	2	0	0	0
阿波学	3	4	3	0	0	1
自動車概論	4	11	3	0	0	0
情報のいろは	19	24	2	0	0	0
地域コンテンツと知財管理 その1	1	10	1	0	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	0	5	0	0	0	0
香川を学ぶ その1	5	19	6	1	1	0
香川を学ぶ その2	6	11	2	1	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	3	13	2	0	1	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	6	7	2	0	0	1
瀬戸内海論 その1	4	15	4	0	0	0
瀬戸内海論 その2	3	14	0	0	0	2
香川の文化と歴史 その1	13	16	4	0	0	1
香川の文化と歴史 その2	4	19	3	1	0	0
四国の歴史と文化 その1(歴史編)	5	10	4	0	0	0
四国の歴史と文化 その2(文化編)	4	7	1	0	0	0
四国の自然環境と防災 その1	8	31	4	0	0	0
四国の自然環境と防災 その2	5	16	2	0	0	0
四国の地域振興 その1	10	38	11	0	0	1
四国の地域振興 その2	1	3	0	1	0	0
コンピュータと教育 その1	14	41	2	0	0	2
コンピュータと教育 その2	6	20	1	0	0	0
タンパク質で生命を斬る	6	6	1	0	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	4	8	2	0	0	1
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	22	54	18	1	5	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	2	8	1	0	0	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	3	1	0	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	1	0	0	2
気象学入門	10	38	1	1	0	0
有機化学概論	1	1	1	0	0	0
海洋基礎生態学	13	21	1	1	0	0

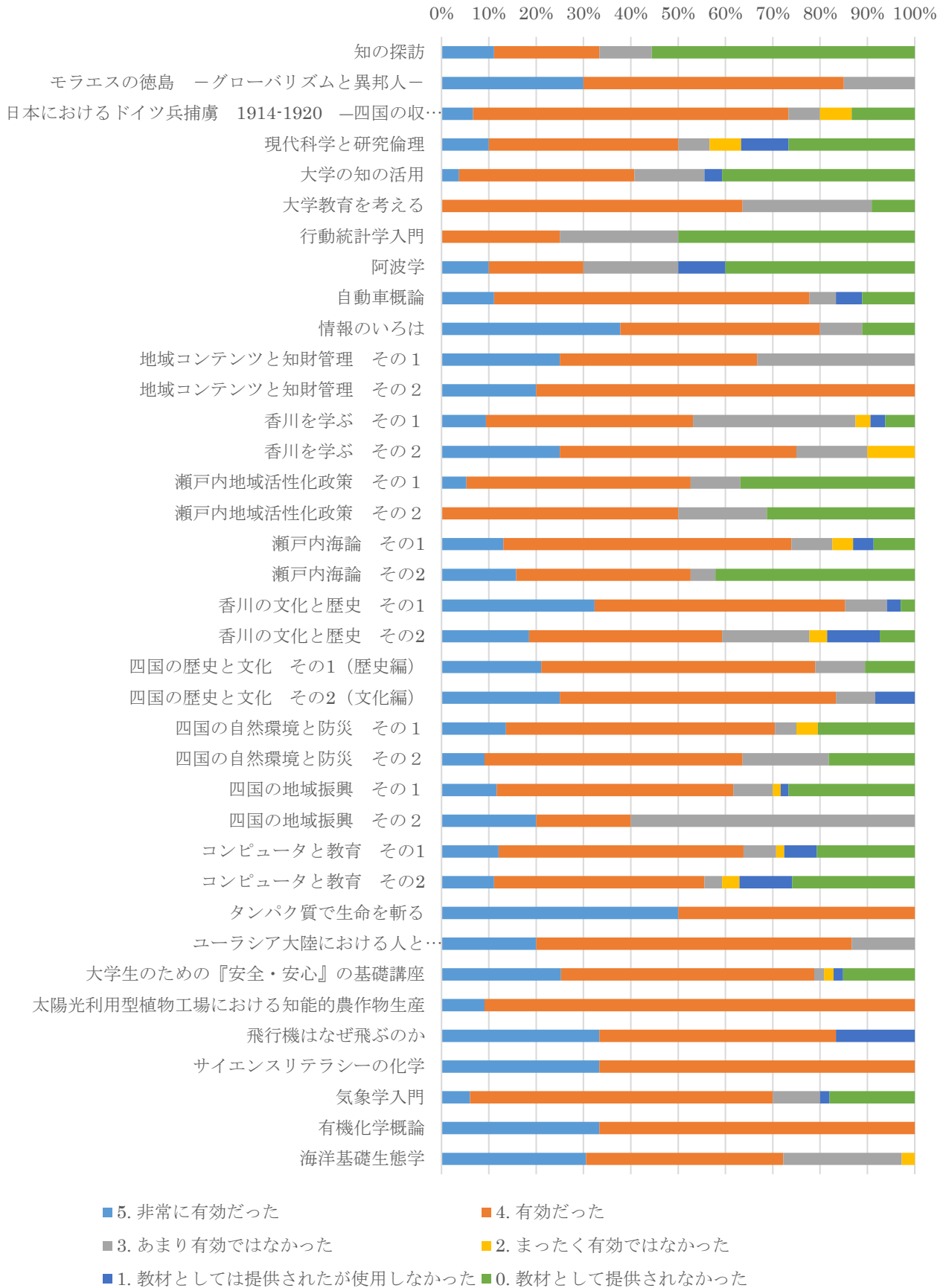
問16-1：視聴覚教材（ビデオ等）



問 16-2. 教科書・参考書や配布資料

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
知の探訪	1	2	1	0	0	5
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	6	11	3	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	1	10	1	1	0	2
現代科学と研究倫理	3	12	2	2	3	8
大学の知の活用	1	10	4	0	1	11
大学教育を考える	0	7	3	0	0	1
行動統計学入門	0	1	1	0	0	2
阿波学	1	2	2	0	1	4
自動車概論	2	12	1	0	1	2
情報のいろは	17	19	4	0	0	5
地域コンテンツと知財管理 その1	3	5	4	0	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	1	4	0	0	0	0
香川を学ぶ その1	3	14	11	1	1	2
香川を学ぶ その2	5	10	3	2	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	1	9	2	0	0	7
瀬戸内地域活性化政策 その2	0	8	3	0	0	5
瀬戸内海論 その1	3	14	2	1	1	2
瀬戸内海論 その2	3	7	1	0	0	8
香川の文化と歴史 その1	11	18	3	0	1	1
香川の文化と歴史 その2	5	11	5	1	3	2
四国の歴史と文化 その1(歴史編)	4	11	2	0	0	2
四国の歴史と文化 その2(文化編)	3	7	1	0	1	0
四国の自然環境と防災 その1	6	25	2	2	0	9
四国の自然環境と防災 その2	2	12	4	0	0	4
四国の地域振興 その1	7	30	5	1	1	16
四国の地域振興 その2	1	1	3	0	0	0
コンピュータと教育 その1	7	30	4	1	4	12
コンピュータと教育 その2	3	12	1	1	3	7
タンパク質で生命を斬る	6	6	0	0	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	3	10	2	0	0	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	25	53	2	2	2	15
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	1	10	0	0	0	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	3	0	0	1	0
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	0	0	0
気象学入門	3	32	5	0	1	9
有機化学概論	1	2	0	0	0	0
海洋基礎生態学	11	15	9	1	0	0

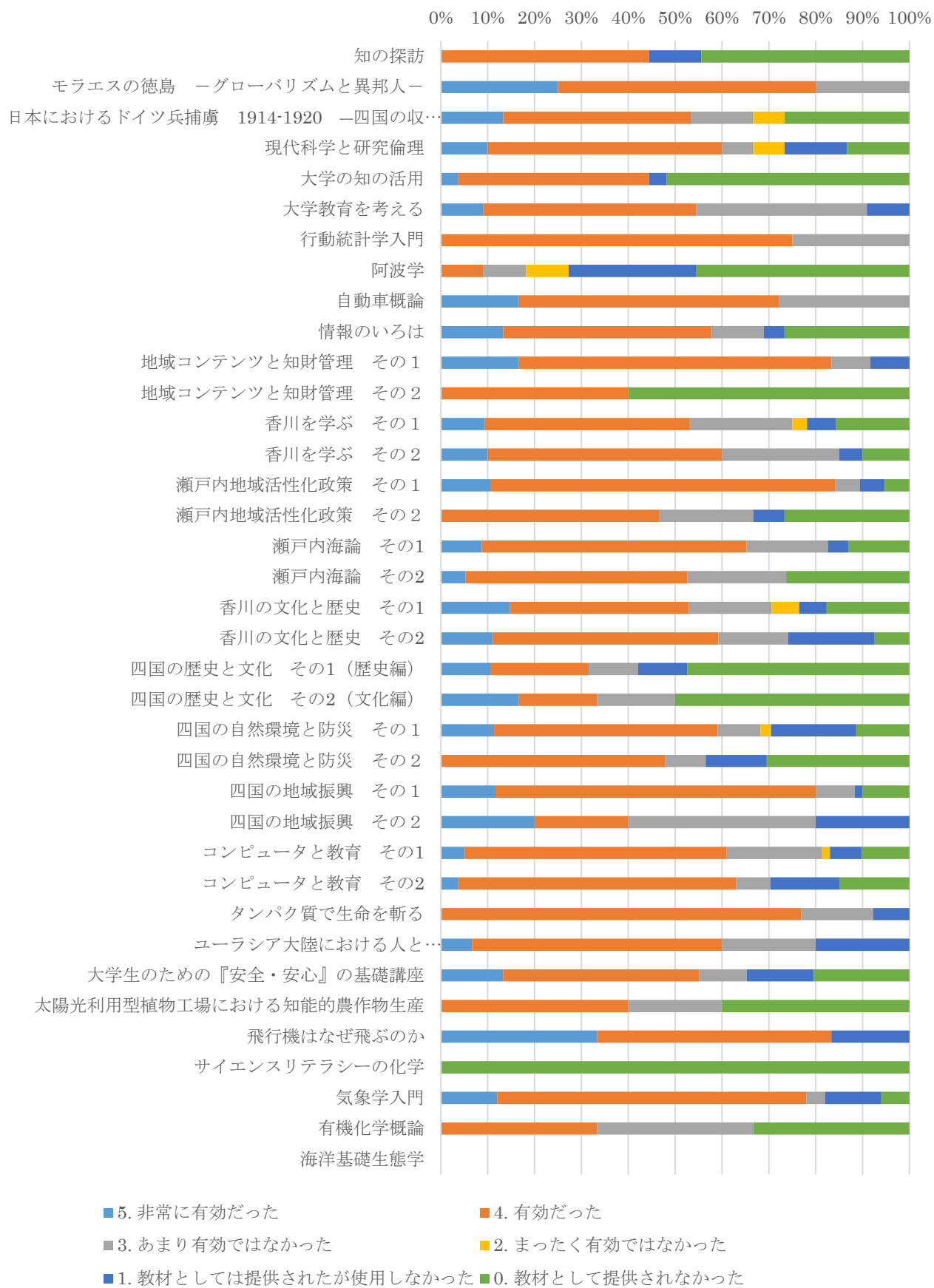
問16-2：教科書・参考書・配布資料



問 16-3. 紹介された参考リンク (インターネット上の情報源)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
知の探訪	0	4	0	0	1	4
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	5	11	4	0	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	2	6	2	1	0	4
現代科学と研究倫理	3	15	2	2	4	4
大学の知の活用	1	11	0	0	1	14
大学教育を考える	1	5	4	0	1	0
行動統計学入門	0	3	1	0	0	0
阿波学	0	1	1	1	3	5
自動車概論	3	10	5	0	0	0
情報のいろは	6	20	5	0	2	12
地域コンテンツと知財管理 その1	2	8	1	0	1	0
地域コンテンツと知財管理 その2	0	2	0	0	0	3
香川を学ぶ その1	3	14	7	1	2	5
香川を学ぶ その2	2	10	5	0	1	2
瀬戸内地域活性化政策 その1	2	14	1	0	1	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	0	7	3	0	1	4
瀬戸内海論 その1	2	13	4	0	1	3
瀬戸内海論 その2	1	9	4	0	0	5
香川の文化と歴史 その1	5	13	6	2	2	6
香川の文化と歴史 その2	3	13	4	0	5	2
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	2	4	2	0	2	9
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	2	2	2	0	0	6
四国の自然環境と防災 その1	5	21	4	1	8	5
四国の自然環境と防災 その2	0	11	2	0	3	7
四国の地域振興 その1	7	41	5	0	1	6
四国の地域振興 その2	1	1	2	0	1	0
コンピュータと教育 その1	3	33	12	1	4	6
コンピュータと教育 その2	1	16	2	0	4	4
タンパク質で生命を斬る	0	10	2	0	1	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	8	3	0	3	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	13	41	10	0	14	20
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	0	4	2	0	0	4
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	3	0	0	1	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	0	0	0	3
気象学入門	6	33	2	0	6	3
有機化学概論	0	1	1	0	0	1
海洋基礎生態学	0	0	0	0	0	0

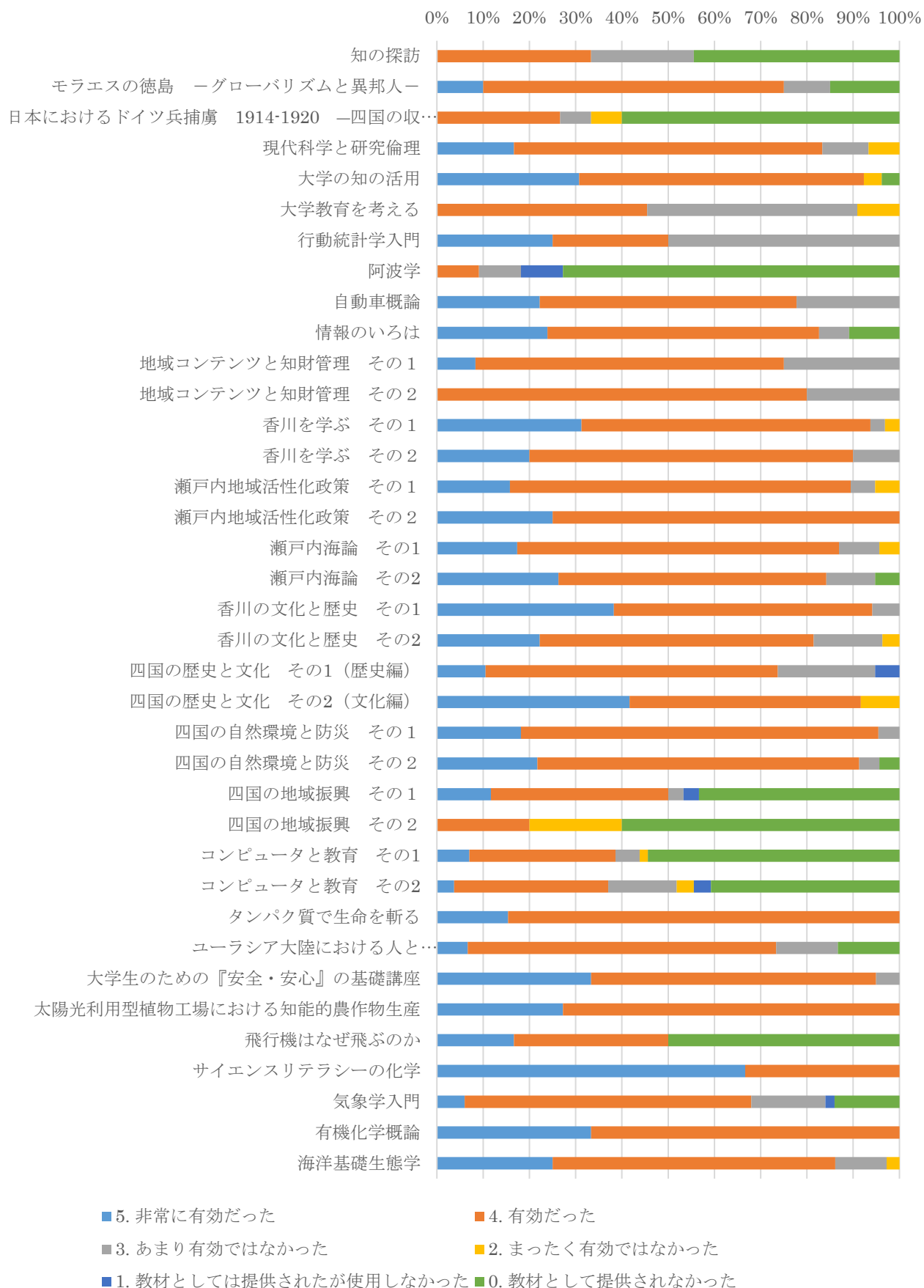
問16-3：参考リンク(インターネット上の情報源)



問 16-4. クイズ (小テスト)

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
知の探訪	0	3	2	0	0	4
モラエスの徳島ーグローバルズムと異邦人ー	2	13	2	0	0	3
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	0	4	1	1	0	9
現代科学と研究倫理	5	20	3	2	0	0
大学の知の活用	8	16	0	1	0	1
大学教育を考える	0	5	5	1	0	0
行動統計学入門	1	1	2	0	0	0
阿波学	0	1	1	0	1	8
自動車概論	4	10	4	0	0	0
情報のいろは	11	27	3	0	0	5
地域コンテンツと知財管理 その1	1	8	3	0	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	0	4	1	0	0	0
香川を学ぶ その1	10	20	1	1	0	0
香川を学ぶ その2	4	14	2	0	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	3	14	1	1	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その2	4	12	0	0	0	0
瀬戸内海論 その1	4	16	2	1	0	0
瀬戸内海論 その2	5	11	2	0	0	1
香川の文化と歴史 その1	13	19	2	0	0	0
香川の文化と歴史 その2	6	16	4	1	0	0
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	2	12	4	0	1	0
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	5	6	0	1	0	0
四国の自然環境と防災 その1	8	34	2	0	0	0
四国の自然環境と防災 その2	5	16	1	0	0	1
四国の地域振興 その1	7	23	2	0	2	26
四国の地域振興 その2	0	1	0	1	0	3
コンピュータと教育 その1	4	18	3	1	0	31
コンピュータと教育 その2	1	9	4	1	1	11
タンパク質で生命を斬る	2	11	0	0	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	10	2	0	0	2
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	33	61	5	0	0	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	3	8	0	0	0	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	1	2	0	0	0	3
サイエンスリテラシーの化学	2	1	0	0	0	0
気象学入門	3	31	8	0	1	7
有機化学概論	1	2	0	0	0	0
海洋基礎生態学	9	22	4	1	0	0

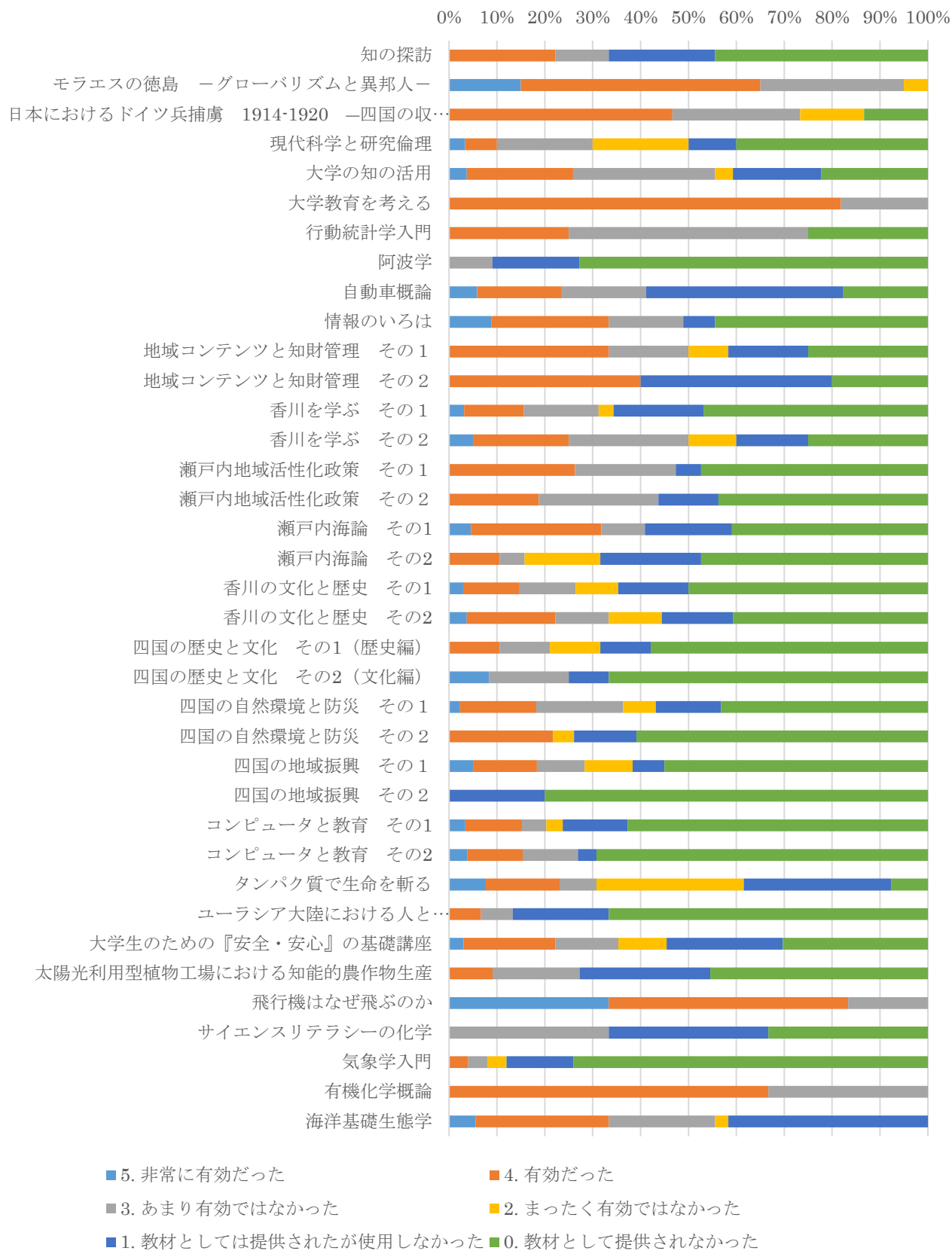
問16-4：クイズ（小テスト）



問 16-5. 掲示板（フォーラム）における受講者同士のディスカッション

	5. 非常に有効だった	4. 有効だった	3. あまり有効ではなかった	2. まったく有効ではなかった	1. 教材としては提供されたが使用しなかった	0. 教材として提供されなかった
知の探訪	0	2	1	0	2	4
モラエスの徳島ーグローバルイズムと異邦人ー	3	10	6	1	0	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920ー四国の収容所を中心にー	0	7	4	2	0	2
現代科学と研究倫理	1	2	6	6	3	12
大学の知の活用	1	6	8	1	5	6
大学教育を考える	0	9	2	0	0	0
行動統計学入門	0	1	2	0	0	1
阿波学	0	0	1	0	2	8
自動車概論	1	3	3	0	7	3
情報のいろは	4	11	7	0	3	20
地域コンテンツと知財管理 その1	0	4	2	1	2	3
地域コンテンツと知財管理 その2	0	2	0	0	2	1
香川を学ぶ その1	1	4	5	1	6	15
香川を学ぶ その2	1	4	5	2	3	5
瀬戸内地域活性化政策 その1	0	5	4	0	1	9
瀬戸内地域活性化政策 その2	0	3	4	0	2	7
瀬戸内海論 その1	1	6	2	0	4	9
瀬戸内海論 その2	0	2	1	3	4	9
香川の文化と歴史 その1	1	4	4	3	5	17
香川の文化と歴史 その2	1	5	3	3	4	11
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	0	2	2	2	2	11
四国の歴史と文化 その2（文化編）	1	0	2	0	1	8
四国の自然環境と防災 その1	1	7	8	3	6	19
四国の自然環境と防災 その2	0	5	0	1	3	14
四国の地域振興 その1	3	8	6	6	4	33
四国の地域振興 その2	0	0	0	0	1	4
コンピュータと教育 その1	2	7	3	2	8	37
コンピュータと教育 その2	1	3	3	0	1	18
タンパク質で生命を斬る	1	2	1	4	4	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	0	1	1	0	3	10
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	3	19	13	10	24	30
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	0	1	2	0	3	5
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	3	1	0	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	0	1	0	1	1
気象学入門	0	2	2	2	7	37
有機化学概論	0	2	1	0	0	0
海洋基礎生態学	2	10	8	1	15	0

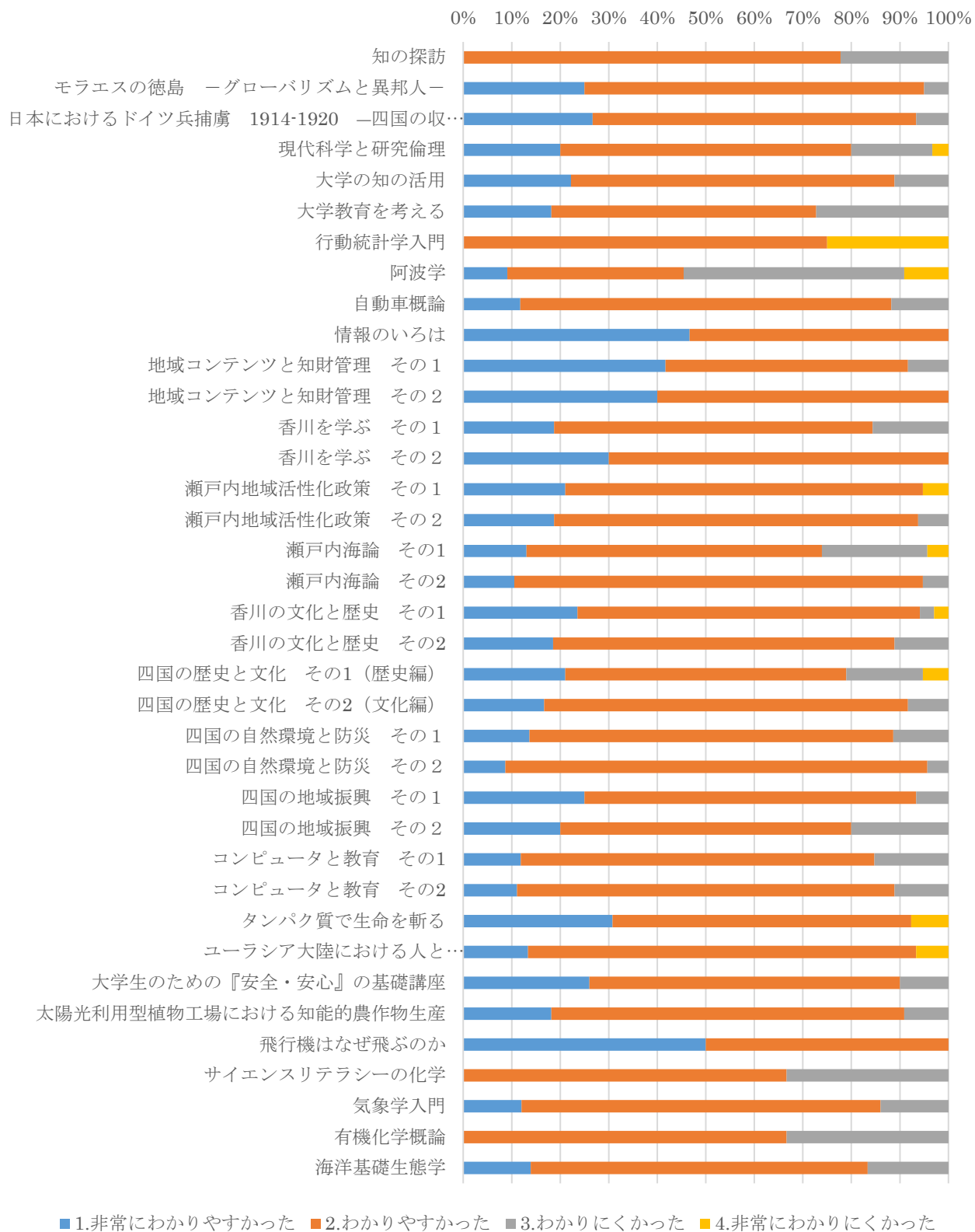
問16-5：掲示板（フォーラム）



問 17. この授業の Moodle 上の説明（例えば毎週の学修の進め方や課題等の指示）は、わかりやすかったですか？

	1. 非常にわかりやすかった	2. わかりやすかった	3. わかりにくかった	4. 非常にわかりにくかった
知の探訪	0	7	2	0
モラエスの徳島 — グローバリズムと異邦人 —	5	14	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 — 四国の収容所を中心に—	4	10	1	0
現代科学と研究倫理	6	18	5	1
大学の知の活用	6	18	3	0
大学教育を考える	2	6	3	0
行動統計学入門	0	3	0	1
阿波学	1	4	5	1
自動車概論	2	13	2	0
情報のいろは	21	24	0	0
地域コンテンツと知財管理 その1	5	6	1	0
地域コンテンツと知財管理 その2	2	3	0	0
香川を学ぶ その1	6	21	5	0
香川を学ぶ その2	6	14	0	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	4	14	0	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	3	12	1	0
瀬戸内海論 その1	3	14	5	1
瀬戸内海論 その2	2	16	1	0
香川の文化と歴史 その1	8	24	1	1
香川の文化と歴史 その2	5	19	3	0
四国の歴史と文化 その1（歴史編）	4	11	3	1
四国の歴史と文化 その2（文化編）	2	9	1	0
四国の自然環境と防災 その1	6	33	5	0
四国の自然環境と防災 その2	2	20	1	0
四国の地域振興 その1	15	41	4	0
四国の地域振興 その2	1	3	1	0
コンピュータと教育 その1	7	43	9	0
コンピュータと教育 その2	3	21	3	0
タンパク質で生命を斬る	4	8	0	1
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	2	12	0	1
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	26	64	10	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	2	8	1	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	3	3	0	0
サイエンスリテラシーの化学	0	2	1	0
気象学入門	6	37	7	0
有機化学概論	0	2	1	0
海洋基礎生態学	5	25	6	0

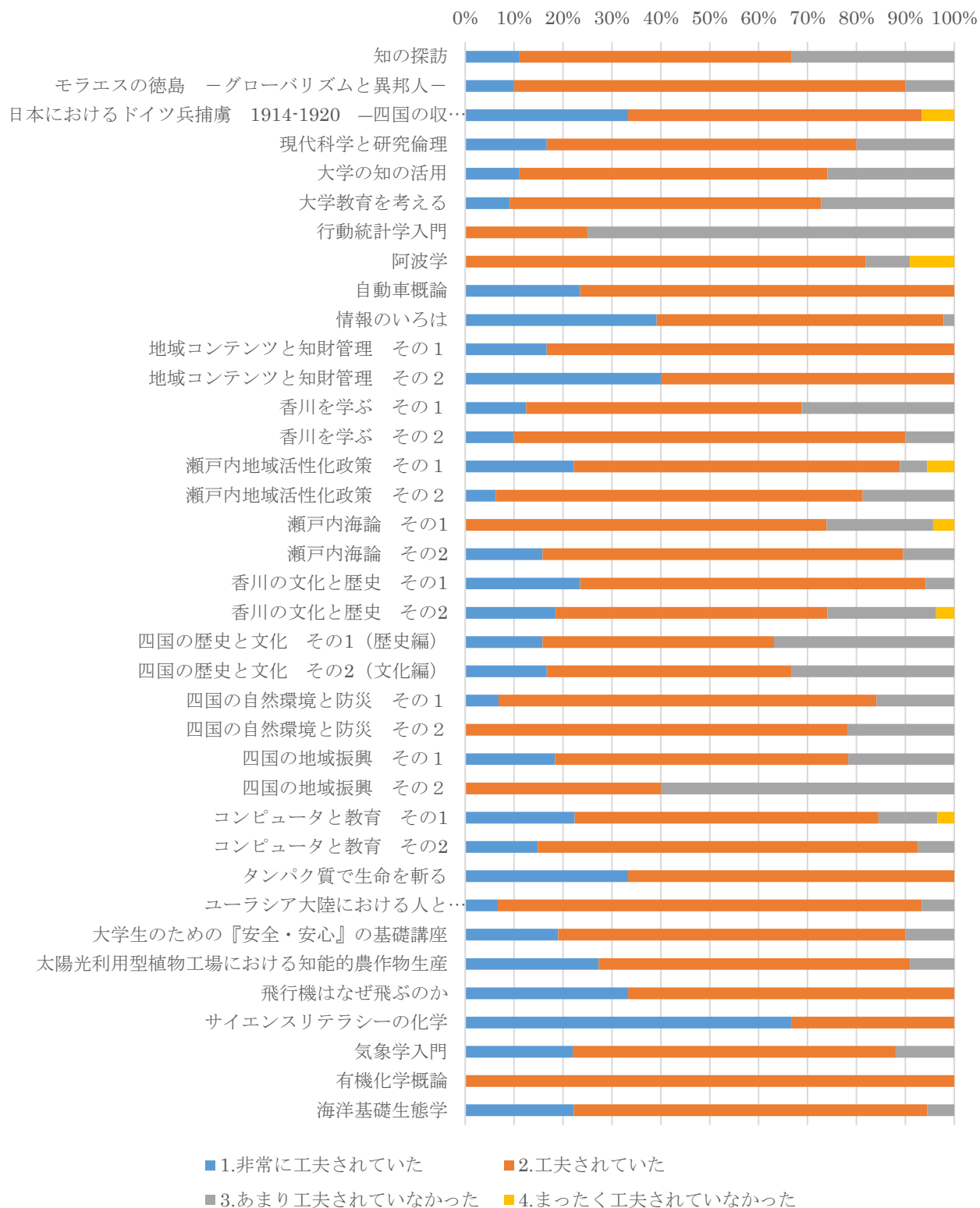
問17：Moodle上の説明



問 18. 授業をわかりやすくする工夫がなされていましたか？

	1. 非常に工夫されていた	2. 工夫されていた	3. あまり工夫されていなかった	4. まったく工夫されていなかった
知の探訪	1	5	3	0
モラエスの徳島 — グローバリズムと異邦人 —	2	16	2	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 — 四国の収容所を中心に —	5	9	0	1
現代科学と研究倫理	5	19	6	0
大学の知の活用	3	17	7	0
大学教育を考える	1	7	3	0
行動統計学入門	0	1	3	0
阿波学	0	9	1	1
自動車概論	4	13	0	0
情報のいろは	18	27	1	0
地域コンテンツと知財管理 その1	2	10	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	2	3	0	0
香川を学ぶ その1	4	18	10	0
香川を学ぶ その2	2	16	2	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	4	12	1	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	1	12	3	0
瀬戸内海論 その1	0	17	5	1
瀬戸内海論 その2	3	14	2	0
香川の文化と歴史 その1	8	24	2	0
香川の文化と歴史 その2	5	15	6	1
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	3	9	7	0
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	2	6	4	0
四国の自然環境と防災 その1	3	34	7	0
四国の自然環境と防災 その2	0	18	5	0
四国の地域振興 その1	11	36	13	0
四国の地域振興 その2	0	2	3	0
コンピュータと教育 その1	13	36	7	2
コンピュータと教育 その2	4	21	2	0
タンパク質で生命を斬る	4	8	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	1	13	1	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	19	71	10	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	3	7	1	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	4	0	0
サイエンスリテラシーの化学	2	1	0	0
気象学入門	11	33	6	0
有機化学概論	0	3	0	0
海洋基礎生態学	8	26	2	0

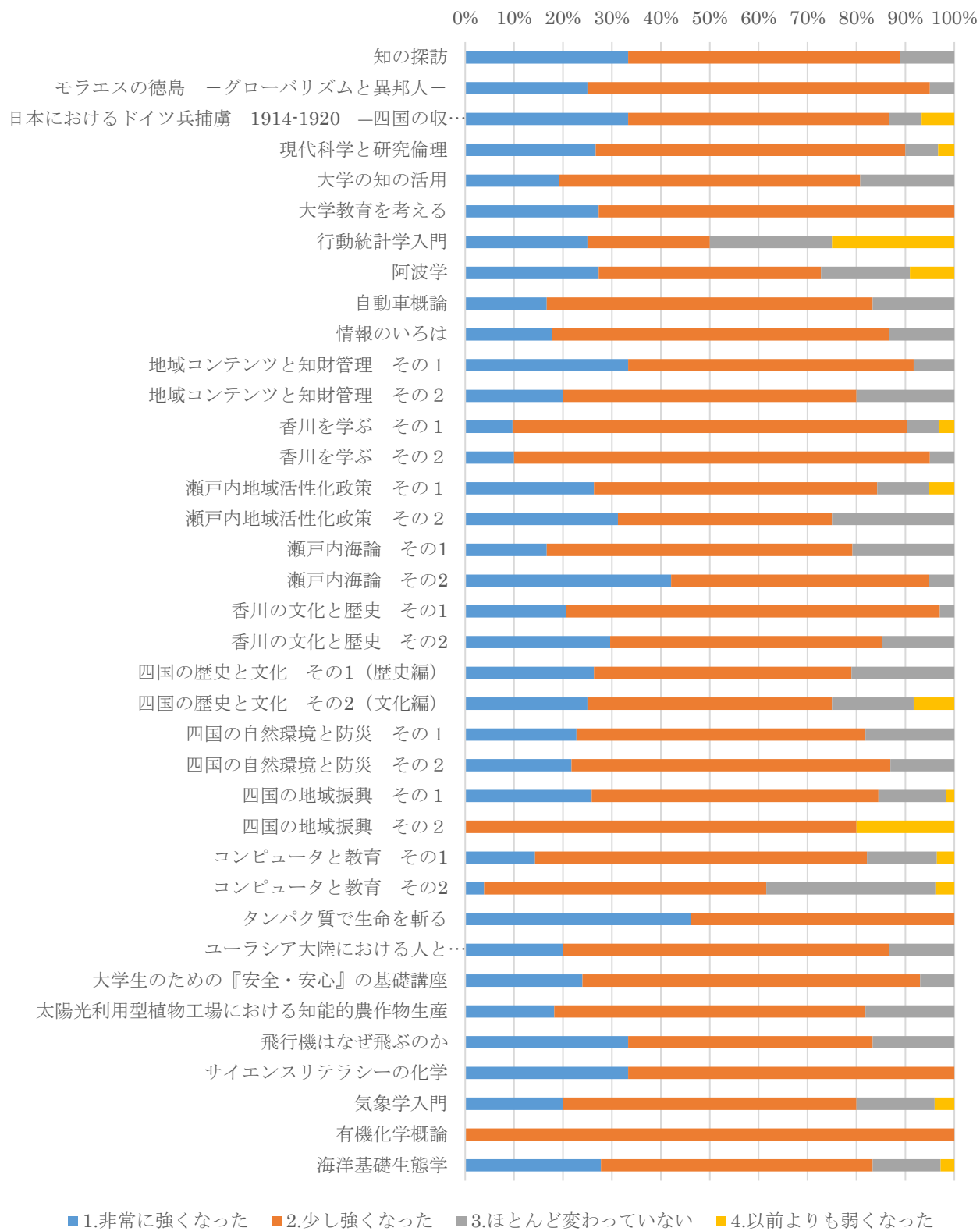
問18：わかりやすくする工夫



問 19. この授業の内容や関連分野に対する関心や問題意識は、この授業の履修によってどのように変わりましたか？

	1. 非常に強くなった	2. 少し強くなった	3. ほとんど変わっていない	4. 以前よりも弱くなった
知の探訪	3	5	1	0
モラエスの徳島 —グローバルリズムと異邦人—	5	14	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 —四国の収容所を中心に—	5	8	1	1
現代科学と研究倫理	8	19	2	1
大学の知の活用	5	16	5	0
大学教育を考える	3	8	0	0
行動統計学入門	1	1	1	1
阿波学	3	5	2	1
自動車概論	3	12	3	0
情報のいろは	8	31	6	0
地域コンテンツと知財管理 その1	4	7	1	0
地域コンテンツと知財管理 その2	1	3	1	0
香川を学ぶ その1	3	25	2	1
香川を学ぶ その2	2	17	1	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	5	11	2	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	5	7	4	0
瀬戸内海論 その1	4	15	5	0
瀬戸内海論 その2	8	10	1	0
香川の文化と歴史 その1	7	26	1	0
香川の文化と歴史 その2	8	15	4	0
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	5	10	4	0
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	3	6	2	1
四国の自然環境と防災 その1	10	26	8	0
四国の自然環境と防災 その2	5	15	3	0
四国の地域振興 その1	15	34	8	1
四国の地域振興 その2	0	4	0	1
コンピュータと教育 その1	8	38	8	2
コンピュータと教育 その2	1	15	9	1
タンパク質で生命を斬る	6	7	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	3	10	2	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	24	69	7	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	2	7	2	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	2	3	1	0
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	0
気象学入門	10	30	8	2
有機化学概論	0	3	0	0
海洋基礎生態学	10	20	5	1

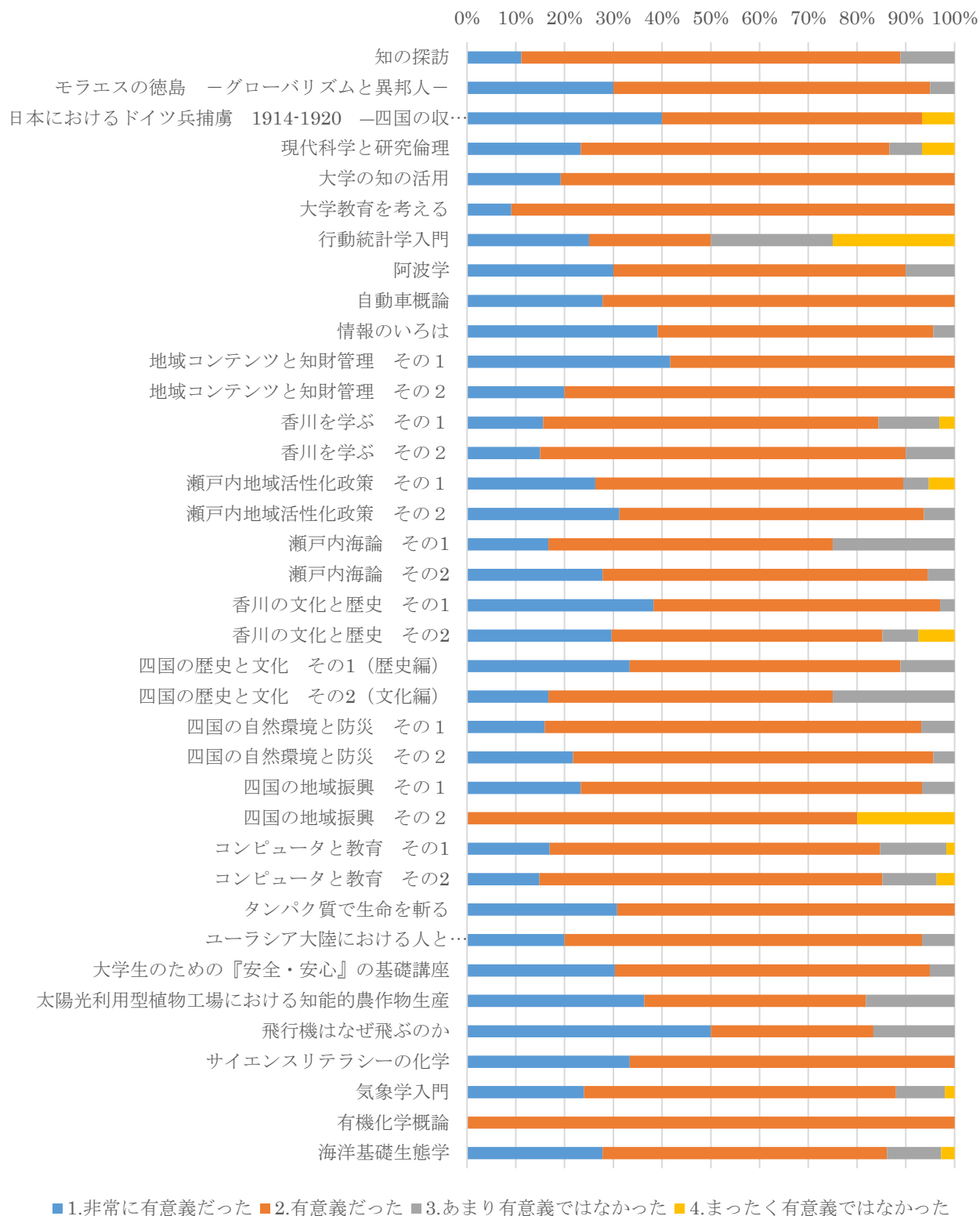
問19：履修後の関心や問題意識



問 20. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？

	1. 非常に有意義だった	2. 有意義だった	3. あまり有意義ではなかった	4. まったく有意義ではなかった
知の探訪	1	7	1	0
モラエスの徳島 — グローバリズムと異邦人 —	6	13	1	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 — 四国の収容所を中心に —	6	8	0	1
現代科学と研究倫理	7	19	2	2
大学の知の活用	5	21	0	0
大学教育を考える	1	10	0	0
行動統計学入門	1	1	1	1
阿波学	3	6	1	0
自動車概論	5	13	0	0
情報のいろは	18	26	2	0
地域コンテンツと知財管理 その1	5	7	0	0
地域コンテンツと知財管理 その2	1	4	0	0
香川を学ぶ その1	5	22	4	1
香川を学ぶ その2	3	15	2	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	5	12	1	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	5	10	1	0
瀬戸内海論 その1	4	14	6	0
瀬戸内海論 その2	5	12	1	0
香川の文化と歴史 その1	13	20	1	0
香川の文化と歴史 その2	8	15	2	2
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	6	10	2	0
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	2	7	3	0
四国の自然環境と防災 その1	7	34	3	0
四国の自然環境と防災 その2	5	17	1	0
四国の地域振興 その1	14	42	4	0
四国の地域振興 その2	0	4	0	1
コンピュータと教育 その1	10	40	8	1
コンピュータと教育 その2	4	19	3	1
タンパク質で生命を斬る	4	9	0	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	3	11	1	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	30	64	5	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	4	5	2	0
飛行機はなぜ飛ぶのか	3	2	1	0
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	0
気象学入門	12	32	5	1
有機化学概論	0	3	0	0
海洋基礎生態学	10	21	4	1

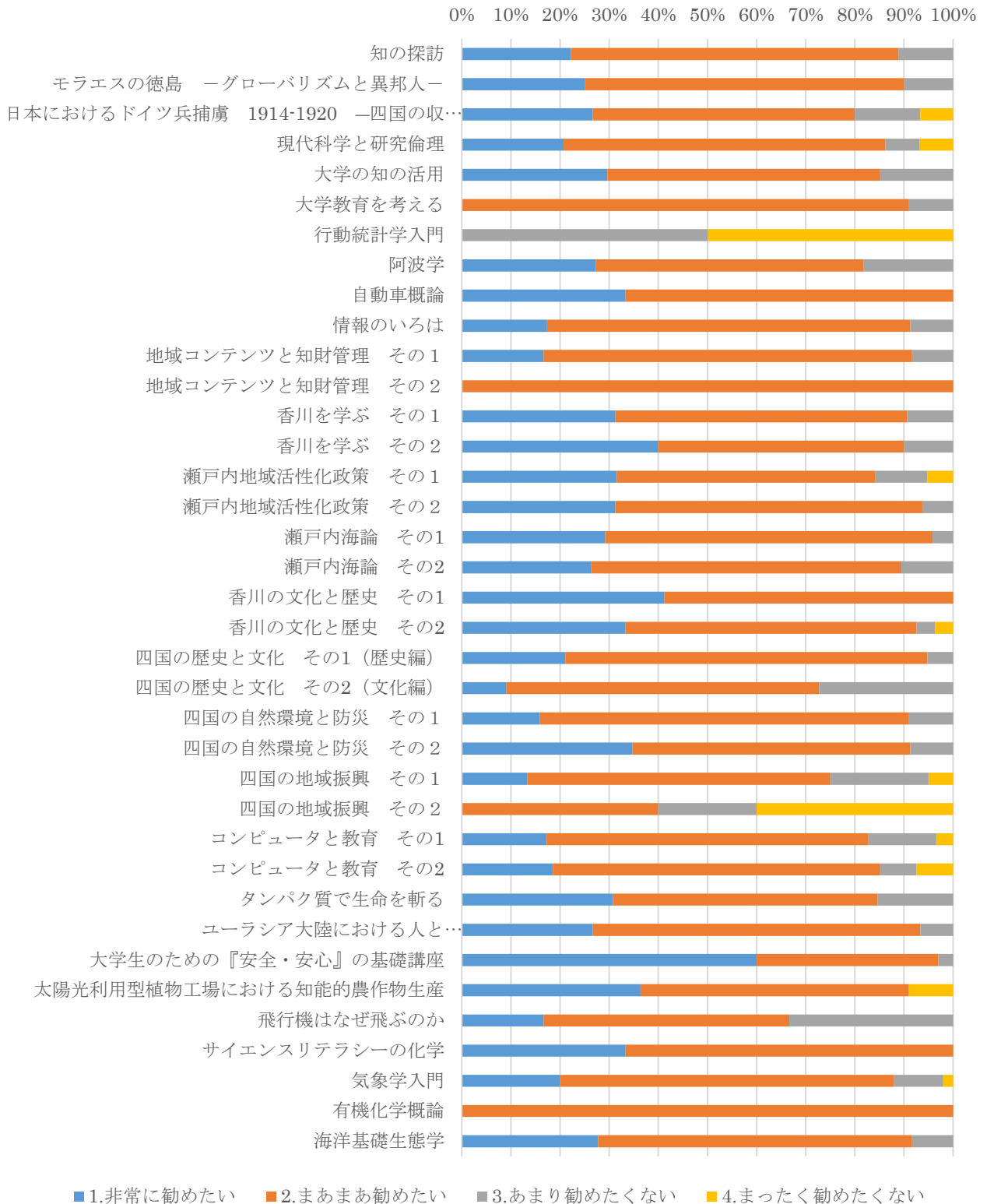
問20：有意義



問 21. この授業を、友人や後輩にお勧めしたいですか？

	1. 非常に勧めたい	2. まあまあ勧めたい	3. あまり勧めたくない	4. まったく勧めたくない
知の探訪	2	6	1	0
モラエスの徳島 ―グローバルリズムと異邦人―	5	13	2	0
日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 ―四国の収容所を中心に―	4	8	2	1
現代科学と研究倫理	6	19	2	2
大学の知の活用	8	15	4	0
大学教育を考える	0	10	1	0
行動統計学入門	0	0	2	2
阿波学	3	6	2	0
自動車概論	6	12	0	0
情報のいろは	8	34	4	0
地域コンテンツと知財管理 その1	2	9	1	0
地域コンテンツと知財管理 その2	0	5	0	0
香川を学ぶ その1	10	19	3	0
香川を学ぶ その2	8	10	2	0
瀬戸内地域活性化政策 その1	6	10	2	1
瀬戸内地域活性化政策 その2	5	10	1	0
瀬戸内海論 その1	7	16	1	0
瀬戸内海論 その2	5	12	2	0
香川の文化と歴史 その1	14	20	0	0
香川の文化と歴史 その2	9	16	1	1
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	4	14	1	0
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	1	7	3	0
四国の自然環境と防災 その1	7	33	4	0
四国の自然環境と防災 その2	8	13	2	0
四国の地域振興 その1	8	37	12	3
四国の地域振興 その2	0	2	1	2
コンピュータと教育 その1	10	38	8	2
コンピュータと教育 その2	5	18	2	2
タンパク質で生命を斬る	4	7	2	0
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	4	10	1	0
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	60	37	3	0
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	4	6	0	1
飛行機はなぜ飛ぶのか	1	3	2	0
サイエンスリテラシーの化学	1	2	0	0
気象学入門	10	34	5	1
有機化学概論	0	3	0	0
海洋基礎生態学	10	23	3	0

問21：友人への勧め



問 22. この授業について、良かった点を、具体的にお書きください。（「なし」等の回答は削除）

知の探訪	毎回教授が変わるので、幅広い知識を得ることができた。
知の探訪	自分の空いている時間に取り組めた。
知の探訪	早送りで授業を受けれる。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	モラエスを通して、自分の中のグローバルズムが変わった。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	モラエスのお話は興味深く、面白かった。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	これまで知らなかったモラエスについて知り、グローバル社会について考えることができたところ。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	スマートフォンで課題提出が出来る点がよかったです。動画が視聴出来ず、サポートに問い合わせた時にすぐに連絡がつき、改善も早かったのが良かったです。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	締め切りが細かく設定されていること
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	ビデオの中で実際にモラエスのゆかりの地に行ってくれていたのは良かった
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	レポート能力が格段に向上した。
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	レポート形式だったため自分で考える機会が増えた
モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	ディスカッションできるのが良かった。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	授業で取り扱った内容が非常に興味深いもので、講師の授業に対する熱意も感じられた。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	詳しい内容が多く、関心が高まった点。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	元々、興味がある内容であった為、また教授の丁寧かつ分かりやすい説明があったため、強い好奇心を持ち、どの單元にも新鮮な気持ちで取り組むことができた。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	現地を訪れての説明が良かった。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	動画と講義資料を同時に見れた点。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	家で受講できることが良かったです。
日本におけるドイツ兵捕虜 ー四国の収容所を中心にー	各授業ごとに、パワーポイントで内容がまとめられていたので、復習に大いに役立てた伝達。
現代科学と研究倫理	課題が一問一答形式が多いところ
現代科学と研究倫理	私は文系で研究倫理のことなどあまり知らなかったが、この授業のおかげで少し詳しくなることができました。範囲も広がったので、今後の生活で役に立つことがあると思います。ありがとうございました。
現代科学と研究倫理	いくつかの動画に分かれていて、少しずつ進められた点
現代科学と研究倫理	先生の解説がわかりやすかったこと。
現代科学と研究倫理	研究倫理についてあまり関心がなかったが、授業を通して、関連のあるニュースを見るようになった。また、何が研究不正になるのかや、研究者だけでなく、社会全体として考えなければならない問題であるということも学ぶことができた。
現代科学と研究倫理	幅広い分野に触れることができるため、視野が広がった点。
現代科学と研究倫理	大学で実験型の授業を受ける際に参考になった。
現代科学と研究倫理	いつでもできる。

現代科学と研究倫理	動画などにイラストが程よく使用されており、分かりやすかった。
現代科学と研究倫理	理系の内容が中心であったが、文系の私にもわかりやすい解説と、関心の持ちやすい話題で面白かった。
大学の知の活用	知的財産や、バイオ関連は情報の更新が大変早く、本や資料を活用したものでは、情報の鮮度が低い場合が多く、授業形式にまとめられていたこともあり、最新の情報を正確に得られたことが良かった。
大学の知の活用	IT や科学的なことを中心に学べたので、普段履修する科目とは異なり非常に面白かった。文系の自分でもわかりやすかった。
大学の知の活用	期末テストがなかったところ
大学の知の活用	私は文系なので理系の角度から知的財産権について学ぶことができたのが良かった。
大学の知の活用	特許のことを知れた点
大学の知の活用	問題に対するヒントがしっかりと動画に入っていた。
大学の知の活用	自分の都合に合わせて授業を受けることが出来た点。
大学の知の活用	自宅にいながら様々な大学の事例を知ることができる点が非常に良かったです。
大学の知の活用	自分の好きな時間にできた点。
大学の知の活用	自分のペースで勉強できる
大学の知の活用	さまざまな学問が学べた。
大学教育を考える	違う大学の人とコミュニケーションが取れたところ
大学教育を考える	大学のことについて、知らなかったことがたくさん知れた点。
大学教育を考える	他の受講生からコメントや質問をもらうことによって、自身の考えを深めることができた点。
大学教育を考える	今まで疑問に思いながらも調べようとしなかった内容ばかりだったので、それらを知るいい機会になった。
大学教育を考える	大学の授業の受け方を見直せた点。
大学教育を考える	先生方が楽しい人たちだった点。
大学教育を考える	同じ受講者と意見交換できたこと
行動統計学入門	質問コーナーを利用して、分からないことがあれば質問ができたところ。 改善していただきたいことは沢山書いてしまいましたが、楽しかったです（最後のほうはかなり難しかったです）。将来、統計学を使った仕事がしたいと考えているので、これからは統計学の勉強を頑張ります。また機会があれば色々教えてください。最後までありがとうございました。
行動統計学入門	説明が丁寧そうだった。分かった気になった。
行動統計学入門	動画再生速度を変えられるのは良いと思った。
阿波学	個人的にそれぞれの動画が、長すぎず短すぎず、ちょうど良い視聴時間だったので、集中しやすかった点。
阿波学	四国になじみ深い文化を題材にしてある点
自動車概論	以前から車について興味はあったが、自分から進んで学習する意欲はなかった。しかし、このような授業が設けられていたことで、学習する機会が与えられ、さらに興味のある分野であるためとても楽しく受講することができました。
自動車概論	前から車には興味があったのですがエンジンなどの詳しいことが知れてさらに興味がわきました。
自動車概論	自動車についての講義があること自体に驚いた。 免許取得はしているが、内容を忘れてしまっている点も多かったため、知識の補完を行うことができた。

	教習生時代を思い出しながら講義を受けることができた。
自動車概論	締め切りに余裕がある点
自動車概論	自動車について理解を深めることができた
自動車概論	元々自動車について興味があったため、内容がスムーズに入ってきた。 また、社会においては、自動車は切っても切り離せないものであるため、知識や教養を身につけられる点。
情報のいろは	説明がとても分かりやすいし、 数学の高度な知識がなくても理解できるような説明をしてくれるところです。
情報のいろは	情報について科学の視点から勉強できた
情報のいろは	難しかったが、ヒントがあったので何とか回答することが出来た。
情報のいろは	情報に関する基礎的な知識を広い範囲で学習できた点。
情報のいろは	授業内容自体は難しいものを含んでいる回がいくつかあったが、それをなるべく優しく教えようとする工夫がよくみられた。授業の進行スピードも良い意味でゆっくりで、内容を理解する手助けになっていたと思う。
情報のいろは	難しい個所もわかりやすい言葉で説明してくださった点。
情報のいろは	PC を用いたり、情報処理系の分野は苦手意識があったが、少しは分かるようになったと思う。
情報のいろは	中々情報リテラシーの授業だけでは教えられない情報のことを聞くことができた点。
情報のいろは	優しい問題からだんだんと段階を追うごとにレベルアップしていきちょうどよかった
情報のいろは	コンピュータについて少しわかった
情報のいろは	知識がついた
情報のいろは	量がちょうどよく計画的に進められる
情報のいろは	自分のライフスタイルに合わせて学習できるのが良かった。
情報のいろは	先生が優しくかった。
情報のいろは	メールで情報を知らせてくれた
情報のいろは	情報のいろはということで、知覚、認知の面や、情報量の面、また、コンピュータや情報社会の側面など様々見地を広めることができた点
情報のいろは	指示や説明が分かりやすかった。 毎週の課題の採点がはやかった。
地域コンテンツと知財管理 その1	ありがとうございました
地域コンテンツと知財管理 その1	知的財産という、授業内容自体が将来のために役に立ちうる点
地域コンテンツと知財管理 その1	PDF 資料が丁寧だった点。
地域コンテンツと知財管理 その1	教科書に準拠したコンテンツが提供されていた点
地域コンテンツと知財管理 その1	講義も教科書も非常に分かりやすく、初学者でも理解しやすかったです。
地域コンテンツと知財管理 その2	色々なことが学べて参考になった。
香川を学ぶ その1	余りなじみのなかった香川県への造詣が深まったところ。
香川を学ぶ その1	どこでもできた。
香川を学ぶ その1	小テストで知識の確認ができること。
香川を学ぶ その1	聞き逃した部分を何度でも聞ける。
香川を学ぶ その1	いつでも受講可能。
香川を学ぶ その1	配布資料などが詳しくて良かった。
香川を学ぶ その1	香川のことをより知ることができた。
香川を学ぶ その1	香川県について知れた

香川を学ぶ	その1	多くの分野の内容を一つの講義で学べるのがよかった。
香川を学ぶ	その1	香川について、より知れたこと。
香川を学ぶ	その1	香川について知ることが出来て行きたくなった点。
香川を学ぶ	その1	小テストの問題数が少ない
香川を学ぶ	その1	県外から移ってきた自分にも香川の好きなところがふえたこと
香川を学ぶ	その1	休日など大学の授業のない日にも学習を進められる点
香川を学ぶ	その2	香川について様々な角度で考えることができたという点。
香川を学ぶ	その2	瀬戸内について意識してなかった内容を知ることができた。
香川を学ぶ	その2	香川県について知らないこと多いことに気が付いた。 多くの知識を得ることができた。
香川を学ぶ	その2	理解が1度で深められない場合に再視聴できるので、十分理解を深められた。
香川を学ぶ	その2	香川のことを少し知れた点。
香川を学ぶ	その2	香川県の詳しいことを改めて知れた点。
香川を学ぶ	その2	自分の計画通りに学習できる点
香川を学ぶ	その2	地元のことに関してしっかりと知識がついた。
香川を学ぶ	その2	香川についていろいろなことを知ることが出来よかった。災害についてなども知識を得ることができこれから役に立つことを学べよかった。
香川を学ぶ	その2	いつでもできる！
瀬戸内地域活性化政策	その1	小テストが選択制だったのでとても、簡単に取り組めたので良かった。また、3回までと言うようにチャンスが何回かあるので心強かった。
瀬戸内地域活性化政策	その1	期末レポートで実際に自治体の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について調べ、考えることで、より理解を深めることができた。
瀬戸内地域活性化政策	その1	第1回から4回までの授業を一気に受けることができた。
瀬戸内地域活性化政策	その1	瀬戸内のことについて学べたこと。
瀬戸内地域活性化政策	その1	授業で聞き逃した点を何回でも聞き直せる点
瀬戸内地域活性化政策	その1	香川県についてより深く知ることが出来た点。
瀬戸内地域活性化政策	その1	レポートの提出期間が十分に設けられている点
瀬戸内地域活性化政策	その1	香川県が現在抱えている課題やその取り組みの重要性についての説明が分かりやすかった
瀬戸内地域活性化政策	その1	地域の活性化の現状や政策についての理解を深めることができた点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	小テスト受講期限があるため、後のほうで小テストをため込まずに済んだ点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	小テストを受ける機会が3回もうけられていた点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	様々な切り口から地域活性化について考えることができ、事例も多かった。
瀬戸内地域活性化政策	その2	動画を見直すのも簡単にでき、学習しやすかったという点
瀬戸内地域活性化政策	その2	瀬戸内地域に関する理解が深まった点。
瀬戸内地域活性化政策	その2	資料が見やすいように工夫されていた。
瀬戸内地域活性化政策	その2	動画内で区切りがあり、見返す際に何処を見ればよいか分かりやすい。
瀬戸内地域活性化政策	その2	瀬戸内地域のことが良く分かった点。
瀬戸内海論	その1	自分の好きなときに学習でき、またテスト形式なのがよかった。
瀬戸内海論	その1	瀬戸内海の現状を深く知ることができた。
瀬戸内海論	その1	瀬戸内海について知ることができた点
瀬戸内海論	その1	テーマによって先生が変わるので、それぞれの得意分野につ

		いて話が聞ける点。
瀬戸内海論	その1	自宅で受けられること。
瀬戸内海論	その1	瀬戸内についてを様々な視点から学べた点
瀬戸内海論	その1	瀬戸内海について細かく説明されていた点
瀬戸内海論	その1	瀬戸内海を、科学技術や法制度など、いろいろな視点で見られる点。
瀬戸内海論	その1	私は医学部なので、工学部や理学部などの理系の授業に触れる機会はありません。瀬戸内海論その1では、全体的に理系的な内容が多く新鮮でした。
瀬戸内海論	その1	瀬戸内海について詳しく知れたこと。
瀬戸内海論	その2	見出しごとに動画がみられるように一覧になっていたところ
瀬戸内海論	その2	瀬戸内海の問題を様々な視点から学ぶことができた。
瀬戸内海論	その2	瀬戸内海についていろいろなテーマの講義を受けられて良かったです
瀬戸内海論	その2	テスト形式なところ
瀬戸内海論	その2	その1で学んだ分野以外のことも学べた点。
瀬戸内海論	その2	回ごとに違う教授の授業を受けることができる点。瀬戸内海をテーマにそれぞれの専門分野から説明をしてもらったため、様々な視点から瀬戸内海を見ることができた。
瀬戸内海論	その2	小テストに時間制限がない点。
瀬戸内海論	その2	瀬戸内海のことについて専門的なことを詳しく学習できた。また今までよりも興味を持てた。
瀬戸内海論	その2	私は香川県外から入学したので、それまであまりなじみのなかった瀬戸内海について幅広く知ることができて面白かった。
瀬戸内海論	その2	テストが難しすぎなかった。
瀬戸内海論	その2	干潟や気候について詳しく知れた。
瀬戸内海論	その2	瀬戸内海での課題を生物多様性や人間活動の影響等、いろいろな観点から学べた点。
香川の文化と歴史	その1	香川の文化についてとても分かりやすく説明されていたので、さらに文化について興味を持つことが出来た。
香川の文化と歴史	その1	地元の知らないことを知ることができる
香川の文化と歴史	その1	分からなかったことがあると、ビデオを戻してもう一度聞き直せるところ。
香川の文化と歴史	その1	実際の映像がある。
香川の文化と歴史	その1	小テストによって授業の要点をつかめた点
香川の文化と歴史	その1	問題提議がされていて、これから考えなければならないことが明確になったと思う。
香川の文化と歴史	その1	私は県外から進学してきたため香川のことを全く知らなかったが、この講義を通して香川や香川大学で行われている取り組みについて知ることができたのが良かった。特に博物館などには行ったことがなかったので、講義で中の様子や、どんなものが展示されているかを知り、行ってみたいと思うものもあった。 また、講義のスライドが見やすく、講義動画もいくつかに分かれているので適度に休憩しながら楽しく学習することができた。
香川の文化と歴史	その1	今までの大学の講義では四国全体の文化や歴史、または愛媛大学生ということで愛媛の文化や歴史はある程度学んできましたが、香川の文化と歴史についてここまで深くは学んだことはありませんでした。なので、この講義を通して、私が今まで知らなかった香川の様々な文化や歴史を知ることができ

		て良かったと思います。私の出身県では見たことのないような文化が多くて、とても新鮮で興味深かったです。また香川県は、四国4県のうち、唯一私がまだ訪れたことのない県なので、機会があれば是非とも行ってみたいです。
香川の文化と歴史	その1	いろいろな施設の人の話を聞いて楽しめた。
香川の文化と歴史	その1	わからない内容が出てても自分で動画を停止してインターネットで調べることが可能なため、理解しながら自分に合ったペースで受講できる点
香川の文化と歴史	その1	毎回香川や瀬戸内海地域のことが事細かく解説されていて、分かりやすかった点。
香川の文化と歴史	その1	香川についての知識が増えた。
香川の文化と歴史	その1	参考にできるいろいろな物品などをみることができた
香川の文化と歴史	その1	自分のペースで学習できる。 自宅で学習できる。 何度でも見直すことができる。
香川の文化と歴史	その1	香川について、歴史から観光まで広く紹介されていて、それぞれの分野に詳しい先生の話が聞ける点
香川の文化と歴史	その1	あらかじめ資料が配布されていたので、メモも取りやすく、理解する助けになった
香川の文化と歴史	その1	香川県について知れた。
香川の文化と歴史	その1	教えてくださる先生によって教え方、ビデオの使い方が違いとても面白かった
香川の文化と歴史	その1	香川の文化・歴史について詳しく知ることができた。
香川の文化と歴史	その1	講師がたくさんいる点
香川の文化と歴史	その1	香川の歴史や、文化は全く知らなかったのですが、授業を受けるなかで香川の歴史や、文化を知ることによって、香川県に興味をもてるようになりました。
香川の文化と歴史	その1	瀬戸内海、特に香川の歴史と文化について、個人学習では得ることができない貴重な情報を得ることができた点
香川の文化と歴史	その2	香川の現状を知れた
香川の文化と歴史	その2	取材などが行われた動画もあり、より身近に感じることができた。内容が興味深いものが多かった。
香川の文化と歴史	その2	歴史や文化、自治体の取り組みなどを知ることができた
香川の文化と歴史	その2	自分の好きな時間帯に自分の興味のある分野を学ぶことが出来る点。 香川についてアートや歴史を通して学ぶことができる点。
香川の文化と歴史	その2	関係者へのインタビューがあるのがよかった。
香川の文化と歴史	その2	香川について知らないことを、たくさん知ることができたこと。 また、この講義を受けていないと知ることのなかったであろう建物や作品、またその魅力などを知れたこと。
香川の文化と歴史	その2	自分が興味のある内容であったこと
香川の文化と歴史	その2	香川について知らなかったことが分かった点。
香川の文化と歴史	その2	香川県について知らないことをたくさん知れた点
四国の歴史と文化	その1（歴史編）	授業開始時は四国の歴史をあまりよく知らなかった。これは、今までの歴史の授業であまり扱わなかったことが原因だと考えるが、eラーニングで取り上げていただき、四国の歴史と文化に触れる良い機会となった。また、授業を繰り返し視聴できることや、自由な空き時間を使った学習は大変面白く、学習にストレスを感じなかった。
四国の歴史と文化	その1（歴史編）	四国のことが歴史という面から理解することができ、この場所への愛着が深まった。

四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	今まで全くと言っていいほど知らなかった四国の歴史と文化について、その一部だけでも学び知ることが出来た点は良かったと思います。四国に限らず、歴史そのものにあまり興味がない自分でしたが、想像以上に深い歴史があって非常に驚きました。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	自分の好きな時に学習できる。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	授業についてはわかりやすく簡単に理解できた。この授業の質を保ってほしい。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	なんどでも視聴できるので分からなかったところはもう一度視聴し復習できた。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	レポートをするのにあまり時間がとられない点
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	歴史上の人物だけでなく、水運や経済などの様々なものを通して、四国の歴史と文化を知ることができた点。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	四国の歴史について、普段考えない観点から見る事が出来てよかった。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	聞き逃した部分を繰り返し聞くことができる点。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	四国について初めて知ったことが沢山あった点。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	今まで関心がなかったことに関心を持ったり、気づいたりできるようになった。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	四国の文化に触れるきっかけとなった
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	四国の文学者やその作品について、一般的に知られている内容の範囲以上のことが知れた点。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	出身が関西なので四国のことはほとんど知りません なので全然知らないことばかり知ることができた点です。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	各講義において、視点を絞って四国の文化について学べてよかった。
四国の自然環境と防災 その1	自然に興味があったため、大学4年間を過ごす四国について知ることは将来の選択にもかかわるため幅広い自然分野について学べてよかった。
四国の自然環境と防災 その1	自分の住んでいる地域について深く知ることができた点。
四国の自然環境と防災 その1	四国についてかなり詳しく紹介してくれた店
四国の自然環境と防災 その1	四国で生活する中で知っておくべき点を具体的に学ぶことができた。瀬戸内の気候条件には深い関心を持つことができた。
四国の自然環境と防災 その1	防災という観点から、自分を取り囲む自然を見つめることができた点。
四国の自然環境と防災 その1	興味のある分野だったので、集中して講義を聞いた。 家で授業を受けられたのが良かった。
四国の自然環境と防災 その1	四国の自然についていろんな視点から見る事ができた点。
四国の自然環境と防災 その1	四国4県それぞれの視点から自然について見つめることができたので、他県のことを知れてよかった。
四国の自然環境と防災 その1	岡山県出身なので四国の地理や環境を知ることができてよかったです。
四国の自然環境と防災 その1	自由な時間に受講が出来ること。不明な点は何度でも視聴できる事。
四国の自然環境と防災 その1	自分の大学のある県の情報だけでなく、四国全体について知れたこと
四国の自然環境と防災 その1	e-ラーニングでやりやすかったです。
四国の自然環境と防災 その1	分かりやすい説明
四国の自然環境と防災 その1	四国の自然環境について学べた点。
四国の自然環境と防災 その1	香川の良さを知った
四国の自然環境と防災 その1	自分の知らない故郷四国の沢山の魅力を知ることができた

四国の自然環境と防災	その1	自分のペースで受講できる。
四国の自然環境と防災	その1	自分の住んでる地域のことをより深く理解することができた点。
四国の自然環境と防災	その1	四国の気候や地形などについて詳しく知れたところ。
四国の自然環境と防災	その1	好きな時間に受けられること。
四国の自然環境と防災	その1	私は出身が四国ではないため、四国を題材にした様々な課題を知る機会になり、とても有意義なものとなったと思う点。
四国の自然環境と防災	その1	四国の自然について少し関心が強くなったこと
四国の自然環境と防災	その1	授業内で発言している中で、スライドにない語句は、自分で調べなければ漢字や意味が分からないことが多く、その調べる行動が意欲的な学習につながった点。
四国の自然環境と防災	その1	自分の身近な四国内における自然環境についての知識を紹介してもらうことは、とても興味深いものでした。また、クイズにより理解度を測定してもらうため、より細かなところまで内容を把握する必要があり、単にレポートを提出したりするよりも記憶に残るものとなりました。
四国の自然環境と防災	その1	瀬戸内地域の環境をそれぞれの研究者や仕事などの観点からみることができた
四国の自然環境と防災	その1	面白かった
四国の自然環境と防災	その1	小テストが複数回受けれる
四国の自然環境と防災	その1	クイズ形式で答えやすかった
四国の自然環境と防災	その1	他県など、違う地域の話が聞けること
四国の自然環境と防災	その2	四国地方の特徴を学ぶことができる点がよかった。
四国の自然環境と防災	その2	災害と防災についての知識が身についた。
四国の自然環境と防災	その2	災害に備える意識をより高めてくれた。
四国の自然環境と防災	その2	四国のことを知れたこと
四国の自然環境と防災	その2	防災に対して関心が高まったこと
四国の自然環境と防災	その2	世間的に防災意識が高まっていく中で、四国での様々な取り組みなどを学べたのは良かった。
四国の自然環境と防災	その2	防災知識について学ぶよいきっかけになった
四国の自然環境と防災	その2	四国の自然環境とその防災について、四国出身ではない自分にも分かりやすく、興味を抱かせやすい内容となっていた点。四国について学ぶことのできる良い学習機会となった点。
四国の自然環境と防災	その2	講師の映像とパワーポイントのスクリーンが2画面で表示されている回があって、わかりやすく授業が進められた点。スライドが見やすかった。
四国の自然環境と防災	その2	自身が住んでいる地域について、これほど詳しい知識を得られたことが初めてだったので、とても有意義でした。
四国の地域振興	その1	自分のタイミングでできる授業でいいと思いました。
四国の地域振興	その1	私の全く知らなかった香川の産業が知れてよかった。
四国の地域振興	その1	早めにまとめて学習することができた点。
四国の地域振興	その1	四国の主な産業について学ぶことが出来た。自分の知らない香川や高知の産業についての学びが深まった。愛媛県だけに対する関心が四国全域の関心へと変わった点。
四国の地域振興	その1	今まで知らなかった四国の産業を知ることができてよかったです。
四国の地域振興	その1	ネット環境があればどこでも授業を受けられる点。
四国の地域振興	その1	四国のことについて知れた。
四国の地域振興	その1	四国の産業について各回の講義でわかりやすく説明されていたこと。 資料となる映像が多く飽きずに受講する事が出来たこと。
四国の地域振興	その1	四国のことがよく学べた

四国の地域振興 その1	学校でひらかれた授業をビデオ視聴によって受けることができたこと。四国についてより深くまで、スペシャリストが解説してくれるとこと。さまざまな分野から四国について知れたこと。
四国の地域振興 その1	理解していなかったところや、新しい発見が多くあって、おもしろかった。また、林業＝環境破壊産業というようなイメージがあったため、そうではないことをしれて本当によかった。何度も聞き直すことのできるため理解しやすかった。
四国の地域振興 その1	四国の産業などのことがよくわかった。
四国の地域振興 その1	新しいことが知れて、知識が向上した。
四国の地域振興 その1	様々な分野を学べた点
四国の地域振興 その1	自分のペースで進められた。
四国の地域振興 その1	四国のそれぞれの県の特徴を深く知ることができた。
四国の地域振興 その1	四国の産業への理解が深まった。
四国の地域振興 その1	授業スライドが映像とともに表示された点。
四国の地域振興 その1	内容を自分でまとめることで、より関心を持ちながら受講することができた。
四国の地域振興 その1	自分の時間の都合がいいときにできる。
四国の地域振興 その1	メールでレポートを提出できたことを知らせてくれて、点数も教えてくれた点。
四国の地域振興 その1	自分の空いた時間に計画的に受講できた点。
四国の地域振興 その1	四国の産業を学べる。より四国について知ることができた。
四国の地域振興 その1	課題として、自分の言葉でまとめなおすことで、より内容を理解することができた。
四国の地域振興 その1	四国の産業について詳しく具体的に学ぶことができた点
四国の地域振興 その1	多くの問題を知ることができた。
四国の地域振興 その1	説明や評価方法がとてもわかりやすく、学習に取り組みやすかった。
四国の地域振興 その1	香川県について詳しく学べることができたこと
四国の地域振興 その1	身近な地域の有名なことや問題点のついて知れたから良かった。 また普通の教室で受ける授業とは違い、以前行った内容が全てすぐに見返すことができ、自分の提出した課題も見ることができたので良かった。
四国の地域振興 その1	香川の産業を知ることができた。おいしいもの、いい製品を作っている。
四国の地域振興 その1	香川県や他の県について知らないことを学ぶいい機会だった。
四国の地域振興 その1	自宅でできる
四国の地域振興 その1	ビデオ教材を使わない形式の e-learning が、時間のロスが少なく、また、聞き取りにくいなどの問題もなかったため、やりやすかった。
四国の地域振興 その2	課題について調べ学習を行う課題が毎回あったため、理解をさらに深められたと思う点
四国の地域振興 その2	各回の講義の内容が深かった
コンピュータと教育 その1	授業の始まる前にはいつも先生からの挨拶があり、この会ではどういことを学ぶのか教えてくれたのでスムーズに授業に入りやすかった。
コンピュータと教育 その1	とても楽しかったこと
コンピュータと教育 その1	わからないところは何度も動画を視聴し、理解できるまで頑張れる点。
コンピュータと教育 その1	コンテンツの最初と最後に先生の旅での動画があったこと

コンピュータと教育 その1	テストがなかった点
コンピュータと教育 その1	スライドが分かりやすかった。
コンピュータと教育 その1	レポート形式なので自分の意見を言える場面があった
コンピュータと教育 その1	毎回講義の最初と最後に林先生が生出演される動画がありましたが、この動画が個人的にとても面白かったです！この講義の他にもいくつか e-Learning の講義をとっているのですが、その講義の先生方は淡々と授業を行われる先生が大半です。なのでその先生の人柄？のようなものまでは分からない場合がほとんどです。このコンピュータと教育の授業は、先生が生出演され、楽しい話をしてくださったことで、私自身も楽しく講義を受けることが出来ました。
コンピュータと教育 その1	コンテンツの長さが聞きやすい長さでした。学習内容の合間に、教授の話も挟まれており続けて聞くことができました。
コンピュータと教育 その1	締め切りが細かく設定されているので計画的にできた。
コンピュータと教育 その1	途中の問題で、学習者の立場で自分の意見を書かせる問題と GAI が用いられているゲームを探してくる問題が個人的には好きである。この問題によって、得られた知識や自分自身の考えもあった。
コンピュータと教育 その1	質問で重要なポイントが合致していたところ
コンピュータと教育 その1	スライドを用いて適切な説明がなされていた点。
コンピュータと教育 その1	授業コンテンツが分かりやすく整理されていた。
コンピュータと教育 その1	先生の話が面白かったので楽しく受講することができた。
コンピュータと教育 その1	自分は最初、コンピュータと教育に関する知識をほとんど持ち合わせていなかったが、ビデオや小テストを通してこれまで以上の知識をより深く身につけることができた点。
コンピュータと教育 その1	e-learning そのものに対する知識をつけるには最適
コンピュータと教育 その1	知らないことを知れた
コンピュータと教育 その1	論点が明確で、何を学習するのが提示されていた点。
コンピュータと教育 その1	スライドが分かりやすかった
コンピュータと教育 その1	動画コンテンツにおいて適宜省くことができる場所等の指示がありスムーズに講義を受けることができた点
コンピュータと教育 その1	一回目の課題提出で、この授業の評価方法などを述べさせてきちんと確認させたうえで、その次の回から学習が始まったので、この授業に取り組む意欲が向上した。
コンピュータと教育 その1	難しい内容も、なるべく簡単な言葉を選んで説明してくださっていたのが良かったです。講義の前後にある、講義説明の 3 分くらいの動画も面白かったです。
コンピュータと教育 その1	繰り返し視聴できる。教員の声や文字がはっきりとわかる。時間や場所に制約されない。
コンピュータと教育 その1	課題の提出期間を多くとってくれている点。
コンピュータと教育 その1	面白く話もしてくれて、楽しく授業を聞くことができた。
コンピュータと教育 その1	コンピュータと教育に関する歴史を学ぶことができたとともに、コンピュータ、学習者及び教師の三者の関係について考えることができた点
コンピュータと教育 その1	スライドに文字色の変化などの工夫があり、わかりやすかった
コンピュータと教育 その1	e-Learning の基礎知識を得ることができた点
コンピュータと教育 その1	先生がすごい細かいことまで説明してくれて楽しかった。
コンピュータと教育 その2	パソコンを使った授業にもいろいろな種類があることが分かった

コンピュータと教育 その2	コンピュータのシステムと教育について知ることができた点。
コンピュータと教育 その2	レポートをオンラインでだせること
コンピュータと教育 その2	説明が分かりやすかった
コンピュータと教育 その2	今後ますます使用していくであろうコンピュータシステムを多く知ることができた。
コンピュータと教育 その2	動画コンテンツの音声聞き取りやすく、解像度も良いので視聴するのに困らなかった。
コンピュータと教育 その2	自分の好きな時間帯に授業を受けられる
タンパク質で生命を斬る	興味があったので楽しく自分のペースで受講できました。
タンパク質で生命を斬る	課題がいくつかの小問に分かれていた点が、学習しやすいと感じた。
タンパク質で生命を斬る	専門的なことが学べたこと。
タンパク質で生命を斬る	内容の難易度がそこまで難しくなかったので、興味を持って楽しく学べた。 先生方の説明もわかりやすく、タンパク質についてさまざまなことを知れて面白かった。
タンパク質で生命を斬る	自分の興味にあっており、内容も難しいがわかりやすいように解説されていた点。
タンパク質で生命を斬る	動画が見やすいこと。
タンパク質で生命を斬る	自分で調べながら行うことにより、より詳しくなれた。
タンパク質で生命を斬る	自分が興味のある内容だったので非常に良かった
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	「製鉄」というものに焦点を当て、歴史から学んでいくことは新鮮で、毎回興味深かった。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	高校時代に、世界史を学習していたが、金属の歴史という観点から歴史について勉強することはなかったので、とても新鮮で興味深い内容だった。パワーポイントの資料の中に参考画像を載せていただいたので、授業内容理解の手助けとなった。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	最初に前回の講義の内容について触れてもらったので、どういった学習をしてきたのかを思い出しやすかった。地図で場所を示してもらったので、どの地域の話をしているのかがよくわかった。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	先生の講義は非常に専門的で知らない話が多く、面白かった。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	回の最後に授業のまとめを分かりやすくまとめてくれていたところでした。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	講義の内容が充実しており、資料がとても分かりやすく、受講しやすかった。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	多くの資料がちゃんと用意されていた点。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	鉄を含む金属の発見と伝来の歴史に初めて触れられた点。 馴染みのない分野に、触り程度の馴染みを抱くことができた。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	歴史の流れや地形をあまり分かっていなくても、金属の伝搬と一緒に理解することが出来た。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	専門用語についての説明や補足がきちんとなされており分かりやすく、先生の体験を交えた授業内容の解説がとても面白く興味を持って受講することができた。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	金属の歴史がわかりやすく紹介されていた
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	先生が分かりやすかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	理系の学生としての自覚をもつことの大切さと、これからの

	実験や研究に対する安全意識を高めることができたと思った。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	安全・安心を守るような仕事に就きたいと思っているので、安心な状態はどういう状態なのか、ハザードとは何か、リスクとは何かなど基礎的な事項を学べたので非常に有意義な授業だった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	小テストで理解度が確認できるのでよかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	全講義が一斉に開講されるため、早め早めに受講できること。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	最初は、この授業に対してあまり、関わりが無い話なのかとも思ったが、地震や火災、学生実験の安全に関する内容には、知るべき情報が詰まっており、これが、学習意欲につながった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	様々な大学教授の話を聞けるところ
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画とスライド資料ともにわかりやすかった
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	社会について学べた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	様々な分野からの視点で学べた
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	しっかりと資料を送付してあり、その後の学習を進めやすかったこと。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	講義自体は短時間であったが、やりやすかったと思う。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	普段の生活において意識することが増えた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	実験はしないのであまりよくわからなかったけど、雷とか火事とかについての内容はとても印象に残ったし、その通りにしようと思った
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	とても詳しく、また、わかりやすく学ぶことができた 色々なことを知るいいきっかけになった
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	ビデオで導入のような形で内容の説明を受け、資料を見て自分で学習をしていく形式で、頭に入りやすかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	大学の授業では学べないような内容を学ぶことができた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	受講者の自主性にまかせ、自分自身のペースで学習できた点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	色々な大学の先生方の講義があったところ。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	実用性がある内容だった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	災害時などの対応の仕方などが興味深かった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	PDF 資料が分かりやすかった点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	ひとつひとつの動画の時間が適切だった
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	毎回小テストがあること。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	一人でもできるとこ。 いつでもどこでもできるとこ。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースで進めることができる。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	安全について考え直すことができた。身近なテーマではあるが深く考えたことがなかったので今回学習できてよかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	気楽に学習できた。内容もためになった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	役に立つ知識を多く得られたと思うので良かったです。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	小テストに制限時間が儲けられていないため、理解していない部分をじっくり見直すことができた点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画が長すぎない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	身近の安全や安心について知ることができた
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画や資料で勉強したことを、小テストで理解度の程度を確認できた点が非常に良かった
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	様々な大学の教授の講義が受けれた点。 それぞれの専門的知識を有する人の話が聞けた点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	小テストが選択式である点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	普段の学部の講義では聞けないような話をたくさん聞いて非

	常に有意義だった
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	スライドがわかりやすく、今後にも役立つ内容なので、とても有意義な時間を過ごせます。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	大学生に必要な知識を身に着けることができた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	スライドがとても見やすかった点
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	すぐに日常生活に活かせるということ。数学や理科と違い、生活に活かせる講義というのは関心が高まり、尚且つ楽しい。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	火災についての講義では、危機意識を見つめ直すいい機会となった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	好きな時間に受講できるのが良かった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	自分のペースをたもてる
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	簡潔に内容がまとめられててインプットしやすかった
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画が短く、要点がすぐ分かった。足りない部分をパワーポイント資料で補うことができた。 通常的生活および学生生活に潜む危険についてその対処法も含め分かりやすくまとめられていた。
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	知らないことを知れた。
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	テーマに沿って動画やテキストが細かく分けられている
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	普段、身近だからこそ考えることもなかった日常生活の事象の原理を学ぶことが出来たことが印象的であった。
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	資料が写真などが多く見やすくわかりやすかった。 課題についても動画内や資料で説明されており、集中して聞くことができた。 動画の先生の話し方が比較的聞き取りやすくよかった。
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	課題の問題が工夫されていた。
飛行機はなぜ飛ぶのか	最後の紙飛行機の課題がとても楽しかったです。
飛行機はなぜ飛ぶのか	課題提出の期限が長いので忘れていたと気が付いた時に挽回が可能な点。
サイエンスリテラシーの化学	化学が単純にもっと好きになった
サイエンスリテラシーの化学	レポートで内容を整理してから、確認テストがあった点。
気象学入門	日々の気象に関する知識を学習できた
気象学入門	話の展開が非常に掴みやすく構成されていた。図や写真が多用されており、内容の濃い授業であった。
気象学入門	動画が30分程度に小分けにしてあったので画面をずっと見なくてすんだ。
気象学入門	映像の内容が非常にわかりやすかった。
気象学入門	授業がわかりやすかった。
気象学入門	授業を受けるまで興味がなかったことに少し興味がもてた
気象学入門	身近な天気について知ることができた点。
気象学入門	気象についてわかりやすく、より興味を沸かせるような講義だった。
気象学入門	図表や実際の画像が多くて見やすかった 実験の様子などもあり分かりやすかった
気象学入門	説明が分かりやすかった
気象学入門	気象について興味があり受講したので、知的好奇心が満足できる内容だった。 天気予報が理解できるようになったり、普段空を見上げる機会が増えたりとさらに気象に興味が出てきてよかった。
気象学入門	自身の身近にあるにも関わらず、非常に知識が乏しい分野で

	あったので、初心者向けの難易度から授業が始まり、生活に役立つ知識まで得ることができた点は、非常に有意義であったように思います。
気象学入門	実験映像や実際の事象がみられたこと。
気象学入門	授業がとても分かりやすかった。
気象学入門	気象学について非常に様々なことを深く教えてくださったので、幅広い知識が身に付いたと感じている。
気象学入門	気候については初めて学んだが、意外と面白かった。
気象学入門	PDF も配布されるため、手元の資料を見ながら授業を見、また聞き返したりできたため非常に講義が受けやすかった。また、教授の声も聴きやすかった。
気象学入門	基本的な気象の知識が広く学べた 講義の要約課題は授業を受けるモチベーションのアップと理解の促進につながった。
有機化学概論	教材が適切な難易度だった。
海洋基礎生態学	ビデオ形式であるため復習が容易に行える点
海洋基礎生態学	自分の都合に合わせてられる
海洋基礎生態学	各パートで何について話しているのか香がとても明確でよかった。
海洋基礎生態学	自分のペースで進められた点。何度も巻き戻しができる点。
海洋基礎生態学	進行がゆっくりなので聞き漏らさず受けられる
海洋基礎生態学	最初は興味がなかったのですが、最終的に関心が深まってよかったです。
海洋基礎生態学	内容も面白く、とても興味を持って聴くことが出来た。また、自分の都合に合わせて授業を受けられるという点も良かった。
海洋基礎生態学	好きな時間にできる。
海洋基礎生態学	海洋生態学の基礎から学べ、専門外の知識もフォローされていた点。
海洋基礎生態学	小テストの難易度が難しすぎず易すぎず適切であり、提出期限も課題に追われる等の気持ちにならない日程でちょうどよかった。
海洋基礎生態学	海洋基礎生態について知ることができた。
海洋基礎生態学	先生の話が聞きやすい。
海洋基礎生態学	先生が具体例をよく出してくれた点
海洋基礎生態学	小テストの講評があり、自分の解答の足りない点に分かるのが良かった。
海洋基礎生態学	他の e ラーニングの授業では、スクリーンに映されたものをビデオに撮っていたので見づらかったが、この授業ではスライドをそのままビデオにしていたので、とても見やすかった。
海洋基礎生態学	ビデオの長さや Chap の長さがちょうどいい長さだった わかりやすかった
海洋基礎生態学	何度か聞くことでスライドの内容以上の内容が得られた。

問 23. この授業について、改善してほしい点を、具体的にお書きください。（「なし」等の回答は削除）

知の探訪	ビデオの再生時間が 90 分を超えており長すぎること。
知の探訪	提出期間が短い。
知の探訪	レポートが多すぎる
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	年末の提出を見逃してしまった。できれば、冬休みの提出日はやめてほしい。
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	通常講義がない冬休み期間に課題締め切りを設定しないようにしてほしい。
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	課題の量が多いこと
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	ビデオの中で先生が咳き込む回数が多いときがあったところ
モラエスの徳島 —グローバルズムと異邦人—	レポートの多さ、期間の短さ
日本におけるドイツ兵捕虜 —四国の収容所を中心に—	一週間に 40 分ほどのビデオを二本見て、A4 のレポートをそれぞれ一枚ずつ書くのは大変でした。
日本におけるドイツ兵捕虜 —四国の収容所を中心に—	他大学の生徒へのコメントは必要ないと思う。各回のレポートを送ってから 30 分待たないとコメントを打てないので、待つ時間がもったいない。
日本におけるドイツ兵捕虜 —四国の収容所を中心に—	実際の録画現場で指示棒を使って場所等を指し示している事がありました。それは画面端に小さく映っているだけで、メインの大きなスライドには反映されていないので、どこを指しているか分かりにくい事が多々ありました。
現代科学と研究倫理	授業によってはスライドの文字が読めなかった。（特に現代社会と研究倫理の第 7 回のスライドはフォントを大きくするか、読めるように資料を置いておいてほしい。）
現代科学と研究倫理	時に、PDF が配布されず、かつ授業映像がぼやけており、文字が読めない時があったので、PDF を配布するようにするか、カメラのピントををモニタに合わせてほしい事がありました。
現代科学と研究倫理	動画の画面の大きさが小さいものや画質の悪いものがあり、スライドが見えにくかった点
現代科学と研究倫理	内容が重複している回や、書いてあることを読み上げるだけの授業はあまり面白くなかった。
現代科学と研究倫理	授業によっては画質が悪く、文字が見えないことがあった点。
現代科学と研究倫理	ビデオの画質が悪いときがあった点。
現代科学と研究倫理	課題を少なくしてほしい。
現代科学と研究倫理	表示される動画のサイズを大きく統一してほしい。
大学の知の活用	スライドの文字が小さくて見にくいことがあった。 このことから、授業の動画だけでなく、スライドを資料として全てのセクションにつけてほしい。 字幕機能があればもっと良かった。 動画が複数に分けられおり、一つの動画が終了するたびに授業ページへ戻るのが集中も途切れ、面倒だった。連続再生ができるようになればいいと思う。
大学の知の活用	スライドの文字を小さくしすぎないようにしてほしい。画質が良くないので小さいと見ないことがある。
大学の知の活用	動画を再生していたら、止まることがあった。問題を解いているときにもアクセスが悪くなってしまい、途中で強制終了させられたこと。
大学の知の活用	一回の授業に複数のテストや講義があるので一つにしてほしい。 また、愛媛大学の講義のプレゼンのスライドが見にくいこと。

大学の知の活用	授業が開講されるのがとても遅かった。 遅くなる場合にはいつから開講されるのかを明確にしてほしい。
大学の知の活用	締め切りを過ぎてしまう前に通知が来てほしいという事とシラバスに締め切りがあることを記載してほしい。
大学の知の活用	徳島大学の先生の声が全く聞こえなかった。
大学教育を考える	最初、なかなか授業が受けられなかったので、今後はそのようなことがないようにしてほしい。
大学教育を考える	返信の返信をしなければならないが、ぎりぎりまで誰もコメントをしてくれていないときがあり、困ることがあった。
大学教育を考える	レポートに対する返信について、締め切りギリギリになると返信してくれない可能性があるため、評価をつける基準としては適切ではないと思う。
大学教育を考える	授業が分かりにくいところがあった点。
大学教育を考える	少々ビデオ時間が短かった点。
行動統計学入門	授業で使っているスライドを課題とか授業の動画とかが貼ってある所に、一緒に貼ってもらえると、復習しやすかったと思う。
行動統計学入門	質問コーナーについて：もう少し他の受講者含めて活発なディスカッションがしたかったです。 講義ビデオなどで紹介されていた「公式」として覚えることが多すぎると思いました。(私は数学的に統計学を少し学んだことがあります、そのように感じましたので他の受講生の方、特に文系の方などは相当きつかったのではないのでしょうか…) 個人的な意見ですが、もう少し基本的なものに絞り、その公式の背景からしっかりと理解できるようにしたほうが良いのではと思いました。 通常課題について：通常課題の例解を出すのが遅いです。答えだけではなくて(簡単に構わないので)求め方も教えてほしいです。また通常課題の中にもエクセルを使って解く問題やエクセルの計算式を応える問題が含まれており、エクセル課題と分けている意味がよく分かりませんでした。 エクセル課題について：第1回から最終回まで全くフィードバックが無いことが困りました。あっているところ、間違っているところを教えていただければ、自分の認識が間違っていることに気付き修正することができます。フィードバックが全くないと、最後まで間違った理解で進んでしまうと思います。
行動統計学入門	一週間に二講義は多すぎる。動画で話していないことを課題に出すのはやめてほしい。毎回ネットで調べなければならなかった。 課題も多すぎる。パソコンを使わなければならない課題(Excel など)は特に時間がかかるため、分量の見直しをするべきだと思われる。復習する時間も全くとれない。 先生側のミスでシラバスに予定されていない時期に課題を増やして再提出させるのはおかしいと思う。シラバスの意味がない。 課題の締め切り日が表示と違っていた。 締め切り後にも課題が提出できたが、締め切り内に間違いがある状態で提出した場合と締め切り後に訂正して提出したのでは評価がどうなるのかははっきりさせてほしい。 期末レポートの前にすべての回の解答が欲しかった。解答に

	<p>も解説が欲しい。毎回先生に質問して解答が得られるまでを締め切り内の 1 週間にこなすのは時間的に難しいと感じたので。</p> <p>動画の音声聞き取りにくい。</p> <p>期末レポートの受験要項か心得かがどこにあるのかわからなかった。</p>
阿波学	<p>遍路を行う際の事前説明を配信する必要はないと思う。</p>
自動車概論	<p>音声がかなり小さかったです。</p> <p>パソコンと動画の音量を最大にしても、聞きやすいとは言えなかったので、音量が改善されればもっと良い授業になると思いました。</p>
自動車概論	<p>講義内の映像に関して、もう少し先生の声の音量を大きくして頂きたいと感じた。</p>
自動車概論	<p>対応しているブラウザが少なすぎる点</p> <p>フィードバックが遅い点</p>
自動車概論	<p>動画が見れなかったり途中で終わったりすることがあった。</p>
情報のいろは	<p>計算問題が少し難しかったのでもう少し丁寧な解説をしてほしかった。</p>
情報のいろは	<p>難しかった</p>
情報のいろは	<p>特に無いが、強いて言えば最終課題がそれまでの課題に比べてかなり難しく思えたので、そのギャップを無くしてもよいのではないかと思う。</p>
情報のいろは	<p>後半は問題の内容が理解しにくいところもあったので、もう少しだけかみ砕いてもらえたら嬉しかったです。</p>
情報のいろは	<p>追加課題が難しいところと簡単などころの差があった。</p>
情報のいろは	<p>意見を交換してみたい</p>
情報のいろは	<p>手書きで提出できるところを少し増やして欲しい</p>
情報のいろは	<p>追加課題についての軽い説明が欲しかったです。難しいと思った追加課題は、用語などをネットで調べるなどして解こうと努力しましたがさっぱり理解できなかったです。ヒントだけでもいいので解説して欲しいです。</p>
情報のいろは	<p>課題が難しい所。</p>
情報のいろは	<p>映像がたまに途切れたりする。</p>
情報のいろは	<p>少し内容、質問が難しかった</p>
地域コンテンツと知財管理 その1	<p>最終課題の締切日が3種類表示されていた。</p> <p>20日が締切であるのに、20日から受験できますと書いてある部分があり、受験しそびれるところだった。</p> <p>最終課題の第5問の解答方法が問題文では文章で答えるように読み取れるのに、ヒントのカギかこの穴埋め形式であった。そのため、回答方法に迷い、本来ならば正解であるのに不正解になった。GPAが下がる可能性があるので対応してほしい。</p>
地域コンテンツと知財管理 その1	<p>授業内容と、クォーター制度がかみ合っていない点。知的財産管理技能検定の勉強を中心においている都合上、様々な分野を勉強できるというメリットよりも、中途半端に学習が終わってしまいかねないというデメリットの方が大きい。仮にその1を受けたのちに、その2が抽選漏れした場合、その2の内容を、講義なしに独自に勉強せざるを得なくなる。(現に私は抽選漏れしたため、これからの勉強に不安を持っている。)</p>
地域コンテンツと知財管理 その1	<p>全体を通して最新の内容でなかったこと。</p>
地域コンテンツと知財管理 その1	<p>小テストにおいて、一回目の受験をした後、どの問題が間違</p>

	っていて自分が何点だったかを知ることができないことが不便でした。前に受講していた e-ラーニングでは毎度点数がわかっていたため、2 回目の受験がしやすかったです。
地域コンテンツと知財管理 その1	映像が途中で止まってしまい、動かなくなることがありました。(自宅の PC・大学の PC からのアクセス) 一度閉じて、再度動画を立ち上げると何事もなかったかのように最初から再生されるため、少し不便を感じました。
地域コンテンツと知財管理 その2	小テストを受けた後のレビューで回答が正解か、不正解かを示してほしい。 解説のようなものは表示されるが、それを呼んでも自分の回答があつてどうかかわからず、結局最後まで理解できないことがある。
香川を学ぶ その1	価値のある内容の濃い授業がよい。
香川を学ぶ その1	上でも述べたが、画質、音質の問題で視聴に難があることがあった。
香川を学ぶ その1	スクリーンに映像が映っていない講義が多かった。
香川を学ぶ その1	声が聞き取りにくい場面があった。
香川を学ぶ その1	映像が対面授業を録画したものであった点。
香川を学ぶ その1	カメラがいろいろな方向に向くので、固定してほしい
香川を学ぶ その1	動画を再生する時にたまに不具合が生じ、上手く視聴できない時があった。
香川を学ぶ その2	映像が少し飛んでいた点。
香川を学ぶ その2	おとが割れたて聞こえにくい回があった・
香川を学ぶ その2	解像度
瀬戸内地域活性化政策 その1	重点的な部分だけ伝えて欲しい。 絶対知っておいた方がいいことだけでいい。
瀬戸内地域活性化政策 その1	小テストの制限時間が少し短いように感じたので、5分くらいがちょうどよいのではないかと思った。
瀬戸内地域活性化政策 その1	リンクされていたユーチューブが再生できず見ることができなくて、しかもそれが小テストにでたので解けなかった。
瀬戸内地域活性化政策 その1	生徒側が実際にフィールドワークに参加していることを前提としたこの授業を e-learning で他大学の生徒に提供することの意義・効果に疑問を持った。
瀬戸内地域活性化政策 その1	小テストの内容が地域活性化について関係ないものが多い。
瀬戸内地域活性化政策 その1	まれに動画が再生できないことがある点
瀬戸内地域活性化政策 その1	内容量が多く感じたのでもう少し減らしてほしいです。
瀬戸内地域活性化政策 その1	聞き取りやすくしてほしい
瀬戸内地域活性化政策 その1	期末レポートに関しては問題文をもっと具体的に書いてほしい
瀬戸内地域活性化政策 その1	政策の事例をもっと多く取り上げてほしい。
瀬戸内地域活性化政策 その2	固まってしまってそのまま動かないということがよくあった。別の e-learning の授業でもこういったことが頻繁に発生していたので改善していただきたい。
瀬戸内地域活性化政策 その2	なかなかレポートの結果が採点されないの、提出できているのか不安になる。
瀬戸内地域活性化政策 その2	データが古いので新しいものを提示してほしい。
瀬戸内地域活性化政策 その2	活性化の具体的な事例をもっとたくさん取り上げてほしい。
瀬戸内地域活性化政策 その2	映像資料の要点をまとめてほしいと思った。
瀬戸内地域活性化政策 その2	区切りを見返す際、時々最初に戻る点 そしてチャプターの区切り以外で動画を再生しようとスクロールを動かすと動画が最初に戻ってしまい、再生できない点。
瀬戸内地域活性化政策 その2	1つ1つの項目が長すぎる点。

瀬戸内海論	その1	資料がないときがあったので、まいかい資料をつけてほしい。
瀬戸内海論	その1	たまにだが、音声途切れることや画質の悪化が目立った。
瀬戸内海論	その1	受講のためのアクセスをもう少し簡単にしてほしいです。
瀬戸内海論	その1	授業が長いこと。
瀬戸内海論	その1	映像の質
瀬戸内海論	その1	所々内容が専門的で難しく、理解しがたかった点
瀬戸内海論	その1	授業時間にばらつきがある点。
瀬戸内海論	その1	寮で受けられないということを事前に言っていてほしかった。10時まで学校に残ってやらないといけなくなったとききつかった
瀬戸内海論	その1	スライドが見にくいときがあった。
瀬戸内海論	その2	動画の横にあるスライドの画質が少し悪かったように思う。
瀬戸内海論	その2	資料がほとんどの授業で提供されなかった点。 スライドの切り替えが早すぎて見にくい時があった点。
瀬戸内海論	その2	資料がほしい。
瀬戸内海論	その2	声が少し聞き取りづらい点。
瀬戸内海論	その2	講義スライドが見えにくい講義があったので、見えるように修正してほしい。
瀬戸内海論	その2	同じようなテーマが違う先生から繰り返し授業されて、退屈に感じたことがある。
瀬戸内海論	その2	授業を一斉に公開してほしい。
瀬戸内海論	その2	講義映像の始まりの授業に関係のない話を減少してほしいと思った。
香川の文化と歴史	その1	参考資料が表示されなかった。
香川の文化と歴史	その1	動画が長い
香川の文化と歴史	その1	画像と音声がかき乱れている回が数回あってイライラした
香川の文化と歴史	その1	講義映像はもう少し、要点をまとめてほしいと思ったことがあった。
香川の文化と歴史	その1	スライドを印刷するのに黒い背景に白い文字なのがあって、それが見にくかった。
香川の文化と歴史	その1	小テストの質問に分かりにくいものがあった。
香川の文化と歴史	その1	映像を止めて再開するとき、シークバーが最初からになったり、もう一度リンクから入り直さないといけなかったりする
香川の文化と歴史	その1	時々音声に乱れがあったので改善してほしい
香川の文化と歴史	その1	テストの採点
香川の文化と歴史	その1	字が小さくて見えないときがあった
香川の文化と歴史	その2	時々画像がぶれたり止まったりしたので受講しにくかった また、配布資料にパスワードがかけられていて見ることができなかった
香川の文化と歴史	その2	締め切り日に締め切りだということがわかるような機能があればなお良いと思うがそこまで問題ではない。
香川の文化と歴史	その2	講義ごとに話す人が変わる点については問題ないですが、活舌が少し気になる方がおられました。話す人は変えなくて良いので、字幕や、単語の説明が簡単についているとありがたいと思いました。
香川の文化と歴史	その2	1つの小テストにつき期限を1つにしてほしい
香川の文化と歴史	その2	コンテンツが多い時がある点
四国の歴史と文化	その1（歴史編）	レポートの項目はもう少し自由度があればいいと思う。
四国の歴史と文化	その1（歴史編）	田中教授のレジュメが分かりにくかった。映像授業の際には口頭では伝わりにくいことが多いためもっとスライドに文言を書き込んでほしかった。

四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	配布資料の画質が悪い 映像に映している画像にレーザーポインターやカーソルを向けているのはわかるが、どこを指しているのかわかりにくかった
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	映像と音声は汚く聞き取りにくい。資料と話している内容が違う。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	記述式の回答が間違っていた時などになぜ誤答であったのかが分かるように誤答例などを載せてほしい。同じ人物であるのに呼称が違うなどでまちがいにしているものが結構あった。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	画面が荒いので教授がどこを指しているのか、どの資料の話をしているのか分かりづらかった。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	参考資料のPDFをもっとわかりやすくしてほしい
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	写真等を多く利用しているのは良いが、そのスライドが早く進みすぎた点。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	レジュメの無い講義があった。
四国の歴史と文化 その1 (歴史編)	黒板に書く文字をもう少し見やすくしていただきたいです。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	最後から2つ目の講義は音質が悪く、聞き取りにくかった。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	最終課題の目安(文字数など)が分かりづらく、また内容も難しいので×切を1週間延ばしてほしい。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	大きい講義室で行われている授業において、しゃべり声などの影響で音声が非常に聞き取りづらかった点。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	講師の音が聞き取りにくいことがあり、その授業の内容が全く理解できなかった。
四国の歴史と文化 その2 (文化編)	「第2回 四国の万葉集と古代史」と「第6回 菊池寛について」の音声が悪すぎる。(特に第2回)
四国の自然環境と防災 その1	テストの制限時間が問題の割に少ない点
四国の自然環境と防災 その1	授業の登録の仕方や、最終レポートの提出方法がわかりにくかったので改善してほしい。
四国の自然環境と防災 その1	配布資料を毎回アップロードできるようにしてほしいです。配布資料がない時不安でした。 動画の再生速度も調整できたらより良いなと思いました。
四国の自然環境と防災 その1	音が聞き取りにくい動画がいくつかあったので、直せるのであれば直してほしいと思った。
四国の自然環境と防災 その1	昔の、酷いときには10年以上前の講義の映像があり、しかもそのような映像の数が多いと感じたので、新しい講義の映像を充実させるべきです。 また、講義を行っている先生の問題でもあるのかもしれませんが、講義の音声が不明瞭のものがあり、よく聞き取れませんでした。
四国の自然環境と防災 その1	ビデオ等のデータが少し古いと感じました。数年にわたって同じ講義かなと感じています。
四国の自然環境と防災 その1	長い動画を見るのがつまらない
四国の自然環境と防災 その1	映像があれるところ
四国の自然環境と防災 その1	ムービーの画質が悪い
四国の自然環境と防災 その1	動画を少しだけ巻き戻しする操作がうまくいかなかったこと。
四国の自然環境と防災 その1	自然環境の説明に多く焦点があてられて、タイトルに比べて防災についての内容が少なかった点。
四国の自然環境と防災 その1	講義のVTRで聞き取りにくいところが時々ありました。配布資料にのっていないことである場合が多かったので、何度もまきもどして確認しなければわかりませんでした。

四国の自然環境と防災 その1	区切りが悪いところで動画がきれて次のを再生する必要があった
四国の自然環境と防災 その1	動画が再生環境によって見れない
四国の自然環境と防災 その1	小テストの時間が短過ぎる
四国の自然環境と防災 その1	家で動画を再生したら動画が乱れた
四国の自然環境と防災 その1	講義の内容をなるべく新しいものにしてほしい
四国の自然環境と防災 その2	動画のノイズを改善してほしい。
四国の自然環境と防災 その2	すべての回に資料をつけてほしい
四国の自然環境と防災 その2	期限が短い点
四国の自然環境と防災 その2	講師の映像とパワーポイントのスクリーンの2画面で表示されるように、すべての回を統一してほしい。
四国の自然環境と防災 その2	中間・期末テストの掲載日を事前に知らせてほしかったです。
四国の地域振興 その1	レポートが多い点。
四国の地域振興 その1	映像が乱れたり、急に飛んでしまうことがあった点。
四国の地域振興 その1	手書きで出せるようにしてほしい。
四国の地域振興 その1	一部の映像で音声聞き取りにくい箇所があったこと。 四国地域の現状を知る上で提供される情報が少し古い物が多かったこと。
四国の地域振興 その1	時間がすごくかかる
四国の地域振興 その1	授業の録画を使っているが多かったため、聞き取りにくい映像が大半だった。ガイダンス、第一回の課題の提出期限が登録日より前であったのはおかしいと思った。課題のビデオごとの概説を書く部分もビデオごとに話の切れ目があるわけではないため、とても書きにくい。概説とビデオを見ての問題など、もっと軽い課題にしてほしい。
四国の地域振興 その1	録画している教材で聞き取りにくいものが多々あった。
四国の地域振興 その1	毎回課題がヘビーである。
四国の地域振興 その1	講演会で上映されている動画の様子を撮影していたコンテンツは音声聞き取りにくい部分があった点
四国の地域振興 その1	授業の動画を視聴して、その内容をまとめるという課題で、動画の分け方が微妙な時があった。最終課題の記述式の場合の指定文字数と記述式でない場合の指定された文字数が一緒なのは、おかしいと感じた。
四国の地域振興 その1	字幕が無いと聞きづらいところが見受けられた。 特に講義を撮影したものの音声少し聞きづらかった。
四国の地域振興 その1	新しいビデオの作成、聞き取りがやや困難な所、ビデオが不鮮明な所があった。
四国の地域振興 その1	映像に字幕などがあればいい。
四国の地域振興 その1	学習量が多すぎて、負担を感じる時があったので、もう少し学習量を減らしてほしい。
四国の地域振興 その1	動画の画質、音声。
四国の地域振興 その1	夜になると接続が悪く動画が視聴できなかった。ほかのPCでも試したができなかったため、私側の問題ではないと思う。ほかのeラーニングを受講している友達に聞くとそのようなことは起こっていないと言っていた。提出期限前日の木曜日に視聴者が増え、接続が悪くなるのは仕方ないと思うが、ほかの曜日でもそうなるので困った。
四国の地域振興 その1	ビデオが聞き取りにくいところや私語が入っているものがあった。各回のコンテンツの内容を概説せよとの課題だったが、ビデオが話の途中で区切られていることがあり、やりにくかった。
四国の地域振興 その1	授業を実際に受けるよりも時間がかかること。

四国の地域振興 その1	ノイズが入って音声少し聞き取りづらいところがあった。
四国の地域振興 その1	昔の講義映像を流しその概要を要約する授業は、聞き取りにくい点が多かったので要約が難しいと感じた 動画が長いうえに課題の量が多いため大変
四国の地域振興 その1	動画の音声聞き取りにくいところがあったので改善してほしい
四国の地域振興 その1	できるなら音声を聞き取りやすくしてほしい。大音量にしても雑音だけが大きくて、講師の方の声が聞こえない回があったため。
四国の地域振興 その1	教材としての動画の様式が違うものがあったので、統一されているとより良いと感じた。
四国の地域振興 その1	実際の講義を写している動画があったが音声が小さく雑音があり、非常に聞き取りづらかった。今後改善してほしい。
四国の地域振興 その1	ビデオにおいて雑音が多い。
四国の地域振興 その1	音声の粗さ
四国の地域振興 その1	非常に講義内容聞き取りにくいビデオ教材があった。課題を進めるにあたり、かなり苦労した。
四国の地域振興 その1	聞き取り難い話し方 声の抑揚など
四国の地域振興 その1	課題が多すぎる
四国の地域振興 その1	音量や声の鮮明度に注意してほしい。
四国の地域振興 その2	レポート量が多すぎる
四国の地域振興 その2	録画・録音機材によるが、音質の悪いコンテンツがいくつかあり、聞き取れない部分があった点
四国の地域振興 その2	講義を聞きレポートを作成するため作業量が多く、eラーニングの強みである 「行う時間を自由に決めることができる」点が結果として潰れてしまっている。 平日に行おうとしてもバイトなどの都合で時間が取れないため結局土日やることになってしまう。
コンピュータと教育 その1	もう少し文字制限数を減らしてほしい
コンピュータと教育 その1	もっと答えやすい問題提起をしてほしい
コンピュータと教育 その1	レポートで指定される字数が多すぎると感じる点があった点。
コンピュータと教育 その1	もう少し画像を多くして、動画の実況風の授業にしたら面白そうだった。
コンピュータと教育 その1	音質が悪かった
コンピュータと教育 その1	減点があったとき、どこが間違っていたのかを教えてください。
コンピュータと教育 その1	コース登録期限の前に課題の提出期限を設定しないでください。
コンピュータと教育 その1	記述量の多さ。
コンピュータと教育 その1	後半に進むにつれて専門性の強い講義となり、学習者が内容の理解に追いつけない点。動画の視聴時間が長すぎる点。
コンピュータと教育 その1	各回の課題レポートの文字数が多い。 動画の1本あたりの収録時間が長い。
コンピュータと教育 その1	課題の問題文が時々、漠然としすぎていて何を解答すればよいか分かり難かった
コンピュータと教育 その1	1枚当たりのスライドにかける時間が少々長いように感じました。 もう少し、1枚に書く情報量を減らしてもいいのではないかと感じました。
コンピュータと教育 その1	余談をなくしてほしい。説明を簡潔にしてほしい。
コンピュータと教育 その1	ビデオが長すぎる時があること。

コンピュータと教育 その1	いくつかの問題でコンテンツの中での説明が足りない部分があると感じた。例えば、バグモデルとレイヤーモデルに関する問題。
コンピュータと教育 その1	第8回の際、著作権の関係からモザイク処理されている部分があったが、そのせいでいっていることがわかりづらかったため、その部分を利用するのなら別に資料が欲しいと感じた。
コンピュータと教育 その1	たまに、ハンドアウトが開けなかったり動画に飛びが生じている点
コンピュータと教育 その1	VR など、新しいものが出ていますので授業を部分的にでもアップデートしてほしい
コンピュータと教育 その2	イーラーニングなんて授業をする人の喋りが上手いかどうかで面白さが決まるのに、それに注意をして話しているようには見えない。落語家や、ラジオの出演者なんかと比べたら、まったく喋りがなっていない。まあ一般の大学教授にそれを期待するほうがおかしいとは思いますが、それにしても授業を受けて落胆した。面白くもない授業を毎週受けていて、本当につらかった。普通の講義ならば、面白くなければ寝るなり内職するなりもできるが、これは授業を聞いていないと課題ができないので大変だった。なぜ同じ動画作成者であるユーチューバーや実況者なんかが大きな支持を得ているかを考えてみてほしい。
コンピュータと教育 その2	人数が多いので無理かもしれませんが、できれば先生の学習者の解答に対してのコメントやアドバイスなどがあればいいなと思います。
コンピュータと教育 その2	具体例が少なく、理解しがたい点
タンパク質で生命を斬る	薬に関するクイズは少し難しかったように思う。
タンパク質で生命を斬る	あまり化学の知識がない文系の学生にもわかるような言葉を選んでもらえると、もっとわかりやすいと思う。
タンパク質で生命を斬る	課題が多すぎたので少し減らしてほしい。
タンパク質で生命を斬る	自分の言葉で説明しなさい、という指示があったが、たまに、スライドや授業内での言葉でそのまま課題の答えを述べている場合があり、そのようなときに自分の言葉のみで答えるというのは難しかった。 そのような指示があるなら、課題をもっと応用したものにするか、スライドなどでそのまま回答になるような部分を除いてほしいと感じた。
タンパク質で生命を斬る	他者がフォーラムに投稿したときの通知を受講途中であっても設定できない点。あるいはその方法に関する情報が見つかりにくい点。
タンパク質で生命を斬る	画質の向上をお願いします。
タンパク質で生命を斬る	たまにビデオが表示されるが再生されないことがあった
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	設問の意味が少し理解しにくく、質問もできないため問題の回答に自信が持てず単位の取得に不安がある。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	一部資料を見ることができないことがあった。その点を改善してほしいと感じる。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	課題の質問内容が曖昧で具体的に何を問いかけているのかよくわからないものが多々あったので、なにを訪ねているのかはっきりとわかるように書いてほしい。
ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	動画中でのスライドが見えにくい。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	せめて時間内は質問に対応できるようにしていただきたいです。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	上にも書いたが、小テストの問題をもう少し増やしてもいい

	と思った。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	moodle 内の質問コーナーに投稿している人がいたが、一週間経っても返信がないことが気になった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	もうすこし小テストの問題を増やしてほしい。もっと多く重要なこともあると追うため。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	講義ビデオの内容が、その講義のさわりの部分に達していないものがあつたので、もう少し掘り下げてほしい。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	字幕がほしいと思います。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	PP で資料が送られてくると分かりづらいのでせっかく有名な教授様方に教えてもらえるチャンスなので映像がよかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	夜、学習するときに動画の動きが悪かった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	スマートフォンで見られなかったのが不便だった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	評価の基準をしっかりとパーセンテージなどで表してほしい。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	課題が少ないところ。小テストも、問題数が少なくしっかりとその単元が身につけているか分かりにくかった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	視聴し忘れていたら催促のメールが欲しい
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画が途切れることが多かった。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	はじめて受講しましたが改善してほしい点は特になかったです。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	パワーポイントを参照しながら進めていく授業のほうが理解しやすかったので、そのような授業を増やしてほしいと思った。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	周りに受講者ももっといれば相談しやすいのではないかと思った。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	もう少し小テストの問題数を増やしてほしいです。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	スライドの文字が小さくかつ多いため非常に見づらい点。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画での解説をもう少し増やしてほしい
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	もう少し動画を長くしてほしい。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	少し内容が難しいなと思う点があつたので、改善してほしい
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	映像部分があまり詳しくない
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	小テストが選択肢問題のみだったため簡単すぎた。論述やレポート課題が少しはあってもいいかもしれないと感じた。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	講義が数分しかなかったのが驚いた。講義が基本何分くらいで、そのあとどのくらい資料を読み込めばよいのかなどを明記しておくだけでも安心できたのではないと思う。
大学生のための『安全・安心』の基礎講座	動画を再生されなくなるのをなおしてほしい
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	映像内のテレビ画面が見ずらかった。 配布されていないテキストがあつた。
太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	締め切り直前にまとめてやったら成績を下げるかもしれないというような内容があつたが、具体的に締め切り直前にまとめてやるという状況をあげてほしい。そもそも、キャンパスの授業との兼ね合いであえて時間を拘束されない e-learning をとっているのだから、受講時期を決めるのは受講生の自由ではないのか。
飛行機はなぜ飛ぶのか	xlrif5 の使い方がかなり詳しく説明があつたけどやっぱり難しかったです。
飛行機はなぜ飛ぶのか	アプリをダウンロードしなければ提出できない課題に関しては操作が難しくできなかつたのでわかりやすい方法を示してほしい。
飛行機はなぜ飛ぶのか	他の受講者の投稿に対してのリプライを義務として課しているにもかかわらず、課題の提出の締め切りをすべてまとめて同日にしていたこともあり、課題の提出のタイミングに、受

	<p>講者ごとに大きくずれがあり、早めに提出をしてしまった人ほど、より授業の計画を立てにくかったのではないかと思う。また、そのリプライも、とにかく3名に対して返信すればいい、といったニュアンスで受け取れる内容であったため、建設的なディスカッションは期待できないような状況になっていたと思うし、実際そうなってしまっていたように見える。また何よりも他に有用なアプリがなかったのかもしれないが、落ちやすいことが前提となっているアプリを、課題のために利用するのはいただけないと感じた。加えて、講義が始まった最初の段階で、フォーラム投稿を課題としていたのに、それが受講者に許可されていない状況になっていたことも、あまりにお粗末なのではと正直感じた。最後に、映像がうまく再生できない点に関して、こちらの問題だったのかもしれないが、提示された内容はもうすでに試した状態であったため、結局解決はしていない。今一度そちらの状況も確認していただきたいと思う。</p>
サイエンスリテラシーの化学	レポートの書き方の具体例を授業開始前から示して欲しかった
気象学入門	似たような話がかぶる回が多かった。重要なところをもう少しゆっくり話してほしい
気象学入門	要約の字数を少し増やしてほしい
気象学入門	全講義を早めに行えるようにしてほしい
気象学入門	分かりにくい言葉があった
気象学入門	レポートの問いが分かりづらい、どういった答えを求めているのか分かりづらい。また、問いの答えは授業で習ったことを生かしたりまとめるのか、自分で考えたことを書けばよいのか分からない。全体的にふわっとしすぎ。字数制限がないとどれくらいが良いのか分からない。
気象学入門	レポートの締め切りの曜日が一定であったほうがよかった。
気象学入門	長すぎる割に入ってくる情報量が非常に少なく感じた。もう少し編集をした方がいいと思います。あと擬音語が非常に多いのが気になった。
気象学入門	成績評価レポートのファイルの形式を指定してほしいです
気象学入門	提出物を期限内なら提出内容(ファイル名など)を気軽に変更できればより良かった。
気象学入門	授業で学習したことに比べ、課題の文字数制限が厳しすぎる。何度か文字数超過をしてしまった。
気象学入門	動画ごとに明るさが一定ではない。期限がすこし厳しい。
気象学入門	<p>提出課題につける署名やファイル名の指示があったが、ファイル提出方式の場合とテキスト入力方式の場合で、また指示が書いている場所によって、多少のばらつきがあり少し困惑した。</p> <p>大気現象がそれぞれ相互に関係しあっているためか、のちの授業で扱うテーマが少しだけ紹介されるという場面が多かった。少し混乱した。</p> <p>5回目講義の傾圧不安定波の概念理解(とその時のテスト課題)に苦しんだ。第6回目講義で少し波動概念に補足があったので、できれば6回目講義のあとにテスト課題を出してもらえるとやりやすかったかもしれない。</p>
海洋基礎生態学	余談の内容を確認テストで出されたこと。確認テストで出される内容なら「余談」ではないのでは?と感じた。
海洋基礎生態学	小テストの回答に必要な話を「余談」に入れるのをやめてほしい。ほとんどの回で大丈夫だったが、一つだけ小テストの

	回答に必要な話が「余談」に入っていたことがあったので改善してほしい。
海洋基礎生態学	締め切りの変更は二週間前にはアナウンスしてほしいです。
海洋基礎生態学	メールで名前を掲示するのはやめてほしいです。友達と解答や授業視聴を共有して楽をしている人がいたので、やはり授業は対面でしてほしいです。出席などの意欲の部分で正しく評価してくれていない気がします。また、どこでもいつでも授業を受けられるのは良いですが、逆に何のために遠いだ大学の地域に引っ越してきたのかわかりません。放送大学でもよかったのでは？とってしまいました。
海洋基礎生態学	講義資料の中に、図や写真などだけではなく、授業内で使用しているスライドも入れておいて欲しかった。
海洋基礎生態学	フルネームで名前をさらすのはやめていただきたい。個人情報勝手にさらけ出してはいけないと感じた。学籍番号だけでよいのでは？下宿までして高知大学に来ているのだからできればe-ラーニングではなく、対面授業が良かった。
海洋基礎生態学	ビデオの教材との間に時差が見られたので、なるべくリアルタイムのビデオを提供してほしい。
海洋基礎生態学	少し資料が多いかなと感じた。
海洋基礎生態学	動画中で先生が使用するスライドも講義資料として配布してほしい。
海洋基礎生態学	タスクチェッカーが非常に使いにくい。 海洋科学概論のタスクチェッカーは使いやすかったため、こちらのシステムを使うべきだと思った。
海洋基礎生態学	スライドを流すスピードが速いため何回もノートを取るために動画を止めないといけなかった。
海洋基礎生態学	期末テストの締め切りを、締切日当日にも最終通知して欲しい。

2-3 スキルアップ研修

平成 25 年度

【日時】平成 26 年 3 月 31 日（月）

【場所】PC ルーム 3（総合情報センター 2 階）

〈第 1 部〉11:00～12:00

内容：e-Learning と著作権の基礎

講師：村井礼（大学連携 e-Learning 教育支援センター 四国教授）

〈第 2 部〉13:30～14:30

内容：e-Learning コンテンツの制作研修会

講師：岩城暁大（大学連携 e-Learning 教育支援センター 四国助教）

参加人数：〈第 1 部〉13 名 〈第 2 部〉5 名

平成 26 年 3 月 31 日、大学連携 e-Learning 教育支援センター 四国で、e-Learning における著作権処理の基礎的な説明と、実践的な e-Learning コンテンツの開発スキルの習得を目的とした研修会を実施した。

第 1 部の「e-Learning と著作権の基礎」については、学内から 13 名、第 2 部の「e-Learning コンテンツの制作」については、5 名の参加があった。

スキルアップ研修会は 2 部構成とした。第 1 部では、e-Learning を作成・配信する際、留意しなければならない著作権の基礎に関して、講演を行った。第 2 部では、e-Learning コンテンツを作成するソフトを活用し、コンテンツ作成の実習を行った。

研修会後には活発な意見交換が行われた。また、第 2 部終了後には、大学連携 e-Learning 教育支援センター 四国で構築したスタジオ見学を行い、スタジオはどのように運用していくのか、教員が利用するにはどのような手続きが必要かについて質問があった。

研修会後の意見交換やスタジオ見学の質問などを通して、学内での e-Learning に対する注目は高いものがあると感じた。今後については、学内・連携大学のニーズを確認しつつ、来年度以降のスキルアップ研修会を継続して開催したいと考えている。



センター長挨拶



〈第 1 部〉e-Learning と著作権の基礎

■第 1 回スキルアップ研修会

【日時】平成 26 年 9 月 22 日（月）

【場所】香川大学 幸町北キャンパス OLIVE SQUARE 2 階多目的ホール

<座学> 10:30~11:45	<実習> 11:50~12:30
<p>【内容】: e ラーニングに関する著作権法の基礎知識の習得</p> <p>【講師】: 本間政憲氏（弁理士）</p>	<p>【内容】: 著作物の利用に関する許諾契約の要点の理解</p> <p>【講師】: 本間政憲氏（弁理士） 村井礼（大学連携 e-Learning 教育支援センター四国）</p>

平成 26 年 9 月 22 日に、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国で、弁理士の本間政憲氏をお招きし「著作権処理スキルアップ」をテーマとしたスキルアップ研修会を実施した。研修会には 42 名の参加があった。

「e ラーニングに関する著作権法の基礎知識の習得」では、著作権法の基礎知識の習得、第三者著作物の利用に関する利用許諾、制作コンテンツの大学間での利用許諾について座学を行い、「著作物の利用に関する許諾契約の要点の理解」では、利用許諾サンプルを用いた手続きの実習を行った。それらに基づき活発な質疑応答および情報交換が行われた。



第 1 回スキルアップ研修会の様子

■第2回スキルアップ研修会

【日時】平成27年3月6日（金）

【場所】香川大学幸町キャンパス 南5号館2階 PCルーム3および e-Learning スタジオ

<座学> 13:00~14:35	<実習> 14:45~16:50
【内容】：e-Learningにおける話し方講座 【講師】：坪内 美樹（トーキング・プランナー）	【内容】：e-Learningにおける話し方クリニック講座 【講師】：坪内 美樹（トーキング・プランナー）

平成27年3月6日に、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国で、トーキング・プランナーの坪内美樹氏をお招きし「スタジオ収録における話し方スキルアップ講座」をテーマとしたスキルアップ研修会を実施予定である。

スタジオで e-Learning コンテンツを収録する際、学生達が目の前にいないため、教室での講義と比べて話しづらいという教員からの意見があり、学生の反応を見ながら話すことができないため、淡々とカメラに向かって話し続けるだけのコンテンツになりがちである。これでは、受講生の興味を引くことが難しい。

そこで、トーキング・プランナーの坪内氏を招聘し、話し方の基本から、トレーニング方法、およびスタジオ収録における話し方のポイントについて、スキルアップする研修会を開催する。

(1) 平成 27 年度第 1 回スキルアップ研修会の概要を以下に示す。

【日時】平成 27 年 11 月 16 日（月）13:30～17:00

【会場】香川大学幸町北キャンパス OLIVE SQUARE2 階 多目的ホール

【講師】安部貴士氏（株式会社火燧 代表取締役）

【内容】

講義「動画撮影・編集の基礎知識と動画撮影の基本テクニック」

演習「iPhone や iPad を用いた動画撮影・編集」

株式会社火燧 代表取締役 安部貴士氏を招いて、「iPhone や iPad を用いた動画撮影・編集のスキルアップ」をテーマとした研修会を実施した。なお、会場となる香川大学内では、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国の活動に対する認知度を向上すべく FD 研修会として実施した。本研修会には 5 大学から 29 名の参加（Ustream 配信視聴による遠隔参加者を含む）があった。参加者は、前半の座学において、動画撮影・編集機器の変遷から撮影前に企画を作り込むことの重要性などの基礎知識、ズームやアングルなどの動画撮影テクニックに関する講義を受け、後半の演習では、e-Learning コンテンツとして需要のある PinP 形式の動画作成を実際に iPhone や iPad を用いて体験した。また、講義・演習内容に関して活発な質疑応答及び情報交換が行われた。



(2) 平成 27 年度第 2 回スキルアップ研修会の企画を以下に示す。

【日時】平成 28 年 1 月 13 日（水）13:00～15:00

【会場】MCU による遠隔開催（主会場）愛媛大学

【対象】知プラ e 事業において e-Learning 開発に携わる教職員

【講師】根本淳子氏（大学連携 e-Learning 教育支援センター四国サンプル授業設計プロジェクトチーム）

【内容】e ラーニング教材設計ワークショップ

知プラ e 事業において e-Learning 開発携わる教職員を対象に、e-Learning 教材の開発設計についての共通理解を構築することを目的とした参加型のワークショップを実施した。参加者には事前にサンプル授業設計プロジェクトチームで開発したオンライン授業設計ガイドブックと授業設計のためのワークシートが配布され、ガイドブックで提示した開発プロセスに関する各大学の現状報告とワークシートを活用した結果を事前課題として持ち寄り実施した。これらのリソースを用いて各大学の開発プロセスの現状について共有した。また、ワークブックと開発で活用できるワークシートと開発確認シートについて説明し、現場においてどのように活用できるか、また、共通の活用方法について議論した。



平成 28 年度

(1) 平成 28 年度第 1 回スキルアップ研修会の概要を以下に示す。

【日時】平成 28 年 11 月 8 日（火）13:30～16:30

【会場】愛媛大学総合情報メディアセンター1階 会議・ゼミ室（5 大学を MCU で接続して実施した）

【講師】木村友久教授（山口大学 大学研究推進機構知的財産センター副センター長）
吉田明恵技術員（愛媛大学）

【内容】e-Learning における著作権処理の実務

I 部 e-Learning における著作物の取り扱いに関する国内の動向

①講義「e-Learning に関する著作権制度の概要及び国内動向」

②ワーク

II 部 第三者著作物の利用許諾実務

①講義「一般的な著作権処理のポイント解説」

②講義「愛媛大学の事例紹介」

③ワーク

III 部 質疑応答

山口大学の木村友久教授を中心に、香川大学・愛媛大学の教職員で、グループワークで使用する教材を作成し「e-Learning における著作権処理の実務」をテーマとした研修会を実施した。本研修には四国 5 大学の教職員 43 名の参加があった。講義の後のグループワークでは、教職員が日頃から抱える疑問や不安が積極的に共有され、参加者と木村教授の間でも活発な質疑応答が行われた。



S101 建設事項の 確認	S11 著作物の 保護期間	S12 グラフの 著作権	S13 キャプチャの 利用	S14 印刷権の 利用	S15-1 著作権事件の 利用	S11 著作物の 保護期間	S12 グラフの 著作権	S13 キャプチャの 利用	S14 印刷権の 利用	S15-2 著作権事件の 利用	S11 著作物の 保護期間	S12 グラフの 著作権	S13 キャプチャの 利用	S14 印刷権の 利用
<p>四国連携大学でのストーリー</p> <p>あなた六田貴男 先月から四国連携大学法務部〇〇分室で、著作権処理担当をしています。</p> <p>山田ゆづこ 同大学のeラーニング推進部でeラーニングコンテンツ開発を担当しています。</p> <p>エミカさん 同大学法務部のベテラン補佐員です。</p> <p>あなたの元には、毎日山田さんから、次々と著作物に関する相談と利用許諾申請が舞い込んできます。あなたはエミカに助けられ、四苦八苦しながらも毎日業務に当たっています。</p> <p>とどこころにヒントやサンプル(エミカのつばき)が隠れていますので、参考にしてください。</p> <p>早く一人で判断、許諾申請ができるようになれば！</p> <p>そうそう、 本日午後から、山口大学の木村先生が見学に来られています。 最後に各会場で情報共有し、木村先生にご意見を伺います。</p> <p>あなたは、山田さんからの依頼にどのように回答し、著作権処理を行いますか？</p>					<p>質問</p> <p>葛飾北斎の日本画の写真集の中から風景画をeラーニングの背景で使用したいという要望が科目担当教員から出ています。できれば、ハロディ的な画像を加筆し、改変したいのですが、何か問題はありますか？</p> <p>小テスト</p> <p>以下の選択肢の中から、今回の質問への回答として適切と思われるものをすべて選んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 葛飾北斎は死後50年以上経っているため、葛飾北斎の描いた日本画の著作権は消滅しています。したがって今回の利用にはまったく問題はありません。 葛飾北斎の日本画を写真に撮影した場合、カメラマンに著作権が発生する場合があります。したがって、カメラマンに無断で利用するのは問題があります。 著作物を改変する場合には、著作人人格権に配慮する必要があります。著作権が存在しなくなった後も、著作人人格権と同様の保護が認められていますから、著作者の意に反した改変をするのは問題があります。 <p>ポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象となる著作物は？ 著作物の保護期間は？ 著作者の死後()まで 著作者の権利は？ 著作権及び著作者()権 <p>コーディネーターへのお問い合わせ 各会場で受講者から質問があれば、Moodleのフォーラムに投稿してください。</p>					<p>質問</p> <p>葛飾北斎の日本画の写真集の中から風景画をeラーニングの背景で使用したいという要望が科目担当教員から出ています。できれば、ハロディ的な画像を加筆し、改変したいのですが、何か問題はありますか？</p> <p>回答例</p> <p>E-Learning 推進部 山田様 いつも大変お世話になっております。法務部愛媛分室の六田です。 今回の件について、以下の通りご回答いたします。</p> <p>判断とその理由 北斎の死後50年以上経っており、日本画の著作権は消滅していると考えられます。しかし、カメラマンの著作権は消滅していません。また、著作権は消滅していても、著作権者死亡により著作権者人格権も消滅していません。したがって、著作権法50条の2(著作権を公衆に提供し、又は提示する行為)は、その著作物の著作権が存続しなくなった後においても、著作権者が行っているとしたらばその著作人人格権の侵害となるべき行為をしてはならない。ただし、その行為の性質及び程度、社会的事情の変動その他によりその行為が当該著作者の意を害しないと認められる場合は、この限りでない。』の規定により、現在の社会通念も勘案しつつ、副作者の意に反した改変は認められずとさせていただきます。</p> <p>提案1 【提案1】パロディ風に改変することは認め、写真集からではなく、ネット上でCC(クリエイティブ・コモンズ・ライセンス)が表示されている葛飾北斎の画像を使用しては如何でしょうか。 【提案2】パロディ風が重要事項である場合は、背景に葛飾北斎の画像を使用することは認め、全て自作自演は如何でしょうか。</p> <p>以上です。ご検討ください。 どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>コーディネーターへのお問い合わせ 各会場で受講者から質問があれば、Moodleのフォーラムに投稿してください。</p>				

【教材】制作：吉田明恵（愛媛大学）

監修：木村友久教授（山口大学）・村井礼教授・藤本憲市助教（香川大学）

(2) 平成 28 年度第 2 回スキルアップ研修会の企画を以下に示す。

【日時】平成 28 年 11 月 30 日（水）13:00～14:30

【会場】MCU による遠隔開催（主会場）鳴門教育大学地域連携センター 2F 教授スキル演習室

【対象】e-Learning 教材の制作に興味のある教職員

【講師】竹口幸志（大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 鳴門教育大学分室 専任講師）

石内久次（大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 鳴門教育大学分室 主任）

【内容】手軽で効果的に授業を e ラーニング化する方法について解説

知プラ e 事業において e-Learning 教材の制作に興味のある教職員を対象に e-Learning による授業開発についての共通理解と活用促進を目的とした研修会を実施した。なお、鳴門教育大学内では、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国の活動に対する認知度と e-Learning による授業開発力の向上を図るべく FD 研修会として実施した。前半の講演では e-Learning による授業の実施方法や e-Learning の有効活用方法について解説が行われ、e-Learning を利用した講義を実施する際の問題点の共有と問題解決策が示された。後半の演習では、Microsoft 社の PowerPoint を事例として、手軽で効果的に授業を e-Learning 化する方法について解説が行われた。講義・演習の内容に関して活発な質疑応答と情報交換が行われた。



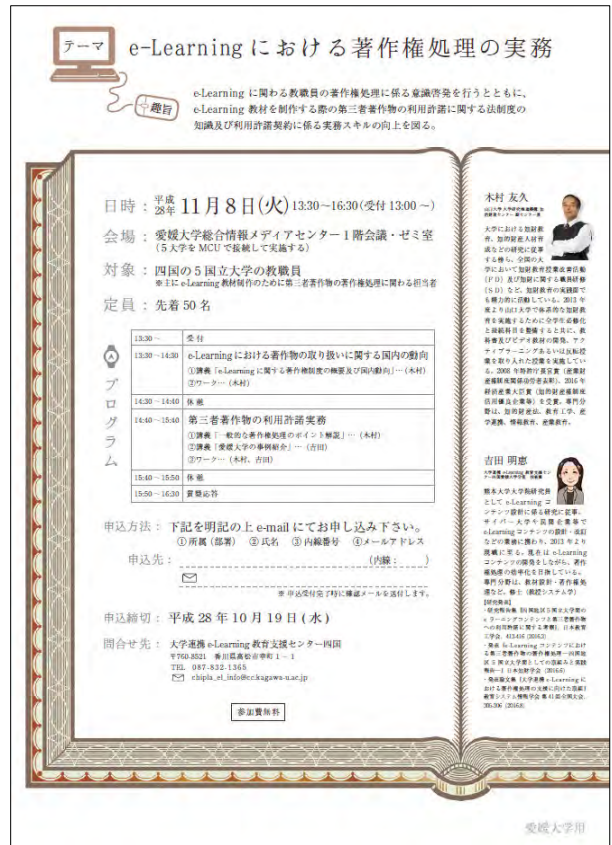


知 プラ e スキルアップ研修会

e-Learning における 著作権処理の実務

(講師) 木村 友久 山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター副センター長
吉田 明恵 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室 技術員

研修会内容: e-Learning における著作権の取り扱いに関する国内の動向、e-Learning に関する著作権処理の概要及び国内動向、第三者著作物の利用許諾実務、e-Learning における著作権処理の留意点に関する解説、e-Learning における著作権処理の留意点に関する解説、e-Learning における著作権処理の留意点に関する解説。



テーマ e-Learning における著作権処理の実務

中題 e-Learning に関する教職員の著作権処理に係る意識啓発を行うとともに、e-Learning 教材を制作する際の第三者著作物の利用許諾に関する法制度の知識及び利用許諾契約に係る実務スキルの向上を図る。

日時: 平成 28 年 11 月 8 日(火) 13:30～16:30(受付 13:00～)

会場: 愛媛大学総合情報メディアセンター1 階会議・ゼミ室 (5 大学を MCU で接続して実施する)

対象: 四国の 5 国立大学の教職員
※主に e-Learning 教材制作のために第三者著作物の著作権処理に関わる担当者

定員: 先着 50 名

13:30～	受付
13:30～14:30	e-Learning における著作権の取り扱いに関する国内の動向 ①講義「e-Learning に関する著作権処理の概要及び国内動向」～(木村) ②アンケート～(木村)
14:30～14:40	休憩
14:40～15:40	第三者著作物の利用許諾実務 ③講義「教員が著作権処理の留意点に関する解説」～(木村) ④講義「愛媛大学の事例紹介」～(吉田) ⑤アンケート～(木村, 吉田)
15:40～15:50	休憩
15:50～16:30	質疑応答

申込方法: 下記を明記の上 e-mail にてお申し込み下さい。
①所属(部署) ②氏名 ③内線番号 ④メールアドレス

申込先: _____ (内線: _____)

申込締切: 平成 28 年 10 月 19 日(水)

問合せ先: 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
〒790-8521 愛媛県松山市和 1-1
TEL 087-832-1365
E chiba_m_info@eckagawa-u.ac.jp

参加費無料

木村 友久
山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター副センター長

吉田 明恵
大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室 技術員

愛媛大学用

第 1 回スキルアップ研修会チラシ

【鳴門教育大学 F D 推進事業】

e ラーニング授業開発セミナー

日時
平成 28 年 11 月 30 日(水) 13:00～14:30

場所
鳴門教育大学地域連携センター2 階教授スキル演習室
(5 大学をテレビ会議で接続して実施)

趣旨・目的
・ e ラーニングによる授業の実施方法や講義における e ラーニングの有効活用方法についての解説
・ e ラーニングを利用した講義を実施する際の問題点の共有と問題解決

内容
手軽で効果的に授業を e ラーニング化する方法について解説

対象者
e-Learning 教材の制作に興味のある教職員

定員
鳴門教育大学会場 50 名

講師
大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室
竹口 幸志、石内久次

スケジュール
13:00-13:15 e ラーニング授業の概要 (竹口)
13:15-13:45 学習管理システム moodle の説明 (竹口)
13:45-14:25 簡便で効果的な e ラーニング教材の作り方 (石内)
14:25-14:30 質疑応答

問い合わせ先
鳴門教育大学 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室
Tel: 085-657-6482
e-mail: e-learning@naruto-u.ac.jp

申し込み方法
参加希望者は、必須事項を記入の上、下記にて先までメールにて申込(申込締切日 11 月 14 日(月))

記入必須事項: 所属(部署)、氏名、内線番号、メールアドレス

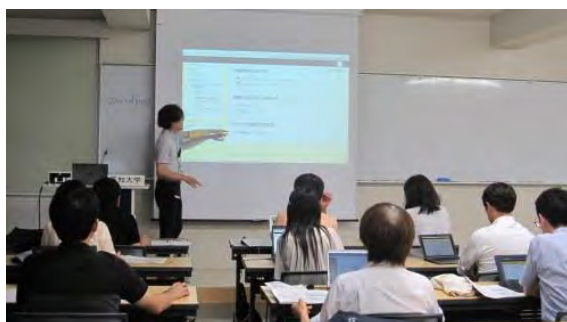
宛 先: 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 鳴門教育大学分室
e-mail: e-learning@naruto-u.ac.jp

第 2 回スキルアップ研修会チラシ

(1) 平成 29 年度第 1 回スキルアップ研修会の概要を以下に示す。

- 【日時】平成 29 年 9 月 7 日（木） 13:30～15:30
【会場】高知大学 共通教育棟 1 号館 2 階 127 番教室（5 大学の各会場を MCU で遠隔接続して実施）
【対象】四国の 5 国立大学の教職員（※これから moodle を使う教職員）
【講師】立川 明(大学連携 e-Learning 教育支援センター四国高知大学分室 室長・准教授)
三好 康夫(大学連携 e-Learning 教育支援センター四国高知大学分室 准教授)
【内容】moodle 講習会～これから moodle を使う人のための講習会～
講習：moodle の利用例
実習：moodle の基本的な使い方

「moodle 講習会～これから moodle を使う人のための講習会～」をテーマとした研修会を実施した。本研修には 5 大学の会場で計 25 名の参加があり、moodle を初めて操作する教職員に向けて、moodle の利用例を紹介するとともに、実際の moodle を使用した実習により操作方法について解説を行った。研修会の前半では、moodle の基本的な機能とともに、反転授業や予習・復習、オリエンテーションなどに moodle を利用する実例が紹介され、研修会の後半では、高知大学講習会用 moodle を操作する実習を行った。実習では、全参加者が教員・学生のそれぞれの立場でログインができるように、研修用のコースを用意し、教員側では、コースの設定変更、資料の配布、課題および小テストの作成、評価の確認を行った。学生側では、配布資料の確認、小テストの解答を行った。



(2) 平成 29 年度第 2 回スキルアップ研修会の企画を以下に示す。

- 【日時】平成 29 年 11 月 20 日（月） 13:30～14:30
【会場】香川大学幸町キャンパス 南 5 号館 2 階 PC ルーム 4（5 大学の各会場を MCU で遠隔接続して実施）
【対象】四国の 5 国立大学の教職員（※LMS の管理運用やカスタマイズに興味のある教職員）
【講師】生熊 宏崇(上智大学 情報システム室（総合メディアセンター）専任職員)
【内容】上智大学の Moodle・Turnitin 運用における省力化の取り組みとカスタマイズ

Moodle のシステム構築や運用サービスの最適化に関するノウハウを学ぶことを目的に、「上智大学の Moodle・Turnitin 運用における省力化の取り組みとカスタマイズ」と題したスキルアップ研修会を開催した。本研修では、上智大学において現在運用されている Moodle のシステム構成や剽窃検知ソフト (Turnitin) との連携事例を紹介するとともに、Moodle の運用サービスやサポート体制の最適化に関するノウハウについても解説が行われた。また、質疑応答では、今後のセンター四国及び分室の Moodle 運用に有益となる議論が展開された。

なお、本研修会には 5 大学の会場で計 27 名の参加があった。





2017年 11月 20日(月)
13:30 ~ 14:30 (受付開始時刻 13:00)

主会場 香川大学 幸町キャンパス内
総合情報センター2階 PCルーム4
〔各大学の会場とは、MCUを用いて
主会場と接続します。〕

講師 生熊 宏崇
上智大学 情報システム室 (総合メディアセンター) 専任職員
略歴：金融系のシステムエンジニアを経て 2011 年より現職。上智大
学総合メディアセンターにて教員学生向けのサービス全般を担当。
ICT 全般に関するヘルプデスク作業をしつつ、LMS の管理をはじめと
して、COM・CALL 教室の整備計画の立案や、NH・認証基盤・メールな
どの整備を実施。様々なサービスの全体最適化を回り
つつ、裏では使用頻度の少ないソフトウェアや時代
遅れなサービスのコストカット役であることも自認。

対象 四国の5国立大学の教職員
※LMSの管理運用やカスタマイズに興味のある教職員

定員 先着 20名 *事前申し込みが必要です

申込方法 下記を明記の上 e-mail にてお申し込み下さい。
① 所属 (部署) ② 氏名 ③ 内線番号 ④ メールアドレス
✉ chip1a_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp
申込受付完了時に確認メールを送付します。
申込締切：2017年11月10日(金)

上智大学の Moodle・Turnitin 運用における
省力化の取り組みとカスタマイズ





知プラ e

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 FD・SD 研修会
スキルアップ研修会

問合せ先：大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1 / Tel: 087-632-1365
Mail: chip1a_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp

2-4 広報活動

2-4-1 事業報告シンポジウム

平成 25 年度

「e-Learning による大学教育の共同実施に向けて」をテーマとして、平成 26 年 3 月 17 日（月）にホテルクレメント高松でシンポジウムを開催した。特別講演では山田 恒夫氏を招き「新しい e-Learning の潮流 -MOOC と電子教科書-」について、青江 秀史氏を招き「e-Learning における著作権等の留意点 -大阪大学知的財産センターの事例を中心に-」について講演してもらった。その後本事業の紹介及び中間報告を行った。シンポジウムには 68 名の参加があった。

文部科学省 国立大学改革強化推進補助金事業
四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施



Program

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国

事業報告 2013 シンポジウム

入場無料

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国（センター四国）は、既に構築・活用されている大学連携に基づく e-Learning 基盤を活用して「四国地区における 6 国立大学連携機構」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図ります。
下記の要領で、センター四国における 2013 年度の事業中間報告と情報交換を目的としたシンポジウムを開催致します。

テーマ

「e-Learning による
大学教育の共同実施に向けて」

日

2014 年 3 月 17 日（月）

13:00 ~ 17:00

門

ホテルクレメント高松 3 階
「飛天」（JR 高松駅徒歩 1 分）

12:30	● 開 場	受付開始
13:00	● 開会挨拶	長尾 省吾（香川大学 学長） 藤井 宏史（香川大学 理事・副学長 (academic)）
13:15	● 特別講演	<p style="font-weight: bold;">「新しい e-Learning の潮流 -MOOC と電子教科書-」</p> <p style="font-size: 0.8em;">山田 恒夫 放送大学 教授</p>
14:30	● 特別講演	<p style="font-weight: bold;">「e-Learning における著作権等の留意点 -大阪大学知的財産センターの事例を中心に-」</p> <p style="font-size: 0.8em;">青江 秀史 大阪大学 知的財産センター長</p>
15:45	● 事業報告 シンポジウム	<p style="font-weight: bold;">「大学連携 e-Learning 教育支援 センター四国について」</p> <p style="font-size: 0.8em;">林 敏浩 香川大学 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 センター員</p> <p style="font-weight: bold;">「連携大学による本事業の中間報告」</p> <p style="font-size: 0.8em;">センター四国分室</p>
17:00	● 閉会挨拶	林 敏浩

お問い合わせ

〒760-8521 高松市幸町 1-1 香川大学内
大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
Tel 087(832)1365

詳細

センター四国 HP シンポジウム案内
2月10日～申込受付【先着100名まで】
<http://chipla-e.ltc.kagawa-u.ac.jp/event.html>
申込みは速回をご注意ください

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
事業報告シンポジウム2013

日時：2014年3月17日(月) 13:00~17:00
(受付開始12:30~)

場所：ホテルクレメント高松 3階「飛天」
(JR高松駅徒歩1分)

申 込 書

所 属	氏 名	電話番号

※お申し込みは e-mail または FAX でお願ひします。
(詳細はホームページをご確認下さい。)
<http://chipla-e.its.kagawa-u.ac.jp/event.html>

■お申し込み・お問い合わせ先

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国

電話：087(832)1365

FAX：087(832)1155

e-mail：chipla_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp

四国の5国立大学(徳島大学, 鳴門教育大学, 香川大学, 愛媛大学, 高知大学)が取り組む共同教育実施モデルによる科目が平成27年度より開講される。共同実施モデルにおける活動状況の報告と情報交換を目的として, 平成27年1月29日にサンポートホール高松においてシンポジウムを開催した。特別講演では, 北海道大学情報基盤センターの重田勝介准教授をお招きし, 大学連携 e-Learning における諸課題についての話題提供と情報交換を行った。シンポジウムには59名の参加があった。



事業報告シンポジウムの様子



四国の5国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）が取り組む共同教育実施モデルによる科目がe-Learningで2015年度より開講されます。そこで、下記の要領でセンター四国における2014年度の事業中間報告と情報交換を目的としたシンポジウムを開催致します。

特別講演では、北海道大学情報基盤センターの重田勝介准教授をお招きし、大学連携e-Learningにおける諸課題についての話題提供と情報交換を行います。

テーマ

「e-Learningと教育の質保証」

日時

2015年1月29日(木)
13:00 ~ 15:45

場所

サンポートホール高松 5階
「54会議室」(JR高松駅徒歩1分)

Program

12:30	開場	受付開始
13:00	開会挨拶	長尾 省吾 (香川大学 学長) 藤井 宏史 (香川大学 理事・副学長(教育担当))
13:15	特別講演	「e-Learningと双方向遠隔授業を活用した大学間教育連携」 重田 勝介 北海道大学 准教授
14:30	事業報告 シンポジウム	「大学連携教育の共同実施について」 林 敏浩 香川大学 大学連携e-Learning教育支援センター四国 センター長 「大学教育の共同実施のためのワーキンググループ報告」 各主査校
15:40	閉会挨拶	林 敏浩

お問合せ

〒760-8521 高松市幸町1-1 香川大学内
大学連携e-Learning教育支援センター四国
Tel 087(832)1365

詳細

センター四国HP シンポジウム案内

12月1日～ 申込受付【先着100名まで】

<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/event2014.html>

申込みは裏面をご覧ください

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
事業報告シンポジウム 2014

日時：2015年1月29日(木) 13:00~15:45
(受付開始 12:30~)

場所：サンポートホール高松 5階「54会議室」
(JR 高松駅徒歩1分)

申 込 書


所 属	氏 名	電話番号

※お申し込みは e-mail または FAX でお願ひします。
(詳細はホームページをご確認ください。)
<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/event2014.html>

■お申し込み・お問い合わせ先

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
電話：087(832)1365
FAX：087(832)1155
e-mail：chipla_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp

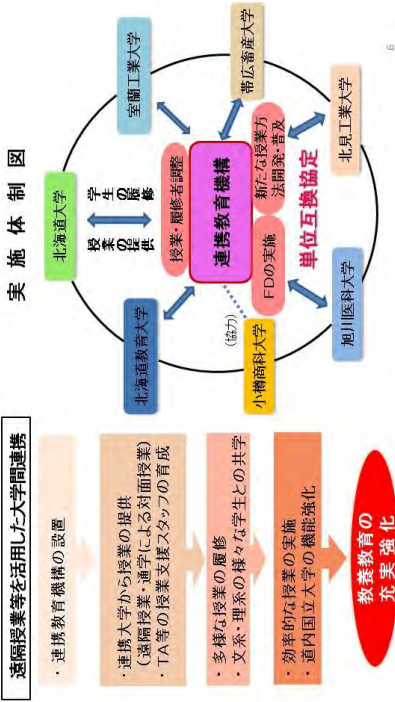
「e-Learning と双方向遠隔授業を活用した大学間教育連携」

<p>e-Learningと双方向遠隔授業を活用した大学間教育連携</p> <p>重田 勝介 北海道大学 情報基盤センター 准教授 高等教育推進機構教育支援部 オープンエデュケーションセンター 副センター長</p> <p>2015/1/29 大学連携e-Learning教育支援センター四国 事業報告シンポジウム2014</p>	<p>重田勝介 (上げたかつすけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道大学 情報基盤センター 准教授 高等教育推進機構教育支援部 オープンエデュケーションセンター 副センター長 専門分野・著書 <ul style="list-style-type: none"> 教育工学・オープンエデュケーション 「ネットで学ぶ世界の大学 MOOC入門」(実業之日本社) 「オープンエデュケーション」(東京電機大学出版局) 
<p>JMOOC講座 「オープンエデュケーションと未来の学び」</p> <ul style="list-style-type: none"> 2014年7月開講 JMOOCの「gacco」(http://gacco.org)にて 7000人以上の受講者 大阪・札幌で反転授業 (合わせて50名が参加) 	<p>あらまし</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道内国立大学における教養教育連携 <ul style="list-style-type: none"> 事業の概要、双方向遠隔授業システムによる 合同授業について 大学間連携によるオープンエデュケーションの可能性 <ul style="list-style-type: none"> オープンエデュケーションの広がり、我が国における現状と課題、大学間連携モデル e-learningを用いた双方向遠隔授業 <ul style="list-style-type: none"> 取り組みの概要、教育の質保証における可能性

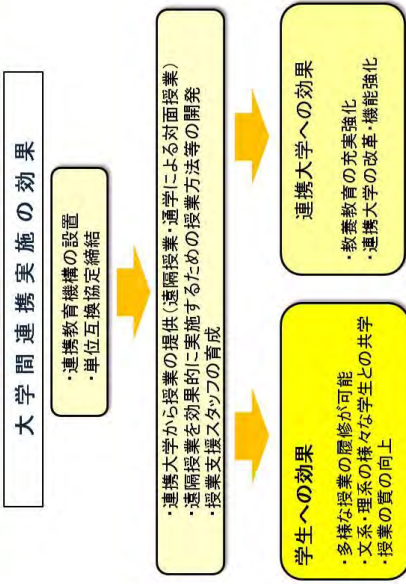
- ・北海道地区における教養教育連携
 - 事業の概要、双方向遠隔授業システムによる合同授業について
 - 大学間連携によるオープンエデュケーションの可能性
 - オープンエデュケーションの広がり、我が国における現状と課題、大学間連携の可能性
 - e-learningを用いた双方向遠隔授業
 - 取り組みの概要、教育の質保証における可能性

北海道地区国立大学教養教育連携実施事業の概要(1)

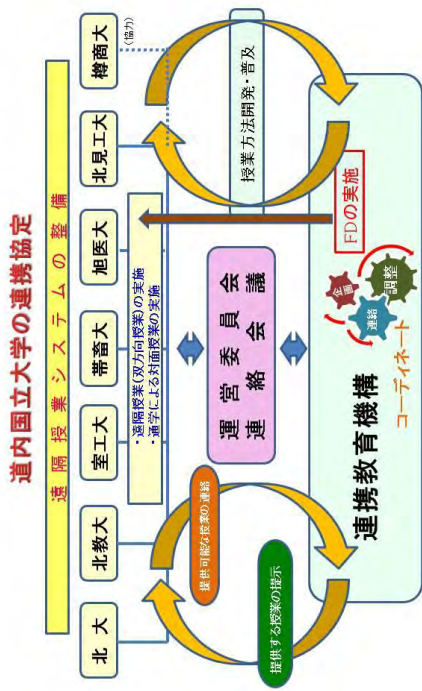
北海道内の国立大学が連携を図り、単位互換制度を利用し、道内国立大学の学生が受講可能な新たな仕組みを構築し、教養教育の充実強化を図る。



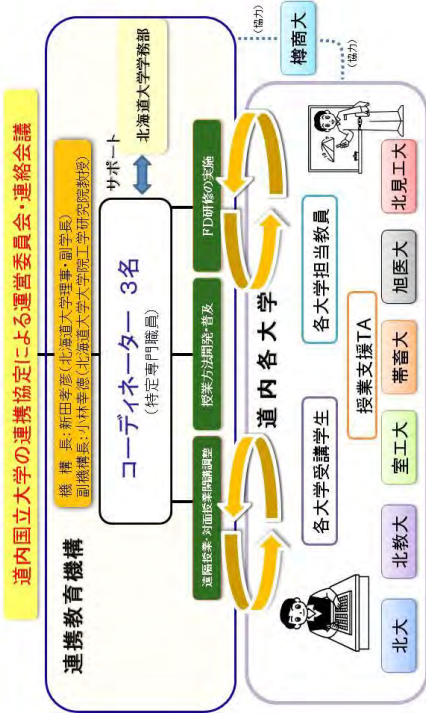
北海道地区国立大学教養教育連携実施事業の概要(2)



北海道地区国立大学教養教育連携実施事業の体制

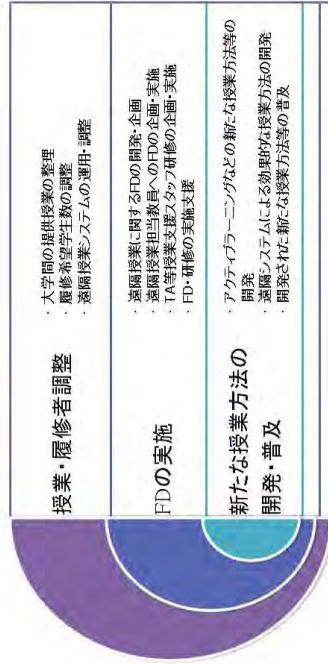


北海道地区国立大学教養教育連携実施の体制図

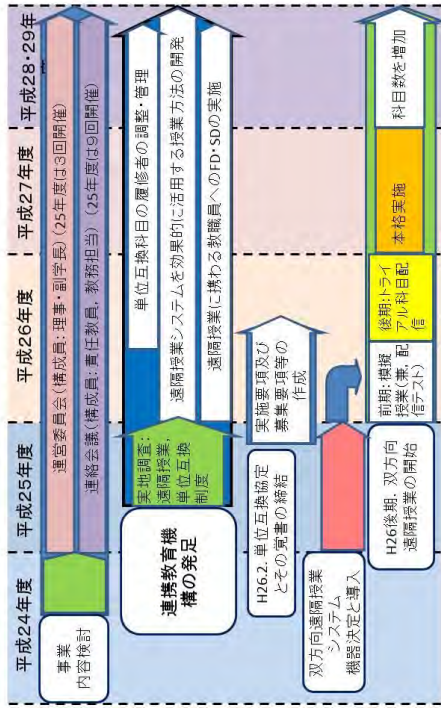


連携教育機構の機能

連携教育機構の業務



連携教育機構の事業実施計画



単位互換協定書及び両書の締結



平成26年2月28日締結
 於:札幌市内ホテル



単位互換協定書と覚書(要点を抜粋)

協定書

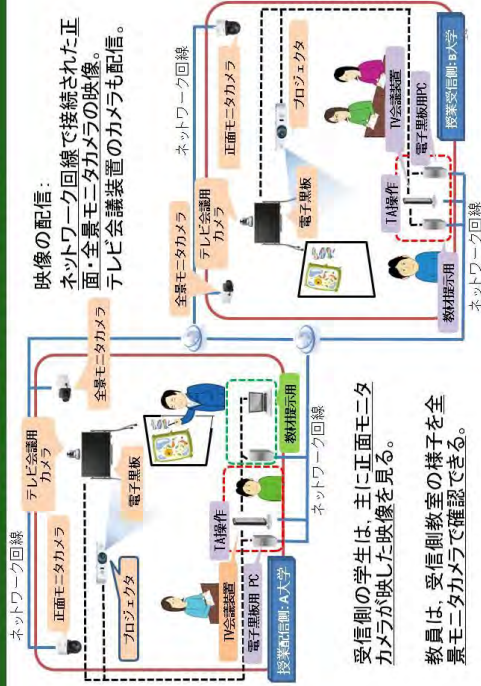
1. 各大学は所属学生が単位互換科目を履修することを認める。
(履修できる科目は、学生が所属する大学が指定)
2. 単位互換科目の履修資格:各大学の学部・学生

3. 単位互換科目履修時の身分:
科目提供大学の特別聴講生
4. 単位互換科目を修得した時:
所属大学の授業科目として単位認定

覚書

1. 履修の取り消しを認めない。
2. 単位互換科目の授業形態:
遠隔授業、対面授業
3. 試験:
○科目提供大学が定めに従う。
○所属大学の試験と日程が重複したときは、単位互換科目を優先する。
4. 成績評価:所属大学の定めに従う。

双方向遠隔授業システムの概要



双方向遠隔授業システム設置教室一覧

大学名	教室数
北海道大学	8 (S1,S2,N1,N2,S12,E212,E213,E273)
北海道教育大学*	10 (各キャンパス2教室ずつ)
室蘭工業大学	5 (C203,C204,C205,C207,A304)
帯広畜産大学	5 (大講義室, 2番講義室, 5番講義室, 21番講義室, 情報処理センター第3実習室)
旭川医科大学	4 (大講義室, 第1講義室, 第6講義室, 講義室D)
北見工業大学	4 (C121,C122,E131,遠隔視聴教室)

※北海道教育大学は既存のホリコムで映像配信、出講装置、クリッカー、電子黒板等を導入

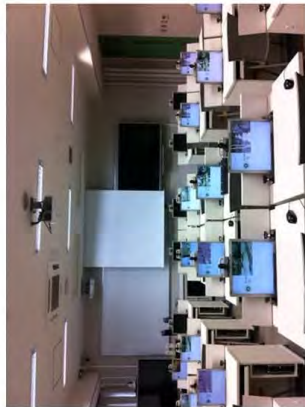
北海道大学: 高等教育推進機構S2教室(大教室)

- ・黒板の後ろに、60インチの電子黒板を9枚合わせたマルチディスプレイを設置
- ・正面モニタカメラを天井から吊り下げ、受信教室の学生が配信元の学生と同じ視線にした。



北海道大学：高等教育推進機構E213教室（情報メディア教室）

- ・写真左：正面には電子黒板2つ、大型のホワイトボード、短焦点プロジェクタを設置
- ・写真右：机上の広い使用を可能にする、PC用モニタ収納デスクを導入



北海道大学 高等教育推進機構N273教室
（アクティブ・ラーニング教室）

- ・グループワークに適した机・椅子を導入
- ・壁掛け電子黒板、可動式電子黒板、短焦点プロジェクタ、ホワイトボードを備え、アクティブラーニング等様々な授業実施形態に対応可能。



質保証の取り組み：TA研修会

- ・双方向遠隔授業システムを使用して、各大学に同時配信
- ・各大学のTA、SA等に機器操作の説明やワークショッップを実施



質保証の取り組み：FD研修会

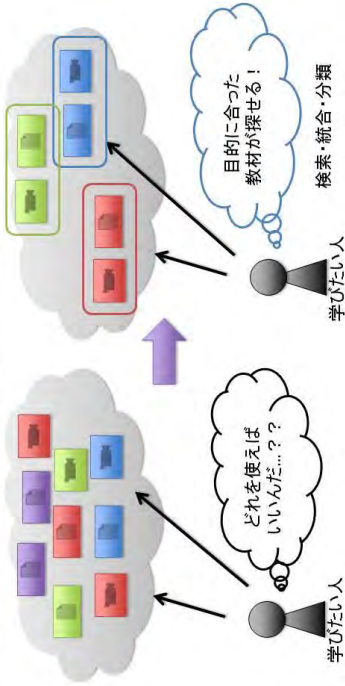
- ・授業担当教員を主対象に、実施
- ・遠隔授業を実施している大学コンソーシアムの事例について講演やシンポジウムを開催



<p>北海道地区における教養教育連携 ー事業の概要、双方向遠隔授業システムによる 合同授業について</p> <p>・ 大学間連携によるオープンエデュケーション の可能性</p> <p>ーオープンエデュケーションの広がり、我が国に おける現状と課題、大学間連携の可能性</p> <p>・ e-learningを用いた双方向遠隔授業</p> <p>ー取り組みの概要、教育の質保証における可能性</p>	<p>オープンエデュケーションとは</p> <p>・ オープンエデュケーションとは</p> <p>ー教育を「オープン」にし学習機会を促進する活動</p> <p>ーあらゆる人々が教育・学習に参加</p> <p>ー社会から広い支持を集める(寄付財団の支援)</p> <p>・ オープンエデュケーション誕生の経緯</p> <p>ー 1990年代:eラーニングの普及</p> <p>・ 有料モデルの頓挫(大学による教材販売サイトの失敗)</p> <p>ー 2001年:オープンコースウェア(OCW)の開設</p> <p>・ オープン教材(OER)を個人や非営利団体の増加</p>
<p>オープンエデュケーションの特徴(1) 教材をオープンにする活動</p> <p>・ 無料の教材・教科書をインターネット上で公開</p> 	<p>OER(Open Educational Resources)</p> <p>・ インターネットで公開された教育用素材</p> <p>ー 文書資料、画像、動画、電子教科書</p> <p>・ 「再利用」で多様性を促す</p> <p>ー クリエイティブ・コモンズ・ライセンス</p> <p>・ 国際的ムーブメントによる普及</p> <p>ー UNESCO 2012「世界OER議会」</p> <p>・ OERは誰でも作れる</p> <p>ー 個人、企業、非営利組織、大学...</p> 

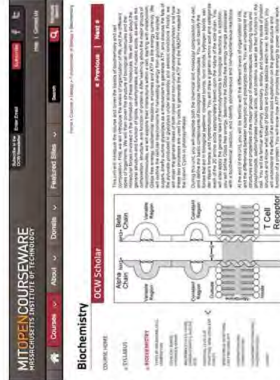
オープンエデュケーションの特徴(2) 教材を探せるウェブサイト

- 学びたい目的に即して、適切な教材を取得



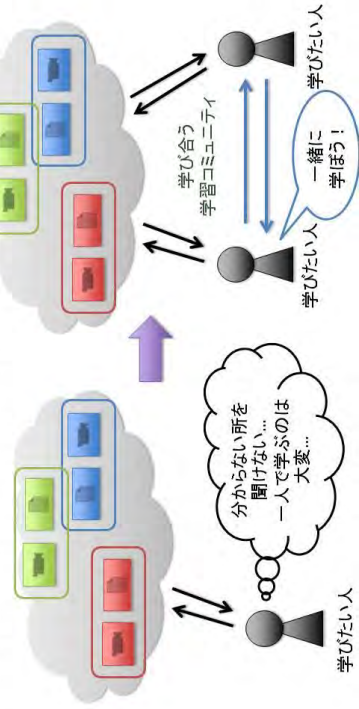
オープンコースウェア(OpenCourseWare: OCW)

- 正規講義のシラバスや教材、講義ビデオを無償公開 単位認定なし (Publication = 出版)
- 世界規模の活動へ
 - OCWC
 - JOCW
- 発展途上国向けに教材を翻訳 (国際教育協力)



オープンエデュケーションの特徴(3) 共に学び教え合うコミュニティ

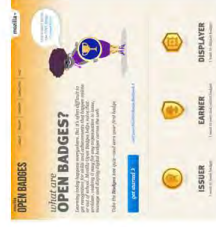
- 学び教え合うことで学習の意欲と成果を高める



OpenStudy / Mozilla Open Badge




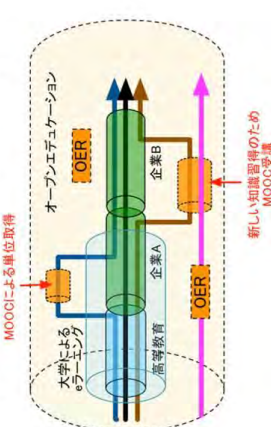
- オンラインで学び教える 学習コミュニティ
- OCWと連携 同じ教材を共に使って学ぶ



- デジタルバッジ(認定証)を交付する仕組み
- 知識技能を示すシグナル

<p>MOOCとは</p> <ul style="list-style-type: none"> • Massive(y) Open Online Courseの略「大規模公開オンライン講座」 • 数週間で学べる学習コースを開設 <ul style="list-style-type: none"> – 「教材」の公開だけでなく「教育」を行う • 数万人を超える受講者 <ul style="list-style-type: none"> – 世界中から参加する学習コミュニティ • 無料で受講できる <ul style="list-style-type: none"> – コース完了者に「認定証」を発行(有償の場合も) 	<p>事例：Coursera</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学講義をMOOCとして公開する「プロバイダ」 <ul style="list-style-type: none"> – 2012年にスタンフォード大教授らが設立した教育ベンチャー企業(8千万ドル超を調達) • 世界107大学による530以上のコースを公開 <ul style="list-style-type: none"> – 800万人を超える受講者 • 多言語対応 • 東京大学がコースを公開中 
<p>事例：edX</p> <ul style="list-style-type: none"> • MOOCを公開する大学連携「コンソーシアム」 • 2012年に設立 MITとハーバード大学による <ul style="list-style-type: none"> – 合計6千万ドルを出資 • 43の大学が参加 <ul style="list-style-type: none"> – 100万人を超える受講者 • 日本の複数の大学が参加 • オープンソースでMOOCを運営するソフトウェアを公開 	<p>事例：JMOOC</p> <ul style="list-style-type: none"> • 我が国において産学連携のもとMOOCの利用普及を図る協議会 • 複数のMOOCプラットフォームを提供 • 2014年春から開講中 

<p>MOOCで何を学べるか(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンピューター科学 <ul style="list-style-type: none"> - 例: プログラミング入門(コンピュータで実習) • 工学 <ul style="list-style-type: none"> - 例: 電子回路(インタラクティブ教材) • 医療・薬学 <ul style="list-style-type: none"> - 例: "The meat we eat" - 身近な食品を題材に食品の安全性について学ぶ 	<p>MOOCで何を学べるか(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数学・統計 <ul style="list-style-type: none"> - 例: 統計学基礎、ビッグデータ入門(新しい分野) • ビジネス <ul style="list-style-type: none"> - 例: ベンチャー企業の立ち上げ方 • 実際の起業家へのインタビューを交えながら • 人文学 <ul style="list-style-type: none"> - 哲学、歴史、社会問題 • 芸術・音楽 <ul style="list-style-type: none"> - 現代音楽(ロック)の歴史 - 音声収録の基礎(バークレー音楽大) 
<p>MOOCとは... オンライン講座によるオープンな教育サービス</p> 	<p>大学教育に導入されるMOOC</p> <ul style="list-style-type: none"> • MOOCを授業の教材に使う(教科書) <ul style="list-style-type: none"> - MOOCを使った反転授業・ブレンド型学習 - 学習効果の向上が見込まれる <ul style="list-style-type: none"> • サンノゼ州立大: 修了率 50%→90%へ改善 - 他大学で作ったMOOCを講義で使う(教員の抵抗も) • MOOCを使ったオンライン大学院 <ul style="list-style-type: none"> - ジョージア工科大 コンピューターサイエンス - Udacityを使って安価に(7000ドル) <ul style="list-style-type: none"> • 8人の教員追加で1万人の学生を教える

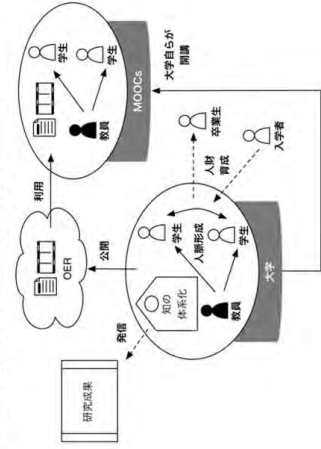
<p>オープンエデュケーションが広まる背景： 「理念」と「実利」の共存</p> <ul style="list-style-type: none"> • 社会貢献活動として <ul style="list-style-type: none"> - 教育格差の是正：発展途上国への「国際教育協力」 • 「知」へのアクセス改善 <ul style="list-style-type: none"> - 「公共財」としての大学：大学の理念に沿う • リクルーティング（高校生・留学生・社会人） <ul style="list-style-type: none"> - グローバル対応（英語での教材公開） • コスト削減と質向上 <ul style="list-style-type: none"> - 電子教科書の無償配布 - 講義教材にOERを使い授業改善 	<p>社会が支えるオープンエデュケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学の抱える諸問題 <ul style="list-style-type: none"> - 大卒人材のニーズ増加（特に発展途上国） - 働きながら、家族を養いながら通う学生 - 大学の財政危機と学費高騰 • 慈善寄付団体の支援 <ul style="list-style-type: none"> - ヒューレット財団・ゲイツ財団など • 政府も <ul style="list-style-type: none"> - 米国（労働省）や発展途上国 • 大学は活動の「媒体」 
<p>オープンエデュケーションとMOOCがもたらす自由な「教え」と「学び」</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複線的なキャリアや学び直しを前提とする • 制度の「外側」を支えるオープンエデュケーション • 誰でも「自由に教え・自在に学べる」社会へ 	<p>大学の価値「再考」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 単位や学位の「相対化」 <ul style="list-style-type: none"> - MOOCsの認定証が単位と比較される「シグナル」に • グローバル競争にさらされる大学教員 <ul style="list-style-type: none"> - 独自性の高い内容を教える教員が強みを増す - ファシリテーターとしての教員（職能の変化） • 高等教育への多様なプレイヤーの参入 <ul style="list-style-type: none"> - 教育ベンチャー・企業・非営利団体、個人、... • オープン・エデュケーション＝「教える」自由 <ul style="list-style-type: none"> - インバベーションが大学の価値を問う

「大学の未来」モデル(1)
MOOC公開による大学の「拡張と強化」

• MOOC公開による大学の魅力発信

– 大学にしか担えない教育以外の機能も重視

- 研究活動
- 知の体系化
- 人材育成



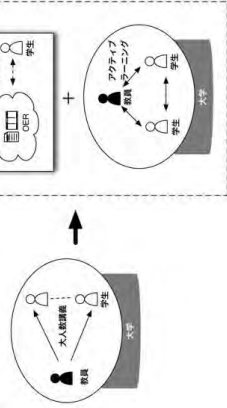
事例：トップユニバーシティによる
MOOC公開

- MIT、ハーバード、東大、京大...
 - 大学の優れた教育を公開し副次的効果を狙う
 - 大学広報、リクルーティング、優秀な学生を探す
- 教育機能のアウトソーシング
 - 研究、知の体系化、人材育成...大学が担うべき機能を残し、高める
 - トップユニバーシティが取りやすい戦略
- 有名なプラットフォームに乗る効果
 - edXやCourseraでコースを出すこと自体が宣伝に

「未来の大学」モデル(2)
MOOCを大学教育に活用

- 自ら作成したOERやMOOCを授業に用いる
- 大教室講義を反転授業・ブレンド型学習に

– 他大学のMOOCを使うことも可能
– 教育の質向上が期待できる



事例：Open Learning Initiative

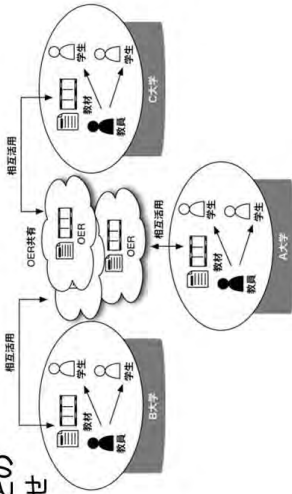
- カーネギーメロン大学によるオンライン学習環境
- 個別指導システムによる理解度確認
- 講義にオンライン教材を使い学習効果を向上
 - ブレンド型学習で学習効果が高まる
 - 学習進度を早められる



「未来の大学」のモデル(3) 大学連合モデル

- 複数の大学がOERやMOOCを共有する
- 教育内容の多様化や質向上を狙う

— 反転授業との
組み合わせ



- 北海道地区における教養教育連携
 - 事業の概要、双方向遠隔授業システムによる
合同授業について
- 大学間連携によるオープンエデュケーション
の可能性
 - オープンエデュケーションの広がり、我が国に
おける現状と課題、大学間連携の可能性
- e-learningを用いた双方向遠隔授業
 - 取り組みの概要、教育の質保証における可能性

事例：オープン教材を使った教育実践

- Project Kaleidoscope (米複数大学)
 - 教員グループがSTEM(理数教育)教材を
制作 教材の評価や改善を継続
 - 授業改善(FD)・教育の質向上に寄与
- dScribe (米ミシガン大学)
 - 学生が教材を制作し使う
 - 教材を制作することで学生が学ぶ
- Open Education “Practices”
 - 教育の質向上、多様化が期待される



大学間連携によるオープンエデュケーション の可能性

- 多様で豊かな教養教育を実現
 - 各大学の幅広い専門性をもとに科目を開発
 - 大学を越えて教育内容やカリキュラムを共有
- 大学連携によるメリット享受
 - 幅広い学びの選択肢を学生に与える
 - 分野横断的・俯瞰的な教養教育科目を実施
- オープン教材制作による教育の質向上
 - 大学間で教育内容・方法・ノウハウを共有する
 - 教材・授業改善によるFDの効果

双方向遠隔授業システムの効果向上

- 一斉講義の「延長」ではない教育方法の導入
 - 各大学でOERを使った予習(反転学習)
 - アクティブラーニングの導入による学習効果向上
 - 遠隔授業システムを補完

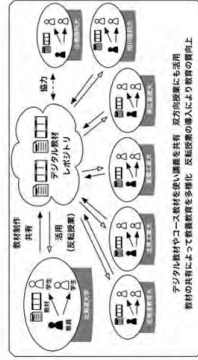


取り組み(1) オープン教材(OER)による教育改善

- OERの開発
 - 授業利用を前提としたオープン教材
 - 応用倫理学/環境放射能基礎/
 - 地球惑星科学/情報社会

• 教育方法の開発

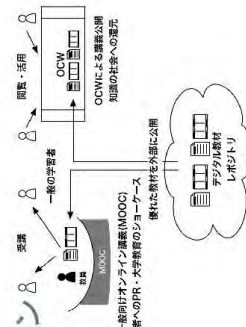
- オープン教材を用いた合同授業
- 反転授業とアクティブラーニングを実施



取り組み(2)

MOOC実施による「北大の教育」の発信

- 優れたオープン教材の公開
 - 開かれた教育環境の実現 大学の「知」の公開
 - 英語教材の公開による国際化の推進 (留学生獲得へ)
- オープンエデュケーションによる教育改革
 - 教育の多様化・質向上
 - 大学教育の魅力発信



オープン教材の企画設計

- 「MOOC型」のオープン教材
 - テーマごとの短いビデオ教材 + 知識確認のテスト
 - インスタラショナルデザインに基づいた構造化
 - 教材設計に長けた専門職員によるアドバイス
- 授業利用を前提
 - 反転授業の予習教材として用いる前提で設計
 - 学生のレベルに応じた補助教材にも



オープン教材の制作

- スタジオ収録(講義取りっぱなしではない)
- TAの補助
 - 教育内容に詳しい大学院生
- 映像制作に長けた専門職員が収録・編集



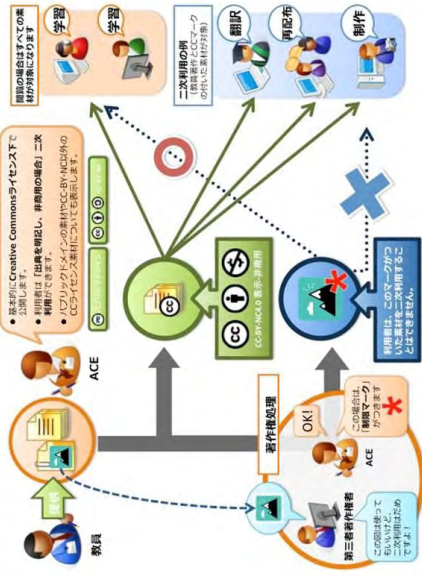
オープン教材リポジトリの構築

- Academic Commons For Education (ACE)
- オープンソースソフトウェア Open edXによるプラットフォーム



<http://ace.iic.hokudai.ac.jp/> (教材視聴にはログインが必要)

コンテンツの再利用を促す著作権処理



予習向けのオープン教材利用

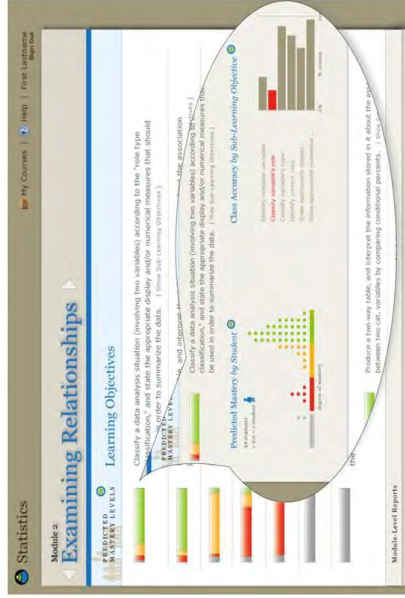
- ビデオ教材の視聴 → 問題への解答
 - 学習内容の定着化
- 教員はあらかじめ予習状況を確認
 - 学生の理解度に応じた授業展開を実現



期待される効果

- ブレンド型学習による教育の質向上
 - オープン教材を反転授業の予習教材に利用
 - 予習の状況に応じて授業を即時的に変える
 - 確認テストの正答率が低い項目の補講など
 - まずは個々の授業レベルで教育改善を目指す
- 課題
 - 簡易な学習状況の把握手法
 - 教員用ダッシュボード (edX-platformは力不足)
 - 大学の教育情報システム(LMS)との連携
 - ID 認証など

カーネギーメロン大学 Open Learning Initiativeのダッシュボード



まとめ

- 単位互換制度に基づく教養教育連携
 - 多様で効果的な授業の実施 教養教育の充実
 - 双方向遠隔授業システムの整備
- 大学間連携によるオープンエデュケーションの可能性
 - オープン教材による教育内容の共有
 - 反転授業とアクティブラーニングの導入
- 質保証に向けた取り組み
 - TAなど授業スタッフの育成、FD研修会
 - 予習の充実による教育効果向上

e-Learningと双方向遠隔授業を活用した大学間教育連携

重田 勝介
北海道大学 情報基盤センター 准教授
高等教育推進機構教育支援部
オープンエデュケーションセンター 副センター長

2015/1/29 大学連携e-Learning教育支援センター四国
事業報告シンポジウム2014

「大学連携教育の共同実施について」

文部科学省 国立大学改革強化推進補助金事業

四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施^{※1)}

報告「大学連携教育の共同実施について」

大学連携e-Learning教育支援センター四国
センター長 林敏浩(香川大学)

※1)「四国は大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の中の「四国」におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施を指して「大学連携e-Learning教育支援センター」を指す。

3

e-Learningによる共同教育の必要性

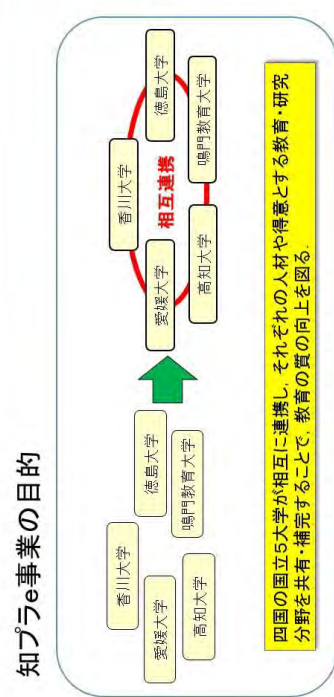
共同教育を行う際の問題点

- ・学年暦
- ・履修登録の手続き
- ・成績評価方法
など、教育システムが異なる
- ・各大学が離れている
(片道3時間)

解決するには、**e-Learning**しかない！

2

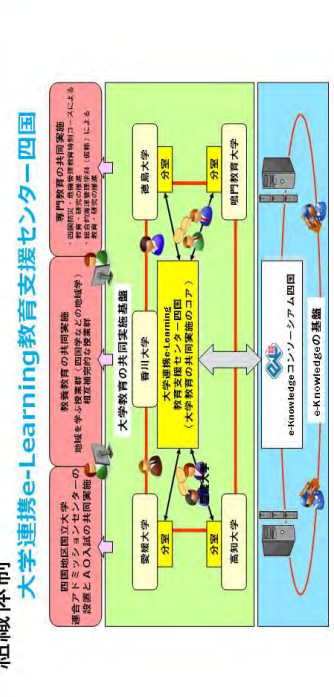
知プラ事業の目的



4

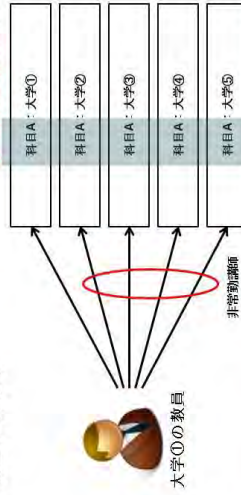
組織体制

大学連携e-Learning教育支援センター四国



共同実施の概要

同一の科目名で共同開講



平成27年度以降の授業で採用するe-Learning科目については、5大学において同一の科目名で共同開講し、各大学の様式でフラッグを有するものとする。(大学間申合せ 平成26年9月4日施行)

事業の到達目標

- 1. 共同実施の仕組み**
 - 共同実施科目の開講 50科目
 - 大学連携によるコンテンツの共同開発
- 2. e-Learning活用講義法と質保証の仕組み**
 - 効果的なe-Learning活用講義法の開発
 - フルタイム講義の教育の質保証
 - 多人数クラス(数百人レベル)の実現
 - 学生と教員の双方向性の実現
- 3. 継続的な運用の仕組み**
 - 補助金終了後の運用体制の整備



四国5大学型共同教育実施モデルとは

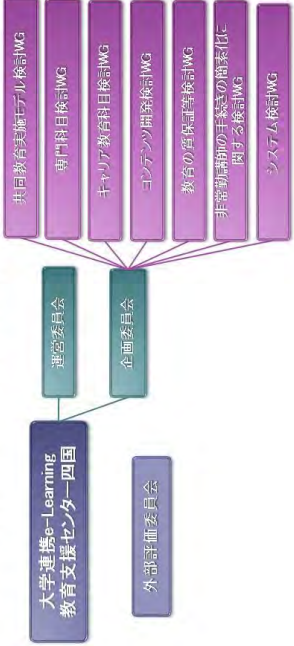
四国5大学型共同教育実施モデル

教育システムや教育理念の異なる大学間で教育資源を共有し、eラーニングを用いて有効に活用することで、各大学がそれぞれの教育理念に基づいて現在以上に効果的な教育の実現を可能とする方策。

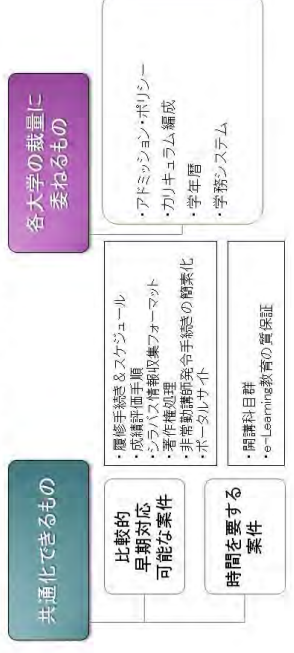
平成26年度 課題別の検討成果(例)

検討課題	検討項目	成果
運用体制	大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ	四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ(平成26年9月4日施行)
履修手続き	履修手続きとスケジュール 成績評価手順 シラバスフォーマット	シラバス情報収集フォーマット 履修・成績入力期間一覧
コンテンツ開発	コンテンツ開発ガイドラインの策定	コンテンツ開発ガイドライン 課履証書
教育の質保証	授業設計 授業運用 継続的な授業改善プロセス	授業設計ガイドライン 授業運用ガイドライン 授業評価アンケート
人事手続きの簡素化	非常勤講師の手続き簡素化	資格審査に関する提出書類の簡素化

センター四国の組織体制およびWGの概要



共同実施の検討課題の切り分け

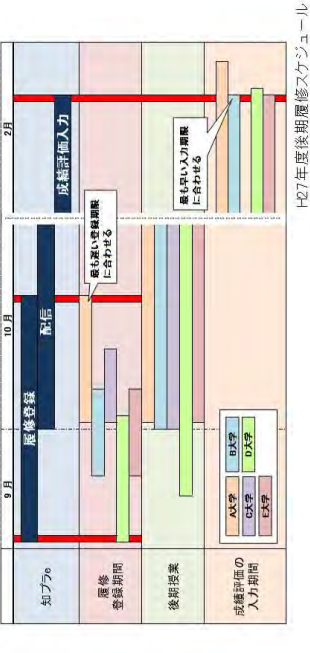


共同実施の課題2 知プラe提供科目の検討

H27年度共同実施開講科目

No	開講科目名	担当教員	学期	提供大学
1	地域コンテンツと知財管理	村井礼		
2	香川を学ぶ	林敏浩		香川大学
3	情報のいろは	林敏浩		
4	知の探訪	金西計英 他	後期	
5	日本におけるドイツ兵補償1914-1920	井戸慶治		徳島大学
6	「モラエスの徳島」 ～グローバルイズムと異邦人～	宮崎隆義		
7	サイエンスリテラシーの化学	立川明		高知大学

共同実施の課題1 履修等の手続き(検討中)



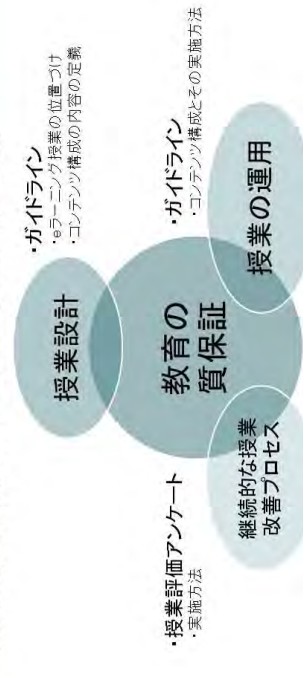
知プラe提供科目の案(参考:11月企画委員会資料より)

提供科目 科目群分類案	科目案
A	研究者倫理(基礎科目) 国際立大学での研究紹介、研究教育、情報セキュリティ、知的財産権、安全管理、宇宙学、工学管理、地球 系知、近代史、環境工学、マテリアルデザイン モリスの歴史、日本におけるドイツ兵捕虜(1914-1920-一四国)の収容所を中心へー 地域コナンツと知財管理、香川を学ぶ、地産学(COE科目) リンディアル教育(物・生・生・教)
B	地域コナンツと知財管理、香川を学ぶ、地産学(COE科目) リンディアル教育(物・生・生・教)
C	安全衛生管理、生命と倫理 知の探訪、初級次教育(資料探査用コンテンツ) 学校教員の世界
D	情報010101は、eラーニングリテラシー、情報倫理 ワールドワイドリテラシーの化学、有機化学論、気象と気象災害、情報処理、 情報ネットワーク論、情報科学概論 研究倫理(情報とくに継続科目) 研究倫理(情報とくに継続科目) 研究倫理(情報とくに継続科目)
専 門	各大学の特長ある研究のエンテラツ化

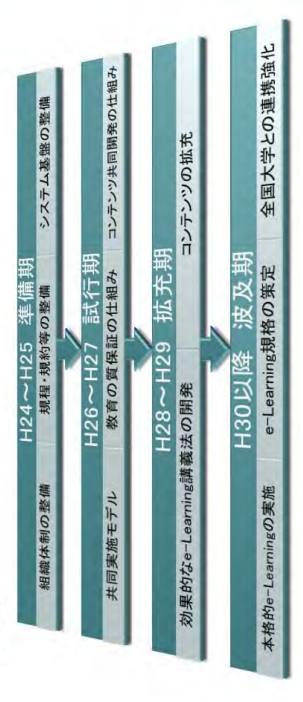
検討スケジュール(案)(1月企画委員会資料)

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成28年度 知プラe提供科目 利用年度														
科目名、授業内容の決定														
平成27年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成28年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成29年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成30年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成31年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成32年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成33年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成34年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														
平成35年度継続7科目														
科目名、授業内容の決定														

共同実施の課題3 e-Learning教育の質保証



まとめ



「大学教育の共同実施のためのワーキンググループ報告」
共同教育実施モデル検討 WG

事業報告シンポジウム2014 共同実施モデル事業報告

検討の概要

1 プロジェクトの到達目標共同実施モデル案

1-1. 共同実施モデル事業の到達目標・ビジョンの提案

- メンバー内で全体の事業ビジョンを共有するために必要な資料を用意した。(資料1-1)
- 知プラ事業における「コンテンツ」は科目単位にカウントすることとした。

1-2. 年間ワーキンググループスケジュールの整理

- 本WGでの活動を含め、実際にどのように進めていくかのスケジュールを用意した。(資料1-2)

2 eラーニング科目の選定

2-1. 平成27年度開講科目の調査・提案・確定


- 平成27年度は合計8科目の実施

No	開講科目名(単位数)	担当教員	学期	開講大学
01	地域コンテンツと知財管理(2)	村井 礼	後期	香川大
02	香川を学ぶ(2)	岩城 暁大	後期	
03	情報のいろは(2)	林 敏浩	後期	
04	知の探訪(2)	金西針英他	後期	徳島大
05	日本におけるドイツ兵捕虜(2)	西山賢一	後期	
06	「モラエスの徳島」〜グローバリズムと異邦人〜(2)	宮崎隆義	後期	
07	サイエンスリテラシーの化学(2)	立川 明	後期	高知大

2 eラーニング科目の選定

2-1. シラバス情報収集フォーマットの作成

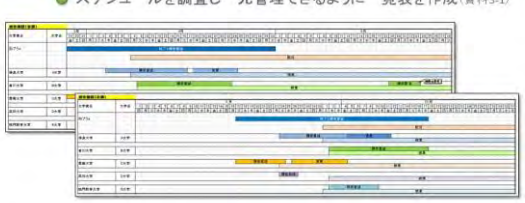
- 5大学すべての情報を収集するためのシラバスシートを開発した。(資料2-2)



3 eラーニング授業実施プロセスの策定: 履修から成績判定まで

3-1. 5大学の科目設置等に係る学内審議決定スケジュール (前・後期)の調査と確認

- スケジュールを調査し一元管理できるように一覧表を作成(資料3-1)



3 eラーニング授業実施プロセスの策定: 履修から成績判定まで

3-2. 知プラ事業における履修期間・成績入力期間の決定

- 【履修期間】
履修登録期間を5大学の状況を踏まえ、締め切りの遅い大学に合わせる。(毎年度、学年暦を踏まえて、調整する)オンライン上での授業科目の開講は4月中旬から授業を開始する。ただしその場合は、5月中旬以降に最初の課題提出期限を設けることとする。
- 【成績評価入力期間】
履修登録期間と同様に5大学の状況を踏まえ、前期・後期それぞれに、締め切りの早い大学に合わせる。(毎年度、学年暦を踏まえて、調整する)

3 eラーニング授業実施プロセスの策定:履修から成績判定まで

3-3. 成績評価方法の確定

- 科目担当教員は、素点(点数)で評価する。
- 各大学に送付&事務的に処理(優・良・可・不可、もしくは優・秀・良・可・不可など)
- 各大学で成績入力

3-4. 履修登録から受講・成績判定に関する業務フローの作成

- 学生への履修案内、履修登録、授業、成績判定までの業務フローの整理

4 履修案内の方法と内容

4-1. 履修に関する情報公開の方法の検討・提案

- 知ブラ科目に関する情報は一元化し、5大学の学生がそこから科目受講までのシームレスな環境ができることが理想であることを踏まえ、共通ポータルシステム等を検討するために代表校の下にシステムWGの立ち上げを提案した。

4 履修案内の方法と内容

4-2. 履修案内として公開すべき情報の整理

<公開情報案>

- 履修科目の情報(シラバスを含む)
- 履修方法
- 履修期間(開講時期などの対面講義と異なるスケジュール)
- 問い合わせ先
- 学生への連絡ができる掲示板
- LMSのアクセスができるリンクなど
- 履修人数制限の情報

例: 受講人数を〇〇人に制限するので、必ず〇〇(前期履修期間)内に仮登録を済ませること、〇〇名を超えた場合は、各大学の抽選によって受講者を決定し、〇〇(掲示板等)で通知する

1. 履修案内の方法と内容

4 4-3. 試験や認証方法に関する案の作成

受講者の制限方法について

- 受講者制限をかけるかどうかは科目担当者の裁量に委ねる。
- 受講者制限をかける場合、科目担当者がシラバス作成時に受入大学ごとの受講者数を決めた大学ごとの受講上限数をシラバスに記入する。各大学は受講希望者が受講上限人数を超えた場合、上限人数以内に調整して受講手続きを行うとともに、受講希望学生数をセンター四国に連絡する。

試験を行う場合の実施方法について

- 試験はすべてeLで実施できるように準備することを必須とする。
- 運用する実際の実施方法としては、平成27年度から平成29年度(補助金期間)まではeL上での実施のための移行措置として大学の事情に併せて対面でも実施できるようにする。対面試験を行う場合は、シラバスに明記する。

1. 履修案内の方法と内容

4 4-3. 試験や認証方法に関する案の作成

本人認証について

- LMSへのログイン方法はIDとパスワードで行う。

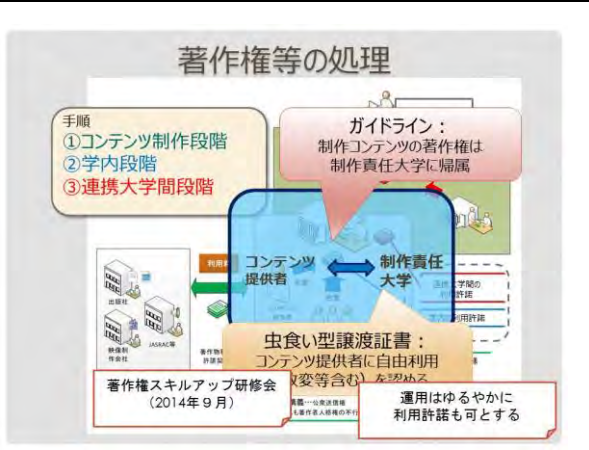
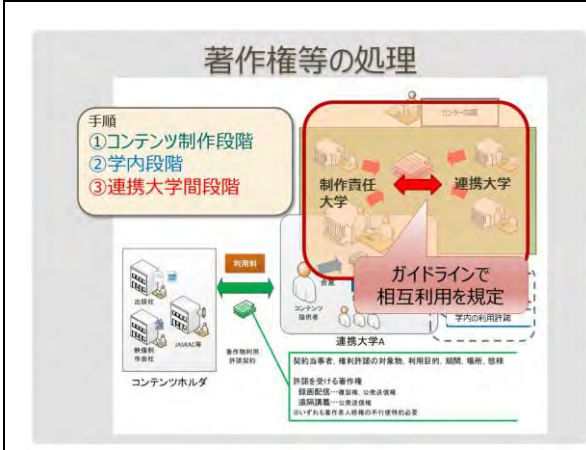
時間割へのマッピングに関して記載等

- 本プロジェクトによる提供科目は、各大学のカリキュラムの中で実施されるものであり、教育課程表中での配置や時間割上での配置等については各大学が決めればよい。特に明示しない。受け入れ大学の規程にあわせる。

事業報告

「大学教育の共同実施のためのワーキンググループ報告」
コンテンツ開発検討 WG

<p style="text-align: right;">2015年1月29日</p> <div style="text-align: center;"> <h2>コンテンツ開発検討 WG報告</h2> <p>主査校：香川大学</p> </div>	<h3 style="text-align: center;">WG発足の経緯</h3> <p>5 大学間のコンテンツ開発体制の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 撮影・編集等コンテンツ開発スキル ・ 著作権処理 ・ コンテンツ配信の仕組み 																					
<h3 style="text-align: center;">H26年度の検討課題</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>検討課題</th> <th>コンテンツ開発・利用できる 仕組みの整備</th> <th>著作権処理の共有</th> <th>コンテンツ共同開発 の仕組みの整備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">検討概要</td> <td>5月 検討課題と検討スケジュールの決定</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9月 ガイドライン策定</td> <td>9月 各大学の著作権 処理の調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月 ・各大学のPC環境調査、 ・コンテンツ視聴できる環境 の担保</td> <td>11月 著作権処理の 共有</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月 ・配信コンテンツの形式等、 運用細則の決定</td> <td></td> <td>該当科目が出るまで ペンディング。</td> </tr> <tr> <td>成果</td> <td>・コンテンツ開発ガイドライン ・運用細則</td> <td>・譲渡証書</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table>	検討課題	コンテンツ開発・利用できる 仕組みの整備	著作権処理の共有	コンテンツ共同開発 の仕組みの整備	検討概要	5月 検討課題と検討スケジュールの決定			9月 ガイドライン策定	9月 各大学の著作権 処理の調査		11月 ・各大学のPC環境調査、 ・コンテンツ視聴できる環境 の担保	11月 著作権処理の 共有		1月 ・配信コンテンツの形式等、 運用細則の決定		該当科目が出るまで ペンディング。	成果	・コンテンツ開発ガイドライン ・運用細則	・譲渡証書	なし	<h3 style="text-align: center;">コンテンツ開発ガイドラインの取決事項</h3> <p>用語の定義 ガイドライン内の用語を質保証WGに準拠</p> <p>著作権等の処理 制作コンテンツの著作権の帰属先、5 大学間の相互利用 第三者著作物の利用・肖像権・個人情報等の権利処理</p> <p>コンテンツ開発 視聴環境・動画形式・配信までのスケジュール eラーニング講義の構成・ Moodle機能設定は質保証WGに準拠</p> <p style="text-align: right;">詳細は事業報告書 2014（3月発行予定）をご参照下さい</p>
検討課題	コンテンツ開発・利用できる 仕組みの整備	著作権処理の共有	コンテンツ共同開発 の仕組みの整備																			
検討概要	5月 検討課題と検討スケジュールの決定																					
	9月 ガイドライン策定	9月 各大学の著作権 処理の調査																				
	11月 ・各大学のPC環境調査、 ・コンテンツ視聴できる環境 の担保	11月 著作権処理の 共有																				
	1月 ・配信コンテンツの形式等、 運用細則の決定		該当科目が出るまで ペンディング。																			
成果	・コンテンツ開発ガイドライン ・運用細則	・譲渡証書	なし																			
<h3 style="text-align: center;">著作権等の処理</h3> <p>手順 ①コンテンツ制作段階 ②学内段階 ③連携大学間段階</p>  <p>コンテンツホルダ</p> <p>連携大学A</p> <p>各大学にゆだねる</p>	<h3 style="text-align: center;">著作権等の処理</h3> <p>手順 ①コンテンツ制作段階 ②学内段階 ③連携大学間段階</p>  <p>コンテンツホルダ</p> <p>コンテンツ提供者</p> <p>連携大学A</p> <p>各大学にゆだねる</p>																					



コンテンツ配信に関する取決め

項目	内容
想定する視聴環境	最低限、各大学のPCルーム等での視聴を担保 ※詳細は運用細則 ※各大学の裁量で視聴保証する環境を提供するのは拒まない
コンテンツの開発から配信までのスケジュール	第1回目のe-Learning講義配信日の1か月前までにアップロードを行う

運用細則 (概要)

視聴担保するPCスペック	
OS	Windows 7相当以上
ブラウザの種類	IE(ver.8以上)を推奨
Adobe Flash Playerバージョン	ver.13以上
システムメモリ	1GB以上

ビデオ書き出し設定	
ビデオ設定	
コンテナ	FLV
映像解像度	480p
フレームレート	25
ビットレート	500~800kbps

平成27年度開講科目のコンテンツ開発・配信等スケジュール (香川大版)

期間	タスク概要	提供大学		開講大学
		担当教員	分室スタッフ	分室スタッフ
2月~7月	科目担当教員との打合せ ※開発対象物一覧、内容確認シート等	○	○	
	著作権処理	○	●	
	講義資料の作成	○		
8月~9月	コンテンツ(映像・課題)制作	●	○	
	コース開設		○	
8月~9月	アップロード		○	
	確認	○		
9月	相互確認		●	○
	開講			

○主担当 ●支援

- ### 今後の課題
- コンテンツの相互確認項目の作成
配信1月前にアップロード~視聴確認
 - タブレット端末への対応方法検討(愛媛大学提案)
 - Moodleの機能設定

「大学教育の共同実施のためのワーキンググループ報告」
教育の質保証等検討 WG

<p style="text-align: center;">質保証検討WG</p> <p style="text-align: center;">平成26年度活動報告</p>	<p>1. eラーニング授業の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> 知プラeの提供するeラーニングの授業を、単位を付加することのできる授業の一つとして位置付けることとした。 愛媛大学の「愛媛大学における「多様なメディアを高度に利用して行う授業」実施等に関する申し合わせ」を参考に、eラーニング形態の授業を、各大学が提供する授業の一形態として位置付ける、内規、申し合わせ等を作成することとした。
<p>2. オンライン授業設計ガイドラインの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 知プラeの提供するeラーニング科目を質を保つという観点から、各大学がそれぞれ提供するeラーニングコンテンツの内容を揃えるため、「オンライン授業設計ガイドライン」を開発することとした。 「オンライン授業設計ガイドライン」には、eラーニングコンテンツの構成に関する内容の定義をおこなった。このことにより、5大学の提供する個々のコンテンツを利用した教育の水準を、まずは、外形的に揃えることを目指した。 	<p>3. オンライン授業運用ガイドラインの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 知プラeの提供するeラーニング科目を質を保つという観点から、eラーニング科目の実施において、その運用方法を揃えるため、「オンライン授業運用ガイドライン」を開発することとした。 「オンライン授業運用ガイドライン」は、「オンライン授業設計ガイドライン」と対をなし、eラーニングコンテンツの構成とその実施の方法を、5大学で揃えることを目指した。
<p>4. オンライン授業の改善の循環形成のための検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 知プラeの提供するeラーニング科目の質を保つためには、改善のための恒常的な循環サイクルを形成する必要がある。そのための改善方法についての検討を始めた。 授業評価アンケートの実施と、アンケート項目の設計をおこない、平成26年度の後期より試行を始める。アンケートの結果に基づき、オンライン科目の改善を進めることとした。 	<p>5. 柔軟な教材活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ブレンド型の授業のように、eラーニングの活用が多様化することが想定されることから、知プラeにおいても柔軟な学習環境の提供に対応することが求められる。eラーニングコンテンツの部品化や、共用に関する検討を始める。 「単位を付与しないeラーニングコンテンツの取り扱いに関する申し合わせ」を作成することで、eラーニングの多様な活用に備えることとした。

6. その他

- ・その他、知ブラeの提供するeラーニング科目の質保証に関する検討事項を取り扱うこととした。
- ・各提供科目で指定された書籍の取り扱いについて、現状での実態や整備の方法について検討した。

事業報告

「大学教育の共同実施のためのワーキンググループ報告」 キャリア教育科目検討WG

キャリア教育科目検討WG報告

主査：宮下 晃一（鳴門教育大学）

H26年度の検討課題

- ①本事業で取り組む「キャリア教育」について5大学間で共通理解を図る。
（受講対象者、授業内容、コンテンツの制作方法、授業の運営方法等）
- ②キャリア教育1科目の制作に関わる詳細検討を行う。
鳴門教育大学で制作予定のコンテンツについて
 - ・WG内で制作途中段階のコンテンツ試験視聴と意見交換。
 - ・コンテンツ制作に関わる問題点に関わる問題点を明らかにし、それらをコンテンツ制作にフィードバックする。

検討スケジュール



- 26年5月 知ブラで取り組む「キャリア教育」について共通理解
- 26年度中 「学校教員の世界(仮称)」の収録
- 27年1～3月 キャリア教育1科目の制作に関わる詳細検討

検討の概要(1)

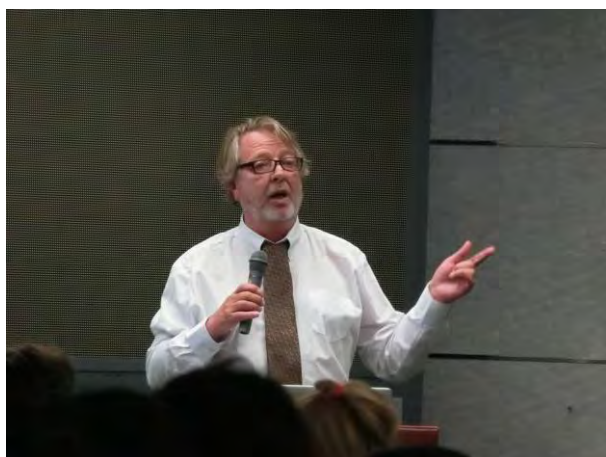
- ・受講対象者は、5大学の全学部学生
学生が多様な分野の職業について学ぶことによって、学生自身が持つ専門性を活かす方法を柔軟に思考できる力量をつけさせることがねらい。
- ・授業内容は、まず1科目目として「学校教員」に関する内容
その後、他の分野、例えば「医療」「製造業」「農林水産業」等に関する科目が考えられるが、それらに繋がる深い学部の協力が必要になる。
- ・就活支援だけを目的としない
社会に出てから能力開発や基礎力を育成する上で役立つ内容を提供すること。

事業報告

「大学教育の共同実施のためのワーキンググループ報告」
専門科目検討 WG

<p>2014 年 専門科目ワーキング報告</p>  <p>高知大学総合教育センター 立川 明</p>	<h3>主な検討事項</h3> <p>(1) 望ましい開設科目</p> <ul style="list-style-type: none">➢ メインテーマを決めるのは難しい (例: eK4 の「四国の知」)➡ 提供科目を支援 <p>(2) 総合的海洋管理科目群 (5大学連携で実施する教育プログラムの科目群)</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 他の専門科目と同じ扱いとする➡ 必修・選択必修科目の一部をeラーニング化 <p> 高知大学 立川 明</p>
--	---

「e-Learning を活用したアクティブラーニング」をテーマとして、平成 27 年 9 月 3 日（木）に徳島大学常三島キャンパスでシンポジウムを開催した。特別講演では、Leon Huijbers 氏（デルフト工科大学ニューメディアセンター マネージャー）を招き、米国と比較した欧州の e-Learning 動向やオンライン教育の成功の秘訣について講話してもらった。その後、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国から e-Learning の取り組みについて紹介した。総合討論では、村上正行先生（京都外国語大学 教授）を迎えてセンター四国の各分室長と e-Learning の利点や課題について検討した。シンポジウムには 112 名の参加があった。



Leon Huijbers 氏による特別講演



総合討論



近年、学修者が主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブラーニング」）の重要性が指摘されています。本シンポジウムでは、高等教育機関のフルオンライン型授業においても学生が主体的・協働的に学ぶためにはどうすればよいか、科目や学生の特性に応じたe-Learningの活用方法はあるか、e-Learningと対面授業とをどうブレンドすることが最適かなど、「e-Learningを活用したアクティブラーニング」について議論したいと考えています。

特別講演ではMOOCsへの取り組みで著名なオランダのデルフト工科大学ニューメディアセンターマネージャーのLeon Huijbers氏から、米国と比較した欧州のe-Learning動向やオンライン教育の成功の秘訣についてお伺いします。その後、大学連携e-Learning教育支援センター四国から、四国におけるe-Learningの取り組みについて紹介します。

総合討論では村上正行先生（京都外国語大学 教授）を迎えてe-Learningの利点や課題に迫り、全体で「e-Learningを活用したアクティブラーニング」について検討します。

▶ 日 時

2015年 9月 3日 (木)
13:45 ~ 17:00

▶ 場 所

徳島大学常三島キャンパス
工学部共通講義棟6階 創成学習スタジオ

テーマ

e-Learningを活用したアクティブラーニング

Program

12:30	開 場	受付開始
13:00	挨拶・表彰など	教育システム情報学会会長挨拶・表彰等
13:45		開催校学長挨拶 香川 征 (徳島大学 学長) 開催校より趣旨説明 金西 計英 (大学連携e-Learning教育支援センター四国 徳島大学分室長)
14:00	特別講演	 The X-Factor in Online Education From European strategy to campus practice ※講演は英語 (同時通訳はございません。) Leon Huijbers (New Media Center, Delft University of Technology)
15:30	事業紹介	センター長、各ワーキンググループ主査
16:15	総合討論	e-Learningを活用したアクティブラーニング 連携大学代表討論者) 村井 礼(香川大学) 金西 計英(徳島大学) 宮下 晃一(鳴門教育大学) 田中 寿郎(愛媛大学) 立川 明(高知大学) 指定討論者) 村上 正行(京都外国語大学 教授)
17:00	閉会挨拶	林 敏浩 (大学連携e-Learning教育支援センター四国 センター長)

共催：教育システム情報学会

お問
合せ

〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1 徳島大学内
大学連携e-Learning教育支援センター四国
徳島大学分室
Tel 088(656)7095

詳細

センター四国HP シンポジウム案内
<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/event2015.html>

申込みは裏面をご覧ください



Good afternoon, ladies and gentlemen.
Needless to say, I am very very pleased with the invitation to meet with you, today.

Intro
First of all, this is not a lecture! It's about how we in Europe - in the Netherlands - in the Delft University - react on a very exciting moment in education history.
What I would like to do today, is share that moment - that experience... with you
Eh oh just one domestic notification... better warn you in advance!
I've built in some heavy alerts in my presentation! Don't be scared!! Hold your seat! Do not evacuate.

Agenda
It's about changes in our academic landscape, online education, principles and operations, in Europe, in the US and the Delft University of Technology. About translating new didactical scenarios in useful online formats. Course design - course production - and course publishing. For blended Bachelors, online Masters or MoeC's, alike. About our efficient workflow and the tools we use in Delft to produce and publish high volume academic videos and how we enhance campus education.
Most of all, about fulfilling the needs and expectations of a next generation students. video aerials campus
Let me take you by the hand and lead you through the streets of Delft
This is Delft University. The biggest and oldest of three universities of engineering in the Netherlands. About 4 square miles, 8 faculties in 8 different buildings, 3 research institutes, 20,000 students of which 14% are foreign. We offer 16 bachelors and 30 master courses, have 2600 phd's, 105 huge class rooms, spread all over the campus.
Educational landscape is changing
I firmly believe there is a transition going on. I mean look around you. Our economical processes are in flux. World powers are shifting. Politicians have a hard time listening to the people. And the very foundation of our society: education, is no exception. Thus, every education system in the world is being reformed at the moment. We may bury our head in the sand and pretend not to hear, the reality is:
That somewhere in the world, as we speak, another university is going online. And somewhere, as we speak, a mass of students is enrolling on a distance online course.

1

The Industrial Revolution brought wealth and prosperity unseen before in human history. In 1750, the total wealth of the world sat at an estimated \$126 billion dollars. Today world-wealth is over \$70 trillion. It also brought along great leaps in transportation, medicine, civil rights and education. The bad news is: what got us here, will not take us further, anymore.
Situation in Europe
In Europe, like anywhere else in the world, we are aware of this transition. And that it is complex! It requires rethinking, re-modeling. Maybe even redesigning our educational landscape. To make change in the way we teach and deliver students. Not just in Science or Engineering, but across all creative disciplines.
Effect on teaching
Education with youngsters supplied as products make way for a new thinker, with courage, imagination, entrepreneurship, creativity and organizational skills. These are the minds that will flourish. Reduction of talent in merely an IQ number is absurd. Difference and diversity are keywords. In each organization new people, new ideas will pop up. With new standards, values and responsibilities. According to Alvin Toffler (1928) futurist, journalist,



There is a huge education & technology exhibition in London each year. It is huge! I visited this exhibition with Prof. Veer in 2003. Wim is recognized for his studies 'The Homozappiens'. With games, this generation is actually developing new skills and competences. In gaming, these kids take on different roles, learn different points of view. That, zapping is not being bored! But actually a fast understanding of context. They learn different, this new generation. And it has effect on how we teach and deliver. What I saw, 12 years ago in London was, just way above my imagination. Technological classroom innovations - smart didactical software applications - learning management systems. But to my surprise, hardly any content! And I was thinking, its all about content, and content creation. If this is going to be my reality for the coming years, I better start digitizing right NOW!

2

Bottom line..... How to digitize 50.000 hours of lecture in a standard way, published organized on the Web, available for exchange and re-use, leaving the teacher in charge of his own content.
Weblecture service
My conclusion was, we should introduce a new standard service, easy to use, low cost and embedded in the organisation. We had to come up with a tutor-friendly solution. Reliable, modular built, a growth model. The source material should be archived, available for treatment, re-useable and exchangeable. With instruction and support. Above all: easy accessible by 99% of the student population. Mobile. Anytime anywhere. That's where Mediasite came in. That's how we started, 12 years ago.
Weblecture results
Today, we are currently delivering 20.000 weblectures generating 750.000 student visits per year for 35 minutes average. On a 20.000 student population, you might easily call this: Very popular! You know what is the most popular tool these 750.000 students use? The Zspeedbutton! It seems our homozappiens is quick-witted.
Open course ware impact.
Alert, alert. Envision a world where everyone, everywhere could have access to education. The next big step for us, with a huge impact on today's situation, came in 2007. Delft embraced the Open Education movement. The Open Education Consortium is a worldwide community of hundreds of higher education institutions.



For them, openness should be a feature of education around the world. Accessible, modifiable, free.
Now why should we do that? Give away our knowledge for free? Why is Open Education so important to us? We think, like you, that education is essential to solve the challenges of the present and seize the opportunities of the future. And in order to solve these problems, we just have to open-up high-quality educational resources to a global audience. So people can fulfill their desire. And students get additional information to help them succeed - that workers may learn something to get further on the job - for teachers to find new ways to teach - and to translate, mix together and openly share materials.

3

Today, my university is re-using our web lectures, enrich them with assignments, tests and other learning materials in 165 courses, which are then published open on the web. Delft is not unique! Some universities in Japan as I noticed, do the same. Japan has its own OpenCourseWare movement. Those are the main platforms we use. Until recently



MoeC impact
"There is a whole new world unfolding" said the M.L.T. president, Rafael Reif, "and everyone will have to adapt. Quite a statement here! Again time for an Alert! Are MoeC's a hype? Or do they represent the end of the traditional academic institute, as we know it? That depends on whom you ask, I guess Reason enough or: The New York Times to term 2012 the 'Year of the MOOC'. And again, do the same. Japan has its own OpenCourseWare movement, it's having a huge impact on my University.

US-EU differences
At this point, although started at the University of Manitoba Canada, the MOOC movement is dominated by the United States. In the amount of courses, as-well-as in leading platforms.
In both parts of the world, the main goal is to gain institutional visibility and reputation. But also to improve quality of on campus offering, to realize more flexible off- and online education, to improve teaching and to respond better to the demands of learners and corporations.
Strange enough is it that Finance, like exploring cost reduction or generating income..... is NOT seen as a primary objective in both continents.

There are fundamental differences of opinion, though.
Take the credentials, for example. A large majority in the US, think MoeC credentials are a threat to campus value and might lead to the devaluation of the universities degree. Europe disagrees with that statement. Next, more than 80% of European institutions are convinced that MOOCs are important to learn from online pedagogy. In the US only 28% think that way. According to a European funded survey in 2014.
Even the objectives vary.
European universities have a positive attitude towards MOOCs. Those offering MOOCs, have positive experiences. What we observe is that in the US using MOOCs for student recruitment is the most important objective. While in Europe it is reaching new students and creating flexible learning opportunities, for those new students.
MoeCs European way.

4

Possible explanation for this difference is the lack of threat: European Universities are most part subsidized. The EU countries are having more government support and European funding on MOOC projects. Through HOMER for example, in which 46 countries are united, Europe experiments more with online pedagogy and with different types of MOOCs. Great help is a solid ECTS framework for credentials. We are more confident in given credentials for MOOCs.

The European government stresses the need for stronger collaboration in Europe, based on the principles of transparent cooperation, mutual benefit and collective advantage. We think the open and online learning movement has great potential to educate the many. It is for those reasons that the Porto Declaration on European MOOCs calls upon all institutions to embrace open and online education.

Anyway, Europe is grabbing the opportunities MOOCs offer. And we are well on our way. Stimulated by national governments and the European parliament.

MOOC platforms

In Januari 2012, Sebastian Thrun quit his respected position at Stanford to found Udacity. In April 2012, Stanford followed with Coursera and in May 2012, MIT and Harvard launched the EDX platform.

Europe's answer to keep their own educational identity is OpenUpEd, mentioned above, a pan-European MOOC initiative. Launched in April 2013. It has courses in 10 languages with universities in France, the UK, Lithuania, the Netherlands, Slovakia, Portugal, Spain, and Italy. It also partners with universities outside Europe, in Russia, Turkey, and Israel.



TU Delft choice for edx

So, Delft University of Technology joins MIT, Harvard and Berkeley in The Edx consortium to fulfill their online ambition.

EdX aims to bring the best of higher education to students around the world and offers interactive online classes designed to be interesting, fun and rigorous.

The goals, however, go far beyond offering courses and content, only!

Openedx for example. These Edx universities want to share what they discover and inspire others? Empower educators around the world? Well, with this open source comes python-based EDX STUDIO! A simple, very complete coursemaker, any student assistant can handle. This is in my opinion, a key driver for new widely spread online platforms in Educationland.

5

Take "Extension Schools" for example. Originally, they offered a small program to local residents to give a taste of the University experience.

For a tiny number of people, a chance of earning an associate of some degree. A program, primary for adult part-time students.

But the school has since outgrown its original mission, and Universities move their online activities onto this local clone of OpenedX.

Designing new functionalities, pinning the the platform to their own "look and feel":

OpenedX platform, Edraak from Jordan. For the Arab speaking world.

There are quite a few in China, like Yslinghua University. A French one.

Here is a Japanese site using that same free sourcecode.

It looks like overnight, these worldwide platforms have become incredibly credible and highly in-demand. It sure signals a shift towards, new models of online education.

In Delft, for this reason, the board approved an innovation program, accelerated by the newly established Delft Extension School. This Extension school handles all initiatives on open & online courses. For on-campus education and that global population of life-long learners.



Delft online learning organization

Lets look at this video.

The Delft extension school is founded, to implement a two-year strategic program to experiment with online education, both on campus and fully online.

3 parties are collaborating in developing online courses:

Most importantly the faculty team: say the teacher with student assistance. They are the experts, the content-owners.

The NewMedia Centre: Course design, course production and course publishing. And, this extension school. To organize, to research and develop, to take care of the learning experience, to explore new markets. And to come up with a new business model.

Business model

A "burning issue of MOOC is the lack of a clear business model. We need to make it sustainable. Funneling down from the Masses in MOOCs it isn't difficult to imagine fees and credits for different audiences. Enter Spoc, small private online courses and the clue is in the "small and private" of the name. Spocs can just as MOOCs, be taken online from anywhere. They are intended for professionals with several years of working experience. It will be SPOCs for companies, in my opinion, emerging as a preferred

6

revenue model. We will then market right into a full campus program for full tuition.

Say, MOOCers who might decide to come and study in Delft. We actually enrolled 377 extra international students this year, who were MOOC related.

In practice this means, we need different pedagogical agendas-re-using course materials for audiences, with different objectives on different channels.



The Delft policy

Next defined was a clear Delft online policy:

Campus education refers the use of online course material for our campus students.

Students can partly follow their course online and the other part face to face.

The aim? To use face-to-face time more effectively! And hopefully better student results.

Online Distance education are Master fully online, and can be followed by current or new students all over the world. Lectures as well as guidance, takes place online.

Students can receive ECTS when finalizing these courses. OpenCourseWare is a free and open. As I explained before, accessible to anyone, anytime on the Web. Massive Open Online TU Delft's MOOC's via the EdX platform. Students receive a certificate of accomplishment when they complete a MOOC.

Implementation and operations

Policy is one thing! To find some early adaptors, willing to enhance their education and eager enough to participate is hardly a problem. But rolling out a long-term initiative campus-wide, is something else. The making of an online course is time consuming, time teachers are short of anyway! It differs very much from their daily routine and they may have to step out of your comfort zone. How to get them excited about it.

It is therefore, we created an atmosphere of Competition. We decided on tendering: 4 times a year. Honoring 4 online courses. Seduce them with incentives. Winning a budget for student-assistance, facilitating with advice and support, with production of learning materials, faculty can keep revenues and personal world-wide exposure.

And I must admit: Today, we sometimes even have to disappoint them. There are too many.

Blended Bachelor development.

MOOC's have an impact in reaching global audiences, and in spurring on the development of new educational technologies, even business models. However, one of the MOOC most important benefits is the opportunity to try new things. Without a willingness to experiment, we might totally miss ways to improve our courses.

7

Start Screencast!

Where the benefit of online education really starts is campus education, for our own students. The mix of face to face and online.

Student satisfaction

To our surprise the first blended bachelor performed much better than expected.

All lights on green for the first time in the history of the course, the satisfaction rate ended 4 on a 5 scale. It looks like flipping the classroom, mixing face to face with online, rises student satisfaction and discipline for the total course.

The students in this course not only used the online tutorials, they attended all the face-to-face classes and even watched the existing web lectures.

Like one teacher said; Amazing...for the first time all of my students delivered their assignments complete and in time.

It all started off with staff sitting together looking over the total information to be taught. Deciding what was fit online and what certainly not. Which actually resulted in re-designing the course, in 5 instead of 10 classes. A huge time benefit for teacher and student. Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

Time, re-invested in research. As you may guess, we will continue this blended course and stimulate others to do so.

8

It should be: vivid - fascinating - reliable - enthusiastic - appealing - engaging - personal - quality - innovative.

I set the bar high. And to give mouth to our ambition, we went looking for the X-factor in online education. That un-definable something that make star quality.

Vision & mission NewMedia Centre

The TU Delft Library NewMedia Centre has a history in creating, producing and publishing scientific multimedia content. For print and on the web. Since the focus is online, the NewMedia Centre developed a vision and workflow to produce didactically high quality attractive assets, as lowcost possible. Our ambition is to come up with a new standard in Course design, Course production and Course publishing. The Delft NewMedia Centre operates as one central platform, it's a platform where all comes together letting the different online initiatives benefit from each other, by exchanging educational content using it for different purposes, by standardizing new technology and functionalities as shown in this model. Most of all it's a co-creation platform between faculty - staff and creation. Lets have a look inside.



Online education platform

To manage that workflow from creation to a uniform publication on any recommended channel. Making weblectures re-usable and exchangeable, integrating existing technology and systems. Introducing the concepts: Asset management on Channel management. Looks like this...

Team & activities

If you knock on our door, we will capture all your classroom lectures and stream those 24/7 in Blackboard. We will make the invisible, visible by using 3D animated images. We do create your publishing platform, enrich it with webinars or social blogs. But most importantly: We will help translating your new didactical scenario into an online format. How do we do that??

Well, first you need people. This is my team. Multi-disciplined. They are digital designers, Audiovisual engineers, copyright and pedagogical specialists. We hire students to help us out when things get rough. Without them I would n't give any guarantee. Use students, its their future. And they give great feedback.

9



Service model

We introduce a 3 steps service model. The "You do it yourself" in this model is a strategic one. In order to stay cost-effective we just have to share our knowledge. It will be impossible to counter the rise in demand with more staff and more budgets. Teaching the teacher the Newmedia centre is organizing workshops, online and onsite, publishing written and audiovisual tutorials as well as facilitating a few tools like the Doityourself studio.

The making of online formats & academic video

Let me be frank, straightforward capturing a classroom lecture is more like a reference book, ideal to prepare exams, isn't it? It got us started quickly and efficiently, but doesn't complete the online learning experience my University is looking for! Today, we need to translate new instructional designed courses into a variety of online formats. And for these academic videos we would like a new efficient workflow to produce and publish hundreds of 10 minutes tutorials, Kahn-like solutions, instruction or learning modules. Whether it's a web lecture, a tutorial or any other video format, for the students today, it needs to be presented in a lively and enthusiastic way, while being engaging and personal at the same time. Matching the day-to-day Web/TV students experience. Most importantly: The translation of new didactical scenarios into online formats. (10 examples and different ways of presenting courses, verbal explained)

The Media Tools

And how are we facilitating the production in day to day campus life?

In order to be flexible, we introduced a "roll around the campus solution". Carts, equipped with AV technology, a sort of Click and Go system operated by instructed students. We can operate and in any room, making utmost use of machine time and life cycle.

Another benefit proved to be the fixed installs in classrooms. We had just too many students, no extra classroom space and no available teacher time. The alternative was giving class in the evening, Ofcourse no student was excited about that and no teacher either. Connecting six rooms streaming the signals to each room brought about a cost effective solution. Switching captures from room to room with 2 mediaite recorders. Our studio really is state-of-the-art and equipped with latest greenscreen, lighting, audio and video technology. It's got LED's in all colors. Blackboard chalk is not digital. For

10

those teachers hanging unto blackboard writing, we have a super smartboard at their disposal. The notebook control room is comfortably provided with useful hard- and software to place you in practically any virtual background or location. The studio is mostly used for high quality creative academic video, webinars, and online presentations. We do facilitate videoconferences in that same room. All comes with coffee, an operator and technical support.

Blackboard chalk is not digital. For those teachers hanging unto blackboard writing, we have a super smartboard at their disposal.



DIY studio

In addition to the professional studio, the NMC recently features a small do-it-yourself studio. This space is extremely useful for the advanced presenter and shows the same functionality as Studio One. The difference is, you do it yourself according to Plug & Play principles. We'll standby! From your booking online to the publication on any online channel.

Now, some of the teachers really want to produce their lecture in their own time and pace. Understandable! And some may have experienced the studio and are ready to DoltThemselves. My Collagerama is the desktop tool you may download from our server and have a go at it. Anytime-Anywhere. You are publishing your lecture in just a few steps. With it comes a handy tutorial to get started.

Production technique examples

In case of an online course with a clear didactical agenda, sequence and structure is needed. This guideline is arbitrary. Take it just as an example we use. The tutorial videos should be clear - personal - energetic - using quality graphics or visuals. Get his attention making a catchy or witty opening. Introduce briefly the subject of the tutorial. Refer to the previous one. Motivate with practical relevance or truly situations. Ask a rhetorical question after a few minutes for further engagement.

Point out a nice assignment and don't forget what the next lesson will be about.

We then do add some dynamics by switching images.

We will switch to full screen when PPT text or what you see is more important and dominant. And switch back to the teacher when what he says, needs the most attention

Teacher approach & execution

We'll prepare the educator as best we can. He will miss the classroom dynamic and the direct interaction with his students. We tell him to imagine a student somewhere in the world, sitting in his room behind a laptop with lots of distractions around. We tell him to

11

address this student personal. We offer a short training. Not to properly answer journalists questions. But to transfer information in a vivid, enthusiastic and engaging personal way! To play-out his passion, staying close to his character.

Next important step to get an X-factor is the spoken word. The NMC starts discussions with professors well before the actual classes are recorded. We will exchange ideas and introduce them to all possibilities. One of the few things we actually ask is scripting his space. An online tutorial brings about a total different dynamic than a 50 minutes classroom situation. 9 to 10 minutes text needs to be written out by the teacher, to develop his method and to restructure his classroom lecture into an online format. De script is then used for metadata, for close caption or subtitles and to help communicate with assistants or fellow teachers. It might look time consuming, and it is. But it really pays off in the end. As a result, teachers are refocusing on their content. They actually enhance their style. Like one teacher said to me: " About time to pedagogically refresh after all these years, I even discovered some disorder and outdated information"

An Autocue is then placed over the camera to run the telest. The teacher can focus on "How" to speech" instead of "what to say", avoiding stress, delay, stammering or stuttering. What will only distract from the main issue.

The teacher looks into the camera and addresses his student on his laptop screen in a personal manner.

Restyling learning materials

Most of us use slides, graphics or visuals in class. These materials need to be adapted for good online information transfer. The quality of learning materials is of paramount importance. Most classroom slide presentations are of no use online! Standard is HD 16 by 9. Font size should be at least 24, for readability.

To much text, doubling with speech is killing. Specially when irrelevant. Slides just standing there, accompanied with minutes of speech, don't work either. It just does not. Sometimes a pictures tells the story better.

Recording

Now here is where the good preparation really pays off. When all text is scripted, and materials are well prepared and approved, we'll record "on the fly". Since postproduction is very costly, we will record in one or two runs. More runs will wear out the teacher taking away the dynamic and energy.



12

So far: It's the teachers who deserve final credit for their amazing work. Some of them were naturals, some needed training but almost everyone came with an open mind ready to learn this new dimension to education and knowledge sharing.

To round it up! Video compilation lectures

MOOCs have an impact in reaching global audiences, and in spurring on the development of new educational technologies and business models. However, one of the MOOC most important benefits is in affording the freedom and opportunity to try new things. Without a willingness to experiment, our faculty members might not have ways to improve their courses. We will continue to create opportunities, along innovative tools and ideas. Stimulating new possibilities in teaching and new ways to improve learning.

Takeaways

Well, I believe that online teaching and learning will be very much into the DNA of the 21st century and of great importance. I bet a fine bottle of wine the Web plays an important role in it. Rich and Multimedia technologies together with instructional designers and excellent teachers will shape the next generation University. And with it, the demand for online course design, course production and course publishing will certainly grow. I kindly invite you all to get involved in it.

Thank you!



知プラ e 事業の紹介

文部科学省 国立大学改革強化推進補助金事業

四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施(知プラe事業)

大学連携e-Learning教育支援センター四国
センター長 林敏浩(香川大学)

知プラe事業の概要

知プラe事業の目的
四国の5国立大学法人が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで、教育の質の向上を図る。

事業目的達成の方法
大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置し、e-Learning基盤を活用して大学教育を共同実施する。

知プラe事業の到達目標

- 共同実施の仕組み**
共同実施科目の開設 50科目
大学連携によるコンテンツの共同開発
- e-Learning活用講義法と質保証の仕組み**
効果的なe-Learning活用講義法の開発
フルe-Learning講義の教育の質保証
多人数クラス(数百人レベル)の実現
学生と教員の双方向性の実現
- 継続的な運用の仕組み**
補助金終了後の運用体制の整備

副専攻科目の開設により、専門に偏らない幅広い能力を持った人材の育成

大学院教育

専門教育

専門基礎教育科目の共同実施による基礎学力の向上

教養教育

限られた数の教員で専られた教養教育の提供ときめ細かい少人数対面講義の実現

共同実施の概要

平成27年度以降の本事業で提供するe-Learning科目については、5大学において**同一の科目名で共同開講**し、各大学の様式でシラバスを作成するものとする。(大学間申し合せ 平成26年8月4日施行)

大学①の教員
非常勤講師

- 科目A: 大学①
- 科目A: 大学②
- 科目A: 大学③
- 科目A: 大学④
- 科目A: 大学⑤

共同実施の利点

- ・科目の共有・補完
- ・科目選択の幅の拡充
- ・履修手続きの簡素化

大学サイドからの共同実施の利点

四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[大学視点]

コアプロモーション(教員認定・学位授与に関する方針)への積極的貢献

電子部数や授業形態(遠隔)による授業科目

心部科目
選択必修科目
選択科目
自由科目(履修柔軟性)

共同実施による提供科目

- ・選択科目の提供(各大学で開講しづらい科目を提供できる教員がいない場合は)を実施
- ・教育目標の達成に資する(自由科目の履修)ことが可能

学生視点からの共同実施の利点

四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[学生視点]

学生の科目履修の選択幅が拡大

履修不可

履修したい科目は他大学で開講している

履修可能

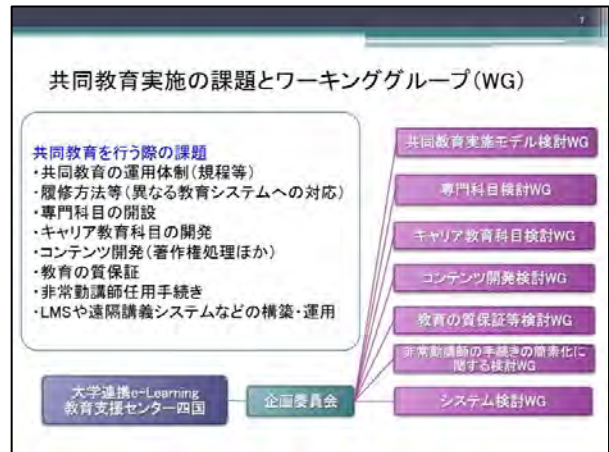
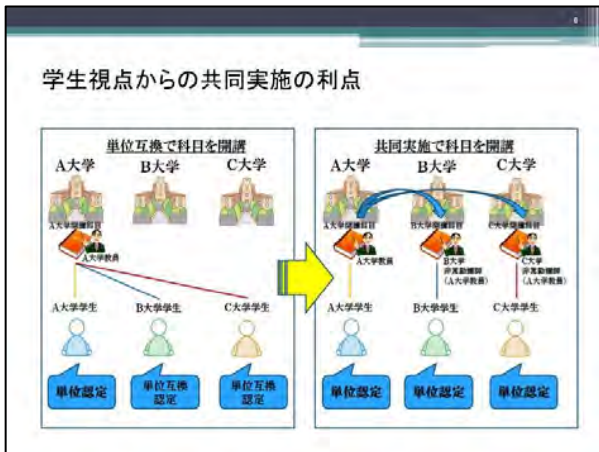
履修したい科目は他大学で開講している

履修したい科目は他大学で開講している

履修したい科目は他大学で開講している

履修したい科目は他大学で開講している

履修したい科目は他大学で開講している



これまでの検討課題別の成果物の例

検討課題	検討項目	成果物
運用体制の整備	組織の設置、規程等の整備	四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ、ほか
共同教育の実施モデルの確立	履修手続き、成績評価方法、シラバス等、5大学で異なる教育システムに対応した仕組みの整備	履修・成績入力期間一覧シラバス情報収集フォーマット
教育の質保証	授業設計、授業運用、継続的な授業改善プロセス等に関する教育の質保証の仕組みの整備	授業設計ガイドライン 授業運用ガイドライン 授業評価アンケート

授業科目

H27年度後期開講科目

No	科目名	担当教員	提供大学
1	地域コンテンツと知財管理	村井礼 他	
2	香川を学ぶ	林敏浩 他	香川大学
3	情報のいろは	林敏浩 他	
4	知の探訪	金西計英 他	
5	日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920	井戸慶治	徳島大学

授業科目

H28年度新規開講予定科目

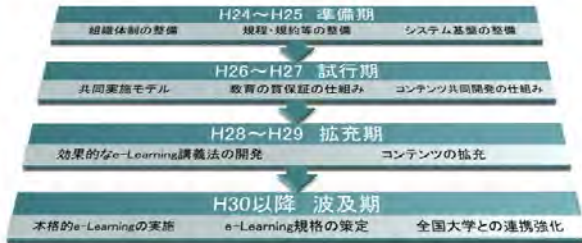
No	科目名	担当教員	提供大学
8	瀬戸内地域活性化政策	村山卓	
9	瀬戸内海論	原直行	香川大学
10	香川の文化と歴史	原直行	
11	現代科学と研究倫理	金西計英	徳島大学
12	学校教員の世界	宮下晃一 他	鳴門教育大学
13	タンパク質で生命を斬る	坪井敬文 他	

単位を付与しないコンテンツ

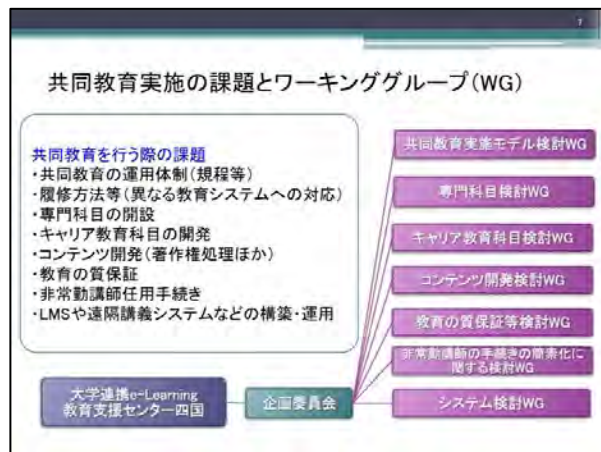
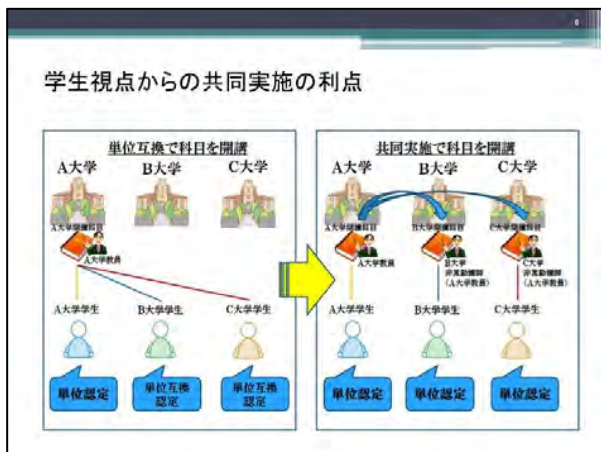
H28年度新規提供予定

No	科目名	担当教員	提供大学
1	研究倫理	田中 寿郎	愛媛大学

まとめ



共同教育実施モデル検討WG



これまでの検討課題別の成果物の例

検討課題	検討項目	成果物
運用体制の整備	組織の設置、規程等の整備	四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ、ほか
共同教育の実施モデルの確立	履修手続き、成績評価方法、シラバス等、5大学で異なる教育システムに対応した仕組みの整備	履修・成績入力期間一覧 シラバス情報収集フォーマット
教育の質保証	授業設計、授業運用、継続的な授業改善プロセス等に関する教育の質保証の仕組みの整備	授業設計ガイドライン 授業運用ガイドライン 授業評価アンケート

授業科目

H27年度後期開講科目

No	科目名	担当教員	提供大学
1	地域コンテンツと知財管理	村井礼 他	
2	香川を学ぶ	林敏浩 他	香川大学
3	情報のいろは	林敏浩 他	
4	知の探訪	金西計英 他	
5	日本におけるドイツ兵捕虜1914-1920	井戸慶治	徳島大学

授業科目

H28年度新規開講予定科目

No	科目名	担当教員	提供大学
8	瀬戸内地域活性化政策	村山卓	
9	瀬戸内海論	原直行	香川大学
10	香川の文化と歴史	原直行	
11	現代科学と研究倫理	金西計英	徳島大学
12	学校教員の世界	宮下晃一 他	鳴門教育大学
13	タンパク質で生命を斬る	坪井敬文 他	

単位を付与しないコンテンツ

H28年度新規提供予定

No	科目名	担当教員	提供大学
1	研究倫理	田中 寿郎	愛媛大学

事業シンポジウム2015 共同実施モデル事業報告

愛媛大学分室 田中寿郎

本プロジェクトの目標 (5年後の成果)

各大学が持っている教育資源を共有し、eラーニングを用いて有効に活用することで、現在以上に効果的な教育を実現



5年後のビジョンを達成するために解決すべき課題

I 共同で取り組むべき課題

1. 共同実施の仕組みづくり
2. 効果的なeラーニングを用いた講義法の開発
3. 継続的な運用に係る仕組みの策定と実施組織の整備

モデルワーキングの主な審議事項
('四国5大学型共同教育実施モデル'の実現)

II 各大学で取り組むべき課題

1. 共同科目実施のための仕組みづくり
2. 共同実施科目を活用した**教育改善**

愛媛大学で実施する内容

1. H26年度までの成果 モデルWG

- 1 プロジェクトの到達目標共同実施モデル案
- 2 eラーニング科目の選定
- 3 eラーニング授業実施プロセス策定：
履修から成績判定まで
- 4 履修案内の方法と内容

2. H27の課題

平成26年度までに立案した共同実施案に基づき
実際に共同実施を試行する。



- 28年度からの本格的な共同実施に向けた各手続きの問題点の洗い出しと改善

3. 愛媛大学における教育改善

- 教養教育科目に「高年次教養科目」を新たに設ける
(平成28年度カリキュラムから実施)

2年次後期以降に履修すべき、高度な内容の教養科目
5大学連携による教養科目を含めて開講

4. 愛媛大学におけるコンテンツ作製の考え方

- 教養教育 愛媛大学の特徴ある研究に基づいた高度で特徴ある教養科目(高年次教養科目)
- 専門科目 専門教育で多くの大学で共通に必要な科目
例 知的財産権(工学部など)
安全衛生入門
- 大学院科目 研究者として共通に必要な科目
例 研究倫理

四国5大学型共同教育実施モデルの確立

四国5大学型共同教育実施モデル

教育システムや教育理念の異なる大学間で教育資源を共有し、eラーニングを用いて有効に活用することで、各大学がそれぞれの教育理念に基づいて効果的な教育の実現を可能とする方策。

補助金終了後の問題の議論を！

1. 共同授業の実施の継続
2. コンテンツの維持管理
3. コンテンツ作製機能の維持
4. eK4との関係

コンテンツ開発検討 WG

2015年9月3日

コンテンツ開発検討 WG報告

主査校：香川大学

WG発足の経緯

5 大学間のコンテンツ開発体制の違い

- ・ 撮影・編集等コンテンツ開発スキル
- ・ 著作権処理
- ・ コンテンツ配信の仕組み



これまでの検討課題と成果物

検討課題	検討時期	コンテンツ開発・利用できる仕組みの整備	著作権処理の共有
検討 概要	H26 5月	検討課題と検討スケジュールの決定	
	9月	ガイドライン策定	各大学の著作権処理の調査
	11月	各大学のPC環境調査 コンテンツ視聴環境の担保	著作権処理の共有
	1月	運用細則（動画形式等）決定	
成果	H27 8月	コンテンツ視聴確認方法の決定	
		・ コンテンツ開発ガイドライン ・ 運用細則 ・ コンテンツ視聴確認チェックシート	・ 譲渡証書

コンテンツ開発ガイドラインの取決事項

コンテンツ提供者に自由利用（改変等含む）を認める 運用はゆるやかに利用許諾も可

用語の定義
ガイドライン内の用語を質保証WGに準拠

著作権等の処理 ガイドライン
制作コンテンツの著作権の帰属先、5大学間の相互利用
第三者著作物の利用・肖像権・個人情報等の権利処理

コンテンツ開発
視聴環境・動画形式・配信までのスケジュール
eラーニング講義の構成・Moodle機能設定は質保証WGに準拠

詳細は事業報告書2014（HPより電子版を配信）をご参照下さい

コンテンツ配信に関する取決め

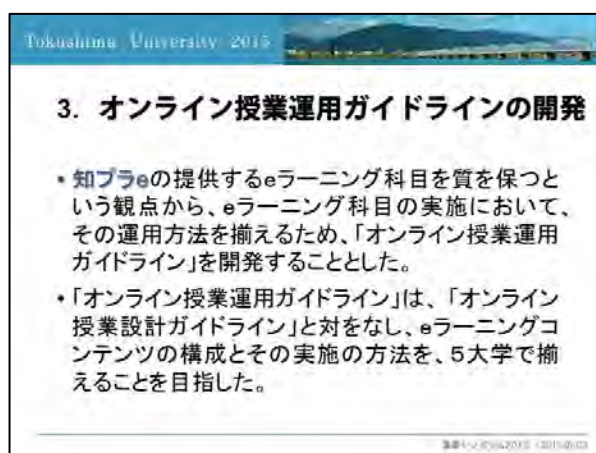
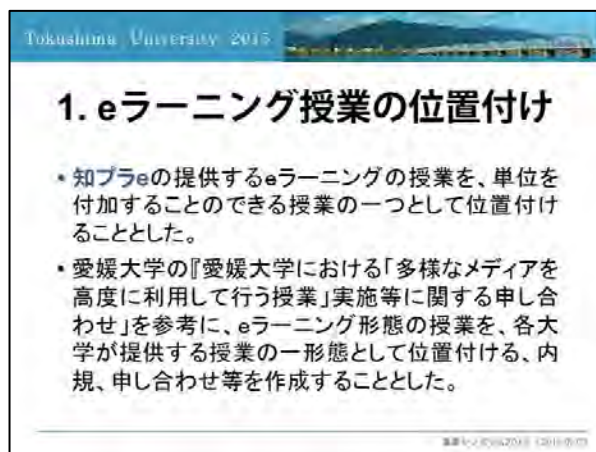
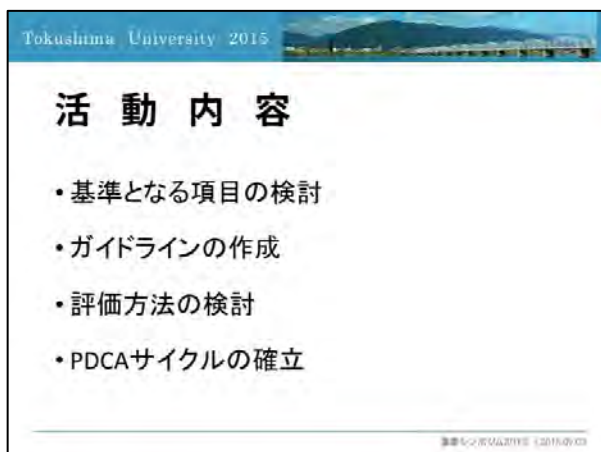
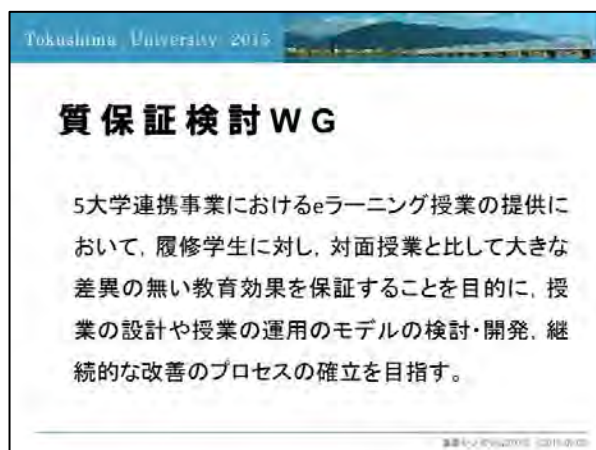
項目	内容
想定する視聴環境	最低限、各大学のPCルーム等での視聴を担保 ※詳細は運用細則 ※各大学の裁量で視聴保証する環境を提供するのは拒まない
コンテンツの開発から配信までのスケジュール	第1回目のe-Learning講義配信日の1か月前までにアップロードを行い、5大学で相互確認 ※詳細はコンテンツ視聴確認チェックシート

運用細則（概要）

視聴担保するPCスペック	
OS	Windows 7相当以上
ブラウザの種類	IE(ver. 8以上) を推奨
Adobe Flash Playerバージョン	ver. 13以上
システムメモリ	1GB以上
ビデオ書き出し設定（推奨）	
コンテナ	FLV
映像解像度	480p
フレームレート	25
ビットレート	500～800kbps

今後の課題

- タブレット端末への対応方法検討（愛媛大学提案）
- Moodleの機能設定





4. オンライン授業改善の循環形成の検討

- 知ブラeの提供するeラーニング科目の質を保つためには、恒常的な改善の循環を形成する必要がある。そのための改善方法についての検討を始めた。
- 授業評価アンケートの実施と、アンケート項目の設計をおこない、平成26年度の後期より試行を始める。アンケートの結果に基づき、オンライン科目の改善を進めることとした。



5. 柔軟なコンテンツ活用方法の検討

- ブレンド型の授業のように、eラーニングの活用が多様化することが想定されることから、知ブラeにおいても柔軟な学習環境の提供に対応することが求められる。eラーニングコンテンツの部品化や、共用に関する検討を始める。
- 「補助学習コンテンツの取り扱いに関する申し合わせ(案)」を作成することで、eラーニングの多様な活用に備えることとした。



6. その他

- その他、知ブラeの提供するeラーニング科目の質保証に関する検討事項を取り扱うこととした。
- 各提供科目で指定された書籍の取り扱いについて、現状での実態や整備の方法について検討した。

キャリア教育科目検討WG

キャリア教育科目検討WG報告

主査 宮下 晃一 (鳴門教育大学)

これまでの検討結果の概要(1)

- ・受講対象者は、5大学の全学部学生
 学生が多様な分野の職業について学ぶことによって、学生自身が持つ専門性を活かす方法を柔軟に思考できる力量をつけさせることがねらい。
- ・授業内容は、まず1科目目として「学校教員」に関する内容
 その後、他の分野、例えば「医療」「製造業」「農林水産業」等に関する科目が考えられるが、それらに繋がる深い学部の協力が必須になる。
- ・就活支援だけを目的としない
 社会に出てから能力開発や基礎力を育成する上で役立つ内容を提供すること。

これまでの検討結果の概要(2)

・コンテンツの制作方法

様々な分野で活躍する専門家に対する取材映像を中心に大学教員が解説を行う。

90分の授業を 30分の取材映像2本と大学教員の解説、質疑で構成する。

90分×15回で2単位の授業とする。

学校教員の世界

学校教員の仕事の内容、学校教員と子どものかかわり、学校教員としての自己研鑽、授業の様子などを取り上げ、学校教員になるために今何をすべきかについて考えを深める。

(他学部の学生にとって)

様々な学部で学んでいる専門性を活かせる職業の一つとして学校教員の魅力と難しさを学び、大学において何を学ぶべきかを自ら気付くことを目的とする。

「学校教員の世界」制作上の特徴

- ・鳴門教育大学の専門性を活かした内容
- ・鳴門教育大学のほぼすべてのコースが制作に関わった
 担当教員の負担を分散できた
 多くの先生がeラーニング制作を経験した
- ・現職の学校教員による、現場に密着したリアルなコンテンツ集
 通常の授業では準備しにくい内容

インタビュー収録にご協力いただいたコース	コース・専攻等	担当教員	協力者
心身発達支援コース	浜崎雅司 遠藤宏樹		鳴門教育大学附属幼稚園 園長 佐々木良
幼児心身発達支援コース	高橋真由美 高橋真由子		今治市立城東小学校 教諭 小澤和子
特別支援科専攻	高橋真由		室積市立東郷小学校 校長 上野功 PTA会長 高木貴美 NPO法人 鳴門 理事長 高野孝男

2015年知ブラe事業シンポジウム
専門科目ワーキング報告

9月3日(木)
徳島大学



高知大学
大学教育創造センター
立川 明

専門科目ワーキングのミッション

- 専門科目の非常勤講師任用について
- 各大学での専門科目受け入れについて
- 履修登録等のスケジュールについて
- 科目名のバッティングについて

総合教育センター 立川 明

検討結果

- 専門科目の非常勤講師任用について
共通教育・専門科目の別なく一括承認する
(非常勤講師の手続きの簡素化に関するワーキング)

総合教育センター 立川 明

検討結果

- 各大学での専門科目受け入れについて
 - 科目名のバッティングについて
- 要卒単位については学部にて裁量権
本Wの権限でできることはなさそう

総合教育センター 立川 明

検討結果

- 履修登録等のスケジュールについて
履修登録の電子化→履修登録期間の共通化
共通教育Wで決めたスケジュールで問題ない

総合教育センター 立川 明

専門科目W今後のミッション

- 専門科目コンテンツの作成者支援
通常の分室業務

tatukawa@kochi-u.ac.jp

総合教育センター 立川 明

システム検討WG

事業シンポジウム2015

システム検討ワーキンググループ(WG)報告

大学連携e-Learning教育支援センター四国
システム検討WG主査 林敏浩(香川大学)

システム検討WGの課題

大学連携e-Learning教育支援センター四国における大学教育の共同実施に必要な遠隔会議・遠隔講義システム等のシステム基盤の整備に関すること

- ・ポータルサイト, 認証方式, コンテンツの管理
- ・倫理規程など

認証方式について

課題
5大学でGakuNin対応への動きがあるが、LMSレベルのGakuNin対応は未定

ポータルサイトについて

平成27年度開講科目については、センター四国のホームページより各大学のMoodleコースにリンクを張ることで対応することとした。

倫理規程について

知ブラe科目の履修生を対象に調査を実施する場合の倫理規程(原案)を香川大学と徳島大学の工学部の倫理規程をベースに作成する。

検討中の課題

- ・知ブラe科目担当教員が連携大学の教務システムや修学支援システムにアクセスして、履修者情報の取得したり成績入力することに関する検討を開始
- ・セキュリティポリシーなどの観点から慎重な議論が必要

・履修者情報の取得
・成績入力

平成 29 年 1 月 23 日(月)に、香川大学研究交流棟 5 階研究者交流スペースにて、四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業（知プラ e 事業）の「事業シンポジウム 2016」を開催した。

四国の国立 5 大学(徳島大学, 鳴門教育大学, 香川大学, 愛媛大学, 高知大学)が相互に連携し, e-Learning 基盤を活用して大学教育を共同実施することによって, 連携大学全体の教育の質の向上を図ることを目的とし, これまでに各大学の特色ある教育・研究分野の e-Learning 化により共同開講科目を充実させてきた。

今後は各大学の教育の質向上にいかに関与するかという点が重要になることから, 本シンポジウムでは「大学連携 e-Learning による教育の質保証にむけて」をテーマとして, これまでの取り組みを紹介する場として開催し, 県内外から 53 名が参加した。

はじめに, 藤井運営委員会委員長より開会挨拶があり, 林センター長から本事業の概要報告, 愛媛大学分室根本准教授から「非同期型 e-Learning における教育の質保証の取組み」, 田中愛媛大学分室長から「四国 5 大学型共同教育実施モデルの運用における課題」, 村井教授から「5 大学連携による著作物利用許諾の取組み」についての活動を報告した。

続いて, 九州大学基幹教育院ラーニングアナリティクスセンター緒方広明センター長より, 「九州大学における教育ビッグデータの分析」をテーマに, 九州大学における教育ビッグデータを活用した Blended Learning の質保証と質向上に関する最先端の事例の講演があった。



事業概要

文部科学省 国立大学改革強化推進補助金事業

四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施(知プラe事業)

大学連携e-Learning教育支援センター四国
センター長 林敏浩(香川大学)

知プラe事業の概要

知プラe事業の目的
四国の5国立大学法人が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで、教育の質の向上を図る。

事業目的達成の方法
大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置し、e-Learning基盤を活用して大学教育を共同実施する。

知プラe事業の到達目標

- 共同実施の仕組み**
共同実施科目の開講 50科目
大学連携によるコンテンツの共同開発
- e-Learning活用講義法と質保証の仕組み**
効果的なe-Learning活用講義法の開発
フルe-Learning講義の教育の質保証
多人数クラス(数百人レベル)の実現
学生と教員の双方向性の実現
- 継続的な運用の仕組み**
補助金終了後の運用体制の整備

副専攻科目の開講により、専門に偏らない幅広い能力を持った人材の育成

専門基礎教育科目の共同実施による基礎学力の向上

限られた数の教員で優れた教養教育の提供と、きめ細かい少人数対面講義の実現

共同実施の概要

平成27年度以降の本事業で提供するe-Learning科目については、5大学において**同一の科目名で共同開講**し、各大学の様式でシラバスを作成するものとする。(大学間申合せ 平成26年9月4日施行)

同一の科目名で共同開講

- 科目A: 大学①
- 科目A: 大学②
- 科目A: 大学③
- 科目A: 大学④
- 科目A: 大学⑤

非常勤講師

共同実施の利点
・科目の共有・補完
・科目選択の幅の拡充
・履修手続きの簡素化

大学サイドからの共同実施の利点

四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[大学視点]

- コアプロモーション(義務認定・学位授与に関する方針への補完・補強)
- 他学部教員や非常勤講師による授業科目
- 必要科目
- 選択必修科目
- 選択科目
- 自由科目 (他大学で開講科目)

e-Learningによって提供

共同実施による授業科目

副専攻科目の開講(他大学で開講しない科目でできる教員が少ない場合等)を支援
・教養科目の幅を広げられる(自由科目の幅)ことが可能

学生視点からの共同実施の利点

四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[学生視点]

学生の科目履修の選択肢が拡充

履修不可
履修したい科目が履修できない
履修したい科目が履修できない

履修可能
履修したい科目が履修できる
履修したい科目が履修できる

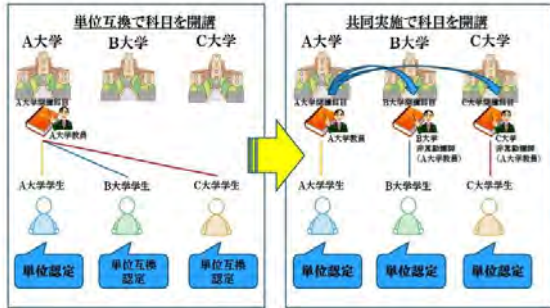
履修科目について
履修したい科目が履修できない
履修したい科目が履修できる

履修したい科目が履修できない
履修したい科目が履修できる

履修したい科目が履修できない
履修したい科目が履修できる

履修したい科目が履修できない
履修したい科目が履修できる

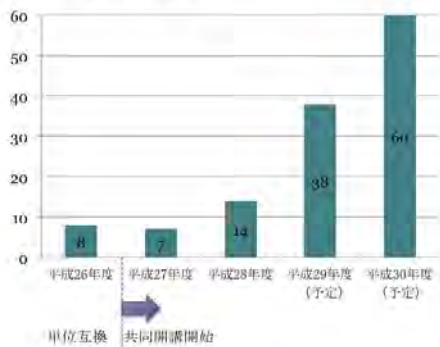
学生視点からの共同実施の利点



これまでの検討課題別の成果物の例

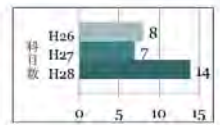
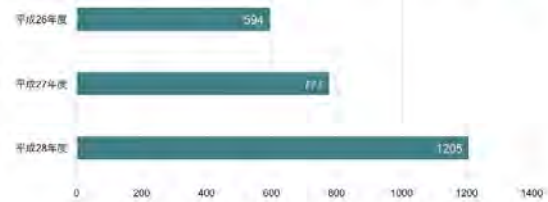
検討課題	検討項目	成果物
運用体制の検討	組織の設置、規程等の整備	四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ、ほか
共同教育の実施モデルの運用	履修手続き、成績評価方法、シラバス等、5大学で異なる教育システムに対応した仕組みの整備とモデル試行により明らかになった課題の解決	履修・成績入力期間一覧 シラバス情報収集フォーマットの更新 成績評価方法の改善（検討中）
教育の質保証	授業設計、授業運用、継続的な授業改善プロセス等に関する教育の質保証の仕組みの整備	オンライン授業設計ガイドライン オンライン授業運用ガイドライン 授業改善アンケート オンライン授業設計ガイドライン準拠チェックシート（検討中）
コンテンツの開発・チェック・共同開講	著作権処理、コンテンツ開発等、コンテンツの共同開発体制の整備	著作権処理（利用許諾）マニュアル 譲渡証書 コンテンツ開発ガイドライン コンテンツ視聴確認シート 14科目の共同開講（詳細は後述）

年度別開講科目数の推移



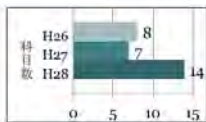
共同開講の成果

5大学全体の履修者数の推移 (名)

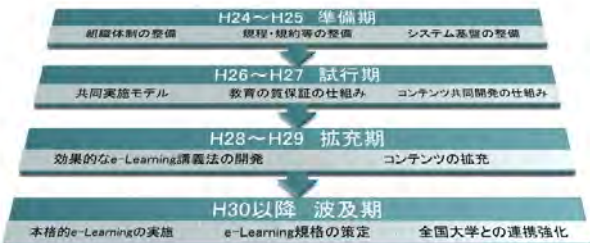


共同開講の成果

履修者数の内訳 (名)




まとめ



非同期型 e-Learning における教育の質保証の取組み

**非同期型e-Learningにおける
教育の質保証の取組み**

大学連携e-Learning教育支援センター四国
 愛媛大学分室 根本 淳子




連携事業の到達目標

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学連携による大学教育の共同実施事業

2. e-Learning活用講義法と質保証の仕組み

- ・効果的なe-Learning活用講義法の開発
- ・フルe-Learning講義の教育の質保証
- ・多人数クラス（数百人レベル）の実現
- ・学生と教員の双方向性の実現



<http://chipia-e.etc.kagawa-u.ac.jp/index.html> より抜粋



連携事業の体制

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学連携による大学教育の共同実施事業

- ・ 連携大学毎に分室を置く
 - ・ 各大学2~3人程度の専任・兼任教職員を配置

**連携事業における
eラーニング質保証実現に向けた課題**

- ・ 複数のステークホルダー間で共通理解を得ること
 - 担当教員・開発支援者・システム管理者など（教員・職員）
- ・ 体制が大学間で異なる中で現実的な運用を目指すこと
 - 専任の開発員の有無/いないと...
 - 科目の担当教員が自らコンテンツの開発も担当するため負担が増える
 - Moodleのより効果的な使い方を伝えきれない
- ・ インストラクショナルデザイナーの有無/いないと...
 - コンテンツの具体的なイメージがないまま、
 - 教育の質を保証するための具体的な方法がわからないまま開発を行う

支援の枠組みづくりをどう実現するか

**本プロジェクトにおける
質保証に関する取組み**

- ・ 2014年度より教育の質保証等検討ワーキンググループを設置（主査：徳島大学）
- ・ eラーニングを用いた講義の有効な実施方法を確定し、教育の質を保証する仕組みづくり
 - ・ オンライン授業設計ガイドラインの開発
 - ・ オンライン授業運用ガイドラインの開発
 - ・ 授業アンケート調査

作成した仕組みが機能しなければならない

**オンライン授業設計ガイドラインの一例
(4. eラーニングを用いた授業設計)**

オンライン授業設計ガイドラインの一例 (4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計)

(4) コースの導入にはシラバスを示したうえで、シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを用意する。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回用意しても良い。

イ 科目担当者によるイントロビデオ（顔を見せて動機づけをする目的に限定した短編）

ロ 授業概要（タイトル、進め方、コンテンツの利用方法、学修活動の実施方法など）

ハ スケジュール（コンテンツの公開日及び締切日、推奨学修日）

ニ 単位取得の条件（モジュール内の学修活動が出席に相当する旨、成績評価対象と基準点、基準点を満たすための最低条件）

(5) 1モジュール（授業1回分）には、以下の要素を含めることで対面授業と同等の質を担保する。

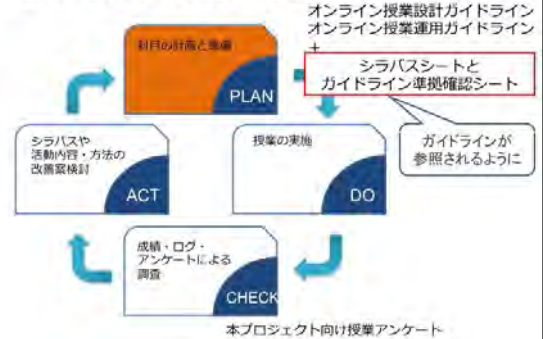
イ 授業内容（教科書などの情報コンテンツ）：文字、音声、動画、静止画など

ロ 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板など

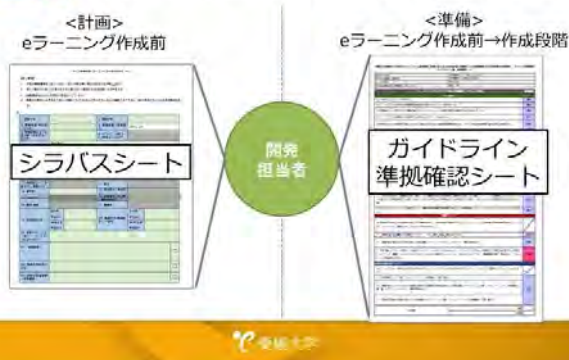
ハ 自主的な学修を促すためのコンテンツ：参考情報（リンク集、コラム、アドバイス）など

ニ 上記3点を含むことで、学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、実際に活動したことを確認できるようにする。

実施サイクルが 上手くまわるための仕掛けづくり



シラバスシートとガイドライン準拠確認シートの関係



【その1】シラバスシートとシラバスチェックシートの作成

共通シラバスの改善：
記入漏れによる再確認等の作業を軽減する

シラバス記入チェックシート

項目名	確認項目	確認結果	シラバスチェック項目
1. 所属年度	記入済みか		所属年度が必ず記入されている
2. 履修年次・学科名・学年	記入済みか		履修年次・学科名・学年が必ず記入されている
3. 科目名・科目区分	記入済みか		科目名・科目区分・科目番号が必ず記入されている
4. 科目名・科目区分・科目番号	記入済みか		科目名・科目区分・科目番号が必ず記入されている
5. 授業のキーワード	記入済みか		授業のキーワードが必ず記入されている
6. 授業スケジュール	記入済みか		授業スケジュールが必ず記入されている
7. 授業の方法	記入済みか		授業の方法が必ず記入されている
8. 担当教員名（専任・非常勤）	記入済みか		担当教員名が必ず記入されている
9. 担当教員名（専任・非常勤）	記入済みか		担当教員名が必ず記入されている

【その2】オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート作成

エクセルでまとめて記入

ガイドライン達成度を一覧で表示

エビデンスを記録

今後の予定

- 作成したガイドライン準拠シートを使って自己チェックを行う仕組みを定着させる
 - 開発したeラーニングの情報は、チェックシート一元管理することでエビデンスとして残していく
- 自己レビューと相互レビューが可能
- ↓
- 開発プロセスにチェック機能が内蔵
- ↓
- 質保証+無駄の少ない効率的な運用

四国5大学型共同教育実施モデルの運用における課題

平成29年1月23日「事業シンポジウム2016」香川大学

四国5大学共同教育実施モデルの運用における成果と課題

大学連携e-Learning教育支援センター四国
愛媛大学分室長 田中寿郎



<http://chipla-e.ittc.kagawa-u.ac.jp/>

補助金期間内に達成すべき課題

(2014年5月立案)

I 共同で取り組むべき課題

1. 共同実施の仕組みづくり
→ 四国5大学型共同教育実施モデル
2. 効果的なeラーニングを用いた講義法の開発
3. 継続的な運用に係る仕組みの策定と実施組織の整備

II 各大学で取り組むべき課題

1. 共同科目実施のための仕組みづくり
2. 共同実施科目を活用した教育改善

四国5大学型共同教育実施モデル

教育システムや教育理念の異なる大学間で教育資源を共有し、eラーニングを用いて有効に活用することで、各大学がそれぞれの教育理念に基づいて現在以上に効果的な教育の実現を可能とする方策。

四国5大学型共同教育実施モデル

各大学は、知プラ科目を自大学の科目として開講する



センター四国と各分室

- 講義の作成と提供
各大学が作成したコンテンツ合計50科目以上
- 講義の実施
各大学のMoodle上に科目を設定し他大学へ公開
- 授業担当教員
新報課の非常勤講師
手続きの簡略化
- シラバス
各大学の様式に合わせて、分室が入力
- 履修登録
それぞれの大学の事情に合わせて履修登録履修登録後、開講大学のMoodleへ各自登録
- 成績入力
教員から各大学へ郵送、各分室入力。
(愛媛は直接学務系システムへ入力)

平成28年度(2016年度)の成果

- 開講科目数
 - 前期 3科目
 - 後期 11科目
 - 合計 14科目
- 受講登録学生数
 - 自大学提供科目 640人
 - 他大学提供科目 565人
 - 5大学合計 1,205人
- 全て非同期の100% eラーニング科目

フルeラーニング講義の大学間共同実施を実証
これだけ大規模なフルeラーニングによる講義実施は全国でも初めて?

実施上の問題点

(1)システムに関する課題

- 利用者認証方法の統一化が必要
- 各大学のサーバー上のMoodleのバージョン・動画配信方法等が不統一
- 他大学のシステム障害、保守によるシステムの停止等の周知をその都度周知する必要

実施上の問題点

(2)学務上の課題

- セメスター、クォーター制の混在による混乱
- 各大学の考え方の違いによる混乱
例) 授業開始日、受講取消期間、欠席日数の取扱、不可の取扱
- 成績入力方法の違い
(学務系システムへの教員の直接入力が出来ない大学、出来る大学)
- 講義開講時期が不ぞろいのため学生に混乱
- 5大学のサーバーに分散して講義が置かれているため、学生の履修登録及び受講状況の確認が煩雑

実施上の問題点

(3)学生に係る課題

- 大学のネット利用およびPC等の操作に不慣れ
(分室が基本的な利用法をガイダンスで対応)
- 各大学のMoodleへのログイン方法・操作方法の違いによる学生の混乱
- 履修登録とMoodleへの登録の2つを行う必要

四国5大学型共同教育実施モデルの有効性

初期の目的

教務システム・ICT環境の違う大学間で共同授業の実施 → **初期の目的は達成**

問題点

各大学と共同授業との接点である分室の作業量が多大 → **補助金終了後は維持困難**

持続可能な共同実施を目指して

5大学共通組織による共通授業配信サーバーの設置

- ① 認証方法の統一化
- ② Moodle等のバージョン、動画のファイル形式の統一化
- ③ システムへのログイン方法の統一
- ④ 全ての講義で操作が同一(学生の混乱が無い)
- ⑤ 学生の履修状況の確認が一か所のサーバーで可能
- ⑥ 成績管理が可能

システム、教員、事務、学生に係る多くの問題を解決できるとともに、業務の大幅簡素化が可能

まとめ

- eラーニングを用いて多大学間で講義の共同実施を実施するための方策(四国5大学型共同教育実施モデル)を策定し実施
- 本モデルで講義の共有化が可能であることを実証
- 実施上の問題点を明確化
- 持続可能な実施方法として、5大学共通の実施組織を提案

区分	科目名	履修登録者数										開講				
		徳島大	高松大	香川大	愛媛大	高知大	徳島大	高松大	香川大	愛媛大	高知大					
教員	「動物の歴史」	1	0	18	15	0	5	39	44	20	20	20	20	190	○	
	「生かエスの巻物 (「生かエス」の巻物「生かエス」)	7	0	23	30	4	2	57	66	30	30	30	30	150	○	
	「日本に伝わるイソトシノミ (「イソトシノミ」)	2	0	18	17	7	2	42	44	20	20	20	20	100	○	
	「現代科学と防災」	32	0	17	19	0	32	42	14	20	20	20	20	190	○	
	「学校教員の教育」	1	3	35	20	12	3	60	71	30	30	30	30	30	190	○
学生	「神戸の歴史(神戸市)」	0	0	11	10	0	11	10	20	10	10	10	10	240	○	
	「神戸の歴史(神戸市)」	3	0	45	10	10	40	23	71	10	10	200	10	240	○	
	「香川の文化と歴史」	1	0	71	10	10	71	21	62	10	10	200	10	240	○	
	「香川の文化」	4	0	177	50	22	177	76	253	50	50	200	50	400	○	
	「香川の文化」	5	0	105	40	24	105	70	157	100	100	200	100	400	○	
教員	「香川の文化と歴史」	7	0	125	54	9	125	70	194	100	100	200	100	400	○	
	「神戸の歴史(神戸市)」	3	0	11	10	0	11	10	20	10	10	10	10	240	○	
	「神戸の歴史(神戸市)」	0	0	2	16	4	10	4	18	5	5	10	5	30	○	
学生	「神戸の歴史(神戸市)」	0	2	8	8	13	13	16	29	10	10	10	10	240	○	
	「神戸の歴史(神戸市)」	0	2	8	8	13	13	16	29	10	10	10	10	240	○	
合計		88	5	682	230	142	640	585	1206	290	290	1100	290	290	1100	1

共通マニュアルに盛り込む項目 (案)

解説部分	課題部分
1. 著作権法の基礎 <ul style="list-style-type: none"> 著作物の類型 著作人格権と著作財産権 同期型授業と非同期型授業 利用許諾契約の要点 パブリックメインとクリエイティブコモンズ 	1. 著作権処理の要点 <ul style="list-style-type: none"> 全般的な留意点 著作権処理フローチャート 著作物性の判断 第三者著作物の利用状況確認シート 著作物の類型別対応 例外対応
2. 資料 <ul style="list-style-type: none"> 用語 Q&A 利用許諾書の雛型 著作権法改正国内動向 関連リンク 	2. ケーススタディ <ul style="list-style-type: none"> 著作物の保護期間 図・グラフの利用 職務著作 引用要件の判断

事例：国別の利用許諾件数（愛媛大学）

地域	許諾申請が必要な第三者著作物の数 (利用許諾済)	
	科目A	科目B
日本	32 (32)	27 (27)
英米	21 (21)	10 (10)
欧 (西・仏)	—	2 (2)
中東 (ヨルダン)	—	1 (1)
中台	1 (1)	5 (5)
韓国	—	15 (15)
ロシア (ソ連)	—	18 (0)
合計	54 (54)	78 (60)

知財教育の実績

2016年7月26日 愛媛大学工学部教員向け
2016年11月8日 四国の5国立大学教職員向け

これまでの成果物

[1] 著作権テキスト
他人の著作物を電子教科書やe-Learning コンテンツで「利用」する方法と注意事項
制作：愛媛大学 吉田明恵 監修：香川大学 村井礼、藤本憲市
研修：2016年7月26日 愛媛大学工学部教員向け

[2] スキルアップ研修会ワークシート
「e-Learning における著作権処理の実務」 著作権処理ワークシート
制作：愛媛大学 吉田明恵
監修：山口大学 木村友久、香川大学 村井礼、藤本憲市
研修：2016年11月8日 四国の5国立大学教職員向け

ワーク資料の例


今後の予定

共通マニュアル・e-Learning教材の整備

特別講演

九州大学における教育ビッグデータの活用
～教育データ科学の展開～

緒方 広明




九州大学 基幹教育院
ラーニングアナリティクスセンター
Learning Analytics Center

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan

本日の内容


1. 自己紹介
2. ラーニングアナリティクス(LA)研究の概要
3. 九州大学におけるLAの取り組み



Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan

自己紹介 (学歴)


- 1988年3月 徳島県立脇町高等学校卒業
- 1988年4月 徳島大学工学部知能情報工学科入学
- 1992年3月 同学科 卒業
- 1992年4月 徳島大学大学院工学研究科
博士前期課程知能情報工学専攻 入学
- 1994年3月 同専攻 修了
- 1994年4月 徳島大学大学院工学研究科
博士後期課程システム工学専攻 進学
- 1995年3月 同専攻 退学 (助手として就職)
- 1998年5月 博士 (工学) (徳島大学)



Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan

経歴

- 1995年4月 徳島大学 助手 工学部知能情報工学科
- 1999年4月 徳島大学 講師 同
- 2001年3月 徳島大学 助教授 同
- 2001年9月 米国コロラド大学ボルダー校 客員研究員
(2003年2月まで)
- 2007年4月 徳島大学 准教授 (職名と所属名変更)
大学院ソシオテクノサイエンス研究部
- 2009年10月 (独) 科学技術振興機構JST さきがけ
兼任研究員 (2013年3月まで)
- 2013年10月 九州大学 教授 基幹教育院
- 2016年10月 同 主幹教授
- 現在に至る



Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan



ラーニングアナリティクスとは？

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan

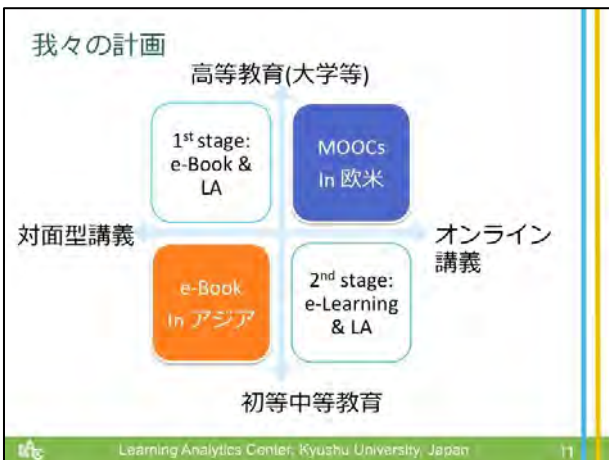
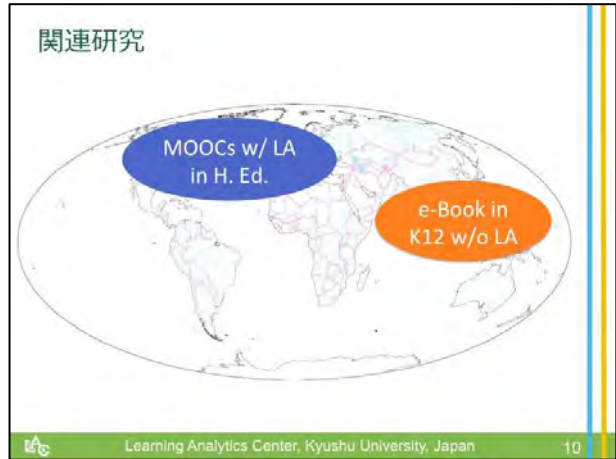
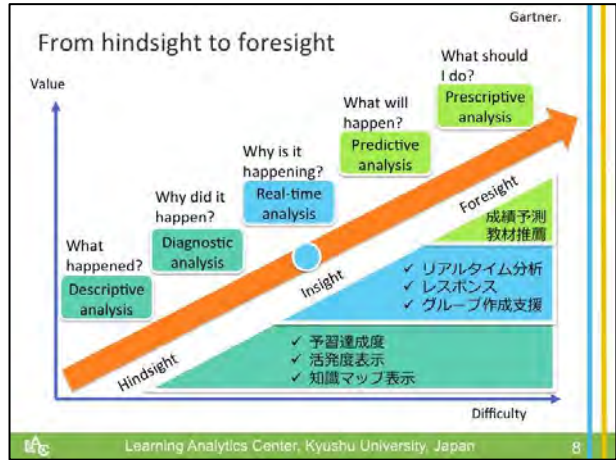
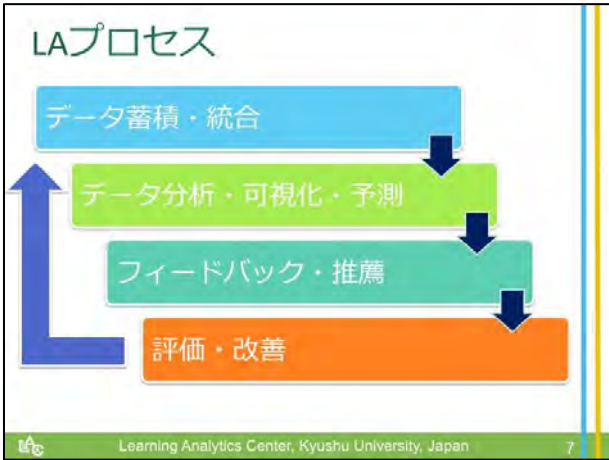
Learning Analytics (LA)とは？



情報通信技術(ICT)を用いて、
教員や学生からどのような情報を獲得して、
どのように分析・フィードバックすれば
どのように学習・教育が促進されるか？
を研究する分野



Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan



大学教育と初等中等教育の違い

大学教育	小・中・高校	備考
授業の設計、教材作成、評価は教員に一任	指導要領がある。教科書の内容はほぼ統一	大学では授業改善を行う必要あり
教える内容が刻一刻と変わる科目もある例：情報、地球科学	教科書の内容は4年更新の共有を行う必要あり	
学生がアクティブラーニングの必要性が	学生が主体的に受け身	アクティブラーナーへの転換をどう支援するか？
自己学習能力が必要	教員が学生の学びをマネジメント	大学では、eポートフォリオの役割が重要
ほとんどの教員はスライドを使って講義をする	教科書と黒板が基本PCを使うのは少数	大学の方が、講義でPCを使いやすい
履修登録、LMSなど、日常的にPCを利用	日常的にPCを使う必要性は少ない	大学生はPCになれ、ICT環境が整っている

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 12



2020年(4年後)にデジタル教科書を全国の小中高校に導入する計画 (教育の情報化)

2016年4月22日、朝日新聞デジタル デジタル教科書解禁へ 文科省、20年度の導入めざす

デジタル教科書解禁へ 文科省、20年度の導入めざす

2016年4月22日、朝日新聞デジタル デジタル教科書解禁へ 文科省、20年度の導入めざす

http://www.asahi.com/articles/ASJ4L76R4LUTL073J0H1794H-contop_1st_edg_r01

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 14

デジタル教科書の特徴

2020年のデジタル教科書導入は、①~③が中心
④と⑤はあまり考慮されていない。

- ① Light and permanent • 軽く、永続的に利用可能
- ② Searchable • キーワード検索可能
- ③ Interactive • ページを拡大・縮小、映像、クイズ等
- ④ Traceable • 学生の活動を記録・分析
- ⑤ Adaptive • 学生の状況によって内容を変更可能

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 15

背景

全国の小中校のe-Bookの全ての操作履歴が、1つに集約されれば**教育ビッグデータ**が構築される
しかし、現状では設備等の準備できていない。

一方、大学では、e-Learningシステムや履修登録・成績登録システムなどのソフトウェアに加えて、PC必携化や無線LANなどの設備

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 16

本研究の目的

デジタル教科書を大学に導入し、その履歴データを中心として、e-Learningや学務情報等と統合することによって、**教育ビッグデータ**を構築し、学習分析(Learning Analytics)によって、きめ細かな教育・学習のサポートを目指す。

↓

教育・学習ログの科学的分析による教育改革

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 17



本取り組みの特徴



- 全学PC必携化と高速無線LAN環境の整備
- PCを活用した授業設計を実施(基幹教育)
- e-Book/Moodle/Maharaを全学に導入してデータ取得し、分析ツールを提供 (世界初)
- LAを全学で実施するためのLAセンターを設置 (国内初)

ラーニングアナリティクス(LA)全学展開の経緯



開始時	
平成25年(2013)年 4月	PC必携化(BYOD)
平成26年(2014)年 4月	基幹教育開始
平成26年(2014)10月	基幹教育の情報系科目でLA開始
平成27年(2015)4月	全学基幹教育全科目でLA開始
平成27年10月	全学部・大学院でLA開始
平成27年(2016) 2月	LAセンター設立

メンバー 教員 (19名) + 職員 (6名) = 25名

全国初のセンター組織
<http://lac.kyushu-u.ac.jp>

受賞しました!



第1回 IMS Japan賞 最優秀賞
 第13回 日本e-Learning大賞 教育ビッグデータ特別部門賞

九州大学 基幹教育とは?

九州大学基幹教育院
 Faculty of Arts and Science, Kyushu University

The Faculty of Arts and Science
 九州大学

基幹教育はアクティブラーナーを育成する

基幹教育による学習成長モデル

基幹教育の特徴

- 平成25年4月から全学1年生約2,700名を対象に開始
- 自ら主体的・能動的に学ぶ「アクティブラーナー」の育成が目的
- 対話、内省、協働を通じて、学び方、考え方を学ぶ
- 全学出勤態勢で授業を実施
- 学生全員PC必携化 (BYOD: Bring Your Own Devices)



どのようにして、学生が本当にアクティブに学習しているかどうか、を知ることができるのか？



Learning Analyticsと教育ビッグデータの研究



授業中



授業外

M2Bシステムを用いた教育改善の支援の概要



紹介ビデオ 約3分

M2B(みつば)学習支援システムとは

- ① Moodle (ムードル) : e-Learningシステム
出席管理・レポート管理・掲示板、アンケートなど
- ② Mahara (マハラ) : eポートフォリオシステム
講義日誌の記録による振り返りと情報共有
- ③ BookLooper (ブックルーパー) : デジタル教科書配信システム
講義スライドの共有と配信

	学生登録数	教員登録数	Moodle	Mahara	BookLooper
2015年度前期	2,687人	10,490人	206コース	866日誌	132教材
2015年度後期	19,293人	10,490人	112コース	302日誌	95教材
2016年度前期	"	"	718コース	89コース	107教材 (41コース)

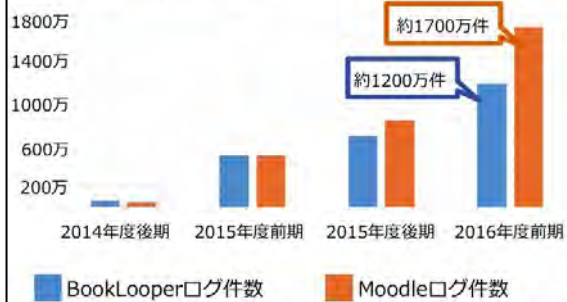
九州大学の構成員数(2015年度)

身分	人数
学部生	11,758
修士課程学生	3,931
博士課程学生	2,682
専門職大学院	289
学生の小計	(18,660)
教員	2,089
事務職員	864
技術職員	1,381
職員の小計	(4,334)
総計	22,994

ログの累計数

1日18万件のログ

累計約3000万件(2014年10月～2016年9月末まで)



ログの種類

- ログイン
- 出席状況
- レポート提出
- テスト
- アンケート
- 掲示板
- など

ログの種類

- ログイン
- 学生の日記
- 教員の日記
- などの柔らかい情報

eポートフォリオ コメント記載回数

日記を書いた学生 . . . 55人/受講生100人
 日記を書かなかった学生 . . . 45人/受講生100人

**日記を書いた学生 (55人) の内訳
 (全24回中、日記を書いた回数の割合)**

76%~100%	25人
51%~75%	19人
26%~50%	6人
1%~25%	5人

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 33

教員の日記内容 (授業後)

- 練習問題はレポートにして、次の授業の開始までに Moodle にソースコードをアップロードしてもらうことにした。
- レポートの提出締切は〇月〇日
- スライド◇◇とスライド◆◆は入れ替えた方がよい
- □□と■ ■の違いの説明を増やす必要がある。
- 次年度は〇〇を含めた練習問題にした方がよい。

講義内容のメモ

教材の改訂

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 34

授業改善につながる学生のコメント

- 突然難しくなった印象を受けました。 → 間に説明を追加
- 授業最後のほうがスピードが速かったのでしっかり復習したい。 → 授業内時間配分の改善
- 相互のエントロピーがよくわかりませんでした。(多数) → 説明を詳しく改善
- 予習範囲を間違えていたみたいなので、次回から気を付けたい。 → 予習範囲を明確に周知

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 35

教員間で振り返りのワークショップを開催 2015年2月13日

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 36

改善点の実施

- 教材の改善：
内容の修正、順番の入れ替え、デザインの統一、演習問題の追加など
- 授業設計の改善：
シラバスの内容の更新
- 教育環境の改善：
統一した開発環境の導入、eポートフォリオの導入



サイコロ（正六面体）を振って出た目について「1」か「1」以外かのみ教えてもらうとき、得られる情報量の期待値を求めよ。

(解答)
情報量の期待値 = $(1/6) \times \log_2(1/6) + (5/6) \times \log_2(5/6)$
= $(1/6) \log_2 6 + (5/6) \log_2 6 - \log_2 5$
= 0.6500 [bits]



e-Bookシステムの特徴

- 教員が作成したスライドや教材(PDF)を（主に）授業期間開始前にe-Bookシステムに登録
- e-Book教材は、全ての教員と学生が閲覧可能
- e-Book教材は、教員が適宜アップデート
- ユーザはWindows/Mac/Android/iOSなどのアプリを利用して教材をダウンロードして閲覧
- ユーザの閲覧ログがサーバーで共有



マーカーの利用について

- 予習：分からないところに、マーカー（黄色）を引き、質問等があれば、メモに質問を書く
- 講義中：講義中で分かったところは、マーカーを削除し、分からないところに、マーカー（黄色）を引く
- 復習：自分で調べて分かったところは、マーカーを削除し、自分で調べた内容を、メモに書く



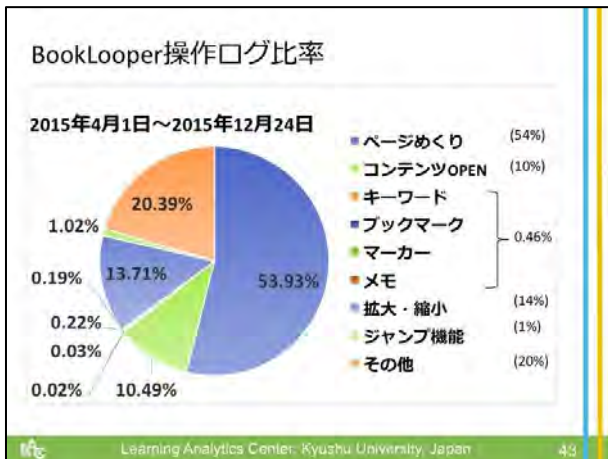
宇宙と地球の科学



Click Stream Data

id	user	device	browser	os	referrer	url	method	status	time	ip
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52





教育・学習の支援の例

前授業

- 予習・復習の達成度の提示して適応的な講義
- 学生が理解しにくいところを提示して説明追加
- 学習活動の活発度を可視化して評価

中授業

- 授業中の学生の行動をリアルタイムに分析
- 利用履歴を用いてグループ作りを支援
- 利用履歴に基づくドロップアウト等の傾向の提示

後授業

- 学生の学習履歴から、教材の改善点を提示など
- 利用履歴から成績を予測し、今後の学びを改善
- 教材を推薦して、さらに学習を促進

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 44

①授業前のログの分析

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 45

デジタル教科書の閲覧ログの分析

予習の達成度、マーカー数等
 ↓
 授業内容を適応的に変更

ページの遷移を可視化
 ↓
 閲覧パターンから教材の改善点を提案

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 47

デジタル教科書の閲覧ログの可視化
 ↓
 Cubic Gantt Chart
 3次元で回転して分析

学生
student

閲覧時間

スライドのページ数

教材のオントロジーの構築
 ↓
 教材の知識概念構造と学生の概念構造のマッチング
 学生の背景知識を把握

王

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 48

アクティブラーナーダッシュボード

↓

アクティブラーナー尺度は、Moodle、Mahara、BookLooperのログ情報から学習の活発度を計算

<教員用>

<学生用>

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 49

②リアルタイム分析 (授業中)

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 50

リアルタイムのログ分析 (島田)

- ✓ 講義についていけない学生
- ✓ 先々進んで学んでいる学生

→ページ閲覧状況に合わせて、講義の進行を変える

ページ

時間

■ 教員

■ 学生

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 51

リアルタイムで理解度に関するレスポンスボタンシステム

→学生が教える内容に対して、その場で理解度を教員に伝える (1分間)

学生のグループ作成支援

↓

閲覧履歴に基づく自動グループ構成

小島

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 52

プログラミング演習の支援

⇒プログラミングエラーログを収集分析し、リアルタイムで支援

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 53

③授業後のログの分析

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 54

予習時間と成績の関係

予習したグループは、平均と比べて成績が良い

成績の変動と閲覧時間の関係

成績が上がったグループは、他より閲覧時間が長い

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 55

予習・復習の学習パターン

予習復習の学習パターン発見

大井

行動を予測するルールを発見

初回4回の閲覧時間から最終成績を予測

4回の閲覧時間5分以上の学生
⇒100%成績が80点以上

4回の閲覧時間5分未満の学生
⇒93.8%成績が80点以下

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 56

最終成績の予測

過去の学習ログから、状態遷移図を作成し、成績を予測

大久保

デジタル教材の推薦

学生の学習ログから、興味に応じたデジタル教材を推薦

京セラ丸善

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 57

予復習スライド要約

3分、5分などの短時間に自動要約して、予復習に利用

島田

検索キーワードに関するワードクラウド

学生がよく使う検索キーワードを可視化

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 58

LAを用いた教育・学習の改善のモデル

シラバス作成、教材作成、演習問題、レポート課題、試験問題等の作成

シラバス確認、参考資料等の事前確認

授業設計 授業準備

教員 学生

改善 授業 内省・改善

授業期間後のワークショップ

ログの蓄積

ラーニングアドバイザー

教育ビッグデータ
e-ポートフォリオ
eラーニングのログ
e-Bookの閲覧ログなど

ラーニングアドバイザー

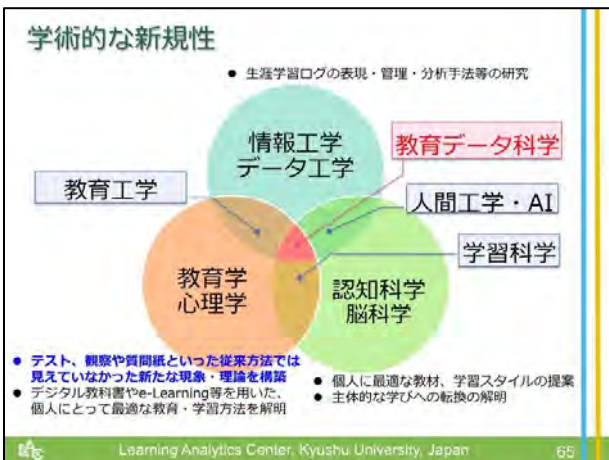
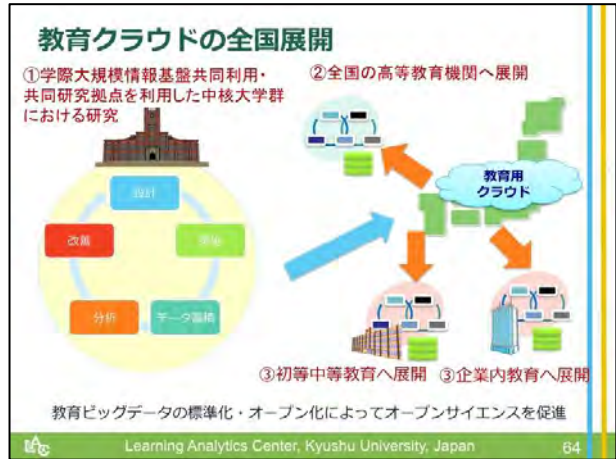
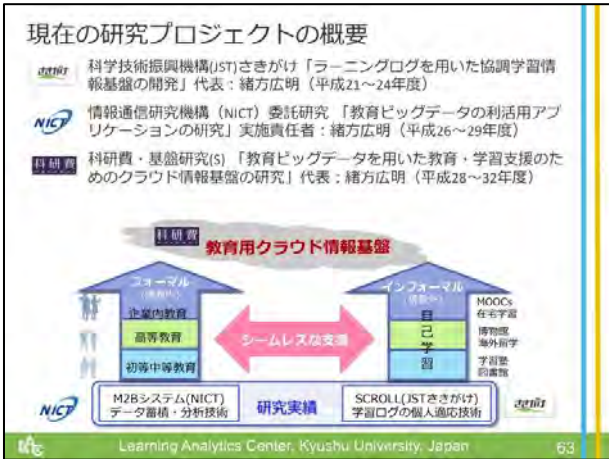
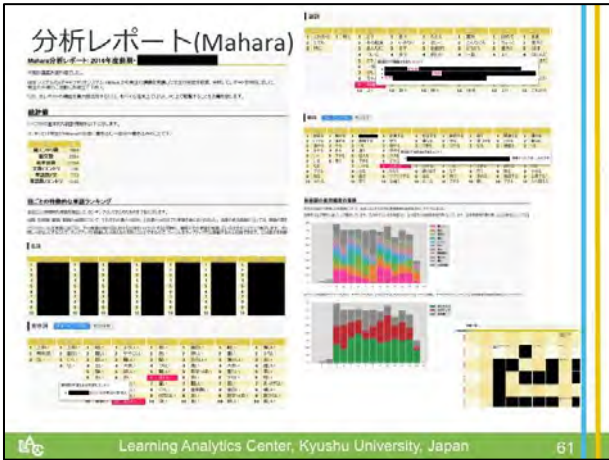
学習ログ分析
成績予測

主観や経験に依存しない

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 59

分析レポート(BookLooper)

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 60



従来研究との比較

項目	従来研究	本研究(教育データ科学)
教材/教育改善	経験が中心	データ分析に基づく意思決定中心
学生/教員評価	試験やアンケート	大量の学習ログが益々重要 → e-Science, Open-Scienceに発展
講義形式	計画に従って実施	データを基に、応的に実施
研究方法	観察、質問紙、試験中心	大量の学習ログの分析中心

Learning Analytics Center, Kyushu University, Japan 66

期待される効果

- ① **多様性・個性に対応した教育**
2020年にデジタル教科書を単に導入するだけでなく学習ログの有効活用により、**テラーメイドな個別教育を実現**
・アジア諸国では、初等中等教育においてデジタル教科書を既に導入。
・しかしログデータの蓄積や分析まではされておらず、日本が大きくリードできる可能性大
- ② **全国規模で教育ビッグデータを構築**
デジタル教科書と同時に教育用クラウド情報基盤の全国展開により、**日本を世界一の教育情報化大国へ**
・日本が導入予定の2020年はすぐそこであり、本研究の緊急性大
- ③ **エビデンスに基づく教育政策の提案と評価**
対面型講義に基づく教育ビッグデータの科学的な分析により、**国全体の「教育の質保証と質向上」**を行い、**国際競争力を向上**
・海外ではe-LearningやMOOCs等を用いたオンライン講義のログの分析が中心であり、本研究のように対面型講義を対象とした研究は非常に少ない
- ④ **教育データ科学による教育関連分野の研究推進**
蓄積された教育ビッグデータの標準化・オープン化によって、**教育データ科学**を推進し、**教育学・心理学・認知心理学等の教育関連分野の研究を促進**



特に大事なこと



LAの研究を促進するために 研究コミュニティを作る



海外では



- EU LACE (Learning Analytics Community Exchange)
9大学が参加
エビデンスやデータの共有
- 米国Unizin (11大学が参加)
Digital Learningの学習効果の向上

例：2009年に入学した52.9%の学生が6年以内に大学を卒業した



日本でのコミュニティ構築の目的

- ・ LAに関する情報交換
 - ・ システム、ツール、データ、エビデンスの共有
- ↓ これによって
- ・ データやツールの標準化がボトムアップに提案
IMS標準化(Caliper)を参考に
 - ・ オープンデータのガイドラインなども提案



おわりに

教育の情報化

教育データ科学の研究を促進

教育・学習のプロセスを明らかにして、
データを蓄積・分析して、共に教え方、
学び方を改善していく



平成 30 年 1 月 15 日(月)に香川大学 幸町北キャンパス OLIVE SQUARE 2F 多目的ホールにて、四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業(以下、「知プラ e 事業」と略す。)の「事業シンポジウム 2017」を開催した。

知プラ e 事業では、平成 25 年度から平成 29 年度の事業期間において、四国の 5 国立大学が連携して、それぞれの大学が有する特色ある教育・研究分野を e-Learning 授業化し共同開講することにより、5 大学全体の教育の質の向上に取り組んできた。

本シンポジウムでは、「事業成果と今後の展望」をテーマとして、知プラ e 事業の主要な成果である、共同実施モデルの構築と運用、非同期型 e-Learning 授業の質保証の仕組み、第三者著作物の著作権処理の定型化について紹介するとともに、外部有識者として、放送大学香川学習センター所長の大平文和先生による本事業成果に対する総評、及び日本教育工学会第 8 代会長・熊本大学教授の鈴木克明先生から大学連携 e-Learning の将来展望に関する講演が行われた。



事業成果報告

1. 知プラe事業の概要

平成24年度 文部科学省 国立大学改革強化推進補助金事業
「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」(平成24~29年度)

四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業 (知プラe事業)の概要

大学連携e-Learning教育支援センター四国
センター長 林敏浩(香川大学)

平成30年1月15日
事業シンポジウム2017

知プラe事業の目的とインフラ整備

知プラe事業の目的
四国の5国立大学法人が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで、教育の質の向上を図る。

事業目的達成のためのインフラ整備
大学連携e-Learning教育支援センター四国及び分室を設置したとともに、e-Learningシステム基盤を構築した。

知プラe事業の到達目標

- 大学教育を共同実施するための仕組みを構築**
大学ごとに異なる教育システム(履修スケジュール、シラバス等)への対応
非常勤講師任用等に係る事務手続きの簡素化
共同実施科目(50科目)の開講による本仕組みの検証
- 非同期型e-Learning授業の質保証の仕組みを構築**
質保証に係るガイドラインの策定とチェック体制の構築
学生と教員の双方向性の実現
- コンテンツ制作に係る業務省力化と視聴確認体制の構築**
コンテンツの品質に係るガイドラインの策定とチェック体制の構築
第三者著作物利用のための事務手続きの定型化
- 継続的な運用のための体制構築**
補助金期間終了後の運用体制の整備

共同実施の概要と利点

平成27年度以降の本事業で提供するe-Learning科目については、5大学において**同一の科目名で共同開講**し、各大学の様式でシラバスを作成するものとする。(大学間申合せ 平成26年9月4日施行)

同一の科目名で共同開講

共同実施の利点

- ディプロマポリシーの補完
- 科目選択の幅の拡充
- 履修手続きの簡素化(単位互換制度と比較して)

大学サイドからの共同実施の利点

四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[大学視点]

- ディプロマポリシー(修了認定・学位授与に関する方針)への補完・補強
- 他学部教員や非常勤講師による授業科目
- 必修科目
- 選択必修科目
- 選択科目
- 自由科目 (※柔軟な授業科目)
- e-Learningによって提供
- 共同実施による提供科目
- 履修科目の増強(自大学で開講したいが担当できる教員がいない場合等)を実現
- 教育目標の視野を更に広げる(自由科目数の増)ことが可能

学生視点からの共同実施の利点

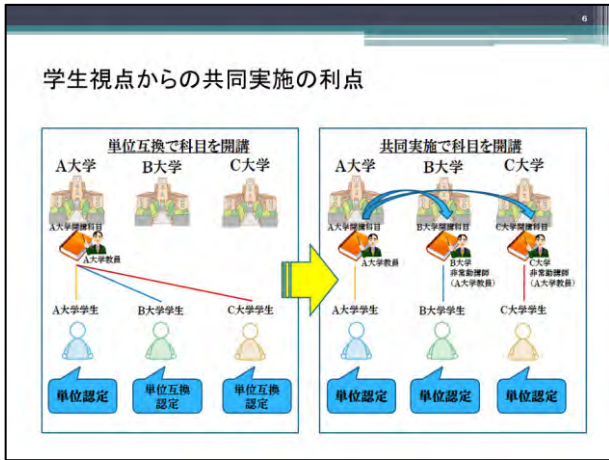
四国5大学型共同教育実施モデルのメリット[学生視点]

学生の科目履修の選択幅が拡充

履修不可
A大学では履修課の科目
B大学では未開講の科目

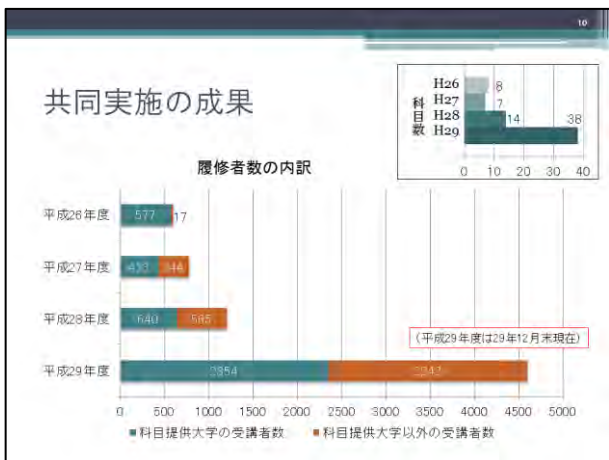
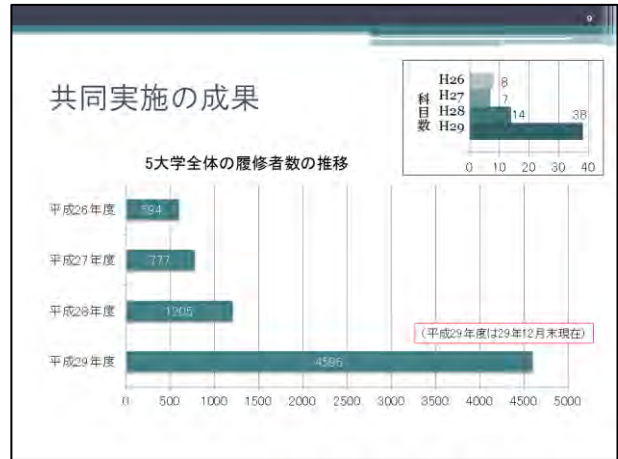
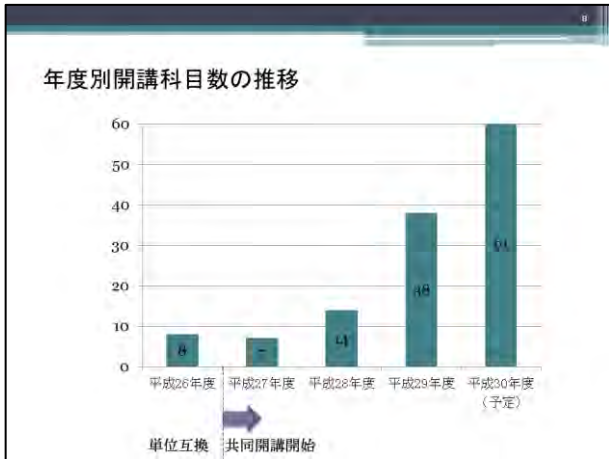
履修可能
A大学の科目として開講
A大学の科目として開講

ポイント: 単位互換ではなく自大学の科目として開講
他大学の履修の自大学に申請・手続きで履修可能
他大学の履修分野の科目履修を単純に実現



課題別成果物の例

課題	検討項目	成果物
共同教育実施モデルの運用	履修手続き、成績入力方法、シラバス等、5大学で異なる教育システムに対応した仕組みの整備	学修期間の弾力的運用 シラバス情報収集フォーマット 成績評価早見表 非常勤講師任用等事務手続きの簡素化 38科目の共同開講（詳細は後述）
教育の質保証	授業設計、授業運用、継続的な授業改善プロセス等に関する教育の質保証の仕組みの整備	オンライン授業設計ガイドライン オンライン授業運用ガイドライン 授業改善アンケート オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート
コンテンツ制作	著作権処理、コンテンツ開発等、コンテンツの共同開発体制の整備	オンライン授業のための著作権処理ハンドブック（作成中） 譲渡証書 コンテンツ開発ガイドライン コースコンテンツ確認シート
継続的運用体制の整備	補助金期間終了後の組織や規程等の整備	四国5大学連携による事業の共同実施に関する協定書の改正を受け、大学連携e-Learning教育支援センター四国規則ほかを改訂予定



- ### まとめ
- 知プラe事業期間内で得られた主な成果**
1. 共同教育実施モデルの構築と運用
 2. 非同期型e-Learning授業における教育の質保証
 3. 非同期型e-Learning授業コンテンツ制作に係る著作権処理
- 平成30年度以降について**
1. 共同教育実施モデルを運用するための体制の維持
 2. 知プラe科目の共同開講の継続

2. 共同実施モデルの構築と運用


共同実施モデルの構築と運用

大学連携e-Learning教育支援センター四国
根本 淳子

四国5大学型共同教育実施モデルの目指すところ


四国5大学型共同教育実施モデル

教育システムや教育理念の異なる大学間で教育資源を共有し、eラーニングを用いて有効に活用することで、各大学がそれぞれの教育理念に基づいて現在以上に効果的な教育の実現を可能とする方策。



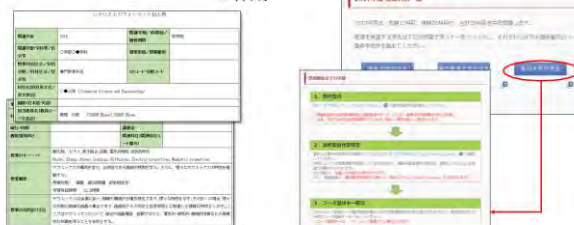
1. 共同実施のためのeラーニングプラットフォームの活用

5大学間Shibboleth認証システム



2. 履修手続きに関する情報収集とその案内

- シラバス情報収集フォーマットの作成
- 履修情報の集約



3. 開講科目・授業担当教員任用の手続き

- 各大学の教務スケジュールに合わせて、開講科目を確定・承認
- 各大学の状況を踏まえた教員任用手続きを取り決めて実施


各大学へは非常勤講師扱いで行う。

任用手続き

通常 5大学が各大学と互いに非常勤講師発令

↓
任用手続きの標準化の仕組みを構築する。

5大学間で「センター-四国教育」を非常勤講師として一括任用するための協定等を結ぶ。



4. 質保証を意識した科目開発と運用

- ガイドラインの開発・運用
 - コンテンツ開発ガイドライン
 - オンライン授業設計ガイドライン
 - オンライン授業運用ガイドライン
- ガイドライン等に準拠した授業設計確認シート (平成29年度より実施し、対象全科目での確認完了)
- 著作権処理の大学連携共通マニュアル

「共同実施モデル」の特徴

【学生の立場から】

- 対面授業と差別なく自大学の科目として履修が可能である（履修登録・成績）
- 同じ学習内容・リソースにアクセスが可能である

【運営側の立場から】

- 5大学で協定を結び、各大学の制度の上で運用を行える（事務的な簡素化）

【授業コンテンツ開発の立場から】

- 大学ごとに開発・運用を行いつつ、大学間で相互に協力し合う体制を持っている
- ガイドラインなどを設け、一定の指針を決めて開発・設計・運用を行っている

開講科目数と履修者数の推移

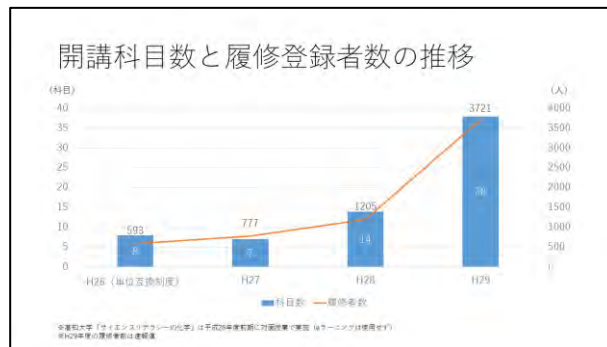


3. 非同期型 e-Learning 授業における教育の質保証

非同期型e-Learning授業における教育の質保証

金西 計英
(大学連携e-Learning教育支援センター四国 徳島大学分室)

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業 事業シンポジウム2017



質保証に向けた取り組み (質保証WG)

- オンライン授業設計ガイドライン
 - ⇒ 準拠状況の自己点検
- オンライン授業運用ガイドライン
- 授業改善アンケート

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業 事業シンポジウム2017

オンライン授業設計 ガイドラインと 準拠状況の自己点検

4

オンライン授業設計ガイドラインの一例 (4.e-Learningコンテンツを用いた授業設計)

全文はWebサイト

(4) コースの導入にはシラバスを示し、1モジュール(授業1回分)には、以下の要素を必ず含めることで対面授業と同等の質を担保する。

イ 授業内容(教科書などの情報コンテンツ): 文字、音声、動画、静止画など

ロ 授業内容に関する双方向性を有した学習活動コンテンツ(小テスト、小レポート、電子掲示板など)

ハ 自主的な学習を促すためのコンテンツ(参考情報(リンク集、コラム、アドバイス)など)

上記3点を含むことで、学習者が主体的に学習活動を進められる環境を提供し、実際に活動したことを確認できるようにする。

の最低条件)

オンライン授業設計ガイドライン 準拠状況の自己点検 (方法)

- オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート (以下、確認シート) を開発
- 連携大学が自大学開発コースについて確認シートで自己評価をし、その結果を代表校 (香川大学) が質保証のエビデンスとして保管

徳本洋子, 高橋麻子, 竹田真由 (2015) 大学間連携におけるオンライン教材開発と実践のための検証レビューの要件. 情報処理学会研究報告Vol.2015-CLE-17, No.15
竹田真由, 徳本洋子, 高橋麻子, 大学連携によるe-Learningの質保証がイノベーションに貢献したチェックリストの検討. 2016. 情報化推進学会研究報告Vol.2016-CLE-25, No.25
竹田真由, 徳本洋子, 高橋麻子, 大学連携によるe-Learning質保証がイノベーションに貢献したチェックリストの検証的評価. 2017. 日本教育工学学会研究報告17-2-p. 213-218

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業 事業シンポジウム2017

オンライン授業設計ガイドライン 準拠状況の自己点検（結果概要）

- 対象は全38科目
- ガイドラインを80%以上満たしている科目
⇒全体の97%
- ガイドラインを100%満たしている科目
⇒全体の29%

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による
大学教育の共同実施事業「事業シンポジウム2017」

オンライン授業設計ガイドライン 準拠状況の自己点検（大学別）

大学名	科目数	達成率（平均）
香川大学	19	90%
徳島大学	7	96%
愛媛大学	5	100%
高知大学	4	96%
鳴門教育大学	3	73%

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による
大学教育の共同実施事業「事業シンポジウム2017」

オンライン授業設計ガイドライン 準拠状況の自己点検（未達成科目が多い項目）

ガイドライン項目	科目数
(7)へ) 単位取得の条件（成績評価対象（複数）、各成績評価対象の評価基準（成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数）、モジュール内の学修活動が出席に相当する旨）	21
(6) コース導入部分にはシラバスを示す。	19
(3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。	2
(4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。	2
(5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間（締切日時）を設定する。	2
(7)ホ) スケジュール（コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学修期間）	2

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による
大学教育の共同実施事業「事業シンポジウム2017」

授業改善アンケート

10

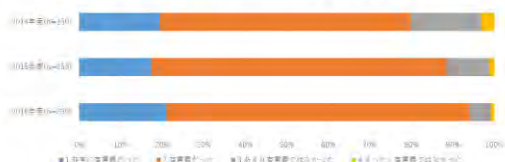
授業改善アンケートの概要

- 目的
 - 授業改善の参考資料とする
- 方法
 - 全29問の質問
 - LMS（Moodle）のアンケート機能を使用して各コースに設置
 - 授業終了時に履修者が回答
 - 質保証WGがとりまとめ、フィードバック

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による
大学教育の共同実施事業「事業シンポジウム2017」

授業改善アンケートの結果 （2014～2016年度）

- 問20 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？



⇒経年変化として、「1:非常に有意義だった」「2:有意義だった」の回答割合が上がっている。

四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による
大学教育の共同実施事業「事業シンポジウム2017」

各年度の詳細は事業報告書参照

授業改善アンケートの結果 (2014-2016年度)

- 良かった点、改善点の自由記述件数（特になしを除く）

年度（開講科目数）	良かった点	改善点
2014年度（8科目）	72件	75件
2015年度（7科目）	116件	75件
2016年度（14科目）	147件	86件

詳細は事業報告書参照

授業改善アンケートの結果 自由記述の回答例（2015年度結果より抜粋）

※自由記述の内容は科目によってさまざまだが、次年度の改善に活かす

<良かった点（自由記述）>

- 香川を学ぶ：香川についてより深い知識を得ることができた。
- 地域コンテンツと知財管理：説明が分かりやすい。
- 情報のいろは：資料や説明が分かりやすい。
- サイエンスリテラシーの化学：先輩からコメントをもらえ、コミュニケーションがとれた。
- 知の探訪：様々な分野の講義を受けられた。
- モラエスの徳島：モラエスについて詳細に知れた。
- 日本におけるドイツ兵捕虜：関連施設の紹介や別館等がみてわかりやすかった。

<改善要望（自由記述）>

- 香川を学ぶ：音質の改善。
- 地域コンテンツと知財管理：小テストの解答と解説がほしい。
- 情報のいろは：特になしという意見が多い。その他、音質や画質の改善。
- サイエンスリテラシーの化学：コメント欄がわかりにくい。
- 知の探訪：授業の進行速度を遅くしてほしい。
- モラエスの徳島：課題の内容が毎回似ていたため、変えてほしい。
- 日本におけるドイツ兵捕虜：ビデオやパワポの文字が多い。

4. 非同期型 e-Learning 授業コンテンツ制作に係る著作権処理



非同期型e-Learning授業コンテンツ制作に係る著作権処理

藤本 憲市, 吉田 明恵
 大学連携e-Learning教育支援センター四国（香川大学）、同センター愛媛大学分室



著作権処理の負担軽減に向けて


e-Learningに関する著作権法
 第三者著作物
 利用許諾

著作権法第35条

□ 教育を担当する者やその授業を受ける者（学習者）は、授業の過程で使用するために著作物を複製することができる。また、「主会場」での授業が「副会場」に同時中継されている場合に、主会場で用いられている教材を、副会場で授業を受ける者に対し公衆送信することができる。

非同期型e-Learning授業では？

□ 許諾を得ることなく第三者著作物を非同期型e-Learning授業用の教材（コンテンツ）に利用し、その教材をサーバに掲載し配信することは許されない。




非同期型e-Learning授業コンテンツ制作に係る負担

□ 第三者著作権処理の実務担当者に大きな負担
 □ 非同期型e-Learning授業を普及させる上で障害となっている

第三者著作物の著作権処理に係る負担軽減に向けて

□ 連携大学における著作権処理事例を集約
 □ 第三者著作物利用に係る判断や事務処理をシステムティックに行うためのハンドブック作成




ハンドブック作成

実務経験からみた著作権処理の煩雑さ
 クリエイティブコモンズライセンス等の利用促進
 著作権者への照会メールの雛型作成


著作権処理の煩雑さ～これまでの実務経験から～

著作物やその出典情報の確認作業

- 教員自身のデータ？
- 第三者のデータ？
- どの書籍からのデータ？
- 孫引き？
- スライド中の第三者著作物がどれなのか分からない



教員とのやりとりで使用したシートやスライド



著作権処理の煩雑さ～これまでの実務経験から～

許諾申請書についても、以下のように様々である。

- 著作権者側が既に申請書の雛型がある
- こちらに申請書の雛型作成を要求される
- ファックスを指定される・郵便を指定される
- メールのみでの許可
- 電話のみで許可
(この場合は保存用にメール返信をお願いします。)



解決策

- 自由利用のデータを利用
パブリックドメインのデータやクリエイティブコモンズライセンスの付与された著作物を代替利用することを打合せや研修会を実施して提案していった。
- 共通の雛型を利用
毎回申請内容を考えなくて良いように、スタッフで共通の申請雛型メールを使用するようにした。



これまでの実務：コンテンツ開発初期の 利用許諾件数（愛媛大学）

地域	許諾申請が必要な第三者著作物の数 (利用許諾済)	
	自然科学系科目	社会文科系科目
日本	32 (32)	27 (27)
英米	21 (21)	10 (10)
欧 (西・仏)	-	2 (2)
中東 (ヨルダン)	-	1 (1)
中台	1 (1)	5 (5)
韓国	-	15 (15)
旧ソ連	-	18 (0)
合計	54 (54)	78 (60)

著作権処理ハンドブック

- 解説編
- 実践編
- ケーススタディ編



ハンドブックに盛り込んだ項目

解説編

- 1.e-Learningにおける著作権法の基礎
 - 1.1 著作物の類型
 - 1.2 著作人的人格権と著作財産権
 - 1.3 教育現場における例外
 - 1.4 利用許諾契約の要点
 - 1.5 パブリックドメインとクリエイティブ・コモンズ・ライセンス
2. 資料
 - 2.1 用語
 - 2.2 FAQ
 - 2.3 利用許諾書の雛型
 - 2.4 著作権法改正国内動向
 - 2.5 関連サイト

実践編

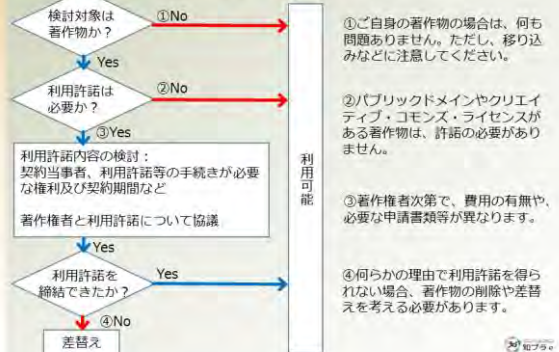
- 3.e-Learningにおける著作権処理の要点
 - 3.1 全般的な留意点
 - 3.2 著作権処理フローチャート
 - 3.3 著作物性の判断
 - 3.4 第三者著作物のセルフチェックシート

ケーススタディ編

4. ケーススタディ
 - 4.1 言語の著作物
 - 4.2 海外著作物の利用許諾契約
5. ワークブック
 - 著作物の保護期間
 - 図・グラフの利用
 - キャプチャの利用
 - 職務著作



著作権処理のフローチャート



第三者著作物のセルフチェックシート

付録 第三者著作物利用状況確認シート
e-Learning 作成予定科目名

科目担当教員

上記科目の e-Learning コンテンツ内で利用する第三者著作物について、以下の確認をお願いします。
※学芸書家の用語集を参照してください。

1. 第三者著作物を利用していますか？
 a. 利用していない。もしくは全てパブリックドメインなどの著作権フリー素材である。
 b. 利用している。利用する予定である。
 c. 利用にあたるかどうか判断できない。
2. 自撮りの写真が含まれている場合、その写真に著作権に関わるものが写っていませんか？
 a. 写っていない。
 b. 写りこんでいる。
 c. 写りこんでいるかどうか判断できない。
- 1, 2. 共に a) に該当する場合は、問題はありませんので、これで終了です。参考として本テキストをご覧ください。b) に該当している場合は、**利用許諾申請が必要です**。続けて確認シートを試し、本研修を受けてください。
3. 第三者著作物（特に文献や新聞記事等）を引用する場合、出典を明記していますか？
 (外国の文献も国内の文献と同様に出典を明記する必要があります。)
 a. 明記している。
 b. 明記していない。
 c. 明記しているかどうか判断できない。

↑このシートを利用することで、教員も一定の判断が可能。



利用許諾書の雛型（日・英・中・韓）

E-mail やファックスで利用許諾仰ぐ場合の文例

E-mail とファックス 両方フォームで送信する場合、文面は同様で構いません。図 4 にサンプルを示します。

Title: 利用許諾のお願い

〇〇大学 情報資料センター 御中
お世話になります。△△大学総合情報メディアセンターの 松山ひめかと申します。

現在、△△大学では学生向けにeラーニングコンテンツを制作しており、オンラインで授業を行うために開発されたシステムで配信しております。そのコンテンツで貴学の下記画像を利用させていただけないでしょうか。

【データ URL とファイル名】

<http://www.abc-u.ac.jp/learnocean/researchers/nessui/uma.jpg> 馬の頭部の装具 uma.jpg

【使用範囲等】

科目名 古代鞍 第 5 章「馬の頭部の装具」

担当教員 西園太郎先生

配信環境 Moodle (学習支援システム)

公開範囲 Moodle 上に ID 名・パスワードでログインする学生及び担当教職員

公開大学 西園の国立 S 大学

お手数をお掛け致しますが、ご検討をよろしくお願い申し上げます。

図 4

↑これまでの経験から、著作権者に必要最低限伝えるべき点を雛型にしている。



図 5 添付 馬の頭部の装具スライド

2-4-2 履修案内

平成 26 年度

学生への周知を目的にセンター四国のリーフレットを作成した。また平成 26 年 2 月にセンター四国のウェブサイトを開き、開講科目やイベント情報、事業報告書の掲載など情報発信を行っている。

事業概要

我が国の地方国立大学は、教育研究機関として、地域に根ざし、世界に情報発信することが求められています。四国の5国立大学は、四国としてそれを構成する4国立に立地する大学として、四国地方の知的発展を牽引するとともに、地域社会に貢献できる人材を輩出することを重要な使命としています。

本事業では、e-Knowledgeコンソーシアム四国（eK4）で構築されたe-Learning 基盤を強化した教育の共同実施を行うための母体として、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国（以下、センター四国）を設置します。センター四国では、大学間連携により、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完するコンテンツを開発することで、教育の質の向上を図ります。科目選択の幅が広がることにより、履修者の興味や学習ニーズにあった科目履修が可能となります。また、各大学の状況（時間割など）に依存しない教育プログラムの開発により、学生にとっては、四国のどこにいても、いつでも何度でも受講できる共同実施の運用モデルを確立します。

連携大学一覧



香川大学 センター四国
〒760-8521
香川県高松市幸町1-1
<http://www.kagawa-u.ac.jp/>



徳島大学 分室
〒770-8502
徳島県徳島市南条3丁目1
<http://www.tokushima-u.ac.jp/>



香川教育大学 分室
〒772-8502
徳島県徳島市南条3丁目4-8
<http://www.nanto-u.ac.jp/>



愛媛大学 分室
〒790-8577
愛媛県松山市文京町3
<http://www.ehime-u.ac.jp/>



高知大学 分室
〒780-8520
高知県高知市幸町2丁目5-1
<http://www.kochi-u.ac.jp/>

E-Learning で 四国5大学が あなたのそばに

四国における e-Knowledge を基盤とした 大学間連携による大学教育の共同実施



「知プラ」で検索!
知プラ e 検索



連携実施モデル

教育の質保証・e-Learning 構築法

- 開講科目
- 到達目標
- 共通シラバス様式
- 履修案内
- 成績評価
- 開講形態 など

コンテンツ開発

- ガイドライン策定
- 教育の質保証
- e-Learning 構築法

共同実施モデル

- コンテンツ開発
- ガイドライン策定
- コンテンツ開発
- コンテンツ配信
- 著作権処理

お問い合わせ先

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
〒760-8521 香川県高松市幸町1-1
TEL 087-832-1365
E-mail chipla_et_info@cc.kagawa-u.ac.jp
HP <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>



5 大学の得意分野を生かして

5大学が相互連携し、得意分野の教育・研究を共有・補完することで大学教育の質を向上させる

あの分野の科目は、うちの大学にはない...

あ、勉強したい科目が B大学にある!!

A大学学生
A大学開講科目

新しい分野の科目が受講できた!!

より詳しく学ぶことができた!!

B大学学生
B大学開講科目

共同教育実施

- 他大学の授業が自大学と同じ手続きで履修可能
- 他大学の得意分野の科目履修を手軽に実現
- ICT教育の普及促進（学生・教職員の意識改革）

E-Learningを使えば いつでもどこでも何度でも

教育システムや教育理念の異なる四国5大学間で、教育資源を共有し、e-Learningを用いて有効に活用することで、各大学がそれぞれの教育理念に基づいて現在以上に効果的な教育を実現する



LMS（学習管理システム）上のコミュニケーションツールを使って他大学の学生との交流の輪を拡大

e-Learningとは？
e-Learningとは、インターネットなどのICT（情報通信技術）を利用した学習方法です。何度でも講義映像の視聴ができ、オンライン上でレポートの提出もできるため、自分のペースで学習を進めることができます。e-Learningで受講した講義は、大学の通常の科目と同じように、単位として認定されます*。

*一部例外あり。

センター四国リーフレット

TOP 事業概要 組織 開講科目 お問い合わせ



大学連携e-Learning教育支援センター四国
University Consortium for e-Learning, Shikoku Center

西国の国立5大学が相互に連携し、香川大学に大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置するとともに、他の4大学にセンター分室を設置しました。そのe-Learning基盤を活用し「四国地区における5国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図ります。



EVENT

- + シンポジウム
- + スキルアップ研修会

REPORT

- + 知プラe事業報告書

INFORMATION

2015.01.29 2014年度事業報告シンポジウムを開催しました

2015.01.26 2014年度第2回スキルアップ研修会の申し込み受付を開始しました

2014.12.01 2014年度事業報告シンポジウムの申し込み受付を開始しました

2014.10.17 事業概要のページを更新しました

2014.10.08 2014年度第1回スキルアップ研修会を実施しました

2014.08.06 事業概要のページを更新しました

UNIVERSITY

- 香川大学
Kagawa University
- 徳島大学
The University of Tokushima
- 福門教育大学
Fukuro University of Education
- 愛媛大学
Ehime University
- 高知大学
Kochi University

センター四国ホームページ

URL : <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>

平成 26 年度に作成した知プラ e 事業に関するリーフレットを各大学の教務担当事務局に配置し、学生への広報に役立っている。また、平成 27 年度には、知プラ e 科目に関するポスター等を作成した。更に、平成 26 年 2 月に開設したセンター四国のウェブサイトにおいて、開講科目、イベント情報、事業報告書などの情報を発信し続けている。

センター四国リーフレット（表）

センター四国リーフレット（裏）

学校教員の世界

概要

キャリア教育の一環として、様々な学部で学ぶ学生に対して学校教員という職業の魅力や課題を伝え、学生が自らの将来設計のために大学で何を学ぶべきかに気付くための機会を提供します。

特徴

大学の講義では直接見聞することができない、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校などの授業の様子を講義の中で視聴することを可能にしました。さらに、学校教員へインタビューを行い、授業の作り方や教員としての働き方など、学校教員として必要な教育実践を学んでみましょう。

講義担当：
鳴門教育大学 宮下晃一、竹口幸志
<http://lms.naruto-u.ac.jp/moodle/>

鳴門教育大学分室で作成した広報用資料

知プラe
知プラ e

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
University Consortium for e-Learning, Shikoku Center

四国の国立5大学が相互に連携し、香川大学に大学連携 e-Learning 教育支援センター四国を設けずるとともに、他の4大学にセンター分室を設置しました。そのe-Learning 施設を活用し「四国地域における5国立大学連携推進」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図ります。

e-Learning 科目
今秋、続々登場

どわんちんぽん

域コ 情報の知財
エンスを学ぶ
モバ 知る

におけるドイツ兵捕虜
4国の収容所史の徳島
モバ エン 知る
グローバル

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
<http://chiple-e.ltc.kagawa-u.ac.jp/>

お問い合わせ先
香川大学 特学支援グループ 窓口

知プラe 掲載科目
QRコード

センター四国（香川大学）で作成した広報用資料

いつでも！どこでも！何度でも！ e-Learning

e-Learningとは
インターネットを通じて行う学習形態です。授業で講義を聞くのではなく、用意された教材（読み物やビデオなど）の学習をパソコンなどを用いています。レポート提出やディスカッションなどもパソコンなどから行います。

e-Learningにはこんなメリットがあります!!

いつでも!!
決められた期日までであれば、**いつでも好きなときに**受講できます!!

どこでも!!
高知大学に所属しながら**他大学の科目を履修することができます。**
※履修できる科目については、下をご覧ください。

何度でも!!
先生の話を聞き逃してしまったり、きちんと理解できなかったところがあるままになってしまう。
きちんとわかるまで何度でも、講義を視聴し直すことができます。授業の予習・復習にも便利です。もちろん、先生へ質問することもできます。

e-Learningでこんな科目が履修できます!!

(香川大学提供)	(徳島大学提供)	(高知大学提供)
香川をまなぶ	知の探訪	サイエンスリテラシーの化学
情報のいろは	モリスの理髪〜グローバルizmと異邦人〜	
地域コンテンツと知財管理	日本におけるドイツ兵捕虜	

※ 開講されているe-Learning科目の情報は、KULASのシラバスにも掲載しています。

まずはオープン科目から体験してみてください!!

e-Learning支援システム「高知大学 moodle」<http://moodle.cc.kochi-u.ac.jp/>では、履修登録の必要ない(ただし単位にはなりません)オープン科目も提供しています。e-Learningのイメージがかわらないという方は、まずはオープン科目に登録してぜひご体験ください。

(オープン科目一覧) ・教養の化学 ・パワーハラスメント防止基礎


QRコード

e-Learning 科目受講してみよう!!

科目受講の流れ

(1) 履修登録・抽選結果確認 (高知大学内)
KULAS から履修登録を行ってください。受講者数の制限のある科目で履修定員数を上回った場合は抽選を行います。通常の授業と同様に、KULAS 上の履修登録結果で抽選結果を確認してください。

(2) Moodle への登録 (履修登録した科目 (コース) を提供している各大学の Moodle)
追加登録期間終了後に、受講登録者宛にメール通知される登録方法に従って Moodle への登録を行ってください。**★★★注意★★★**期間内に Moodle へ登録しなければ受講できません。履修登録だけではダメです。登録方法の相談窓口：(E-mail) elmanabi@kochi-u.ac.jp (TEL) 088-844-8652

(3) 各科目のコースにアクセス
アクセスは、履修登録後にメール通知される URL を確認してください。(受講の際に教室に集まる必要は基本的にありません。)

受講のポイント

- ★ 受講方法等については、メールでやり取りします
e-Learning 科目の受講方法は、**メールで連絡します**。メールは履修登録後に、各受講登録者の大学のメールアドレス (@s.kochi-u.ac.jp を含むアドレス) 宛てに届きますので、必ず確認してください。もしメールアドレスが不明な場合は、下記の問い合わせ先にご相談ください。
- ★ 締め切りを確認しましょう
履修期間内に、各科目に指定された締め切りにしたがって学習してください。履修期間終了後も学習することはできますが、成績評価や単位認定には関連しません。
- ★ 質問を積極的に行いましょう
教員への質問は、授業担当教員の指示に従ってください。科目コース内のフォーラム (電子掲示板) やメールで受けていることが多いようです。わからないことがあれば積極的にどんどん質問するのが、e-Learning 走定の秘訣です。

e-Learning 共同実施科目は、「西国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業 (通称：「加プラ e」事業) によって提供されています。
大学連携 e-Learning 教育支援センター西国 IP : <http://chipla.e.it.kagawa-u.ac.jp/>

(問い合わせ先) 学務課 教育支援室 総務係 elmanabi@kochi-u.ac.jp

高知大学分室で作成した学生向け広報用資料

機材導入のご紹介 第1回 電子教卓 (1) 遠隔配信

この配布物は e-Learning を推進する目的で作成しています。

e-Learning とは
インターネットを通じて学習を促す、新しい学習方法です。本学では e-Learning を支援するシステムとして「高知大学 moodle」を導入し、講義を撮影した映像や配布資料を学生や教職員に公開できるようになりました。今回は、講義収録や遠隔講義を実施するための機材をご紹介します。

電子教卓とは
212 番教室 (朝倉キャンパス共通教育棟 2 号館 1 階) のステージ横に設置している機材です。

電子教卓の機能紹介 (1) 遠隔配信
朝倉キャンパス内の教室で授業をしながら、物部・岡豊キャンパスにいる学生に向けてライブ授業をすることができます。遠隔授業を実施されたい方は、下記の問い合わせ先までご相談ください。

※最大3カ所の接続が可能です。
※設定の関係で、接続先が3キャンパス内と一部の大学のみに限定されています。学外との遠隔配信に使用されたい方は、事前にご相談ください。





▲遠隔授業の実施 (左: 朝倉 右: 物部) ▲遠隔授業用カメラ (右下) ▲PC画面をプロジェクター投影できます

実際に使ってみてどうでしたか?
他キャンパスへの移動が省けるので、教員・職員ともに大変助かります。動画撮影が可能ということで、今後会議の様子を撮影し、参加できなかった先生に公開してみたいと思います。(入試課職員 O さん)

遠隔配信は、以下の教室でも行うことができます。

(朝倉キャンパス)	(物部キャンパス)
125 番教室 (共通教育棟 1 号館 2 階)	大会議室 (農学部 1 号館 2 階)
127 番教室 (共通教育棟 1 号館 2 階)	(岡豊キャンパス)
212 番教室 (共通教育棟 2 号館 1 階)	第 2 講義室 (実習棟 3 階)

(問い合わせ先) 学務課 教育支援室 総務係 elmanabi@kochi-u.ac.jp

機材導入のご紹介 第2回 電子教卓 (2) 講義収録

この配布物は e-Learning を推進する目的で作成しています。

電子教卓の機能紹介 (2) 講義収録
講義の様子を動画撮影することができます。遠隔講義をしながらの収録や、講義を行っている映像とパワーポイントを一つの動画にまとめることができます。撮影した動画は、授業の復習用として使うこともできます。





▲録画開始ボタン ▲動画レイアウトを確認 ▲実際の収録動画 (右下に動画)

実際に使ってみてどうでしたか?
ここの共通教育「アルコール学概論」の授業において、初めて電子教卓を利用しました。今回の用途は「授業記録」です。受講生はもちろん教員自身も自分の授業の見直しができます。電子教卓の使用法は最初難しく感じましたが、事務の方に何度も教えていただき、今はすっかり慣れました。また撮影した映像をソフトウェアで編集することもでき、授業中についていけず失音 (音) したとしても、後でカットできます。正直に申し上げます、最初はあまり乗り気ではありませんでした。自分が撮影されてそれを映像で見ることが、心理的にもハードルが高かったです。ですが、自分も一度撮影・視聴してみると、本当に勉強になりました。授業を撮影・視聴・反響 (次の講義で改善) という流れを繰り返すことになり、この半年で自分の授業スキルが確実に向上したと感じます。また、学生の方はもちろん、レポート前に映像を見返したり、やむを得ず欠席した場合とて映像を見てそれを感想に生かす等、有効に活用してくれており、評判も上々です。私は、本来の授業の方は「ライブ感」にあると今も考えています。ですが、映像講義も、思ったほど悪くない。まあこういうのもアリかな? という気持ちになりました。遠隔講義にも使えるということを知り、新しい発想の方向に心を惹かれます。電子教卓を使うのは学生にも教員にも有益で、そしてたいへん楽しいです。多くのみなさまに活発なご使用をお勧めいたします。(共通教育 教養科目「アルコール学概論」担当教員より)

取り出した動画は・・・
e-Learning を支援するシステム「高知大学 moodle」にアップロードし、学内に公開することもできます。登録方法など、詳細は下記の問い合わせ先へご相談ください。
※「高知大学 moodle」は、高知大学 IP 教職員・学生専用 > 高知大学 moodle から閲覧できます。




機材収録は、以下の教室でも行うことができます。

(朝倉キャンパス)	(物部キャンパス)
125 番教室 (共通教育棟 1 号館 2 階)	大会議室 (農学部 1 号館 2 階)
127 番教室 (共通教育棟 1 号館 2 階)	(岡豊キャンパス)
212 番教室 (共通教育棟 2 号館 1 階)	第 2 講義室 (実習棟 3 階)

(問い合わせ先) 学務課 教育支援室 総務係 elmanabi@kochi-u.ac.jp

高知大学分室で作成した教職員向け広報用資料 (その1)

機材導入のご紹介 第3回 C-box (シーボックス)

この配布物はe-Learningを推進する目的で作成しています。

これまでに紹介した内容について

第1回目と第2回目では、共通教育212番教室に設置した「電子教卓」の機能についてご紹介をしました。第3回目では、持ち運び可能な授業収録/動画コンテンツ作成システム「C-box」をご紹介します。

C-box (シーボックス) とは

教室に関係なく、電源がある場所であればどこでも動画収録できる機材です。パワーポイントと講師の映像、音声を同時収録することができます。事前に動画のレイアウトを自由にかえることもできます。

▼実際にC-boxで収録した映像 (左: 授業風景のみ 右: パワーポイント (PC画面) と授業風景の同時収録)

実際に使ってみてどうでしたか?

スライドを使った講義では話の流れが速くなってしまったりありますが、学生がいつでも見直せる講義動画を提供できるのは良いと思いました。実際、レポート締切前や試験前には閲覧されているようでした。持ち運びができるC-boxは、どの教室でも講義を収録できるので便利です。ただ、準備や片付けに手間取ることがあるので、前後に別の授業が行われていない方が良さそうだと感じました。
(理学部 応用理学科 情報科学 講師 三好康夫先生)

C-boxでの動画収録にご関心のある方は、事前に下記の連絡先までお知らせください。撮影に必要な機材をあわせてお貸しします。必要に応じて撮影のお手伝いをすることも可能ですので、まずはお気軽にお問い合わせください。

(問い合わせ先) 学務課 教育支援室 総務係 etmanabi@kochi-u.ac.jp

高知大学分室で作成した教職員向け広報用資料 (その2)

TOP 事業概要 組織 開講科目 お問い合わせ



大学連携e-Learning教育支援センター四国
University Consortium for e-Learning, Shikoku Center

四国の国立5大学が相互に連携し、香川大学に大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置するとともに、他の4大学にセンター分室を設置しました。そのe-Learning基盤を活用し「四国地区における5国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図ります。



EVENT

- + シンポジウム
- + スキルアップ研修会

REPORT

- + 知プラe事業報告書

INFORMATION

2015.10.21 2015年度第1回スキルアップ研修会の申し込み受付を開始しました **NEW**

2015.09.03 事業シンポジウム2015を開催しました

2015.07.23 事業シンポジウム2015の申し込み受付を開始しました

UNIVERSITY

- 徳島大学
The University of Tokushima
- 鳴門教育大学
Nanto University of Education
- 香川大学
KAGAWA UNIVERSITY

センター四国ウェブページ (<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/>)

知プラ e 事業に関するリーフレットやポスター等を各大学の教務担当事務局に配置し、学生への広報に役立っている。更に、平成 26 年 2 月に開設したセンター四国のウェブサイトにおいて、開講科目、イベント情報、事業報告書などの情報を発信し続けている。

事業概要

我が国の地方国立大学は、教育研究機関として、地域に根ざし、世界に情報発信することが求められています。四国の5国立大学は、四国そしてそれを構成する4県に立地する大学として、四国地方の知的基盤を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる人材を輩出することを重要な使命としています。

本事業では、e-Knowledge コンソーシアム四国（eK4）で蓄積されたe-Learning 基盤を強化した教育の共同実施を行うための母体として、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国（以下、センター四国）を設けます。センター四国では、大学間連携により、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完するコンテンツを開発することで、教育の質の向上を図ります。科目選択の幅が広がることにより、履修者の興味や学習ニーズにあった科目履修が可能となります。また、各大学の状況（時間帯など）に依存しない教育プログラムの開発により、学生にとっては、四国のどこに居ても、いつでも何度でも受講できる共同実施の運用モデルを確立します。

連携大学一覧



香川大学
香川大学 センター四国
〒760-8521
香川県松山市中町1-1
http://www.kagawa-u.ac.jp/



徳島大学
徳島大学 分室
〒770-8502
徳島県徳島市南陽三丁目1
http://www.tokushima-u.ac.jp/



専門教育大学
専門教育大学 分室
〒772-8502
徳島県鳴門市瀬戸町高島字中島748
http://www.shimane-u.ac.jp/



愛媛大学
愛媛大学 分室
〒790-8527
愛媛県松山市文政町3
http://www.ehime-u.ac.jp/



高知大学
高知大学 分室
〒780-8520
高知県高知市後町2丁目5-1
http://www.kochi-u.ac.jp/

e-Learning で 四国5大学が あなたのそばに

四国における e-Knowledge を基盤とした 大学間連携による大学教育の共同実施



「知プラ e」で授業！
知プラ e 授業



大学連携 e-Learning 教育支援センター四国

〒760-8521 香川県松山市中町1-1
TEL 087-832-1365
E-mail chipla_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp
HP http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/

センター四国リーフレット（表）

5 大学の得意分野を生かして

5大学が相互連携し、得意分野の教育・研究を共有・補完することで大学教育の質を向上させる

A 大学学生

A 大学開講科目

B 大学学生

B 大学開講科目

共同教育実施

- 他大学の授業が自大学と同じ手続きで履修可能
- 他大学の得意分野の科目履修を手軽に実現
- ICT教育の普及促進（学生・教職員意識改革）

新しい分野の科目が受講できた!!

A 大学学生

A 大学開講科目

より詳しく学ぶことができた!!

B 大学学生

B 大学開講科目

共同実施科目

e-Learning を使えば いつでもどこでも何度でも

教育システムや教育理念の異なる四国5大学間で、教育資源を共有し、e-Learning を用いて有効に活用することで、各大学がそれぞれの教育理念に基づいて現在以上に効果的な教育を実現する



LMS（学習管理システム）上のコミュニケーションツールを駆使して他大学の学生との交流の輪を拡大

e-Learning とは？
e-Learning とは、インターネットなどの ICT（情報通信技術）を利用した学習方法です。同様に録音映像の原理が元で、オンライン上でレポートの提出もできるため、自分のペースで学習を進めることができます。e-Learning で受講した講義は、大学の通常の科目と同じように、単位として認定されます。*

*一部例外あり。

センター四国リーフレット（裏）

**eラーニングのことなら
何でもサポートします。**

eラーニングとはコンピュータやネットワークを使った学修形態です。学生のみならず自宅や大学のパソコン端末からWeb上の教材にアクセスし、自己学修に活用することができます。現在徳島大学では複数のeラーニングシステムが稼働しています。eラーニングサポート室は学生や教員が、快適にeラーニングを利用できるようサポートします。

授業用教材 **自学自習用教材**

動画配信 INFOSS 情報管理

TOEIC

詳しくは裏面へ

サイト <http://uls01.ulc.tokushima-u.ac.jp/info/>
徳島大学学務部教育支援課 eラーニングサポート室

常三島キャンパス
共通講義棟 3F(渡り廊下内) 平日 9時~17時
電話：088-656-7102 (内線4001)
お問い合わせ：els.support@tokushima-u.ac.jp

eラーニングサポート室の案内チラシ（表）【徳島大学】

徳島大学学務部教育支援課 eラーニングサポート室

サイト <http://uls01.ulc.tokushima-u.ac.jp/info/>

おすすめのeラーニングを紹介！

学修成果を管理できるのはココ！

対面授業で使うのはココ！
(詳しくは授業担当教員から説明があります)

***Maharaって何？**
学修記録のことで、作成したレポートや資料などを自分で記録し、学修の成果を振り返ることができます！

***MOOCって何？**
大規模無料オンライン授業のことで、世界中の様々な大学の授業を手軽に受講できます！(単位は付与されません)

フルオンライン(eラーニングだけの授業)で単位が取れる科目はココ！

***知ブラって何？**
四国の国立大学が相互に連携して教育や研究を行うプロジェクトで、西国内の他大学の授業を手軽に履修できます！(単位が付与されます)

困ったときはココにメール → els.support@tokushima-u.ac.jp

eラーニングサポート室の案内チラシ（裏）【徳島大学】

学部（1,2年次）学生の皆様へ

平成 28 年 4 月 1 日

「四国地区 5 国立大学連携による共同実施科目」の受講説明会

ご案内
(平成 28 年度)

四国の国立 5 大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完し e-Learning 基盤を活用して連携大学全体の教育の質の向上を図ることを目的に事業（知プラ e 事業）が進められています。

知プラ e 事業において提供される「四国地区 5 国立大学連携による共同実施科目」を知プラ e 科目と呼びます。これにより、鳴門教育大学の学生は、他の 4 大学から提供される知プラ e 科目を履修することができます。平成 28 年度前期学期は、3 科目（香川大学開設科目）が提供されます。授業そのものは学習システム上で実施されます。つきましては、この学習システムの使用方法について説明会を開催します。説明を希望される学生の皆さんはふるってご参加くださいますようお願いいたします。

記

日時：平成 28 年 4 月 20 日（水）14 時 40 分～16 時 10 分
場所：情報基盤センター 2F 教育用端末室

- 内容：
1. 履修登録方法
 2. 授業の受け方
 3. Moodle の使い方の説明

以上

問い合わせ先

鳴門教育大学地域連携センター内 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
鳴門教育大学分室
Mail: e-learning@naruto-u.ac.jp TEL: 088-687-6482

受講説明会開催案内チラシ【鳴門教育大学】

後期 続々登場!! まずはエントリー!!

e-Learning 科目

(主観科目・学際基礎科目)

どれ受けようかな?

履修希望者の方へ

後期・e-Learning 科目 [知プラ科目] の履修について

- 受講方法等の事前説明会は開催しません。各自で下記のホームページにアクセスして履修案内等を確認してください。
- 通常の授業とは履修方法が異なります。まずは、インターネット上での受講エントリーが必要。下記の受講エントリー期間中に必ずエントリーをしてください。
- 詳細については、修学支援グループの窓口パンフレットを置いていますのでご利用ください。

受講エントリー期間 平成 28 年 9 月 30 日 (金) ~ 10 月 6 日 (木) 正午

「知プラ e 科目」情報

<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/subject.html>

担当窓口：修学支援グループ
(幸町北キャンパス 研究交流棟 1 階)
Tel: 087-832-1365
✉ syugaku4@jimao.kagawa-u.ac.jp



「四国学」情報

<http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/courses/>

担当窓口：e-Learning 相談室
(幸町南キャンパス 幸町南 5 号館 2 階)
Tel: 087-832-1299
✉ relask@cc.kagawa-u.ac.jp



知プラ e 知プラ e 検索

ek4 ek4 検索

e-Learning 科目周知用チラシ【香川大学】

受講方法

- 1 「香川大学 学内向け 履修案内」ページの「5. 受講開始」へ進む
- 2 受講科目の「授業受講」をクリック

 → 科目を提供している大学の e-Learning システム (LMS) にアクセスします
- 3 各ページの「ログイン」をクリック

 ※大学によって画面が異なります

 ユーザー名及びパスワードを入力してログインをクリック
- 4 各科目を選択して授業を受講する

5

問い合わせ先

Moodle の操作や登録について
 e-Learning 相談室 (幸町南 5 号館 2 階)
 E-mail: elask@cc.kagawa-u.ac.jp
 Tel: 087-832-1299 (平日 9:00 ~ 16:00)

科目の履修について
 修学支援グループ (研究交流棟 1 階)
 E-mail: chipla_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp
 Tel: 087-832-1365 (平日 8:30 ~ 17:15)

知プラ e ホームページ
 知プラ e 検索
<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp>

eK4 ホームページ
 eK4 検索
<http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp>

FAQ

よくある質問をまとめましたので、FAQ をご覧ください。
<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/faq.html>

H28 版

(全学共通科目) e-Learning 目的の受講方法

全学共通科目 e-Learning 科目は、四国国立 5 大学の連携事業により、他大学 e-Learning システムにアクセスして他大学の教員が担当する授業を受講できます。また、すべての授業 (小テストやレポートも含む) と期末試験がインターネットを利用した e-Learning により実施され、受講方法 (履修手続きを含む) が対面授業とは異なります。以下の 履修方法に従って手続きを開始してください。

※開講される科目は大学連携 e-Learning 教育支援センター四国のホームページ (知プラ e) で検索し、及び「全学共通科目履修案内」98 ページの「学内向け履修案内」をご覧ください。
 ※実際の e-Learning (リンク先) の各履修方法が異なりますのでご注意ください。

受講までの流れ

- STEP 1 受講エントリー
 受講エントリーシステムで希望科目を登録してください。
 ※登録期間: 平成 28 年 9 月 30 日 (金) ~ 10 月 6 日 (木) 正午
- STEP 2 抽選結果確認
 抽選結果を研究交流棟 創研 6 号館 6 階で確認し、履修決定者はコース登録キーをメモしてください。
 コース登録キーは「STEP 4. コース登録」で必要です。
- STEP 3 履修登録確認
 教務システム (Dream Campus) に登録されているか確認してください。
- STEP 4 コース登録
 受講する科目を提供している大学の e-Learning システム (LMS) にアクセスしてコース登録 (受講登録) を行ってください。
 ※登録期間: 科目ごとに異なるのでご注意ください。
- STEP 5 受講開始
 e-Learning システム (LMS) にアクセスして授業を受講してください。

1

e-Learning 科目の受講方法 (表) 【香川大学】

アクセス手順

「知プラ e」で検索し「大学連携 e-Learning 教育支援センター四国」ホームページ ▶ 「知プラ e 科目 受講者・受講希望者はコチラ」▶ 「香川大学の学生」▶ 「香川大学学生向け履修案内」

←「大学連携 e-Learning 教育支援センター四国」トップ画面

- 1 「香川大学 学内向け 履修案内」ページの「1. 受講エントリー」へ進む
- 2 ログイン

 ユーザー名「学籍番号」(半角英数字) / パスワード「組合員証用パスワード」(半角英数字)

2

プロフィール登録

※初めてのログイン時のみ必要 (登録済みの方は「3. 受講エントリー」へ)

登録したメールアドレス (番大 Gmail) に届く登録確認メールに記載されている URL にアクセスする。

変換したメールに記載された URL をクリック

受講エントリー

2016年度後期 白国学「白」の自然環境と防災 (香川大学 提供科目)

2016年度後期 四国学「四」の自然環境と防災 (香川大学 提供科目)

2016年度後期 四国学「四」の自然環境と防災 (香川大学 提供科目) エントリー完了画面

複数の科目に受講エントリーする場合は、「Home」画面に戻り科目選択を同様の手続きを行う。

3

コース登録手順

- 1 「香川大学 学内向け 履修案内」ページの「4. コース登録」へ進む
- 2 受講科目の「コース登録」をクリック

 → 科目を提供している大学の e-Learning システム (LMS) にアクセスします
- 3 各ページの「ログイン」をクリック

 ※大学によって画面が異なります

 ユーザー名及びパスワードを入力してログインをクリック
- 4 各大学のマニュアルに従って登録をすすめる

4

e-Learning 科目の受講方法 (裏) 【香川大学】

eラーニングとはコンピュータやネットワークを使った学習形態です。学生のみならず、自他大学のパソコン端末からWeb上の教材にアクセスし、自由学習に活用することができます。現在徳島大学では複数のeラーニングシステムが稼働しています。eラーニングサポート室は学生や教員が、快適にeラーニングを利用できるようサポートします。

授業用教材 **自学自習用教材**

サイト <http://uls01.ulc.tokushima-u.ac.jp/info/>

徳島大学 eラーニングサポート室

常三島キャンパス
教養教育6号館2F 平日9時～17時
電話：088-656-7102 (内線4001)
お問い合わせ：els.support@tokushima-u.ac.jp

eラーニングサポート室の案内チラシ（表）【徳島大学】

徳島大学 eラーニングサポート室

サイト <http://uls01.ulc.tokushima-u.ac.jp/info/>

おすすめのeラーニングを紹介！

学修成果を管理できるのはココ！

対面授業で使うのはココ！

いつでもどこでも、自己学習に使えるコンテンツはココ！

フルオンライン (eラーニングだけの授業) で単位が取れる科目はココ！

★Maharaって何？
学修記録のことで、作成したレポートや資料などを自分で記録し、学修の成果を振り返ることができます！

★MOOCって何？
大規模無料オンライン授業のことで、世界中の様々な大学の授業を手軽に受講できます！ (単位は付与されません)

★フルブラって何？
四国の国立5大学が相互に連携して教育や研究を行うプロジェクトで、西国内の他大学の授業を手帳に履修できます！ (単位は付与されます)

困ったときはココにメール → els.support@tokushima-u.ac.jp

eラーニングサポート室の案内チラシ（裏）【徳島大学】

平成 29 年 4 月 13 日

学部（1,2 年次）学生の皆様へ

「四国地区 5 国立大学連携による共同実施科目」の受講説明会

ご案内
(平成 29 年度)

四国の国立 5 大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完し e-Learning 基盤を活用して連携大学全体の教育の質の向上を図ることを目的に事業（知プラ e 事業）が進められています。

知プラ e 事業において提供される「四国地区 5 国立大学連携による共同実施科目」を知プラ e 科目と呼びます。これにより、鳴門教育大学の学生は、他の 4 大学から提供される知プラ e 科目を履修することができます。授業そのものは学習システム上で実施されます。つきましては、この学習システムの使用方法について説明会を開催します。説明を希望される学生の皆さんはふるってご参加くださいますようお願いいたします。

記

日時：平成 29 年 4 月 19 日（水）14 時 40 分～16 時 10 分

場所：情報基盤センター 2F 教育用端末室

内容：

1. インターネットによる授業の受け方

以上

問い合わせ先

鳴門教育大学地域連携センター内 大学連携 e-Learning 教育支援センター 四国
鳴門教育大学分室
Mail:e-learning@naruto-u.ac.jp TEL:088-687-6482

受講説明会開催案内チラシ【鳴門教育大学】

受講方法

- 1 「香川大学 学生向け」 履修案内」ページの「5. 受講開始」へ進む
- 2 受講科目の「授業受講」をクリック

→ 科目を提供している大学の e-Learning システム (LMS) にアクセスします
- 3 各ページの「ログイン」をクリック
- 4 各科目を選択して授業を受講する

5

FAQ

特によくある質問

- Q CAP 制(履修上限数)に e-Learning 科目は含まれる？
- A 学部によって取扱いが異なるため、所属学部の学務係に問い合わせてください。
- Q Moodle のプロフィール情報登録をして科目名を選択したが、またプロフィール入力画面に戻ってしまう。
- A プロフィール情報登録の認証手続きが最後まで完了していない可能性があります。プロフィール設定で登録したメールアドレスに認証 URL が送られるので、その URL をクリックし、手続きを完了させてください。
- Q スマートフォンで e-Learning 科目を受講しても良い？
- A 受講はパソコンで行うことをおすすめします。使っているスマートフォンで視聴ができるのであれば、無料閲覧とコンテンツ視聴はスマートフォンを利用していただいても構いませんが、課題提出がある科目もありますので、その場合は PC ルーム等を利用していただき、受講を進めて下さい。

その他のよくある質問については、下記 FAQ をご覧ください。

<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/faq.html>

問い合わせ先

- Moodle の操作や登録について
e-Learning 相談室 (幸町南 5 号館 2 階)
E-mail: eask@cc.kagawa-u.ac.jp
Tel: 087-832-1299 (平日 9:00 ~ 16:00)
- 科目の履修について
修学支援グループ (研究交流棟 1 階)
E-mail: chipla_e_linfo@cc.kagawa-u.ac.jp
Tel: 087-832-1365 (平日 8:30 ~ 17:15)

知プラ e ホームページ <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp>

(e-Learning) 知プラ e 科目の受講方法

知プラ e 科目 (e-Learning 科目) ※はすべての授業 (小テストやレポートも含む) と期末試験がインターネットを利用した e-Learning により実施されます。受講方法が対面授業とは異なりますので、以下の手順に従って手続きを開始してください。

※英語の e-Learning (リンクがボイタ)等は、履修方法が異なりますのでご注意ください。

受講までの流れ

- STEP 1 履修登録
香川大学 教務システム (Dream Campus) へ履修希望科目を登録してください。
授業開始前の履修登録期間に履修登録を行ってください。(通常の対面授業の科目と同じです。) なお、知プラ e 科目は時間割表の下にある「集中・時間外等」に表示されます。
- STEP 2 履修登録状況確認
登録した履修希望科目が登録されたかどうかを香川大学教務システム (Dream Campus) で確認してください。履修希望者過多で抽選が行われた場合は、抽選結果が表示されます。
※履修登録予約日時の 9 時から教務システム (Dream Campus) で公開されます。
- STEP 3 コース登録キー確認
LMS のコース登録キーが研究交流棟東側掲示板に提示されますので、履修登録された科目のコース登録キーをメモしてください。
※コース登録キーは「STEP4 コース登録」が必要です。
- STEP 4 コース登録
受講する科目を提供している大学の e-Learning システム (LMS) にアクセスして、コース登録 (受講登録) を行ってください。
※登録期間: 科目ごとに異なるのでご注意ください。
- STEP 5 受講開始
e-Learning システム (LMS) にアクセスして授業を受講してください。

知プラ e 科目の受講方法 (表) 【香川大学】

アクセス手順

「知プラ e」で検索 ▶ 「大学連携 e-Learning 教育支援センター西四」ホームページ ▶ 「知プラ e 科目 受講者・受講希望者はコチラ」 ▶ 「香川大学の学生」 ▶ 「香川大学学生向け履修案内」

- 1 「香川大学 学生向け」 履修案内」ページの「1. 履修登録」へ進む
- 2 履修希望の科目を登録する

知プラ e 科目は時間割表の下にある「集中・時間外等」に表示されます。
- 3 履修登録予約日に、希望した科目の登録状況を DreamCampus で確認する

2

コース登録手順

- 1 「香川大学 学生向け」 履修案内」ページの「4. コース登録」へ進む
- 2 受講科目の「コース登録」をクリック

→ 科目を提供している大学の e-Learning システム (LMS) にアクセスします
- 3 各ページの「ログイン」をクリック
- 4 各大学のマニュアルに従って登録をすすめる

- 5 (初めての方のみ) プロフィール情報登録
それぞれの Moodle に初めてログインした時、プロフィール情報登録画面が出ます。登録済みの方は、⑥ に進んで下さい。

※香川大学 Moodle の場合※

① 必須項目に個人情報を入力する

② 登録したメールアドレス (香川大学 Gmail) に届く登録確認メールに記載されている URL にアクセスする

③ 受講する科目のコース登録キーを入力

4

知プラ e 科目の受講方法 (裏) 【香川大学】

知プラ e 科目の履修案内【愛媛大学】



知プラ e 科目の履修案内(平成 29 年度後学期)

5 大学連携による知プラ e 科目(e ラーニング開講科目)を、愛媛大学の学生が履修するための手続き等について説明します。

■ 知プラ e 科目について

四国の国立 5 大学(香川大学、徳島大学、鳴門教育大学、愛媛大学、高知大学)が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野・e-Learning 基盤を活用して共有・補完するという事業(知プラ e 事業)が進められています。

知プラ e 事業で提供される e-Learning 科目を知プラ e 科目と呼びます。これにより、愛媛大学の学生は、他の 4 大学から提供される知プラ e 科目を H27 年度以前入学生は主修研究科目として、H28 年度入学生は高年次教養科目として履修することができます。※H29 年度入学生は履修できません。

平成 29 年度後学期は、鳴門教育大学、香川大学、高知大学、徳島大学、愛媛大学から計 26 科目が提供されます。

■ 知プラ e 科目の受講方法等について

1. 授業科目 (※履修者数を制限している科目があります。)

提供大学	開講学期	科目名(科目番号) 「講義題目」担当者	単位数	履修者数制限	
徳島大学	後学期	・歴史を考える(20505) ・文系主修科目(20756)	2	20名	
	後学期	「日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 - 四国の収容所を中心に」井戸重治 ・地域と世界(20506) ・文系主修科目(20755)	2	30名	
	後学期	「モリスの徳島-グローバル化と異邦人-」宮崎隆義 ・倫理と思想を考える(20504) ・理系主修科目(20762)	2	20名	
	後学期	「現代科学と研究倫理」金西計英 ・現代と科学技術(20513) ・文系主修科目(20754)	2	20名	
	後学期	「知の探訪」金西計英 ・現代社会の諸問題(20508) ・文系主修科目(20757)	2	20名	
	後学期	「大学の知の活用」織田聡 ・現代社会の諸問題(20509) ・文系主修科目(20758)	2	10名	
	後学期	「大学教育を考える」吉田博 ・現代社会の諸問題(20510) ・文系主修科目(20759)	2	20名	
	後学期	「行動統計学入門」川野卓二			
				1	
					2

鳴門教育大学	後学期	・社会のしくみを考える(20507) ・文系主修科目(20760) 「学校教員の世界」竹口幸志 ほか	2	無し
	第 4Q	・現代と科学技術(D0558) ・理系主修科目(D0761) 「自動車概論」宮下晃一	1	無し
香川大学	後学期	・現代と科学技術(20512) ・理系主修科目(20761) 「情報のいろは」林敬浩 ほか	2	無し
	第 3Q	・社会のしくみを考える(C0554) ・文系主修科目(C0753) 「地域コンテンツと知財管理 その 1」林敬浩 ほか ※「地域コンテンツと知財管理(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません。 ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「地域コンテンツと知財管理 その 1」の重複履修はできません。	1	50名
	第 4Q	・社会のしくみを考える(D0554) ・文系主修科目(D0753) 「地域コンテンツと知財管理 その 2」林敬浩 ほか ※「地域コンテンツと知財管理(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません。 ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「地域コンテンツと知財管理 その 1」の重複履修はできません。	1	50名
	第 3Q	・地域と世界(C0551) ・文系主修科目(C0754) 「香川を学ぶ その 1」藤本憲志 ほか ※「香川を学ぶ(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「香川を学ぶ その 1」の重複履修はできません。	1	50名
	第 4Q	・地域と世界(D0551) ・文系主修科目(D0754) 「香川を学ぶ その 2」藤本憲志 ほか ※「香川を学ぶ(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「香川を学ぶ その 1」との重複履修はできません。	1	50名
	第 3Q	・地域と世界(C0552) ・文系主修科目(C0755) 「瀬戸内地域活性化政策 その 1」清園祐二 ※「瀬戸内地域活性化政策(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「瀬戸内地域活性化政策 その 1」の重複履修はできません。	1	10名
第 4Q	・地域と世界(D0552) ・文系主修科目(D0755) 「瀬戸内地域活性化政策 その 2」清園祐二 ※「瀬戸内地域活性化政策(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「瀬戸内地域活性化政策 その 1」の重複履修はできません。	1	10名	

香川大学	第 3Q	・現代と科学技術(C0555) ・理系主修科目(C0758) 「四国の自然環境と防災 その 1」寺尾康 ほか ※「e14 科目 四国の自然環境と防災(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません。 ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「四国の自然環境と防災 その 1」の重複履修はできません。	1	50名
	第 4Q	・現代と科学技術(D0555) ・理系主修科目(D0758) 「四国の自然環境と防災 その 2」寺尾康 ほか ※「e14 科目 四国の自然環境と防災(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません。 ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「四国の自然環境と防災 その 1」の重複履修はできません。	1	50名
	第 3Q	・地域と世界(C0553) ・文系主修科目(C0756) 「四国の地域振興 その 1」林敬浩 ほか ※「e14 科目 四国の地域振興(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません。 ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「四国の地域振興 その 1」の重複履修はできません。	1	無し
	第 4Q	・地域と世界(D0553) ・文系主修科目(D0756) 「四国の地域振興 その 2」林敬浩 ほか ※「e14 科目 四国の地域振興(2 単位科目)」の単位取得者は履修できません。 ※H27 以前入学生(3 回生以上の学生)は、「四国の地域振興 その 1」の重複履修はできません。	1	無し
愛媛大学	後学期	・生命の不思議(20515) ・理系主修科目(20763) 「タンパク質で生命を断る」坪井敬文 ほか	2	30名
	後学期	・歴史を考える(C0550) ・文系主修科目(C0757) 「ユラシカ大陸における人と金属生産の関わり」村上恭通	1	30名
	後学期	・現代社会の諸問題(20511) ・理系主修科目(20764) 「大学生のための『安全・安心』の基礎講座」田中寿郎	2	無し
	後学期	・現代と科学技術(C0556) ・理系主修科目(C0759) 「太陽光利用型植物工場における知能農作物生産」 高山弘太郎 ほか	1	30名
	後学期	・現代と科学技術(C0557) ・理系主修科目(C0760) 「飛行機はなぜ飛ぶのか」岩本幸治	1	30名
高知大学	後学期	・現代と科学技術(20514) ・理系主修科目(20765) 「サイエンスリテラシーの化学」立川明	2	10名

2. 履修期間
履修する授業科目の開講期間とします。

3. 履修手続

- ① 修学支援システムで登録します。
後学期登録期間：平成 29 年 9 月 19 日(火)～9 月 24 日(日)
② 抽選結果の確認
履修者数の制限のある科目で、履修登録者数が履修者数制限を上回った場合は修学支援システムによる抽選を行います。抽選日は 9 月 25 日(月)です。9 月 24 日(日)までに履修登録をしないと抽選に関わらないのご注意ください。9 月 26 日(火)に修学支援システムで抽選結果を必ず確認してください。
- ③ Moodle に受講登録
【大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 HP】へ行きます。
URL: <http://chipla-e.lc.kagawa-u.ac.jp/subject.html>
2017 年度後学期開講科目一覧から、【愛媛大学の学生】をクリックします。

履修申請した科目を開講している大学の Moodle へ行きます。
【授業受講】をクリックします。

徳島大学	後学期 ・現代社会の発展 (D0510) ・化学基礎科目 (D0759) 「行動科学入門」 11月開講	2	20名	専門教育大学Moodle 授業受講 B コース登録マニュアル (専門教育大学) Moodleマニュアル (専門教育大学)
	後学期 ・社会のしくみや発達 (D0507) ・化学基礎科目 (D0759) 「学芸専攻(2029)」 11月開講	2	無し	
	後学期 ・現代と科学技術 (D0555) ・化学基礎科目 (D0759) 「自然環境論」 11月開講	1	無し	
専門教育大学	後学期 ・現代と科学技術 (D0555) ・化学基礎科目 (D0759) 「自然環境論」 11月開講	2	無し	高知大学Moodle 授業受講 D コース登録マニュアル (高知大学) Moodleマニュアル (高知大学)
	後学期 ・現代と科学技術 (D0555) ・化学基礎科目 (D0759) 「自然環境論」 11月開講	2	無し	
	後学期 ・現代と科学技術 (D0555) ・化学基礎科目 (D0759) 「自然環境論」 11月開講	2	無し	

5

各大学 Moodle ログイン画面



※通常使用している愛媛大学 Moodleとは異なりますので、注意してください。
各大学の Moodle にログインしたら、履修登録した科目を検索し、登録キーで科目を登録します。
登録キーについては、共通教育チームから修学支援システムでお知らせします。

- ④受講
受講に際しては、授業担当教員の指示に従ってください。

6

A 徳島大学の Moodle へ

徳島大学の場合、下記のような画面になりますので、上段「学生・教職員の皆さんの入り口」をクリックします。

愛媛大学を選択します。

愛媛大学の学生 ID とパスワードを入力してください。(愛媛大学 Moodle ログインと同じ ID)

「知プラ提供による e ラーニング科目」をクリックしてください。

7

B 専門教育大学の Moodle へ

専門教育大学の場合、まず下記のような画面になりますので、右上の「ログイン」をクリックしてください。

<<< 専門教育大学シングルサインオン ログイン認証 >>>をクリックしてください。

愛媛大学を選択します。

愛媛大学の学生 ID とパスワードを入力してください。(愛媛大学 Moodle ログインと同じ ID)

「コース一覧」より履修した科目のコース名をクリックします。

※画面は有変異になる場合があります

8

C 香川大学の Moodle へ

香川大学の Moodle へアクセスする手順は、下記のようになります。まず「香川大学以外の大学の利用者はこちらからアクセスしてください」をクリックします。

愛媛大学を選択します。

愛媛大学の学生 ID とパスワードを入力してください。(愛媛大学 Moodle ログインと同じ ID)

「コースカテゴリ」より、該当のカテゴリを選択します。

以下のプロフィール情報登録画面が表示された場合は、赤枠部分の7か所を入力してください。

姓: 苗字をアルファベットで入力
(例: 香川花子という名前なら 'Kagawa')

名: 名前をアルファベットで入力
(例: 香川花子という名前なら 'Hanako')

メールアドレス: 電子メールアドレスを入力
(PC アドレスの形式)

都道府県: 現在住んでいる都道府県を入力(例: '香川県')

国を選択する: 日本 (Japan) を選択(下から 4 つ目にあります)

大学: 所属している大学を入力(例: '香川大学')

学籍番号又は学生番号: 愛媛大学の学生は学生証番号
学籍番号を入力(例: 41234567)を入力

9

D 高知大学の Moodle へ

高知大学の Moodle へアクセスする手順は、下記のようになります。まず「ログイン」をクリックしてください。

「利用者ログイン」をクリックしてください。

愛媛大学を選択します。

愛媛大学の学生 ID とパスワードを入力してください。(愛媛大学 Moodle ログインと同じ ID)

「コース一覧」より選択した科目のコースをクリックします。

10

4. 授業の実施方法

- ① [大学連携 e-Learning 教育支援センター(四国 HP)]の科目一覧から履修登録した科目のコースにアクセスして学習を進めます。提供大学(鳴門教育大学、香川大学、高知大学、徳島大学)の Moodle で実施されます。(※愛媛大学 Moodle ではありませんので、注意してください。)
- ② 履修期間内に、各科目に締切が指定されている場合は、それに従って学習してください。
- ③ 教員への質問はシラバスに記載されている指示に従ってください。科目コース内のフォーラム(電子掲示板)やメールで受け付けていることが多いです。分からないことがあれば、放置せず積極的に教員へ質問をしましょう。

5. 試験の実施方法

試験の取扱い及び追試験の実施等は、各授業担当教員の指示に従ってください。また、やむを得ない事情により、試験が受けられなかった場合は、共通教育チームへ問い合わせてください。

6. 成績評価

各科目のシラバスで詳細を確認してください。

7. 問い合わせ先

★科目の内容・Moodle の操作方法について★
各科目のシラバスもしくは各コースから確認してください

★その他の問い合わせ先★

愛媛大学 総合情報メディアセンター事務課内
大学連携 e-Learning 教育支援センター(四国愛媛大学分室)
Mail: chpula-e@stu.ehime-u.ac.jp TEL: 089-927-8878

■知プラ e 科目履修案内(高知大学学生用) (2018.3.20 更新)

以下、知プラ e 開講科目を高知大学の学生が履修するための手続き等について説明します。

1 履修手続の流れ

(1) 履修登録・抽選結果通知 (高知大学内)

知プラ e 科目も通常の科目と同様に、教務情報システム KULAS で履修登録を行います。抽選を行う場合があります。KULAS 上の履修登録後の抽選結果を確認してください。

(2) 登録方法の通知 (履修登録した科目 (コース) を提供している各大学の moodle)

知プラ e 科目の履修には、科目の提供大学の moodle (e ラーニングシステム) を利用します。履修登録を行った学生には、各大学の moodle へのログイン及び各科目へのコース登録方法を、教務情報システム KULAS の講義連絡により通知します。

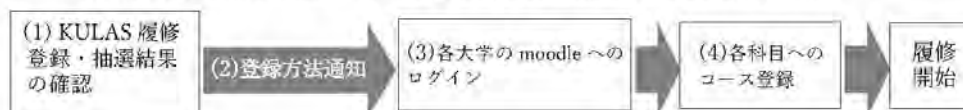
(3) 各大学の moodle へのログイン

(2)の通知に従い、科目の提供大学の moodle にログインします。各大学の moodle には、本学の全学認証 ID によりログインすることができます。

(4) 各科目へのコース登録

知プラ e 科目の履修では、履修登録だけでなく、各科目へのコース登録を行う必要があります。各科目への登録期限は、大学により異なります。(2)の通知内容をよく確認し、期限内に必ず登録してください。

※高知大学開講科目については、コース登録が不要な場合があります。受講する科目のコース内に入ることができれば、コース登録不要で履修を開始することができます。



2 授業の実施方法

(1)各科目のコースにアクセスして学習します (アクセス先は履修登録後に通知される URL を確認してください)。インターネットが利用でき、学習できる場所であれば、どこでも受講できます (非同期・遠隔)。受講に際しては、授業担当教員の指示に従ってください。

(2)履修期間内に、各科目で指定された受講方法に従って学習してください。履修期間終了後も学習することはできませんが、成績評価や単位認定には反映されません。

(3)成績評価及び単位認定については、各科目のシラバスを確認してください。

(4)教員への質問は、授業担当教員の指示に従ってください。科目コース内のフォーラム (電子掲示板) やメールで受け付けていることが多いようです。わからないことがあれば積極的にどんどん質問をしましょう。(アドバイス: 学習内容の他、学習方法などについても、どんどん積極的に質問をするのが、e ラーニング完走の秘訣です。)

※授業担当教員からの連絡は、学籍番号@s.kochi-u.ac.jp に送信されます。メールの確認は、毎日行うようにしてください。

3 試験の実施方法

受験の取扱い及び追試験の実施等は、各授業担当教員の指示に従ってください。

なお、高知大学では病気・事故等やむを得ない理由により試験が受けられなかった場合に、追試験を認めることがあります。詳細については、高知大学学務課総務係へ問い合わせてください。

4 単位認定

高知大学の評価基準に基づき高知大学の授業科目の履修単位として認定されます。

5 問合せ先

(高知大学 moodle/履修方法等について)

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 高知大学分室 (担当: 学務課総務係)

(Tel) 088-844-8652 (E-mail) elmanabi@kochi-u.ac.jp

2-4-3 学会発表等

平成 26 年度

	発表題目	代表著者 (全著者名を記載していただいても構いません)	発表学会(誌)名	開催年月 又は発行年月
1	【招待講演】四国における大学連携eラーニング事業の紹介	村井礼	情報処理学会	平成26年8月

平成 27 年度

	発表題目	代表著者 (全著者名を記載していただいても構いません)	発表学会(誌)名	開催年月 又は発行年月
1	四国国立5 大学における共通シラバスと履修プロセスの開発	吉田明恵・仲道雅輝・根本淳子・田中寿郎・林敏浩・村井礼・金西計英・宮下晃一・立川明	教育システム情報学会	平成27年9月
2	四国地区5国立大学連携におけるe-Learning 教育を円滑運営するための著作権処理の提案	村井礼・金西計英・高橋暁子・竹口幸志・田中寿郎・根本淳子・仲道雅輝・三好康夫・林敏浩	教育システム情報学会	平成27年9月
3	四国地区5国立大学間のeラーニングコンテンツと第三者著作物への利用許諾に関する考察	吉田明恵・陣内恭子・根本淳子・田中寿郎・村井礼・林敏浩	日本教育工学会研究報告集	平成28年3月
4	大学連携 e-Learning における履修者抽選システムの提案	藤本 憲市	教育システム情報学会	平成27年9月
5	高知大学における LMS 運用方針の検討と管理者用ツールの開発	三好 康夫	教育システム情報学会	平成27年9月
6	大学間連携におけるオンライン教材開発支援のための相互レビューシートの試作	根本 淳子	情報処理学会	平成27年12月

	発表題目	代表著者 (全著者名を記載していた だいても構いません)	発表学会(誌)名	開催年月 又は発行年月
1	知財教育における問題の類型化と学力評価に関する実践報告	村井礼	日本知財学会	平成28年6月
2	e-Learning コンテンツにおける第三者著作物の著作権処理	吉田明恵	日本知財学会	平成28年6月
3	四国地区5国立大学連携によるe-Learning基盤を活用した大学教育の共同実施	高橋暁子	教育システム情報学会	平成28年7月
4	大学連携 e-Learning におけるサーバおよびネットワーク負荷にかかる実践報告	村井礼	教育システム情報学会	平成28年8月
5	A Study of Estimation of Learners' Understanding on Intellectual Property using Categorized Questions	村井礼	International Journal of Computing, Communication and Instrumentation Engineering	平成28年7月
6	Drawing System of Students for Inter-University Course with Limited Number of Enrollments	藤本憲市	International Journal of Computing, Communication and Instrumentation Engineering	平成28年7月
7	大学連携 e-Learning 科目のための履修者決定支援システムの提案	藤本憲市	教育システム情報学会	平成28年8月
8	大学連携 e-Learning における著作権処理の支援に向けた取組	吉田明恵	教育システム情報学会	平成28年8月
9	大学連携によるeラーニングの質保証ガイドラインに準拠したチェックシートの試作	竹岡篤永 根本淳子 吉田明恵 高橋暁子	情報処理学会 教育学習支援情報システム(CLE)研究会 第20回研究発表会	平成28年11月
10	大学間連携におけるオンライン教材開発支援のためのガイドブックの試作	高橋暁子 根本淳子 竹岡篤永	日本教育工学会	平成28年12月
11	学生にとって初めてのフルオンライン型ラーニング科目の履修動向と学習継続支援:実践からの一考察	根本淳子	大学教育実践ジャーナル第15号	平成29年3月
12	大学連携e-Learningにおける著作権処理の体系化に向けた事例ベースの構築	吉田明恵・根本淳子・田中寿郎・藤本憲市・村井礼・林敏浩	情報処理学会 教育学習支援情報システム(CLE)研究会 第21回研究発表会	平成29年3月
13	大学間連携システム	松浦健二・林敏浩	eラーニング/eテストング(教育工学選書II)	平成28年6月

	発表題目	代表著者 (全著者名を記載していた だいても構いません)	発表学会(誌)名	開催年月 又は発行年月
1	大学連携におけるeラーニング教材質保証システムの構築を目指したアジャイル指向アプローチの提案	根本 淳子 高橋 暁子 竹岡 篤永	コンピュータ&エデュケーション	平成29年6月
2	eラーニングコンテンツにおける著作権処理—四国地区5国立大学間としての取組みと実践報告—	吉田明恵	広島大学ICT活用教育研究会 第17回eラーニングと著作権	平成29年6月
3	インターネットを活用した能動的学習の評価	竹口幸志	日本産業技術教育学会 第60回全国大会	平成29年8月
4	大学連携におけるオンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートを用いたコース評価:一大学を例に	高橋暁子 金西計英 根本淳子 竹岡篤永	情報処理学会 教育学習支援情報システム(CLE)研究会 第23回研究発表会	平成29年12月
5	非同期型e-Learning授業の著作権処理に対する組織的な取り組み	吉田明恵 根本淳子 田中寿郎 藤本憲市 林敏浩 村井礼	日本知財学会	平成29年12月
6	大学連携eラーニングにおける認証連携方式の変更に伴う移行方法について	後藤田 中 裏 和宏 藤本 憲市 林 敏浩	教育システム情報学会 第42回全国大会	平成29年8月
7	大学連携eラーニングの共同実施におけるシステムトラブル対応について	裏 和宏 藤本 憲市 後藤田 中 林 敏浩	教育システム情報学会 第42回全国大会	平成29年8月

3. 本プロジェクトの成果

3-1 四国5大学型 e-Learning 共同教育実施モデルの完成と運用

[1] はじめに

四国5大学型 e-Learning 共同教育実施モデル（以降、「共同実施モデル」とよぶ。）とは、従来の単位互換制度を用いず、連携大学で同一科目を開講し、科目担当教員を非常勤講師として一括任用する枠組みで、授業を共同実施するものである（図 3.1.1）。共同実施モデルの採用により、学生は所属大学で開講される通常の科目とほぼ同じ方法・日程で、他大学の科目の履修登録や成績確認ができるようになった。

本プロジェクトでは、共同教育実施モデル検討WGを中心に、教育実施体制の異なる大学間で共同実施モデルを用いた場合に起こりうる様々な問題を乗り越えて、円滑に行う方策を策定することを目指し、実践を積み重ねてきた。本節では、完成した共同実施モデルの詳細について整理する。

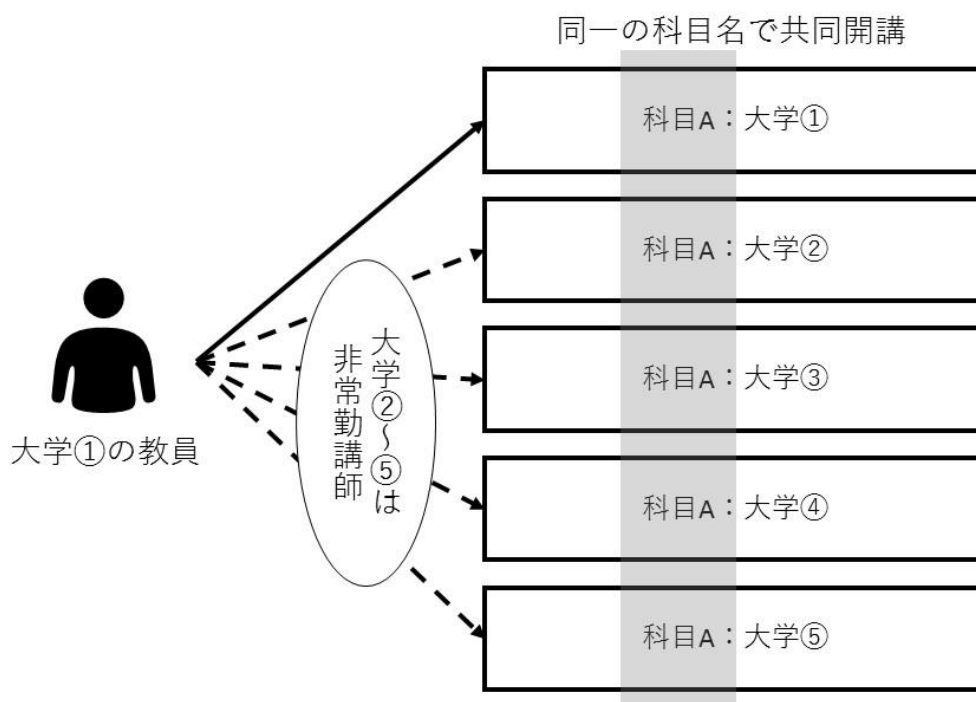


図 3.1.1 四国5大学型 e-Learning 共同教育実施モデル
(参考文献1)の図1より引用)

[2] 申し合わせ

はじめに、共同実施モデルを実現するにあたり、連携大学間で図 3.1.2 の内容で申し合わせた。これにより、連携大学で同一科目を開講し、科目担当教員を非常勤講師として一括任用することが可能となった。本申し合わせは平成 26 年 9 月 4 日から施行され、実際には平成 27 年度開講科目から共同実施モデルに基づく授業の共同実施が始まった。

四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ
(平成 26 年 9 月 4 日四国国立大学協議会決定)

四国地区 5 国立大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）は、四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施を円滑に行うため、下記のとおり申し合わせる。

記

1. 平成 27 年度以降の本事業で提供する e-Learning 科目については、5 大学において同一の科目名で共同開講し、各大学の様式でシラバスを作成するものとする。
2. 本事業で提供する e-Learning 科目を 5 大学いずれかの常勤教員が担当する場合、他の 4 大学では非常勤講師発令のための資格審査手続きを省略するものとする

附則 この申合せは、平成 26 年 9 月 4 日から施行する。

図 3.1.2 四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ
(参考文献 2) の 3.1. より引用)

[3] e-Learning 授業実施プロセス：開講審議から成績判定まで

本プロジェクトで提供する e-Learning 科目が共同実施科目として開講され、実際に学生が履修し、成績判定されるまでのプロセスの全体像を図 3.1.3 に示す。大まかな流れとしては、開講前年度に (1) 各種スケジュールの共有と (2) シラバスの作成を行い、開講年度に (3) 履修案内ページの作成と公開（前期開講科目の場合は前年度末には公開）、(4) 履修登録と受講、(5) 成績判定を行う。毎年、運用上のトラブル調査を実施し、改善を加え、最終的に本プロセスに至った。次項では各ステップの詳細を述べる。

また、(2) から (3) の期間に、e-Learning コンテンツの開発（または改善）を行う。ここで行われる質保証に関する取り組みについては、[4] にて述べる。



図 3.1.3 e-Learning 授業実施プロセス

(1) スケジュールの共有

最初のプロセスは、5大学それぞれの学内審議スケジュールを調査し、一元管理できるように一覧表にまとめることである。共有に必要な期日は、①新規科目を開講する際の学内審議期間、②履修登録期間、③成績評価入力期間である。①は、新規科目の科目担当教員がシラバスを作成し、連携大学間で共有するまでの締切日となる。②③は、科目の受講開始日および終了日（コース開講期間）の設定のために必要になる。

なお、本事業における履修・成績評価入力期間を下記のように決定した。

【履修登録期間】

履修登録期間を5大学の状況を踏まえ、締め切りの遅い大学に合わせる（毎年度、学年暦を踏まえて、調整する）。オリエンテーション期間も含めオンライン上での授業科目の開講は4月中旬から授業を開始する。ただしその場合は、課題提出などの締め切りは5月中旬以降に最初の課題提出期限を設けることとする。

【成績評価入力期間】

履修登録期間と同様に5大学の状況を踏まえ、前期・後期それぞれに、締め切りの早い大学に合わせる（毎年度、学年暦を踏まえて、調整する）。

以上のスケジュールは、毎年、本事業の事務担当者間でとりまとめ、5大学で共有することとした。

(2) シラバスの作成

大学ごとに科目を設置して提供することを踏まえ、各大学のシラバス項目を調査し、5大学すべての情報を収集するためのシラバスフォーマットを開発した（図 3.1.4）。併せて、平成28年度には記入漏れなど防ぐためのシラバスチェックシートを作成した（図 3.1.5）。開講前年にはシラバスフォーマットおよびシラバスチェックシートを用いてシラバスを作成・共有し、(1)のスケジュールに沿って各大学の学内審議を経て、開講が決定する。

なお、受講者数の上限を設けるかどうかは科目担当者の裁量に委ねた。受講者人数制限をかける場合、

科目担当者が受入大学ごとの受講上限数をシラバスに記入することとした。
 また、試験はすべて e-Learning で実施できるように準備することを必須とした。

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の緑色部分をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. グレー部分は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. 白色部分はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度		2. 開講学期	
3. 開講学部・学科等 /区分等		4. 授業形態/授業種別	eラーニング
5. 授業科目区分/科目分野/科目区分/区分等		6. DPコード/分野コード/科目ナンバリング	
7. 科目名/科目英文名/英文併記	(日本語名)		
	(英文名)		
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名)		
	(英文名)		
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語)		
	(ローマ字)		
10. 時間割コード/申請コード/授業コード		11. 昼夜	
12. 単位数		13. 選必区分/単位区分	
14. 対象学生		15. 対象年次/区分等/標準履修年次	
16. 曜日・時限		17. 講義室	
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け
	連携大学 学生向け		連携大学 学生向け
20. 授業のキーワード/英文キーワード(3つ以上5つ以下)			
21. 授業概要			<input type="checkbox"/>
22. 授業の目的及び主旨/授業科目の主題			<input type="checkbox"/>
23. 授業の到達目標/学修課題			<input type="checkbox"/>

改訂版シラバス(1ページ目のみ掲載)

図 3.1.4 シラバス情報収集フォーマット(1ページ目のみ)

シラバス記入チェックシート

		確認日			
科目名			科目提供大学		
#	知プラ5大学シラバス項目	シラバス項目番号	シラバスチェック項目	チェック	
1	—	全体	緑色部分以外がすべて記入されている		
2	—	全体	授業科目名に適した授業内容が書かれている		
3	科目名／科目英文名／英文併記	7	日本語科目名と科目英文名が記入されている		
4	授業のキーワード／英文でのキーワード	20	3つ以上5つ以下のキーワードを記入されている		
5			英文でのキーワードも記入されている		
6	授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	26	授業回の構成内容が分かるように記入されている		
7	受講の条件／先行科目／受講人数制限	30	受講人数制限が「あり」・「なし」どちらかに丸をつけたか		
8			「ある」と答えた場合(受講人数制限がある場合)：各大学の人数制限を記入しているか		
9	資格等	36	対応する資格・教職等があるか	ある	なし
10			「ある」と答えた場合(対応する資格等がある場合)：その旨記入しているか		
11	オフィスアワー	38	自大学学生向けと連携大学学生向けが記載されている		
12	連絡先／学生相談場所／学生開示用メールアドレス	39	学生が連絡できる、メールアドレスが記入されている		
13	—	21～23、26～40	教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスにチェックを入れている(各大学のシラバスに必ず記載される)		
シラバスチェック項目 合計			13		

図 3.1.5 シラバスチェックシート

(3) 履修案内ページの作成

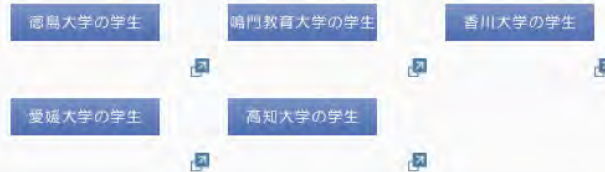
5大学の学生が科目内容の情報収集から科目受講までシームレスにアクセスできる環境が理想であると考え、ポータルサイトを構築した。具体的には、本事業のホームページ内に、各大学の学生に向けた履修案内ページを作成することとした(図 3.1.6, 図 3.1.7)。この履修案内ページは、半期に1度、履修登録期間の開始前のタイミングで更新される。

開講科目

2018年度 開講科目一覧

2018年度は、前期19科目、後期42科目の、合計61科目を共同開講します。

受講を希望する学生は下記の所属大学バナーをクリックし、それぞれの大学の履修案内のページに移動して、履修手続きを進めてください。



【前期開講科目】

科目提供大学	科目名、担当	単位数	備考
徳島大学	「徳島で暮らす・徳島で働くを考える」 川崎克寛	1	前期後半
鳴門教育大学	「阿波学」 藤原伸彦 ほか	1	前期後半 ※重複科目名 「eK4科目 阿波学（地域文化研究）」
	「デジタルものづくり入門」 宮下晃一	1	前期後半
	「学校教員の世界」 竹口幸志 ほか	2	前期
香川大学	「瀬戸内海論 その1」 原直行	1	前期前半 ※重複科目名 「瀬戸内海論」
	「瀬戸内海論 その2」 原直行	1	前期後半 ※重複科目名 「瀬戸内海論」
	「香川の文化と歴史 その1」 原直行 ほか	1	前期前半 ※重複科目名 「香川の文化と歴史」
	「香川の文化と歴史 その2」 原直行 ほか	1	>前期後半 ※重複科目名 「香川の文化と歴史」
	「四国の歴史と文化 その1 歴史編」 守田逸人 ほか	1	前期前半 ※重複科目名 「eK4科目 四国の歴史と文化」

図 3.1.6 学生への科目案内ページ例（開講科目一覧）

徳島大学学生向け履修案内

このページは、**徳島大学の学生用**の履修案内のページです。

徳島大学の学生は、以下の履修案内に従って、履修手続きを進めてください。

履修案内のファイルが開けない場合は、最新版のAdobeReaderをインストールしてください。

[<履修案内\(徳島大学学生用\)>](#)

[<Adobe Reader をインストール>](#)

徳島大学の学生でない場合は、科目一覧のページに戻り、自分の所属する大学を選択しなおしてください。

[<開講科目一覧のページに戻る>](#)



【前期開講科目】

科目名、担当者	単位数	備考	履修者制限	LMSログインの手引き	LMS (e-learningシステム) 受講ページ
「徳島で暮らす・徳島で働くを考える」 川崎 克寛	1	前期後半	シラバス参照	eラーニング科目(知プラe)受講生の方へ 徳島大学eラーニングサーバ(Moodle)での登録に関するお知らせ	徳島大学のLMSへ移動
「瀬戸内論 その1」 原直行	1	前期前半	シラバス参照	香川大学 大学連携用 moodle ログイン手順 (香川大学以外の学生用)	香川大学のLMSへ移動
「瀬戸内論 その2」 原直行	1	前期後半	シラバス参照		
「香川の文化と歴史 その1」 原直行	1	前期前半	シラバス参照		
「香川の文化と歴史 その2」 原直行	1	前期後半	シラバス参照		
「四国の歴史と文化 その1(歴史編)」 守田達人 ほか	1	前期前半	シラバス参照		
「四国の歴史と文化 その2(文化編)」 源達史郎 ほか	1	前期後半	シラバス参照		
「コンピュータと教育 その1」 林敏浩	1	前期前半	シラバス参照		
「コンピュータと教育 その2」 林敏浩	1	前期後半	シラバス参照		
「人工魚礁の開発と環境保全」 末永 慶寛	1	前期後半	シラバス参照		
「気象学入門」 佐々清司	2	前期	シラバス参照		

図 3.1.7 各大学の科目案内ページ例（徳島大学）

(4) 履修登録と受講

履修登録は各大学の履修登録システムを用いて行う。学生は自大学の通常科目とほぼ同じ方法で履修登録が可能である。履修登録後は、(3)で示した履修案内ページなどからe-Learningシステムへアクセスし、ID・パスワードを入力することでe-Learning科目を受講できる。コース開講期間は科目によって異なるが、(1)で共有した履修登録期間および成績評価入力期間を考慮して、その範囲内で設定されている。学生は、一定期間の中でいつでも受講が可能となっている。

(5) 成績判定

コースが閉講してから(1)で定めた成績評価入力期間までの間に、科目担当教員は成績判定を行う。成績の判定に関しては次のように行う。

- (a) 科目担当教員は、素点(点数)で評価する。
- (b) 各大学に送付&事務的に処理(優・良・可・不可、もしくは秀・優・良・可・不可など)
- (c) 各大学で成績入力

以上の作業に関して、科目担当教員と担当事務間で、紙による評価表の授受を行うか、成績入力システムを利用するかといった詳細な手続きは、各大学の判断に委ねた。

[4] e-Learning コンテンツの開発と質保証プロセス

図 3.1.3 に示したように、科目開講が決定してから学生に履修案内を公開するまでの間に、各大学がコンテンツの開発(改善)を行う。本事業では、コンテンツの設計・開発・運用の一連のプロセスにおいて、教育の質保証に取り組んだ(本年度までの質保証の取り組みの詳細は、3-2を参照されたい)。

まず、本事業ではオンライン授業設計ガイドラインおよびオンライン授業運用ガイドラインを開発し、対面授業と同等の質を担保しつつ、5大学間でばらつきのないe-Learningとはどのようなものか、明文化した。ガイドラインの策定により、関係者間で目指すべき方向性の共通理解が得られた。また、オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートを開発したことで、オンライン授業設計ガイドラインの内容が、開発されたe-Learningコンテンツにどれだけ反映されているのかを確認することができるようになった。今後は、連携大学が自大学開発の新規科目について、開講前に確認シートで自己点検し、その結果をセンター四国(香川大学)が質保証のエビデンスとして保管することとしている。

また、せっかくコンテンツを開発しても学生が利用できなければ意味がない。このデリバリーの問題を未然に防ぐために、科目開講前には、コンテンツ開発ガイドラインに則って、連携大学が相互に視聴確認を行った。これにより、学生が確実にコンテンツにアクセスできることを担保した。

さらに、すべての開講科目では「授業改善アンケート」を実施し、次年度の改善に向けた参考資料とした(授業改善アンケートの結果については、2-2-3を参照のこと)。今後は授業改善アンケートの結果を大学毎にとりまとめ、科目担当教員へフィードバックし、改善が行われた際はその内容を5大学で共有することとしている。

これらの質保証プロセスも共同実施モデルに融合され、今後の実践を踏まえて改善を続けることで、共同実施モデルはさらに有用なモデルに発展すると思われる。

[5] おわりに

本節では、四国5大学型e-Learning共同教育実施モデルの具体について述べた。本事業の実践が、他の大学連携e-Learningプロジェクトの参考になれば幸いである。

参考文献

- 1) 高橋暁子(2018), 大学間連携事業における遠隔非同期型eラーニングの質保証の取り組み. 情報処理 59 巻 7 号, pp.628-631
- 2) 大学連携e-Learning教育支援センター四国(2016), 2015年度事業報告書.

3-2 e-Learning を用いた教育の質保証

概要

本事業では、遠隔非同期型 e-Learning を用いた教育の内部質保証に取り組んできた。質保証プロセスと、各段階で使用するガイドライン等を図 3.2.1 に示す。

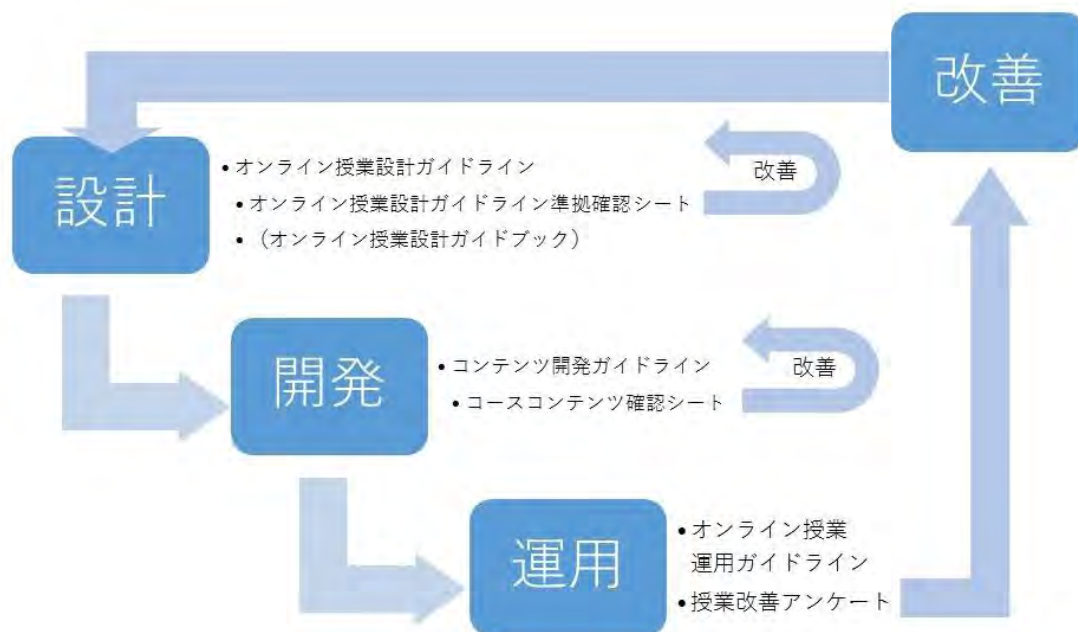


図 3.2.1 本事業における教育の質保証プロセス

まず、e-Learning を用いた授業の設計段階では、「オンライン授業設計ガイドライン」に基づき、授業設計を行う。ここで、オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートを用いることで、ガイドラインの達成状況を確認し、必要に応じて改善に取り組むことができる。

コンテンツの開発段階では、「コンテンツ開発ガイドライン」を参照する。さらに、開発直後（公開前）の段階で、「コースコンテンツ確認シート」を用いて連携大学間で相互に視聴確認を実施し、適宜改善することで、デリバリーの問題が起こることを未然に防ぐ。

最後に、学生が授業を受講している運用段階では、「オンライン授業運用ガイドライン」を参考に、受講学生および担当教員のサポートを行う。また授業の最後には「授業改善アンケート」を実施し、その結果を踏まえて次の開講に向けた改善を検討する。

本事業では、教育の質を保証する仕組みづくりのはじめの一歩として、「オンライン授業設計ガイドライン」、「コンテンツ開発ガイドライン」、「オンライン授業運用ガイドライン」の3つのガイドラインを策定した。これにより連携大学で目指すべき方向性の共通理解が得られた。一方で、これらのガイドラインはあくまで推奨するものであり、達成義務はない。そこで質保証の実質化を狙い、各種ツールを開発した。さらに実践と改善を積み重ね、図 3.2.1 に至った。

次項では、これらの教育の質保証で使用するガイドラインおよびツール類について詳しく述べる。

各段階における開発物

(1) 設計段階

●オンライン授業設計ガイドライン

オンライン授業設計ガイドラインは、教育の質保証等検討WGが中心となって開発したガイドラインで、e-Learning コンテンツを用いた授業設計の原則を定めている。たとえば、4(9)では「学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、学修の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。」と明記し、動画を視聴するだけの受動的な学習形態にしないことを求めている。

●オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート

オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートは、オンライン授業設計ガイドラインの達成状況を確認するエクセルファイルである。次の6つのシートで構成される。

- ①「ここからスタート」シート
- ②「コース全体」シート
- ③「ガイダンスコンテンツ」シート
- ④「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シート
- ⑤「確認結果」シート
- ⑥「ガイドライン」シート（参考）

評価実施者は、e-Learning コースおよびシラバスを見ながら、①～④のシートの各項目に入力する。入力項目の多くは選択式であるが、コンテンツの内容を転記する欄を設けることで、評価の根拠となる情報を残す工夫をしている。最終的に、⑤のシートに全17項目について達成状況が表示される(図3.2.2)。

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート	
科目名(年度)	大学教育を考える(2017)
科目担当教員名(連絡先)	吉田博(hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp)
シート作成日	2017/10/26
科目担当教員以外の確認者(名前・日付)	高橋暁子(2017/10/26)、吉田先生とのレビュー(2017/10/27)
「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」のチェック項目	
コース全体	
(1) 1科目ごとに1コースを用いる。	達成
(2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。	達成
(3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。[viii]	達成
(4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめめるか、あるいはブロック毎に定める。	達成
(5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間(締切日時)を設定する。	達成
(6) コース導入部分にはシラバスを示す。	達成

図3.2.2 確認結果シートの例
(参考文献1)の図1)

●オンライン授業設計ガイドブック

さらに、はじめて e-Learning を用いた授業を行う教員向けに「オンライン授業設計ガイドブック」も開発した。ガイドブックには、オンライン授業設計ガイドラインおよび準拠確認シートも含まれている。具体例を見ながら無理なく授業設計に取り組めるように配慮した（図 3.2.3）。

ステップ 0オンライン授業をイメージする

サンプルA (ディスカッション中心型) を体験する



いろいろな科目がオンラインで開講されているようだけれど、実際はどんな中身になっているんだろう？ 講義ビデオを90分×15回分も用意しないとイケないのかなあ。大変そうねえ。

典型的なオンライン授業例として、学生同士のディスカッションを中心としたサンプルコースをみてみましょう。以下は、徳島大学開講科目「モラエスの徳島」の例です。

(1) 以下はコーストップページです。学生は、最初に「学修ガイド(ガイダンスページ)」に進みます。




図 3.2.3 ガイドブックの例

(2) 開発段階

●コンテンツ開発ガイドライン

コンテンツ開発ガイドラインは、コンテンツ開発 WG が中心となって開発したガイドラインで、著作権等の処理やコンテンツ開発に係る事項（たとえば視聴環境、動画形式等）を定めたものである。たとえば4の1）では想定する視聴環境として「本ガイドラインで想定するコンテンツの視聴環境は、最低限、各大学に設置されている PC ルーム等で視聴できるよう担保する。」と明記している。また、学生への公開前に視聴確認を行うことも定めている。

●コースコンテンツ確認シート

コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づき、受講学生が推奨環境で問題なく視聴できることを確認するためコースコンテンツ確認シート（旧称：コンテンツ視聴確認シート）および視聴確認の手引きを開発した。そして平成 27 年度からは、学生へ公開する前に、コースコンテンツ確認シートを用いて、各大学が開発したコンテンツを連携大学間で相互に視聴確認する体制を整えた。これにより、「コンテンツが閲覧できない」といった問題を防ぐことにつながった。

(3) 運用段階

●オンライン授業運用ガイドライン

オンライン授業運用ガイドラインは、講義開講中の受講学生および担当教員等への支援方法・体制について定めたガイドラインである。教育の質保証等検討 WG が中心となって開発した。たとえば、3（1）に『学生サポートとして、主に「ICT 技術支援」「学修支援」の2つの機能を置く』のように、学生支援には2つの側面があることを明示している。

●授業改善アンケート

授業改善アンケートは、その名の通り授業改善に資する情報を得るために、開講しているコース内に設置するアンケートである。5 大学で共通した質問項目を用意しており、Moodle のアンケート機能を用いて各科目の開講時に実施する（図 3.2.4）。なお、各大学で実施されている授業評価アンケートとは異なる内容となっている。

結果は教育の質保証等検討 WG がとりまとめ、本事業の企画委員会で共有し、次年度の改善の参考とした。

授業改善アンケート(授業の最後にお答えください。)

モード: 匿名

* マークが付けられたフィールドは必須入力フィールドです。

このアンケートは、授業に対する意見や要望を集め、授業内容・方法等の改善を行っていくためのデータを得ることを目的として実施するものです。全29問あり、およそ10分の回答時間を想定しています。アンケートのご記入をお願いします。

成績評価等について不利益になることはありません。また、個人が特定されるような情報については授業担当教員に提供しませんので、安心してご協力をお願いします。

また、個人が特定されない形で分析・研究結果を公表する可能性がありますので、あらかじめデータの引用を許諾くださるようお願いいたします。

* 一度実施すると再実施できませんのでご注意ください。

I 【受講に対する意識について】

質問1. 授業を受ける前にシラバスを読みましたか？

- 1. すべて読んだ
- 2. 半分以上読んだ
- 3. 軽く目を通した
- 4. 全く読まなかった

質問2. シラバスや授業中に示された授業の目標を、どの程度理解していましたか？

- 1. 十分に理解していた
- 2. 少し理解していた
- 3. 目標は知っていたが理解していなかった
- 4. 目標があることさえ知らなかった（授業中に示されず、シラバスも読んでいなかった）

質問3. 授業を受ける前に授業内容に関する関心度はどうでしたか？

- 1. とても関心があった
- 2. ある程度関心があった
- 3. どちらでもない
- 4. あまり関心がなかった
- 5. 全く関心がなかった

図 3. 2. 4 授業改善アンケートの画面の一部

オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートを用いた自己点検

平成 29 年度は、開講科目の現状を確認するために、オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートを用いた自己点検を実施した。

実施前に、オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートの形成的評価を実施したところ、シート自体に大きな改善の必要はなく、一定の信頼性を持つことが確認できた²⁾。そこで、平成 29 年度に開講された全 38 科目を対象に自己点検を行った。自己点検は科目担当教員もしくは科目を開発した大学の本プロジェクトに関わる教職員が行うこととした。

自己点検の結果として、各科目の達成率を表 1 に示す。

達成項目は全 17 項目あり、全ての項目を満たした科目（達成率 100%）は 11 科目であった。全体の平均は、92%であった。最も未達成が多かったガイドライン項目は 4（7）へ「単位取得の条件（成績評価対象（複数）、各成績評価対象の評価基準（成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などがそれぞれにおいて 6 割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは 6 割以上の基準点を定めた場合はその点数）、モジュール内の学修活動が出席に相当する旨）」で、21 科目が未達成であった。これは、コース上に成績評価に関する記述があっても、単位取得の最低要件や出席など、ガイドラインで求めている詳細な記載が欠けていたのではないかと推測される。自己点検に協力してくださったある教員へインタビューをしてみると¹⁾、たとえば 6 割で単位取得（“可” の評価になる）というのは自明のことと考え、あえて記載していない場合があることがわかった。この場合、科目担当教員が所属する組織では暗黙の了解であっても、他大学の学生には伝わらないこともあるので、e-Learning コース上で丁寧に説明する必要があるだろう。

ガイドラインに準拠していないからといって、そのコースの教育内容や方法が直ちに否定されるものではない。科目独自の工夫を重ねていることもあるだろう。しかしながら、ガイドラインに準拠することで、最低限標準化された学びやすいコースが提供されるのではないか。

表 3.2.1 科目毎のオンライン授業設計ガイドライン達成率

開講大学	科目名	開講期	達成率
香川大学	瀬戸内海論 その 1	前期	88%
	瀬戸内海論 その 2	前期	88%
	香川の文化と歴史 その 1	前期	88%
	香川の文化と歴史 その 2	前期	88%
	四国の歴史と文化 その 1 歴史編	前期	88%
	四国の歴史と文化 その 2 文化編	前期	88%
	コンピュータと教育 その 1	前期	94%
	コンピュータと教育 その 2	前期	94%

	情報のいろは	後期	88%
	地域コンテンツと知財管理 その1	後期	88%
	地域コンテンツと知財管理 その2	後期	88%
	香川を学ぶ その1	後期	94%
	香川を学ぶ その2	後期	94%
	瀬戸内地域活性化政策 その1	後期	88%
	瀬戸内地域活性化政策 その2	後期	88%
	四国の自然環境と防災 その1	後期	88%
	四国の自然環境と防災 その2	後期	88%
	四国の地域振興 その1	後期	94%
	四国の地域振興 その2	後期	94%
高知大学	気象学入門	前期	100%
	有機化学概論	前期	88%
	海洋基礎生態学	前期	100%
	サイエンスリテラシーの化学	後期	94%
徳島大学	知の探訪	後期	82%
	モラエスの徳島 ーグローバルズムと異邦人ー	後期	100%
	日本におけるドイツ兵捕虜 1914-1920 ー四国の収容所を中心にー	後期	100%
	現代科学と研究倫理	後期	94%
	大学の知の活用	後期	100%
	大学教育を考える	後期	100%
	行動統計学入門	後期	94%
愛媛大学	タンパク質で生命を斬る	後期	100%
	ユーラシア大陸における人と金属生産の関わり	後期	100%
	大学生のための『安全・安心』の基礎講座	後期	100%
	太陽光利用型植物工場における知能的農作物生産	後期	100%
	飛行機はなぜ飛ぶのか	後期	100%
鳴門教育大学	阿波学	前期	41%
	学校教員の世界	後期	82%
	自動車概論	後期	94%
平均			92%

今後の課題と展望

今後は、e-Learning 科目の開発前に教職員間で各種ガイドラインを共有することが重要である。ガイドラインを読み解くことは、ステークホルダー間で目指すべき方向性を確認することにつながるからである。

そして、各種ツールによる自己点検を行い、都度、改善にむけて善処することで、e-Learning を用いた教育は一定の質を担保できるだろう。たとえば、既実践してきた視聴確認に加え、平成 30 年度以降の新規科目に関しては、公開前にオンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートによる自己点検を行い、入力済みの確認シートをセンター四国（香川大学）へ保管することを取り決めた。これが軌道にのれば、質保証がさらに実質化されると思われる。また、既存科目に関しては、確認シートの未達成項目や授業改善アンケートの結果等を参考に改善を試みることで、質の向上が期待できる。

なお、オンライン授業運用ガイドラインに関しては確認シート等のツールが未整備であり、運用は各大学に委ねられている。今後、運用段階に関しても質保証の実質化に向けた更なる取り組みを行うことが課題であろう。

まとめ

本節では、本事業における非同期型 e-Learning を用いた教育の内部質保証について述べた。設計・開発・運用の各段階でガイドラインに基づいて改善を行うこと、そして毎年度の大きなサイクルでは学生の意見なども踏まえて改善を続けることで、より質の高い教育が提供できると考えられる。今後も継続して質保証に取り組んでいきたい。

付記

本節で取り上げた各種ガイドラインおよびツールの最新版は、本事業のホームページ (<http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/organization.html#guideline>) にて公開している。

参考文献

- 1) 高橋暁子, 金西計英, 根本淳子, 竹岡篤永(2017) 大学連携におけるオンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートを用いたコース評価; 一大学を例に。情報処理学会研究報(Vol.2017-CLE-23 No.11)
- 2) 竹岡篤永, 根本淳子, 高橋暁子(2017) 大学連携によるeラーニング質保証ガイドラインに準拠したチェックシートの形成的評価。日本教育工学会研究報告 17-2, p. 213-218

資料 A) オンライン授業設計ガイドライン (第九稿)

知プラe 質保証WG
2017年1月31日
第九稿

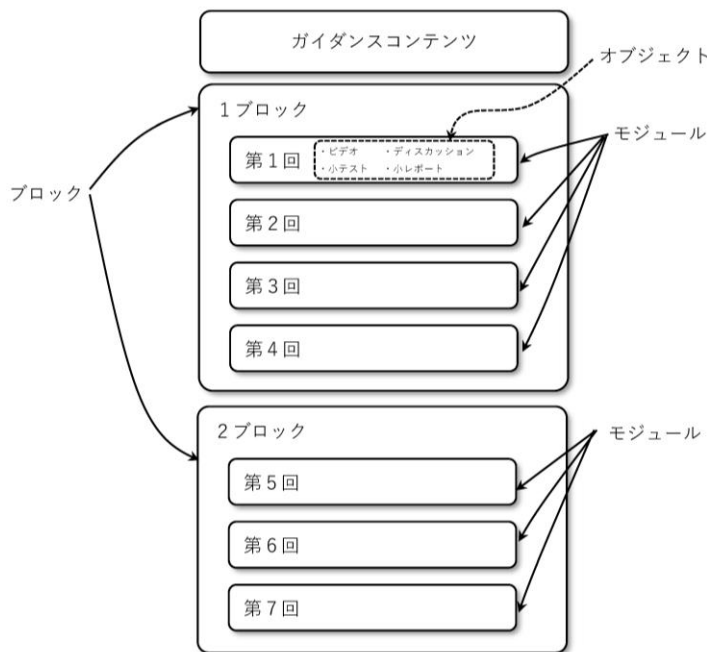
四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業設計ガイドライン

1. eラーニングコンテンツの範囲

(1) このガイドラインで取扱う「eラーニングコンテンツ(以下、「コンテンツ」という。)」とは、大学連携e-Learning教育支援センター四国が知のプラットフォーム形成事業に関する教材を開発し、運用するものを指す。[i],[ii]

2. eラーニングコンテンツの定義

- (1) 単独で利用可能な最小単位の教材を「オブジェクト」という。[iii]
- (2) 複数オブジェクトを組み合わせる構成されたコンテンツ群を「モジュール」という。1モジュールは授業1回分に相当する。
- (3) 複数のモジュール、つまり授業数回分をまとめた単位を「ブロック」という。ブロックは、授業の構成を分かりやすく伝えるために科目構成に応じて用いる。[iv]
- (4) 複数のモジュールまたは複数のブロックで1コースを構成する。1コースとは、単位付与の基準に相当する学修活動を満たすモジュール(またはブロック)群のことである。[v]



3. 成績判定

- (1) モジュールに含まれる学修活動[vii]は出席に相当する。全モジュール内の学修活動を一定以上[viii]実施・提出することで学業成績の判定要件を満たす。
- (2) 成績はモジュールに含まれる学修活動とそれ以外の学修成果(試験・レポート・作品課題など)の組み合わせで評価する。評価対象となる試験・レポート・作品課題などはそれぞれにおいて6割以上の点数を取得することで単位取得の最低条件とする。これによってすべての学修成果物で一定以上の成果を収めていることを確認する。

4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計

- (1) 1科目ごとに1コースを用いる。
- (2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。
- (3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。[viii]
- (4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。
- (5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間（締切日時）を設定する。
- (6) コース導入部分にはシラバスを示す。
- (7) シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回示しても良い。
 - イ) eラーニング操作などについての問い合わせ先
 - ロ) 対面のオフィスアワー相当の、学修者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段（eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど）
 - ハ) 科目担当者による授業紹介（短編のイントロビデオ、または、写真と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの）
 - ニ) 授業概要（タイトル、学修の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学修活動の実施方法）
 - ホ) スケジュール（コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学修期間）
 - ヘ) 単位取得の条件（成績評価対象（複数）、各成績評価対象の評価基準（成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数）、モジュール内の学修活動が出席に相当する旨）
- (8) ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前提知識の学修支援を目的とした学修活動コンテンツ（小テスト、小レポートなど）を含める。

(9) 学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、学修の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。そのため、1モジュール（授業1回分）には以下の内容を含める。

イ) 授業内容（教科書などの情報コンテンツ）：文字、音声、動画、静止画など^[ix]

ロ) 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板など

ハ) 学修活動コンテンツの要件：合格条件（小テスト・小レポートの合格点など）、フィードバック方法（自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック・まとめフィードバック、模範解答の掲示、解説など）、フィードバック実施期間の設定など

(10) コース内には、授業外の自主的な学修を促すコンテンツを示す。自主的な学修を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。

イ) 参考情報（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）

ロ) 授業内容についていけない学修者を対象とする復習の支援を目的とした学修活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など）

ハ) 発展的な学修の支援を目的とした学修活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）

[i] 知のプラットフォーム形成事業のシステム基盤を用いたとしても、共同実施ではなく、各大学が単独で実施する科目は対象外とする。

[ii] フルオンライン以外の形態の授業におけるコンテンツの利用を妨げるものではない。ただし、利用に当たってはコンテンツの著作権者の許諾の範囲において利用する。

[iii] VOD、PDFファイル、電子掲示板が設置されていた場合は、それぞれ単独で利用することが可能なため3オブジェクトとみなす。複数ファイルで構成することで意味のある教材として利用できる場合は、まとめて1オブジェクトとみなす（たとえば複数のHTML・CSS・画像ファイルなどで構成されるWebページ）。

[iv] たとえば、1ブロックがモジュール1～5、2ブロックがモジュール6～10、3ブロックがモジュール11～15という3ブロックで構成する。

[v] たとえば1単位を付与するのであれば、1コースには45時間の学修活動を行うことになるだけのモジュール数を用意する。

[vi] 4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計（9）ロを指す。

[vii] 各大学または各学部において出席数に関する規則がある際は準拠する。

[viii] たとえば対面授業で1単位の授業科目を15回で実施していた場合は、1コースに15回分のモジュールを用意し、1モジュールは3時間分の学修活動に相当するコンテンツを用意する。過度に負荷が高すぎたり、容易すぎたりするモジュールを用意しない。

[ix] 具体的には、テキストファイル、VOD、PDFファイルなど。

資料 B) オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート

記入の手引き

本シートから記入を始め、「コース全体」「ガイダンスコンテンツ」「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」の各シートに順番に記入すると、自動的に「確認結果シート」に確認結果が入力されます。「確認結果シート」の内容を確認し、このエクセルファイル全体をご提出ください。

1. 科目名等、コースの基本情報を黄色のセルに入力してください。
⇒黄色のセルは必須入力項目です。入力すると色が消えます。

科目名(年度)	
科目担当教員名(連絡先)	
シート作成日	
科目担当教員以外の確認者(名前・日付)	

2. 「コース全体」シートに記入してください。
[コース全体](#)
3. 「ガイダンスコンテンツ」シートに記入してください。
[ガイダンスコンテンツ](#)
4. 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」に記入してください。
[授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ](#)

コース全体

ガイドライン「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」(1)～(6)についての確認です。以下のセルにご記入ください。

⇒黄色のセルは必須入力項目、水色のセルはオプション入力項目です。入力すると色が消えます。

- ◆ (1) 1科目ごとに1コースを用いる。

コースのURLを記入してください。

※まだ設定されていない場合は、空白のままにしてください。

- ◆ (2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。

モジュール数（授業回数）を記入してください。

- ◆ (3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。[viii]

⇒ここでは記入せずに「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シートで記入します。

- ◆ (4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。

⇒ここでは記入せずに「ガイダンスコンテンツ」シートで記入します。

- ◆ (5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間（締切日時）を設定する。

⇒ここでは記入せずに「ガイダンスコンテンツ」シートで記入します。

- ◆ (6) コース導入部分にはシラバスを示す。

Moodleのコース上に知プラ5大学共通シラバスが掲載されていますか？

※ない場合は、空白のままにしてください。

- ◆ ※(1)～(6)についてコメントがあれば記入してください。

コメント

⇒記入が終わったら「ガイダンスコンテンツ」シートへ進んでください。

ガイダンスコンテンツ

ガイドライン「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」(7)~(8)についての解説です。以下のセルにご記入ください。

※黄色のセルは必須入力項目、水色のセルはオプション入力項目です。入力すると色が消えます。

◆ (7) シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回表示しても良い。

◆ イ) eラーニング操作などについての問い合わせ先
 Moodleのコース上に掲載した問い合わせ先を記入してください。
 ※設定されていない場合は、空白のままにしてください。

◆ ロ) 対面のオフィスアワー相当の、学修者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段 (eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど)
 Moodleのコース上に設定した質問手段を選んでください。
 ※設定されていない場合は、空白のままにしてください。
 その他を選んだ場合の手段を記入してください。

◆ ハ) 科目担当者による授業紹介 (毎週のイントロビデオ、または、専員と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの)。
 授業紹介の方法を選んでください。
 ※設定されていない場合は、空白のままにしてください。
 イントロビデオの場合: 長さを記入してください。
 その他を選んだ場合の手段を記入してください。

◆ ニ) 授業概要 (タイトル、学修の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学修活動の実施方法)
 授業概要の中に以下の項目が書かれていますか?

タイトル	
学修の進め方	
コンテンツの利用方法	
学修活動の実施方法	

 ※以下の(表)詳細記入用に、「授業概要」の詳細をご記入ください。

◆ ホ) スケジュール (コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学修期間)
 ※モジュールとブロックの関係については右図をご覧ください。
 設定したブロック数を記入してください。

回数分のまとめ回、あるいは、ブロック毎の公開・終了日時、または、推奨学修期間を記入してください。
例えば、2ブロック構成の場合は、3ブロック以降は空白のままにしてください。

ブロック (または、回数分のまとめ)	モジュール (授業の回) (例) 1回~7回 (まとめの数回分記入)	公開開始日時 or 推奨学修期間開始日時 (例) 2016/11/04 8:30	公開終了日時 or 推奨学修期間終了日時 (例) 2016/11/30 23:59
1ブロック			
2ブロック			
3ブロック			
4ブロック			
5ブロック			

 ※5つ以上ある場合は欄を追加してください。 | ガイドライン4(4)と4(5)に相応

◆ ヘ) 単位取得の条件 (成績評価対象 (複数)、各成績評価対象の評価基準 (成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数)、モジュール内の学修活動が出席に相当する旨)

単位取得条件の中に以下の項目が書かれていますか?	
成績評価対象 (複数)	
各成績評価対象の評価基準 (6割以上の点数を取得する必要がある旨)	
6割以上の基準点がある場合は基準点を記入	
モジュール内の学修活動が出席に相当する旨※	

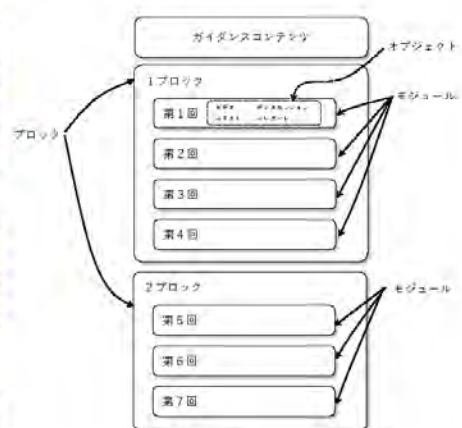
 ※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細をご記入ください。
 ※以下の(表)詳細記入用に、「評価」の詳細をご記入ください。

◆ (8) ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前提知識の学修支援を目的とした学修活動コンテンツ (小テスト、小レポートなど) を含める。
 前提知識の学修コンテンツはありますか?
 ある場合は、小テスト、小レポートなどの方法を記入してください。

|| | 授業概要と評価について以下に詳細を記入してください。 (図表を使用している場合は、画面キャプチャ等の画像でも結構です) || |

● 授業概要
 タイトル

--



学習の進め方

コンテンツの利用方法

学習活動の実施方法

●評価

成績評価対象と評価基準

◆ 38(7)～(8)についてコメントがあれば記入してください。

[→ 12人が作成した「授業コンテンツ」の具体的な活動事例](#)

授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ

ガイドライン「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」(9)~(10)および(3)についての確認です。以下のセルにご記入ください。

※黄色のセルは必須入力項目、水色のセルはオプション入力項目です。入力すると色が消えます。

- ◆ (9) 学習者が主体的に学習活動を進められる環境を提供し、学習の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。そのため、1モジュール（授業1回分）には以下の内容を含める。
 - イ) 授業内容（教科書などの情報コンテンツ）：文字、音声、動画、静止画など[x]
 - 授業内容の主な形式は次のどれですか？
 - ⇒以下の(表)詳細記入用に、設定したすべての回について「授業内容」の詳細をご記入ください。
 - ロ) 授業内容に関する双方向性を有した学習活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板など
 - 双方向性学習活動の主な形式は次のどれですか？
 - ⇒以下の(表)詳細記入用に、設定したすべての回について「双方向性学習活動」の詳細をご記入ください。
 - ハ) 学習活動コンテンツの要件：合格条件（小テスト・小レポートの合格点など）、フィードバック方法（自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック・まとめフィードバック、模範解答の提示、解説など）、フィードバック実施期間の設定など
 - 双方向性学習活動の要件の主なフィードバック形式は次のどれですか？
 - ⇒以下の(表)詳細記入用に、設定したすべての回について「双方向性学習活動の要件」の詳細をご記入ください。
 - ◆ (10) コース内には、授業外の自主的な学習を促すコンテンツを示す。自主的な学習を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。
 - イ) 参考情報（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）
 - 主な参考情報は次のどれですか？
 - ⇒以下の(表)詳細記入用に、設定したすべての回について「参考情報」の詳細をご記入ください。
 - ロ) 授業内容についていけない学習者を対象とする復習の支援を目的とした学習活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など）
 - 主な復習用の学習活動コンテンツは次のどれですか？
 - ⇒以下の(表)詳細記入用に、設定したすべての回について「復習」の詳細をご記入ください。
 - ハ) 発展的な学習の支援を目的とした学習活動コンテンツ（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）
 - 主な発展的な学習活動コンテンツは次のどれですか？
 - ⇒以下の(表)詳細記入用に、設定したすべての回について「発展学習」の詳細をご記入ください。
 - ◆ (3) 学習者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学習に要する時間をおおむね概算する。[viii]
- ⇒下記の(表)詳細記入用に記入後、各回の学習時間がおおよそ揃っているか回答してください。
- 各回の学習時間はおおよそ揃っていますか？
- ⇒「1」で設定したすべての授業回（モジュール）について以下に記入してください。[1]~[4]

		(表)詳細記入用	(9)ハ) 双方向性学習活動の要件		
			(合格条件)	(フィードバック方法)	(フィードバック実施期間)
第1回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
		(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)			
第2回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
		(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)			
	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				

第3回	(9)ロ) 双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)				
第4回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)					
第5回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)					
第6回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)					
第7回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
(3)おおよその学修時間 (上記すべての合計時間)					
第8回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学修活動 (小テスト、電子掲示板など)				

	(10)イ) 参考講義				
	(10)ロ) 演習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第9回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考講義				
	(10)ロ) 演習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第10回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考講義				
	(10)ロ) 演習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第11回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考講義				
	(10)ロ) 演習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第12回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考講義				
	(10)ロ) 演習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第13回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考講義				
	(10)ロ) 演習				
	(10)ハ) 発展学習				

	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第14回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第15回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第16回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				
第17回	(9)イ) 授業内容 (文字、音声、動画など)				
	(9)ロ) 双方向性学習活動 (小テスト、電子掲示板など)				
	(10)イ) 参考情報				
	(10)ロ) 復習				
	(10)ハ) 発展学習				
	(3)おおよその学習時間 (上記すべての合計時間)				

◆ ※(9)～(10)および(3)についてコメントがあれば記入してください。

コメント

[この欄は必ず入力してください。入力方法は「入力方法」欄に記載されています。](#)

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業設計ガイドライン準備改訂シート

科目名(年度)	0
科目担当教員名(連絡先)	0
シート作成日	1900/1/0
科目担当教員以外の確認者(名前・日付)	0

「4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計」のチェック項目		確認結果
コース全体		
(1) 1科目ごとに1コースを用いる。		未達成
(2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。		未達成
(3) 学習者にとって学びやすい環境を醸成するため、各モジュールの学習に必要な時間をおおむね揃える。[viii]		未達成
(4) 数回分のまとめ学習を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。		未達成
(5) 数回分のまとめ学習を可能とするため、推奨学習期間を設けるか、学習期間(締切日時)を設定する。		未達成
(6) コース導入部分にはシラバスを示す。		未達成
ガイダンスコンテンツ		
(7) シラバスの内容を補充するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学習者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回示しても良い。		未達成
イ) eラーニング操作などについての問い合わせ先		未達成
ロ) 対面のオフィスアワー相当の、学習者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段(eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど)		未達成
ハ) 科目担当者による授業紹介(短編のイントロビデオ、または、写真と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの)		未達成
ニ) 授業概要(タイトル、学習の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学習活動の実施方法)		未達成
ホ) スケジュール(コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学習期間)		未達成
ヘ) 単位取得の条件(成績評価対象(回数)、各成績評価対象の評価基準(成績評価対象となる試験・レポート・作品課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数)、モジュール内の学習活動が出席に相当する旨)		未達成
(8) ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前提知識の学習支援を目的とした学習活動コンテンツ(小テスト、小レポートなど)を含める。		未達成
授業コンテンツ		
(9) 学習者が主体的に学習活動を進められる環境を提供し、学習の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。そのため、1モジュール(授業1回分)には以下の内容を含める。		未達成
イ) 授業内容(教科書などの情報コンテンツ)：文字、音声、動画、静止画など[iv]		未達成
ロ) 授業内容に関する双方向性を有した学習活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板など		未達成
ハ) 学習活動コンテンツの要件：合格条件(小テスト・小レポートの合格点など)、フィードバック方法(自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック。まとめフィードバック、模範解答の揭示、解説など)、フィードバック実施期間の設定など		未達成
自主的な活動を促すコンテンツ		
(10) コース内には、授業外の自主的な学習を促すコンテンツを示す。自主的な学習を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。		未達成
イ) 参考情報(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)		未達成
ロ) 授業内容についていけない学習者を対象とする復習の支援を目的とした学習活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など)		未達成
ハ) 発展的な学習の支援を目的とした学習活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)		未達成
合計数	達成	0
	未達成	17



はじめに

本書ははじめてオンライン授業(いわゆるeラーニング)を設計する方を対象とした手引書です。本書で示す手順に沿って、解説を読みながら各種ワークシートに必要な事項を書き込むことで、「オンライン授業設計ガイドライン」に基づいた授業設計ができます。

あなたが科目担当教員で、eラーニングコース開発スタッフが別途いる場合は、本書の手順にしたがって完成させる「授業設計書」をそのまま手渡しすることで、スムーズな開発をしてもらえるでしょう。また、ご自身でコースを開発する場合は、別途用意している「サンプルコース」や「コーステンプレート」を参照することで、授業設計書に基づいたeラーニングコースを開発できます。

一方で、あなたが科目担当教員ではなく、eラーニングコース開発スタッフやその他支援者である場合には、本書を科目担当教員に手渡し、一緒に作業を進めるとともに、適宜、自組織の設計・開発手順について補足説明してください。本書の欄外には支援者向けのアドバイスもありますので、参考にしてください。

*1 本学連携e-Learning教育推進センター(旧「eラーニング推進センター」)において大学教員を科目担当とする(本学) 教員の確保目的の観点から「オンライン授業設計ガイドライン」を策定しました。下記をご参照ください。
http://chiba-u.ac.jp/kagawa-u.ac.jp/pdf/sihosyo/WG_sekkei.pdf

本書の使い方

まずは「オンライン授業の設計・開発ステップ」を読んで、全体の流れをつかみましょう。

新しい授業をオンライン授業として1から設計する場合には、

ステップ0を読んでオンライン授業のイメージをつかみ、シラバスを準備してください。具体的な設計手順は、

ステップ1から始まります。

ステップ1以降では、

①まず、「解説」を読む。

②次に、「やってみよう」にしたがって実際に指定のワークシートへ入力するなど、手を動かす。という手順で進めてください。

ワークシート類のダウンロードはこちらからどうぞ。

<http://chiba-u.ac.jp/kagawa-u.ac.jp/organization.html#guidebook>



CONTENTS

オンライン授業の設計・開発ステップ	01
ステップ 0 オンライン授業をイメージする	
0-1 オンライン授業の紙上体験	05
開講科目を知る	
サンプルA(ディスカッション中心型)を体験する	07
サンプルB(小テスト中心型)を体験する	19
0-2 シラバスを用意する	20
授業を通して獲得してほしいことを考える	21
どのような授業構成にするかを考える	22
ステップ 1 学生に授業概要をどのように伝えるか考える	23
ステップ 2 各回の授業を考える	24
ステップ 3 A 開発スタッフにコンテンツ案を伝える	30
B 授業1回分のコンテンツを開発する	30
ステップ 4 ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする	31
A 「ここからスタート」シート	32
B 「コース全体」シート	33
C 「ガイダンスコンテンツ」シート	34
D 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シート	36
E 「確認結果」シート	38
F 「ガイドライン」シート(参考)	39

オンライン授業の設計・開発ステップ

本書では、下記に示すステップでオンライン授業を設計していきます。最初にオンライン授業のイメージを固めるため、サンプルをご覧ください(ステップ0-1)。次に授業の大枠を設計します。シラバスを作成済みの場合は、あらかじめお手元にシラバスをご用意ください。まだシラバスがない(新規科目)の場合は、ステップ0-2を参考にシラバスを作成しましょう。その後、ステップ1～ステップ2で授業の詳細設計をします。自分では開発しない(開発スタッフががいる)場合はステップ3Aを、自分で開発する場合はステップ3Bを参考にしてください。最後のステップ4で開発中のコンテンツがガイドラインに沿っているかチェックし、必要に応じて再設計しましょう。



ステップ 4 ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

ここまで考えてきたオンライン授業が、「オンライン授業設計ガイドライン」に準じた質保証ができていないかを検討します。「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート(Excelファイル)」を使用して、自己チェックまたは誰かにチェックしてもらいましょう。

確認シートを使う前に以下を用意してください。

- 必須 実際に開発したオンラインコース (開発途中で可)
- 必須 該当科目のシラバス
- ガイダンスページ設計書 (もしあれば)
- コンテンツ開発指示書 (もしあれば)



確認シートは、以下の6つのシートで構成されています。

- A 「ここからスタート」シートに入力
- B 「コース全体」シートに入力
- C 「ガイダンスコンテンツ」シートに入力
- D 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シートに入力
- E 「確認結果」シートに結果が出る!
- F 「ガイドライン」シートでガイドライン本文をチェック!

A~Dのシートに必要な項目を入力すると、Eのシートでガイドラインに準拠しているかが確認できます。Fのシートはガイドライン全文ですので、必要に応じて参照してください。

(2) 開講科目一覧が確認できます。さらに、所属大学の履修案内ページに移動すると、LMS (Learning Management System: 学習管理システム) へのログイン方法などの説明があります。



各大学の履修登録方法、システムへのログイン方法、開講科目のシラバスなど

開講科目一覧



なるほど、センター四国のホームページに開講科目の情報があるのね。

● 支援スタッフへのアドバイス

開発済みのコースがある場合は、科目担当教員へ実際のコースをいくつか見せてください。

ステップ 0 オンライン授業をイメージする

0-1 オンライン授業の紙上体験

はじめてオンライン授業(e-Learning)を実施する場合、どんなものかわからず、不安もあるかと思いますが、この節ではフルオンライン(対面授業がない)サンプルコースをご覧いただけます。A先生、B先生になったつもりで紙上体験してみてください。

はじめてe-Learning科目を実施します!

開講科目を知る

そもそもどんな科目がe-Learningで開講されているのかな? 各大学の開講科目を知りたいな。



A先生

(1) パソコンのブラウザソフトを起動し、「大学連携e-Learning教育支援センター 四国 (http://chipla-e.itsc.kagawa-u.ac.jp)」のホームページにアクセスします。メニューから「開講科目」をクリックします。



ステップ 0 オンライン授業をイメージする

サンプルA(ディスカッション中心型)を体験する



いろいろな科目がオンラインで開講されているけれど、実際はどんな中身になっているんだろう? 講義ビデオを90分×15分も用意しないといけないのかな。大変そうね。

典型的なオンライン授業例として、学生同士のディスカッションを中心としたサンプルコースをみてみましょう。以下は、徳島大学開講科目「モラエスの徳島」の例です。

(1) 以下はコーストップページです。学生は、最初に「学修ガイド(ガイダンスページ)」に進みます。



(2)「学修ガイド」では、授業の概要、教科書、スケジュール(各回の間数可能時期や課題締切日など)、成績評価などを説明しています。



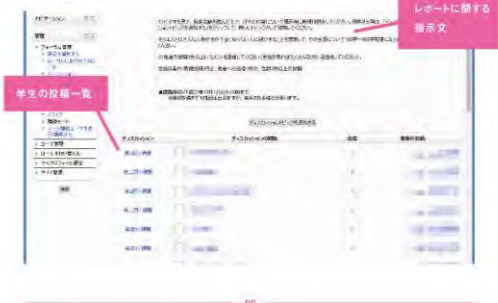
(3) 授業1回分の内容は次の通りです。



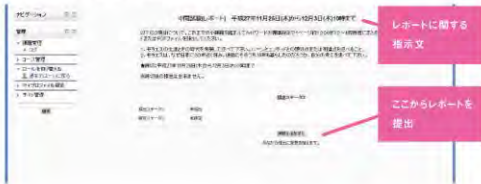
(4) 学生は教科書の指定ページを読み、15分程度の解説ビデオを見ます。



(5) その後、学生は指定されたテーマでレポートを作成し、電子掲示板に投稿します。電子掲示板では、他の受講者が投稿したレポートを読み、コメントを返信します。また科目担当教員もコメントを投稿します。



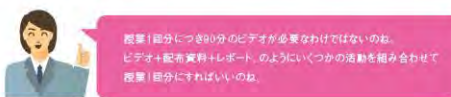
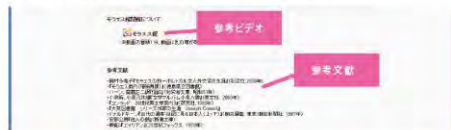
(6) 第6回の後に中間試験、第15回の後に期末試験があります。中間試験と期末試験はレポート形式になっています。学生は、Word等でレポートを作成し、指定期限内にレポート提出へ提出します。中間試験と期末試験のレポートは、他の受講生には見えません。



(7) 教員は提出されたレポートにコメントと成績をつけて学生に返却します。



(8) コース上には自己学修のための参考文献やビデオも用意しています。



ステップ 0 オンライン授業をイメージする

サンプルB (小テスト中心型) を体験する



私の科目では、基礎知識の獲得を目指している。学生同士で正解を共有されると困るから、テーマを設けてディスカッションをするやり方は不向きだ。別の授業方法はないだろうか？

もう一つの典型的なオンライン授業例として、小テストを中心としたサンプルコースをみてみましょう。以下は、高知大学開講科目「海洋基礎生態学」です。

(1) 以下はコーストップページです。学生は、最初に「この授業について (ガイダンスページ)」に進みます。



12

(3) 授業1回分の内容は次の通りです。



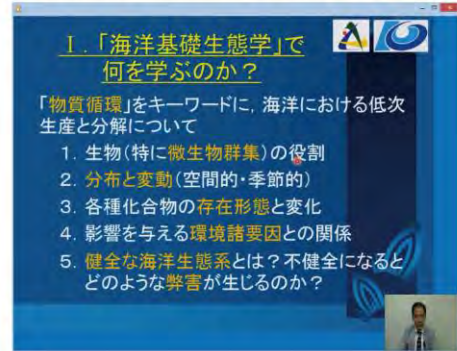
14

(2) 「学習ガイド」では、授業の概要、教科書、スケジュール (各回の閲覧可能時期や課題締切日など)、成績評価などを説明しています。



13

(4) 学生は配布資料を手元に置き、10~20分程度の講義ビデオを見ます。



15

(5) 講義ビデオ視聴後、学生は確認テストを受験します。

確認テスト内容

正解になるまで何度でも受験できる

16

(7) 小テスト提出後、提出を自己申告し、次の回へ進みます。

提出の自己申告

18

(6) 複数パートの学習し、各種テストに全問正解後、学生は小テスト(記述式の小レポート)を受験できます。

小テストは一度だけ

この欄へ解答を記述

17

(8) 提出締切後、教員は提出されたミニレポートを採点し、講評を記述します。

講評

(9) 第15回の後に期末試験があります。

授業1回の間に何度か確認テストがあると、理解が確実になりそうだね。各自最後の記述式テストとその講評によって、学生との直接的なやりとりもできるな。

私の科目の場合、毎回の授業ではビデオ+小テストを基本にするとよさそうだ!

19

ステップ 0 オンライン授業をイメージする

0-2 シラバスを用意する

オンライン授業のイメージをつかめたでしょうか。次の準備はシラバス作成です。シラバスを作成済みの場合、お手元を用意してください。電子ファイル（Word等）をご用意いただくと、これ以降の作業はワークシートにコピー＆ペーストするだけ済むことが多くなるでしょう。シラバスがある場合はステップ1へ進んでください。

まだシラバスがないという場合は、巻末付録のシラバステンプレート（入力シート）をご用意ください。そして、次ページへ進んでください。

●支援スタッフへのアドバイス
シラバステンプレート、シラバスチェックシート等を科目担当教員へ送ってください。

ステップ 0 オンライン授業をイメージする

どのような授業構成にするかを考える

ある程度、授業全体を通じて獲得して欲しい内容についてのイメージがいたら、具体的にどんな授業構成にするかを考えます。どのような内容で、どのような順番で教えるかを考えます。授業回のタイトルを考えることに相当します。その際のポイントは、授業の内容と評価の内容がマッチしているかどうかを一層に考えることです。

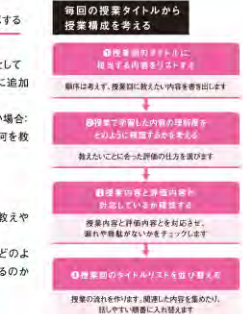
●授業回のタイトルに相当する内容をリストする
教えた内容を書き出します。この段階では、順番などは考えずとりあえず授業回に相当する内容を書き出してください。

●授業で学習した内容の理解度をどのように確認するかを考える
前ページの③「どのように評価できそうか？」で考えた評価内容を確認してください。もう少し具体的になりそうなる部分があれば具体的にしてください。

●授業内容と評価内容が対応しているか確認する
教えない内容が評価に含まれている場合：評価からその内容を外すか、教える内容として前ページの①「何を教えるか？」のリストに追加してください。
教える内容であるが、評価には含まれていない場合：評価項目を追加するか、前ページの③「何を教えるか？」のリストから削除してください。

●授業回のリストを並び替える
①～③から出てきた、授業回のタイトルを教えるように並び替えてください。関連する項目や、ストーリー性を意識して、どのような順番で授業を進めるとわかりやすくなるのか書き出してください。

●やってみよう！
シラバスがある場合、お手元のシラバスの各回のタイトルを確認しましょう。シラバスがない場合、お手元の「シラバステンプレート」に各回のタイトルを入力しましょう。



ステップ 0 オンライン授業をイメージする

授業を通じて獲得して欲しいことを考える

●解説
eラーニングで授業を行う際も、通常の対面授業と同じように、何を教えるかを考えます。つまり、誰に、どんな内容を教えるか、そしてそれをどのように評価するかを最初に考えてください。初期段階で考えておく必要があるのは、授業を通じて学生にできる・わかるようになってほしいこと、そして、それをどのように確認（評価）することができるかです。

●何を教えるか？
教えた内容の特徴やキーワードを書き出しながら、何を教えたのが簡単に確認してください。

●対象は誰か？
教えた内容を誰に教えるのかを確認してください。対象者を確認しておくことは、授業の難易度を調整するために大事です。学部生に共通教育の科目として提供することが多いと思いますが、そうでない場合もあるでしょう。特に、学生が授業を受ける際に持っている前提知識を洗い出しておきましょう。

●学生に得てほしいスキルはなにか？
①「どんな内容であるかはある程度洗い出しましたが、ここでもう一歩踏み込んで、先生の授業を受けた後、学生にどんな力を身につけてほしいか書き出してください。」

●どのように評価できそうか？
③「考えた、学生に身につけてほしい力は、どのように評価することができるのか、考えてください。」



●やってみよう！
シラバスがある場合、お手元のシラバスを見て、次の項目に書かれていることを確認しましょう。シラバスがない場合、お手元のシラバステンプレートに次の項目を入力しましょう。

- ① 何を教えるか?.....科目名、キーワード、概要
- ② 対象は誰か?.....対象者
- ③ 学生に得てほしいスキルはなにか?.....学習目標
- ④ どのように評価できそうか?.....評価方法

ステップ 1

学生に授業概要をどのように伝えるか考える

●解説
ここでは、シラバスの内容を、学生にわかりやすく伝える方法を考えます。対面授業では、第1回目の授業でガイダンスやオリエンテーションを行い、授業概要を口頭で伝えることが多いでしょう。オンライン授業でも、最初に学生に授業概要を伝えることはとても重要です。学生が本当にこの授業を履修するのか、最後まで取り組めそうかを判断する材料になるからです。オンライン授業に慣れない学生にもどんな授業なのかをしっかり伝えるように、オンラインコース上に「ガイダンスページ」を作成します。以下の各項目について検討し、学生に伝わるガイダンスページを設計してみましょう。

- 【ガイダンスページ設計書の項目】
- 1 科目名
 - 2 担当教員
 - 3 学生から担当教員への連絡方法
 - 4 システム等問い合わせ先
eラーニングではシステム上のトラブルがつきものです。授業担当教員では対応が難しい場合も多いので、システム等の問い合わせ先を明確にしておきましょう。
 - 5 シラバス参照先URL
 - 6 冒頭挨拶文
簡単なウェルカムメッセージを2-3行程度で。自己紹介でもよいですし、写真やビデオを入れることもできます。
 - 7 科目概要
 - 8 教科書・配布資料・参考文献
 - 9 前提条件(前提科目)
 - 10 学習目標
 - 11 評価方法
期末テストや毎回のテスト、ディスカッションなど、どのように評価をするのか考えます。
 - 12 字体的進め方
各回でどんな活動をするのか考えます。
 - 13 教材の見せ方
全ての授業回をまとめてオープンか、いくつか分割してオープンかなどを考えます。eラーニングでは学習の進め方やスケジューリングに柔軟性をあたえられるように、ある程度まとめて教材をオープンすることをお勧めします。次項のスケジュールと合わせて検討してください。
 - 14 スケジュール
まずは、教務担当者などに、開講可能日と終了日を確認してください。その範囲内で、毎回の授業をどんなスケジュールで提供するかを考えてください。
 - 15 その他の注意事項
(学生に知らせたいことを書いてください)
 - 16 授業回タイトルと内容

【コンテンツ開発指示書の各回部分】

授業1回分の中で、最低でも以下の4つの要素のコンテンツを用意する必要があります。全て必須コンテンツです。

- 授業内容(情報提示コンテンツ): 授業内容そのものを伝えるコンテンツです。文章や図表を読ませるなら文字情報(PDFファイル等)を用意します。一方で、近年の学生は動画を好みますから、ビデオを作ることも検討します。
- 学修活動コンテンツ: PDFファイルを配布したり、ビデオを見せたりするだけでは学びにつながりません。必ず学習者がアウトプットをする活動を入れてください。具体的には、小テストや小レポート、電子掲示板を用いたディスカッションなどです。
- 自主学修促進コンテンツ: 学生の自己学修を促すコンテンツも用意しましょう。なお、導入部分にまとめて用意するなら、各回では省略してもよいでしょう。
- 評価コンテンツ: 毎回の学修成果を評価するためのコンテンツを考えます。学修活動コンテンツと組み合わせ、それを毎回の評価にしてもよいでしょう。また、複数回の授業をまとめて「ブロック」を構成し、ブロック単位で大きな課題を出すことも考えられます。たとえば、授業全体を2ブロックに分けて、前半ブロック終了後に「中間試験」、後半ブロック終了後(最終回)に「期末試験」を課すことなどが考えられます。



以下は記入例です(詳しくは配布のExcelファイルをご参照ください)。

授業回数	授業内容	情報提示	学修活動	自主学修促進	評価
1	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
2	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
3	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
4	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
5	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
6	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
7	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
8	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
9	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
10	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価

ステップ 3A

開発スタッフにコンテンツ案を伝える

シラバス、オンライン授業設計シートを開発スタッフに渡し、打ち合わせをしましょう。手始めに授業1~2回分のコンテンツを作る役取りを詰めていきましょう。

ステップ 3B

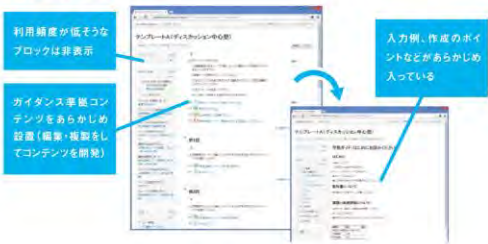
授業1回分のコンテンツを開発する

自分でコンテンツを作る場合は、Moodleにある「テンプレート」をコピーして、必要箇所を修正しながらコンテンツを開発することができます。また、テンプレートの入力例である「サンプルコース」もありますので、適宜参照してください。

※テンプレートは以下から閲覧できます。
<http://atakahashi.sakura.ne.jp/27/> ID: guest101 PASS: guest-T01

※テンプレートをダウンロードしたい場合は、別途お問い合わせください。
 高橋映子(徳島大学)atakahashi@tokushima-u.ac.jp

テンプレート例



授業回数	授業内容	情報提示	学修活動	自主学修促進	評価
1	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
2	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
3	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
4	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
5	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
6	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
7	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
8	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
9	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価
10	授業内容	授業内容	学修活動	自主学修促進	評価

なお、自分でコンテンツを開発しない場合は各回部分のコンテンツを詳細に決めて、開発スタッフへ送す必要があります。もちろん、様々な制約から実際には開発が難しいコンテンツもありますから、授業1~2回分の案を作ったら一度開発スタッフに見せて、相談しながら詳細を詰めていってください。

自分でコンテンツを開発する場合も、とりあえず導入部分と授業1回分だけ設計してみましょう。ステップ3Bで授業1回分のコンテンツを実際にとってみて、設計通りうまく作れそうなら残りの授業回も同じように作ればよいでしょう。一方で、設計通りにはうまく開発できない場合は、ステップ2に戻ってきて改めて各回の授業設計をしましょう。

やってみよう!

「オンライン授業設計シートにコンテンツ開発指示書」に記入してください。シラバスがある場合は、基本情報の箇所はシラバスからコピー&ペーストしてください。現時点でわからない箇所は空欄でも構いませんが、なるべく埋めてみましょう。



ステップ 4

ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

解説

ここまで考えてきたオンライン授業が、「オンライン授業設計ガイドライン」に準じた質保証ができているかを確認します。「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート(Excelファイル)」を使用して、自己チェックまたは誰かにチェックしてもらいましょう。

確認シートを使う前に以下を用意してください。

- 必須 実際に開発したオンラインコース(開発途中可)
- 必須 該当科目のシラバス
- ガイダンスページ設計書(もしあれば)
- コンテンツ開発指示書(もしあれば)



確認シートは、以下の6つのシートで構成されています。

- A 「ここからスタート!」シートに入力
- B 「コース全体」シートに入力
- C 「ガイダンスコンテンツ」シートに入力
- D 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シートに入力
- E 「確認結果」シートに結果が出る!
- F 「ガイドライン」シートでガイドライン本文をチェック!

A~Dのシートに必要な項目を入力すると、Eのシートでガイドラインに準拠しているかが確認できます。

Fのシートはガイドライン全文ですので、必要に応じて参照してください。

ステップ 4 ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

D 「授業コンテンツと自主的な活動を促すコンテンツ」シート

必須項目である、薄い黄色のセルに入力します。水色のセルはオプション項目です。

※このシートは、各科目の授業計画シートです。
 1科目につき、1シートを作成してください。
 1科目の授業計画シートを作成する際は、以下の項目を入力してください。

1. 科目名
 2. 担当教員
 3. 履修年次
 4. 履修単位数
 5. 授業形態
 6. 授業時間
 7. 授業科目の到達目標
 8. 授業計画の概要
 9. 授業計画の詳細
 10. 授業計画の作成者

すべての授業回について、
 どのようなコンテンツを用いているか入力

授業回数	授業内容	授業形態	授業時間	到達目標	授業計画の概要	授業計画の詳細	授業計画の作成者
1	ガイダンス	講義	15分	ガイダンス	ガイダンス	ガイダンス	担当教員
2	基礎知識の習得	講義	30分	基礎知識の習得	講義	講義	担当教員
3	応用知識の習得	講義	30分	応用知識の習得	講義	講義	担当教員
4	実践的知識の習得	講義	30分	実践的知識の習得	講義	講義	担当教員
5	総合的知識の習得	講義	30分	総合的知識の習得	講義	講義	担当教員

ステップ 4 ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

E 「確認結果」シート

A~Dのシートを入力した後、E「確認結果」シートを表示すると、ガイドライン準拠状況が確認できます。

確認結果シート

項目	確認結果
1. 科目名	○
2. 担当教員	○
3. 履修年次	○
4. 履修単位数	○
5. 授業形態	○
6. 授業時間	○
7. 授業科目の到達目標	○
8. 授業計画の概要	○
9. 授業計画の詳細	○
10. 授業計画の作成者	○

最終的には、本ページを印刷・共有し、本ファイルはエビデンスとして保管しておきましょう。

やってみよう!

作成したコンテンツ、シラバス、ガイダンスページ設計書、コンテンツ開発指示書等を見ながら、「オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート」に記入しましょう。ガイドラインに沿ったコンテンツなのか、漏れはないのを自己チェックしてください。

ステップ 4 ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

F 「ガイドライン」シート (参考)

項目	確認結果
1. 科目名	○
2. 担当教員	○
3. 履修年次	○
4. 履修単位数	○
5. 授業形態	○
6. 授業時間	○
7. 授業科目の到達目標	○
8. 授業計画の概要	○
9. 授業計画の詳細	○
10. 授業計画の作成者	○

ステップ 4 ガイドラインに基づいた授業になっているかチェックする

F 「ガイドライン」シート (参考)

オンライン授業設計ガイドライン全文を掲載しています。ガイドラインの内容を確認したいときに参照してください。入力項目はありません。以降では、参考までにガイドラインの設計意図を解説します。

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による高等教育の共同実施」オンライン授業設計ガイドライン

1. eラーニングコンテンツの範囲

(1) このガイドラインで取扱う「eラーニングコンテンツ(以下、「コンテンツ」という。))とは、大学連携e-Learning 教育支援センター-四国が知のプラットフォーム形成事業に関する教材を開発し、運用するものを指す。^{[1][2]}

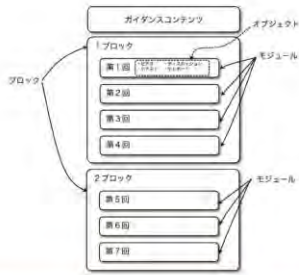
▶本ガイドラインは、大学連携e-Learning 教育支援センター-四国が知のプラットフォーム形成事業で開発したコンテンツを対象としています。一方で、高等教育機関で使用するコンテンツ全般に適用することも可能です。

2. eラーニングコンテンツの定義

- (1) 単独で利用可能な最小単位の教材を「オブジェクト」という。^[3]
- (2) 複数のオブジェクトを組み合わせて構成されたコンテンツ群を「モジュール」という。1モジュールは授業1回分に相当する。
- (3) 複数のモジュール、つまり授業回数分をまとめた単位を「ブロック」という。ブロックは、授業の構成を分かりやすく伝えるために科目構成に応じて用いる。^[4]
- (4) 複数のモジュールまたは複数のブロックで1コースを構成する。1コースとは、単位付与の基準に相当する学修活動を満たすモジュール(またはブロック)群のことである。^[5]

▶ガイドラインで用いる用語の定義です。大きさは、コース>ブロック>モジュール>オブジェクトになります。以下の関係図も参考にしてください。

[1] 知のプラットフォーム形成事業のシステム構築を用いたとしても、自治体等ではなく、各大学が専攻する科目を対象外とする。
 [2] フォンテック以外の形態の授業におけるコンテンツの活用を指すものではない。
 [3] ただし、単独で利用可能な最小単位の教材を指すものではない。
 [4] VOI、FOIファイル、電子教材収録ファイルは、それぞれ単独で利用することが可能な3つのファイルとなす。収録ファイルで構成することで授業内容が提供される場合、またして「オブジェクト」とする。
 [5] たとえば、1ブロックがモジュール1-5、2ブロックがモジュール10-15、3ブロックがモジュール11-15といふブロックを構成する。
 [6] ただし1単位付与を前提とした場合は、1コースには4単位程度の学修活動を満たすことになる各のモジュール数を指す。



3. 成績判定

(1) モジュールに含まれる学修活動⁽¹⁾⁽²⁾は出席に相当する。全モジュール内の学修活動を一定以上⁽³⁾実修し提出することで学業成績の判定要件を満たす。

▶近年の高等教育(対面授業)では、出席点はありません。オンライン教育においても、単にコンテンツを開いただけでは成績に反映させません。とはいえ、できるだけすべてのコンテンツで学んでほしいため、3分の2以上の学修活動を行うことで「出席」とみなし、成績に反映される最終レポートの提出資格や期末試験の受験資格を得られるようになります。

(2) 成績はモジュールに含まれる学修活動とそれ以外の学修成果(試験レポート・作品課題など)の組み合わせで評価する。評価対象となる試験レポート・作品課題などはそれぞれにおいて6割以上の点数を取得することで単位取得の最低条件とする。これによってすべての学修成果物で一定以上の成果を収めていることを確認する。

▶毎回の授業に含まれる学修活動(ミニレポートや小テストなど)と、それ以外の学修活動(試験レポート・作品課題など)の成績を組み合わせて評価します。つまり、期末試験だけで成績評価が行われるような「一発評価」が無いようにします。成績評価のチャンスは複数することで、学生が目標に向かって一歩ずつ達成感を味わう「動機づけ」の効果が期待できます。また、毎回の授業には参加せず、最後に試験だけを受験するような学生を防ぐことにもつながります。

⁽¹⁾ 4ヵ月オンラインコンテンプを用いた授業設計(9)を参照。
⁽²⁾ 本大学では各学域において出席数に関する要件は必ずしも定められていません。

4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計

(1) 1科目ごとに1コースを用いる。

▶1科目につき、eラーニングでは1コースを作ります。用語の定義の関係図も参照してください。

(2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用いる。

▶対面授業で15回分であれば、eラーニングでも15回のモジュールを用意します。用語の定義の関係図も参照してください。

(3) 学修者にとって学びやすい環境を整えるため、各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃える。⁽⁴⁾

▶対面授業は、1回90分、60分など決まっています。eラーニングでも、毎回同程度の学修時間となるように揃えることで、学びやすくなります。短時間で終わる簡単な回や、逆に非常に時間がかかる回を作ることを避けます。

(4) 数回分のまとめ学修を可能とするため、コンテンツの公開開始は数回分をまとめるか、あるいはブロック毎に定める。

▶授業回数分を「ブロック」としてまとめ、ブロック毎に公開していくことで、複数回のまとめ学修も可能とします。時間に制約されず、学生がある程度柔軟に「いつでも」学べるようにすることは、eラーニングならではのメリットです。

(5) 数回分のまとめ学修を可能とするため、推奨学修期間を設けるか、学修期間(締切日時)を設定する。

▶ブロック毎に公開しない(たとえば学習開始時にすべてのコンテンツを公開する)場合にも、学生に「推奨学修期間」を提示したり、いくつか課題の締切日に余裕を持たせてまとめて設定したりすることで、まとめ学修がしやすくなります。これも、学生が自分でスケジューリングをしていつでも学べる環境づくりにつながります。

(6) コース導入部分にはシラバスを示す。

▶コースの導入にシラバスを示すことで、学生が授業の全体像をつかむことが出来ます。

⁽⁴⁾ 7-1-2に当該授業で「単位取得科目」10回分を実践している場合は、1コース(15回分)をモジュール4本程度とし、1モジュールは3回分程度の学修活動に相当するコンテンツを用意する。授業に負担が大きい場合は、授業で学ぶ6-7回分を1モジュールとする。

コラム 再提出要件でチャンス拡大

成績評価において、非常に出来が悪かった場合、どうされますか。即、「不合格(単位を与えない)」とするよりも、「再提出要求」を出して、やり直しのチャンスを与えてはいかがですか。たとえば、eラーニングの小テストであれば何度でも受験可能とし、最高点を成績に反映させる設定にします。

また、レポートであれば、最低限の要件を満たしていないものは一定期間に再提出すれば成績に反映させるようにします。教員が何度も採点する手間を軽減するには、レポート提出前に「仮提出」をして学生同士でレビューする機会を設けるとか、最低限の要件を満たしているかを自己チェックする「チェックリスト」を配布しておく、といった作戦が使えます。余裕があれば、教員から「合格レベルだがもっと良くなるにはどうしてはどうか」というアドバイスを返却し、さらに良い成績になる機会を与えるのもお勧めです。

再提出要求を導入すると、学生にとっては成績評価のチャンスがさらに拡大し、結果的によく学ぶことにつながります。

▶評価対象となる試験レポート・作品課題などは、「それぞれ6割」以上の得点を得ないと、単位を出しません。「合計で6割」ではないことに注意してください。これは、学習目標と評価の整合性をとることにつながります。

たとえば学習目標が3つあり、評価対象となるレポートも目標に合わせて3つ用意したとします。レポートAを未提出だったら、レポートAに対応する学習目標Aは達成したとは言えないので、2つのレポートを提出してしまっても単位は出ません。また、3つのレポートがそろっていても、6割に達しない出来の悪いレポートが1つあったら、対応する学習目標を達成していないと言え、単位は出ません。もしも3つのレポートの合計で6割以上としてしまうと、著しく出来の悪いレポートが1つあるのに(学習目標の一つが未達成なのに)、単位を出すことになってしまいます。このように、評価対象について「それぞれ6割以上」とすることで、単位を出すということは、すべての学習目標を最低限は達成していると言えます。

コラム 「それぞれ6割」「合計で6割」

成績評価は「合計で6割」に、1つくらい出来が悪くてもカバーできるようにして頑張っている学生には単位をあげたい、なんとか救済したい、と考えるお気持ちもよくわかります。しかし、学習目標に対応させた最低限の学修成果を確認し、先生方が自信をもって「学生は学んだ」と言えることが教育の質保証の第一歩です。複数の評価対象を「それぞれ6割」にすることは、学習目標と成績評価のズレを防ぐことにつながります。

また、あとから救済できるような評価方法としておくのではなく、最低限の単位取得要件を「学生が普通に努力すれば達成できる程度」に抑えて、最初から学生に示しておくことをお勧めします。ガイドラインでは最低限の単位取得要件を事前に学生に提示することになっています。高すぎる要件にならないよう、注意して設定してください。また、毎回の学修活動の合格条件を明示するようになっていきます。毎回の学修活動を成績に反映させる際には、これらの合格条件もあまり厳しくないよう配慮しましょう。

(7) シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを示す。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回示しても良い。

- イ) eラーニング操作などについての問い合わせ先
- ロ) 対面のオフィスアワー相当の、学修者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段(eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど)
- ハ) 科目担当者による授業紹介(短編のイントロビデオ、または、写真と紹介文で、担当者の顔を見せ動機づけを促す目的を持つもの)
- ニ) 授業概要(タイトル、学修の進め方、コンテンツの利用方法、教科書学習・ビデオ学習・ディスカッションなどの学修活動の実施方法)
- ホ) スケジュール(コンテンツの公開日時及び締切日時、推奨学修期間)
- ヘ) 単位取得の条件(成績評価対象(複数)、各成績評価対象の評価基準(成績評価対象となる試験レポート・作品課題などがそれぞれにおいて6割以上の点数を取得する必要がある旨、あるいは6割以上の基準点を定めた場合はその点数)、モジュール内の学修活動が出席に相当する旨)

▶シラバスでは不足しがちな情報を補完するため、ガイダンスページを作成します。ガイダンスページには、イ〜ヘの内容を掲載します。

- イ) については、eラーニングにはシステム上のトラブルがつきものです。可能な限り、お使いのeラーニングシステムについて詳しい担当者の問い合わせ先を記載します。
 - ロ) では、学生がいつでも質問できる窓口を用意します。eメールアドレスが一般的ですが、必要に応じてその他の方法も検討します。
 - ハ) については、ビデオや写真で最初に教員の顔を見せることをお勧めします。顔を見せながら簡単な授業紹介をすることで、学生が教員や科目に対して親近感をもつでしょう。
 - ニ) は、シラバスには記載しにくい細かい情報になります。非同期的なeラーニングでは、このような内容について学生から質問があつたら回答するのはタイムラグが生じますので、事前に説明できることはすべて提示しておきます。
 - ホ) のスケジュールを提示することで、学生は自分で学習計画を立てることが可能になります。
 - ヘ) の単位取得条件は、シラバスに細かく記載している場合は転記して結構です。シラバスに詳細には記載していない場合は、必ず作成・掲示し、学生がeラーニングで本格的に学ぶ前に目を通せる状態にしておきます。
- 以上はすべて必須の内容です。漏れなくガイダンスページに含めます。

コラム 「S(秀)」は簡単にださない

ガイダンスページの中でも重要なのは単位の取得条件です。最低限の単位取得条件を「学生が普通に努力すれば達成できる程度」に抑え、単位を取ることはそう難しくないでしょう。しかし、先生方が「本来はここまで学んでほしい」「これくらい出来るようになってほしい」と考えるレベルはもつと上の場合も多いと思います。そこで、最低限の単位取得条件を設定すると同時に、それ以上の成績をつける基準も明確にし、学生に明示することをお勧めします。そして、「S(秀)」は素晴らしい学修成果を収めたし獲得できないようにしておく、いわゆる「ふきこぼれ」(落ちこぼれの反対)を防ぐことにつながります。頑張りたい学生はここまで頑張れる、やりがいのある授業を検討しましょう。

⑬ ガイダンスコンテンツには必要に応じて、授業の前提知識の学修支援を目的とした学修活動コンテンツ(小テスト、小レポートなど)を含める。

▶ 授業の履修にあたって、前提となる知識がある場合(前提科目の指定がない場合)、本編が始まる前の位置に、前提知識の学修のためのコンテンツを用意します。前提科目を指定していたとしても、忘れていた恐れがあるようでしたら、前提知識を復習するコンテンツや前提科目へのリンクなどを用意するとよいでしょう。

⑭ 学習者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、学修の達成を確認できるようにすることにより対面授業と同等の質を担保する。そのため、1モジュール(授業1回分)には以下の内容を含める。

- イ) 授業内容(教科書などの情報コンテンツ): 文字、音声、動画、静止画など⁽¹⁴⁾
- ロ) 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ: 小テスト、小レポート、電子掲示板など
- ハ) 学修活動コンテンツの要件・合格条件(小テスト・小レポートの合格点など)、フィードバック方法(自動採点、手動採点、学生同士の相互フィードバック、教員・ティーチングアシスタントからの1件毎のフィードバック・まとめフィードバック、模範解答の提示、解説など)、フィードバック実施期間の設定など

▶ 1モジュール(授業1回分)には、原則、「イ)授業内容」「ロ)学修活動コンテンツ」の2種類のコンテンツを用意します。「イ)授業内容」だけでなく、情報のインプットだけでなく、学生自身が考え、アウトプットする機会がないので、学習効果が見込めません。必ず「イ)授業内容」「ロ)学修活動コンテンツ」をセットで用意し、新たな知識を応用する機会を作ります。

また、「ロ)学修活動コンテンツ」を成績に反映させる場合は、必ず「合格条件」を明示します。小テストなら「〇点以上で合格」、掲示板なら「新規投稿1件、他者へのコメント1件の合計2件の投稿で合格」といった形です。

さらに、「ロ)学修活動コンテンツ」は「双方向性を有した」ものであるため、学生の回答に対する「フィードバックの方法」や「フィードバックのタイミング(実施期間の設定)」も示します。フィードバックは学生の動機づけに大きな影響を与えるものであるため、いつ、だれが、どのように行うかをよく検討してください。

(14) 画像・音声、テキストファイル、VOD、PDFファイルなど



コラム ビデオに教員の顔は必要?不要?

「イ)授業内容」を伝えるメディアとしては、ビデオを用いる方が多いでしょう。ビデオでは、教員の顔見せは必要でしょうか。結論から言うと「顔に顔を出す必要はない」です。教育メディア研究から、人は1度に大量の視覚情報を処理できないことがわかっています(能力の限界原理)。また、eラーニングコンテンツは、顔とキーセンテンスを見て、音声による説明を行うときが、最も意味を理解しやすいと言われています(たとえば永田・岡本 2010)。以上から、視覚情報として「学習内容そのもの(図やキーセンテンス)」と「教員の顔」の2つを提示すると、情報過多となり学習者の気を散らす可能性があります。一方で、たまに顔を見せることで学生に親近感を与えたり、マンネリ防止になったり、という効果は期待できるかもしれません。

※引用元:永田・岡本(2010) 教育技術による意味的関係性構築のメカニズム「効果的e-Learning」コンテンツの構成と効果として、教育システム情報学会誌27(3)pp.244-253

コラム フィードバックは教員でなくてもよい

「ロ)学修活動コンテンツ」ではフィードバックの設計が肝要です。しかし、必ずしも全学生に対して教員が個別にコメントをする必要はありません。ポイントは「即時フィードバック」です。なるべく早くフィードバックを送ることで、学生のやる気も高まりますし、学修効果も見込めます。たとえば「小テスト」であれば、正誤判定が出るものであればeラーニングシステムが即時解答できます。正誤判定ができない、文章を入力させるタイプの問題だったとしても、模範解答やよくある間違いなどを用意しておけば、学生の回答直後に表示させることは可能です。これはレポート提出でも同様です。また、掲示板を用いる(学生の投稿内容がクラス全員に見える)場合には、学生同士でコメントをさせたたり、ティーチングアシスタントがコメントをしたりすることもフィードバックの一つです。教員がコメントを担当せざるを得ない場合も、まとめコメントを1件投稿するとか、各自一言だけ(あるいは点数だけ)返すだけでも、まったくフィードバックをしないよりはるかに効果的です。このように、なるべく早く一度回答をして、レポート添削する必要があればあらかじめ正式なコメントを送ることをお勧めします。

⑩ コース内には、授業外の自主的な学修を促すコンテンツを示す。自主的な学修を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。

- イ) 参考情報(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)
- ロ) 授業内容についていけない学習者を対象とする復習の支援を目的とした学修活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧、小テスト、小レポート、電子掲示板など)
- ハ) 発展的な学修の支援を目的とした学修活動コンテンツ(リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など)

▶ ご存知のように大学設置基準第21条では、一単位は45時間分の学修を必要とする内容と定められています。そこで、大学の一般的な授業では、教室での講義90分だけではなく、講義の前後の予習・復習も含めて一単位あたり45時間分の学修になるよう設計されています。eラーニングも同様で、毎回の授業(モジュールに相当)だけでなく、自主的な学修を促すコンテンツを用意することで、一単位あたり45時間分の学修を必要とする内容になるよう設計します。そこで、イーハのいずれか1つ以上を用意します。毎回の授業(モジュール)の中に、毎回イーハに相当するコンテンツを用意することも考えられますし、モジュール外にまとめて用意することも考えられます。

eラーニングではじめよう、

ONLINE COURSE DESIGN GUIDEBOOK

オンライン授業設計ガイドブック

2017.2.28

主な執筆者

- 根本淳子(愛媛大学) nemoto.junko.nu@ehime-u.ac.jp
▶ ステップ0-2、ステップ1
- 竹岡篤永(高知大学) atakeoka@kochi-u.ac.jp
▶ ステップ0-1(サンプルB)、ステップ4
- 高橋暁子(徳島大学) atakahashi@tokushima-u.ac.jp
▶ ステップ0-1(サンプルA)、ステップ2
ステップ3、ステップ4(ガイドラインの解説)

おわりに

ここまで進めてみて、ガイドラインに基づいたオンライン授業は開発できそうですか?途中で授業の不備に気づいた方も多いと思います。そんな時は、焦らず改善の道を探ってください。もし今年度は無理ならば、来年度以降に改善に取り組んでください。一度で完璧なコンテンツを開発することは難しいですが、何度か改善を加えることで、学生にとって学びやすいコンテンツに仕上がっていきます。

また、本書で示したガイドラインの要件を超える要なる工夫も大歓迎です。効果・効率・魅力のあるコンテンツが出来ましたら、我々にも情報共有をしていただければ幸いです。

付 録

- オンライン授業設計ガイドライン
- シラバステンプレート(Wordファイル)
- オンライン授業設計シート(Excelファイル)
- オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート(Excelファイル)

謝 辞

事例を提供して下さった先生方

宮崎 隆義先生(徳島大学)

▶ ステップ0-1(サンプルA)

深見 公雄先生(高知大学)

▶ ステップ0-1(サンプルB)

井戸 慶治先生(徳島大学)

▶ ステップ0シラバス例

▶ ステップ2オンライン授業設計シート



資料 D) コンテンツ開発ガイドライン

コンテンツ開発ガイドライン（2014年9月5日）

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国

目次

1. はじめに（趣旨）	2
2. 用語の定義	2
3. 著作権等の処理	2
4. コンテンツ開発	2
5. ガイドラインの更新について	3

1. はじめに（趣旨）

このガイドラインは、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業における「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業（以下、知プラe事業）で開講するe-Learning科目のコンテンツを四国5国立大学（以下、連携大学）で開発することに関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 用語の定義

本ガイドラインで取扱う「eラーニングコンテンツ（以下、コンテンツ）」とは、大学連携e-Learning教育支援センター四国が知プラe事業に関する教材を開発し、運用するものを指す。

1) コンテンツ、モジュール、ブロック

本ガイドラインで取り扱う「オブジェクト」「モジュール」「ブロック」の定義は「知プラe事業オンライン授業設計ガイドライン」¹に準拠する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・オブジェクト
単独で利用可能な最小単位の教材を指す。
・モジュール
複数オブジェクトを組み合わせて構成されたコンテンツ群をモジュールという。1モジュールは授業1回分に相当し、次の要素を含む。<ul style="list-style-type: none">イ 授業内容（教科書などの情報コンテンツ）：文字、音声、動画、静止画などロ 授業内容に関する双方向性を有した学修活動コンテンツ：小テスト、小レポート、電子掲示板などハ 自主的な学修を促すためのコンテンツ：参考情報（リンク集、コラム、アドバイス）などニ 上記3点を含むことで、学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、実際に活動したことを確認できるようにする。
・ブロック
複数モジュール、つまり授業数回分をまとめた単位をブロックという。ブロックは、授業の構成を分かりやすく伝えるために科目構成に応じて用いる。複数モジュールまたは複数ブロックで1コースを構成する。1コースとは、単位付与の基準に相当する学習活動を満たすモジュール（またはブロック）群のことである。 |
|---|

3. 著作権等の処理

1) 制作したコンテンツの著作権の帰属

制作したコンテンツの著作権はコンテンツを制作する責任大学の帰属とし、知プラe事業の目的に沿った範囲内で連携大学間での相互利用を認めることとする。

責任大学内における著作権の帰属（移転を含む）の手続きについては、各大学の裁量に委ねることとする。ただし、知プラe事業が円滑に進められるように配慮する。

2) 第三者著作物の利用

コンテンツを制作する際に第三者の著作物を利用している場合の著作権処理は、コンテンツを制作する責任大学が行う。ただし、知プラe事業が円滑に進められるように配慮する。

3) 肖像権、個人情報等の権利処理

制作したコンテンツに含まれる肖像権および個人情報等の権利処理は、コンテンツを制作する責任大学が行う。ただし、知プラe事業が円滑に進められるように配慮する。

4. コンテンツ開発

1) 想定する視聴環境

本ガイドラインで想定するコンテンツの視聴環境は、最低限、各大学に設置されているPCルーム等で視聴で

きるよう担保する。

- ・原則として、PCでの視聴を対象とし、スマートフォンや携帯電話での視聴は対象外とする。
ただし、各大学の裁量により視聴保証する環境を提供するのは拒まない。

2) 動画コンテンツの形式

動画コンテンツの形式（映像の解像度やファイルのフォーマット等）は、各大学のPCルーム等での視聴ができる形式とし、詳細は別に定める。

3) eラーニング講義の構成

eラーニング講義の構成は、「知プラe事業オンライン授業設計ガイドライン」に準拠する。

4. eラーニングコンテンツを用いた授業設計

- (1) 1科目ごとに1コースを用意する。
- (2) 1コースには一般的な対面授業の実施回数に相当するモジュール数を用意する。各モジュールの学修に要する時間をおおむね揃えることで、学修者にとって学びやすい環境を整える。
- (3) コンテンツの公開開始及び公開終了は原則としてブロック毎に定める。推奨学修期間は毎週設けるが、公開開始及び公開終了を毎週設けず、教回分のまとめ学修も可能にする。
- (4) コースの導入にはシラバスを示したうえで、シラバスの内容を補完するため、次の要素を含むガイダンスコンテンツを用意する。ただしガイダンスコンテンツは、科目特性や学修者特性に応じて、ブロックまたはモジュールの開始時に毎回用意しても良い。
 - イ 科目担当者によるイントロビデオ（顔を見せて動機づけをする目的に限定した短編）
 - ロ 授業概要（タイトル、進め方、コンテンツの利用方法、学修活動の実施方法など）
 - ハ スケジュール（コンテンツの公開日及び締切日、推奨学修日）
 - ニ 単位取得の条件（モジュール内の学修活動が出席に相当する旨、成績評価対象と基準点、基準点を満たすための最低条件）上記3点を含むことで、学修者が主体的に学修活動を進められる環境を提供し、実際に活動したことを確認できるようにする。
- (5) コース内には、授業外の自主的な学修を促すコンテンツを用意し、学修者が任意で利用できるものとする。自主的な学修を促すコンテンツには、以下の要素のいずれか1つ以上を含む。
 - イ 参考情報（リンク集、コラム、アドバイス、参考資料、文献一覧など）
 - ロ 前提知識の学修または発展的な学修の支援を目的とした学修活動コンテンツ（小テスト、小レポート、電子掲示板など）
 - ハ 対面のオフィスアワー相当の、学修者が科目担当教員または補助員へ質問ができる手段（eメールアドレス、電子掲示板、指定時間に公開するチャットなど）

4) Moodle の機能設定

「知プラe事業オンライン授業設計ガイドライン」にしたがい、各モジュールを構成するコンテンツのうちMoodleの機能を使用するものについては、円滑な講義運営（成績評価を含む）を保証するように設定することとし、詳細は別に定める。

5) コンテンツの開発から配信までのスケジュール

知プラe事業で開講する科目について、第1回目のe-Learning講義配信日の1か月前までにコンテンツを完成し、LMSへアップロードすることとする。各大学でチェックリスト（別に定める）に沿って動作確認を行う。

5. ガイドラインの更新について

このコンテンツ開発ガイドラインは年度末ごとに更新を行う。また、必要に応じその都度更新を行う。

ⁱ 四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」オンライン授業設計ガイドライン（質保証等検討WGにて作成）

改訂案 (高知大学)

コースコンテンツ確認シート

<提供大学記入>

平成 年 月 日

科目名:	
提供大学:	
URI :	

※「コース登録キー」及び「コンテンツ視聴用パスワード」は、下記の下線部に記載してください。

コンテンツの視聴確認 (□要 □不要 / 左記の選択肢から一つ選んで☑をつけてください。また、特別に確認してほしい項目があれば、下欄に記入してください。)

.....

<確認大学記入>

枠内の確認項目について、コンテンツ開発ガイドラインの定めに基づき結果をご記入ください。(コース登録キーとコンテンツ視聴用パスワードは提供大学でご記入ください。)

コースコンテンツ確認リスト

平成 年 月 日

確認大学 :

確認期間 : 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

確認担当者 :

視聴場所(*) :

(*) 視聴確認は、各大学の PC ルーム等に設置している PC で実施してください。

視聴ブラウザ(*2) : IE (), Firefox (), Chrome (), Safari ()

(*2) 括弧内に、実際に視聴したブラウザのバージョンを記入してください。また、提供大学から推奨ブラウザの指定があった場合は、指定のあったすべてのものについて確認をしてください。

(1) 提供大学の LMS へのログインとコース登録の確認 (コース登録キー : _____)

- LMS へのシボレス認証経由のログインができた
 - LMS 上の科目を登録 (コース登録) できた
- ログインやコース登録ができない場合は、できる限り詳細な状況を記載してください。

2) コンテンツの視聴の確認 (コンテンツ視聴用パスワード : _____)

- 確認項目なしのため視聴していない
 - 確認項目欄のすべてのコンテンツを視聴できた
 - 視聴できないコンテンツがあった
- 視聴できないコンテンツがあった場合は、具体的に記載してください。

コンテンツⁱ視聴確認の手引き

1. 科目提供大学の科目担当教員及び分室は、科目開講大学が指定する「コンテンツ確認項目」のコンテンツの視聴確認を入念に行ってください。
2. 科目提供大学分室において、コンテンツ視聴確認シートにおける「科目名」、「提供大学」、「URI」、「コース登録キー」、「コンテンツ視聴用パスワード」、「コンテンツ確認項目ⁱⁱ」を記入してください。
3. 記入を終えたら、企画委員 ML (chipla-el-kikaku-ml@cc.kagawa-u.ac.jp) と知ブラ e 事務担当 ML (chipla-el-jimu-ml@cc.kagawa-u.ac.jp) へ送ってください。
4. 科目開講大学分室において、当該科目（コース）の URI にアクセスし、「コンテンツ確認項目」の確認内容に従ってコンテンツ視聴確認を行ってください。視聴確認結果を「コンテンツ視聴確認リスト」に記載し、視聴確認期限までに企画委員 ML と知ブラ e 事務担当 ML へ送ってください。
 - ・ 動画については、動画の冒頭 5～10 秒間の再生ができることを確認できれば「視聴できた」と判断してください。
 - ・ 音声のみのコンテンツについても同様に、冒頭 5～10 秒間の再生ができることを確認できれば「視聴できた」と判断してください。
 - ・ 資料（PDF ファイル等）については、ウェブブラウザ上又は視聴確認 PC にインストールされているソフトウェアで閲覧（表示）できることを確認してください。
 - ・ その他のコンテンツ（小テストなど）についても、ウェブブラウザ上で閲覧（表示）できることを確認してください。
5. 科目提供大学分室は、科目開講大学分室から送られてきた「コンテンツ視聴確認リスト」を科目担当教員へ転送してください。もし視聴に問題のあるコンテンツがある場合は、コンテンツ配信開始日までに修正してもらえよう科目担当教員へ依頼してください。なお、生じた問題とその解決策の情報を連携大学間で共有するため、コンテンツ視聴確認リストに適宜追記し、企画委員 ML と知ブラ e 事務担当 ML へポストしてください。

ⁱ コンテンツの定義は「コンテンツ開発ガイドライン」に準拠します。

ⁱⁱ コンテンツ確認項目欄には、視聴環境の違いによって見えなくなる可能性のあるコンテンツ（例えば動画）等、科目提供大学が特に確認をして欲しいところを具体的に記入してください。

四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」 オンライン授業運用ガイドライン

1. e ラーニングコンテンツの範囲

- (1) このガイドラインで取扱う「e ラーニング」とは、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国が知のプラットフォーム形成事業に関する教材を開発し、運用するフルオンライン授業を指す。ⁱⁱ⁾

2. e ラーニングコンテンツの定義

- (1) e ラーニングコンテンツの定義は、オンライン授業設計ガイドラインに準拠する。

3. 学生サポート

- (1) 学生サポートとして、主に「ICT 技術支援」「学修支援」の 2 つの機能を置く。ⁱⁱⁱ⁾
- (2) 情報活用技術 (ICT) 支援
- (ア) 学生に対して e ラーニングの情報活用技術 (ICT) 的側面の支援を行うために、テクニカルヘルプデスク (電子メール、電子掲示板等) の設置や LMS の利用マニュアルの整備等を行う。また、技術的な支援サービスへのアクセス方法を学生に周知徹底する。
- (3) 学修支援
- (ア) 学生およそ 50 名につき 1 名の学修支援者を配置する。^{iv)} 学修支援者は、科目担当教員、アシスタント教員、学生チューターなどが担当する。
- (イ) 学修支援者は、電子メールや電子掲示板等のメッセージ機能を用いて、科目内容や学修方法等について、適宜、指導助言や対話を行う。
- (ウ) 学習支援者は、学生が e ラーニングで効果的に学ぶための新たな学修スキル (自己調整学習、能動的学習、協調学習など) の獲得を支援する。e ラーニングでは新たな学修スキルが必要であることを学生に周知し、コースワークへの組み込みや介入等を行う。
- (エ) 学修支援者は、関連リンク、オンラインデータベース等、オンラインで利用可能なリソースを学生に提示する。また、図書館にある参考文献の紹介、対面の機会など、オフラインのリソースも提供可能であれば提示する。
- (オ) 学修支援者は、学生がオンラインコミュニティを構築することを推奨し、支援する。
- (4) その他
- (ア) 専門の機器や学修教材を使用する場合、オリエンテーションやグループ活動など対面で行うことに意味がある活動を含む場合、成績評価においてセキュリティ上の課題が懸念される場合などは、学生に対面での出席を要求することができる。

- (イ) 学生が目的のコースへたどり着けるように十分なガイドを行う。特に多数のコースがある場合は、LMSにおいてコースのカテゴリ化やカリキュラムマップの導入等を行う。
- (ウ) 学生の個人情報の取り扱い等には十分に配慮し、適切なセキュリティレベルで運用する。

4. 学修支援者サポート

- (1) 本章での「学修支援者」とは、3. で挙げた学生の学修支援機能にあたるすべての者（科目担当教員、アシスタント教員、学生チューター等）を言う。
- (2) 学修支援者に対して e ラーニングの情報活用技術（ICT）的側面の支援を行うために、技術職員の配置やヘルプデスクの設置、LMS の利用マニュアルの整備等を行う。
- (3) 学修支援者の ICT スキル向上のために、研修等を実施する。
- (4) 学修支援者に対して e ラーニングの教育的側面の支援を行うために、インストラクショナルデザイナーによるコンサルティングの実施や、e ラーニング実践事例集の整備等を行う。
- (5) 学修支援者の e ラーニングを用いた教育スキル向上のために、研修等を実施する。

ⁱ 知のプラットフォーム形成事業のシステム基盤を用いたとしても、共同実施ではなく、各大学が単独で実施する科目は対象外とする。

ⁱⁱ フルオンライン以外の形態の授業におけるコンテンツの利用を妨げるものではない。ただし、利用に当たってはコンテンツの著作権者の許諾の範囲において利用する。

ⁱⁱⁱ 1人の人材または1組織が2つの機能を担ってもよい。各機関の実情に合わせて柔軟に実現する。

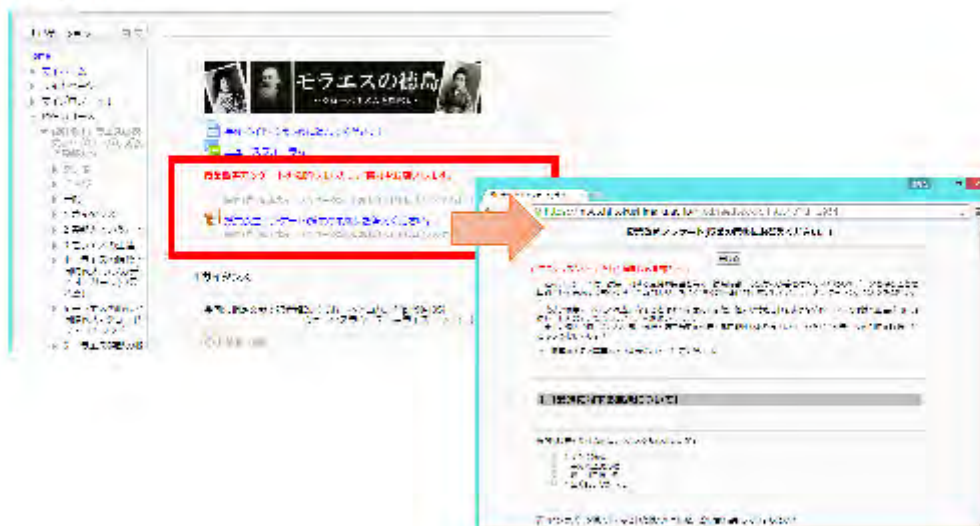
^{iv} 科目内容や学修者ニーズ、学修支援者の作業負荷等を考慮して、各機関において慎重に調整する。

2015/9/28 確定版

知プラ事業 授業改善アンケートの実施要領

- 目的：授業改善の参考資料とするため
- 対象者：知プラ開講科目の履修者
- 実施期間：各科目の開講時（1週間程度）
- 実施方法：
 - LMS (Moodle) 上の各コースにフィードバックモジュールとして授業改善アンケート設置
 - ◇ 知プラとして開講する自大学のすべての科目に授業改善アンケートを設置してください
 - ◇ 必要に応じて、別添のフィードバックモジュールの xml ファイルをインポートしてください
 - ◇ 各コースの開講 1 週間前程度にアンケートが公開されるよう、設定をお願いします
 - ◇ コーストップページの目立つ場所に設置し、コメントを添えるなど、学生へのアンケートの周知を工夫してください
 - ◇ 実際に設置作業をする担当者は、各大学で調整してください
 - 質問内容の詳細は次ページ以降参照
 - 各大学で実施されている授業評価アンケートとは別に行う
- アンケート結果の取り扱い：
 - 各大学（センター分室）で開講科目の結果を取りまとめ、質保障 WG へ報告
 - 質保障 WG で 5 大学の結果を取りまとめ、次年度の改善策などを検討
 - 質保障 WG から企画委員会へ、アンケート結果（5 大学まとめ）を報告
 - 質保障 WG から各大学のセンター分室へ、アンケート結果（5 大学まとめ）を報告
 - 各大学のセンター分室から科目担当教員へ、アンケート結果（5 大学まとめ+担当科目の結果）を報告

【設置例】



授業改善アンケート(授業の最後にお答えください。)

このアンケートは、授業に対する意見や要望を集め、授業内容・方法等の改善を行っていくためのデータを得ることを目的として実施するものです。全 29 問あり、およそ 10 分の回答時間を想定しています。アンケートのご記入をお願いします。

成績評価等について不利益になることはありません。また、個人が特定されるような情報については授業担当教員に提供しませんので、安心してご協力をお願いします。

また、個人が特定されない形で分析・研究結果を公表する可能性がありますので、あらかじめデータの引用を許諾くださるようお願いいたします。

I 【受講に対する意識について】

質問1. 授業を受ける前にシラバスを読みましたか。

- ①すべて読んだ
- ②半分以上読んだ
- ③軽く目を通した
- ④全く読まなかった

質問2. シラバスや授業中に示された授業の目標を、どの程度理解していましたか？

- ①十分に理解していた
- ②少し理解していた
- ③目標は知っていたが理解していなかった
- ④目標があることさえ知らなかった(授業中に示されず、シラバスも読んでいなかった)

質問3. 授業を受ける前に授業内容に関する関心度はどうでしたか。

- ①とても関心があった
- ②ある程度関心があった
- ③どちらでもない
- ④あまり関心がなかった
- ⑤全く関心がなかった

質問4. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか？(シラバスへのリンク)

- ①十分に達成できた
- ②少し達成できた
- ③あまり達成できなかった
- ④まったく達成できなかった

II 【eラーニング授業への取り組み方に関して】

質問1. eラーニングの授業は初めてですか。

- ①初めて
- ②以前に取り組んだことがある (最後まで行った)
- ③以前に取り組んだことがある (最後まで行かなかった)

質問2. 学習の進め方の計画と実際の進め方について教えてください。

- ①学習を始める前に学習予定を立て、ほぼその予定通りに取り組めた。
- ②学習を始める前に学習予定を立てたが、予定通りには進まない時があった。
- ③特に学習予定は立てなかったが、うまく学習できた。
- ④最後に駆け込みでなんとか間に合わせる事ができた。

その他：⑤具体的に

質問3. 学習が予定通りに進まなかったときのことを教えてください。(予定通りに進んだ方は①にチェックしてください。)

- ①予定通りに進んだ。
- ②締め切りをきっかけに自力で学習を立て直すことができた。
- ③友人など身近な人に相談することによって学習を立て直すことができた。
- ④教員などに相談することによって学習を立て直すことができた。

その他：⑤具体的に

質問4. 本授業 (eラーニング) を受講した場所について、主にどこで受講しましたか。

- ①大学内の PC が常設してある部屋 (PC 教室、図書館など)
- ②大学内の PC が常設してある部屋以外の場所
- ③自宅

その他：④具体的に

質問5. 本授業 (eラーニング) を受講した時間帯について教えてください。

- ①平日の授業の空き時間
- ②平日の朝や放課後 (授業時間帯の前後)
- ③土日や祝日

その他：④具体的に

質問6. この授業について1週あたり平均して、どの程度、学習 (ビデオ視聴、資料収集、文献講読、課題作成等のあらゆる活動を含む) をしましたか? 数回分まとめて取り組

2014/11/17

むことが多かった場合も、できるだけ1選あたりに平均して答えてください。

- ① 4時間以上
- ② 2時間以上4時間未満
- ③ 30分以上2時間未満
- ④ 30分未満
- ⑤ わからない

質問7. 本授業 (e ラーニング) で使用している学習支援システム (Moodle) の操作について

7-1 操作方法で迷ったりしましたか?

- ① 迷った
- ② 迷わなかった

7-2 7-1 で迷ったとお答えした方にうかがいます。迷った際、どのように解決しましたか。(複数回答可)

- ① 自分で解決した
- ② 近くにいる友人に聞いた
- ③ 同じ科目を履修している仲間聞いた
- ④ 教員に聞いた
- ⑤ eラーニングの授業をサポートする部署 (職員) に聞いた
- ⑥ 誰にも聞かなかった

その他: ⑦具体的に

質問8. eラーニングで提供される授業の良いと思う点をお書きください。

質問9. eラーニングで提供される授業で難しいと思う点をお書きください。

III 【授業全体について】

質問1. この授業の難易度は、適切でしたか?

- ① 難しすぎた
- ② 少し難しかった

- ③ 適切だった
- ④ 少し易しかった
- ⑤ 易しすぎた

質問2. この授業の学習量は、適切でしたか？

- ① 学習量が多すぎたので、減らすべきである
- ② 学習量が多いが、減らす必要はない
- ③ どちらともいえない
- ④ 学習量は少ないが、増やす必要はない
- ⑤ 学習量が少なすぎるので、増やすべきである

質問3. 教材についてお聞きします。次の教材は学習目標に到達する上で有効でしたか？

(5. 非常に有効だった, 4. 有効だった, 3. あまり有効ではなかった, 2. まったく有効ではなかった, 1. 教材としては提供されたが使用しなかった, 0. 教材として提供されなかった)

1	視聴覚教材 (ビデオ等)	5	4	3	2	1	0
2	教科書・参考書や配布資料	5	4	3	2	1	0
3	紹介された参考リンク (インターネット上の情報源)	5	4	3	2	1	0
4	クイズ (小テスト)	5	4	3	2	1	0
5	掲示板 (フォーラム) における受講者同士のディスカッション	5	4	3	2	1	0

質問4. この授業の Moodle 上の説明 (例えば毎週の学修の進め方や課題等の指示) は、わかりやすかったですか？

- ① 非常にわかりやすかった
- ② わかりやすかった
- ③ わかりにくかった
- ④ 非常にわかりにくかった

質問5. 授業をわかりやすくする工夫がなされていましたか？

- ① 非常に工夫されていた
- ② 工夫されていた
- ③ あまり工夫されていなかった
- ④ まったく工夫されていなかった

質問6. この授業の内容や関連分野に対する関心や問題意識は、この授業の履修によって

どのように変わりましたか？

- ① 非常に強くなった
- ② 少し強くなった
- ③ ほとんど変わっていない
- ④ 以前よりも弱くなった

質問7. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか？

- ① 非常に有意義だった
- ② 有意義だった
- ③ あまり有意義ではなかった
- ④ まったく有意義ではなかった

質問8. この授業を、友人や後輩にお勧めしたいですか？

- ① 非常に勧めたい
- ② まあまあ勧めたい
- ③ あまり勧めたくない
- ④ まったく勧めたくない

【その他】

質問1. この授業について、良かった点を、具体的にお書きください。

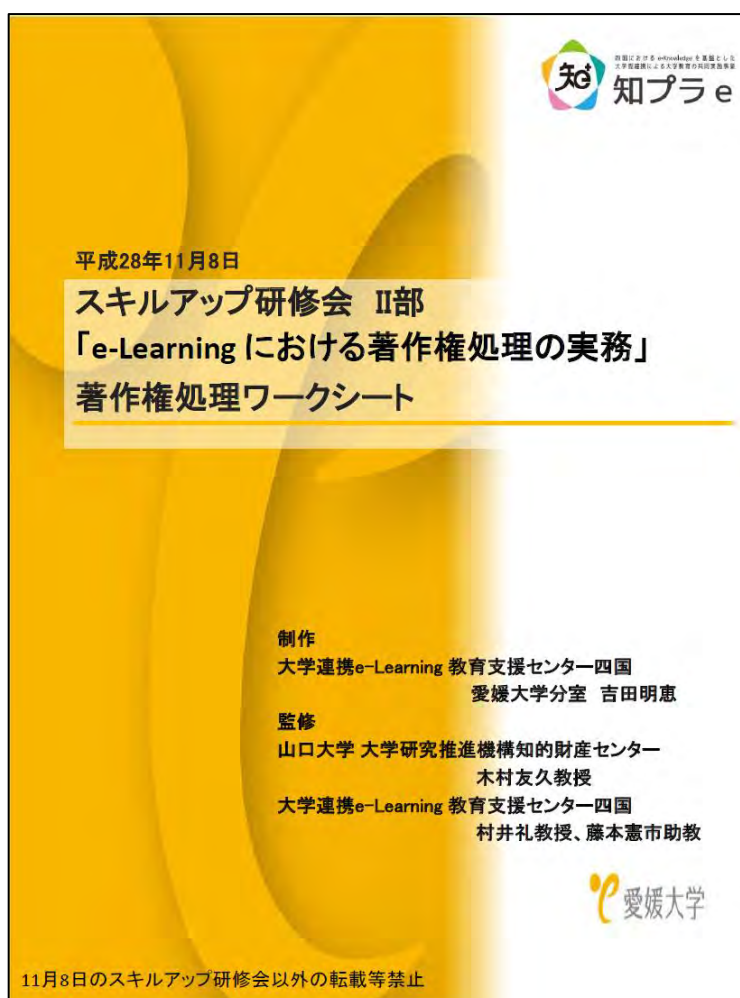
質問2. この授業について、改善してほしい点を、具体的にお書きください。

質問3. 個人が特定されない形で公表される分析・研究結果におけるデータの引用を許諾いただけますか？*

- ① 許諾する
- ② 許諾しない

3-3 e-Learning コンテンツ制作における第三者著作物の利用について

e-Learning コンテンツ制作における第三者の著作物利用には、適切な著作権処理が必要であるが、多くの教育機関において人的資源の不足のため、十分な対応をとるのが困難であるという課題があった。そのため、研修会を通じて実務講習のノウハウを蓄積することで、著作権処理を連携大学に広めた。平成 28 年 7 月実施の研修会は、愛媛大学内部の研修会だが、四国国立 5 大学の共通ハンドブック作成の基盤として、愛媛大学と香川大学 2 大学協同で教材開発を進めた。内容については、平成 28 年度版事業報告書と後述の『オンライン授業のための著作権処理ハンドブック ケーススタディ』に掲載している。



知プラ e スキルアップ研修会 II 部 著作権処理ワークシートの表紙

本事業ではコンプライアンス（法令遵守）の観点から、連携大学間で共通する著作権処理を体系化・標準化し、専門知識がなくても法令に沿った処理ができるように共通ハンドブックを作成している。作成中である著作権処理ハンドブック（案）をここで掲載する。正式版については、今後大学連携 e-Learning 教育支援センター四国ホームページに掲載予定である。

オンライン授業のための 著作権処理ハンドブック

Handbook of Copyright Clearance for Online Courses

著作権処理マスターへの第一歩

The First Step Toward Copyright-Clearance Master



まえがき

インターネットを利用した e-Learning による授業(以下、非同期型 e-Learning 授業とよぶ)は、都合のよい時間に好きな場所で受講できるため、通信教育だけでなく大学等の授業において幅広く活用されています。四国地区の 5 国立大学(香川大学、徳島大学、専門教育大学、愛媛大学、高知大学)では、この非同期型 e-Learning の利点を着目し、平成 25 年度から平成 29 年度まで国立大学改革強化推進補助金(四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成)の支援を受けながら「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」事業(以下、知プラ e 事業と略す)を推進しています。この知プラ e 事業は、単位互換制度に基づく e-Learning 授業の実施ではなく、各大学が持っている特色ある授業科目を非同期型 e-Learning 授業として 5 大学すべてで同時開講することに特長があります。

さて、非同期型 e-Learning 授業では、第三者著作物の利用に細心の注意を払わなければなりません。具体的にいえば、日本の著作権法では、教育機関で第三者著作物を著作権者の許諾なしに公衆送信できるのは「当該授業を同時に受ける者」に対してのみ、すなわち、対面授業がサテライト教室などへ授業を同時中継する場合のみに限られるというのが現状で、許諾が得られていない第三者著作物を非同期型 e-Learning 授業用の教材(コンテンツ)に利用し、その教材をサーバに掲載し配信することは許されていません。過去に「パスワードを用いてそのコンテンツを視聴できる受講者を制限すれば問題ない」という誤った認識が広がっていたことがありますが、現行の著作権法ではそれは許されていませんので十分に留意してください。なお、2005 年以降、文部科学省文化審議会著作権分科会法制問題小委員会において、「e-Learning が推進できるように、学校その他の教育機関(無利を目的として設置されているものを除く)の授業の過程で使用する目的の場合には、必要と認められる限度で、授業を受ける者に対して著作物を自動公衆送信(送信可能性を含む)すること」の議論が行われていますが、未だ解決の目途を得ていないのが現状です。

このような状況下において、非同期型 e-Learning 授業用コンテンツ制作において著作権処理の実務担当者には大きな負担が課されており、このことが非同期型 e-Learning 授業を普及させる上で大きな障害となっているのではないかと推測します。知プラ e 事業では、その対策の一環として、非同期型 e-Learning 授業用コンテンツ制作に係る著作権処理担当者の負担を少しでも軽減するため、連携大学がこれまで取り扱ってきた非同期型 e-Learning 授業用コンテンツにおける著作権処理の事例を集約し、著作権処理に詳しくない者でも第三者著作物利用に係る判断や事務処理をシステムティックに対応できるようになるハンドブックの作成に取り組んできました。本ハンドブックは、教育機関において非同期型 e-Learning 授業用コンテンツ制作に関わる教職員を対象として、e-Learning に係る著作権法の基礎から第三者著作物の利用許諾処理手続きまでをまとめたものであり、知プラ e 事業の主な成果の一つです。本ハンドブックが日本全国の教育機関で活用され、今後の非同期型 e-Learning 授業の普及に少しでも寄与できれば望外の喜びとさせていただきます。

なお、本ハンドブックの情報は知プラ e 事業における一部の事例等を基に記載しており、すべての場合を網羅しているものではありません。実務においては、ケースバイケースで対応すべき案件が発生する可能性がありますので、実際の著作権処理に係る最終的な判断等は該書の皆様ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。万が一、本ハンドブックを復用することで発生したトラブルに関しては一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承くださいようお願いいたします。

2016 年 3 月

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
著者: 吉田明恵(愛媛大学)
藤本恵市(香川大学)
村井礼(前香川大学、現山口大学)
監修: 木村友久(山口大学)

目次

1.e-Learning における著作権法の基礎	5
1.1 著作物の類型	5
1.2 著作人格権と著作権	6
1.3 教育現場における例外	8
1.4 利用許諾契約の要点	11
1.5 パブリックドメインとクリエイティブ・コモンズ・ライセンス	12
1.6 著作権法改正国内動向	14
1.7 関連サイト	15
2.e-Learning における著作権処理の要点	16
2.1 全般的な留意点	16
2.2 著作権処理フローチャート	18
2.3 著作物性の判断	19
2.4 第三者著作物のセルフチェックシート	19
2.5 利用許諾申請の流れ	21
2.6 文化庁の利用許諾書雛型作成システム	20
3.資料	28
3.1 用語	28
3.2 FAQ	29

1.e-Learningにおける著作権法の基礎

1.1 著作物の類型

(著作権法第2条第1項1号)

著作物 思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

著作物の例として以下のものがあります。

表 1

言語の著作物	論文、小説、脚本、詩歌、俳句、講演など
音楽の著作物	楽曲及び楽曲を伴う歌詞
舞踊、無言劇の著作物	日本舞踊、バレエ、ダンスなどの舞踊やハントマイムの振り付け
美術の著作物	絵画、版画、彫刻、漫画、書、舞台装置など(美術工芸品も含む)
建築の著作物	芸術的な建造物(設計図は図形の著作物)
地図、図形の著作物	地図と学術的な図面、図表、模型など
映画の著作物	劇場用映画、テレビ映画、ビデオソフト、ゲームソフトなど
写真の著作物	写真、グラフィックなど
プログラムの著作物	コンピュータ・プログラム

このほかに次のような著作物もあります。

表 2

二次的著作物	上表の著作物(原著物)を翻訳、編曲、変形、翻案(映画化など)し作成したもの
編集著作物	百科事典、辞書、新聞、雑誌、詩集など
データベースの著作物	編集著作物のうち、コンピュータで検索できるもの

なお、次のいずれかに該当する著作物は、著作者の権利の目的となることができません。

- 1 憲法その他の法令(地方公共団体の条例、規則も含む。)
- 2 国や地方公共団体又は独立行政法人の告示、訓令、通達など
- 3 裁判所の判決、決定、命令など
- 4 1から3の翻訳物や編集物で国や地方公共団体又は独立行政法人の作成するもの

1.2 著作人権と著作財産権

著作者の権利には、公表権など著作者の人格的利益を保護するための著作人権格と、複製権など著作物の財産的利益を保護するための著作財産権に分かれます。例えば、教材ドリルをコピーし、受講生に配付する場合には、複製権が及びます。また、e-Learningのように、著作物をサーバにアップロードして利用する場合には、公衆送信権が及びます。原則として、これらの行為には著作権者の許諾が必要となります。

著作人権格は、著作者のみに与えられる権利で、譲渡や相続の対象となりません。著作者の死亡により、この権利は消滅しますが、著作者の死後も一定の範囲で保護されます。

表 3

公表権	未公表の著作物を公衆に提示し、又は提供する権利
氏名表示権	著作物を公表する際、その実名もしくは変名を著作者名として表示し、又は著作者名を表示しないこととする権利
同一性保持権	著作物及び題号の同一性を保持し、著作者の意に反する改変等を受けない権利

著作財産権は、譲渡や相続の対象となることが可能です。そのため、著作者より著作財産権を譲り受けた者が著作権者となるため、著作者と著作権者が別のものである場合があります。

表 4

複製権	著作物を複製(印刷、写真、複写、録音、録画などの方法によって有形的に複製)する権利
上演権・演奏権	著作物を公に上演、又は演奏する権利
上映権	著作物を公に上映する権利
公衆送信権	著作物を公衆送信を行う権利
口述権	言語の著作物を口述する権利
展示権	美術の著作物又は未発行の写真の著作物を原作品により公に展示する権利
頒布権	映画の著作物を複製物により頒布する権利
譲渡権	著作物(映画の著作物を除く)を原作品又は複製物の譲渡により公衆に提供する権利
貸与権	著作物を複製物の貸与により公衆に提供する権利
翻訳権・翻案権	著作物を翻訳、編曲、変形等、翻案する権利
二次的著作物の利用に関する原著者の権利	二次的著作物の原著物の著作者は、当該二次的著作物の利用に関し、二次的著作物の著作者が有するものと同一種類の権利を有する

1.3 教育現場における例外

著作者の権利行使が制限される行為の例

表 5

行為	注意事項
学校教育機関における複製等	対面授業では「複製」が可能。遠隔同時授業では「上映」等が可能。
引用	公表された著作物、公正な慣行に合致、目的上正当な範囲内であること等、所定の要件を満たせば、著作権者の利益を不当に害さない範囲で利用が可能。
付随対象著作物	いわゆる写り込みをいう。「複製」または「翻案」が可能。

どのような場合にも著作権者の許諾が必要となると、第三者の公正な利用を妨げ、文化の発展を阻害しかねません。そこで著作権法は、著作権の効力に制限を加える場合、すなわち例外を規定しています。例えば教育現場における利用行為には、教育への配慮から著作権を制限する制度があります。

(著作権法第35条)

(学校その他の教育機関における複製等)

- 第35条** 学校その他の教育機関において教育を担当する者及び授業を受ける者は、所定の条件下、公表された著作物を複製することができる。
- 2 公表された著作物については、前項の教育機関における授業の過程において、授業を直接受ける者に対して著作物を提示等して利用又は上演等する場合には、当該授業が行われる場所以外の場所において当該授業を回遊し受ける者に対して公衆送信を行うことができる。

対象となるのは、以下の行為です。

- 第1項 学校その他の教育機関において、教育を担当する者及び授業を受ける者が所定の要件の下で公表された著作物を複製する行為
- 第2項 離れたキャンパス間で同時に遠隔授業を行う場合に、主会場から副会場に教材等を公衆送信する行為

これらの行為は教育への配慮から、著作権者に許諾を得る必要がないとされています。ただし、厳しい制約条件が付いており、当該著作物の種類・用途、複製等の態様を鑑みて、著作権者の利益を不当に害することとなる場合には認められません。また、第2項の規定は同時に授業が開催される必要があるため、講義を録画配信する非同期型授業には適用されない点に注意が必要です。

他にも、教育への配慮を直接の目的とするものではないものの、教育現場に関係することがあると思われる制度として、引用や付随対象著作物の規定などもあります。

教育での例外規定ですが、教育全般に適用される訳ではありませんので、注意が必要です。下記の通り、大きく2つに分けて非同期型の場合と同期型の場合で考える必要があります。

非同期型の特徴：

同じ教室であっても距離が離れていても、e-Learning や DVD 等で学生が学びたい科目を自由な時間に学ぶ環境です。時間差がある受講を指します。

同期型授業の特徴：

同じ教室であっても距離が離れたサテライト教室であっても、TV 会議システムや学習支援システム等を使用し、主会場と副会場が同時に同じ科目を学ぶ環境を指します。

表 6

Moodle 等 LMS の利用は、非同期型に該当するので注意！	非同期型 (e-Learning・DVD 等) 動画視聴等で、同じ空間であっても時間差のある受講。	同期型 (対面授業・サテライト教室) サテライト等で、空間距離があっても良いが、同時刻で受講。
教育での例外規定	✖ 該当せず	○ 多くの場合が該当
① 複製物の配付行為 (著作権法第 39 条第 1 項) 例 1) 社説を複製して学生に配付 例 2) 録画された教育番組を上映	✖ Moodle 上にアップロード 送信可能な状態に置いた時点で公衆送信権に抵触する可能性が高いので、利用許諾が必要。	○ 対面授業で配付・上映 複写が一部数であるなど、著作権者の利益を不当に害しない場合に限り問題なし。
② 遠隔授業における配信行為 (著作権法第 35 条第 2 項) 例) 主会場で行われる授業で使われた教材を副会場向け配信	✖ 後日配信 主会場で行われた授業を録画し、後日改めて副会場に配信する際、資料に第三者著作物が含まれる場合は、著作権者に許諾が必要。	○ 主会場と副会場 主会場において、教員が教材として指示する図表等を副会場に同時配信する場合、著作権者の利益を不当に害しない範囲に限り問題なし。

【参考】同期型授業と非同期型授業の違い



図 1

【参考】引用について(著作権法第 32 条第 1 項/著作権権第 102 条)

下記の引用要件を満たせば、著作権者の許諾なく第三者の著作物を利用することができます。
引用の要件 <http://chosakuken.bunka.go.jp/naruhodo/outline/8.h.html>

- 既に公表されている著作物であること
- 「公正な慣行」に合致すること
- 報道、批評、研究などのための「正当な範囲内」であること
- 引用部分とそれ以外の部分の「主従関係」が明確であること
- カギ括弧などにより「引用部分」が明確になっていること
- 引用を行う「必然性」があること
- 「出所の明示」が必要(コピー以外はその慣行があると)

引用する場合は、引用元の出版情報に記載するようにしてください。記載する内容は、少なくとも著作権者名やタイトルなど、原文に当たることができる最低限の情報です。表 7 のように出典元一覧表を作成しておく、コンテンツ提供者と権利処理担当者とのやりとりがスムーズになります。



出典元の情報 Excel 等に一覧にして保存しておきましょう。
後々利用許諾のやり取りも保存できるように作成しておきましょう。

表 7

科目名/章(講)/PPT ページ	引用文献	問合せ先	申請内容	回答	許諾可否	備考
XXX X 章 X ページ目	【愛媛大学ホームページ】 ホーム > トピックス一覧 > 研究 > eメディアを利用した国際共同研究によりキセンの脱化石の生成が確認されました。 【URL】 https://www.shimo-u.ac.jp/east-15910/ 【ファイル名】image1.jpg 【閲覧日】2017 年 7 月 18 日	愛媛大学広報室 メールアドレス xxx@xxxx 電話番号 xxx-xxxx-xxxx	WEB 上の画像を利用したい場合			
XXX X 章 X ページ目	【書籍名】モノと技術の古代史 全書編 【著者】村上恭彦 【出版社】吉川弘文館 【ISBN-10】4642017372 【ページ】画像名	吉川弘文館問い合わせセンター http://www.yc.jp/contact/	書籍上の画像を利用したい場合			

多くの作業をする上で、上記のような一覧表にメールでのやり取りも貼り付けておくと、後々役に立つことがあります。正式な利用許可書がいただけるとは限らないので、メールのやり取りだけが証拠となることもあります。

1.4 利用許諾契約の要点

はじめに、非同期型 e-Learning 授業用コンテンツに使用(利用)しようとする対象が著作物でない場合、利用許諾契約は不要です。また、対象が著作物であっても、写込みである、パブリックドメインに属している、引用である、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに基づいて利用するという場合も、それらの著作権者と利用許諾を締結する必要はありません。

これら以外の場合は利用許諾契約が必要となるわけですが、契約書にどのような内容を記載すればよいでしょうか。一般的には、「契約の当事者」及び「利用目的(著作物、利用範囲、利用形態の特定)」は必須で、その他「対価」、「保証」、「解除」、「裁断所管権」、「更新」などについては、個々のケースに応じて追加すればよいです。実際には当事者間で相談しながら契約書の記載内容を詰めていく作業が必要になりますが、文化庁のウェブサイトにある著作権契約書作成支援システム(<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/c-system/>)を使えば、著作権処理の実務に精通している人でなくても簡単に利用許諾契約書の雛型を作成できますので是非参考にしてください。詳しくは「2 章」及び「ケーススタディ」において利用許諾契約書のサンプルを例示しています。

1.5 パブリックドメインとクリエイティブ・コモンズ・ライセンス

利用許諾なしで使える著作物があります。例えば、パブリックドメインやクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを付与されている著作物です。以下クリエイティブ・コモンズ・ライセンス等が付与された著作物の探し方を紹介します。

パブリックドメイン

パブリックドメインとは、保護期間満了その他により著作権(財産)種の効力がなくなり、誰でも自由に利用できる「公有物」となった著作物等をいいます(「知的財産管理技能検定3級最短マスター」(三和書籍)より)。下記のマークは知的財産権が発生していない、または消滅したことを示します。



図 2

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとはインターネット時代のための新しい著作権ルールで、作品を公開する作者が「この条件を守れば私の作品を自由に使って構いません。」という意思表示をするためのツールです(Creative Commons Japan, <https://creativecommons.jp/licenses/>より)。
クリエイティブ・コモンズ・ライセンスには、以下の4種類の条件があります。

- 表示・・・作品のクレジットを表示すること
- 非営利・・・営利目的での利用をしないこと
- 改変禁止・・・元の作品を改変しないこと
- 継承・・・元の作品と同じ組合せのクリエイティブ・コモンズ・ライセンスで公開すること

4種類の条件の組み合わせによって、下記の8つの条件(利用方法)となっています。



図 3

探し方

クリエイティブ・コモンズサーチ <http://search.creativecommons.org/>

ここで検索すると、クリエイティブ・コモンズライセンスが付与されたデータ(著作物)が抽出されます。



図 4

Google でのフィルタリングの仕方

検索後、[設定]からツールを選択、[ライセンス]から各自に応じた条件を選択すると、クリエイティブ・コモンズライセンス等が付与されたデータが抽出されます。



図 5

1.6 著作権法改正国内動向

本ハンドブック執筆時における最新の情報としては、平成 29 年 6 月 30 日に開催された文化審議会著作権分科会 法制・基本問題小委員会(第 2 回)の資料 1

(http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakukuen/hoki/h29_02/pdf/shiryu_1.pdf)に詳述されています。その資料 1 によれば、文化審議会著作権分科会報告書(平成 29 年 4 月)において、

- 学校等における授業のための著作物の公表送信について新たに補償金付きの権利制限規定を整備すること
- 著作権法の運用上の課題として、教育機関における著作権法に関する研修・普及啓発、ライセンス環境の整備・充実、著作権法第 35 条や第 32 条に規定される抽象的条件に係る判断の難しさから法解釈に関するガイドラインを整備すること

が提言されており、教員・教育機関間の教育目的での教材等の共有については継続して検討していくこととなっています。

1.7 関連サイト

利用許諾なしで使える著作物に関すること

クリエイティブ・コモンズライセンスとは

<https://creativecommons.jp/licenses/>

クリエイティブ・コモンズの検索エンジン

<http://search.creativecommons.org/>

利用許諾申請に関すること

文化庁著作権契約書作成支援システム

<http://www.bunka.go.jp/chosakukuen/cr-system/>

エルゼビアから出版されたジャーナル論文の利用方法 実用ガイド

<http://je.elsevier.com/>

<https://www.journals.elsevier.com/behavioural-processes/policies/ways-to-use-journal-articles-published-by-elsevier>

Rights Link(コピーライトクリアランスセンター)

<http://www.copyright.com/rightsholders/rightlink-permissions/>

九州大学基幹教育院 NICT デジタル教材作成における著作権について

<https://sites.google.com/site/9booklooper/faq/copyright>

国内の利用許諾申請書

一般社団法人 日本書籍出版協会作成 出版権設定契約書ヒナ型1 2017

<http://www.jpba.or.jp/pdf/publication/hinagata2015-1.pdf>

法政大学出版局の転載許可願

http://www.h-up.com/wp/wp-content/uploads/2012/04/tensaiyokashimeisho_131001.pdf

日本書籍出版協会の著作物利用許可申請書

<http://www.jpba.or.jp/pdf/guideline-p4.pdf>

国土地理院の複製承認申請書

<http://www.gsi.go.jp/common/000106104.pdf>

フレイベル館の著作物利用許可申請書

http://www.froebel-kan.co.jp/faq/doc_001.pdf

橋本県の複製許可申請書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m58/education/bunka/monyokan/documents/hukuseikyoku.pdf>

海外の利用許諾申請書

オックスフォード大学出版社の許可申請フォーム

https://global.oup.com/academic/rights_permissions/request/?cc=jp&lang=en&

ケンブリッジ大学出版社の許可申請フォーム

<http://www.cambridge.org/about-us/rights-permissions/permissions/permissions-requests>

スタンフォード大学出版社の許可申請フォーム

<http://www.jpba.or.jp/requests/permissions/permissions/online/>

ジョンズ・ホプキンス大学出版社の申請フォーム

<https://www.press.jhu.edu/cgi-bin/permissions.cgi>

エルゼビアの許可申請フォーム

<https://www.elsevier.com/authors/permissions-request-form>

ピアソンの許可申請書

http://www.phschool.com/about_pearsn/Permissions_Request_Form.pdf

文化庁 著作権

<http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakukuen/>

(上記確認日 2017/07/12)

2.e-Learning における著作権処理の要点

2.1 全般的な留意点

e-Learning コンテンツ(講義映像や講義資料など)に第三者著作物を利用する場合は、原則として著作権者の利用許諾が必要となります。その理由は、1 章第 1.3 節で述べたとおり、対面授業や遠隔会議システムなどを用いた同期型 e-Learning 授業と異なり、非同同期型 e-Learning 授業には学校教育機関における著作権の制限規程(著作権法第 35 条)が適用されないためです。次節以降、第三者著作物を利用する際に必要となる判断や作業を具体的に説明します。

著作権処理を行う際、一番重要となるのが出展情報です。出展情報は、教材を作成する教員自身が許諾申請を行う場合も、代理で職員が許諾申請を行う場合も、なければならない情報となります。しかしながら、多くの場合、気楽にネットからコピーができるため「メモを取っていない。出典が分からない。」という著作物が多く教材に使用されています。対面授業の場合は、この状況でも許されてきましたが、非同同期型 e-Learning 授業では著作権に抵触する可能性が非常に高いので、要注意となります。

既存の教材を e-Learning コンテンツにする場合、出展情報がなければ、自由に利用できる著作物を探す自分たちで代替えの物を作成する、または出展情報を探して許諾を取る等、多くの作業が必要となります。学生の突撃記録ではないが、教職員が著作物を利用する際には、出展情報を記録しておく習慣を身に付けておきましょう。自身が著作権処理を担当する職員の場合、打ち合わせの際にも教員に「出展情報を記録しておいて下さい。」と一言添えることで、後々の作業量が減り楽になります。

出展情報があれば、その後利用許諾が必要かどうかの判断後、許諾が必要な場合は、著作権者と連絡先を確定する作業が始まります。出典元が必ずしも著作権者の最新の情報とは限らないので、出展情報を元に現在の連絡先を探します。連絡先が確定したら、次の利用許諾申請へ進みます。

著作権者に直接利用許諾申請をする場合

国内の第三者著作物を利用する場合、多くが直接著作権者もしくは委託されている出版社に利用許諾申請をすることになります。その場合の利用許諾申請方法を見ていきましょう。

主に、E-mail アドレス・電話番号・ファックス番号・住所・問合せフォームの利用が考えられます。



ホームページ等に見当たらない場合、名前や職場・前職等から、Web 検索します。著作権者となったご連絡への連絡等、どうしても連絡先が見当たらず、その著作権の利用が必須の場合は、文化庁の裁定制度を使います。

著作権者不明等の場合の裁定制度(文化庁)

http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/chosakukensa_fumei/
 裁定の手引き(文化庁)
http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/chosakukensa_fumei/pdf/saiteinotobiki.pdf

国内の著作権者に利用許諾申請をする際の留意点

連絡手段として、メールや電話等ありますが、それぞれメリットデメリットがあるので、初めて利用許諾申請をする場合は、ご自身でリスクが低いと思える連絡手段を選ばれば良いでしょう。

問合せフォームやファックス番号が掲載されておらず、選択の余地がない場合もあります。費用をかけず、ある程度の延滞を許すという観点では、メールを利用すると良いでしょう。

【留意点】

問合せフォーム・E-mail アドレス・ファックスは、多くが代表連絡先の為、たらい回しになり、なかなか返事がもらえない可能性があります。自分なりに期限を設け、期限内に返信が無い場合は、電話連絡をしましょう。その際「e-Learning で御社のデータを利用したいので、利用許諾申請をさせていただきたい」等伝えと、法務部等の担当部署についても伝えます。

2.2 著作権処理フローチャート

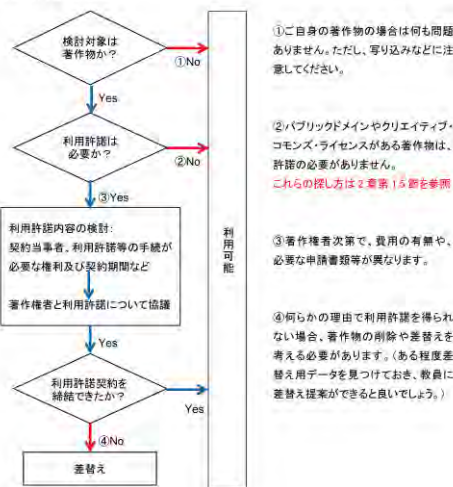


図 6

図 6 に、第三者が作成した素材を利用するための作業フローを示します。最初におき作業は、その素材が著作権かどうかを判断することです。もし著作権と判断されなければ利用許諾を得ることなくその素材を非同期型 e-Learning 授業の教材に利用できますが、もし著作権と判断されれば利用許諾等の手続きが必要となります。

次のステップとして、その素材(著作権)を利用するために利用許諾が必要かどうかの判断を行います。例えば、利用したい著作物がパブリックドメインに属している場合は利用許諾を得る必要はありません。他方、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスに属する著作物であれば、その著作権者が提示している条件を満たせば、利用許諾の手続きを経ることなく利用できます。利用したい著作物が、いずれの場合でもないと、利用許諾の手続きが必要となります。

著作権者に対して利用許諾の手続きを行う場合、まずは許諾を得たい内容を吟味しなければなりません。例えば、利用許諾の契約者は誰が適切なのか、利用許諾に必要な権利(著作物の複製、改変、公衆送信など)、契約したい期間などになります。

利用許諾の内容が決定すれば、その内容で利用させてもらえるように著作権者と協議します。協議の結果、利用許諾が締結されればその著作物を利用できるが、締結できなければその著作物の利用は断念せざるを得ません。なおその場合は、他の素材の利用を検討する必要があります。

2.3 著作物性の判断

図 6 に示したフローチャートにおいて、まずは素材が著作物であるかどうかを判断することを説明しています。利用したい素材が著作物にあたるかどうかの判断にあたっては、資料にある FAQ を参考にしてください。なお、対象とする素材が著作物でない場合、そもそも利用許諾は不要です。これは、著作権法が、著作物に関する著作権者の権利を定め、その権利の保護を図ることを目的の一つとしているからです(詳細は著作権法第 1 条を参照のこと)。つまり、素材が著作物でない場合、その素材の作者には著作権法上保護される権利が発生しません。

2.4 第三者著作物のセルフチェックシート

図 6 のフローチャートにおける「検討対象は著作物か?」及び「利用許諾は必要か?」の判断を、教材制作担当者(教職員)がセルフチェックできるようにするための支援ツールを作成しました。その支援ツール(チェックシート)を図 7 に示します。

このシートによるチェックの結果、もし「これで終了です。」に至った場合は、利用許諾処理が不要ですが、「明記してください。これで終了です。」、「利用許諾が必要です。これで終了です。」、「規定を遵守するか、利用許諾をとってください。これで終了です。」の場合には、利用許諾処理や利用条件を満たすための処理が必要となります。また、自身で判断できない場合は「○○○○○へご相談ください。」へ至るようになっていきます。各大学で規定されている著作権処理担当部署又は著作権処理を支援してくれる部署へ相談してください。

付録 第三者著作物利用状況確認シート
 e-Learning 作成予定科目名 _____
 科目担当教員 _____

上記科目の e-Learning コンテンツ内で利用する第三者著作物について、以下の確認をお願い致します。
赤字は巻末の用語集を参照してください。

1. 第三者著作物を利用していますか?
 a 利用していない。もしくは全てパブリックドメインなどの著作権フリー素材である。
 b 利用している。利用する予定である。
 c 利用にあたるかどうか判断できない。
2. 自撮りの写真が含まれている場合、その写真に著作権に関わるものが写っていませんか(写込み)?
 a 写りこんでいない。
 b 写りこんでいる。
 c 写りこんでいるかどうか判断できない。
3. 第三者著作物(特に文献や新聞記事等)を引用する場合、出典を明記していますか?
 (外国の文献も国内の文献と同様に出典を明記する必要があります。)
 a 明記している。
 b 明記していない。
 c 明記しているかどうか判断できない。
4. 第三者著作物(図表、写真、画像等、他の資料)を複製したものが含まれていますか?
 a 含まれていない。
 b 含まれている。
 c 含まれているかどうか判断できない。
5. 市販の DVD や CD に記録されている映像ソフトや音楽等の商業用コンテンツや、YouTube やニコニコ動画等、インターネット上に公開されている動画を利用していませんか?
 a 利用していない。
 b 利用している。
 c 利用にあたるかどうか判断できない。
6. 利用している第三者著作物がクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CC License)などの自由利用許可が明示されているもの場合、提示された規定に従った利用になっていますか?
 a 規定に従って利用している。
 b 規定に従った利用になっていない。
 c 規定に従った利用になっているかどうか判断できない。
7. 第三者著作物を利用する場合、著作権者に事前に利用許諾を得ていますか?
 a 得ている。
 b 得ていない。
 c 利用許諾を得る方法が分からない。

図 7

上記赤字の単語については、3 章資料の用語集に説明が記述されています。

2.5 利用許諾申請の流れ

E-mail・ファックス・問い合わせフォームでそれぞれ申請の文面(下記欄型)を送り、そのまま許可のメールや複製許可書が送られてくる場合もあれば、正式な利用許可・複製許可・著作権料等の申請書が送られてくる場合があります。申請書提出の際、郵送を指定されることもあります。ほぼ PDF での提出で問題ないでしょう。

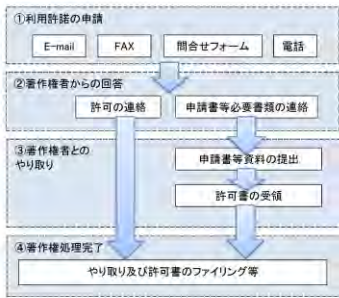


図 8

E-mail やファックスで利用許諾伺いする場合の文例

E-mail とファックス・問い合わせフォームで送信する場合、文面は同様で構いません。図 9 にサンプルを示します。

Title: 引用許諾のお願い
 ○○大学 情報資料センター 御中
 御世話になります。△△大学総合情報メディアセンターの 松山ひめかと申します。
 現在、△△大学では学生向けにeラーニングコンテンツを制作しており、オンラインで授業を行うために開発されたシステムで配信しております。そのコンテンツで貴学の下記画像を利用させていただけないでしょうか。
 【データURLとファイル名】
<http://www.abc-u.ac.jp/~learnocan/researchers/negua/uma.jpg> 馬の頭部の装具 uma.jpg
 【使用範囲等】
 科目名: 古代鉄 第5章「馬の頭部の装具」
 担当教員: 西岡 太郎先生
 配信環境: Moodle(学習支援システム)
 公開範囲: Moodle 上に ID とパスワードでログインする学生及び担当教職員
 公開大学: 西岡 太郎 5 大学
 お手数をお掛け致しますが、ご検討をよろしくお願い申し上げます。

図 9

著作権者に利用許諾申請をする際、使用方法の確認のために、e-Learning の画面やシラバス・講義内容の提出を求められることがあります。e-Learning の画面を求められた場合、下記のように該当するスライドを PDF にして提出します。



図 10 添付 馬の頭部の装具スライド

- 今後利用許諾申請数は、数百・数千となる可能性もあるので、要求されたら提出する程度に考え、極力作業量を減らすように心がけましょう。
- 具体的な講義内容を求められた場合は、担当教員に相談しましょう。
- 著作物へのあまりにも否定的な講義内容の場合には、後に残ることを教員に説明した上で、判断を仰ぎましょう。



問い合わせフォームから利用許諾申請の連絡をする場合

問い合わせフォームの場合、普通はテキスト入力のみ可能だと思いますので、「E-mail やファックスで送信する場合の欄空」から、添付資料を載せた文面となります。

添付 E-mail やファックスで利用許諾申請する場合

【英語事例】

下記は、英語圏へ利用許諾伺いメールの文面です。分野によっては、英米への申請は非常に多くなるでしょうし、作業効率を考えると、文面も加筆修正すると良いでしょう。組織によっては、詳細な申請書が準備されている所もあります。

Title: permission to exploit a figure
 Dear Whom may it concern,
 This is Himeka Matsuyama, a member of Center for Information Technology, XXXX university, Japan.
 We are developing e-learning contents which are delivered to our students in online courses.
 All of our contents are delivered via authentication system.
 We would like to exploit a figure in the e-learning contents.
 We would like to get permission.
 Please accept our request.
 We look forward hearing from you soon.
 The followings are the list requested.
 FUNDAMENTAL OF BIOCHEMISTRY: Life at the Molecular Level, 3rd Edition (ISBN-10:0470129301, ISBN-13:978-0470129302)
 Figure 10-10
 Sincerely yours,
 MATSUYAMA, Himeka

図 11

簡易訳

タイトル: 図の利用許可
 こんにちは。
 私は、情報技術センター(XXXX 大学)のメンバー松山ひめかと申します。
 私たちは eラーニングコンテンツを開発しており、オンラインコースで学生に提供されています。
 全てのコンテンツは認証システムを介して配信されます。
 eラーニングコンテンツで図を利用したいので、許可をいただけないでしょうか。
 私たちの要求に同意してください。
 私たちはあなたからのご返信をお待ちしております。
 私たちのリクエストは次のとおりです。
 バイオケミストリーの基礎: 分子レベルでの生活 第 3 版 (ISBN-10 : 0470129301, ISBN-13 : 978-0470129302)
 図 10-10
 教員: 松山ひめか

図 12

【中華圏への利用許諾申請事例】

中国の大学は、メールアドレスや個人の携帯番号もホームページ上で公開していることが多いので、比較的連絡先は探しやすいといえます。中国の高等教育機関に連絡をする場合は、英語で連絡しても問題ないと思われます。下記の挨拶文面は、日本語の「E-mail やファックスで利用許諾申請する場合」の雛形とほぼ同じです。下記は実際に中国の大学へ利用許諾申請をした事例です。

主題: 关于贵大学○○教授的图片
 ○○大学 信息资料中心
 ○○老师
 您好!
 我来自国立八八大学综合信息媒体中心松山ひめか。八八大学正在制作面向学生的远程教育教材。这是为了网上教学使用。为了教材使用的 PPT, 我们想复制贵大学○○老师的资料中的某些图片。希望您允许使用。
 【文献名】
 王泽东: 《伏羲及中国治政技术起源》, 《文物》, 2012 年第 8 期, 45-53 页。
 【图片资料】图 1 甲田, 45 页
 【使用范围】
 教材名称: 古代鉄
 教师名: 西岡 太郎教授
 使用平台: moodle(教学资源平台)
 公开范围: 有 10 和资料的学生和教职员
 公开使用的大学: 国立西岡 5 大学(安徽大学, 香川大学, 高知大学, 徳島大学, 明門教育大学)
 希望您得到您的许可回复, 谢谢!

図 13

以下、和訳例です。

タイトル: 貴大学の教授の画像について
 ○○大学インフォメーションセンター
 ○○先生
 こんにちは。
 私は日本国立△△大学総合情報メディアセンター松山ひめかです。△△大学は、オンライン教育に用いられる学生向けの遠隔教育教材を作成しています。教材として使用する PPT の中で、私たちが貴大教授の資料の中のいくつかのイメージを複製させていただきたいです。使用の許可をいただけないでしょうか。
 【タイトル】
 “伏羲と中国の精煉技術の起源”、“文化遺物”、第 8 回、2012 年、45-53 王沢東、45-53 ページ。
 【画像資料】 図 1 M444, 45 ページ
 【使用範囲】
 教科書の名前: 古代の鉄
 教師の名前: 西岡 太郎教授
 使用 LMS: moodle(教材プラットフォーム)
 公開範囲: ID とパスワードを持つ学生と教職員
 公開大学: 西岡 太郎 5 大学(安徽大学/香川大学/高知大学/徳島大学/明門教育大学)
 許可を頂けることを願っています。よろしくお願いたします。

図 14

【韓国への利用許諾申請事例】

下記は、韓国の博物館へ複製許可申請をした事例です。博物館によっては、ホームページに学芸員のメールアドレスが掲載されている場合やファックス番号しか掲載されていない場合もあります。

Title : 사진이나 이미지의 복제 허가 신청
 국립○○박물관 학예연구실
 ○○선생님
 지음 부탁드립니다. △△대학 미디어센터의 Matsuyama Himeka 라고합니다.
 현재 예허메대학교에서는 학생들을 위해 비영리 목적의 e-러닝 콘텐츠를 제작하고,
 Moodle (온라인으로 수업을 위해 개발 된 시스템) 을 통해 제공하고 있습니다.
 그 콘텐츠에, 이하의 그림 4 점을 복제시켜 주세요.
 【서지명】
 박물관 학술 조사보고 제 1 권 (2001 국립 ○○ 박물관)
 【그림 번호】
 Pit 2 page-iii
 【사용범위 등】
 과목명 : 고대 철
 담당교수 : 에히메 타로교수님
 배포환경 : Moodle (학습 지원 시스템)
 공개범위 : Moodle 에 ID 와 비밀번호로 로그인하는 학생과 담당 교직원
 공개대학 : 시코쿠 국립 5 대학 (에히메대학 · 고지대학 · 가가와대학 · 도쿠시마대학 ·
 니무토교육대학)
 패를 캡처하지만, 검토를 부탁드립니다.

圖 15

以下、和訳例です。

Title : 写真や画像の複製許可申請
 国立○○博物館学系研究室
 ○○先生
 はじめまして、△△大学メディアセンターの松山ひめかと申します。
 現在△△大学では、学生のための非営利目的のe-ラーニングコンテンツを制作して、
 Moodle (オンラインでの授業のために開発されたシステム) を介して提供しています。
 そのコンテンツに以下の図 4 点を複製させていただきます。
 【書籍名】
 ○○博物館學術調査報告第 1 冊 (国立○○博物館の學術調査報告第 1 巻)
 【図番号】
 Pit2page-iii
 【使用範囲など】
 科目名 : 古代鉄
 担当教授 : 愛媛太郎教授
 配信環境 : Moodle (学習支援システム)
 公開範囲 : Moodle に ID とパスワードでログインする学生と担当職員
 公開大学 : 四国国立 5 大学 (愛媛大学・高知大学・香川大学・徳島大学・鳴門教育大学)
 迷惑をおかけいたしますが、ご検討をお願いいたします。

圖 16

2.6 文化庁の利用許諾書類型作成システム

著作権契約に係る契約書を作る際、文化庁などが公開している雛型を参考にすることもできます。以下、文化庁「著作権契約書作成支援システム」(<http://www.bunka.go.jp/chosshuken/c-system/>)を使って表 8 に入力し作成した、e-Learning 教材に第三者の写真の著作物を利用する場合の契約書の例を図 17 に示します。なお、システムの建書、注意事項 (免責事項) が記載されていますので、それらを熟読してからこのシステムを使用するようにしてください。

表 8

項目	入力例
利用物の特定	■ 何を利用しますか? : 写真 タイトル: 石碑の写真
利用目的	■ 著作物は何に利用しますか?
	印刷物 : 利用する
	印刷物の名称(1) : e-Learning 配信資料
	部数 : 200
	ホームページ : 利用しない
氏名表示	■ 利用にあたり著作権者の表示をしますか? : する
	表示する著作権者 : Mark Feng
	■ 対価を支払いますか? : 支払わない
対価	■ 著作権者 : 株式会社 MF プロジェクト
当事者	■ 利用者 : 豊城うどん大学

株式会社 MF プロジェクト (以下「甲」という) と豊城うどん大学 (以下「乙」という) とは、著作物の権利に就し、以下のとおり契約を締結する

第 1 条 (権利譲渡)
 甲は、乙に対し、以下の写真 (以下「本著作物」という) につき、以下の利用を許諾する。
 1 利用目的名 : 名刺の写取
 2 利用方法
 (1) 印刷物への利用
 名称 : e-Learning 配信資料、部数 : 200 部
 (2) 映像作品における利用
 作品名 : e-Learning 教材利用動画、複製本数 : 200 本
 3 乙は、当該利用にあたっては、事前にその具体的な利用形態を甲に示し、甲の承諾を得るものとする。

第 2 条 (著作権者名称)
 1 乙が本著作物の内容・表現又はその題名に変更を加える場合 (拡大・縮小、色調修正等を除くことを含む) には、あらかじめ甲の承諾を得なければならない。
 2 乙は、本著作物を利用するにあたって、以下のとおり著作権者の表示をしなければならない。
 ・Mark Feng

第 3 条 (保証)
 甲は、乙に対し、本著作物が第三者の著作物との権利を侵害しないものであることを保証する。

第 4 条 (保証)
 甲は、乙に対し、本契約に基づく一切の権利帰属を甲と乙の間に譲渡する。

第 5 条 (その他)
 本契約に定めのない利用態様については、甲乙別途協議の上、利用が可能、契約書に書き添えるものとする。
 本契約締結の経緯として、本契約書 2 冊を作成し、甲乙各 1 冊を保管する。

※ 敬 申 月 日

圖 17

3.資料

3.1 用語

表 8 用語集

用語	説明
非同期型 e-Learning 授業	教材 (コンテンツ) がインターネット上で非同期に配信及び実施される e-Learning 授業をいう。
同期型 e-Learning 授業	主会場と副会場を遠隔講義システムなどで中継し、すべての会場でリアルタイムに行う授業を「同期型 e-Learning 授業」という。
著作物	思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。(著作権法第 1 条第 1 項)
写り込み	写真やビデオの撮影において、予期しない余計なものが写ること。例えば、写真 (著作物) の背景に別の著作物であるキャラクターなどが写り込んでしまった場合、その写真とキャラクター (付随対象著作物) との著作権の取り扱いには注意が必要である。詳しくは、著作権法第 30 条の 2 を参照されたい。
引用	古人の言や他人の文章、また他人の説や事例などを自分の文章の中に引いて説明に用いること (スーパー大辞林)。なお、公表された著作物は、引用して利用することができる。(著作権法第 32 条第 1 項)
複製	見出し複製 印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により有形的に再現することを行い、又は複製するものについては、それぞれ次に掲げる行為をさすものとする。イ 脚本その他これに類する演劇用の著作物 当該著作物の上演、放送又は有線放送を録音し、又は録画すること。ロ 建築の著作物 建築に関する図面に従って建築物を完成すること。(著作権法第 2 条第 1 項第 15 号)
第三者著作物	第三者が著作権を有する素材をいう。非同期型 e-Learning 教材に第三者著作物を利用する場合は、著作権者に利用許諾を得るなどの処理が必要となる。
パブリックドメイン	保護期間満了その他により著作権 (財産) 権の効力がなくなり、誰でも自由に利用できる「公有物」となった著作物等をいう。 *「知的財産管理技能検定 3 級教習テキスト」、三和書籍、199 頁
クリエイティブ・コモンズ・ライセンス	著作権者が作品 (著作物) を流通させる際の条件を表示するためのツールである。このライセンスで届けられた著作物は、その著作権者が提示したライセンス条件の範囲内で自由に利用することができる。具体的には https://creativecommons.jp/licenses/ を参照のこと。
LMS	Learning Management System の略称で、e-Learning 教材を配信するプラットフォームを指す。教材の蓄積と配信、並びに受講者の学籍履歴 (小テスト受験結果など) を統合的に管理できる。
Moodle	オープンソースの LMS の一つで、前掲のシステムの中では世界的に高いシェアを誇る。レッスンやフォーラムなどの学修支援機能も有している。

利用者の立場 Q&A

著作物性・アップロード

Q: 学長が取材を受けたテレビ番組の映像を就職支援系の e-Learning 教材にアップロードしても問題ないでしょうか。

A: 例え学長の映像であっても、番組制作者(テレビ局)が著作権を持っていますので、番組制作者がテレビ局に複製・公衆送信の許諾を取る必要があります。



著作物性・子どもの絵画

Q: 先日幼稚園を見学に行った際に撮影した園児の描いた家族の絵が、現在作成中の幼児教育の e-Learning 教材のイメージにぴったりでした。勝手に使用しても問題ないでしょうか。

A: 例え園児の描いた絵であっても、思想や感情の表現があり、著作物と言えます。園児本人(保護者)に直接連絡は難しいと思われるので、幼稚園にその旨ご連絡をされては如何でしょうか。

著作物性・子どもの日記

Q: 附属小学校の児童が書いた日記を初等教育の e-Learning 教材として利用したいのですが、児童の書いた日記に著作物性はあるのでしょうか。

A: 日記も通常の文章と同じく、言語の著作物として創作性が認められるような表現であれば、著作物と考えられます。直接の教え子さんの場合、該当する児童と保護者に連絡をされては如何でしょうか。教え子さんではない場合、附属小学校様までのご連絡を考えてください。

著作物性・一発ギャグ

Q: 今年流行りの芸人の一発ギャグを自身が描いたイラストの吹き出しに入れて、e-Learning の所々に入れ込みたいと考えています。所属事務所や芸人に利用許諾申請をする必要はあるのでしょうか。

A: ネットを書き出したノートや五人がそのネタをもとに演じたもの(表現されたもの)は、「思想又は感情を創作的に表現したもの」に該当し、著作物に該当すると考えられますが、一発ギャグの短いコメントは、ケースバイケースで、今回の件は著作物とは考えにくいです。

著作物性・キャッチフレーズ

Q: 今年流行りのキャッチフレーズを e-Learning のスライドの中に盛り込みたいと思っています。キャッチフレーズを発言している俳優講師に利用許諾申請をする必要はありますか？

A: キャッチフレーズや標語は、ケースバイケースです。一般的には種が考えても同じようになる短い文章やありふれた表現、単に言葉を羅列し語呂よく組み合わせただけの場合は、表現に創作性があるとは言えませんが、中には創作性を有すると判断される場合もあるので注意が必要です。

著作物性・タイトル

Q: 今年流行りの映画タイトルを e-Learning のタイトル画面にしたいと考えています。スライド上で際に表示することになりますが、映画の元となった小説の作家に利用許諾申請は必要でしょうか。

A: タイトルそのものは、一般的に短い言葉や単語であるものが多いので、表現に創作性があるとはいえず、著作物にはならないと考えられます。

著作物性・短歌

Q: 附属中学校の生徒が詠んだ短歌を学部教職課程国語科の e-Learning コンテンツの中で掲載し、添削を加えたいのですが、生徒から許諾を取る必要はあるでしょうか。授業の中で紹介し、添削することと同じと考えても良いでしょうか。

A: 文字数だけで考えると流行りのキャッチフレーズと同じで著作物ではないとお考えかも知れませんが、短歌や俳句の場合、短い文章の中にも「思想又は感情を創作的に表現した」と言え、著作物となります。短歌を e-Learning コンテンツに掲載する場合、生徒の許諾は必要と考えます。更に添削したものも掲載する場合、同一性保持権の侵害にあたる可能性があり、どのように利用掲載するのか、しっかり生徒に説明をし、同意を得ておく必要があります。

著作物性・複製権・公衆送信権

Q: 既存科目の e-Learning を作成中で、本来授業で配布している資料をオンラインではありますが、アップロードすることとなります。この行為は著作権法上問題があるのでしょうか。

A: 政府による電子教科書の推進があり、今後著作権法も改正されれば、e-Learning も教育の「著作権の制限規定」が適用されるかも知れませんが、今現在(2017年)e-Learning で大勢の学生のために、資料をアップロードする行為は、公衆送信権の侵害・複製権の侵害にあたる可能性が高いです。

著作物性・保護期間・写真

Q: 著作権保護期間が切れた数百年前の幼児の写真も e-Learning のスライドに使用したいのですが、利用許諾は必要でしょうか。教科書や雑誌などに掲載される有名な幼児です。

A: 幼児そのものの著作権保護期間が終了している場合、その写真に芸術性や創作性があれば、著作物となります。また、博物館によっては、所蔵品のデータを使用する場合には、利用許諾を求めていることもありますので、使用されようとしている画像の出典を調べる必要があります。著作権フリーの画像もあるかと思いますが、今年度で使用されようとしている画像にこだわらないことも一つの方法です。



著作物性・保護期間・パロディ

Q: 葛飾北斎の日本画の写真集の中から風景画を e-Learning の背景で使用したいという要望が科目担当教員から出ています。できれば、パロディ風な画像へ変更したいのですが、何か問題はありますか？

A: 北斎の没後 50 年以上経っており、日本画の著作権は消滅していると考えられます。しかし、カメラマンによる光の当て方等、創作性が認められる場合は著作物となります。写真集の写真を使用する場合は、出版社を通じてカメラマンに許諾を取っておくことをお勧めします。また、著作権は消滅していても、著作人人格権が存在するため、作者の名譽を傷つけるような変更はすべきではないと考えます。
【提案1】パロディ風に改変することは諦め、写真集からではなく、ネット上で OCL(クリエイティブ・コモンズ・ライセンス)が表示されている葛飾北斎の画像を使用しては如何でしょうか。
【提案2】パロディ風が重要事項である場合は、背景に葛飾北斎を使用することを諦め、全て自作しては如何でしょうか。

グラフの引用

Q: 他の出版物に掲載されているグラフを e-Learning 教材に引用したいのですが、どのような手続きをとればよいでしょうか？

A: 引用の要件を満たせば著作権者に許諾を得ることなく、図表を利用することができます。ただし、後学の研究者が当該著作物に当たることができるよう、出典元(著作者、題目、雑誌名、発行年、出版社など)を明記するようにしてください。引用の要件を満たさない場合は、著作権者の許諾を得てください。



SNS の引用

Q: Facebook 上で不特定多数の人に公開されている画像は、e-Learning コンテンツの画像や動画として、自由に使用しても良いのでしょうか。著作権は Facebook にあるのでしょうか。

A: 著作権は投稿者(撮影者)に帰属していますので、利用許諾申請をする場合は、投稿者に申請することになります。権利制限規定を満たしていれば、引用することは可能です。Facebook の「著作権 公正な利用とは何です

か。』には、下記のように記述されています。
「公正な利用の原則では、(中略)そこでこの原則では、一定の状況では許可を得なくても第三者の著作物を利用できるようになっていきます。一般的な例では、批評、解説、ニュース報道、教育、学問、学術研究などでの利用があります。」
https://www.facebook.com/help/337995452911154?helpref=faq_content (確認日 2017/07/18)

申請方法・Rights Link
Q: Rights Link で利用許諾申請時に、選択肢として出てくる Are you the author of this Elsevier article ?の Elsevier article は何を意味するのでしょうか。

A: 「あなたはこのエルゼビア論文(記事)の作者ですか?」という意味になります。許諾申請者ご自身の論文ではない場合、No を選択してください。
【参考】<http://jp.elsevier.com/> (確認日 2017/07/12)
<https://www.journals.elsevier.com/behavioural-processes/policies/ways-to-use-journal-articles-published-by-elsevier> (確認日 2017/07/12)

申請方法・学会出版社
Q: 第三者著作物を e-Learning 上で使用する際、出版社や学会団体にも許諾を取る必要があるのでしょうか。

A: 基本的に著作権者が存在する場合、出版社は著作権者と販売権や翻訳権等の契約を結び販売しており、出版社が著作権者でない場合、出版社から利用許諾を取る必要はありません。しかし、出版社に著作権が譲渡されて出版社自身が著作権者である可能性や、著作権者が出版社に意図を依頼している場合もあり、出版社への確認も必要となります。まず、出版社等に連絡を取ると、後がスムーズかも知れません。

申請方法・連絡先不明
Q: 何かの理由で許諾が取りにくい、取れない状況の場合、どうすれば良いか。

A1: Web 上のデータの場合は、そのデータが掲載されている Web の URL を教材に載せ、学生にそこへリンクするように指示をすることで、回避できます。書籍内のデータの場合は、書籍名・作者・出版社を記載し、購入する図書館で借りるように促します。

A2: 著作権者が誰だか分からないが、どうしても現物のデータが使用したいという場合は、文化庁の裁定制度を使用する方法があります。ただし、申請等にお金がかかります。詳しくは、文化庁の HP をご覧ください。
http://www.bunka.go.jp/seisaku/choosakuken/seidokaisetsu/choosakukensha_fumei/ (確認日 2017/07/12)

写り込み・肖像権
Q: e-Learning コンテンツに使用する予定の動画に、学生が数人写り込んでいます。学生への許諾やモザイク加工等が必要でしょうか。



A: 具体的な状況は不明ですが、撮影段階で学生には写り込んでいることの説明や e-Learning コンテンツで使用するご同意を取っているでしょうか。学生個人の連絡先が分かる場合、今からでも肖像権の利用という意味で、同意書を取っておいた方が良いでしょう。連絡先が不明で同意が得られない場合、モザイクで個人が特定できない状態にした方が良いでしょう。

二次的著作物・翻訳権
Q: 日本国内の出版社に書籍内にある画像の利用許諾申請をしたところ「うちは翻訳権があるだけ」と言われてしまいました。どうすれば良いでしょうか。

A: 翻訳された書籍や小説を映画化したものや既存の楽曲を作曲したものは、二次的著作物と言えます。しかし、例えば翻訳された日本語書籍の中で使用されている画像を e-Learning コンテンツの中で使用したい場合、注意が必要です。日本の出版社に利用許諾申請の連絡しても「うちは翻訳権しかない」「うちは販売権しかない」ので、海外の著作権者に連絡をとられることがあります。たまたま窓口になった方が詳しくない場合は、有耶無耶に許諾を取ったことになる場合もあるかも知れませんが、原作の画像を使用する場合は、海外に許諾申請をする必要があります。

編集著作物・新聞
Q: 対面授業で新聞の切り抜き画像をスライドに載せて学生に見せたのですが、来年その授業を e-Learning 化するつもりです。対面授業で使ったスライドを e-Learning にそのまま使用しても大丈夫でしょうか。どちらも同じ授業なので、教育の例外規定が適用されると考えて良いでしょうか。



A: 新聞、百科事典等、事実を記述しているだけで、一見著作物ではないように感じるかも知れませんが、素材の選択や並べ方に編集者の創作性が現れているものは編集著作物です。対面授業で新聞の切り抜き画像をスライドで紹介することも多いかと思いますが、e-Learning (メディア授業)でのスライドや動画に、スクリーン画像を掲載する場合は、各新聞社によって対応も異なりますし、HP のサイトポリシーやご利用の注意事項をよく確認する必要があります。

【参考】
日本新聞協会の「ネットワーク上の著作権について」を見限り、学内の ID パスワードが必要な LMS での使用も著作権者の承諾が必要とされています。
http://www.pressnet.or.jp/statement/copyright/971106_86.html (確認日 2017/07/13)

編集著作物・数学問題集
Q: 数学の問題集をそれそのまま e-Learning での小テストに使用したいのですが、著作権上問題があるでしょうか。数学は、定理や公式の組合せでし、著作物にはならないですかね?

A: 問題中に記載された定理や数式などは著作物とは言えないと考えられますが、問題全体については、定理、数式、問題文等を工夫して選択し配列していることから、その選択と配列によって創作性を有すると認められれば、編集著作物に該当すると考えられます。学習効果等を考慮して配列されている問題集をそのまま使用する場合、複製許可について出版社に問い合わせた方が良いでしょう。

編集著作物・地図
Q: e-Learning での防災教育教材で住宅地図を使いたいのですが、単なる地形という客観的事象を表しているに過ぎないので、利用許諾は不要ですか?

A: 著作権法で保護しているのは、地図上に表されている地形という客観的事象ではなく、思想又は感情を創作的に表現した部分です。例えば地下鉄路線図や住宅地図などはその用途に応じて見やすく表現されており、その作成(制作)過程において思想又は感情が表現されていると言えます。よって、著作権者に利用許諾申請をする必要があると考えます。

共同著作物・キャラクター
Q: 機械工学の e-Learning でドラえもんの画像を使用したいのですが、ドラえもんのような共同著作物の著作権はいつまで存続するのでしょうか。ドラえもんの場合、藤子不二雄のお一人が亡くなっていますが、利用許諾を取る場合、どうすれば良いのでしょうか。

A: 今回ご質問の作品の場合、著作権はお二人がなくなってから 50 年となり、現在も保護期間中です。本来はご遺族とご存命の藤子不二雄・A 氏双方に許諾を取るのが理想ですが、まず出版社と藤子不二雄・A 氏に連絡を取られては如何でしょうか。

権利者の立場 Q&A

このページは、権利者の立場からよくある質問と回答をまとめたものです。お問い合わせは、お問い合わせ先へご連絡ください。

共同著作物・執筆者変更

Q: 大学内の研究室で同僚 8 人と共同研究をしており、共著が数冊あります。出版社から改訂版の発行の話と共著をベースにした e-Learning 教材の話があり、研究室では前向きに検討中ですが、うち一人の著者が同意しません。この場合、該当著者が担当する章を別の研究者に執筆依頼しても、何か問題はないでしょうか。

A: 改訂版と e-Learning を別々に考える必要がありますが、改訂版がクリアされれば、e-Learning 作成も可能になるかと思えます。どこを書いたか不明といった共同著作物ではなく、各章独立した構成での書籍の場合、著者の許諾なく利用することはできませんが、今回の場合、執筆者の変更は可能です。同じ内容の改訂版を発行したい場合、執筆者変更の章で必要なデータが、該当著者の物でないか確認が必要で、内容や構成を変える場合は、改訂版として整合性があるか、十分検討が必要です。

共同著作物・契約書

Q: 大学内の研究室で同僚教員 15 人と、1 科目の e-Learning コンテンツを制作しています。各回を一人が担当し、全 15 回のコンテンツです。e-Learning 制作室から、代表である私に 15 枚の「大学への著作権譲渡書」が送られてきました。面倒なので、代表の私一人の契約(署名捺印)で済ますことは出来ないでしょうか。

A: 各回が独立した内容の場合、各回に著作権が存在することになります。まず、委任状をとることとなり、同じ面倒がありますし、代表で契約しても教員は他大学へ勤務となることもありますので、何かあった時に後々まで代表者であるあなたが、連絡を取る必要が生じます。契約は、全教員が個別にしておくことをお勧めします。

対応方法・入試問題

Q: 通信教育の会社から、本学の過去の 10 年分の入試問題で、e-Learning での問題集を作成・販売したいと連絡がありました。どのように許可をすれば良いのでしょうか。何か注意点はありますか。

A: まず、過去の問題が貴学に著作権があるかどうか、確認が必要です。素材の選択や配列によって著作権がある場合は、著作物となります。ただ、その過去問題の中に、国語であれば小説等、何等かの第三者著作物が含まれていないかの確認も必要となります。含まれている場合は、それらの第三者著作物の複製許諾も取る必要がありますが、それは、e-Learning を制作する会社に責任を持って取得することを条件にすれば良いでしょう。大学の HP 等で過去問題を公開する場合も、同様に第三者著作物の確認・複製許諾が必要となりますので、注意してください。

対応方法・電子書籍

Q: 既に出版済の書籍について出版社から電子書籍での発行を勧められています。著者として何か注意することはありますか。

A: 出版社にとって権利として、紙媒体での出版は、複製権が発生し、電子書籍の場合は公衆送信権となります。紙媒体の場合、図書館や知人間で貸出やコピー等で済んでいたかも知れませんが、電子書籍となると、出版社のセキュリティ体制次第で、著作物が広く拡散し、著者の利益を損なう可能性もあります。どのような状況・

条件下での電子書籍の販売となるのか、しっかり契約書を確認する必要があります。時代の流れとして、紙媒体と電子書籍の同時発行を条件とする出版社も増えてきています。

【参考】出版権設定契約書タイプ1(紙媒体・電子出版一括設定用)一般社団法人 日本書籍出版協会作成 2017
<http://www.jpba.or.jp/pdf/publication/hinagata2015-1.pdf>

対応方法・マスコットキャラクター

Q: 大学のマスコットキャラクターとして、学生から公募する予定ですが、キャラクターの決定後に大学と学生間の契約で、著作権の譲渡等、何か注意する必要があるでしょうか。

A: 大学のマスコットキャラクターということは、今後ホームページや行事で使用する着ぐるみ、教材、文具等様々な場面で使用されることが予想されます。著作権を譲渡されていても、学生には著作者人格権が存在しますので、同一性保持権の侵害で後々問題にならないよう、公募のキャラクターをベースとして、改変して使用する旨、譲渡証書に記載しておくといえよう。学生が明るく気取ったイメージで作成していても、使用する場面によっては、怒っていたり泣いていたいたりするキャラクターが必要となる場合もあります。キャラクターの場合、学外での無断使用・販売を防ぐためにも、商標登録しておくといえよう。

複製法令

同一性保持権…著作権法第 20 条

複製権…著作権法第 21 条

対応方法・著作権侵害

Q: 司法試験合格の神様として有名な本学の教授が作成し、授業で教科書として使用している市販問題集が、他大学の法律授業で補助教材として自宅学習用(LMS(学習マネジメントシステム)上で配布されているようです。シラバスには教材として指定されていないようです。著作権侵害には当たらないのでしょうか。

A: 教育の「著作権の制限規定」は存在しますが、大講義室の場合数百人規模と考えられ、問題集を丸々コピーして毎回使用しているなら、著作権の侵害に当たると考えられます。著作権法 35 条 1 項には「当該著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合」には、自由な複製はできないこととされています。大学として異議を申し立て、シラバスへの教材としての掲載や生徒での書籍販売等で改善が見られない場合は、損害賠償請求をすることも考えられます。

複製法令

複製権…著作権法第 21 条

差止請求権…著作権法第 112 条

著作物性の判断 Q&A

複製利用・AI・写真

Q: 人工知能を持つロボットが撮影した写真は、著作物になり得るのでしょうか？ロボットを作成した方に写真の利用許諾申請をする必要はありますか？

A: 一般的には、著作物には該当しないと考えられます。ロボットや人工衛星、無人航空機、防犯カメラが自動的に撮影した写真は、機械が撮影しているため、「(人間の)思想又は感情を創作的に表現したもの」には該当しないからです。

複製利用・楽譜

Q: 購入した楽譜をコピーして教育学部の授業で演奏者複数人に学内の LMS(学習マネジメントシステム)上から配布し、使用することは著作権侵害となりますか？

A: 授業で数名の学生に配布するのであれば、教育の「著作権の制限規定」で問題ありませんが、それを電子化してアップロード、学生がダウンロードして使用する場合は、複製権・公衆送信権の侵害になります。

複製利用・写真

Q: 定点カメラと同じアングルで人が写真撮影した場合、その写真は著作物となるのでしょうか？

A: 人の意思や判断(思想又は感情)が入っている場合、著作物と認められる可能性は高いと思われます。

依拠性・翻案

Q: 作品において、意図せず、無意識にすりこまれ、他人の作品と似てしまった場合も著作権侵害となるのでしょうか。

A: 依拠性がある(他人の著作物に準じる機会があった)からと言って必ずしも著作権侵害になるとは限りませんが、依拠性があり、且つ、類似(翻案)と認められる場合は、原則として著作権侵害となります。但し、権利制限規定に該当する場合はこの限りではありません。

依拠性・オマージュ

Q: オマージュ作品は著作権法上問題ないのでしょうか。

A: 一般的にオマージュ作品は他人の作品等の影響を受けて(依拠して)創作されるものですが、その該当判断の基準は曖昧です。著作権問題(盗作)に発展しやすいことから、原則、著作権が存続している場合は権利者から利用許諾を受けるのが良いでしょう。

オンライン授業のための 著作権処理ハンドブック



大学連携 e-Learning 教育支援センター四国
著作：吉田 明恵（愛媛大学）
藤本 憲市（香川大学）
村井 礼（前香川大学、現山口大学）
監修：木村 友久（山口大学）

**「著作権処理ハンドブック」
ケーススタディ編**

大学連携e-Learning 教育支援センター四国
著者：吉田明恵(愛媛大学)
藤本憲市(香川大学)
村井 礼(前香川大学、現山口大学)
監修：木村友久(山口大学)

Start 確認事項1/2	St1 著作物の 保護期間	St2 グラフの 著作物性	St3 キャプチャの 利用	St4 スライドと写真 の利用
------------------	------------------	------------------	------------------	--------------------

到達目標：
著作権処理に関する基礎的な知識を理解し、
実務上の問題点を発見することができる。

本ワークシートの進め方：
次のページのストーリーを読み、あなたの判断で対応する著作権処理の
数・順番を決め、実際に作業をおこなってください。全て着手する必
要はありません。(St1及びSt2は必須)

本ワークシートの流れ：

Start: 四国連携大学のストーリー(登場人物等)	... 2
St1 : 著作物の保護期間・改変利用 / 案件1 (必須)	... 3
St2 : グラフの著作物性 / 案件2 (必須)	... 9
St3 : キャプチャの利用 / 案件3	...13
St4 : スライドと写真の利用 / 案件4	...15
St5 : 職務著作の利用 / 案件5: 利用許諾申請書の作成	...17

免責事項：
本資料の回答例は実務担当者としての意見であり、法的な検証を経た機軸回答ではありません。
著作権処理は複雑であり、個々のケースにより、判断が必要になります。

1

Start 確認事項2/2	St1 著作物の 保護期間	St2 グラフの 著作物性	St3 キャプチャの 利用	St4 スライドと写真 の利用
------------------	------------------	------------------	------------------	--------------------

四国連携大学でのストーリー

穴田貴男(あなた)：先月から四国連携大学法務部〇〇分室で、
著作権処理担当をしています。

山田ゆうこ：同大学のeラーニング推進部でeラーニングコンテン
ツ開発を担当しています。

エミカさん：同大学法務部のベテラン補佐員です。

あなたの元には、毎日山田さんから、次々と著作物に関する相
談と利用許諾申請が舞い込んできます。あなたはエミカに助けら
れ、四苦八苦しながらも毎日業務に当たっています。

ところどころにヒントやサンプル(エミカのつぶやき)が隠れてい
ますので、参考にしてください。

早く一人で判断、許諾申請ができるようにならなければ！

そうそう、
本日午後から、山口大学の木村先生が見学に来られています。
最後に各会場で情報共有し、木村先生にご意見を伺います。

あなたは、山田さんからの依頼にどのように回答し、著作
権処理を行いますか？

2

St5 職務著作の 利用	St1 著作物の 保護期間	St2 グラフの 著作物性	St3 キャプチャの 利用	St4 スライドと写真 の利用
-----------------	------------------	------------------	------------------	--------------------

質問

葛飾北斎の日本画の写真集の中から風景画をeラーニングの
背景で使用したいという要望が科目担当教員から出ています。
できれば、パロディ的な画像を加筆し改変したいのですが、何
か問題はありますか？

課題 以下の選択肢の中から、今回の質問への回答として適切
と思われるものをすべて選んでください。

- 葛飾北斎は死後50年以上経っているので、葛飾北斎の描
いた日本画の著作権は消滅しています。したがって今回
の利用にはまったく問題はありません。
- 葛飾北斎の日本画を写真に撮影した場合、カメラマンに
著作権が発生する場合があります。したがって、カメラマン
に無断で利用するのは問題があります。
- 著作物を改変する場合には、著作者人格権に配慮する必
要があります。著作者の名誉を損なうような改変をするの
は問題があります。

ポイント

- ① 対象となる著作物は？
- ② 著作物の保護期間は？ 著作者の死後()まで
- ③ 著作者の権利は？ 著作権及び著作者()権

3

St5 職務著作の 利用 St1 著作物の 保護期間 St2 グラフの 著作物性 St3 キャプチャの 利用 St4 スライドと写真 の利用

質問

葛飾北斎の日本画の写真集の中から風景画をeラーニングの 背景で使用したいという要望が科目担当教員から出ています。 できれば、パロディ的な画像を加筆し改変したいのですが、何 か問題はありますか？

回答例

E-Learning 推進部 山田様
いつも大変お世話になっております。法務部愛媛分室の穴田です。
今回の件について、以下の通りご回答いたします。

判断とその理由:
北斎の没後50年以上経っており、日本画の著作権は消滅していると考えられます。しかし、カメラマンの著作権はグレーな部分があり、光の当て方等によっては創作性が認められる場合もあります。写真集の写真を使用 する場合は、出版社を通じてカメラマンに許諾を取っておくことをお勧めし ます。また、著作権は消滅していても、著作者人格権が存在するため、作 者の名誉を傷つけるような改変はすべきではないと考えます。

提案:
【提案1】パロディ風に改変することは諦め、写真集からではなく、ネット上 でCCL(クリエイティブコモンズライセンス)が表示されている葛飾北斎の画 像を使用しては如何でしょうか。
【提案2】パロディ風が重要事項である場合は、背景に葛飾北斎を使用す ることを諦め、全て自作しては如何でしょうか。

以上です。ご確認ください。
どうぞよろしくお願い致します。

4

St5 職務著作の 利用 St1 著作物の 保護期間 St2 グラフの 著作物性 St3 キャプチャの 利用 St4 スライドと写真 の利用

質問

葛飾北斎の日本画の写真集の中から風景画をeラーニングの 背景で使用したいという要望が科目担当教員から出ています。 できれば、パロディ的な画像を加筆し改変したいのですが、何 か問題はありますか？

回答例

解説

a. 著作物の保護期間は著作者の死後50年までとなっている。著作 権の切れた著作物は自由に利用することができる。但し、今回は 日本画を写真に写し取って利用するものであること及び改変する ことに考慮する必要がある。そのため、問題がないとまではいえ ない。 **不正解**

b. 絵画を写真に撮った場合、光の具合等により、創作性が認められ る場合がある。日本画の著作権が切れていたとしても、それを写 し取った写真の著作権が存続する場合はカメラマンの許諾が必要 となる。 **正解**

c. 著作者には、その意に反する改変を受けないものとする著作者人 格権(同一性保持権)が認められている。 **正解**

ポイント

① 対象となる著作物は？
② 著作物の保護期間は？ 著作者の死後()まで
③ 著作者の権利は？ 著作権及び著作者()権

5

St5 職務著作の 利用 St1 エミカの つぶやき St2 グラフの 著作物性 St3 キャプチャの 利用 St4 スライドと写真 の利用

※CCL(クリエイティブコモンズライセンス)とは
<https://creativecommons.jp/licenses/>

CCLとは、自由利用の意思を示すライセンスのことです。アメリカの非営利団体が運 用していて、世界各国で使用されており、利用の条件が6段階に分けられています。 このライセンス表示があるデータを探す著作権処理が楽ですよ！

Creative Commons License (米)

①表示(クレジット)	
②表示-非営利	
③表示-継承	
④表示-非営利-継承	
⑤表示-改変禁止	
⑥表示-非営利-改変禁止	

サーチクリエイティブコモンズ: CCLが付与されたデータを検索できます。
<http://search.creativecommons.org/>

6

St5 職務著作の 利用 St1 エミカの つぶやき St2 グラフの 著作物性 St3 キャプチャの 利用 St4 職務著作の 利用

先日利用許諾申請を送付した東京大学から利用許可の返信メールが送られて 来ました。申請Mailと許可メールをセットでファイリングしておきますね。

関東連携大学海洋センター一中
四国連携大学法務部の穴田と申します。

現在四国連携大学では、学生向けにeラーニングコンテンツを制作しており、学習支援システム (moodle)で配信する予定です。そのコンテンツで使用するスライドに下記の画像を利用させていた だけではないでしょうか。

【ファイル名】Protein.JPG (<http://tokyorenkei-u.ac.jp>)
【使用範囲】
科 目 名:タンパク質と生命
担当教員:林太郎
利用方法:学習支援システムmoodle上で公開
公開範囲:moodle上にIDとパスワードでログインする学生及び教職員
主従関係:スライド全100枚中の1枚(全15回)
配布方法:2年毎 口有償
公開大学:〇〇大学・△△大学・◆◆大学
利用期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日
(毎年同じ科目名で担当しますので、継続して使用させていただけると幸いです。)
申請担当者:四国連携大学法務部 穴田真男
anata.anata.jh@renkei-u.ac.jp 089-9270-XXXX

ご検討をよろしくお願い致します。

四国連携大学 法務部
穴田様

お問い合わせの件、担当教員の確認が取れました。
写真の引用、承知いたしました。

よろしくお願いたします。

関東連携大学 海洋センター事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷15-3-1
関東連携大学 理学部1号館1F
Tel&Fax: (03)5841-XXXX 内線: XXXX
E-mail: office@u.tokyorenkei.ac.jp

7

第三者著作物利用状況確認シート

e-Learning作成予定科目名:
科目担当教員:

上記科目のe-Learningコンテンツ内で利用する第三者著作物について、以下の確認をお願いします。
赤字は巻末の用語集を参照してください。

- 第三者著作物を利用していますか？
a 利用していない。もしくは全てパブリックドメインなどの著作権フリー素材である。
b 利用している。利用する予定である。
c 利用にあたるかどうか判断できない。
- 自撮りの写真が含まれている場合、その写真に著作権に関わるものが写っていますが(写りこみ)？
a 写りこんでいない。
b 写りこんでいる。
c 写りこんでいるかどうか判断できない。
2. 共にaに☑が入る場合は、問題はありませんので、これで終了です。
- 第三者著作物(特に文献や新聞記事等)を引用する場合、出典を明記していますか？(外国の文献も国内の文献と同様に出典を明記する必要があります。)
a 明記している。
b 明記していない。
c 明記しているかどうか判断できない。
- 第三者著作物(図表、写真、画像等、他の資料)を複製したものが含まれていますか？
a 含まれていない。
b 含まれている。
c 含まれているかどうか判断できない。
- 市販のDVDやCDに収録されている映像ソフトや音楽等の商業用コンテンツや、YouTubeやニコニコ動画等、インターネット上に公開されている動画を利用していますか？
a 利用していない。
b 利用している。
c 利用にあたるかどうか判断できない。
- 利用している第三者著作物がクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CCL)などの自由利用許諾が明示されているものの場合、提示された規定に従った利用になっていますか？
a 規定に従って利用している。
b 規定に従った利用になっていない。
c 規定に従った利用になっているかどうか判断できない。
- 第三者著作物を利用する場合、著作権者に事前に利用許諾を得ていますか？
a 得ている。
b 得ていない。
c 利用許諾を得る方法が分からない。

コンテンツ制作を開始する際に、このような確認シートで科目担当教員にチェックしてもらっていいですね。

研修後も7.のcに☑が入る場合は、最大分室までご相談ください。



8

S15 職務著作の 利用	S11 著作物の 保護期間	S12 グラフの 著作物性	S13 キャプチャの 利用	S14 スライドと写真 の利用
-----------------	------------------	------------------	------------------	--------------------

質問

今回は、大手化学メーカーの四ツ星が商品の開発中に得た実験データが、学会論文で発表されており、そのデータ(グラフ)をeラーニングの化学科目で使用したいのですが、何か問題はあるでしょうか？



課題 以下の選択肢の中から、今回の質問への回答として適切と思われるものをすべて選んでください。

- 実験データそのものに著作権性は認められないので、そのグラフを利用するのはまったく問題ありません。
- 今回のデータは、四ツ星社が多額の費用、時間及び人員を費やして行った実験の末に得られたものであり、経済的価値が極めて高いと認められます。無益な争いを避けるため、利用に当たっては四ツ星社に確認した方が良いと思われます。
- 職務著作に該当する場合、学会論文の著者(従業員)ではなく四ツ星社との間で著作権処理を行う必要があります。

ポイント

- データそのものに著作権性は認められるか？
- 経済的価値を有するデータの利用で注意することは？
- 職務著作の成立要件は？

9

S15 職務著作の 利用	S11 著作物の 保護期間	S12 グラフの 著作物性	S13 キャプチャの 利用	S14 スライドと写真 の利用
-----------------	------------------	------------------	------------------	--------------------

今回は、大手化学メーカーの四ツ星が商品の開発中に得た実験データが、学会論文で発表されており、そのデータ(グラフ)をeラーニングの化学科目で使用したいのですが、何か問題はあるでしょうか？



回答例

E-Learning 推進部 山田様
いつも大変お世話になっております。法務部愛媛分室の穴田です。
今回の件について、以下の通りご回答いたします。

判断とその理由:

場合によって許諾申請は必要となります。基本的に単なる事実や結果を表すデータそのものに著作権性はありますが、企業が数千円・数万円の費用を掛けてそのデータを取得している場合や、経済的価値を有するデータもあるため、敬意を払って確認をした方が良いと考えます。無断で利用した場合、クレームを受けるもしくは訴訟に発展する可能性も考えられます。
訴訟となるとお互いに感情的になる場合もあり、著作権性に関わらず、利用許諾申請をしておいた方が安心であると言えます。また、今回使用される予定のグラフが、何らかの思考や感情を含むような工夫された図であるならば、著作物として利用許諾申請をする必要があります。職務著作の場合は、会社に確認を取る必要があります。

処理方法:

念の為に利用許諾を取得しておくのであれば、化学メーカー四ツ星に申請します。学会の規約も確認しますので、学会名を教えてください。

以上です。ご検討ください。
どうぞよろしくお願致します。



10

S15 職務著作の 利用	S11 著作物の 保護期間	S12 グラフの 著作物性	S13 キャプチャの 利用	S14 スライドと写真 の利用
-----------------	------------------	------------------	------------------	--------------------

質問

今回は、大手化学メーカーの四ツ星が商品の開発中に得た実験データが、学会論文で発表されており、そのデータ(グラフ)をeラーニングの化学科目で使用したいのですが、何か問題はあるでしょうか？



解説

a. 実験結果等のデータ自体は、事実又はアイデアであって、著作物ではない以上、そのようなデータを一般的な手法に基づき表現したのみのグラフは、多少の表現の幅はあり得るものであっても、なお、著作物としての創作性を有しないものと解すべき、との判例がある。但し、著作権法上の保護が認められない情報財であっても、一定条件下で保護すべきとの判例もある。したがって、まったく問題がないとまではいえない。

不正解

b. 問題文のとおりである。著作権法による保護がなくとも、民法上の不法行為に当たる場合は損害賠償義務を負うことがある。

正解

c. 職務著作の著作者は従業員ではなく使用者(企業側)となる。

正解

ポイント

- データそのものに著作権性は認められるか？
- 経済的価値を有するデータの利用で注意することは？
- 職務著作の成立要件は？

11

グラフやデータに関しては、下記の判例を参考にすると良いですよ。

平成17年(ホ)第10038号
著作権侵害差止等請求控訴事件
(原審・さいたま地方裁判所平成16年(ワ)第1090号)
口頭弁論終結日 平成17年4月25日
http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei.jp/575/009575_hanrei.pdf

今ネットを使えない人のために、下記に一部抜粋しています。

事実及び理由
(省略) 控訴人の指摘するように、実験結果等のデータをグラフとして表現する場合、折れ線グラフとするか曲線グラフとするか棒グラフとするか、グラフの単位をどのようにとるか、データの一部を省略するかなど、同一のデータに基づくグラフであっても同様でない表現が可能であることは確かである。


しかしながら、実験結果等のデータ自体は、事実又はアイデアであって、著作物ではない以上、そのようなデータを一般的な手法に基づき表現したのみのグラフは、多少の表現の幅はあり得るものであっても、なお、著作物としての創作性を有しないものと解すべきである。なぜなら、上記のようなグラフまでを著作物として保護することになれば、事実又はアイデアについては万人の共通財産として著作権法上の自由な利用が許されるべきであるとの趣旨に反する結果となるからである。しかるころ、本件図表は、その個々の正確な意味内容は本件全証拠によっても必ずしも明らかではないものの、その体裁に照らせば、いずれも、C研究室が高硫黄・高金属残油の水素化分解触媒の開発について行った実験の結果等のデータを、一般的な通常の手法に従って、データに忠実に、線グラフや棒グラフとして表現したものであると認められる。したがって、本件図表は、著作物に当たらないものといわざるを得ず、控訴人の上記主張は理由がない。

http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei.jp/575/009575_hanrei.pdf

質問

科研費や博士論文のコンプライアンス系のeラーニングコンテンツを制作する予定です。法律ネット相談等に掲載している著作権法とQ&Aをそのままキャプチャで利用することは可能ですか？
例えば、下記のようなサイトです。

<https://www.bengo4.com/houmu/17/1263/>


あなたの判断とその理由:

あなたの処理方法:

質問

科研費や博士論文のコンプライアンス系のeラーニングコンテンツを制作する予定です。法律ネット相談等に掲載している著作権法とQ&Aをそのままキャプチャで利用することは可能ですか？
例えば、下記のようなサイトです。

<http://www.bengo4.com/houmu/17/1263/>



回答例

E-Learning 推進部 山田様
いつも大変お世話になっております。法務部愛媛分室の穴田です。
今回の件について、以下の通りご回答いたします。

判断とその理由:
許諾申請が必要な事案だと考えます。(条例や著作権法は著作物ではないので、本文を掲載する際も許諾申請は不要です。)ただ丸々画面ごとキャプチャで使うのでは、主従関係が明確ではありませんし、相手の心証も良くないかも知れません。またweb画面全体で編集著作物となる場合もあります。ご連絡いただいたURLの一つ目の「質問サイトの質問と回答をまるまるコピーして貼り付ける行為について」も近い状況ですね。

処理方法:
非営利目的の教材だと許諾申請をすれば、画面のキャプチャでも許可が貰える可能性もありますが、以下の方法では如何でしょうか。
【提案1】教材にURLを載せて、学生にはリンク先を読むように指示を書く。
【提案2】本当に使いたい事例をテキストで利用させてもらうよう、許諾申請を出す。

以上です。ご検討ください。
どうぞよろしくお願致します。

質問

先日知財セミナーに参加した際、講師の木村先生からご厚意で資料のスライド(yamaguchi0123.pdf)をいただきました。とても良い内容なので、そのスライドをe-Learning コンテンツの一部に利用したいと考えています。できれば、そのスライドに山口大学のweb上にある木村先生の顔写真(kimura.jpg)を掲載したいです。上記のスライドと写真の2件で何か問題はありますか？


あなたの判断とその理由:

あなたの処理方法:

質問

先日知財セミナーに参加した際、講師の木村先生からご厚意で資料のスライド(yamaguchi0123.pdf)をいただきました。とても良い内容なので、そのスライドをe-Learning コンテンツの一部に利用したいと考えています。できれば、そのスライドに山口大学のWeb上にある木村先生の顔写真(kimura.jpg)を掲載したいです。上記のスライドと写真の2件で何か問題はあるでしょうか。



回答例

E-Learning 推進部 山田様

いつも大変お世話になっております。法務部愛媛分室の穴田です。今回の件について、以下の通りご回答いたします。

判断とその理由:

具体的な内容が分からない状態での回答となりますが、参考資料としていただいた紙資料をコンテンツに利用したいということなら、改めて木村先生に許諾申請をする必要がありますね。お写真についても、同様に許諾申請が必要です。肖像権も確認しておいた方が良さそうです。

処理方法:

連絡先をご存じなら、一度山田さんご自身で、木村先生に許諾申請の確認をしていただければでしょうか。

以上です。ご検討ください。
どうぞよろしくお願い致します。



16

質問

資料(yamaguchi0123.pdf)とお写真(kimura.jpg)について、木村先生にお伺いしたところ、職務著作物となっているようで、山口大学研究推進機構知的財産センターに著作権と著作者人格権があるそうです。山口大学に提出する利用許諾申請を作成をお願いいたします。利用させていただき、スライドと写真を添付させていただきますので、ご査収願います。

我々の情報は以下の通りです。

科目名: 知的財産入門

担当教員: 村田史郎教授

対象: 四国連携大学の学生向け

利用方法: e-Learning コンテンツ

開講期間: 平成29年4月1日～8月30日

写真の肖像権は木村先生にご確認し許可をいただきました。プロのカメラマンが撮影したそうですが、大学で使用するために撮影した写真なので、職務著作となるそうです。

他にも必要な情報がありましたら、ご教示ください。よろしくお願い致します。



17

利用許諾申請書

了解です。
直ぐ作成します。



18



4. 総括

本事業では、連携大学における大学教育を共同実施するため、平成 24～25 年度を準備期、平成 26～27 年度を試行期、平成 28～29 年度を拡充期として、主として下記の課題に取り組んできた。

1. 大学教育を共同実施するための仕組みを構築

- ・大学ごとに異なる教育システム（履修スケジュール、シラバス等）への対応
- ・非常勤講師任用等に係る事務手続きの簡素化
- ・共同実施科目（50 科目）の開講による本仕組みの検証

2. 非同期型 e-Learning 授業の質保証の仕組みを構築

- ・質保証に係るガイドラインの策定とチェック体制の構築
- ・学生と教員の双方向性の実現

3. コンテンツ制作に係る業務省力化と視聴確認体制の構築

- ・コンテンツの品質に係るガイドラインの策定とチェック体制の構築
- ・第三者著作物利用のための事務手続きの定型化

4. 継続的な運用のための体制構築

- ・補助金期間終了後の運用体制の整備

これらの課題を解決すべく、各種 WG やサンプル授業設計プロジェクトを組織し、ガイドライン策定、チェックシートの作成、授業改善アンケートの作成などを行った。その主な成果を課題別に取りまとめたものが表 4.1 である。

表 4.1 本事業における課題別成果

課題	検討項目	成果物
共同教育実施モデルの運用	履修手続き、成績入力方法、シラバス等、5 大学で異なる教育システムに対応した仕組みの整備	学修期間の弾力的運用 シラバス情報収集フォーマット 成績評価早見表 非常勤講師任用等事務手続きの簡素化 38 科目の共同開講
教育の質保証	授業設計、授業運用、継続的な授業改善プロセス等に関する教育の質保証の仕組みの整備	オンライン授業設計ガイドライン オンライン授業運用ガイドライン 授業改善アンケート オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート
コンテンツ制作	著作権処理、コンテンツ開発等、コンテンツの共同開発体制の整備	著作権処理ハンドブック（作成中） 譲渡証書 コンテンツ開発ガイドライン コースコンテンツ確認シート 計 61 科目分のコンテンツ（平成 30 年度開講予定）
継続的運用体制の整備	補助金期間終了後の組織や規程等の整備	四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ、ほかを改訂

本事業で構築した共同教育実施モデルは、大学間で異なる教育システムに柔軟に対応できる仕組みである。このモデルを構築し運用したことにより、連携大学の学生にとっては、他の 4 大学において特別聴講生等の手続きをすることなく自大学の科目と同じ手続きで履修登録が可能になるという大きな利点が得られたことになる。その効果は、図 4.1 及び 4.2 に示したとおり、単位互換制度を利用して計 8 科目を開講した場合の他大学科目の履修者数 17 名（平成 26 年度実績）に対し、計 7 科目を共同開講した場合の他大学提供科目の履修者数が 344 名（平成 27 年度実績）であったことから明らかである。

その共同教育実施モデルを実現するため、すべての知プラ e 科目において、非同期型 e-Learning の形態を採用した。しかしながら、非同期型 e-Learning 授業形態で対面授業と同程度の教育の質が保証でき

るのかという懸念が生じることとなった。この懸念を解決すべく、インストラクショナルデザインの観点から、オンライン授業の設計・運用に関するガイドラインを策定し、更には、これらガイドラインに準拠した授業設計となっていることを確認するチェックシートも作成した。また、授業改善のPDCAサイクルを実行すべく、授業改善アンケート項目も作成した。これらにより、非同期型 e-Learning 形態の授業で教育の質を保証する仕組みを全国に先駆けて整備することに成功した。

計 50 科目の開講を目標に掲げてコンテンツを制作してきた結果、図 4.1 に示したとおり、平成 30 年度には 50 科目を大きく上回る計 61 科目の開講が決定された。またそれら科目の内容は、第 2.2.1 節に示したとおり、各大学の特色ある教育・研究分野に関係するものであり、これら科目を開講することにより、教養科目の多様性の向上、多様で柔軟な見方や考え方のできる教員養成、バランスの取れた履修担保、基盤教育における学修内容・方法の選択肢拡大、及び幅広い教養を身につける学修力の向上など、連携大学における教育の質向上に大きく貢献できたと考えている。

これら 61 科目の e-Learning コンテンツを制作する過程において、第三者著作物の権利処理にかなりの労力と時間が費やされたことから、著作権処理に係る負担軽減のため、オンライン授業コンテンツ開発のための著作権処理ハンドブック案を作成した。なお、このハンドブックは、平成 30 年度中には完成させ、センター四国のウェブサイト公開する予定である。

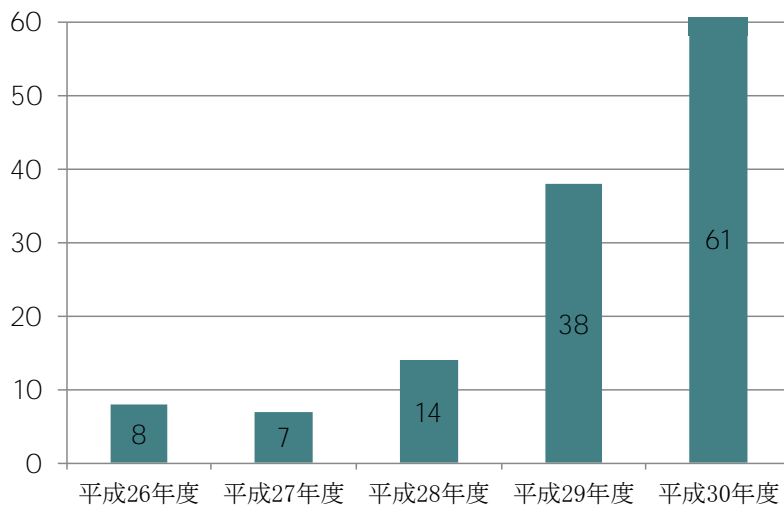


図 4.1 開講科目数の推移（平成 26 年度は単位互換，平成 27 年度以降は共同開講。平成 30 年度は予定。）

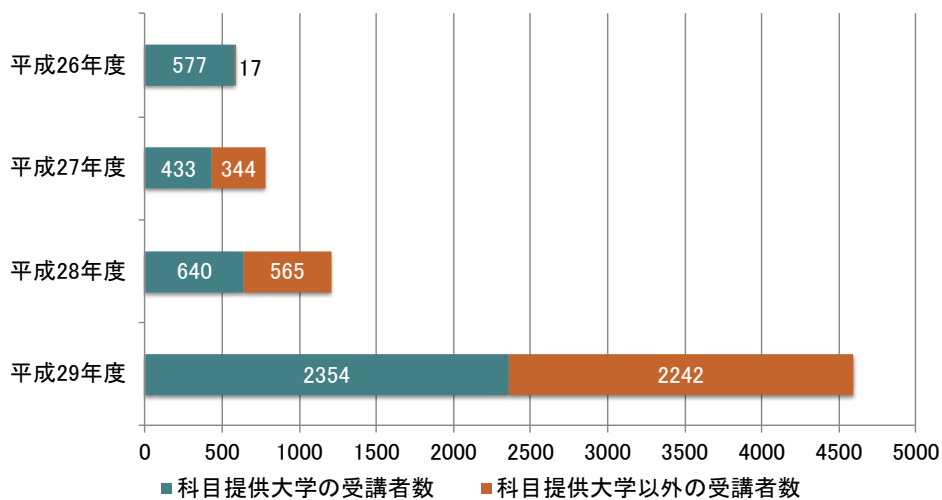


図 4.2 履修者数の推移と内訳

付録

A 平成 25～29 年度委員会活動記録

平成 25 年度

第 1 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 25 年 10 月 1 日 (火) 13 時 30 分から
- (2) 場 所 遠隔会議システムの利用により各大学で開催
- (3) 協議題
 - ・協議題 1 今後の進め方
 - ・その他
- (4) 決定事項
 - 協議題 1 今後の進め方
 - ・センター四国（香川大学）が、事前に実施したアンケートの結果等を基にして課題の整理を行った上で 原案を作成し、委員会に諮ることとなった。

第 2 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 25 年 11 月 6 日 (水) 10 時 30 分から
- (2) 場 所 遠隔会議システムの利用により各大学で開催
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 協議題
 - ・協議 1 5 年後の到達イメージ（案）について
 - ・協議 2 提供科目アンケートからのニーズ・シーズマッチングについて
 - ・協議 3 単位互換協定（案）及び覚書（案）について
- (5) 報告
 - ・報告 1 予算の執行状況について
 - ・報告 2 ホームページの公開について
 - ・報告 3 英語表記について
 - ・報告 4 短縮名称について
- (6) 決定事項
 - 協議 1 5 年後の到達イメージ（案）について
 - ・共同実施をどう考えるか等について、センター四国（香川大学）が各分室訪問を実施し、意見調整を行うこととなった。
 - 協議 2 提供科目アンケートからのニーズ・シーズマッチングについて
 - ・マッチングの方法論を含めて、センター四国（香川大学）が調整と取りまとめを行うこととなった。
 - 協議 3 単位互換協定（案）及び覚書（案）について
 - ・単位互換だけで事業を実施するというのではなく、平成 26 年度から単位互換を実施することとなった場合に各大学で必要な手続き等を検討する為に、単位互換協定（案）及び覚書（案）の内容について確認することとなった。

第3回企画委員会

- (1) 日 時 平成 25 年 12 月 3 日 (火) 13 時 30 分から
- (2) 場 所 香川大学本部管理棟 3 階 第 1 会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 協議題
 - ・協議 1 事業理念の共有について
 - ・協議 2 提供科目群の絞込みについて
 - ・協議 3 実施体制の検討について
 - ・協議 4 5 年後のイメージについて
 - ・協議 5 短縮名称について
- (5) 報告
 - ・報告 1 TV 会議多地点接続装置運用のための情報提供について
- (6) その他
- (7) 決定事項
 - 協議 1 事業理念の共有について
 - ・センター四国（香川大学）が示した案について、センター規則等を参考にしながら見直すこととなった。
 - ・共同実施を行う方向性を示す方向で検討することとなった。
 - 協議 2 提供科目群の絞込みについて
 - ・実施モデルを作ることが目的なので、まずは運用モデルを作って、実際に運用を行った上で検証していくこととなった。
 - 協議 3 実施体制の検討について
 - ・成績評価委員会、システム専門委員会の設置の必要性について検討を行った。
 - 協議 4 5 年後のイメージについて
 - ・議論を受けて見直しを行うこととなった。
 - 協議 5 短縮名称について
 - ・「知プラ e」とすることが了承された。

第1回運営委員会

- (1) 日 時 平成 25 年 12 月 3 日 (火) 企画委員会終了後
- (2) 場 所 香川大学本部管理棟 3 階 第 1 会議室
- (3) 協議題
 - ・協議 1 平成 26 年度事業計画について
 - ・協議 2 外部評価委員会の設置について
 - ・協議 3 平成 25 年度事業報告シンポジウムの開催について
 - ・協議 4 平成 25 年度事業報告書の作成について
- (4) 決定事項
 - 協議 1 平成 26 年度事業計画について
 - ・事業計画案について了承された。ただし、具体的な文言に関してはメール審議を行うこととなった。なお、事業実施計画は企画委員会で各大学の具体的な対応について審議することとなった。
 - 協議 2 外部評価委員会の設置について
 - ・委員の選考について、次回（1月22日）の運営委員会までに各大学から1名以上の推薦を頂き、

決定することとなった。

- ・25年度については、書面審査で開催することが了承された。

協議3 平成25年度事業報告シンポジウムの開催について

- ・3月10日若しくは17日に開催することとなった。

協議4 平成25年度事業報告書の作成について

- ・紙媒体と電子媒体で作成し、電子媒体はホームページで公開、紙媒体は必要部数を調査した上で印刷することとなった。

第2回運営委員会

(1) 日 時 平成26年1月22日(水) 13時30分～

(2) 場 所 香川大学本部管理棟3階 第1会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 協議題

- ・協議1 事業理念・実施計画の協議まとめについて
- ・協議2 中期計画に係る平成26年度計画について
- ・協議3 共同実施モデルの検討について
- ・協議4 外部評価委員の選出について
- ・協議5 その他

(5) 報告

- ・報告1 知プラ3事業の連携について
- ・報告2 広報(事業報告シンポジウム, HP, リーフレット)について

(6) 決定事項

協議1 事業理念・実施計画の協議まとめについて

- ・センター四国(香川大学)が示した案が了承された。

協議2 中期計画に係る平成26年度計画について

- ・5大学共通の内容を盛り込むかどうかについて、愛媛大学が示した案を原案として、各大学が盛り込むこととなった。

協議3 共同実施モデルの検討について

- ・愛媛大学分室から提案のあった案について、27年度実施に向けて検討することとなった。
- ・詳細な審議は企画委員会で行うこととなった。

協議4 外部評価委員の選出について

- ・各大学から推薦のあった候補者について了承された。

第4回企画委員会

(1) 日 時 平成26年1月22日(水) 運営委員会終了後

(2) 場 所 香川大学本部管理棟3階 第1会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 協議題

- ・協議1 共同実施モデルの検討について
- ・協議2 外部評価委員の選出について
- ・協議3 予算執行状況の確認について
- ・協議4 平成26年度単位互換協定について

- ・協議5 平成25年度事業実施報告，平成26年度事業実施計画について
- ・協議6 その他

(5) 報告

- ・報告1 知プラ3事業の連携について
- ・報告2 機器導入状況と調整について
- ・報告3 広報（事業報告シンポジウム，HP，リーフレット）について

(6) 決定事項

協議1 共同実施モデルの検討について

- ・モデル案を提案した愛媛大学分室とセンター四国（香川大学）でベースとなるモデルのたたき台を作って，それを基に検討することとなった。
- ・コンテンツに関しては，各大学が検討を行い委員会に提案することとなった。

協議2 外部評価委員の選出について

- ・運営委員会で選出が行われ，企画委員会が管理して作業を進めることとなった。

協議3 予算執行状況の確認について

- ・各大学の12月末日現在の執行状況及び年度末の執行見込み状況について確認された。

協議4 平成26年度単位互換協定について

- ・運営委員会で了承されたとおり，平成26年度1年限りの対応であることが確認された。

協議5 平成25年度事業実施報告，平成26年度事業実施計画について

- ・センター四国（香川大学）が案を取りまとめ，委員会で検討することとなった。

協議6 その他

- ・平成26年1月24日開催の5大学連携事業意見交換会に提出する資料が確認された。

第5回企画委員会

(1) 日 時 平成26年2月18日（火）13:30～

(2) 場 所 香川大学本部管理棟3階 第1会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 協議題

- ・協議1 四国型共同教育実施モデルについて
- ・協議2 コンテンツ開発について
- ・協議3 外部評価委員の委嘱について
- ・協議4 その他

(5) 報告

- ・報告1 平成26年度単位互換について
- ・報告2 平成25年度事業報告書について
- ・報告3 シンポジウムの開催について
- ・報告4 その他

(6) 決定事項

協議1 四国型共同教育実施モデルについて

- ・文部科学省との打ち合わせの概要について報告があった。
- ・愛媛大学分室とセンター四国（香川大学）が示したたたき台について，問題点の洗い出しを実施するためセンター四国（香川大学）が作業確認リストを作成し，各分室に作業の協力をお願いすることとなった。

協議2 コンテンツ開発について

- ・現存の科目以上に学生が受講出来るバリエーションを増やすための案を検討していくこととなった。

協議3 外部評価委員の委嘱について

- ・今期の任期期間について平成26年3月1日から27年3月31日とすることが了承された。
- ・香川大学の謝金支給基準により謝金を支払うことが了承された
- ・外部評価委員に本年度の事業実施に係る各種資料を提示し、アンケートによる書面審査により実施することが了承された。

協議4 その他

- ・知のプラットフォームロゴ案について、センター長マターで他の2事業のセンター長に提案を行い検討することが了承された。
- ・林センター長が、3月7日開催のe-Knowledgeコンソーシアム四国のシンポジウムのパネル討論で、知プラの進捗状況を説明することが了承された。
- ・四国産学官連携イノベーション共同推進機構がシボレス認証システムを使用することについて了承された。

第3回運営委員会

(1) 日 時 平成26年2月18日(火) 企画委員会終了後

(2) 場 所 香川大学本部管理棟3階 第1会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 協議題

- ・協議1 四国型共同教育実施モデルについて
- ・協議2 コンテンツ開発について
- ・協議3 外部評価委員の委嘱について
- ・協議4 その他

(5) 報告

- ・報告1 平成26年度単位互換について
- ・報告2 平成25年度事業報告書について
- ・報告3 シンポジウムの開催について
- ・報告4 その他

(6) 決定事項

協議1 四国型共同教育実施モデルについて

- ・基本的な考え方が運営委員会です承されたことを受けて、企画委員会で具体的な作業を進めていくことが了承された。

協議2 コンテンツ開発について

- ・コンテンツのアイデア出しを行うことと並行しコンテンツについての議論も進めていくこととなった。

協議3 外部評価委員の委嘱について

- ・委嘱依頼状の様式(案)について了承された。
- ・書面審査の資料とアンケートの原案について、メール審議を行うこととなった。
- ・謝金について、平成26年度と27年度は香川大学の謝金支給基準により支払うことが了承された。
- ・今期の任期期間について平成26年3月1日から27年3月31日とすることが了承された。

協議4 その他

- ・知のプラットフォームロゴ案について、センター長が3事業で調整することが了承された。

第4回運営委員会

(1) 日 時 平成26年3月17日(月) 10:30~

(2) 場 所 JRホテルクレメント高松 2階「雅」

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 協議題

- ・協議 1 平成 26 年度事業実施計画について
- ・協議 2 四国 5 大学型共同教育実施モデルについて
- ・協議 3 四国 5 大学型共同教育の科目について
- ・協議 4 平成 25 年度外部評価について
- ・協議 5 平成 25 年度事業実施報告について
- ・協議 6 運営委員会等の開催場所の持ち回りについて

(5) 報告

- ・報告 1 平成 26 年度単位互換について
- ・報告 2 平成 25 年度事業報告シンポジウムの開催について
- ・報告 3 その他

(6) 決定事項

協議 1 平成 26 年度事業実施計画について

- ・案のとおり了承された。

協議 2 四国 5 大学型共同教育実施モデルについて

- ・案のとおり了承された。

協議 3 四国 5 大学型共同教育の科目について

- ・開講する科目群については企画委員会で方向性を検討し、議論を進めていくこととなった。

協議 4 平成 25 年度外部評価について

- ・案のとおり了承された。

協議 5 平成 25 年度事業実施報告について

- ・案のとおり了承された。

協議 6 運営委員会等の開催場所の持ち回りについて

- ・年に数回香川大学で開催することとなった。

第 6 回企画委員会

(1) 日 時 平成 26 年 3 月 18 日 (火) 9 時 30 分～

(2) 場 所 JR ホテル クレメント 高松 3 階「樺・桂」

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 協議題

- ・協議 1 平成 26 年度事業実施計画について
- ・協議 2 四国 5 大学型共同教育実施モデルについて
- ・協議 3 四国 5 大学型共同教育の科目について
- ・協議 4 平成 25 年度外部評価について
- ・協議 5 WG の設置について
- ・協議 6 企画委員会の開催場所の持ち回りについて
- ・協議 7 その他

(5) 報告

- ・報告 1 平成 26 年度単位互換について
- ・報告 2 平成 25 年度事業報告シンポジウムの開催について
- ・報告 3 その他

(6) 決定事項

協議 1 平成 26 年度事業実施計画について

- ・平成 26 年度の企画委員会の開催については、5 月愛媛大学、7 月徳島大学、9 月香川大学（運営委員会と共に開催施）、11 月鳴門教育大学、1 月香川大学（シンポジウム、運営委員会と共に開催）、3 月高知大学で開催することとなった。
- 協議 2 四国 5 大学型共同教育実施モデルについて
 - ・今回出た意見を踏まえて、今後検討を進めていくこととなった。
- 協議 3 四国 5 大学型共同教育の科目について
 - ・詳細はワーキンググループで検討することとなった。
- 協議 4 平成 25 年度外部評価について
 - ・案のとおり了承された。
- 協議 5 WG の設置について
 - ・共同教育実施モデル検討WGは愛媛大学、教育の質保証等検討WGは徳島大学、専門科目検討WGの海洋に関する科目は高知大学、キャリア教育に関する科目は鳴門教育大学、コンテンツ開発検討WGは香川大学、非常勤講師の手続きに関するWGは香川大学が主査となることとなった。
- 協議 6 企画委員会の開催場所の持ち回りについて
 - ・協議 1 のとおり
- 協議 7 その他
 - ・平成 27 年から実施される共同開講までの具体的なスケジュールを香川大学で整理し提示することとなった。

外部評価委員会

平成 25 年度の外部評価委員会は、平成 26 年 3 月に各委員へのアンケートのみで実施した。

▼以下、そのアンケート集計結果を掲載する。

質問一覧

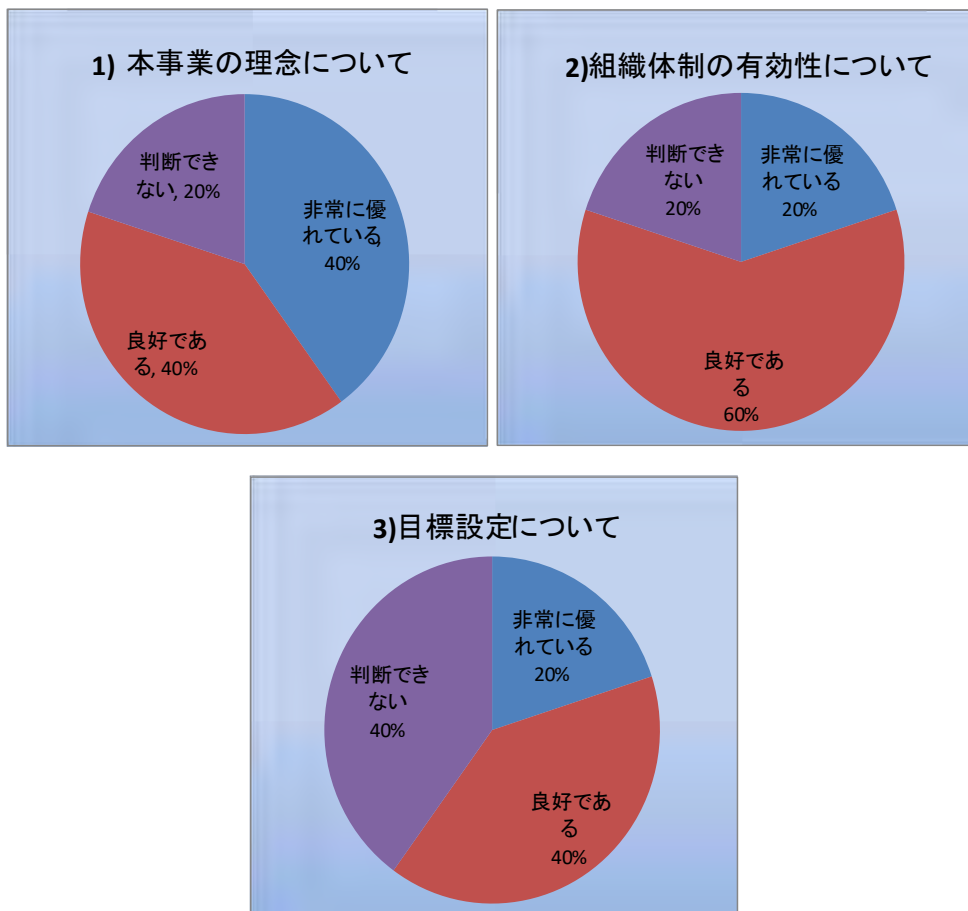
第 1 部：知プラ e 事業に関する質問

- 1) 本事業の理念設定は妥当ですか。(5 段階評価、自由記述)
- 2) センター四国の組織体制は有機的に連携し、運用に効果を挙げていますか。(5 段階評価、自由記述)
- 3) 本事業の目標設定は妥当ですか。(5 段階評価、自由記述)

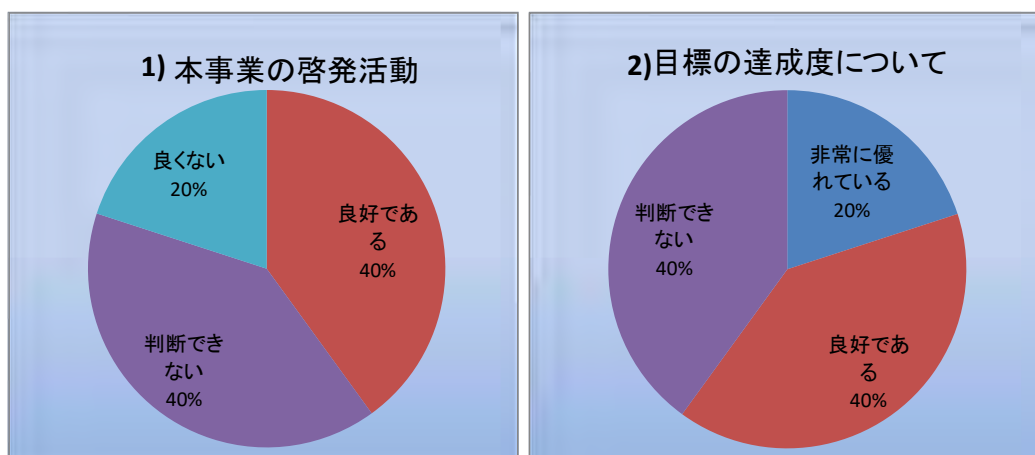
第 2 部：平成 25 年度の活動（次年度以降の助言等を含む）に関する質問

- 1) シンポジウムや研修会、ホームページ等を通じた本事業の啓発活動は効果的に推進されましたか。
また、次年度以降の啓発活動について助言等ございませんか。(5 段階評価、自由記述)
- 2) 本事業の業務は効率的に遂行され、目標を達成していますか。また、次年度以降の助言等ございませんか。(5 段階評価、自由記述)
- 3) 本事業の改善点、また次年度以降の課題・期待することがあればご教授下さい。(自由記述)
- 4) その他、お気づきの点がございましたら遠慮なくご指摘下さい。(自由記述)

第1部：知プラe事業に関する質問



第2部：平成25年度の活動（次年度以降の助言等を含む）に関する質問



第1部：知プラe事業に関する質問

1) 本事業の理念について

回答	非常に優れている	良好である	d. 判断できない
回答数	2	2	1

2) 組織体制の有効性について

回答	非常に優れている	良好である	d. 判断できない
回答数	1	3	1

3) 目標設定について

回答	非常に優れている	良好である	d. 判断できない
回答数	1	2	2

第2部：平成25年度の活動（次年度以降の助言等を含む）に関する質問

1) 啓発活動について

回答	良好である	判断できない	良くない
回答数	2	2	1

2) 目標の達成度について

回答	非常に優れている	良好である	d. 判断できない
回答数	1	2	2

3) 本事業の改善点、また次年度以降の課題・期待すること

<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Learning に寄せる国民・高等教育関係者の期待は大きい。今後の発展に大いに期待している。 ・ 良質な共同利用科目の創造が教育的成果を高めていることを内外にアピールするために、実践的研究として取り組まれてその成果を学会等で公表されることを期待する。 ・ 学会発表や学会誌への投稿についても KPI を設定されるとよい。あわせて JOCW/JMOOC への参画・コース提供についても KPI に含めるとよい。 ・ これまでの eK4 との差異が不明瞭である。 ・ 平成25年7月8日の事業委員会の決定事項「eK4 とは独立させて走らせることになった」から、eK4 と独立した科目の設定をしなければならぬため教員負担が多くなるのではと危惧します。 ・ 平成26年度からの試行期に、具体的な教養・専門教育に関するコンテンツの開発がなされるものと期待する。

- ・ 非同期型 e-Learning 科目の単位認定に係る客観的評価基準も明示する必要がある。特に非対面下での成績評価については、個人特定をどのようにするのかという問題がある。
- ・ 四国の5大学で連携して、共同歩調をとることは今の時代に非常に重要で意味があり、その輪を全国に広げていただければと考える。ただし、あくまでも大学教育は「研究者が行う教育」という視点が最重要で、その中で、研究者が教育に欲するコンテンツを開発していく方向を強化してほしい。

4) その他、気付いた点

- ・ 大プロジェクトのアカウンタビリティを意識され、各年度に着実な成果の積みあげがなされることを大いに期待する。
- ・ 共同実施モデル案（高年次履修教養教育科目を例として）の提供科目に高度教養科目、地域連携科目、アジア・アフリカ言語科目等とあるが、専門の教員がいなくて非常勤講師に依存したり履修生がそれほど見込めなかったりするようかもしれない。アジア・アフリカ言語科目は、5大学で連携したものにするよりも他の e-Knowledge とコンソシアムを組む方がいいのではないか。
- ・ 高年次として、3年・4年とある。従来、3、4年になると専門科目が多くなり、更に卒論や就職・進学等で忙しくなるが問題はないか。
- ・ 平成 26～27 年度試行期間の「共同実施モデルの整備」は、共通科目を統合するという意味なのか。平成 26 年度だけは暫定的に単位互換協定に基づく e-Learning を実施するという認識で間違いないか。
- ・ 魅力的なコンテンツを開発し、その広報を各大学の学生に周知徹底しないと受講生は増えないと思われる。
- ・ 6年間におよぶ文科省による補助金と各大学からの負担金により、四国の5大学の連携事業計画が今後の大学教育改革の実質化になるように希望する。
- ・ 本当に四国の5大学で開発すべきコンテンツは何かを、より深く議論して明確にすべきである。
- ・ 大学は高校等とは違って、学部によって人材育成の方向性が異なっている。当然、地域連携といっても、連携先が要求する事項は画一的ではない。それらの違いを本事業でどこまで組み込むように努力されるのかがみえてこない。この辺りの基本的調査研究から再スタートする必要性はないのか。

第 1 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 26 年 6 月 10 日 (火) 14 時 00 分から
- (2) 場 所 愛媛大学総合情報メディアセンター メディアホール
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 各 WG の進捗状況報告について
- (5) 協議題
 - ・協議題 1 平成 27 年度開講科目 (科目名, 科目概要) 等について
 - ・協議題 2 事業の到達目標について
 - ・協議題 3 シンポジウムの実施について
 - ・協議題 4 スキルアップ研修会の実施について
 - ・協議題 5 センター四国の広報関連について
 - ・協議題 6 その他
- (6) 報告議題
 - ・報告議題 1 予算計画について
 - ・報告議題 2 外部評価委員会について
 - ・報告議題 3 リーフレットの作成について
 - ・報告議題 4 国大協 国立大学機能強化事例集の提出について
 - ・報告議題 5 WGのML設置, MCUの学外からのコントロール等について
 - ・報告議題 6 その他
- (7) 決定事項
 - 協議題 1 平成 27 年度開講科目 (科目名, 科目概要) 等について
 - ・平成 27 年度の開講 8 科目について, 共同教育実施科目として開講することが了承された。
 - 協議題 2 事業の到達目標について
 - ・到達目標 (案) のとおり了承され, 詳細は継続してブラッシュアップしていくこととなった。
 - 協議題 3 シンポジウムの実施について
 - ・「e-Learning と教育の質保証」をテーマとし, 運営委員会, 企画委員会, 外部評価委員会と併せて 1 月 29 日 (木) ~30 日 (金) に開催することが了承された。(各委員会等の開催日時等は今後調整することとなった)
 - 協議題 4 スキルアップ研修会の実施について
 - ・香川大学主導で年 2 回開催することが了承された。
 - 協議題 5 センター四国の広報関連について
 - ・知プラ e のロゴ作成, Facebook とホームページの連動による広報活動について, 香川大学主導で進めていくことが了承された。
 - 協議題 6 その他
 - ・システム基盤 WG 又はシステム基盤部会を設置することが了承された。

運営委員会・企画委員会 (メール審議)

- (1) 日 時 平成 26 年 6 月 30 日 (月)
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 知プラ e に係る英語表記について (案)
 - ・了承が得られず次回の企画委員会において再度審議することとなった。

第2回企画委員会

- (1) 日 時 平成26年7月25日(金)13時30分から
- (2) 場 所 徳島大学 共通教育6号館201講義室(常三島キャンパス)
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 各WGの進捗状況報告について
- (5) 協議題
 - ・協議題1 連携大学間での合意が必要な案件について
 - ・協議題2 事業の到達目標について
 - ・協議題3 スキルアップ研修会について
 - ・協議題4 センター四国のロゴについて
 - ・協議題5 知プラe事業の英語表記について
 - ・協議題6 その他
- (6) 報告議題
 - ・報告議題1 予算計画について
 - ・報告議題2 平成27年度開講科目について
 - ・報告議題3 平成26年度委員会等スケジュールについて
 - ・報告議題4 広報関係(リーフレット, HP)について
 - ・報告議題5 各研修および視察出張等の報告について
 - ・報告議題6 外部評価委員会委員長の互選について
 - ・報告議題7 その他
- (7) 決定事項

協議題1 連携大学間での合意が必要な案件について

- ・「非常勤講師発令に関する手続きの簡素化」と「全ての開講科目を5大学でシラバスに掲載し、5大学共同実施とする」について、先に学長合意を取ることが了承された。
- ・常勤教員と学外非常勤講師(常勤教員以外)の報酬の有無及び愛媛大学から提案のあった非常勤講師の所属の集約化(全てセンター四国の所属とし、任用手続きを行う)については、今後検討することとなった。

以下の協議題はメール審議で行うこととなった。

- 協議題2 事業の到達目標について
- 協議題3 スキルアップ研修会について
- 協議題4 センター四国のロゴについて
- 協議題5 知プラe事業の英語表記について
- 協議題6 その他

運営委員会(メール審議)

- (1) 日 時 平成26年8月4日(月)
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 外部評価委員会の委員長互選方法について
 - ・案の通り了承された。

企画委員会(メール審議)

- (1) 日 時 平成26年8月8日(金)

(2) 協議題と決定事項

協議題 1 事業の到達目標について

- ・事業の到達目標及び全体スケジュール等が承認された。

協議題 2 スキルアップ研修会について

- ・9月22日(月)10時30分から著作権処理スキルアップ研修会を開催することが了承された。

協議題 3 センター四国のロゴについて

- ・案のとおり了承された。

協議題 4 知プラ e 事業の英語表記について

- ・下記のとおり了承された。

[知プラ e 事業] Cooperative University e-Learning Project for the Shikoku Area

[分室名] ○○ University Branch of University Consortium for e-Learning, Shikoku Center

企画委員会 (メール審議)

(1) 日 時 平成 26 年 8 月 20 日 (水)

(2) 協議題と決定事項

協議題 四国国立大学協議会の申し合わせ(案)について

- ・指摘があった箇所を修正し、四国国立大学協議会の申し合わせ(案)について了承された。

第 1 回運営委員会

(1) 日 時 平成 26 年 9 月 22 日 (月) 13 時 30 分～

(2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス OLIVE SQUARE 2 階 多目的ホール

(3) 協議題

- ・協議題 1 事業到達目標及び全体スケジュールの承認について
- ・協議題 2 非常勤講師の取扱について
- ・協議題 3 補助金終了後のセンター四国の運営体制について
- ・協議題 4 平成 26 年度事業実施計画の点検・評価案について
- ・協議題 5 平成 27 年度事業実施計画案について
- ・協議題 6 その他

(4) 報告議題

- ・報告議題 1 9/4 四国国立大学協議会の報告について
- ・報告議題 2 知プラ e 事業のロゴについて
- ・報告議題 3 平成 26 年度事業報告シンポジウムについて
- ・報告議題 4 その他

(5) 決定事項

協議題 1 事業到達目標及び全体スケジュールの承認について

- ・企画委員会で検討された事業到達目標及び全体スケジュールについて了承された。

協議題 2 非常勤講師の取扱について

- ・常勤教員の非常勤講師手当について無報酬とすることが了承された。

協議題 3 補助金終了後のセンター四国の運営体制について

- ・補助金終了後も知プラ e 科目の開講を担保するために、各連携大学で業務を継続できる体制を維持することについて、企画委員会が主体となって議論を進めていくこととなった。

協議題 4 平成 26 年度事業実施計画の点検・評価案について

- ・点検・評価の第 1 回目について、案のとおり実施することが了承された。
- ・次回以降の点検・評価については、単年度ではなく 5 年間で俯瞰するかたちで整理を行い、半年に一回実施するかどうかを含めて企画委員会で検討することとなった。

協議題5 平成27年度事業実施計画案について

- ・5年間を俯瞰するかたちに計画案を修正することとなった。
- ・各大学で持ち帰って検討し、次回の運営委員会で議論することとなった。

第3回企画委員会

(1) 日 時 平成26年9月22日(月) 運営委員会終了後

(2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス OLIVE SQUARE 2階 多目的ホール

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 各WGの進捗状況報告について

(5) 協議題

- ・協議題1 コンテンツ開発検討WGに係るガイドライン(案)について
- ・協議題2 教育の質保証等検討WGに係るガイドライン(案)について
- ・協議題3 知プラe開講科目について
- ・協議題4 非常勤講師の取扱いについて
- ・協議題5 リーフレット案について
- ・協議題6 平成26年度事業報告シンポジウム進行(案)について
- ・協議題7 事業報告書の目次(案)について
- ・協議題8 共同実施モデル(案)について
- ・協議題9 その他

(6) 報告議題

- ・報告議題1 9/4 四国国立大学協議会の報告について
- ・報告議題2 各研修および視察出張等の報告について
- ・報告議題3 その他

(7) 決定事項

協議題1 コンテンツ開発検討WGに係るガイドライン(案)について

- ・案のとおり了承された。

協議題2 教育の質保証等検討WGに係るガイドライン(案)について

- ・案のとおり了承された。

協議題8 共同実施モデル(案)について

- ・協議題3の前に審議することとなった。
- ・平成27年度の開講科目が7科目に変更になったことの説明があり、案のとおり了承された。

協議題3 知プラe開講科目について

- ・合計50科目を開講するために開講科目の検討手順について説明があり、各大学で持ち帰り検討することとなった。

協議題4 非常勤講師の取扱いについて

- ・補助金期間中の常勤教員の非常勤講師の報酬については無報酬とする方針が運営委員会で了承されたことについて報告があった。
- ・学外非常勤講師について、開講科目が決まり、必要となった場合に検討することとなった。
- ・常勤教員のインセンティブの取り扱いについて、各大学の裁量となるが情報交換をしながら検討することとなった。
- ・非常勤講師の任用手続きの簡素化に係る委嘱状等の様式(案)について、各大学の意見を取りまとめた上で検討することとなった。

協議題5 リーフレット案について

- ・印刷部数について了承された。
- ・案に対して修正意見が出され、11月の企画委員会までに修正することとなった。

協議題6 平成26年度事業報告シンポジウム進行(案)について

- ・基調講演の講師について、各大学から候補者を推薦して貰った上で検討することとなった。
 - ・各WGから報告を行うことについて了承された。
- 協議題7 事業報告書の目次（案）について
- ・案について了承された。

第4回企画委員会

- (1) 日 時 平成26年11月10日（月）13時30分から
- (2) 場 所 鳴門教育大学 総合学生支援棟3階 F会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 各WGの進捗状況報告について
- (5) 協議題
- ・協議題1 履修案内について（モデルWG）
 - ・協議題2 授業改善アンケートの実施について（質保証WG）
 - ・協議題3 非常勤講師発令に係る手続き簡素化案について（簡素化WG）
 - ・協議題4 著作権処理について（コンテンツWG）
 - ・協議題5 知プラeの提供科目について
 - ・協議題6 リーフレットについて
 - ・協議題7 事業報告シンポジウムのチラシについて
 - ・協議題8 その他
- (6) 報告議題
- ・報告議題1 事業報告シンポジウムについて
 - ・報告議題2 四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学連携による大学教育の共同実施に関する申合せについて
 - ・報告議題3 平成27年度開講科目のシラバスについて
 - ・報告議題4 JSiSE研究会（香川大学）での知プラeセッション開設について
 - ・報告議題5 知プラe提供科目のサンプル設計（案）について
 - ・報告議題6 平成26年度外部評価委員会評価項目（案）について
 - ・報告議題7 スキルアップ研修会の開催について
 - ・報告議題8 その他
- (7) 決定事項
- 協議題1 履修案内について（モデルWG）
- ・案について了承された。
- 協議題2 授業改善アンケートの実施について（質保証WG）
- ・授業改善アンケートの実施方法（案）について、メーリングリストで随時報告し改善を加えた上で各大学の実情に合わせて実施することが了承された。
- 協議題3 非常勤講師発令に係る手続き簡素化案について（簡素化WG）
- ・常勤教員に係る非常勤講師の採用手続及び関連書類について了承された。
 - ・来年度からの実施に向け運営委員会の報告議題として上程することとなった。
- 協議題4 著作権処理について（コンテンツWG）
- ・案のとおり了承された。
 - ・譲渡証書について、各大学の実情に合わせて運用することとなった。
- 協議題5 知プラeの提供科目について
- ・知プラe提供科目の科目群分類や開講継続期間等について了承された。
- 協議題6 リーフレットについて
- ・リーフレット（案）について修正意見を取りまとめ、修正を行った上で印刷することが了承された。
- 協議題7 事業報告シンポジウムのチラシについて

- ・デザイン（案）についてB案が採択された。
 - ・チラシの内容について概ね了承され、細かな手直しについては香川大学に一任することとなった。
- 協議題8 その他
- ・単位を付与しない科目の設定について提案があり、教育の質保証等検討WGで提案についての検討を進めることとなった。
 - ・知プラe提供科目資料の図書館等への設置について提案があり、各大学の状況を踏まえながら今後検討することとなった。
 - ・平成27年度開講科目の受講制限について、各科目の履修学生上限数をセンター四国（香川大学）が取りまとめて集計結果を配布し、抽選については各大学で機械的に調整を行うこととなった。

第2回運営委員会

- (1) 日 時 平成27年1月29日（木）10時30分～
- (2) 場 所 サンポートホール高松 51会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 協議題
- ・協議題1 平成26年度事業実施の点検・評価について
 - ・協議題2 平成27年度事業実施計画案について
 - ・協議題3 四国国立5大学連携におけるe-Learning教育へのセンター四国からの支援に関する基本方針（案）について
 - ・協議題4 平成27年度運営委員会の開催について
 - ・協議題5 その他
- (5) 報告
- ・報告議題1 外部評価委員会について
 - ・報告議題2 その他
- (5) 決定事項
- 協議題1 平成26年度事業実施の点検・評価について
- ・検討中・進行中となっている項目については、未達成部分の修正を香川大学（センター四国）が行い、運営・企画委員会メンバーリングリストで審議了承を得ながら進めていくことが了承された。
- 協議題2 平成27年度事業実施計画案について
- ・案のとおり了承された。
- 協議題3 四国国立5大学連携におけるe-Learning教育へのセンター四国からの支援に関する基本方針（案）について
- ・ポンチ絵をベースにして（標題を含めて）企画委員会で実務的な検討を進めることとなった。
- 協議題4 平成27年度運営委員会の開催について
- ・来年度は7月と1月に香川大学で開催することが提案され、了承された。

外部評価委員会

- (1) 日 時 平成27年1月29日（木）15時50分～
- (2) 場 所 サンポートホール高松 51会議室
- (3) 議題
- ・議題1 平成26年度事業実施報告
 - ・議題2 平成27年度事業実施計画報告
 - ・議題3 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換
 - ・議題4 その他

(4) 委員会報告

議題1 平成26年度事業実施報告

事業実施報告に対して、各委員からあった主な意見の要約を以下に列挙する。

- ・対象を四国の大学生だけではなく、高校生にも配信すれば、四国でこんな面白いことをやっていると思って四国の大学を目指してくるのではないか。
- ・e-Learningで学修の要点だけを提示し、対話を重視しなくてはならない。
- ・多人数教育について、1人の先生が対応できるのは最大で100人程度だと思う。
- ・平成27年度開講科目の中にeK4で開講されている科目があり、独立しているように見えない。
- ・単位を付与しない英語のリーディングやリスニング、TOEFL対策等のスキルアップのための授業が50科目の中にはあってもよいのではないか。
- ・四国の場合は各大学が協調して作り上げていかなければならない。
- ・事業を継続するためには資金を確保する必要がある。今後も（外部評価委員会を）対面で開催できるようにしていただきたい。
- ・平成26年度事業計画の点検・評価について、制度や資金面等で問題があれば、無理せずに記載し、理事・副学長に相談ができるような体制が必要ではないか。
- ・教育の質保証について、事業理念において最終目標が質の保証では無く質の向上となっているので、こうすればもっと良い教育が出来ているという向上（ $+\alpha$ ）がなければならぬと考える。
- ・人材育成や地域貢献の観点等で向上が説明できる評価指標・方法を検討して貰いたい。

議題2 平成27年度事業実施計画報告

事業実施計画に対して、各委員からあった主な意見の要約を以下に列挙する。

- ・事業の到達目標である50科目の開講について具体的な計画は立っているのか。
- ・各大学の特色のある研究のコンテンツ化は非常に重要だと考えている。これで50科目を揃えることが出来れば大成功である。
- ・補助金期間終了後の運営体制について、e-Learningの科目を欲しているのは、むしろ教員数、科目数の少ない私立大学だと思われるので、私立大学にコンテンツを提供して資金を得るという方法を検討してはどうか。
- ・具体的に何をいつまでにどうするのかといった目標をきちんと明示していただきたい。

議題3 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換

意見1 補助金期間終了後の事業継続に向けた運営体制について長期的な観点で今から検討しておく必要がある。例えば、システムを維持するための各大学の自己負担分の資金の確保について検討すべきである。

意見2 各大学の良さを出したような研究内容を上手くコンテンツ化し、それぞれの大学が事業を継続させたいと思わせるようなものにしなければいけない。

▼以下、各委員に対して外部評価委員会前に実施したアンケートの集計結果を掲載する。

第1部：知ブラe事業に関する質問

1) 本事業の理念設計は妥当ですか？

回答	a. 非常に優れている	b. 良好である	c. おおむね良好である	d. 判断できない	e. 良くない
回答数	1	2		1	1

2) 本事業の業務は効果的に遂行され、目標を達成していますか。

回答	a. 非常に優れている	b. 良好である	c. おおむね良好である	d. 判断できない	e. 良くない
回答数		2		3	

3) センター四国の組織体制は有機的に連携し、運用に効果を挙げていますか。

回答	a. 非常に優れている	b. 良好である	c. おおむね良好である	d. 判断できない	e. 良くない
回答数		1	1	3	

4) シンポジウムや研修会、ホームページ等を通じた本事業の啓発活動は効果的に推進されましたか。

回答	a. 非常に優れている	b. 良好である	c. おおむね良好である	d. 判断できない	e. 良くない
回答数	1	1	1	1	1

第2部：平成27年度の計画に関する質問

平成27年度の実施計画に対する助言等ございませんか。

- 今後は目標をできるだけ定量的に記載すると共に達成内容もより具体的、定量的に示した方が良い。
- e-Learning で学生に満足させるには、単に長時間のコンテンツを流すのではなく、適宜質疑応答を含めたシステムの活用や教員との対話を重視すべきである。
- コンテンツの内容については、各大学が誇るべき研究をテーマに選定すべきである。大学によっては、通常の学部授業をしない教員等がコンテンツ作成をしているが、それはやめるべきである。例え e-Learning といえども、通常の授業担当者が設計すべきである。
- 計画は妥当であり、その進捗状況と成果をしっかりと捉えて次の年に活かすサイクルの確立を望む。

平成27年度の啓発活動について助言等ございませんか。

- 地域、特に地元高校等へのアピールを積極的に行い、5大学の魅力発信につなげてほしい。
- 各大学で特色のある研究をコンテンツ化して配信することが重要である。例えば、「四国遍路」を取り上げたコンテンツを科目に取り入れようとしてもNHK等の番組が既にあるため、そういうコンテンツ開発することは無意味である。
- 大学は研究重視が基本である。授業を通じて研究者のあり方を学ぶことによって学生が成長する

のが本筋である。その線を重視しなければ「大学」の意味はなく、「大学校」化するのみである。そういう視点で、本事業を通じても四国の大学の研究能力向上に寄与していただければ、現状の目的を超えて、意味あるものになると考える。

- プロジェクトを促進するために、プロジェクトの成果を公開するためのメディアとしてホームページの充実化を期待する。

第3部：その他助言等

本事業の改善等、また次年度以降の課題・期待とする事があればご教授ください。

- 今までは体制などの整備が主であったが、これから具体的成果が求められる。特に教育の質の保証は重要な課題であり、そのための評価項目の設定や評価法など明確にして進めていただきたい。
- 古来より、洋の東西を問わず、大学の意義は、研究者養成とそれを通じての各分野での社会のリーダー養成にあったことは事実である。e-Learning は、その大学の本来の目的遂行への「道具」の一つと思うべきではないか。
- 徳島大学の「青色発光ダイオード」、愛媛大学の「ダイオキシン問題」、「地球深部の現象」、「植物工場」等々の研究志向のコンテンツを作成・配信されることを期待する。
- 本プロジェクトの成果を内外に具体的な数字を伴ってアピールできるよう、基礎データの収集と整理をし公開していただきたい。アピールすることを意識されてプロジェクトを進めることで、具体的な成果が得やすくなるはずである。

その他、お気づきの点がございましたら遠慮なくご指摘ください。

- 各大学における教育体制について、共同実施にした場合の認証についての課題の有無や、ある場合の対処などは検討されているのか。
- 各大学の専門科目におけるポリシーの整合性は問題にならないのか。

第5回企画委員会

(1) 日 時 平成 27 年 1 月 30 日 (金) 9 時 00 分から

(2) 場 所 サンポートホール高松 51 会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 各WGの進捗状況報告について

(5) 協議題

- ・協議題 1 運用ガイドラインについて (質保証 WG)
- ・協議題 2 知プラ e 科目の参考文献の整備について (質保証 WG)
- ・協議題 3 単位を付与しないコンテンツの申し合わせについて (質保証 WG)
- ・協議題 4 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国の運営体制について
- ・協議題 5 知プラ e 提供科目について
- ・協議題 6 履修関係スケジュールの確認について
- ・協議題 7 平成 26 年度事業実施の点検・評価について
- ・協議題 8 平成 27 年度事業実施計画案について
- ・協議題 9 四国国立 5 大学における e-Learning 教育への大学連携 e-Learning 教育支援センター四国からの支援に関する基本方針 (案) について
- ・協議題 10 第 2 回スキルアップ研修会について
- ・協議題 11 事業報告シンポジウム 2015 について
- ・協議題 12 ロゴの使用指針案について
- ・協議題 13 その他

(6) 報告議題

- ・事業報告シンポジウム 2014 について
- ・外部評価委員会について
- ・その他

(7) 決定事項

協議題 1 運用ガイドラインについて（質保証 WG）

- ・案のとおり了承された。

協議題 2 知プラ e 科目の参考文献の整備について（質保証 WG）

- ・各大学で調整をしていくこととなった。

協議題 3 単位を付与しないコンテンツの申し合わせについて（質保証 WG）

- ・ガイドラインとして今後検討することとなった。

協議題 4 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国の運営体制について

- ・補助期間終了後も、運営体制を継続できるように今後も検討を進め、結果を運営委員会へ上程することとなった。

協議題 5 知プラ e 提供科目について

- ・案のとおり了承された。

協議題 6 履修関係スケジュールの確認について

- ・案のとおり了承された。

協議題 7 平成 26 年度事業実施の点検・評価について

- ・案のとおり了承された。

協議題 8 平成 27 年度事業実施計画案について

- ・案のとおり了承された。

協議題 9 四国国立 5 大学における e-Learning 教育への大学連携 e-Learning 教育支援センター四国からの支援に関する基本方針（案）について

- ・今後検討を行い、案がまとまれば、運営委員会に上程することとなった。

協議題 10 第 2 回スキルアップ研修会について

- ・案のとおり了承された。

協議題 11 事業報告シンポジウム 2015 について

- ・日本教育システム情報学会（JSiSE）と併催することとなった。

協議題 12 ロゴの使用指針案について

- ・案のとおり了承された。

協議題 13 その他

- ・平成 27 年度の企画委員会の開催計画については、3 月の企画委員会で決定することとなった。

第 6 回企画委員会

(1) 日 時 平成 27 年 3 月 2 日（月）14 時 15 分から

(2) 場 所 高知大学 共通教育棟 1 号館 2F 127 番教室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) 各WGの進捗状況報告について

(5) 協議題

- ・協議題 1 受講者認証について
- ・協議題 2 平成 27 年度履修等手続きについて
- ・協議題 3 平成 27 年度事業実施計画線表について
- ・協議題 4 その他

(6) 報告議題

- ・報告議題 1 サンプル授業設計進捗状況について

- ・報告議題2 第6回四国5大学連携事業に係る理事間の意見交換会, 第77回四国国立大学協議会の報告
- ・報告議題3 事業報告書2014について
- ・報告議題4 その他

(7) 決定事項

- 協議議題1 受講者認証について
 - ・平成28年度以降は「GaKuNin」が使えるように検討を進めていくこととなった。
- 協議議題2 平成27年度履修等手続きについて
 - ・案のとおり了承された。
- 協議議題3 平成27年度事業実施計画線表について
 - ・案のとおり了承された。

平成27年度

第1回企画委員会

- (1) 日時 平成27年5月19日(火) 13時30分から
- (2) 場所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部3階第一会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 緊急審議
 - ・平成27年度国立大学改革強化推進補助金(総合支援型)の交付内定(52%減)に伴う現状報告と対策について
- (5) 各WGの進捗状況報告について
- (6) 協議議題
 - ・協議議題1 知プラe科目の提供計画(案)について
 - ・協議議題2 事業シンポジウムの開催について
 - ・協議議題3 平成27年度知プラe科目に係る年間スケジュール表(案)について
 - ・協議議題4 規程等の公開と資料の重要度分類の整備について
 - ・協議議題5 その他
- (7) 報告議題
 - ・報告議題1 平成27年度分室単位の年間スケジュール表(案)について
 - ・報告議題2 スキルアップ研修会のテーマ募集について
 - ・報告議題3 JSiSE全国大会企画セッション開催の案内について
 - ・報告議題4 その他
- (8) 決定事項
 - 緊急審議
 - 平成27年度国立大学改革強化推進補助金(総合支援型)の交付内定(52%減)に伴う現状報告と対策について
 - ・近々文部科学省の国立大学改革強化推進補助金(平成24年度選定事業)の中間評価に係るヒアリングが実施される予定なので, 資料等の作成に協力いただきたいとの発言があった。
 - 協議議題1 知プラe科目の提供計画(案)について
 - ・平成28年度提供科目について, センター四国が5大学全体の情報をとりまとめて6月30日まで

に各分室に送付し、平成 29 年度以降の提供科目について、9 月末までに提供計画（案）を作成することとなった。

協議題 2 事業シンポジウムの開催について

- ・今回の事業シンポジウムは徳島大学で開催される教育システム情報学会（JSiSE）とあわせて開催する予定であるため、徳島大学分室が主導となり実施することとなった。

協議題 3 平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について

- ・各分室で検討する時間が必要なため改めて審議を行うこととし、7 月の企画委員会で結果を報告することとなった。

協議題 4 規程等の公開と資料の重要度分類の整備について

- ・今までに決定した内容等の情報を共有するために、ガイドライン以上の規程（規程、運用細則、ガイドライン）をセンター四国のホームページに掲載することとなった。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 27 年 6 月 5 日（金）

(2) 決定事項

協議題 平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について

- ・修正意見があったため次回の委員会で再審議することとなった。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 27 年 6 月 26 日（金）

(2) 決定事項

協議題 1 平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について

- ・修正案が了承された。

協議題 2 担当教員の成績評価表の提出方法について

- ・担当教員の成績評価表の提出方法（分室単位でとりまとめるか担当教員が直接送付するか）については、各分室に運用を任せることとなった。

協議題 3 平成 28 年度開講科目の決定について

- ・疑義が生じたため確認を行った上で改めて審議することとなった。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 27 年 6 月 30 日（火）

(2) 決定事項

協議題 事業シンポジウム 2015 について

- ・事業シンポジウム 2015 の開催に関するスケジュールについて、案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 27 年 7 月 3 日（金）

(2) 決定事項

協議題 平成 27 年度スキルアップ研修会計画案について

- ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 27 年 7 月 13 日（月）

(2) 決定事項

- 協議題 事業報告書（平成 27 年度版）目次案について
- ・案のとおり了承された。

第 2 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 27 年 7 月 21 日（火）13 時 30 分から
- (2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部 3 階第一会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ① 6 月 5 日 平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
 - ② 6 月 26 日（再審議）平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
 - ③ 6 月 26 日（追加審議）平成 27 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
 - ④ 6 月 26 日 平成 28 年度知プラ e 開講科目の決定について
 - ⑤ 6 月 30 日 事業シンポジウムについて
 - ⑥ 7 月 3 日 平成 27 年度スキルアップ研修会計画案について
 - ⑦ 7 月 13 日 事業報告書（平成 27 年度版）目次案について
- (5) 各 WG 等の進捗状況報告について
- (6) 協議題
 - ・協議題 1 平成 27 年度知プラ e 科目の成績評価段取りについて
 - ・協議題 2 事業報告書の少部数印刷対応について
 - ・協議題 3 平成 28 年度提供科目について
 - ・協議題 4 その他
- (7) 報告議題
 - ・報告議題 1 事業シンポジウムの進捗状況の報告について
 - ・報告議題 2 センター四国 HP の各大学学生向け履修案内ページの作成について
 - ・報告議題 3 その他
- (8) 決定事項
 - 協議題 1 平成 27 年度知プラ e 科目の成績評価段取りについて
 - ・案のとおり了承された。なお、成績評価表の返送に要する郵送料の負担については再度検討することとなった。
 - 協議題 2 事業報告書の少数部印刷対応について
 - ・案のとおり了承された。
 - 協議題 3 平成 28 年度提供科目について
 - ・案の通り了承された。なお、単位を付与しない科目については事業の成果として公表していく方向で進めていくこととなった。

第 1 回運営委員会

- (1) 日 時 平成 27 年 7 月 21 日（火）15 時 15 分から
- (2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部 3 階第一会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) 報告議題
 - ・報告議題 1 7 月 9 日文科省ヒアリングの報告について
 - ・報告議題 2 事業シンポジウムの開催について

- ・報告議題3 その他

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 27 年 7 月 27 日（月）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 教育システム情報学会への共催依頼について
 - ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 27 年 8 月 3 日（月）
- (2) 協議題と決定事項
 - 成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について
 - ・科目提供大学が負担することとなった。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 27 年 8 月 25 日（火）
- (2) 協議題と決定事項
 - 平成 27 年度知プラ e 事業実施計画に基づく自己点検について
 - ・平成 27 年度事業実施計画案の文言修正について、案のとおり了承された。
 - ・平成 27 年度事業実施計画に基づく自己点検項目（案）について、修正意見があったため次回の委員会で再審議することとなった。

第 3 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 27 年 9 月 4 日（金）9：30 から
- (2) 場 所 徳島大学 常三島キャンパス 共通教育 6 号館 201 教室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ① 7 月 27 日 教育システム情報学会への共催依頼について
 - ② 8 月 3 日 成績評価依頼の際の郵送経費負担方法について
 - ③ 8 月 25 日 平成 27 年度事業実施計画に基づく自己点検について
- (5) 各WGの進捗状況報告について
- (6) 協議題
 - ・協議題 1 平成 28 年度開講科目のシラバス作成について
 - ・協議題 2 成績入力の電子化に関する検討について
 - ・協議題 3 平成 27 年度事業実施計画に基づく自己点検について
 - ・協議題 4 知プラ e 科目の講義運用について
 - ・協議題 5 平成 27 年度開講科目のコンテンツ相互確認の段取りについて
 - ・協議題 6 その他
- (7) 報告議題
 - ・報告議題 1 平成 29, 30 年度知プラ e 科目提供計画表について
 - ・報告議題 2 スキルアップ研修会について
 - ・報告議題 3 外部評価委員の再任について

- ・報告議題4 事業シンポジウム2015の参加者数について
- ・報告議題5 その他

(8) 決定事項

協議議題1 平成28年度開講科目のシラバス作成について

- ・各科目の主担当教員が承認され、センター四国から主担当教員へシラバスの作成依頼をすることとなった。

協議議題2 成績入力の電子化に関する検討について

- ・システム検討WGで検討することとなった。

協議議題3 平成27年度事業実施計画に基づく自己点検について

- ・案のとおり了承された。

協議議題4 知プラe科目の講義運用について

- ・案のとおり原則としてVOD型のフルe-Learningで運用していくことが了承された。

協議議題5 平成27年度開講科目のコンテンツ相互確認の段取りについて

- ・窓口担当者リストの作成について後日センター四国から各分室に事務担当者メーリングリストで依頼することとなった。また、コンテンツ確認シートに特に確認してほしい箇所の記入欄を追加することとなった。

協議議題6 その他

- ・平成27年度開講科目「知の探訪」の定期試験の取り扱いについて、対面試験をレポートに変更することとなり、徳島大学から各分室へシラバスの内容訂正を通知することとなった。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成27年10月19日（月）

(2) 協議議題と決定事項

協議議題 事業報告書の掲載期間について

- ・案のとおり了承された。

第2回運営委員会

(1) 日 時 平成27年11月6日（金）13時30分から

(2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部3階第一会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) メール審議結果の確認について

①10月19日 事業報告書の掲載期間について

(5) 協議議題

- ・協議議題1 eK4からの知プラe科目の提供依頼について
- ・協議議題2 その他

(6) 報告事項

- ・報告1 その他

(7) 決定事項

協議議題1 eK4からの知プラe科目の提供依頼について

- ・e-Knowledgeコンソーシアム四国(eK4)から知プラ開講科目を単位互換として従前同様に今後も継続的に提供してほしいとの依頼があり、審議の結果了承された。なお、各科目の提供可否については提供大学が決定することとなった。また、具体的な検討については企画委員会で行うこととなった。

第4回企画委員会

- (1) 日 時 平成27年11月6日(金)13時45分から
- (2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部3階第一会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ①10月19日 事業報告書の掲載期間について
- (5) 各WGの進捗状況報告について
- (6) 協議題
 - ・協議題1 外部評価委員会について
 - ・協議題2 LMSに蓄積される学習データの取り扱いについて
 - ・協議題3 平成28年度事業実施計画案について
 - ・協議題4 第2回スキルアップ研修会企画案について
 - ・協議題5 その他
- (7) 報告議題
 - ・報告議題1 事業報告書(暫定版)及び自己点検(中間まとめ)について
 - ・報告議題2 第1回スキルアップ研修会について
 - ・報告議題3 知プラe科目提供計画案について
 - ・報告議題4 平成27年度後期開講科目の履修者数について
 - ・報告議題5 その他
- (8) 決定事項
 - 協議題1 外部評価委員会について
 - ・外部評価委員会に係るスケジュール(案), 議事次第案, 外部評価用の資料について, 案のとおり了承された。
 - 協議題2 LMSに蓄積される学習データの取り扱いについて
 - ・各大学のLMSに蓄積されている自大学以外の学生のログデータの取り扱いについて, 意見交換が行われた。
 - 協議題3 平成28年度事業実施計画案について
 - ・平成28年度事業実施計画案について, 案のとおり了承された。企画委員会の開催について, 原則遠隔で開催することとなった。また年4回行うことが決定したが開催月については再検討することとなった。
 - 協議題4 第2回スキルアップ研修会企画案について
 - ・案のとおり了承された。
 - 協議題5 その他
 - ・第2回運営委員会からの指示により, e-Knowledge コンソーシアム四国(eK4)への科目提供について企画委員会で具体的な検討を今後進めることとなった。

企画委員会(メール審議)

- (1) 日 時 平成27年12月7日(月)
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 知プラe: 新規企画委員の提案について
 - ・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 27 年 12 月 18 日（金）

(2) 協議題と決定事項

協議題 第 2 期中期目標期間における 5 大学連携事業に係る実績報告書の統一表記の取り纏めについて

- ・案のとおり了承された。

外部評価委員会

(1) 日 時 平成 28 年 1 月 18 日（月）11 時 10 分から

(2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部 3 階第一会議室

(3) 議題

- ・議題 1 平成 27 年度事業実施報告
- ・議題 2 平成 28 年度事業実施計画報告
- ・議題 3 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換
- ・議題 4 その他

(4) 議事要旨

議題 1 平成 27 年度事業実施報告

事業実施報告に対して、各委員からあった主な意見の要約を以下に列挙する。

- ・各大学の特徴あるコンテンツを提供することが重要である。
- ・履修者総数が増えたことは評価できるが、大学ごとに履修者数のばらつきがあることはよいとはいえない。自由科目にする、シラバスや履修の手引き等を見やすくするなどの工夫をしてはどうか。
- ・5 大学の学生が興味をもってもらえる科目をセンター四国で考えてほしい。
- ・e-Learning コンテンツを一方向的に配信するだけではなく、常に教員との対話ができるシステムを構築する必要がある。

議題 2 平成 28 年度事業実施計画報告

事業実施計画に対して、各委員からあった主な意見の要約を以下に列挙する。

- ・各大学がすべてクォーター制にするのか 2 単位の科目を残すのか、四国 5 大学の方針を定めるべきである。
- ・講義を自宅で学習することは望ましくなく、しかるべき教室で質疑応答が自由にできる環境が必要である。大学に通わずに自宅で単位が取得できるということは単位取得制度の上でも問題ではないか。
- ・オンライン授業設計ガイドラインは非常によくできており、このガイドラインに沿って授業設計が行われると質の高い教育ができる。
- ・事業期間終了後も事業を継続させるための運営体制について検討を始めてはどうか。

議題 3 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換

各委員からあった主な意見の要約を以下に列挙する。

- ・e-Learning が本当に重要であるならば 5 大学がもっと結束する必要がある。
- ・コンテンツの質が良く、異なるシステムを持つ大学でも受講できるということが実現すれば全国でも事例の少ない先例となる。他の大学の参考になるように蓄積されたノウハウを積極的に発信してほしい。

議題 4 その他

特になし

▼以下、各委員に対して外部評価委員会前に実施したアンケートの集計結果を掲載する。

第1部：平成27年度の活動に関する質問

1) 本事業の業務は効率的に遂行され、目標を達成していますか。

回答	a. 非常に優れている	b. 良好である	c. おおむね良好である	d. 判断できない	e. 良くない
回答数	1	2	0	1	1

2) センター四国の組織体制は有機的に連携し、運用に効果を挙げていますか。

回答	a. 非常に優れている	b. 良好である	c. おおむね良好である	d. 判断できない	e. 良くない
回答数	0	1	1	3	0

3) シンポジウムや研修会ホームページ等を通じた本事業の啓発活動は効果的に推進されましたか。

回答	a. 非常に優れている	b. 良好である	c. おおむね良好である	d. 判断できない	e. 良くない
回答数		3	1		1

第2部：平成28年度の計画に関する質問1

1) 平成28年度の実施計画に対する助言等ございませんか。

- ・各大学で、それなりに業績を上げている研究者が中心になって、一定限の「自己PR」や「学問に挑戦する意味と楽しさ」をコンテンツ化して発信することが必要である。
- ・「フル e-Learning 授業で教育の質保証を可能にする要件の明確化」について、具体的な成果をあげ、内外に公表することを期待している。
- ・研究成果が出れば積極的に関連学会等に報告していただきたい。

2) 平成28年度の啓発活動について助言等ございませんか。

- ・教育補助者の育成、教材の質を専門家の意見で改良するシステム、授業中に適宜学生の意見の収集やミニテストのできるシステム等が必須になると思われる。

第部：その他助言等

1) 本事業の改善等、また次年度以降の課題・期待とする事があればご教授ください。

- ・履修者が大幅に増加したのは大きな成果である。しかし、学生数が多い大学の履修者が少ないことや一人の履修者もいない大学がある点が理解できない。各大学での広報や履修案内に問題があるのではないかと。
- ・事業終了後の体制や、本事業の継続の仕方やまとめ方などについて検討を始めることが必要である。
- ・どのようなテーマの科目を制作するか、今後のコンテンツの在り方を議論する必要がある。

2) その他、お気づきの点がございましたら遠慮なくご指摘ください。

- ・受講人数や開設科目数の違いなどがあり、大学間で取り組みに差があるように感じた。
- ・大学の e-Learning 授業科目なので、大学の教員が研究者の目線で、学生を社会的に有為な人間に育成するためのコンテンツを制作することが大切である。

第3回運営委員会

(1) 日 時 平成28年1月18日(月)13時15分から

(2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部階第一会議室

- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ①12月18日 第2期中期目標期間における5大学連携事業に係る実績報告書の統一表記の取り纏めについて
- (5) 協議題
 - ・協議題1 平成28年度事業実施計画案について
 - ・協議題2 その他
- (6) 報告事項
 - ・報告1 外部評価委員会について
 - ・報告2 その他
- (7) 決定事項
 - 協議題1 平成28年度事業実施計画案について
 - ・案のとおり了承された。

第5回企画委員会

- (1) 日 時 平成28年1月18日(月)13時45分～
- (2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部3階第一会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ①12月7日 知プラe:新規企画委員の提案について
 - ②12月18日 第2期中期目標期間における5大学連携事業に係る実績報告書の統一表記の取り纏めについて
- (5) 各WGの進捗状況報告
- (6) 協議題
 - ・協議題1 平成28年度企画委員会開催月について
 - ・協議題2 平成28年度自己点検項目案について
 - ・協議題3 サーバトラブル時の対応について
 - ・協議題4 平成28年度年間スケジュール案について
 - ・協議題5 その他
- (7) 報告事項
 - ・報告1 外部評価委員会について
 - ・報告2 事業報告書(正式版)に係るスケジュールについて
 - ・報告3 その他
- (8) 決定事項
 - 協議題1 平成28年度企画委員会開催月について
 - ・案のとおり了承された。
 - 協議題2 平成28年度自己点検項目案について
 - ・案のとおり了承された。
 - 協議題3 サーバトラブル時の対応について
 - ・案のとおり了承され、運用上の詳細については今後検討を進めていくこととなった。
 - 協議題4 平成28年度年間スケジュール案について
 - ・案の日付が平成27年度の学年歴をベースに作成されているため、センター校から分室へ平成28

年度の学年歴等を照会し修正版を作成することとなった。

協議題 その他

- ・鳴門教育大学から過年度入学者に対して、知プラ e 科目を eK4 科目として従来とおり単位互換で開講してほしいとの要望があり、本件については eK4 の企画委員会で審議してもらい知プラ e としては eK4 で決定した方針に従うこととなった。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 2 月 22 日（月）

(2) 協議題と決定事項

- 協議題 平成 28 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表（案）について
- ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 2 月 24 日（水）

(2) 協議題と決定事項

- 協議題 外部評価委員からのコメントに対する回答及び業務改善計画（案）について
- ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 2 月 25 日（木）

(2) 協議題と決定事項

- 協議題 平成 27 年度版事業報告書の表紙デザインについて
- ・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 2 月 26 日（金）

(2) 協議題と決定事項

- 協議題 事業報告書平成 27 年度版（正式版）（案）について
- ・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 2 月 26 日（金）

(2) 協議題と決定事項

- 協議題 高知大学知プラ e 科目取り下げに伴う資料の修正について
- ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 3 月 11 日（金）

(2) 協議題と決定事項

- 協議題 H28 国大改革強化推進補助金（総合支援型）に係る関係資料の提出について
- ・案のとおり了承された。

第6回企画委員会

- (1) 日 時 平成 28 年 3 月 15 日 (火) 13 時 30 分から
- (2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部 3 階第 1 会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ① 2 月 22 日 平成 28 年度知プラ e 科目に係る年間スケジュール表 (案) について
 - ② 2 月 24 日 外部評価委員からのコメントに対する回答及び業務改善計画 (案) について
 - ③ 2 月 25 日 平成 27 年度版事業報告書の表紙デザインについて
 - ④ 2 月 26 日 事業報告書平成 27 年度版 (正式版) (案) について
 - ⑤ 2 月 26 日 高知大学知プラ e 科目取り下げに伴う資料の修正について
 - ⑥ 3 月 11 日 H28 国大改革強化推進補助金 (総合支援型) に係る関係資料の提出について
- (5) 各ワーキンググループ (WG) の進捗状況報告について
- (6) 協議題
 - ・協議題 1 サーバトラブル時の対応フローチャート案について
 - ・協議題 2 シラバス情報収集フォーマットについて
 - ・協議題 3 オンライン授業設計ガイドライン改訂について
 - ・協議題 4 知プラ e 事業の課題整理について
 - ・協議題 5 その他
- (7) 報告議題
 - ・報告議題 1 情報ネットワーク論取り下げに伴う対応について
 - ・報告議題 2 授業改善アンケート集計と結果報告のスケジュールについて
 - ・報告議題 3 平成 28 年度スキルアップ研修会のテーマ募集について
 - ・報告議題 4 その他
- (8) 決定事項
 - 協議題 1 サーバトラブル時の対応フローチャート案について
 - ・案のとおり了承された。
 - 協議題 2 シラバス情報収集フォーマットについて
 - ・シラバス情報収集フォーマット及びチェックリストについて, を共同教育実施モデル検討 WG で作成することが了承された。また, オンライン授業内容確認シートの整理作業についても並行して実施することとなった。
 - 協議題 3 オンライン授業設計ガイドライン改訂について
 - ・案のとおり了承された。(注釈の記載誤りを訂正)
 - 協議題 4 知プラ e 事業の課題整理について
 - ・補助金期間終了後の運用体制等について, 分室長間で検討のたたき台となる課題リストを作成することが了承された。

運営委員会 (メール審議)

- (1) 日 時 平成 28 年 3 月 31 日 (木)
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 平成 28 年度運営委員会の開催について
 - ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年月 8 日（金）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 知プラ e 科目の各大学からの提供科目数について
 - ・案のとおり了承された。

第 1 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 28 年 6 月 3 日（金）13 時 30 分から
- (2) 開催方法 遠隔
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ① 4 月 8 日 知プラ e 科目の各大学からの提供科目数について
- (5) 各 WG の進捗状況報告について
- (6) 協議題
 - ・協議題 1 コンテンツ視聴確認の簡素化について
 - ・協議題 2 懸案事項と検討する WG 案について
 - ・協議題 3 平成 28 年度事業シンポジウムについて
 - ・協議題 4 スキルアップ研修会のテーマ案について
 - ・協議題 5 シラバス情報収集フォーマット改訂案について
 - ・協議題 6 その他
- (7) 報告事項
 - ・報告 1 JSiSE 論文誌 33(3)における知プラの紹介について
 - ・報告 2 平成 28 年度知プラ e 科目の履修希望者数について
 - ・報告 3 自己点検について
 - ・報告 4 平成 29 年度提供科目について
 - ・報告 5 平成 28 年度国立大学改革強化推進補助金交付決定について
- (8) 決定事項
 - 協議題 1 コンテンツ視聴確認の簡素化について
 - ・コンテンツ開発検討WGが中心となって検討を行い、次回の企画委員会で再度審議を行うこととなった。
 - 協議題 2 懸案事項と検討する WG 案について
 - ・懸案事項と検討するWG（案）は了承され、期限については村井委員が各WGと調整することとなった。
 - 協議題 3 平成 28 年度事業シンポジウムについて
 - ・案のとおり了承され、日程の詳細は今後検討することとなった。
 - 協議題 4 スキルアップ研修会のテーマ案について
 - ・案のとおり了承された。
 - 協議題 5 シラバス情報収集フォーマット改訂案について
 - ・シラバス情報収集フォーマットについては、共同教育実施モデル検討WGで再度検討し、修正案をメール審議することとなった。シラバス記入チェックシートは原案どおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 6 月 10 日（金）
- (2) 協議題と決定事項
協議題 平成 29 年度開講科目の情報収集スケジュール等について
・案のとおり修正することが了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 6 月 14 日（火）
- (2) 協議題と決定事項
協議題 事業報告書（平成 28 年度版）の目次(案)について
・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 6 月 22 日（水）
- (2) 協議題と決定事項
協議題 シラバスの情報収集フォーマットの様式（案）について
・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 7 月 15 日（金）
- (2) 協議題と決定事項
協議題 平成 27 年度自己点検・評価報告書（案）について
・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 7 月 19 日（火）
- (2) 協議題と決定事項
協議題 知プラ e:平成 29 年度開講科目の決定について
・香川大学提供科目について「情報のいろは」は従前のまま 2 単位とし、既存科目のうちクォータ一制の導入によって科目名が変更された科目（1 単位 2 科目となったもの）の「新規・継続の別」は「継続」ではなく「新規」の誤りのため、訂正案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 7 月 19 日（火）
- (2) 協議題と決定事項
協議題 知プラ e 公式ホームページの一部修正について
・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 8 月 19 日（金）
- (2) 協議題と決定事項

- 協議題 コンテンツ開発等検討 WG 運用細則の名称変更について
・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 28 年 9 月 2 日（金）
(2) 協議題と決定事項

協議題 愛媛大学の平成 28 年度後期提供科目に係る対応について（協力依頼）
・日程的に審議することが困難だったため、センター長判断で変更を了承し、各分室に対応を依頼した。

第 2 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 28 年 9 月 15 日（木）13 時 30 分から
(2) 開催方法 遠隔
(3) 前回議事要旨の確認について
(4) メール審議結果の確認について

- ① 6 月 10 日 平成 29 年度開講科目の情報収集スケジュール等について
- ② 6 月 14 日 事業報告書（平成 28 年度版）の目次（案）について
- ③ 6 月 22 日 シラバスの情報収集フォーマットの様式（案）について
- ④ 7 月 15 日 平成 27 年度自己点検・評価報告書（案）について
- ⑤ 7 月 19 日 知プラ e 公式ホームページの一部修正について
- ⑥ 7 月 19 日 平成 29 年度開講科目の決定について
- ⑦ 8 月 19 日 コンテンツ開発等検討 WG 運用細則の名称変更について
- ⑧ 9 月 2 日 愛媛大学の平成 28 年度後期提供科目に係る対応について（協力依頼）

- (5) 各 WG の進捗状況報告について
(6) 協議題

- 協議題 1 平成 28 年度事業シンポジウム案について
協議題 2 スキルアップ研修会案について
協議題 3 知プラ e 科目の認証制度案について
協議題 4 WG について
協議題 5 成績入力システムへの直接入力について
協議題 6 成績評定について
協議代 7 専門科目受け入れ区分のフィードバックについて
協議代 8 その他

- (7) 報告事項

- ・報告 1 7 月 8 日開催教育担当理事意見交換会の報告について
- ・報告 2 同一科目とみなされる科目の対応について
- ・報告 3 その他

- (8) 決定事項

- 協議題 1 平成 28 年度事業シンポジウム案について
・案のとおり、了承された。（シンポジウム会場の誤標記のため訂正）
協議題 2 スキルアップ研修会案について
・案のとおり了承された。
協議題 3 知プラ e 科目の認証制度案について
・案のとおり了承された。

協議題4 WGについて

- ・WGの初期の役割は終わったためWGを解散してはどうかという提案があり、WG主査の判断で閉じることが了承された。なお、検討が必要な案件が発生した場合は企画委員会委員長の指名により担当者を選出することとなった。

協議題5 成績入力システムへの直接入力について

- ・案のとおり了承された。

協議題6 成績評定について

- ・成績評価要領等の共有を進め、成績評価表の作成等の具体的な対応について今後検討することとなった。

協議代7 専門科目受け入れ区分のフィードバックについて

- ・高知大学で各大学の開講科目区分を集約することとなった。

運営委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成28年9月28日(水)

(2) 協議題と決定事項

協議題 野田委員逝去に伴う外部評価委員候補者の推薦について

- ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成28年10月17日(月)

(2) 協議題と決定事項

協議題 事業シンポジウム2016のチラシ案について

- ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成28年10月21日(金)

(2) 協議題と決定事項

協議題1 コンテンツ視聴確認の簡素化案について

- ・案のとおり了承された。

協議題2 コンテンツ視聴確認シートの改定案について

- ・修正案が提案されたため、再度審議することとなった。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成28年11月16日(水)

(2) 協議題と決定事項

協議題 コンテンツ視聴確認のシート改訂案について

- ・センター長判断により軽微な修正を加えた上で、案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成28年12月6日(火)

(2) 協議題と決定事項

協議題 知プラe科目の成績判定要件について

- ・平成29年度以降に開講される知プラe科目について、2/3位上の出席を成績判定の要件とする場合はシラバスに出席要件に関する事項を必ず記入する。また、e-Learning授業については出席とい

う概念が無い場合要件とする場合は出席を何と読み替えるかを明確に記載こととなった。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 12 月 19 日（月）

(2) 協議題と決定事項

協議題 平成 29 年度 知プラ e に係る開講科目及び担当教員一覧について
・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 12 月 22 日（木）

(2) 協議題と決定事項

協議題 平成 29 年度 知プラ e に係る開講科目及び担当教員一覧の変更について
・案のとおり了承された。（追加審議分）

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 28 年 12 月 26 日（月）

(2) 協議題と決定事項

協議題 オンライン授業設計ガイドライン（改訂案）及び準拠確認シート案について
・愛媛大学からの修正意見について香川大学内で疑義が生じたため、次回の企画委員会（平成 29 年 1 月 24 日開催）で再審議することとなった。

第 1 回運営委員会

(1) 日 時 平成 29 年 1 月 23 日（月）11 時 30 分から

(2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部 3 階第一会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) メール審議結果の確認について

- ① 12 月 1 日 平成 27 年度外部評価に係るアンケート（案）及び関連する資料について
- ② 2 月 24 日 外部評価委員からのコメントに対する回答及び業務改善計画（案）について
- ③ 2 月 25 日 平成 27 年度版事業報告書の表紙デザインについて
- ④ 2 月 26 日 事業報告書平成 27 年度版（正式版）（案）について
- ⑤ 2 月 26 日 高知大学知プラ e 科目取り下げに伴う資料の修正について
- ⑥ 3 月 31 日 平成 28 年度運営委員会の開催について
- ⑦ 7 月 15 日 平成 27 年度自己点検・評価報告書（案）について
- ⑧ 9 月 2 日 愛媛大学の平成 28 年度後期提供科目に係る対応について（協力依頼）
- ⑨ 9 月 28 日 野田委員逝去に伴う外部評価委員候補者の推薦について

(5) 各 WG の進捗状況報告について

(6) 協議題

- 協議題 1 補助金期間終了後の運用体制について
- 協議題 2 知プラ e 科目情報変更の今後の対応について
- 協議題 3 平成 29 年度運営委員会の開催について
- 協議題 4 平成 29 年度事業実施計画案について
- 協議題 5 平成 28 年度国立大学改革強化推進補助金実績報告書案について
- 協議題 6 国立大学改革強化推進補助金の「最終評価総括票」案について

協議題7 その他

(7) 報告事項

- ・報告1 平成28年度外部評価委員会開催について
- ・報告2 その他

(8) 決定事項

協議題1 補助金期間終了後の運用体制について

- ・修正意見を元に基幹校で文言の調整を行い、メーリで再審議することとなった。

協議題2 知プラe科目情報変更の今後の対応について

- ・締切後に科目情報の変更があった場合の最終期限は設けずに柔軟に対応することとなった。

協議題3 平成29年度運営委員会の開催について

- ・平成28年度と同様に事業シンポジウムと併せて1月に対面開催することとなった。

協議題4 平成29年度事業実施計画案について

- ・案のとおり了承された。

協議題5 平成28年度国立大学改革強化推進補助金実績報告書案について

- ・案のとおり了承された。

協議題6 国立大学改革強化推進補助金の「最終評価総括票」案について

- ・協議題1, 協議題5の審議結果を反映させて修正することとなった。

外部評価委員会

(1) 日 時 平成29年1月23日(月)16時45分から

(2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 研究交流棟5階研究者交流スペース

(3) 議 題

- ・議題1 平成28年度事業実施報告
- ・議題2 平成29年度事業実施計画報告
- ・議題3 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換
- ・その他

(4) 議事要旨

議題1 平成28年度事業実施報告

- ・事業実施報告に対して、各委員から特段の意見は出なかった。

議題2 平成29年度事業実施計画報告

- ・事業実施計画に対して、各委員から特段の意見は出なかった。

議題3 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換

Q1 本取り組みの特徴の中で全学パソコンの必携化と高速無線LANの整備という項目があったが、パソコンの必携化について説明を頂きたい。

A1 香川大学の場合は工学部と農学部が必携化となっている。いわゆる文系学部はまだという状況である。高知大学は全学が必携化されている。徳島大学、鳴門教育大学、愛媛大学はされていない。

Q2 履修者が何人いたというのは報告があったが、単位が取れたのかどうかというデータはあるのか。中断率には差があるのか。

A2 履修状況について分析をフィードバックをすることについては、まだ知プラ全体では実施していないが、愛媛大学ではひととおり昨年度に実施した。受講生の約4割が単位を修得している状況である。ドロップアウトするタイミングについては、初期段階(ログインして第1回目の課題を行うまで)に諦めてしまう学生が基本的に多い。

Q3 実際にガイドラインに基づいて教育し質保証ができたかどうかの検証をどうやるのかを検討し

ているか。

A3 ガイドラインを作成し、ガイドラインに対する評価としてチェックシートを作成した。それに基づいて教材の質を担保することは来年度以降に示す。

Q4 事業期間終了後のセンター四国運営体制について、各分室を継続し、経費は各大学が自己負担で行うことと記載されているが、シンポジウムのプレゼン資料では、作業量が多大で補助金終了後は維持困難と書かれていた。そのあたりの関係について説明願いたい。

A4 補助金が無い＝人を雇う人件費が無い、ということは明確である。予算が少なくてもできるだけきちんとした成果を出すために、作業を簡便化してルーティンワークに落とし込むなどして、これまでと同じような成果を出せる方策を今後検討する。

Q5 分室を継続して設置することは決まっているようだが、その上にある大学連携 e-Learning 教育支援センター四国という組織は存続するのか。

A5 現時点では未定である。

Q6 知プラ e 事業の補助金期間中も各大学がそれぞれで経費を負担している。各大学が負担する部分を今後理事意見交換会等で検討することになるのか。

A6 そのなる。我々の上にある連携事業推進会議、あるいは5大学の学長会議から指示が下りてくることとなる。いずれにせよ、上層部に基本方針を検討していただくこととなる。

Q7 ユーザ認証方式の一元化について、その中身を説明願いたい。

A7 一元化というのは、大学で Moodle を共有することとなる。その Moodle を利用する時の認証は各大学の ID とパスワードでログインできるようにしているが、今後は5大学の Moodle とともに、学認とよばれる連携認証を利用する、というユーザ認証方式の一元化で考えている。

Q8 この事業を始める時に、学生が“いつでもどこでも何度でも”ということで e-Learning が始まった。学生が自大学の学生だけで無く他大学の学生とも意見交換できるという記述があったと思うが、現在のシステムでそういうことができているのか

A8 各大学で利用されている Moodle のフォーラムにディスカッションできる機能が存在している。また、実際に使っている事例もある。

Q9 各大学が共通で開講している科目を e-Learning 化するというのが見受けられないがどうなっているのか。

A9 知プラ e 事業ではないが、愛媛大学では共通基礎科目のある分野では他大学と連携が進んでいるケースもある。

Q10 e-Learning の特色として、作る時は凄く大変だが賞味期限が切れるまでは使い回しが可能である。例えば放送大学の場合は4年に1回のコンテンツ見直しサイクルでやっている。制作したコンテンツがどれくらい長持ちするものなのか（どれくらいのサイクルでリバイスしていくものなのか）、立ち上げた後で維持管理していくための予算がどれくらい必要なのか。

A10 放送大学で1科目を作成するためには概ね安いので300万円、高いのだと2千万円かかっている。取材やCG等を含めた金額である。

意見1 ガイドラインが整備されるだけで無くガイドラインに従っているかをチェックするためのツールができることが具体的になってきたと思っている。著作権についての報告にもあったように、こういうワークシートやFAQみたいなものを整備していくことが今後のスリム化に向けての大きな一歩になる。

意見2 e-Learning という言葉は一般的な馴染みが無いので、もっと広く知って貰うための広報活動が必要である。

意見3 教育工学系の学会等に於いてはこのプロジェクトはたいへん広く知られていて注目を集めているので、是非失敗しないで欲しい。

意見4 限られた予算のもとでこれだけのコンテンツを制作されたことについて、教員の方々の努力は非常に大変だったのだろうと十分に想像できる。その努力を讃えたいと思う。

意見5 平成27年度には7科目で777名、平成28年度は14科目、平成29年度は38科目、平成30年度には約50科目と、スタッフの皆さんが凄い努力をされたと思う。ますます発展していくことを期待している。

議題4 その他
特になし

第3回企委員会

- (1) 日 時 平成29年1月24日(火) 9時30分から
- (2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス 大学本部3階第一会議室
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ① 10月17日 事業シンポジウム2016のチラシ案について
 - ② 10月21日 コンテンツ視聴確認の簡素化案及びシート改訂案について
 - ③ 11月16日 コンテンツ視聴確認のシート改訂案について
 - ④ 12月6日 知プラe科目の成績判定要件について
 - ⑤ 12月19日 平成29年度 知プラeに係る開講科目及び担当教員一覧の変更について
 - ⑥ 12月22日 平成29年度 知プラeに係る開講科目名の変更について
 - ⑦ 12月26日 オンライン授業設計ガイドライン(改訂案)及び準拠確認シート案について
- (5) 各WGの進捗状況報告について
- (6) 協議題
 - ・協議題1 平成29年度企画委員会開催月案について
 - ・協議題2 平成29年度年間スケジュール案について
 - ・協議題3 成績の評価方法について
 - ・協議題4 障害のある学生に対する支援体制について
 - ・協議題5 オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートの運用方法について
 - ・協議題6 「H29知プラ開講科目「海洋基礎生態学」の試験実施方法」について
 - ・協議題7 その他
- (7) 報告事項
 - ・報告1 外部評価委員会について
 - ・報告2 運営委員会について
 - ・報告3 事業報告書(正式版)に係るスケジュールについて
 - ・報告4 平成28年度知プラe開講科目の履修登録状況について
 - ・報告5 愛媛大学提供科目の香川大学LMSからの配信について
 - ・報告6 センター四国ウェブサイトに掲載する平成29年度開講科目の履修案内について
 - ・報告7 その他
- (8) 決定事項
 - 協議題1 平成29年度企画委員会開催月案について
 - ・案のとおり了承された

協議題2 平成29年度年間スケジュール案について

- ・案のとおり了承された

協議題3 成績の評価方法について

- ・成績評価に係る評価読み替え一覧表(案)を一部修正し、平成29年度前期開講科目から適用することとなった。

協議題4 障害のある学生に対する支援体制について

- ・知プラe科目の障害がある学生に対する支援については柔軟に対応する方針が確認された。

協議題5 オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートの運用方法について

- ・一部文言の修正を加え了承された。具体的な運用の検討は今後行うこととなった。

協議題6 「H29知プラ開講科目「海洋基礎生態学」の試験実施方法」について

- ・本協議題は取り下げとなった。

協議題7 その他

- ・徳島大学から依頼のあった成績評価提出依頼時に試験問題を併せて送付することについて、平成29年度からの具体的な対応を今後検討することとなった。

運営委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成29年2月3日(金)

(2) 協議題と決定事項

協議題 補助金期間終了後の運用体制の修正案について

- ・修正意見が出されたため修正案を再提案し、改めて審議を行うこととなった。

運営委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成29年2月3日(金)

(2) 協議題と決定事項

協議題 補助金期間終了後の運用体制の修正案に係る再提案について

- ・意見が寄せられたため、修正を行い承認とした。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成29年2月17日(金)

(2) 協議題と決定事項

協議題 平成29年度 知プラeに係る開講科目及び担当教員一覧等の変更について

- ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成29年3月2日(木)

(2) 協議題と決定事項

協議題 知プラe科目を香川大学の単位互換科目として提供することに伴う運用について

- ・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成29年3月2日(木)

(2) 協議題と決定事項

協議題 事業報告書平成28年度版(正式版)(案)について

- ・修正意見を反映させたものを最終版とし、了承された。

運営委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 29 年 3 月 6 日（月）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 外部評価委員の候補者及び再任の推薦について
 - ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 29 年 3 月 17 日（金）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 オンライン授業設計ガイドブックの公開について
 - ・案のとおり了承された。

第 4 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 29 年 3 月 28 日（火）13 時 30 分から
- (2) 場 所 遠隔会議
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ① 2 月 17 日 平成 29 年度 知プラ e に係る開講科目及び担当教員一覧等の変更について
 - ② 3 月 2 日 知プラ e 科目を香川大学の単位互換科目として提供することに伴う運用について
 - ③ 3 月 2 日 事業報告書平成 28 年度版(正式版)(案)について
 - ④ 3 月 17 日 オンライン授業設計ガイドブックの公開について
- (5) 各 WG の進捗状況報告について
- (6) 協議題
 - ・協議題 1 知プラ e 科目を単位互換（香川大学科目として）での提供について
 - ・協議題 2 事業期間終了後の e-Learning 設備について
 - ・協議題 3 平成 30 年度後期開講予定科目のコンテンツ視聴確認について
 - ・協議題 4 平成 30 年度以降の授業改善アンケートの実施について
 - ・協議題 5 知プラ e 科目の成績評価に係る評価早見表（案）について
 - ・協議題 6 徳島大学への試験問題送付方法について
 - ・協議題 7 科目担当教員からの要望（宣誓書）への対応について
 - ・協議題 8 香川大学クォーター制導入に伴う授業配信時期について
 - ・協議題 9 その他
- (7) 報告議題
 - ・報告議題 1 四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業（知プラ e 事業）の概要について
 - ・報告議題 2 事業報告書平成 28 年度版について
 - ・報告議題 3 平成 28 年度自己点検報告書について
 - ・報告議題 4 平成 29 年度スキルアップ研修会のテーマ募集について
 - ・報告議題 5 外部評価委員の候補者及び再任の推薦について
 - ・報告議題 6 知プラ e 平成 29 年度履修登録・成績評価期間調査について
 - ・報告議題 7 その他

(8) 決定事項

協議題1 知プラe科目を単位互換（香川大学科目として）での提供について

- ・案のとおり了承された。

協議題2 事業期間終了後のe-Learning設備について

- ・学認への対応も含めて今後の企画委員会で検討を進めることとなった。

協議題3 平成30年度後期開講予定科目のコンテンツ視聴確認について

- ・平成30年3月に実施することを努力目標とする（コンテンツ制作が完了していない科目は個別対応とする）こととなった。

協議題4 平成30年度以降の授業改善アンケートの実施について

- ・平成30年度以降も実施し、アンケート結果は分室単位で取りまとめる。利活用方法等については、今後検討することとなった。

協議題5 知プラe科目の成績評価に係る評価早見表（案）について

- ・案のとおり了承された。

協議題6 徳島大学への試験問題送付方法について

- ・原則、徳島大学と科目担当教員との個別対応（分室を介さない）とすることとなった。

協議題7 科目担当教員からの要望（宣誓書）への対応について

- ・不正がないことを誓う宣誓書を学生から提出させたいとの要望に対して、科目担当教員の責任のもので行うこととなった。

協議題8 香川大学クォーター制導入に伴う授業配信時期について

- ・具体的な配信期間（月日）をLMSのコーストップページとホームページの開講科目一覧の両方に表示することとなった。

協議題9 その他

- ・特になし。

平成29年度

運営委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成29年5月11日（木）

(2) 協議題と決定事項

協議題 国立大学改革強化推進補助金の「最終評価総括票」の修正について

- ・意見が寄せられたため、センター四国（香川大学）一任のもと、内容を調整した上で連携事業推進会議（窓口：愛媛大学）に提出することとなった。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成29年6月2日（金）

(2) 協議題と決定事項

協議題 平成28年度自己点検・評価報告書（案）について

- ・案のとおり了承された。

第1回企画委員会

(1) 日 時 平成29年6月23日（金）13時30分から

(2) 場 所 遠隔会議

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) メール審議結果の確認について

① 6月2日 平成28年度自己点検・評価報告書(案)について

(5) 協議題

- ・協議題1 四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業(知プラe事業)の概要について
- ・協議題2 平成29年度スキルアップ研修会のテーマ案について
- ・協議題3 平成29年度事業シンポジウムについて
- ・協議題4 平成30年度以降の知プラeの体制について
- ・協議題5 平成30年度開講科目の決定について
- ・協議題6 「e-Learning 便り from 四国(仮称)」の公開場所について
- ・協議題7 事業報告書(平成29年度版)の目次(案)について
- ・協議題8 平成29年度及び30年度以降の授業改善アンケートについて
- ・協議題9 WG残案件の取り扱いについて
- ・協議題10 その他

(6) 報告事項

- ・報告1 平成29年度前期コンテンツ視聴確認について
- ・報告2 平成29年度前期開講科目の履修登録者数について
- ・報告3 コンテンツ制作進捗状況について
- ・報告4 その他

(7) 決定事項

- 協議題1 四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業(知プラe事業)の概要について
 - ・センター四国で再度基本案を検討し、部門長・センター長でメーリングリスト又は遠隔会議により議論を進めていくこととなった。
- 協議題2 平成29年度スキルアップ研修会のテーマ案について
 - ・案のとおり高知大学・香川大学の2案で進めることとなった。
- 協議題3 平成29年度事業シンポジウムについて
 - ・前年度の構成案をたたき台としながら成果報告会として再構成し直し、細かな構成の修正については今後検討していくこととなった。
- 協議題4 平成30年度以降の知プラeの体制について
 - ・大学連携e-Learning教育支援センター四国を香川大学に置くことを前提として、部門長によるディスカッションにより今後検討を進めていくこととなった。
- 協議題5 平成30年度開講科目の決定について
 - ・審議の結果、科目名称が(仮)となっていた「インタフェースデザイン概論」は科目名確定とし、案のとおり了承された。
- 協議題6 「e-Learning 便り from 四国(仮称)」の公開場所について
 - ・案のとおり了承された。
- 協議題7 事業報告書(平成29年度版)の目次(案)について
 - ・審議内容を踏まえて、香川大学が目次案を再検討することとなった。
- 協議題8 平成29年度及び30年度以降の授業改善アンケートについて
 - ・案のとおり了承された。
- 協議題9 WG残案件の取り扱いについて
 - ・システム検討WGを除くすべてのWGを閉じて、残案件については企画委員会マターで対応していくこととなった。
- 協議題10 その他
 - ・鳴門教育大学提供科目でフリーソフトをインストールする必要があることについて、大学に設置してあるPCにインストールのではなく、受講生各自のPCにインストールするよう周知することとなった。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 29 年 7 月 7 日（金）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 平成 30 年度開講科目に係る科目名の変更について
 - ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 29 年 7 月 20 日（木）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 事業報告書のタイトルと目次（案）について
 - ・連携大学から修正意見があったため内容を精査して再度審議とする。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成 29 年 9 月 8 日（金）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 事業報告書のタイトルと目次（案）について（再審議）
 - ・案のとおり了承された。

第 2 回企画委員会

- (1) 日 時 平成 29 年 9 月 20 日（水）13 時 30 分から
- (2) 場 所 遠隔会議
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ① 7 月 7 日 平成 30 年度開講科目に係る科目名の変更について
 - ② 7 月 20 日 事業報告書のタイトルと目次（案）について
 - ③ 9 月 8 日 事業報告書のタイトルと目次（案）について（再審議）
- (5) 協議題
 - ・協議題 1 補助金期間終了後の運用体制について
 - ・協議題 2 認証システムの学認への移行について
 - ・協議題 3 知プラ e の moodle に係るセキュリティ対策について
 - ・協議題 4 平成 29 年度事業シンポジウム案について
 - ・協議題 5 その他
- (6) 報告事項
 - ・報告 1 共通マニュアル作成の進捗状況について
 - ・報告 2 9 月 11 日 第 88 回四国国立大学協議会，平成 29 年度第 2 回四国国立大学連携事業推進会議の報告について
 - ・報告 3 平成 30 年度同一科目とみなされる科目の対応について
 - ・報告 4 その他
- (7) 決定事項
 - 協議題 1 補助金期間終了後の運用体制について

- ・センター長と分室長間で審議をし、企画委員会で情報を提供しながら進めていくこととなった。
- 協議題2 認証システムの学認への移行について
- ・移行時期については、平成30年3月末を目指して対応を進めることとなった。
- 協議題3 知プラ e の moodle に係るセキュリティ対策について
- ・まずはシステムWGで検討し、その後企画委員会で審議を進めることとなった。
- 協議題4 平成29年度事業シンポジウム案について
- ・案のとおり了承された。
- 協議題5 その他
- ・特になし

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成29年11月10日（金）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 事業シンポジウム2017のチラシ案について
 - ・連携大学からの意見を受けて修正したものを最終確定版とした。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成29年12月18日（月）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 平成30年度開講科目に係る科目名の変更について
 - ・案のとおり了承された。

外部評価委員会

- (1) 日 時 平成30年1月15日（月）16時30分から
- (2) 場 所 香川大学 幸町北キャンパス本部管理棟3階 第一会議室
- (3) 議 題
 - ・議題1 平成29年度事業実施報告
 - ・議題2 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換
 - ・議題3 その他
- (4) 議事要旨

議題1 平成29年度事業実施報告

- ・事業実施報告に対して、各委員から特段の意見は出なかった。

議題2 外部評価委員からの質疑応答及び意見交換

Q1 オンライン授業設計ガイドラインに沿っているかを準拠確認シートで確認したとあるが、結果はこれから作成するのか。

A1 今後報告書等でまとめたものを掲載するか、Webに速報を公開したいと思っているが、どのように公開するかはこれから検討することになる。

Q2 オンライン授業設計ガイドライン準拠チェックシートの（項目（7）へ）について、未達成となっている科目が多いようだが、その理由は。

A2 e-Learningコース上に、単位取得の詳細な条件を明記できていないことが考えられる。

Q3 授業改善アンケートの回答率が低いようだが、その理由は。

A3 授業改善アンケートの回答は必須ではなく、学生が e-Learning 授業をすべて受講した後に実施しているからだと考えている。なお、対面授業の場合のようにアンケート回答用紙（マークシート）を配付して授業中に回答してもらうことはできないため、回答率を良くするのは難しい。

Q4 平成 30 年度開講科目数 61 科目について、香川大学のクォーター制導入によって科目が分割されたようだが、分割しない場合の科目数はいくつなのか。

A4 セメスター相当で数えた場合は 51 科目である。

Q5 すべての授業を受ければ単位が認定されるのか。

A5 すべて合格要件を満たした上ですべての授業を受けていれば合格となるようになっている。

Q6 平成 28 年度の 1,205 名すべての学生が単位取得できたということか。

A6 1,205 名は履修者数であるので合格者数はその何十パーセントかになる。

Q7 ドロップアウトした学生の割合はどのくらいなのか。

A7 対面授業とあまり変わらない単位取得率だったと思う。

Q8 一度開講した科目の開講継続年数はどのように考えているのか。例えば放送大学では、学問の基礎の部分についてはそんなに変わらないので内容が陳腐化していなければ、費用の問題もあるので 4～5 年は継続して開講している。

A8 現時点では 4 年間継続するというので考えている。実際は 4 年以上開講している科目もある。コンテンツの一部を改修しながらなるべく長く開講できるようにしている。

Q9 学生からのアンケートでの指摘事項も反映させて修正するという進め方をしているのか。

A9 e-Learning コンテンツそのものを変えるのは大変だが、小テストや課題の内容を調整している。

Q10 次年度以降の予算の問題については、各先生方からは答えにくいと思うが、大学や執行部でご検討頂くしかないのではないかと。また、各大学で事業に対して温度差があり、継続する上での課題等は見えてきているのか。

A10 システム面についてはセンター四国の中の温度差よりは、各大学の中の他部局との連携が必要になってくる。認証方式の対応についても、センター四国だけでできる話ではなく、各大学の情報系部局との連携やセキュリティー委員会の制約条件があり、その辺りの調整が必要である。

Q11 事業を継続するという方向性が定まったことは理解できるが、現実的な話として問題となるようなことが発生した場合は執行部に提言をする必要があるように思うが、それは可能なのか。

A11 センター四国の上には、四国地区国立大学連携事業推進会議、四国国立大学協議会があるので、そこに話を上げることができる。

Q12 学会での反響はどうかとの発言があった。

A12 日本教育工学会、教育システム情報学会及び国際会議で発表しているが、学会で発表していることが世の中に広くという観点から見るとそうっておらず、狭い領域での周知活動になっている。

Q13 高校生にあまり認知されていないのではないかと。

A13 高校生向けにはアナウンスしていないが、Web サイトがあるので気になれば確認することができると考えている。

Q14 実際に授業を組み立てる中で著作権を支払っているのか実態を教えてください。

A14 徳島大学、鳴門教育大学、愛媛大学では、著作権が必要となった場合は、その資料を使わずに他の資料を代用するなどして対応している。なお、インタビューを行う場合は、出演者に肖像権の許可を得て、インタビューに対しての謝金を支払っている。

Q15 来年度開講科目が 61 科目となっている。補助金期間は今年度で終了であるが、来年度開講分は今年度の予算を使っているのか。

A15 来年度開講科目は予算がある今年度中に作成する予定である。

Q16 単位取得率が出ているか出ていないかでこのプロジェクトが本当に学修を目指してやっているのかという評価になってしまう。学びのための質保証をするために、どのようなデータを出すと良いかを検討すべきではないか。

A16 単位取得率のデータはあるので、どのように出すのかを今後検討する。

Q17 スマートフォンでは受講できないのか。

A17 スマートフォンで受講しようとする学生がいるが、基本的には高速のネット環境がある場所でパソコンを使って受講するように指導している。

意見 1 外部の人にもっと知ってもらうために、例えば NHK 四国 4 県で放送している番組で知プラ e 事業について報道してもらい一般の人に知ってもらうのが良い。

意見 2 四国観光ツーリズム協会という組織があり、著作権フリーの観光写真の使い勝手がよい。四国クリエイト協会では防災関係のデータや資料を一括管理していて、一般の人でも使えるようになっている。

意見 3 授業改善アンケートを大事にする方向で進めてほしい。アンケートの内容に対してどのようにフィードバックするか、指摘があった部分について直せるところはすぐ直すような、アンケートに書かれたことを拾い出して次に生かすという PDCA サイクルの確立が重要である。

運営・企画委員会(第 1 回運営委員会・第 3 回企画委員会)

(1) 日 時 平成 30 年 1 月 16 日 (火) 9 時 30 分から

(2) 場 所 香川大学 幸町キャンパス 大学本部 3 階 第一会議室

(3) 前回議事要旨の確認について

(4) メール審議結果の確認について

①11 月 10 日 事業シンポジウム 2017 のチラシ案について

②12 月 18 日 平成 30 年度開講科目に係る科目名の変更について

(5) 協議題

- ・協議題 1 四国地区国立大学連携事業の組織及び運営体制等について
- ・協議題 2 平成 30 年度業務計画について
- ・協議題 3 平成 30 年度スケジュールについて
- ・協議題 4 質保証シンボル案とその取り扱いについて
- ・協議題 5 オンライン授業設計ガイドラインの改訂について
- ・協議題 6 システムのセキュリティ対策案について
- ・協議題 7 その他

(6) 報告事項

- ・報告 1 12 月 14 日 平成 29 年度第 3 回四国地区国立大学連携事業推進会議 (メール会議) 結果について
- ・報告 2 1 月 15 日 事業シンポジウムの実施について
- ・報告 3 1 月 15 日 外部評価委員会の実施について
- ・報告 4 事業成果報告書の資料収集について
- ・報告 5 その他

(7) 決定事項

協議題 1 四国地区国立大学連携事業の組織及び運営体制等について

- ・改訂案について指摘があった箇所を修正し、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則の改正及び大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会規程の廃止について了承された。

協議題 2 平成 30 年度業務計画について

- ・案のとおり了承された。

協議題 3 平成 30 年度スケジュールについて

- ・アンケートのとりまとめ業務を削除したスケジュール案が了承された。また、アンケートの取り扱いについては次回の企画委員会で検討することとなった。

協議題 4 質保証シンボル案とその取り扱いについて

- ・香川大学で案を作成し、次回の企画委員会でどのように取り扱うかを再度審議することとなった。

協議題 5 オンライン授業設計ガイドラインの改訂について

- ・今後、各大学の学内規等と齟齬がないかを確認して、内容が確定した段階でガイドライン及びチェックシートを修正することとなった。

協議題 6 システムのセキュリティ対策案について

- ・林センター長を中心として、各大学のセキュリティ対策について管轄部局へトップダウンで依頼ができる体制の確立を四国地区国立大学連携事業推進会議へ要望することを進めていくこととなった。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 30 年 2 月 2 日（金）

(2) 協議題と決定事項

協議題 1/16 運営・企画委員会の継続審議事項について（質保証シンボルの取り扱いについて）

- ・次回の企画委員会で審議することとなった。

運営委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 30 年 2 月 2 日（金）

(2) 協議題と決定事項

協議題 四国 5 大学連携事業に係る事業名称等について

- ・改正案の提案があったため、改正案を含めて改めて審議を行うこととなった。

運営委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 30 年 2 月 6 日（火）

(2) 協議題と決定事項

協議題 四国 5 大学連携事業に係る事業名称等について

- ・補助金終了後の事業名（案）は、原案「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」のとおりとなった。

運営・企画委員会（メール審議）

(1) 日 時 平成 30 年 2 月 15 日（木）

(2) 協議題と決定事項

協議題 平成 30 年度以降の授業改善アンケートの実施方法について

- ・案のとおり了承された。

運営・企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成30年2月28日（水）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 平成30年度知プラe事業に係る運営委員会及び企画委員会の開催日程等について
 - ・案のとおり了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成30年3月7日（水）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国ホームページの更新について
 - ・一部修正したものが了承された。

企画委員会（メール審議）

- (1) 日 時 平成30年3月13日（火）
- (2) 協議題と決定事項
 - 協議題 オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートの改訂について
 - ・案のとおり了承された。

第4回企画委員会

- (1) 日 時 平成30年3月22日（木）13時30分から
- (2) 場 所 遠隔会議
- (3) 前回議事要旨の確認について
- (4) メール審議結果の確認について
 - ①2月 2日 1/16 運営・企画委員会の継続審議事項について（質保証シンボルの取り扱いについて）
 - ②2月15日 平成30年度以降の授業改善アンケートの実施方法について
 - ③2月28日 平成30年度知プラe事業に係る運営委員会及び企画委員会の開催日程等について
 - ④3月 7日 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国ホームページの更新について
 - ⑤3月13日 オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シートの改訂について
- (5) 協議題
 - ・協議題1 質保証シンボル案とその取り扱いについて
 - ・協議題2 著作権処理ハンドブックについて
 - ・協議題3 単位修得者数の取りまとめ結果の取り扱いについて
 - ・協議題4 四国国立5大学教育担当理事意見交換会への提出資料について
 - ・協議題5 徳島大学ローカルアカウントの配付について
 - ・協議題6 その他
- (6) 報告事項
 - ・報告1 香川大学と鳴門教育大学との単位互換について
 - ・報告2 事業成果報告書作成に係る資料収集について
 - ・報告3 知プラe平成30年度履修登録・成績評価期間調査について
 - ・報告4 第4回四国地区国立大学連携事業推進会議（2月23日付けメール審議）及び 第90回四国国立大学協議会、平成29年度第5回四国地区国立大学連携事業推進会議（3月6日での審議・

報告内容等について

- ・報告5 平成29年度 実績報告書等の作成について
- ・報告6 その他

(7) 決定事項

協議題1 質保証シンボル案とその取り扱いについて

- ・様々な意見があったため次年度以降に検討することとなった。

協議題2 著作権処理ハンドブックについて

- ・作成した案について意見集約をし改訂版を作成し、センター四国のホームページに掲載することとなった。

協議題3 単位修得者数の取りまとめ結果の取り扱いについて

- ・平成30年度以降も年度末に取りまとめを行う。また、結果を共有する際のデータのフォーマット及び共有方法については次回の企画委員会で検討することとなった。

協議題4 四国国立5大学教育担当理事意見交換会への提出資料について

- ・一部の資料に追記をし、その他の資料は案のとおり提出することとなった。

協議題5 徳島大学ローカルアカウントの配付について

- ・一部の大学では取り扱いが異なるが、平成30年度においては案のとおり対応することとなった。

B 関係規則等

B-1 大学間申合せ

四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ

(平成 26 年 9 月 4 日四国国立大学協議会決定)

四国地区 5 国立大学（徳島大学，鳴門教育大学，香川大学，愛媛大学，高知大学）は，四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施を円滑に行うため，下記のとおり申し合わせる。

記

1. 平成 27 年度以降の本事業で提供する e-Learning 科目については，5 大学において同一の科目名で共同開講し，各大学の様式でシラバスを作成するものとする。
2. 本事業で提供する e-Learning 科目を 5 大学いずれかの常勤教員が担当する場合，他の 4 大学では非常勤講師発令のための資格審査手続きを省略するものとする。

附 則

この申合せは，平成 26 年 9 月 4 から施行する。

B-2 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則

平成 25 年 7 月 5 日

(趣旨)

第1条 この規則は，国立大学改革強化推進補助金事業「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の共同実施に関する協定書第 3 条第 2 項の規定に基づき，大学連携 e-Learning 教育支援センター四国（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは，徳島大学，鳴門教育大学，香川大学，愛媛大学及び高知大学（以下「四国地区国立大学」という。）との緊密な連携のもとで，大学教育・大学院教育の共同実施を行うことにより，教育の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第3条 センターは，前条の目的を達成するため，次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育・大学院教育の共同実施に向けた組織体制の整備に関すること。
- (2) 四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること。
- (3) 共同実施による教育プログラムの開発に関すること。
- (4) オープンコンテンツ開発に関すること。
- (5) 遠隔会議・遠隔講義システム等のシステム基盤強化に関すること。
- (6) 共同実施の運用モデルの確立に関すること。
- (7) その他前条の目的を達成するために必要なこと。

(組織)

第4条 センターは，四国地区国立大学のうち，香川大学に置く。

2 センターの業務を円滑に実施するため，香川大学を除く四国地区国立大学に，それぞれ大学連携 e-Learning 教育支援センター四国分室（以下「センター分室」という。）を置く。

- 3 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。
- (1) センター長
 - (2) センター教員
 - (3) その他必要な職員(以下「センター職員」という。)

- 4 センター分室に、次の各号に掲げる職員を置く。
- (1) 分室長
 - (2) 分室教員
 - (3) その他必要な職員(以下「分室職員」という。)
- (センター長等)

第5条 センター長は、香川大学に所属する教員のうち、同大学の学長(以下「学長」という。)が指名する者をもって充てる。

2 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

3 センター教員は、学長が、選考又は指名し、任命する。

4 分室長及び分室教員は、当該大学の学長が、選考又は指名し、任命する。

(職務)

第6条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター教員は、センターの業務を処理する。

3 センター職員は、センターの業務に従事する。

4 分室長は、センター分室の業務を掌理する。

5 分室教員は、センター分室の業務を処理する。

6 分室職員は、センター分室の業務に従事する。

(運営委員会)

第7条 センターに、センター及びセンター分室の管理運営に関する重要事項を審議するため、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(企画委員会)

第8条 センターに、センター及びセンター分室の円滑な運営のため、大学連携 e-Learning教育支援センター四国企画委員会(以下「企画委員会」という。)を置く。

2 企画委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(外部評価委員会)

第9条 センターに、センター及びセンター分室の業務に対して評価を行い、もって業務の改善に資するため、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)を置く。

2 外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 センター及びセンター分室に関する事務は、四国地区国立大学のセンター業務を所掌する課等において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

2 前項にかかわらず、この規則に定めるもののほか、センター分室に関し必要な事項は、各大学が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成25年7月5日から施行する。

2 この規則の施行後、最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

B-3 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会規程

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会規程

平成25年7月5日

(趣旨)

第1条 この規程は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則（以下「センター規則」という。）第7条第2項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国及び大学連携 e-Learning 教育支援センター四国分室（以下「センター等」という。）の業務に係る重要事項に関すること。
- (2) センター等の予算及び決算に関すること。
- (3) センター等の教員等の人事に関すること。
- (4) その他センター等の管理及び運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 香川大学の教育担当理事
- (2) センター長
- (3) センター教員
- (4) 分室長
- (5) センター業務を所掌する四国地区国立大学の課長（相当職を含む。）以上の事務職員 各 1人
- (6) その他センター長が必要と認めた者

2 前項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。ただし、委員に支障があるときは、あらかじめ当該委員の指名する者が、委員長の承諾を得て代理出席することができる。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(開催)

第6条 運営委員会は、委員長が必要と認めたときに開催するものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、香川大学教育・学生支援室修学支援グループにおいて処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成25年7月5日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に任命される第3条第1項第6号の委員の任期は、第3条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

B-4 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会規程

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会規程

平成 25 年 7 月 5 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則（以下「センター規則」という。）第 8 条第 2 項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会（以下「企画委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 企画委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国及び大学連携 e-Learning 教育支援センター四国分室（以下「センター等」という。）の運営の実務に関すること。
- (2) 研修会、セミナー等の企画・実施に関すること。
- (3) その他センター等の事業運営に関すること。

(組織)

第 3 条 企画委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター教員
- (3) 分室長又は分室教員
- (4) その他センター長が必要と認めた者

2 前項第 4 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 企画委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、企画委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第 5 条 企画委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。ただし、委員に支障があるときは、あらかじめ当該委員の指名する者が、委員長の承諾を得て代理出席することができる。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(開催)

第 6 条 企画委員会は、委員長が必要と認めたときに開催するものとする。

(委員以外の者の出席)

第 7 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第 8 条 企画委員会に関する事務は、香川大学教育・学生支援室修学支援グループにおいて処理する。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、企画委員会の運営に関し必要な事項は、企画委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成 25 年 7 月 5 日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に任命される第 3 条第 1 項第 4 号の委員の任期は、第 3 条第 2 項の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

B-5 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会規程

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会規程

平成25年7月5日

(趣旨)

第1条 この規程は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国規則第9条第2項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 外部評価委員会は、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国及び大学連携 e-Learning 教育支援センター四国分室が行う業務について、単年度毎の実績に関する評価を行う。

(組織)

第3条 外部評価委員会の委員は、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学の役員並びに職員以外の学識経験者から、センター長が委嘱し、組織する。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選によるものとする。

(任期)

第5条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集及び議長)

第6条 委員長は、外部評価委員会を招集し、その議長となる。

(会議の成立等)

第7条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

(委員以外の出席)

第8条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第9条 外部評価委員会に関する事務は、香川大学教育・学生支援室修学支援グループにおいて処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、外部評価委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成25年7月5日から施行する。

2 この規程の施行後、最初に任命される委員の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

B-6 各大学分室規則等

B-6-1 徳島大学分室

徳島大学総合教育センター規則

平成26年3月18日

規則第81号制定

目次

第1章 総則（第1条・第2条）

第2章 業務及び組織（第3条・第4条）

第3章 職員（第5条～第15条）

第4章 会議（第16条～第24条）

第5章 雑則（第25条・第26条）

附則

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規則は、徳島大学学則（昭和33年規則第9号）第4条第2項の規定に基づき、徳島大学総合教育センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 センターは、全学的視点から入学者選抜、教育改革、ICT活用教育、学生生活及びキャリア支援に関する主要施策を調査研究し、総合的に推進することにより、徳島大学の教育及び学生支援の充実・改善を図ることを目的とする。

第2章 業務及び組織

（業務）

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 入学者選抜の企画立案等に関すること。
- (2) 教育改革の推進に関すること。
- (3) ICTを活用した教育の開発及び支援に関すること。
- (4) 学生の修学支援及び課外活動に関すること。
- (5) 学生のキャリア支援に関すること。
- (6) その他センターの目的を達成するために必要な業務

2 センターは、前項に掲げる業務のほか、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業（国立大学改革強化推進費補助金）における、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 四国地区国立大学連合アドミッションセンターの設置とAO入試の共同実施に関すること。
- (2) 四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施に関すること。

(部門及び室の設置)

第4条 前条の業務を遂行するため、センターに次の部門及び室を置く。

アドミッション部門

教育改革推進部門

ICT活用教育部門

学生支援部門

学生生活支援室

学生参画推進室

キャリア支援部門

2 前条第2項第1号の業務を処理するため、アドミッション部門は、四国地区国立大学連合アドミッションセンター規程（平成25年5月13日愛媛大学規則第77号）第7条に規定する四国地区国立大学連合アドミッションセンター徳島大学サテライトオフィス（以下「徳島大学サテライトオフィス」という。）を兼ねるものとする。

3 前条第2項第2号の業務を処理するため、ICT活用教育部門は、大学連携e-Learning教育支援センター四国規則（平成25年7月5日四国地区国立大学連携事業推進会議制定）第4条に規定する大学連携e-Learning教育支援センター四国徳島大学分室（以下「徳島大学分室」という。）を兼ねるものとする。

第3章 職員

(職員)

第5条 センターに、次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 部門長
- (3) 専任教員（特任教員を含む。）
- (4) 兼務教員
- (5) 就職コーディネーター
- (6) キャリアカウンセラー
- (7) その他必要な職員

2 前項の職員のほか、センター長が必要と認める場合は、副センター長を置くことができる。

3 徳島大学サテライトオフィスにアドミッションオフィサーを置く。

4 徳島大学分室に、分室長及び分室教員を置く。

(センター長)

第6条 センター長は、学長が指名する副学長をもって充てる。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は2年とする。ただし、センター長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 センター長は、再任されることができる。

(副センター長)

第7条 副センター長は、センター長の意見を聴いて、学長が命ずる。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。

3 副センター長の任期は2年とする。ただし、副センター長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 副センター長は、再任されることができる。

(部門長)

第8条 部門長はセンター長の意見を聴いて、学長が命ずる。ただし、学生支援部門長は、徳島大学学生委員会委員長をもって充てる。

2 部門長は、所属部門の業務を掌理するとともに、センター長の職務を補佐する。

3 部門長(学生支援部門長を除く。以下この号において同じ。)の任期は2年とする。ただし、部門長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 部門長は、再任されることができる。

(専任教員)

第9条 専任教員は、センターの運営を補助し、所属する部門の業務を処理する。

2 専任教員の選考は、第16条に規定する運営委員会の議を経て、学長が行う。

(兼務教員)

第10条 兼務教員は、専任教員と協力し、所属する部門の業務を処理する。

2 兼務教員は、次の各号に掲げる者をもって充て、学長が命ずる。

(1) アドミッション部門

イ 各学部から選出された教員 各1人

ロ 教養教育院から選出された教員 1人

(2) ICT活用教育部門

イ 各学部から選出された教員 各1人

ロ 教養教育院から選出された教員 1人

ハ 情報センターから選出された教員 1人

(3) 学生支援部門

イ 徳島大学学生委員会規則(平成11年規則第1385号)第3条第2号、第3号及び第5号の委員

ロ 保健管理・総合相談センターから選出された教員 1人

ハ 国際センターから選出された教員 1人

(4) キャリア支援部門

各学部から選出された教授 各1人

3 前項の規定にかかわらず、センターの業務に関し専門知識を有する者で、センター長が必要と認めると

きは、センター長の意見を聴いて、学長が命ずる。

4 兼務教員（第2項第3号イの兼務教員は除く。以下この項及び次項において同じ。）の任期は2年とする。ただし、兼務教員が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前項の兼務教員は、再任されることができる。

（就職コーディネーター）

第11条 就職コーディネーターは、センター長の意見を聴いて、学長が命ずる。

2 就職コーディネーターは、学生の就職先企業等の開拓、就職セミナー及び就職ガイダンス等の企画立案並びに業界の動向調査等の業務を行う。

（キャリアカウンセラー）

第12条 キャリアカウンセラーは、センターの職員のうちから学長が命ずる。

2 キャリアカウンセラーは、学生の就職相談及び進路相談業務に従事するとともに、学生と企業のマッチング支援及び面接前後の指導等の業務を行う。

（アドミッションオフィサー）

第13条 アドミッションオフィサーは、センターの職員のうちから学長が命ずる。

（分室長及び分室教員）

第14条 分室長は、ICT活用教育部門長をもって充てる。

2 分室教員は、ICT活用教育部門の専任教員をもって充てる。

3 分室長の任期は2年とする。ただし、分室長が任期の途中で欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 分室長は、再任されることができる。

（学外者への委嘱）

第15条 センター長が必要と認めるときは、学長の承認を得て、学外者を就職コーディネーター又はキャリアカウンセラーに委嘱することができる。

第4章 会議

（運営委員会）

第16条 センターに、センターの管理運営及び業務に関する事項を審議するため、徳島大学総合教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

第17条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの業務計画に関する事項
- (3) 教員の人事に関する事項
- (4) その他センターの管理運営及び業務に関し必要な事項

第18条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長

- (3) 部門長
- (4) 国立大学法人徳島大学教育研究評議会規則（平成 16 年度規則第 5 号）第 3 条第 1 項第 10 号の評議員
- (5) 学務部長
- (6) その他運営委員会が必要と認める者

2 前項第 6 号の委員は、学長が命ずる。

第 19 条 運営委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

第 20 条 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決する。

第 21 条 運営委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（専門委員会）

第 22 条 運営委員会に、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会について必要な事項は、運営委員会が別に定める。

（連絡会議）

第 23 条 センターに、センターの各部門間に関係する事項について連絡調整するため、徳島大学総合教育センター連絡会議（以下「連絡会議」という。）を置く。

2 連絡会議について必要な事項は、センター長が別に定める。

（部門会議）

第 24 条 部門の運営に関する事項を審議するため、各部門に部門会議を置く。ただし、学生支援部門の運営に関する事項は、徳島大学学生委員会において審議するものとし、部門会議を置かない。

2 部門会議について必要な事項は、センター長が別に定める。

第 5 章 雑則

（事務）

第 25 条 センターの事務は、学務部教育支援課が学務部各課と連携・協力して処理する。

（雑則）

第 26 条 この規則に定めるもののほか、センターについて必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2 次に掲げる規則は、廃止する。

- (1) 徳島大学学生支援センター規則（平成 15 年規則第 1753 号）
- (2) 徳島大学キャリア支援センター規則（平成 22 年度規則第 38 号）
- (3) 徳島大学教育改革推進センター規則（平成 24 年度規則第 62 号。以下「教育改革推進センター規則」という。）

(4) 徳島大学アドミッションセンター規則（平成24年度規則第63号。以下「アドミッションセンター規則」という。）

3 この規則施行の際、教育改革推進センター規則第8条の2の規定により任命されている分室長は、この規則第13条第1項の規定により任命されたものとみなし、その任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

4 この規則施行の際、アドミッションセンター規則第6条の2の規定により任命されているアドミッションオフィサーは、この規則第12条第1項の規定により任命されたものとみなす。

附 則（平成27年3月17日規則第40号改正）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月15日規則第52号改正）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月27日規則第59号改正）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

徳島大学総合教育センターICT活用教育部門会議規則

平成26年4月1日

総合教育センター長制定

（趣旨）

第1条 この規則は、徳島大学総合教育センター規則（平成25年度規則第81号）第24条第2項の規定に基づき、徳島大学総合教育センターICT活用教育部門会議（以下「部門会議」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（所掌事項）

第2条 部門会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業のデジタルコンテンツ化の支援に関すること。
- (2) ICT活用教育の質向上に関すること。
- (3) 四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施に関すること。
- (4) その他ICT活用教育の開発及び支援に関し必要な事項

（組織）

第3条 部門は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 部門長
- (2) 専任教員（特任教員を含む。）
- (3) 兼務教員
- (4) 学務部教育支援課長
- (5) その他部門会議が必要と認める者
（議長）

第4条 部門長は、部門会議を招集し、その議長となる。

2 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

（会議）

第5条 部門会議は、組織構成員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。

（組織構成員以外の者の出席）

第6条 部門会議が必要と認めるときは、会議に組織構成員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（庶務）

第7条 部門会議の庶務は、学務部教育支援課において処理する。

（雑則）

第8条 この規則に定めるもののほか、部門会議について必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月3日改正）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月23日改正）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

B-6-2 鳴門教育大学分室

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室規程

平成 25 年 5 月 8 日

規程第 16 号

改正 平成 26 年 3 月 24 日規程第 25 号

平成 29 年 3 月 8 日規程第 47 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鳴門教育大学教育研究組織規則（平成 20 年規則第 2 号）第 14 条の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室（以下「分室」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 分室は、四国における e-knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施の効果的かつ円滑な推進に資することを目的とする。

(業務)

第 3 条 分室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国との連絡調整に関すること。
- (2) 大学連携 e-Learning 教育支援の関係機関との連絡調整に関すること。
- (3) 大学連携 e-Learning 教育支援の運営に関すること。
- (4) 大学連携 e-Learning 教育支援に係る企画・立案に関すること。
- (5) その他大学連携 e-Learning 教育支援に関し学長が必要と認めたこと。

(組織等)

第 4 条 分室は、次の者をもって組織する。

- (1) 分室長
- (2) 分室教員
- (3) その他必要な職員（以下「分室職員」という。）

2 分室長は、各教育部に属する教授のうちから学長が指名する者をもって充てる。

3 分室教員は、本学教員のうちから学長が指名する者をもって充てる。

(任期)

第 5 条 分室長及び分室教員の任期は、それぞれ 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第 6 条 分室長は、分室の業務を統括する。

2 分室教員及び分室職員は、分室に関する業務を処理する。

(分室会議)

第7条 分室に、第3条に掲げる事項を協議するため、分室会議（以下「会議」という。）を置く。

2 会議は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 分室長
- (2) 分室教員
- (3) その他学長が必要と認めた者

3 会議に議長を置き、分室長をもって充てる。

4 議長は、会議を招集する。

5 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名した者がその職務を代理する。

(議事)

第8条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

2 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 議長は、会議の結果を、必要に応じて学長又は大学連携 e-Learning 教育支援センター四国に報告するものとする。

(構成員以外の者の出席)

第9条 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させ意見を述べさせることができる。

(専門部会の設置)

第10条 会議は、必要に応じ、専門的事項を調査検討させるため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会の設置、組織その他必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 分室の事務は、教務企画部教務企画課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、分室の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成25年5月13日から施行する。

2 施行日において、第4条第1項第1号及び第2号の規定により最初に選出された者の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室規程

平成 25 年 9 月 11 日

規則第 117 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第 21 条の 4 第 2 項の規定に基づき、大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室（以下「センター分室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センター分室は、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学（以下「四国地区国立大学」という。）との緊密な連携のもとで、教育プログラムの共同実施を行うことにより、教育の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 センター分室は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

四国地区国立大学における教育プログラムの共同実施の支援に関すること。

- (1) 四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること。
- (2) 前 2 号の業務を円滑に行うための全学的な連絡調整に関すること。
- (3) その他前条の目的を達成するために必要なこと。

(組織)

第 4 条 センター分室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 分室長
- (2) 専任教員
- (3) 兼任教員
- (4) その他必要な職員（以下「分室職員」という。）

(分室長)

第 5 条 分室長は本学の専任教員のうちから、学長が指名し、任命する。

2 分室長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、分室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(兼任教員)

第 6 条 兼任教員は、総合情報メディアセンターの専任教員のうちから、学長が指名し、任命する。

2 兼任教員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任

期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第7条 分室長は、センター分室の業務を掌理する。

- 2 専任教員は、分室長の職務を助け、センター分室の業務を遂行する。
- 3 兼任教員は、センター分室の専任教員とともにセンター分室の業務を遂行する。
- 4 分室職員は、センター分室の業務に従事する。

(事務)

第8条 センター分室に関する事務は、総合情報メディアセンター事務課及び教育センター事務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、センター分室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成25年9月11日から施行する。
- 2 この規程の施行後最初に任命される分室長及兼任教員の任期は、第5条第2項及び第6条第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

B-6-4 高知大学分室

高知大学総合教育センター大学教育創造部門大学連携

e-Learning 教育支援センター四国高知大学分室規則

平成 25 年 9 月 19 日

規 則 第 40 号

(趣旨)

第 1 条 高知大学総合教育センター大学教育創造部門に大学連携 e-Learning 教育支援センター四国高知大学分室（以下「センター分室」という。）を置き、高知大学総合教育センター規則第 11 条の規定に基づき、必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センター分室は、国立大学改革強化推進補助金事業「四国 5 大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の共同実施に関する協定に基づき、徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学及び高知大学（以下「四国地区国立大学」という。）の緊密な連携の下で、「四国における e-Knowledge を基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」を推進し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 センター分室は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 大学教育・大学院教育の共同実施に関すること。
- (2) 四国地区国立大学で相互補完した教養・専門教育コンテンツ群の開発に関すること。
- (3) 大学教育・大学院教育の共同実施を円滑にするための学内調整に関すること。
- (4) その他前条の目的を達成するために必要なこと。

(組織)

第 4 条 センター分室に、次の各号に掲げる室員を置く。

- (1) 分室長
- (2) 分室教員
- (3) 分室職員

2 分室長は、分室の業務を掌理する。

3 分室教員及び分室職員は、分室の業務を処理し、従事する。

4 第 1 項に掲げる室員は、学長が指名し、任命する。

(任期)

第 5 条 前条第 1 項第 1 号に掲げる分室長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、

分室長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会)

第6条 センター分室の円滑な運営を図るため、その運営に関する委員会を置くことができる。

(事務)

第7条 センター分室に関する事務は、学務部学務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、センター分室の運営に関し必要な事項は、分室長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行後、最初に任命される第4条第1項第1号の分室長の任期は、第5条の規定にかかわらず、平成 27 年 3 月 31 日までとする。

C 運営委員, 企画委員, 外部評価委員名簿

平成 25 年度

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会委員名簿

大学名	役職等	氏 名	所 属 等
香川大学	委員長	藤井 宏史	理事・副学長(教育担当)
	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	岩城 暁大	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	事務職員	此枝 昇	修学支援グループリーダー
徳島大学	分室長	金西 計英	教育改革推進センター教授(併)
	事務職員	三好 信幸	学務部教育企画室室長
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	事務職員	東 博信	社会連携課長
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	教育・学生支援機構副機構長 通教育センター長(理工学研究科教授)
	事務職員	菊川 昭治	教育学生支援部次長(教育センター事務課長)
高知大学	分室長	立川 明	総合教育センター准教授
	事務職員	高橋 聡	学務課長

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会委員名簿

大学名	役職等	氏名	所属等
香川大学	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	岩城 暁大	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
徳島大学	分室長	金西 計英	教育改革推進センター教授（併）
	分室教員	高橋 暁子	教育改革推進センター特任准教授
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	分室教員	竹口 幸志	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室講師
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長 （理工学研究科教授）
	分室教員 （併任）	仲道 雅輝	総合情報メディアセンター講師兼 教育・学生支援機構教育企画室
高知大学	分室長	立川 明	総合教育センター准教授
	分室教員	竹岡 篤永	総合教育センター特任助教

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会委員名簿

氏名	所属等
山崎 敏範	放送大学香川学習センター所長（香川大学名誉教授）
鈴木 克明	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻
前田 英雄	鳴門教育大学名誉教授
野田 松太郎	株式会社愛媛キャンパス情報サービス代表取締役社長 （愛媛大学名誉教授，理学博士）
野嶋 佐由美	高知県立大学副学長（看護学部/看護学研究科・教授）

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会委員名簿

大学名	役職等	氏 名	所 属 等
香川大学	委員長	藤井 宏史	理事・副学長(教育担当)
	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	岩城 暁大	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	事務職員	高崎 一成	修学支援グループリーダー
徳島大学	分室長	金西 計英	大学開放実践センター教授
	事務職員	川野 晋資	学務部教育支援課長
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	事務職員	戸田 陽介	教務企画課長
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長
	事務職員	矢野 博子	教育センター事務課長
高知大学	分室長	立川 明	総合教育センター准教授
	事務職員	井上 博文	学務課長

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会委員名簿

大学名	役職等	氏名	所属等
香川大学	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	岩城 暁大	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
徳島大学	分室長	金西 計英	大学開放実践センター教授
	分室教員	高橋 暁子	総合教育センター特任准教授
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	分室教員	竹口 幸志	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室講師
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長
	分室教員	根本 淳子	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室准教授
	分室教員 (併任)	仲道 雅輝	総合情報メディアセンター教育デザイン室長兼教育企画室講師
高知大学	分室長	立川 明	総合教育センター准教授
	分室教員	竹岡 篤永	総合教育センター特任助教
	分室教員 (兼務)	三好 康夫	教育研究部自然科学系理学部門講師

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員会委員名簿

氏名	所属等
大平 文和	放送大学香川学習センター所長 (香川大学名誉教授)
鈴木 克明	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授
前田 英雄	鳴門教育大学名誉教授
野田 松太郎	株式会社愛媛キャンパス情報サービス代表取締役社長 (愛媛大学名誉教授, 理学博士)
野嶋 佐由美	高知県立大学副学長 (看護学部/看護学研究科・教授)

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会委員

大学名	役職等	氏名	所属等
香川大学	委員長	藤井 宏史	理事・副学長（教育担当）
	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	藤本 憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	事務職員	高崎 一成	修学支援グループリーダー
徳島大学	分室長	金西 計英	大学開放実践センター教授
	事務職員	三好 信幸	学務部教育支援課課長
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	事務職員	戸田 陽介	教務企画課長
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長（理工学研究科教授）
	事務職員	信高 雄一	教育センター事務課長
高知大学	分室長	立川 明	大学教育創造センター准教授
	事務職員	井上 博文	学務課長

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会委員

大学名	役職等	氏名	所属等
香川大学	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	藤本 憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	第3条第1項 第4号委員	後藤田 中	総合情報センター助教, 工学部助教
徳島大学	分室長	金西 計英	大学開放実践センター教授
	分室教員	高橋 暁子	総合教育センター特任准教授
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	分室教員	竹口 幸志	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門教育大学分室講師
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長 (理工学研究科教授)
	分室教員	根本 淳子	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛大学分室 准教授
	分室教員 (併任)	仲道 雅輝	総合情報メディアセンター教育デザイン室長兼教育企画室講師
高知大学	分室長	立川 明	大学教育創造センター准教授
	分室教員	竹岡 篤永	大学教育創造センター特任助教
	分室教員	三好 康夫	教育研究部自然科学系理学部門講師 (理学部)

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員名簿

氏名	所属等
大平 文和	放送大学香川学習センター所長 (香川大学名誉教授)
鈴木 克明	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授
前田 英雄	鳴門教育大学名誉教授
野田 松太郎	株式会社愛媛キャンパス情報サービス代表取締役社長 (愛媛大学名誉教授, 理学博士)
野嶋 佐由美	高知県立大学副学長 (看護学部/看護学研究科・教授)

平成 28 年度 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会委員

大学名	役職等	氏名	所属等
香川大学	委員長	藤井 宏史	理事・副学長（教育担当）
	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	藤本 憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	事務職員	高崎 一成	修学支援グループリーダー
徳島大学	分室長	金西 計英	総合教育センター教授
	事務職員	三好 信幸	学務部教育支援課課長
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	事務職員	中野 宏栄	教務企画課長
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長 (理工学研究科教授)
	事務職員	信高 雄一	教育センター事務課長
高知大学	分室長	立川 明	大学教育創造センター准教授
	事務職員	竹島 隆文	学務課長

平成 28 年度 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会委員

大学名	役職等	氏 名	所 属 等
香川大学	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	村井 礼	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国教授
	センター教員	藤本 憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	第 3 条第 1 項 第 4 号委員	後藤田 中	総合情報センター助教, 工学部助教
徳島大学	分室長	金西 計英	総合教育センター教授
	分室教員	高橋 暁子	総合教育センター特任准教授
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	分室教員	竹口 幸志	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国鳴門 教育大学分室講師
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長（理工学研究科教授）
	分室教員	根本 淳子	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国愛媛 大学分室 准教授
	分室教員 (併任)	仲道 雅輝	総合情報メディアセンター教育デザイン室長兼教 育企画室講師
高知大学	分室長	立川 明	大学教育創造センター准教授
	分室教員	竹岡 篤永	大学教育創造センター特任助教
	分室教員	三好 康夫	教育研究部自然科学系理学部門講師（理学部）

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員名簿

氏 名	所 属 等
大平 文和	放送大学香川学習センター所長（香川大学名誉教授）
鈴木 克明	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授
前田 英雄	鳴門教育大学名誉教授
野田 松太郎 (6月6日まで)	株式会社愛媛キャンパス情報サービス代表取締役社長 (愛媛大学名誉教授, 理学博士)
竹内 守善 (野田松太郎委員の後任として, 10月1日に就任)	地域振興アドバイザー
野嶋 佐由美	高知県立大学副学長（看護学部/看護学研究科・教授）

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国運営委員会委員名簿

大学名	役職等	氏 名	所 属 等
香川大学	委員長	山下 明昭	理事・副学長(教育担当)
	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	寺尾 徹	人文社会科学系教授
	センター教員	藤本 憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	事務職員	野口 豊裕	教育・学生支援部次長 (併) 修学支援グループリーダー
徳島大学	分室長	金西 計英	総合教育センター教授
	事務職員	福川 利夫	学務部教育支援課長
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	事務職員	中野 宏栄	教務企画部 次長 (兼) 教務企画課長
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長 (理工学研究科教授)
	事務職員	信高 雄一	教育学生支援部教育センター事務課長
高知大学	分室長	立川 明	大学教育創造センター准教授
	事務職員	末本 美千代	学務課長

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国企画委員会委員名簿

大学名	役職等	氏名	所属等
香川大学	センター長	林 敏浩	総合情報センター教授
	センター教員	寺尾 徹	人文社会科学系教授
	センター教員	藤本 憲市	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国助教
	第3条 第1項 第4号委員	後藤田 中	総合情報センター助教 工学部助教
徳島大学	分室長	金西 計英	総合教育センター教授
	分室教員	高橋 暁子	総合教育センター特任准教授
鳴門教育大学	分室長	宮下 晃一	大学院学校教育研究科教授
	分室教員	竹口 幸志	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 鳴門教育大学分室講師
愛媛大学	分室長	田中 寿郎	学長特別補佐 教育・学生支援機構副機構長 共通教育センター長（理工学研究科教授）
	分室教員	根本 淳子	大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 愛媛大学分室准教授
	分室教員 (併任)	仲道 雅輝	総合情報メディアセンター教育デザイン室長兼 教育企画室 講師
高知大学	分室長	立川 明	大学教育創造センター准教授
	分室教員	三好 康夫	教育研究部自然科学系理工学部部門准教授

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国外部評価委員名簿

氏名	所属等
大平 文和	放送大学香川学習センター所長（香川大学名誉教授）
鈴木 克明	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授
前田 英雄	鳴門教育大学名誉教授
竹内 守善	地域振興アドバイザー
五百蔵 高浩	高知県立大学文化学部教授・学長特別補佐

D 連絡先情報

大学連携 e-Learning 教育支援センター四国

〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号

電話 087-832-1365

Fax 087-832-1155

Mail chipla_el_info@cc.kagawa-u.ac.jp

URL <http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/index.html>

徳島大学分室

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1丁目1番地

電話 088-656-7095

FAX 088-656-7292

Mail kygakujk@tokushima-u.ac.jp

鳴門教育大学分室

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地

電話 088-687-6463

Fax 088-687-6463

Mail e-learning@naruto-u.ac.jp

愛媛大学分室

〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番総合情報メディアセンター内

電話 : 089-927-8978

Fax : 089-927-8805

Mail : chipula-e@stu.ehime-u.ac.jp

高知大学分室

〒780-8520 高知県高知市曙町二丁目5番1号

電話 : 088-844-8652

FAX : 088-844-8367

Mail : k-chipla@kochi-u.ac.jp

四国における
e-Knowledgeを基盤とした
大学間連携による大学教育の共同実施

